

さい。彼は私たちの役に立つでしょうし、あるいは彼を（私たちの）子供にしてもよいでしょうから」。彼らは（その赤ん坊が自分たちを滅ぼすことになるとは）、気付く由もなかったのだ。

10. そしてムーサー*の母の心は、（ムーサー*ゆえの悲しみで）空っぽになってしまった。本当に彼女はそれゆえに、（赤ん坊が自分の子であることを）打ち明けてしまいそうなほどであった。彼女が信仰者の一人としてあるべく、われら*が彼女の心を繋ぎとめて¹おかなかったならば。

11. また、彼女は（ムーサーの入った箱を川に流した時）、彼（ムーサー*）の姉に「彼を追っかけなさい」と言っていた。それで彼女は（その通りにし）、彼ら（フィルアウン*とその民）が気付かぬ中、彼のことを遠くから見た。

12. また、われら*は（ムーサー*が母親のもとに帰される）以前、彼（ムーサー*）に乳母たちを禁じた²。それで彼女（ムーサー*の姉）は、言った。「あなた方のために、彼に対して誠心尽くして、その世話をしてくれる家族へのご案内しましょうか？」

13. こうしてわれら*は彼（ムーサー*）を、その母のもとに帰した。それは彼女が喜び³、（彼との別れを）悲しまないようにするために、また彼女が、アッラー*のお約束が真

وَأَصْبَحَ فُؤَادُ أُمِّ مُوسَىٰ فَارِعًا إِن كَادَتْ لِتَنبِئَ بِهِ وَلَوْلَا أَن رَّبَّطْنَا عَلَىٰ فَمْلِهَا لَتَكُونُ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٠﴾

وَقَالَتْ لِأُخْتِهِ قُصِّيهِ فَبَصُرَتْ بِهِ عَنْ جُنْبٍ وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿١١﴾

*وَحَرَّمْنَا عَلَيْهِ الْمَرَاضِعَ مِنْ قَبْلُ فَقَالَتْ هَلْ أَدُلُّكُمْ عَلَىٰ أَهْلِ بَيْتٍ يَكْفُلُونَهُ لَكُمْ وَهُمْ لَهُ نَاصِحُونَ ﴿١٢﴾

فَرَدَدْنَاهُ إِلَىٰ أُمِّهِ كَيْ تَقَرَّ عَيْنُهَا وَلَا تَحْزَنَ ۚ وَلِنَعْلَمَ أَنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ وَلَسْنَا نَعْلَمُ لَهُ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٣﴾

1 「心を繋ぎとめる」については、戦利品*章 11 の訳注を参照。

2 ムーサー*は複数の乳母をあてがわれたが、その授乳を拒（こば）み続けた（ムヤッサル 386 頁参照）。

3 この「喜び」については、アーヤ*9 の同語についての訳注を参照。

実であることを知るためであった。しかし彼ら（不信仰者*）の大半は、（そのことを）知らないのだ。

14. 彼（ムーサー*）が成熟^{せいじゅく}し、強固になった時、われら*は彼に英知と知識^{ちしき}を授けた。そのようにわれら*は、善を尽くす*者たちに報^{むく}いるのである。

15. そして彼（ムーサー*）は、その民が油断している時間帯^{みいだ}に町に入り、そこで戦っている二人の男を見出した。（一方の）この者は彼の部族出身の者で、（もう一方の）この者は彼の敵の内の者^な。そして彼の部族出身の者が、彼の敵の内の者に対し、彼（ムーサー*）に助けを求めたので、ムーサー*は彼を（拳で）殴^{こぶし}り、これを殺してしまった。彼（ムーサー*）は言った。「これはシャイターン*のわざである。本当に彼は、（人間を正道から）迷^{まど}わせる、紛れもない敵なのだ」。⁴

16. 彼は申し上げた。「我が主*よ、本当に私は自分自身に不正*を働^{はたら}いてしまいました。ならば私を、お赦し下さい」。そしてかれは、彼をお赦しになった。本当にかれこそは、赦^{ゆる}し深いお方、慈愛^{じあい}深い*お方であられるのだから。

وَلَمَّا بَلَغَ أَشُدَّهُ وَاسْتَوَىٰ آتَيْنَاهُ حُكْمًا وَعِلْمًا وَكَذَٰلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٤﴾

وَدَخَلَ الْمَدِينَةَ عَلَىٰ حِينٍ غَفْلَةٍ مِّنْ أَهْلِهَا فَوَجَدَ فِيهَا رَجُلَيْنِ يَقْتَتِلَانِ هَٰذَا مِنْ شِيعَتِهِ وَهَٰذَا مِنْ عَدُوِّهِ فَاسْتَعَاثَ الَّذِي مِّنْ شِيعَتِهِ عَلَى الَّذِي مِّنْ عَدُوِّهِ فَوَكَرَهُ مُوسَىٰ فَقَضَىٰ عَلَيْهِ قَالَ هَٰذَا مِنْ عَمَلِ الشَّيْطَانِ إِنَّهُ عَدُوٌّ مُّضِلٌّ مُّبِينٌ ﴿١٥﴾

قَالَ رَبِّ إِنِّي ظَلَمْتُ نَفْسِي فَاغْفِرْ لِي فَغَفَرْتَهُ إِنَّهُ هُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ﴿١٦﴾

1 この「成熟」については、巡礼*章5「成熟」の訳注を参照。

2 この時間帯については、「昼寝時」「マグリブ*とイシャウ*の間」という説がある（アル＝バガウィー3:526 参照）。

3 つまり前者がイスラーイールの子ら*の内の者、後者がフィルアウン*の民の内の者であるコプト人（アッ＝サアディー613 頁参照）。この時には、ムーサー*がイスラーイールの子ら*の一人であることは知れ渡っていたとされる（アル＝バガウィー3:527 参照）。

4 この出来事は、ムーサー*が預言者*となる前のこと（ムヤッサル 387 頁参照）。

17. 彼（ムーサー*）は申し上げた。「我が主*よ、あなたが私に恵んで下さったもの¹ゆえ、私は決して、罪惡者たちに対する援助者とはなりません」。

18. 彼は翌朝、（復讐されるのではないかと）町で怖れ始め、（何が起きるか）注意深く見守るようになった。そしてどうであろう、昨日彼に助けを求めた者が、（また別のコプト人と争っており、）彼に向かって（助けを求め、）大声で叫んでいる。ムーサー*は彼²に言った。「実にあなたは、紛れもなく誤った者³だ」。

19. そして彼（ムーサー*）が、（イスラエールの子ら*の内の者に同情し、）彼ら二人の敵である者をやっつけようとした時、彼⁴は言った。「ムーサー*よ、一体お前は昨日人を殺したように、私のことも殺すつもりなのか？ お前は、地上で暴君となることを望んでいるに外ならない。そしてお前は、改善者となりたくはないのだ」。

قَالَ رَبِّ إِنَّمَا أَتَمَمْتُ عَلَىٰ فُلَانٍ أَكُونُ ظَهيرًا
لِّلْمُجْرِمِينَ ﴿٧٧﴾

فَأَصْبَحَ فِي الْمَدِينَةِ خَائِفًا يَتَرَقَّبُ فَإِذَا الَّذِي
اَسْتَصْرَفَهُ بِالْأَمْسِ يَسْتَصْرِجُهُ قَالَ لَهُ مُوسَىٰ
إِنَّكَ لَمُعْتَبِرٌ ﴿٧٨﴾

فَلَمَّا أَنْ أَرَادَ أَنْ يَبْطِشَ بِالَّذِي هُوَ عَدُوٌّ لَهُمَا
قَالَ يَمُوسَىٰ أَتُرِيدُ أَنْ نَمُقَاتِلَ كَمَا فَتَلَّتْ
نَفْسَا يَا أَمْسِ إِنَّ ثُرِيْدَ إِلَّا أَنْ تَكُونَ جَبَّارًا
فِي الْأَرْضِ وَمَا يُدَانَ تَكُونَ مِنَ الْمُضِلِّينَ ﴿٧٩﴾

1 悔悟、罪の赦し、その他の偉大な恩恵の数々のこと（ムヤッサル 387 頁参照）。

2 アル＝バガウィー*によれば、大半の学者はこの「彼」を、イスラエールの子ら*出身の者と解釈している（3:528 参照）。

3 「誤った者」と言ったのは、「自分では太刀（たち）打ちできない者と争う」ゆえ、あるいは「ムーサー*が彼ゆえに人を殺してしまったのに、翌日にまた同じことをさせようとしている」ゆえである、とされる（アル＝クルトゥビー 13:265 参照）。

4 この「彼」は、イスラエールの子ら*出身の者で、ムーサー*が自分に対して暴力を振るうものだと言いついて、こう言ったのだとされる。そしてそれを聞いたコプト人が、その話を広め、フィルアウン*はムーサー*を捕まえ、殺すお触れを出した（イブン・カスィール 6:225-226 参照）。アッ＝シャウカーニー*によれば、これが大半の解釈学者の見解だが、「彼」がコプト人という説もある（4:217 参照）。

20. 町の一番外れから、一人の男が急いでやって来た。彼は言った。「(ムーサー*よ、) 本当に(フィルアウン*の民の) 有力者たちは、あなたを殺そうと、あなたについて相談しています。ならば、(この町を) 出て行きなさい。本当に私はあなたへの、助言者なのです」。
21. それで彼は恐れ、(追っ手につかまらぬよう) 注意深くそこを脱出し、(こう) 申し上げた。「我が主*よ、私を不正*者である民から救って下さい」。
22. マドゥヤン*の方を目指すすと、彼は(こう) 言った。「我が主*は私を、まっすぐな道へと導いて下さるだろう」。¹
23. そしてマドゥヤン*の水場に赴いた時、彼はそこで人々の集団が(家畜に) 水をやっているのを見た。また、二人の婦人が(そこに割り込めずに) 彼らから離れて、(自分たちの家畜を) 制しているのを見出した。彼は言った。「どうなさいましたか?」彼女たち二人は言った。「牧童たちが(彼らの家畜を水場から) 出て行かせるまで、(自分たちの家畜に) 水をやるのが出来ません。そして私たちの父は、年配の老人なのです」。
24. それで彼は、彼女たち二人のために(家畜に) 水をやった。それから(木) 陰に退くと、(こう) 言った。「我が主*よ、本当に私は、あなたが私に下された善きものに飢えています」。²

وَجَاءَ رَجُلٌ مِّنْ أَقْصَا الْمَدِينَةِ يَسْعَى قَالَ
يَمُوسَى إِنَّ الْمَلَأَ يَأْتَمِرُونَ بِكَ لِيَقْتُلُوكَ
فَأَخْرَجْ إِلَى الْكَثْمِ مِنَ النَّاصِحِينَ ﴿٢٠﴾

فَخَرَجَ مِنْهَا خَائِفًا يَتَرَقَّبُ قَالَ رَبِّ نَجِّنِي مِنَ
الْقَوْمِ الظَّالِمِينَ ﴿٢١﴾

وَلَمَّا وَجَّهَ يَلْقَاءَ مَدْيَنَ قَالَ عَسَى رَبِّي أَن
يَهْدِيَ بَنِي سَوْءَ السَّبِيلِ ﴿٢٢﴾

وَلَمَّا وَرَدَ مَاءَ مَدْيَنَ وَجَدَ عَلَيْهِ أُمَّةً
مِّنَ النَّاسِ يَسْقُونَ وَوَجَدَ مِنْ دُونِهِمُ
أُمَّرَاتَيْنِ يَذُودَانِ قَالَ مَا خَطْبُكُمَا قَالَتَا
لَا نَسْقِي حَتَّى يُصْدِرَ الرِّعْلَةُ وَابُؤْنَا شَيْخًا
كَبِيرًا ﴿٢٣﴾

فَسَقَى لَهُمَا ثُمَّ تَوَلَّى إِلَى الظِّلِّ فَقَالَ رَبِّ
إِنِّي لِمَا أَنْزَلْتَ إِلَيَّ مِنْ خَيْرٍ فَقِيرٌ ﴿٢٤﴾

1 マドゥヤン*の民は預言者*イブラーヒーム*の子孫で、ムーサー*との血縁関係がある。しかし彼は、その道を知らなかったため、アッラー*に道案内を祈ったのだという(アル=クルトウビー13:253 参照)。

2 ムーサー*は、着の身着のままエジプトを後にして来たので、ひどい飢えに襲われていた(アル=バガウィー3:528 参照)。

25. すると、彼のもとに二人の婦人の内の一人が、恥ずかしそうに歩きながら、やって来た。彼女は言った。「私の父はあなたに、あなたが私たちのために水をやって下さったご褒美^{ほうび}を差し上げたく、あなたをお呼びしています」。こうして彼（彼女らの父親）のもとにやって来ると、彼（ムーサー*）は彼に物語¹を語って聞かせた。彼（彼女らの父親）は言った。「怖れないで下さい。あなたは不正*者である民から、救われたのですから」。

26. 彼女たちの内の一人が言った。「お父さん、彼をお雇^{やと}いなさい。本当に、あなたがお雇いになる最善の者は、力強く、誠実な人^{やと}2なのですから」。

27. 彼（婦人たちの父親）は言った。「私は、あなたが八年間、私に（牧童^{ぼくどう}として自らを）^{みずか}雇^{やと}わせることで、この我が二人の娘たちの内の一人をあなたに嫁^{よめ}がせたいのです。そして、あなたが十年間^{まっとう}全うされるのなら、それはあなたからのもの³であり、私は（それを義務づけることで、）あなたに苦勞させるつもりはありません。あなたは——もしアッラー*がお望みならば——、私が正しい者⁴の一人であることを見出すでしょう」。

فَجَاءَتْهُ إِحْدَاهُمَا تَمْشِي عَلَى اسْتِحْيَاءٍ
قَالَتْ إِنَّ أَبِي يَدْعُوكَ لِيَجْزِيَكَ أَجْرَ مَا
سَفَيْتَ لَنَا قَلَمًا جَاءَهُهُ، وَقَصَّ عَلَيْهِ الْقَصَصَ
قَالَ لَا تَخَفْ نَجَوْتَ مِنَ الْقَوْمِ الظَّالِمِينَ ﴿٢٥﴾

قَالَتْ إِحْدَاهُمَا يَا أَبَتِ اسْتَجِرْهُ إِنْ خَبِرَ
مَنْ اسْتَجَرْتَ الْقَوِيُّ الْأَمِينُ ﴿٢٦﴾

قَالَ إِنِّي أُرِيدُ أَنْ نَبْنِيَنَّكَ إِبْنَتِي
هَتَيْنَ عَلَى أَنْ تَأْجُرَنِي ثَمَنِي حَبِيبٌ
فَإِنْ أَتَمَمْتَ عَشْرًا فَمِنْ عِنْدِكَ وَمَا
أُرِيدُ أَنْ أَمْسُقَ عَلَيْكَ سِتْرَ جَدِّي
إِنْ شَاءَ اللَّهُ مِنَ الصَّالِحِينَ ﴿٢٧﴾

1 この「物語」とは、彼と、フィリアウン*とその民の間に起こった話のこと（ムヤッサル 388 頁参照）。

2 ムーサー*は、十人がかりでしか動かせないような重い岩を持ち上げて家畜に水をやった。また、婦人と共に彼女らの父親のもとに行く時には、彼女を（見て誘惑されぬよう）自分の後方に歩かせつつ、道案内をさせたのだという（イブン・カシール 6:227-229 参照）。

3 つまり、自発的な善行ということ（ムヤッサル 388 頁参照）。

4 つまり、よき付き合いと、約束の遵守において「正しい者*」（前掲書、同頁参照）。

28. 彼（ムーサー*）は言った。「それは、私とあなたの間で（成立しました）。いずれの期限をこなすにせよ、私への違反はなしです。そして、アッラー*が私たちの言うことにおいて、全てを請け負われる*お方です」。
29. こうしてムーサー*が期限¹を終え、自分の家族と共に（エジプトへと向かって）歩んだ時²、山の傍ら³に火を認めた。彼は自分の家族に言った。「（ここに）留ま⁴っていなさい。実に私は、火を見つけたのだ。私はそこからあなたの方のもとに、（道案内の）知らせと共に、あるいはあなた方が暖を取れるように、火種を携えてやって来よう」。
30. それで彼がそこへやって来た時、祝福にあふれた地における谷の右側から、つまりその木から⁵、彼に（こう）呼びかけられた。「ムーサー*よ、本当にわれこそは、全創造物の主*アッラーである」。
31. また、「あなたの杖⁶を投げよ」と。それで（彼がそれを投げ、）それが敏捷な小蛇のように躍動するのを見た時、彼は背を向けて引き下がり、戻⁷って来なかった。（アッラー*は仰せられた。）「ムーサー*よ、近寄るのだ。そして怖がるのではない。本当にあなたはまさしく、安全なのだから。

قَالَ ذَلِكَ بَيْنِي وَبَيْنَكَ أَيَّمَا الْأَجَلَيْنِ
فَضَيْتَ فَلَا عُدْوَانَ عَلَيَّ وَاللَّهُ عَلَى مَا نَقُولُ
وَكَامِلٌ ﴿٢٨﴾

﴿٢٩﴾ فَلَمَّا أَفْضَى مُوسَى الْأَجَلَ وَسَارَ بِأَهْلِهِ
ءَاتَى مِنْ جَانِبِ الطُّورِ نَارًا قَالَ لِأَهْلِهِ امْكُثُوا
إِنِّي آنَسْتُ نَارًا تَلْعَلْ آتِيكُمْ مِنْهَا خَبَرٌ
أَوْ جَذْوَةٌ مِنَ الْنَّارِ تَعْلَمُونَ
تَصْطَلُونَ ﴿٣٠﴾

فَلَمَّا أَتَاهَا نُودِيَ مِنْ شَظِئِ الْوَادِ الْأَيْمَنِ
فِي الْبُقْعَةِ الْمُبَارَكَةِ مِنَ الشَّجَرَةِ أَنْ
يَكُونُ مَعِيَ إِنِّي أَنَا اللَّهُ رَبُّ الْعَالَمِينَ ﴿٣١﴾

وَأَنْ أَلْقِ عَصَاكَ فَلَمَّا رَآهَا تُهَاجِرُ كَانَتْهَا
جَانًا وَلَوْ مَدْبَرًا وَلَمْ يَعْقِبْ يَكُونُ مَعِيَ
أَقِيلٌ وَلَا تَحْزَنُ إِنَّكَ مِنَ الْآمِنِينَ ﴿٣٢﴾

1 ムーサー*は十年間、彼のもとで働いたとされる（アル＝ブハーリー2684 参照）。

2 この時の出来事については、ター・ハー章 10-16、蟻章 7 とそれらの訳注も参照。

3 マルヤム章 52 の訳注も参照。

32. あなたの^{ふところ}手を手^{わだわ}懐に入れてみよ。そうすれば、それは災い^{わざ}いもなしに白くなって出てくる。また、恐怖^{けいふ}（の^{げん}軽減）のためには、あなたの^{つばさ}翼を自分（の^{しゅ}側）に引き寄せてみよ²。その^{はういつ}二つは、あなたの主^{*}からフィルアウン^{*}とその（民の）有力者たちへの、明証である。本当に彼らは、放逸な民だったのだから」。

33. 彼は申し上げた。「我が主^{しゅ}^{*}よ、本当に私は彼ら（フィルアウン^{*}の民）の一人を殺してしまいました³。そして、彼らが私を殺すことを怖れます。

34. また、我が兄ハールーン^{*}こそは、私より言葉が雄弁です⁴。ゆえに彼を、私と共に、私（の言葉）を確証する助っ人^{つか}としてお遣わし下さい。本当に私は、彼らが私を嘘つき呼ばわりすることが怖い^{こわ}のです」。

35. かれは仰せられた。「われら^{おほ}^{*}は、あなたの兄をあなたの片腕^{かたうで}とし、あなた方二人に権勢^{けんせい}を与えよう。そして彼らが、あなた方二人を害することはない。われら^{みしるし}^{*}の御徴^{しちが}ゆえ、あなた方二人と、あなた方二人に従った者は、勝利者なのである」。

أَسْلَكَ يَدَكَ فِي جَيْبِكَ تَخْرُجُ بَيْضَاءَ
مِنْ غَيْرِ سَوَاءٍ وَأَصْنَمَ إِلَيْكَ جَنَاحَكَ مِنْ
الرَّهْبِ فَلَا يَذْكُوكَ يُرْهِقَانِ مِنْ رَيْبِكَ إِلَى
فِرْعَوْنَ وَمَلَئِهِ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا
فَاسِقِينَ ﴿٢٢﴾

قَالَ رَبِّ إِنِّي قَتَلْتُ مِنْهُمْ نَفْسًا فَأَخَافُ أَنْ
يَقْتُلُونِ ﴿٢٣﴾

وَأَخِي هَارُونُ هُوَ أَفْصَحُ مِنِّي لِسَانًا فَأَرْسَلَهُ
مَعِيَ رِدْءًا يُصَدِّقُنِي إِنِّي أَخَافُ أَنْ
يَكْذِبُونِ ﴿٢٤﴾

قَالَ سَنَشُدُّ عَضْذَكَ بِأَخِيكَ وَنَجْعَلُ
لَكُمَا سُلْطَانًا فَلَا يَصِلُونَ إِلَيْكُمَا بِآيَاتِنَا
أَنْتُمَا وَمَنِ اتَّبَعَكُمَا الْغَالِبُونَ ﴿٢٥﴾

1 「災い」については、ター・ハー章 22 の訳注を参照。

2 この「翼」は、腕、あるいは手全体のこと。意味の解釈には、「手が真っ白になって怖くなったなら、それをまた胸元に入れて、戻してみよ。そうすれば、それは元通りになる」「手を胸元へと引き寄せれば、大蛇への恐怖は消え去る」などの諸説がある。また、「翼を引き寄せる」という表現はそもそも、「恐怖を和らげる」という慣用句である、といった説もある（アル＝バガウィー 3:534 参照）。

3 詳しくは、アーヤ*15 を参照。

4 ター・ハー章 27 とその訳注、詩人たち章 13 も参照。

5 この「権勢」とは、彼らが招くものに対する根拠と、敵に対する威圧感のこと（アッ＝サアディー 615 頁参照）。

36. こうしてムーサー*が、われら*の明白な御徴^{しるし}と共に彼ら（フィルアウン*とその民の有力者たち）のもとにやって来た時、彼らは言った。「これは捏造された魔術に外ならない。それに私たちはこのようなこと²を、先人である私たちのご先祖様たち（の時代）にも、聞いてはいなかったのだ」。

37. ムーサー*は言った。「我が主*は、誰がかれの御許から導きを携えてやって来たか、そして誰に世の（善き）結末³があるかを、最もよくご存知です。本当に不正*者たちは、成功することがありません」。

38. フィルアウン*は言った。「名士たちよ、私は自分以外、あなたの方にとって崇拜すべきいかなる存在も知らない⁴。ハーマーン⁵よ、私のために泥土に火をつけよ⁶。そしてムーサーの神を見るために、私のために（それで）塔を建てよ。本当に私は、彼がまさに嘘^{うそ}つきの類^{なぐ}いだと思うのだ」。⁷

39. そして彼とその軍勢^{ぐんぜい}は、不当にも地上（エジプト）で驕り高ぶり、自分たちが（死後）われら*のもとに戻されることなどない、と思い込んでいた。

فَلَمَّا جَاءَهُمْ مُوسَى بِآيَاتِنَا بَيِّنَاتٍ قَالُوا مَا هَذَا إِلَّا سِحْرٌ مُقَرَّرٌ وَمَا سَمِعْنَا بِهَذَا فِي آبَائِنَا الْأَوَّلِينَ ﴿٣٦﴾

وَقَالَ مُوسَى رَبِّیْ أَعْلَمُ بِمَا يُلْهِی مِنَ عِبْدِهِ وَمَنْ تَكُونُ لَهُ عَاقِبَةُ الدَّارِ إِنَّهُ لَا يُفْلِحُ الظَّالِمُونَ ﴿٣٧﴾

وَقَالَ فِرْعَوْنُ يَتَأَيَّهَا الْمَلَأَ مَا عَلِمْتُ لَكُمْ مِنْ إِلَهٍ غَيْرِي فَأَوْقِدْ لِي يَهْدُنْ عَلَى الطَّيْنِ فَأَجْعَلَ لِي صَرْجًا لَعَلِّي أَطْلُعُ إِلَيْتُ إِلَهَ مُوسَى وَلِي لَأُظَنَّهُ مِنْ الْكَذَّابِينَ ﴿٣٨﴾

وَأَسْتَكْبَرُوا وَهْوَ وَجُودُهُ فِي الْأَرْضِ يَغْتَبِرُ الْحَقُّ وَظَنُّوا أَنَّهُم إِلَهَاتُنَا لَا يَرْجِعُونَ ﴿٣٩﴾

1 この「御徴」は、彼らの主張を裏づける知的証拠、あるいは奇跡（アルークルトゥビー13:288 参照）。

2 「このようなこと」とは、アッラー*に何ものも並べずに崇拜*する、という教えのこと（イブン・カスィール 6:237 参照）。

3 「世の（善き）結末」については、家畜章 135 の訳注を参照。

4 同様のアーヤとして、詩人たち章 29、至高者章 24 も参照。

5 「ハーマーン」については、アーヤ 6 の訳注を参照。

6 これは、レンガを焼くことを意味する（アッ=サアディー616 頁参照）。

7 同様のアーヤとして、赦し深いお方章 36-37 も参照。

40. それで、われら*は彼とその軍勢^{ぐんぜい}を捕え、彼らを海原^{うなばら}に放り捨てた。ならば不正*者たちの結末がいかなるものであったか、見てみるがよい。¹
41. また、われら*は彼らを、業火^{ごうか}へと招く先導者^{せんどう}とした。そして復活の日*、彼らは（いかなる者からも）援助されることがない。
42. また、われら*は現世において、彼らに呪いを付き纏^{まと}わせた²。そして復活の日*、彼らは（アッラー*のご慈悲^{じひ}から）遠ざけられた者たち³の類である。
43. われら*は確かに、先の（幾多^{いくた}の）世代^{せだい}を滅ぼした後、ムーサー*に啓典^{けいてん}（トーラー*）を授けた。人々への開眼^{かいがん}⁴と、導き、慈悲として、彼らが教訓を得るようにと（、それを授けたのである）。
44. （使徒^{しと}*ムハンマド*よ、）われら*がムーサー*に事を命じた時⁵、あなたは（その山の）西側にいたわけでもないし、そこに立ち会っていた者の一人でもなかったのだ。
45. しかしわれら*は（ムーサー*の後）数々の世代^{せだい}を設け、彼らに長い年月が流れ去って（、彼らはアッラー*との約束を忘れて）しまった。またあなたは、マドウヤン*の民の

فَأَخَذْنَاهُ وَجُنُودَهُ فَنَبَذْنَاهُمْ فِي الْيَمِّ فَأَنْظَرَ
كَيْفَ كَانَتْ عَاقِبَةُ الظَّالِمِينَ ﴿٤٠﴾

وَجَعَلْنَاهُمْ أَيْمَةً يَدْعُونَ إِلَى النَّارِ
وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ لَا يُنصَرُونَ ﴿٤١﴾

وَاتَّبَعْنَاهُمْ فِي هَٰذِهِ الدُّنْيَا لَعْنَةً وَيَوْمَ
الْقِيَامَةِ هُمْ مِنَ الْمَقْبُوحِينَ ﴿٤٢﴾

وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْكِتَابَ مِنْ
بَعْدَ مَا أَهْلَكْنَا الْقُرُونَ الْأُولَىٰ بَصَائِرَ
لِلنَّاسِ وَهَدَىٰ وَرَحْمَةً لَّعَالِمِهِمْ
يَتَذَكَّرُونَ ﴿٤٣﴾

وَمَا كُنْتَ بِجَانِبِ الْعَرَبِ إِذْ فَصَيْنَا إِلَىٰ مُوسَى
الْأَمْرَ وَمَا كُنْتَ مِنَ الشَّاهِدِينَ ﴿٤٤﴾

وَلَكِنَّا أَنْشَأْنَا قُرُونًا فَتَطَاوَلَ عَلَيْهِمُ
الْعُمُرُ وَمَا كُنْتَ ثَاوِيًا فِي أَهْلِ مَدْيَنَ
تَتْلُو عَلَيْهِمْ آيَاتِنَا وَلَكِنَّا كُنَّا
مُرْسِلِينَ ﴿٤٥﴾

1 その様子については、ユースス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 23-24 も参照。

2 同様のアーヤ*として、フード章*99 とその訳注も参照。

3 外にも、「滅ぼされた者たち」「醜くされた者たち」という解釈がある（アル＝バガウィー 3:536 参照）。

4 「開眼」については、家畜章 104 の訳注も参照。

5 つまり、アッラーがムーサーに、彼とその民が守るべき物事において命令され、彼との契約を結んだ時のことを指す（アッ＝タバリー 8:6397 参照）。

もとに滞在していた者でもなければ、彼らにわれら*の御徴^{みしるし}を誦^よみ聞かせていたわけでもない。だがわれら*はもとより、(使徒*を)遣^{つか}わす者だったのだ。

46. また(使徒*よ)、われら*が(ムーサー*に)呼びかけた時、あなたはその山の傍^{かたわ}らにいたわけでもなかった¹。しかし、あなた以前に警告者^{けいこく}が一人も到来^{とうらい}していなかった民^{たみ}に警告を告げるため、あなたの主*からの慈悲^じとして(遣^{つか}わされたのである)。(それは、)彼らが教訓を得るようにするためだったのだ。

47. そして、もし自分たちが行ったことゆえに、彼ら(不信仰者*)に災難^{さいなん}が降りかかり、「我らが主*よ、どうして私たちに使徒*を遣^{つか}わしてくれなかったのですか? そうすれば私たちはあなたの御徴^{みしるし}に従^{したが}い、信仰者の仲間となりましたの?」²と言うことにならなければ、われら*は使徒*を遣^{つか}わさなかったのだが³。

48. そして彼らのもとに、われら*の御許^{みもと}から真理^{まこと}が訪^{おとず}れた時⁴、彼らは言った。「どうして彼(ムハンマド*)には、ムーサー*に与えられたようなもの⁵が、与えられなかった

وَمَا كُنْتَ بِجَانِبِ الطُّورِ إِذْ نَادَيْنَا
وَلَكِنْ رَّحِمَةً مِّنْ رَبِّكَ لِتُنْذِرَ قَوْمًا
مَّا أَتَتْهُمْ مِّنْ نَّذِيرٍ مِّن قَبْلِكَ لَعَلَّهُمْ
يَتَذَكَّرُونَ ﴿٤٦﴾

وَلَوْلَا أَن تُصِيبَهُمْ مُّصِيبَةٌ بِمَا قَدَّمَتْ
أَيْدِيهِمْ فَيَقُولُوا رَبَّنَا لَوْلَا أَرْسَلْتَ إِلَيْنَا
رَسُولًا فَتَنْفِيعَ إِلَيْنَا مِنْكَ وَنَكُونَ مِنَ
الْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٧﴾

فَلَمَّا جَاءَهُمُ الْحَقُّ مِنْ عِنْدِنَا قَالُوا لَوْلَا
أُوتِيَ مِثْلَ مَا أُوتِيَ مُوسَىٰ أَوْ لَمْ
يَكْفُرُوا بِمَا أُوتِيَ مُوسَىٰ مِنْ قَبْلُ قَالُوا

1 アーヤ*44-46の説明は、預言者*ムハンマドがその場にいたわけでもなかったのに、当時の状況を事細かに描写できるのは、アッラーからの啓示を授かった使徒であるにほかならない、ということである(アッ=サアディー617頁参照)。
2 この「民」は、長い間、使徒が遣わされていなかったアラブ人のこと。尚このアーヤが、アラブ人以外の者に対しての警告を否定することにはならない(前掲書、同頁参照)。家畜章19、高壁章158とその訳注、識別章1、サバア章28なども参照
3 関連するアーヤ*として、夜の旅章15とその訳注も参照。
4 預言者*ムハンマド*が警告者として到来した時、ということ(ムヤッサル391頁参照)。
5 奇跡や、啓典が一度に全部下されたこと(夜の旅章106、識別章32とその訳注も参照)などを指す(前掲書、同頁参照)。

のか？」彼らは以前、ムーサー*に授けられたものを否定しなかったのか？ 彼らは言ったのだ。「(トラー*とクルアーン*は、)お互いに支え合う二つの魔術^{まじゅつ}である」。また、(こう)言った。「本当に私たちは、そのいずれをも拒否する者なのだ」。

49. (使徒*よ、) 言ってやれ。「ならば、アッラー*の御許から、その二つ(トラー*とクルアーン*)よりも正しく導いてくれる啓典^{けいてん}を持って来てみよ。そうすれば、私はそれに従おう。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば、だが」。

50. そして、もし彼らがあなた(の要望)に應じなかったら、彼らが自分たちの欲望^{したが}に従っているに過ぎないということを知れ。アッラー*からのお導き^{みちび}もないままに、自分の欲望^{したが}に従う者よりも、ひどく迷った者であろうか？ 本当にアッラー*は、不正*者である民をお導きにはならないのだ。

51. われら*は確かに、彼らのために御言葉(クルアーン*)を、つなげ(て下し)た²。(それは、)彼らが教訓を得るようにするためである。

52. それ以前に、われら*が啓典^{けいてん}を授けた者(啓典の民*)たち³、彼らこそは、それ(クルアーン*)を信じるのだ。

سِحْرَانِ تَظَاهَرَا وَقَالُوا إِنَّا بِكَ لَكِفْرُونَ ﴿٤٨﴾

قُلْ فَأْتُوا بِكِتَابٍ مِّنْ عِندِ اللَّهِ هُوَ أَهْدَىٰ مِنْهُمَا أَتَّبِعُهُ إِن كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٤٩﴾

فَإِنْ لَّمْ يَسْتَجِيبُوا لَكَ فَاعْلَمْ أَنَّمَا يَتَّبِعُونَ أَهْوَاءَهُمْ وَمَنْ أَضَلُّ مِمَّنْ اتَّبَعَ هَوَاهُ بَعْدَ هُدًى مِّنَ اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿٥٠﴾

* وَلَقَدْ وَصَّلْنَا لَهُمُ الْقَوْلَ لَعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ﴿٥١﴾

الَّذِينَ آمَنَّا بِهِمْ لَقَدْ كُتِبَ مِنْ قَبْلِهِ هُمْ بِهِ يُؤْمِنُونَ ﴿٥٢﴾

1 不信仰者*らは、それらが魔術と人々を迷わせることにおいて互いに助長し合うものだ、と主張した(アッ=サアディー617頁参照)。

2 クルアーン*が「つなげる」と表現されているのには、クルアーン*が一度に下らずに、次々と下ったことの外、その内容において、占報や警告、希望や恐怖、物語や訓戒などが連続して現れることなども示しているとされる(イブン・アーシュール 20:142 参照)。

3 自分たちの啓典を改ざんしたりすることのなかった、啓典の民*のこと(ムヤッサル 392頁参照)。

53. そして、彼らにそれ(クルアーン*)が誦^よんで聞かされた時、彼らは(こう)言った。
「私たちはそれを信じました。本当にそれは、我らの主*からの真理ですから。本当に私たちはそれ以前から、服従^{ふくじゅう}する者(ムスリム*)だったのです」。

54. それらの者たちは、彼らの忍耐^{にんたい}ゆえに、その褒美^{ほうび}を二度与えられる。そして彼らは悪を善で追いや^{さす}り、われら*が彼らに授けたものの内から(施^{ほどこ}しとして)費^{つい}やす²のである³。

55. また彼らは、戯言^{たわごと}⁴を耳にすれば、それに背を向けて(こう)言った。「私たちには私たちの行いがあり、あなた方にはあなた方の行いがあります。あなた方に平安を⁵。私たちは、無知な者たち(のやり方)を望まないのですから」。

56. (使徒*よ、)本当にあなたが、自分の好む者^{みちび}を導くのではない。しかしアッラー*が、かれのお望みになる者をお導き^{みちび}になるのであり、かれは導かれる者たちを最もよくご存知である。⁶

وَلَمَّا سُتِلَ عَلَيْهِمْ قُلُوبُهُمْ قَالُوا أَمْ نَأْمُرُ بِهِ اللَّهُ الْحَقُّ مِنْ رَبِّنَا إِنَّآ كُنَّا مِنْ قَبْلِهِ مُسْلِمِينَ ﴿٥٣﴾

أُولَئِكَ يُؤْتُونَ أَجْرَهُمْ مَرَّتَيْنِ بِمَا صَبَرُوا وَيَذَرُونَ بِالْحَسَنَةِ السَّيِّئَةَ وَمِمَّا رَزَقْنَاهُمْ يُنفِقُونَ ﴿٥٤﴾

وَلَمَّا سَمِعُوا اللَّغْوَ أَعْرَضُوا عَنْهُ وَقَالُوا إِنَّا أَعْمَلُنَا وَالْكُمْ أَعْمَلُكُمْ سَلَكُوا عَلَيْكُمْ رَبَّابْنَغِي الْجَاهِلِينَ ﴿٥٥﴾

إِنَّكَ لَا تَهْدِي مَنْ أَحْبَبْتَ وَلَكِنَّ اللَّهَ يَهْدِي مَنْ يَشَاءُ وَهُوَ أَعْلَمُ بِالْمُهْتَدِينَ ﴿٥٦﴾

1 「悪を善で追いやる」については、信仰者たち章 96、詳細にされた章 34-35 も参照。

2 「(施しとして) 費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

3 「褒美を二度与えられる」のは、彼らが自分たちの啓典を信じていた上に、クルアーン* のことも信じたため(ムヤッサル 392 頁参照)。鉄章 28 も参照。

4 この「戯言」には、「無意味な言葉」「そもそも啓典には含まれていなかった、人為(じんい)的に付け加えられたもの」といった解釈がある(アッ=タバリー-8:6409 参照)。

5 これは挨拶ではなく、放免の意味。「あなた方は、私たちから悪口や汚い言葉で返されたりすることから無事です」(アル=バガウィ-3:539 参照)。識別章 63 とその訳注も参照。

6 最終的な導きがアッラー*にのみ委ねられていることについては、雌牛章 272、蜜蜂章 37、ユーヌス*章 99-100、蟻章 80、相談章 52 とその訳注も参照。

57. 彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）は、言った。「もし私たちが、あなたと一緒に導きに從えば、私たちは自分たちの土地（マッカ*）から攫われてしまうだろう¹」。われら*は彼らに、安全なる聖域²を確立してやったのではないか？ あらゆるものの果実は、われら*の御許からの糧としてそこに集められて来るのだ。しかし彼らの大半は、（その恩恵のほどが）分からない。

58. われら*はその暮らし向きに思い上がった、どれだけ多くの（不信仰な）町（の人々）を滅ぼしてきたことか。そして、それらが（廃墟と化した）彼らの住居である。（その内）僅かなものを除いては、彼らの（滅亡）後、居住されることはなかったのだ。われら*こそはもとより、相続者³なのである。

59. また（使徒*よ）、あなたの主*はもとより、町々を滅ぼされるお方ではない——町々の母⁴（の民）のもとに、われら*の御徴を彼らに誦んで聞かせる使徒*を遣わすまでは——。そしてわれら*は、その民が不正者でありもしないのに、町々を滅ぼす者ではない。⁵

وَقَالُوا إِن نَّبِيعَ الْهُدَىٰ مَعَكَ تَحْطَفُ
مِنْ أَرْضِنَا أَوْ لَوْ نُمَكِّنْ لَهُمْ حَرَمًا أَمِنًا
يُجْعَلُ إِلَيْهِ ثَمَرُ كُلِّ شَيْءٍ رِّزْقًا مِّن لَّدُنَّا
وَلَكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٥٧﴾

وَكُرْهُمُ أَهْلَكُنَا مِن قَرْيَةٍ بَطَرْتُمُوعِيشَتَهَا
فَإِنَّكَ مَسْكُونُهُمْ لَوْ نَشَاءُ مِمَّن بَعْدَهُمْ
إِلَّا قَلِيلًا وَكُنَّا نَحْنُ الْوَارِثِينَ ﴿٥٨﴾

وَمَا كُنْتَ رَبُّكَ مُهْلِكُ الْفَرَسِ حَتَّىٰ يَبْعَثَ
فِي أُمَمٍ رَسُولًا يَسْأَلُوا عِزَّهُمْ أَتَيْنَا وَمَا
كُنَّا مُهْلِكِي الْفَرَسِ إِلَّا وَهْلَهَا
ظُلُمُونَ ﴿٥٩﴾

1 つまりシルク*の徒である他のアラブ人たちを敵に回すことで、殺害されたり、捕虜（ほりよ）になったり、財産を奪われたりすること（イブン・カスィール 6:247 参照）。

2 「安全なる聖域」とは、マッカ*の聖域のこと。雌牛章 125 の訳注、蟻章 91 「聖なる地」の訳注も参照。

3 「相続者」については、イムラーン家章 180 の訳注も参照。

4 町々の「母」とは、マッカ*のこと（ムヤッサル 392 頁参照）。家畜章 92 「都市の母」の訳注も参照。

5 関連するアーヤ*として、夜の旅章 15 とその訳注も参照。また、アーヤ*46 「民」の訳注も参照。

60. (人々よ、) あなた方に授けられたいかなるもの¹も、現世の生活の楽しみとその飾りに過ぎないのである。そしてアッラー*の御許にあるものは、より善く、より永く残るもの。一体、あなた方は分別しないのか？

61. われら*が(われら*に従った者には天国を与えるという)善き約束をし、(その約束を果たすことで)それ²を目の当たりにする者は、われら*が現世の生活の享樂で楽しませ、(導きにも従わずに現世に溺れ、)それから復活の日*に(悪い清算へと)連れて来られる者たちの類いと、同様であろうか？

62. そして、かれ(アッラー*)が彼ら(シルク*の徒)を呼んで、「あなた方が主張していた、(崇拜*における)われの同位者たち³は、どこなのか？」と仰せられる日のこと(を思い起こさせよ)。

63. 自分たちに(懲罰という)御言葉が確定した者たち⁴は、言う。「我らが主*よ、これらの者たちは、私たちが逸脱させた者たちです。私たちは自分たちが逸脱したように、彼らを逸脱させました。私たちはあなたに、(彼らとは)無縁だと宣言します。

وَمَا أُوْتِيسُوا مِنْ شَيْءٍ فَسَمِعَ الْحَيَوُ الدُّنْيَا
وَزَيْدَتَهَا وَمَا عِنْدَ اللَّهِ خَيْرٌ وَأَبْقَى
أَفَلَا تَتَّقُونَ ﴿٦٠﴾

أَفَمَنْ وَعَدْنَاهُ وَعْدًا حَسَنًا فَهُوَ لَظِيهٍ كَذِبٌ
مَّتَّعْنَاهُ مَعَ الْحَيَوُ الدُّنْيَا ثُمَّ هُوَ يَوْمَ الْقِيَمَةِ
مِنَ الْمُخْضَرِّينَ ﴿٦١﴾

وَيَوْمَ يَنَادِيهِمْ فَيَقُولُ أَيْنَ شُرَكَائِيَ
الَّذِينَ كُنْتُمْ تَزْعُمُونَ ﴿٦٢﴾

قَالَ الَّذِينَ حَقَّ عَلَيْهِمُ الْقَوْلُ رَبَّنَا هَؤُلَاءِ
الَّذِينَ آغْوَيْنَا أَغْوَيْنَاهُمْ كَمَا غَوَيْنَا
تَبَرَّأْنَا إِلَيْكَ مَا كَانُوا إِيَّانَا يَعْبُدُونَ ﴿٦٣﴾

1 つまり財産や子供などのこと (ムヤッサル 393 頁参照)。

2 天国のこと (前掲書、同頁参照)。

3 「われの同位者たち」とは、彼らがアッラー*に対してシルク*を犯していた偶像など、彼らが拠(よ)り所としていた対象のこと (前掲書、同頁参照)。

4 これはシャイターン*を始め、人々を不信仰へと招いていた者たち (イブン・カスィール 6 : 250 参照)。

彼らは私たちのことなど、^{あが}崇めてはいなかった¹のですから」。²

64. そして、(シルク*の徒は、こう)言われる。
「あなた方(がアッラー*)の同位者(としていたもの)たちを、呼んでみよ」。それで彼らはかれらと呼ぶものの、かれらの方では彼らに^{こた}応えてはくれず、彼らは懲罰を^ま目の^{ちようぼう}当たりにする。もし、彼らが^{みちび}導かれていれば、(懲罰を^{こた}目の^ま当たりにすることはなかったものを)。

65. かれ(アッラー*)が、彼ら(シルク*の徒)を呼んで、「あなた方は、遣わされた者(使徒*)たちに何と^{しと}応えたのか?」と仰せられる日のこと(を思い起こさせよ)。³

66. そしてその日、彼らにとっての^い言い^{わけ}訳はなくなってしまう、彼らは互いに^い尋ね^{わけ}合うこと(で、よい^い言い^{わけ}訳を見出すこと)もない。

67. (現世で)悔悟^{かいご}して信仰し、正しい行い*を行なった者とはいえば、きっと成功者の一人となるであろう。

68. あなたの主*は、お望みのものを^{つく}創り、^{しゅ}選ばれる。彼らに^く選択(の余地)はないのだ⁴。アッラー*に^{かた}称え*あれ、かれは彼らがシルク*を^{おか}犯しているものから(無縁で)、遙か^{はる}高遠な^{こうえん}お方であられる。

69. また、あなたの主*は、彼らの胸が^{ひそ}潜めることも、^{あら}露わにすることも、ご存知である。

وَقِيلَ ادْعُوا شُرَكَاءَكُمْ فَدَعَوْهُمُ فَلَمْ يَسْتَجِيبُوا لَهُمْ وَرَأَوُا الْعَذَابَ لَوْ أَنَّهُمْ كَانُوا يَهْتَدُونَ ﴿٦٤﴾

وَيَوْمَ يُنَادِيهِمْ فَيَقُولُ مَاذَا أَجَبْتُمُ الْمُرْسَلِينَ ﴿٦٥﴾

فَعَمِيَتْ عَلَيْهِمُ الْأَنْبَاءُ أَلْأَنَّهُمْ يَوْمَئِذٍ هُمْ لَا يَتَنَسَّوْنَ ﴿٦٦﴾

فَأَمَّا مَنْ تَابَ وَآمَنَ وَعَمِلَ صَالِحًا فَقَعِيَ أَنْ يَكُونَ مِنَ الْمُفْلِحِينَ ﴿٦٧﴾

وَرَبُّكَ يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ وَيَخْتَارُ مَا كَانَ لَهُمُ الْخِيَرَةُ سُبْحَانَ اللَّهِ وَتَعَالَى عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٦٨﴾

وَرَبُّكَ يَعْلَمُ مَا تُكِنُّ صُدُورُهُمْ وَمَا يُعْلِنُونَ ﴿٦٩﴾

1 実際のところ、彼らが崇めていたのはシャイターン*に過ぎない(ムヤッサル393頁参照)。

2 同様の情景の描写として、雌牛章166-167、高壁章38、イブラーヒーム*章21-22、識別章17-19、部族連合章67-68、サバア章31-33、40-41も参照。

3 この質問に関しては、食卓章109とその訳注も参照。

4 アッラー*のしもべが自ら行う選択は、そもそもアッラー*がそれをお選びになり、お創りになったものである。また一説に、これは金の装飾章31にある言集への返答(アル=バイダーウィー4:301参照)。

70. そして、かれはアッラー*、かれ以外に（真に）崇拝*すべきいかなるものもない。かれにこそ、現世と来世における全ての称賛*がある。そしてかれにこそ裁決は属し、かれの御許にこそ、あなた方は戻らされるのである。

71. （使徒*よ、）言ってやれ。「言ってみよ、もしアッラー*があなた方に対し、夜を復活の日*まで永続するものとされたならば、（燦然たる）光をもたらすのはアッラー*以外のどの神か？ 一体あなた方は、耳を傾けないのか？」

72. 言ってやれ。「言ってみよ、もしアッラー*があなた方に対し、昼を復活の日まで永続するものとされたならば、あなた方がそこで休息する夜をもたらすのは、アッラー*以外のどの神か？ 一体あなた方は、眼を開かないのか？」

73. （人々よ、）かれは、そのご慈悲ゆえに、あなた方のために夜と昼を設けられた。（それは）あなた方がそこ（夜）において休息し、また（昼には）かれのご恩寵を求め（て活動す）るため。そして、あなた方が（かれからの恩恵に）感謝するようになるためなのだ。

74. また、かれ（アッラー*）が彼ら（シルク*の徒）を呼び、「あなた方が主張していた、（崇拝*における）われの同位者たち¹は、どこなのか？」と仰せられる日のこと（を思い起こさせよ）。

وَهُوَ اللَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ لَهُ الْحَمْدُ فِي الْأَوَّلِ
وَالْآخِرَةِ وَلَهُ الْحُكْمُ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٧٠﴾

قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ جَعَلَ اللَّهُ عَلَيْكُمُ اللَّيْلَ
سَرْمَدًا إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ مِنْ إِلَهٍ غَيْرَ اللَّهِ
يَأْتِيَكُمْ بِضِيَاءٍ أَمْ لَا تَسْمَعُونَ ﴿٧١﴾

قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ جَعَلَ اللَّهُ عَلَيْكُمُ النَّهَارَ
سَرْمَدًا إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ مِنْ إِلَهٍ غَيْرَ اللَّهِ
يَأْتِيَكُمْ بِاللَّيْلِ تَسْكُونُونَ فِيهِ أَمْ لَا
تُبْصِرُونَ ﴿٧٢﴾

وَمِنْ رَحْمَتِهِ جَعَلَ لَكُمْ اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ
لِتَسْكُنُوا فِيهِ وَلِتَبْتَغُوا مِنْ فَضْلِهِ
وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ﴿٧٣﴾

وَيَوْمَ يُنَادِيهِمْ فَيَقُولُ أَيْنَ شُرَكَائِيَ الَّذِينَ
كُنْتُمْ تَزْعُمُونَ ﴿٧٤﴾

1 「同位者たち」については、アーヤ*62の訳注を参照。

75. そして、われら*は(使徒*を嘘つきとした)各共同体から一人の証人¹を抜き出し、(こう)言う。「(シルク*の正当性を確証する、)あなた方の明証を持って来い」。そして彼らは、真理がアッラー*に属することを知る。彼らの捏造していたものは、彼らから消え失せてしまうのだ。

76. 本当にカールーンはムーサー*の民の一人²であり、彼らに対して(その高慢さと圧制において)度を越していた。またわれら*は、実にその(箱の)鍵が力持ちの集団にさえ重くのしかかるほどの財宝を、彼に与えた。彼の民(の内、正しい者たち)が彼に、(こう)言った時のこと(を思い起こさせよ)。「(自分の財産に)有頂天になってはいけません。本当にアッラー*は、(感謝せずに)有頂天になる者たちを、好まれないのですから。

77. そしてアッラー*があなたに授けたものにおいて、来世の住まい(の褒美)をお求めなさい。また、現世からのご自分の取り分も忘れてはなりません³。そしてアッラー*があなたに対して善くなされたように、(他人に対して)善くし、地上で腐敗*を求めてはなりません。本当にアッラー*は、腐敗*を働く者たちをお好みにはならないのですから」。

وَنَزَعْنَا مِنْ كُلِّ أُمَّةٍ شَهِيدًا فَقُلْنَا هَاتُوا بُرْهَانَكُمْ فَعِلِمُوا أَنَّ الْحَقَّ لِلَّهِ وَصَلَّ عَنْهُمْ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ﴿٧٥﴾

﴿٧٦﴾ إِنَّ قَارُونَ كَانَ مِنْ قَوْمِ مُوسَى فَبَغَى عَلَيْهِمْ وَآتَيْنَاهُ مِنَ الْكُنُوزِ مَا إِنَّ مَفَاتِحَهُ وَلَتَنُوءَ بِالْعُصْبَةِ أُولَى الْقُوَّةِ إِذْ قَالَ لَهُ قَوْمُهُ لَا تَفْرَحْ إِنَّ اللَّهَ لَا يُحِبُّ الْفَرِحِينَ ﴿٧٦﴾

وَاتَّبَعُوا فِي مَاءِ آلِهَةِ الدَّارِ الْآخِرَةِ وَلَا تَنْسَ نَصِيبَكَ مِنَ الدُّنْيَا وَأَحْسِنَ كَمَا أَحْسَنَ اللَّهُ إِلَيْكَ وَلَا تَتَّبِعِ الْفَسَادَ فِي الْأَرْضِ إِنَّ اللَّهَ لَا يُحِبُّ الْمُفْسِدِينَ ﴿٧٧﴾

1 この「証人」とは、各預言者*のこと。彼らは自分の民が現世で行っていたシルク*や、自分たちを嘘つき呼ばわりしたことなどを、証言する(ムヤッサル 393 頁参照)。婦人章 41 の訳注も参照。

2 カールーンはムーサー*のいとこであった、と言われる(アッ=タバリー8:6424 参照)。

3 一説に、この「取り分」は寿命のこと。つまり、「現世で正しい行い*をしないまま、寿命を無駄にしてはならない」という意味。別の一説では、「合法的な物事を楽しみ、求める」という「現世の取り分」のことを指す(アル=クルトゥビー13:314 参照)。

81. こうしてわれら*は、彼とその邸宅^{ていたく}を地面に飲み込ませた。彼には、アッラー*をよそに彼を助けてくれるいかなる集団もなかったし、（懲罰^{ちようばつ}から）援助される者でもなかったのだ。

82. そして昨日、彼の（ような^{きようぐう}）境遇を望んでいた者たちは、（こう）言い出した。「これは驚いたこと！ アッラー*はその僕たちの内、かれがお望みの者^{かて}に糧^{しょう}を豊富^{ほうふ}に与えられ、また挫^{ひか}えられるのだ^{しず}！。もしアッラー*が私たちに^{しず}お恵み下さらなければ、私たちのことも沈めてしまったであろう。これは驚いたこと^{おどろ}！ 不信仰者*たちが成功することはないのだ」。

83. （天国という）その来世の住まい、われら*はそれを地上で（、真理^{こうまん}に対して）高慢^{かうまん}さも腐敗^{ふはい}*も望まない者たちのためのものとした。そして（善き）結末^{けいけん}²は、敬虔^{けいけん}*な者たちのものである。

84. 誰であろうと（復活の日*、）善行^{たすき}を携えてやって来た者、彼にはそれよりも善いもの^{たすき}³がある。そして誰であろうと悪行^{あくぎん}を携えてやって来た者、（彼にはそれに^{むく}応じた悪い報いがある、というのも）悪行を行っ

فَحَسَفْنَا بِهِ وَبَدَارِهِ الْأَرْضَ فَمَا كَانَ لَهُ مِنْ فِئَةٍ يَنْصُرُوهُ مِنْ دُونِ اللَّهِ وَمَا كَانَ مِنَ الْمُنتَصِرِينَ ﴿٨١﴾

وَأَصْبَحَ الَّذِينَ تَمَنَّوْا مَكَانَهُ بِالْأَمْسِ يَقُولُونَ وَيَكَانَ اللَّهُ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ وَيَقْدِرُ لَوْلَا أَنْ مَنَّ اللَّهُ عَلَيْنَا لَخَسَفَ بِنَا وَكَانَهُ لَا يَفْلِحُ الْكَافِرُونَ ﴿٨٢﴾

يَلِكِ الدُّارُ الْآخِرَةُ جَمَعَهُمُ الَّذِينَ لَا يُرِيدُونَ عُلُوًّا فِي الْأَرْضِ وَلَا فُسَادًا وَالْعَاقِبَةُ لِلْمُتَّقِينَ ﴿٨٣﴾

مَنْ جَاءَ بِالْحَسَنَةِ فَلَهُ خَيْرٌ مِنْهَا وَمَنْ جَاءَ بِالسَّيِّئَةِ فَلَا يُجْزَى الَّذِينَ عَمِلُوا السَّيِّئَاتِ إِلَّا مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٨٤﴾

1 つまり彼らは、アッラーが誰かに財産をお授けになるのが、その者に対するアッラーのご満足の印ではないことを知った（イブン・カスィール 6:257 参照）。アッラーは財産を、かれが愛される者にも愛されない者にも、お授けになる。だが信仰心は、かれが愛される者にしかお授けにはならない（アル＝ハーキム 7381 参照）。サバア章 36、暁章 15-16 とそれらの訳注も参照。

2 この「約束」とは、天国のこと（ムヤッサル 395 頁参照）。

3 この「善」とは、アッラーの唯一性*に対する純粋な信仰と、アッラーの教えに沿った善行のことであり、「それよりも善いもの」とは、その褒美としての天国と、そこでの安楽であるとされる（前掲書、同頁参照）。

ていた者たちが報^{ひく}われるのは、自分たちが
行っていたこと（ゆえの応報^{おうほう}）に外^{ほか}ならな
いのだから。

85. (使徒^{しと}*よ、) 本当^{ほんとう}にあなたにクルアーン^{クルアーン}*を(お
授^{さづ}けになり、その伝達^{じゆんしや}と遵守^{じゆんしゆ}を)義務^{ぎむ}づけ給^{たま}う
たお方は、あなたを帰^{かへ}り場所^{かた}へと必^{かなら}ずやお返
しになるお方^{みちび}！ 言え。「我が主^{たづな}*は、誰^{たれ}が導^{みち}き
を携^もえて到来^{たうらい}したか、そして誰^{たれ}が紛^{まじ}れもない
迷妄^{めいもう}の中^なにあるかを、ご存知^{ごぞんじ}である」。

86. (使徒^{しと}*よ、) あなたは、啓典^{けいてん}が自分^{じぶん}に下^{くだ}
されることを願^{ねが}っていたわけではなかつた。
しかし、(それは)あなた^{あなた}の主^{しゅ}*からのご慈悲^{じひ}
ゆえ(のもの)だったのだ。ならば決^きして、
不信仰者^{ふしやうしや}*たちの援助者^{えんすけしや}となるのではない。

87. また、あなたにそれが下^{くだ}された後^{のち}、彼らに
あなたをアッラー*の御^み徴^{しるし}から阻^{はば}ませて
は、決^きしてならない。そしてあなた^{あなた}の主^{しゅ}*
(の教え)へと招^{まね}け。絶対^{ぜったい}にシルク*の徒^{たぐ}
類^{るい}いとなつてはならない。

88. そしてアッラー*に並^{なら}べて、外^{ほか}の神^{しん}²を祈^{いの}って
はならない。かれの外^{ほか}には、(真^{まこと}に)崇^{すう}拝^{はい}*
すべきいかなるものもないのだから。かれの
御^お顔^{かお}³以外の全^{ぜん}てのものは、滅^{ほろ}び行くのであ
る。かれにこそ裁^{さい}決^{けつ}は属^{ぞく}するのであり、かれ
の御^み許^{もと}にこそあなた方は戻^{もど}されるのだ。

إِنَّ الَّذِي فَرَضَ عَلَيْكَ الْقُرْآنَ أَلَّا تَزِلَّ إِلَى
مَعَادٍ قُلْ رَبِّي أَعْلَمُ مَنْ جَاءَ بِالْهُدَى وَمَنْ
هُوَ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٨٥﴾

وَمَا كُنْتَ تَرْجُو أَنْ يُلْقَى إِلَيْكَ الْكِتَابُ
إِلَّا رَحْمَةً مِنْ رَبِّكَ فَلَا تَكُونْ ظَهِيرًا
لِلْكَافِرِينَ ﴿٨٦﴾

وَلَا تَصُدُّكَ عَنْ آيَاتِ اللَّهِ بَعْدَ إِذْ أَنْزِلَتْ
إِلَيْكَ وَأَنْذِرْ إِلَى رَبِّكَ وَلَا تَكُونْ مِنَ
الْمُشْرِكِينَ ﴿٨٧﴾

وَلَا تَتَّبِعْ مَعَ اللَّهِ إِلَهًا آخَرَ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ
كُلُّ شَيْءٍ هَالِكٌ إِلَّا وَجْهَهُ لَهُ الْحُكْمُ
وَالِيهِ تُرْجَعُونَ ﴿٨٨﴾

1 このアーヤ*の解釈には諸説あるが、アル＝クルトゥビー*によれば、預言者*ムハンマド*
が故郷マッカ*に勝利者として帰還(きかん)することの暗示である、という説が多数派と
される(13:288 参照)。

2 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 アッラー*ご自身が、「御顔^{みかお}」と表現されている。あるいは、「アッラー*の御顔のみを求め
て行われた行為」以外は、全て無駄(むだ)なものとなる、という意味(イブン・カスィール
6:261-262 参照)。

第 29 章

蜘蛛章 (アル=アンカブート) ¹

慈悲あまねく* 慈愛深く*

アッラー*の御名において

1. アリフ・ラーム・ミーム²。
2. 一体人々は、「私たちは信仰した」と言うことで、試練にかけられることもなく、放って置かれるとでも思ったのか?³
3. また、われら*は確かに、(使徒*が遣わされた) 彼ら以前の者たちを試練にかけたのだ。それでアッラーは、(信仰に) 正直な者たちを必ずやご存知になり給い、嘘つきたちを必ずやご存知になり給う。
4. いや、一体、悪行⁴を行う者たちは、われら*を出し抜けるとでも思ったのか? 彼らの判断することの、何と忌まわしいことか?

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْعَم

أَحْسِبَ النَّاسُ أَنْ يُتْرَكُوا أَنْ يَقُولُوا
آمَنَّا وَهُمْ لَا يُفْتَنُونَ ①

وَلَقَدْ فَتَنَّا الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ فَلَيَعْلَمَنَّ اللَّهُ الَّذِينَ
صَدَقُوا وَلَيَعْلَمَنَّ الْكَاذِبِينَ ②

أَمْ حَسِبَ الَّذِينَ يَحْمِلُونَ الْعِثَارَ أَنْ
يَسْفُتُوا نَسَاءَ مَا يَحْكُمُونَ ③

- 1 マッカ*啓示(一部アーヤ*は、マディーナ*啓示説あり)の中でも、最も遅い時期に下ったものとされる。つまりマディーナ*への移住*を強えられる直前の、苦難と迫害の極(きわ)みにあったムスリム*たちの状況を背景に、冒頭から真の信仰・試練・信仰者と不信仰者*の末路について取り上げられる。そして、信仰者たちの試練と勝利・不信仰者*の敗北という不変の法則は、過去の預言者*・使徒*たちとその民の間に起こった出来事の描写によって強調され、シルク*の無根拠さと脆弱(ぜいじゃく)さが、このスーラ*の名称にもなっている「蜘蛛の巣(アーヤ*41 参照)」にたとえられる。スーラ*の最後は、アッラー*の全能性の描写、試練において忍耐*し、努力奮闘する信仰者たちへの吉報によって締めくくられる。
- 2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。
- 3 預言者*ムハンマド*は仰(おっしゃ)った。「人は、自分の宗教(に対する堅固さの程度)に応じて、試練を受ける…」(アフマド 1481 参照)。雌牛章 214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、ムハンマド*章 31、王権章 2 とそれらの訳注も参照。
- 4 この「悪行」は、シルク*を始めとした、アッラー*に対する不服従行為のこと(ムヤッサル 396 頁参照)。

5. (来世における) アッラーとの拝謁^{はいえつ}を望む¹者は誰でも、(そのために準備せよ、) 本^{かなら}当にアッラー*の(復活の)期限^{かぎ}は、必ずや^{かなら}って来るのだから。かれは、よくお聞きになるお方、全知者であられる。
6. そして(アッラー*ゆえに)^{ふんとう}奮闘^{ふんとう}する者は誰でも、自分自身のために奮闘^{ふんとう}しているに過^そぎない。本^{かなら}当にアッラー*はいかなる創造物^{そうぞう}(の行いや崇拜*行為)からも、まさしく満ち足りておられる*お方なのだから。²
7. また、信仰して正しい行い*を行う者たち、われら*は必ずや、その悪行を彼らのために帳^{ちよう}消^けしにしてやる。そして必ずや、彼らが行^けっていた最善^{せうぜん}のもので、彼らに報^{むく}いてやるのだ。
8. われら*は人間に、自分の両親への孝行^{きやうぎやう}を命^{めい}じた³。そしてもし彼ら二人が、あなた⁴が(崇拜*の正当性について)何も知らないものをわれに並^{なら}べるべく、あなたに執^{しつ}拗^{よう}に迫^{せま}って来たならば、(そのことに関^{かん}しては)彼らに服^{ふく}従^{じゆう}するのではない⁵。われにこそ(復活の日*)、あなた方の帰^きり所があるのだ。そしてわれは、あなた方が(現世で)行^いっていたことを、あなた方に告^つげ聞^きかせ(、それに報^{むく}い)る。

مَنْ كَانَ يَرْجُوا لِقَاءَ اللَّهِ فَإِنْ أَجَلَ اللَّهُ لَكَ
وَهُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿٥﴾

وَمَنْ جَاهَدَ فَإِنَّمَا يُجَاهِدُ لِنَفْسِهِ إِنَّ اللَّهَ لَغَنِيٌّ
عَنِ الْعَالَمِينَ ﴿٦﴾

وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَنُكَفِّرَنَّ
عَنْهُمْ سَيِّئَاتِهِمْ وَلَنَجْزِيَنَّهُمْ أَحْسَنَ الَّذِي
كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٧﴾

وَوَصَّيْنَا الْإِنْسَانَ بِوَلَدَيْهِ حُسْنًا وَإِنْ جَاهَدَاكَ
لِتُشْرِكَ بِمَا لَيْسَ لَكَ بِهِ عِلْمٌ فَلَا تُطِعْهُمَا إِلَى
مَرْجِعِكُمْ فَأُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٨﴾

1 この「望む」については、ユーヌス*章7の訳注を参照。

2 アッラー*は被造物がご自身に服従することなど、必要とされない。しもべたちに諸々の義務行為を課したのは、ひとえに彼らへの慈悲であり、彼らの利益のためである(アル=バイダーウィー4:308 参照)。

3 夜の旅章 23-24 も参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

5 アッラー*への不服従における服従、などというものはない(アル=ブハーリー7257 参照)。それは、たとえ両親であっても同様である。尚シルク*のみに限らず、アッラー*に対する全ての反逆行為において、他人に従ったりしてはならない(ムヤッサル 397 頁参照)。

9. 信仰して正しい行い*を行う者たち、われら*は必ずや彼らに、(天国で)正しい者*たちの仲間入りをさせる。

وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
لَنُدْخِلَنَّهُمْ فِي الصَّالِحِينَ ﴿٩﴾

10. 人々の中には、「私たちはアッラー*を信じた」と言いつつも、アッラー* (の道) において苦しめられれば、人々 (から) の試練をあたかもアッラー*の懲罰のように受け止めて (怯み、イスラーム*に背を向けて) しまう者がいる¹。そして、もしもあなたの主*からの勝利が (信仰者たちに) やって来れば、彼ら (棄教者たち) はきっと (こう) 言うのだ。「本当に私たちは、あなた方と共にあったのだ」。一体アッラー*は、全創造物の胸の内²を、最もよくご存知なのではないか？

وَمِنَ النَّاسِ مَنْ يَقُولُ آمَنَّا بِاللَّهِ فَإِذَا أُوذِيَ فِي اللَّهِ جَعَلَ فِتْنَةَ النَّاسِ كَعَذَابِ اللَّهِ وَلَئِنْ جَاءَ نَصْرٌ مِنْ رَبِّكَ لَيَقُولُنَّ إِنَّا كُنَّا مَعَكُمْ أَوْ لَيْسَ اللَّهُ بِأَعْلَمَ بِمَا فِي صُدُورِ الْعَالَمِينَ ﴿١٠﴾

11. またアッラーは、信仰する者たちを必ずやご存知になり給い、偽信者*たちを必ずやご存知になり給う。³

وَلَيَعْلَمَنَّ اللَّهُ الَّذِينَ آمَنُوا وَلَيَعْلَمَنَّ الْمُنَافِقِينَ ﴿١١﴾

12. また不信仰に陥った者*たち⁴は、信仰する者たちに言う。「私たちのやり方 (宗教) に従って、私たちにあなた方の過ち (の罪) を背負わせよ」。彼ら (不信仰者*) は、彼ら (信仰者) の罪など少しも背負うことなどないというのに。本当に彼らは、まさしく嘘つきなのだ。

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لِلَّذِينَ آمَنُوا اتَّبِعُوا سَبِيلَنَا وَلْنَحْمِلْ خَطِيئَتَكُمْ وَمَا هُمْ بِحَامِلِينَ مِنْ خَطِيئَتِهِمْ مِنْ شَيْءٍ إِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ ﴿١٢﴾

1 同様のアーヤ*として、巡礼章 11 とその訳注も参照。

2 いかに表面的に取り繕 (つくろ) っても、アッラー*は人が心の内に隠すものをご存知である (イブン・カシール 6:266 参照)。

3 そしてそれは、順境と逆境による試練によってである (前掲書、同頁参照)。アーヤ 2 の訳注も参照。

4 これは、マッカ*の不信仰者*たち (ムヤッサル 397 頁参照)。

13. また彼らはきっと、自分たちの(罪^{つみ}という)重荷^{おもに}と、(彼らが迷わせた民の罪^{つみ}という)別の重荷^{おもに}を、自分たちの重荷^{おもに}と共に背負うことになる¹。そして彼らは復活の日^{ねつごう}*、自分たちが捏造^{ねつぞう}していたことについて、必ずや尋ねられることになるのだ。

14. われら*は確かにヌーフ*をその民^{つか}に遣わし、彼はその中で(アッラー*の教えへと招きつづ、)千年から五十年差し引いた年月^{まね}を過ごした²。そして(彼らが信じなかったので、)不正^{こうざい}*者であった彼らを、洪水が捕らえた。

15. そしてわれら*は彼(ヌーフ*)と船の民を救い、それ(船)を全創造物に対する一つの御徴^{みしるし}³とした。

16. また、イブラーヒーム*を(遣わした)。彼がその民に(こう)言った時^{とき}⁴。「アッラー*を崇拜^{かうはい}*し、かれを畏れ^{おそ}*よ。それがあなた方にとってより善いのだ。もし、あなた方が知っていたのならば。

17. あなた方は、アッラー*をよそに彫像^{ちようざう}を崇め、でっち上げを捏造^{ねつぞう}している⁵に過ぎない。本当に、アッラー*をよそにあなた方が崇^{あが}めている者たちは、あなた方に対して糧^{かて}(を授ける力)を有してはいないのだ。な

وَيَحْمِلُونَ أَثْقَالَهُمْ وَأَثْقَالًا مَعَ أَثْقَالِهِمْ
وَلَيَسْأَلُنَّ يَوْمَ الْقِيَامَةِ عَمَّا كَانُوا
يَفْعَلُونَ ﴿١٣﴾

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوْمِهِ فَلَبِثَ فِيهِمْ
أَلْفَ سَنَةٍ إِلَّا خَمْسِينَ عَامًا فَأَخَذَهُمُ
الطُّوفَانُ وَهُمْ ظَالِمُونَ ﴿١٤﴾

فَأَنجَيْنَاهُ وَأَصْحَابَ السَّفِينَةِ وَجَعَلْنَاهَا
آيَةً لِّلْعَالَمِينَ ﴿١٥﴾

وَإِبْرَاهِيمَ إِذْ قَالَ لِقَوْمِهِ اعْبُدُوا اللَّهَ وَانْتَهُوا
ذِكْرًا خَيْرٌ لَّكُمْ إِن كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿١٦﴾

إِنَّمَا تَعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ أَوْثَانًا
وَتَخْلُقُونَ إِفْكًا إِنَّ الَّذِينَ يَتَعَبَّدُونَ مِن
دُونِ اللَّهِ لَا يَمْلِكُونَ لَكُمْ رِزْقًا فَاتَّقُوا
عِندَ اللَّهِ الْإِزْقَ وَأَعْبُدُوهُ وَأَسْكِنُوا
لَهُ الْبُيُوتَ تَرْجِعُونَ ﴿١٧﴾

1 同様のアーヤ*として、蜜蜂章 25 とその訳注も参照。

2 ヌーフ*とその民に起こったことに関しては、高壁章 59-64、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、詩人たち章 105-122、整列者章 75-82、月章 9-17、ヌーフ*章なども参照。

3 この「御徴」とは、信仰者・不信仰者*への教訓のこと。また船それ自体も、それを通してアッラー*のご慈悲に思いを馳(は)せるべき、一つの御徴である(アッ=サアディー628 頁参照)。

4 イブラーヒーム*とその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70-89、整列者章 85-98、金の装飾章 26-28 も参照。

5 この「でっち上げ」は「彫像」のことである、という解釈もある(アッ=タバリ=8:6459 参照)。

らば、アッラー*の御許にこそ糧を求め、かれを崇拝*し、かれに感謝せよ。かれの御許にこそ、あなた方は戻されるのだから」。

18. —もしあなたが（使徒*ムハンマド*を）嘘つき呼ばわりしたとしても、あなた方以前の共同体も（また、その使徒*たちを）確かに嘘つき呼ばわりしたのだ。そして使徒*の義務は、（啓示の）明白なる伝達に外ならないのである。

19. また彼らは、アッラーがいかに（無から）創造をお始めになるか知らなかったのか？ それからかれは、それを（死後に）繰り返し給う。本当にそれはアッラーにとって、容易いことなのだから。

20. （使徒*よ、）言え。「地上を旅し、かれがいかに創造を始められたか、見てみるがよい。それからアッラー*は、（死後の復活という）最後の創造をお創りになるのだ。本当にアッラー*は、全てのことがお出来のお方なのだから」。

21. かれは、かれがお望みの者を罰せられ、かれがお望みの者にご慈悲をおかけ下さる。そしてかれの御許にこそ、あなた方は戻されるのだ。

22. （人々よ、）あなた方は地でも天でも、（アッラー*から）逃れられる者ではない。そしてあなた方にはアッラー*の外に、いかなる庇護者も援助者もないのだ。

وَأَن تُكَذِّبُوا فَقَدْ كَذَّبَ أُمَمٌ مِّن قَبْلِكُمْ وَمَا عَلَى الرَّسُولِ إِلَّا الْبَلَاغُ الْمُبِينُ ﴿١٨﴾

أَوَلَمْ يَرَوْا كَيْفَ يُبْدِئُ اللَّهُ الْخَلْقَ ثُمَّ يُعِيدُهُ إِنَّ ذَٰلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ﴿١٩﴾

قُلْ سِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَانظُرُوا كَيْفَ بَدَأَ الْخَلْقَ ثُمَّ اللَّهُ يُنْشِئُ النَّشْأَةَ الْآخِرَةَ إِنَّ اللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢٠﴾

يُعَذِّبُ مَن يَشَاءُ وَيَرْحَمُ مَن يَشَاءُ وَإِلَيْهِ تُقْلَبُونَ ﴿٢١﴾

وَمَا أَنْتُمْ بِمُعْجِزِينَ فِي الْأَرْضِ وَلَا فِي السَّمَاءِ وَمَا لَكُم مِّن دُونِ اللَّهِ مِن وَلِيٍّ وَلَا نَصِيرٍ ﴿٢٢﴾

1 このアーヤ*からアーヤ*23 までが挿入説ではなく、全てイブラーヒーム*の言葉である、という説もある（イブン・カシール 6:270 参照）。

23. そしてアッラー*の御徴と、かれとの拝謁を否定した者たち、それらの者たちは（来世において）わが慈悲に絶望することになる者たち。それらの者たち、彼らには痛ましい懲罰がある――。

24. そして彼（イブラーヒーム*）の民の返答は、「彼を殺すか、焼いてしまえ」と言うものだけだった。（彼らはイブラーヒーム*を火の中に放り込んだが、）アッラー*は彼を火からお救いになった¹。本当にその中にはまさしく、信仰する民への御徴がある。

25. また、彼（イブラーヒーム*）は言った。「本当にあなた方は、現世における自分たちの間の愛情ゆえ²、アッラー*をよそに彫像を設けて（崇めて）いる。やがて復活の日*には、あなた方はお互いを否定し合い、お互いに呪い合う³のだ。そして、あなた方の住処は業火なのであり、あなた方には（そこから救ってくれる）いかなる援助者もない」。

26. そしてルート*が彼を信じ、彼（イブラーヒーム*）は言った。「本当に私は、我が主*へと移住*する⁴。本当にかれは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方」。

وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِ اللَّهِ وَلِقَائِهِ
أُولَٰئِكَ يَكْسِبُونَ رَحْمَتِي وَأُولَٰئِكَ لَهُمْ
عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٢٣﴾

فَمَا كَانَ جَوَابَ قَوْمِهِ إِلَّا أَنْ قَالُوا
اقْتُلُوهُ أَوْ حَرِّقُوهُ فَأَنجَاهُ اللَّهُ مِنَ النَّارِ
إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٢٤﴾

وَقَالَ إِنَّمَا اتَّخَذْتُم مِّن دُونِ اللَّهِ
مُودَةً يَبْغِيكُمْ فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا ثُمَّ
يَوْمَ الْقِيَامَةِ يَكْفُرُ بَعْضُكُم بِبَعْضٍ
وَيَلْعَنُ بَعْضُكُم بَعْضًا وَمَأْوَاكُمُ
النَّارُ وَمَا لَكُم مِّن نَّاصِرِينَ ﴿٢٥﴾

*فَتَأْمَرَ لَهُ لُوطٌ وَقَالَ إِنِّي مُهَاجِرٌ
إِلَى رِبِِّّي إِنَّهُ هُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٢٦﴾

1 預言者*たち章 69-70 とその訳注、整列者章 97-98 も参照。

2 つまり、「彼らの間の愛情を育（はぐく）むため」あるいは「彼らの間での、彫像への愛情ゆえ」（アル＝バイダーウィー4:313 参照）。

3 復活の日*、アッラー*をよそに崇めていたものとその崇拜*者は、互いに縁を切り、敵となる。雌牛章 166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、創成者*章 13-14、砂丘章 6 も参照。

4 つまり、不信仰の民*の地から、自分の主*を崇拜*する場所への移住（アッ＝シャウカーニー4:262 参照）。この「移住」に関しては、預言者*たち章 71 とその訳注を参照。

27. またわれら*は、彼（イブラーヒーム*）に
イスハーク*とヤアクブ*を授け、彼の子
孫の内に預言者*としての天分^{きいてん}と啓典^{きいてん}を与
えた。また、現世においては彼に褒美^{ほうび}を授
けた。そして本当に彼は来世において、ま
さしく正しい者*たちの一人である。

28. また（われら*は）、ルート*を（遣わした）。
彼がその民に、（こう）言った時^{つか}。²「一体、
本当にあなた方は、全創造物のいかなる者
もあなた方以前には行わなかった醜行^{しゅうこう}³
に、手を染めるといえるのか？

29. 一体、本当にあなた方は、男性へと赴き^{おもむ}⁴、
（旅人の）道^{みち}を阻み⁵、自分たちの集会の
場で悪事^{あくじ}⁶を犯すのか？」そして彼の民の
返答は、「アッラー*の懲罰^{ちやうばつ}を、私たちに
もたらししてみよ。もし、あなたが正直者の
類いなのであれば」と言うものでしかなか
った。

30. 彼（ルート）は言った。「我が主*よ、腐
敗*を働く民に対して、私を勝利させて下
さい」。

وَوَهَبْنَا لَهُ إِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ
وَجَعَلْنَا فِي ذُرِّيَّتِهِ النُّبُوَّةَ
وَالْكِتَابَ وَآتَيْنَاهُ أَجْرَهُ فِي الدُّنْيَا
وَالْآخِرَةِ لِمَنِ الصَّالِحِينَ ﴿٢٧﴾

وَلَوْ طَا إِذْ قَالَ لِقَوْمِهِ إِنَّكُمْ لَأْتَأْتُونَ
الْفَلَحِشَةَ مَا سَبَقَكُمْ بِهَا مِنْ أَحَدٍ مِنَ
الْعَالَمِينَ ﴿٢٨﴾

إِنِّي كُنْتُ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٢٩﴾
إِنِّي كُنْتُ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٢٩﴾
وَتَأْتُونَ فِي نَادِيكُمْ الْمُنْكَرَ فَمَا كَانَ
جَوَابَ قَوْمِهِ إِلَّا أَنْ قَالُوا أَتَيْنَا بِعَذَابِ اللَّهِ
إِنْ كُنْتُمْ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٣٠﴾

قَالَ رَبِّ انصُرْنِي عَلَى الْقَوْمِ الْمُفْسِدِينَ ﴿٣١﴾

1 具体的には、人々からの賞讃や、正しい子供などのこと（ムヤッサル 399 頁参照）。

2 彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 77-83、アル=ヒジュ
ル章 61-77、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、月章 33-40 も参照。

3 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

4 つまり男色のこと（前掲書、同頁参照）。

5 アル=クルトゥビー*によれば、彼らは財産や性行為ゆえに旅人の「道を阻み」、女性を放
ったらかしにすることで、自らの子孫を残す「道を阻んでいた」（13:341 参照）。

6 「悪事」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。ルート*の民が犯していた悪事に関しては、
高壁章 80-81、フード*章 77-79、預言者*たち章 74、詩人たち章 165-166、蟻章 54-55
も参照。

31. こうして、われら*の使い（天使*）たちが吉報^{きっほう}を携^{たずさ}えてイブラーヒーム*のもとにやって来た時、彼ら（天使*たち）は言った。「本当に私たちは、この町^{ほう}の民を滅ぼす者である。本当にその民は、不正*者だったのだから」。

32. 彼（イブラーヒーム*）は、言った。「本当にそこには、ルート*がいます」。彼らは言った。「私たちの方が、そこにいる者たちのことをよく知っている。私たちは必ずや、彼とその家族を救い出すのだ。但し、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人となる、彼の妻だけは別だが」。³

33. こうして、われら*の使いたちがルート*のもとにやって来た時^{めい}、彼（ルート*）は彼らのことで気が滅入り、心苦しくなった。そして、彼らは（ルート*に）言った。「怖れることも、悲しむこともありません。本当に私たちは、あなたとあなたの家族の救い手なのです。但し、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人となる、あなたの妻は別です。

34. 本当に私たちはこの町の民に、彼らが放逸^{ほういつ}であったことゆえの（罰の）制裁^{せいさい}を、天から下す者なのです」。

وَلَمَّا جَاءَتْ رُسُلُنَا إِبْرَاهِيمَ بِالْبُشْرَى
قَالُوا إِنَّا مُهْلِكُوا أَهْلَ هَذِهِ الْقَرْيَةِ إِنَّ
أَهْلَهَا كَانُوا ظَالِمِينَ ﴿٣١﴾

قَالَ إِن فِيهَا لُوطٌ فَأُولَٰئِكَ أَكْثَرُ الْعِلْمِ
فِيهَا النَّجِيَّةُ وَأَهْلُهُ إِلَّا أُمَّرَأَتَهُ
كَانَتْ مِنَ الْغَابِيَةِ ﴿٣٢﴾

وَلَمَّا أَتَيْنَاهَا جَاءَتْ رُسُلُنَا لُوطًا سَاجِدًا
بِهِمْ وَصَافٍ بَيْنَهُمْ ذُرِّيًّا وَقَالُوا لَا تَحْزَنْ
وَلَا تَحْزَنْ إِنَّا مُنْقِضُونَ أَهْلَكَ إِلَّا
أُمَّرَأَتَكَ كَانَتْ مِنَ الْغَابِيَةِ ﴿٣٣﴾

إِنَّا مُنْقِضُونَ عَلَى أَهْلِ هَذِهِ الْقَرْيَةِ رِجْزًا
مِّنَ السَّمَاءِ يَمَّا كَانُوا يَفْسُقُونَ ﴿٣٤﴾

1 「吉報」とは、イスハーク*誕生の知らせ（ムヤッサル 400 頁参照）。ルート*の祈りを受けてアッラー*から遣わされた天使*たちは、まずイブラーヒーム*のもとに立ち寄った（アッ=サアディー630 頁参照）。

2 この「町」については、フード*章 81「町」の訳注を参照。

3 イブラーヒーム*と天使*たちの話の詳細については、フード*章 69-76、アル=ヒジュル章 51-60、撒き散らすもの章 24-34 も参照。

4 この時、彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 69-83、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、月章 33-40 も参照。

35. そしてわれら*はそこから確かに、分別する民^{ふんべつ}に対して明らかな御徴^{みしるし}¹を残しておいた。

36. またマドウヤン*には、その同胞シュアイブ*^{どうほう}を（遣わした）^{つか}²。そして彼は言った。「我が民よ、アッラー*を畏れ*、最後の日*を望む^{おそ}³のだ。そして腐敗^{ふはい}を働^{はたら}きつつ、地上で退廃^{たいはい}を広めてはならない」。

37. すると彼らは、彼^{うそ}を嘘つき呼ばわりした。それで彼らを激震^{げきしん}が捕らえ^と⁴、彼らは朝、その地で突^おつ伏して（死んで）いた。

38. また、アード*とサムード*も（われら*は滅ぼした）。彼らの住まいの一部は、あなた方に確かに明らかになっている。シャイターン*が彼らに、彼らの行いを目映^{まへ}く見せ、彼らを（アッラー*の）道から阻んだのだ。彼らは、（真理を見極める）見識を備えた者たち⁵だったというのに。

39. また、カールーン、フィルアウン*、ハーマーン（も滅ぼした）⁶。彼らのもとには確かにムーサー*が（奇跡という）明証^{たざき}を携えて到来したのに、彼らは地上において（真理に対し）驕^{おご}り高ぶったのだ。そして彼らは、（われら*を）出し抜ける者たちではなかった。

وَلَقَدْ تَرَكْنَا مِنْهَا آيَةً بَيِّنَةً لِّقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿٢٥﴾

وَإِلَىٰ مَدْيَنَ أَخَاهُمْ شُعَيْبًا قَالَ يٰقَوْمِ اعْبُدُوا اللَّهَ وَارْجُوا الْيَوْمَ الْآخِرَ وَلَا تَعْتَوُوا الْأَرْضَ مَفْسِدِينَ ﴿٢٦﴾

فَكَذَّبُوهُ فَأَخَذَهُمُ الرَّجْفَةُ فَأَصْبَحُوا فِي دَارِهِمْ جِثِيمِينَ ﴿٢٧﴾

وَعَادًا وَثَمُودًا وَقَدْ تَبَيَّنَ لَكُم مِّنْ مَّسْكِ هَٰهُنَّ وَرَئِنَ لَهُمُ السَّيْطٰنَ أَعْمٰلَهُمْ فَصَدَّهُمْ عَنِ السَّبِيلِ وَكَانُوا مُسْتَبْصِرِينَ ﴿٢٨﴾

وَقَرُونْ وَفِرْعَوْنَ وَهَمٰنَ وَلَقَدْ جَاءَهُمْ مُّوسَىٰ بِآيٰتِنَا فَاسْتَكْبَرُوا فِي الْأَرْضِ وَمَا كَانُوا سٰبِقِينَ ﴿٢٩﴾

1 この「御徴」は、ルート*の民の町が滅ぼされた痕跡のこと。それは、分別ある人々への教示である（ムヤッサル 400 頁参照）。アル=ヒジュル章 76、整列者章 137-138 も参照。

2 マドウヤン*とシュアイブ*の話については、高壁章 85-93、フード*章 84-95、詩人章 176-191 も参照。

3 この「望む」については、ユースス*章 7 の訳注を参照。

4 高壁章 91 とその訳注も参照。

5 一説には、「（自分たちのやり方を）気に入り、悦に入っている者たち。」（アッ=タバリー 8:6473 参照）

6 「カールーン」については物語章 76-81 を、「ハーマーン」については同章 6 の訳注を参照。

40. われら*は（彼らの内の）いずれの者も、その罪ゆえに（懲罰で）捕らえた。そしてその中には、われら*が石礫を降らせた者もあり、またその中には、（轟く）一声が捕らえた者もあり、またその中には、われら*が地面に飲み込ませた者もあり、またその中には、われら*が溺れさせた者もある¹。そしてアッラー*が、彼らに対して不正*を働かれることなどは、もとよりあり得ないことだったのだ。しかし彼らが自分自身に、不正*を働いていたのである。

41. アッラー*をよそに庇護者を設ける者たちの様子は、巣を作る蜘蛛の様子に似ている。本当に最も脆い住処は、蜘蛛の巣だというのに²。彼らが（そのことを）知っていたならば（、彼らを庇護者などとはしなかっただろう）。

42. 本当にアッラー*は、彼らがかれをよ所に祈っているいかなるものも、ご存知なのだ³。かれは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

43. そしてわれら*は人々にそれらの譬えを挙げるが、それらを理解するのは（アッラー*とその御徴、その教えについて）知識ある者たちだけである。

فَكُلًّا أَخَذْنَا بِذُنُوبِهِمْ فَمِنْهُمْ مَنْ أَرْسَلْنَا عَلَيْهِ حَاصِبًا وَمِنْهُمْ مَنْ أَخَذَتْهُ الصَّيْحَةُ وَمِنْهُمْ مَنْ حَسَفْنَا لَهُ الْأَرْضَ وَمِنْهُمْ مَنْ أَعْرَفْنَا وَمَا كَانَ اللَّهُ لِيُظْلِمَهُمْ وَلَكِنْ كَانُوا أَنْفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿٤٠﴾

مَثَلُ الَّذِينَ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ أَوْلِيَاءَ كَمَثَلِ الْعَنْكَبُوتِ اتَّخَذَتْ بِعَبَثٍ وَإِنْ أَزْهَرَتِ الْبُيُوتُ لَبِثَتْ الْعَنْكَبُوتُ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿٤١﴾

إِنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ مَا يَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ مِنْ شَيْءٍ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٤٢﴾

وَتِلْكَ الْأَمْثَلُ نَضْرِبُهَا لِلنَّاسِ وَمَا يَعْقِلُهَا إِلَّا الْعَالِمُونَ ﴿٤٣﴾

1 「石礫を降らせた者」はルート*の民、「（轟く）一声が捕らえた者」はサーリフ*の民サムード*と、シュアイブ*の民マドゥヤン*、「地面に飲み込ませた者」はカールーン、「溺れさせた者」はフィルアウン*とその民、及びヌーフ*の民のこと（ムヤッサル 401 頁参照）。

2 蜘蛛の巣は、最も弱い生物の一つが作った、最も弱い家の一つであり、それを自分の砦（とりで）とすることは、弱さの上に弱さを上乗せすることに等しい（アッ=サアディー 631 頁参照）。

3 それらは実際のところ、有名無実の存在である（前掲書、同頁参照）。

44. アッラー*は諸天と大地を、真理と共にお創りになった¹。本当にそこ（それらの創造）には、まさしく信仰者たちへの御徴²がある。
45. あなたに啓典の内から啓示されたものを読誦³し、礼拝を遵守⁴せよ。実に礼拝は、醜行と悪事⁵を禁じるのだから。そして、アッラー*の唱念こそは（何）より偉大⁶であり、アッラー*はあなた方の成すことをご存知なのだ。
46. （信仰者たちよ、）最善の形⁷でなくして、啓典の民*と議論してはならない。但し彼らの内でも、不正*を働いた者たちは別である。そして、言うのだ。「私たちは自分たちに下されたもの（クルアーン*）と、あなた方に下されたもの⁸を信じる。また、私たちの神⁹と、あなた方の神は一つであり、私たちはかれ（アッラー*）に服従する者（ムスリム*）なのである」。

خَلَقَ اللَّهُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ
إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً لِّلْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٤﴾

أَتْلُ مَا أُوحِيَ إِلَيْكَ مِنَ الْكِتَابِ وَأَقِمِ
الصَّلَاةَ إِنَّ الصَّلَاةَ تَنْهَى عَنِ
الْفَحْشَاءِ وَالْمُنْكَرِ وَلَذِكْرُ اللَّهِ
أَكْبَرُ ۗ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا تَصْنَعُونَ ﴿٤٥﴾

﴿ وَلَا تَجِدُوا أَهْلَ الْكِتَابِ إِلَّا بِلِي
هِيَ أَحْسَنُ إِلَّا الَّذِينَ ظَلَمُوا مِنْهُمْ وَفُوتُوا
ءَامِنًا بِالَّذِي أُنْزِلَ إِلَيْنا وَأُنْزِلَ إِلَيْكُمْ
وَالْهَنَاءِ ۗ اللَّهُ مُجِدُّ وَغَنُّ ۗ
مُسْلِمُونَ ۝﴾

- 1 イムラーン家章 191 「我らが主*よ・・・ありません」の訳注も参照。
- 2 この「御徴」は、アッラー*の御力の偉大さ、かれのみを崇拜*しなければならないことの根拠（ムヤッサル 401 頁参照）。
- 3 この「読誦」については、雌牛章 121 の訳注を参照。
- 4 「醜行」「悪事」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。
- 5 別の解釈として、「あなた方に対するアッラー*の讚美は、アッラー*に対するあなた方の讚美よりも偉大である」といった複数の説がある（アッ=タバリ-8:6479 参照）。
- 6 「最善の形」とは、よき品性、穏（おだ）やかさ、柔らかな言葉、真理を讚美し、そこへと誘うこと。また、虚妄（きょうもう）を恥ずべきものとし、それに反論すること。そしてそれを伝達するにあたって、最も効果的な手段を用いること（アッ=サアディー-632 頁参照）。蜜蜂章 125 の訳注も参照。
- 7 頑迷（がんめい）に真理にたてつき、ムスリム*たちに戦いを宣告した者たちのこと（ムヤッサル 402 頁参照）。
- 8 啓典の民*に下されたトーラー*、福音*といった啓典のこと（前掲書、同頁参照）。
- 9 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

47. そのように（使徒*よ）、われら*はあなたに啓典（クルアーン*）を下した。そして、われら*が啓典^{けいてん}を授けた者たち（啓典の民*）はそれを信じ、それらの者たち^{ぎず}の^{けいてん}一部にも、それを信じる者がいる。不信仰者*たち以外は、われら*の御徴^{みしるし}²を否定しないのだ。

48. また（使徒*よ）、あなたはそれ（が下る）以前、いかなる書も誦んでいなければ、あなたの右手でそれを書いていかなかったのだ。そうであったなら、（真実を）^{まじょう}虚妄とする者たちは、疑惑に陥^{おちい}ったであろう。³

49. いや、それ（クルアーン*）は知識^{ちしき}を授けられた者たちの胸^{むね}の内にある、（真理）^{かいてい}解明の御徴^{みしるし}なのである。そして不正*者たち以外、われら*の御徴^{みしるし}を否定することはない。

50. 彼ら（シルク*の徒）は、言った。「どうして彼（ムハンマド*）に、その主*から御徴^{みしるし}⁴が下されないのか？」（使徒*よ、）言え。「御徴^{みしるし}は、アッラー*の御許^{みもと}にこそある。そして私は、明白なる警告者^{けいこく}でしかないのだ」。

51. （使徒*よ、あなたの正直さの証明は、）われら*があなたに、彼らに対して読誦^{どくしやう}される啓典（クルアーン*）を下したことで、彼らには十分だったのではないか？ 実

وَكَذَٰلِكَ أَنْزَلْنَا إِلَيْكَ الْكِتَٰبَ
فَالَّذِينَ ءَاتَيْنَاهُمُ الْكِتَٰبَ يُؤْمِنُونَ
بِهِ وَمِنْ هَٰؤُلَاءِ مَنْ يُؤْمِنُ بِهِ وَمَا يَجْحَدُ
بِآيَاتِنَا إِلَّا الْكَٰفِرُونَ ﴿٤٧﴾

وَمَا كُنْتَ تَسْمَعُ مِنْ قَبْلِهِ مِنْ كِتَٰبٍ
وَلَا تَخْطُهُ رِيسْمِنَا إِذَا لَا رَتَابَ
الْمُبْطِلُونَ ﴿٤٨﴾

بَلْ هُوَ آيَاتٌ بَيِّنَاتٌ فِي صُدُورِ الَّذِينَ أُوتُوا
الْعِلْمَ وَمَا يَجْحَدُ بِآيَاتِنَا إِلَّا الظَّالِمُونَ ﴿٤٩﴾

وَقَالُوا لَا أَنْزِلَ عَلَيْهِ آيَاتٌ مِنْ رَبِّهِ قُلْ
إِنَّمَا الْآيَاتُ عِنْدَ اللَّهِ وَإِنَّمَا أَنَا نَذِيرٌ
مُبِينٌ ﴿٥٠﴾

أَوَلَمْ يَكُنْ فِيهِمْ أَنَا أَنْزَلْنَا عَلَيْهِ الْكِتَٰبَ
يَتْلُو عَلَيْهِمْ إِنَّا فِي ذَٰلِكَ لَرَحْمَةٌ
وَذِكْرَىٰ لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٥١﴾

1 この「それらの者たち」とは、クライシュ族*やそれ以外の不信仰者*たち（ムヤッサル 402 頁参照）。

2 この「御徴」とは、クルアーン*とそこに含まれる様々な明証のこと（前掲書、同頁参照）。

3 預言者*ムハンマド*がそれらのことに長（た）けていたとしたら、ある種の無知な者たちは「彼は過去の啓典から学んだに違いない」と言ったであろう、ということ。預言者*は文盲であった（イブン・カスィール 6:286 参照）。識別章 5 も参照。

4 この「御徴」とは、サーリフ*の雌ラクダ、ムーサー*の杖（つえ）のような奇跡のこと（ムヤッサル 402 頁参照）。雌牛章 108、家畜章 109-110、ユースス*章 97、夜の旅章 90-93、ター・ハー章 133、預言者*たち章 5、識別章 7-8、創成者*章 42 も参照。

にその中にはまさしく、信仰する民にとっての慈悲と教訓がある。

52. (使徒*よ、) 言うのだ。「アッラー*だけで、私とあなたの方の間の証人は十分。かれは諸天と大地にあるものをご存知なのだ。そして虚妄を信じ、アッラー*を否定した者たち、それらの者たちこそは損失者なのである」。

53. (使徒*よ、) 彼らはあなたに、懲罰を(下すことを)性急に求める¹。そして定められた期限さえなければ、懲罰は彼らのもとに到来したのである。それは必ずや、彼らが気付かないままに、彼らのもとを突然訪れるのだ。

54. 彼らはあなたに、懲罰を(下すことを)性急に求める。本当地獄は、不信仰者*たちをまさに包囲しているというのに。

55. 懲罰が彼らをその(頭)上から、そしてその足元から覆い込む、(復活の)その日。かれ(アッラー*)は、仰せられるのだ。「あなた方が(現世で)行っていたこと(の報い)を味わえ」。

56. 信仰するわが僕たちよ、本当に我が大地は広いのだ²。ならば(移住*し)、われをこそ崇拜*せよ。

57. 全ての者は死を味わうのだ。それからあなた方は、(清算のため、)われらのもとへと戻される。

قُلْ كَفَىٰ بِاللَّهِ بَيْنِي وَبَيْنَكُمْ
شَهِيدًا يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ
وَالَّذِينَ آمَنُوا بِالْبَاطِلِ وَكَفَرُوا
بِاللَّهِ أُولَٰئِكَ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿٥٢﴾

وَيَسْتَعْجِلُونَكَ بِالْعَذَابِ وَلَوْلَا أَجَلٌ مُّسَمًّى
لَّجَاءَ هُمُ الْعَذَابِ وَلَئِنِ اتَّيَّتْهُمْ بَقَّةٌ وَهَرَلَا
يَسْتَعْرُونَ ﴿٥٣﴾

يَسْتَعْجِلُونَكَ بِالْعَذَابِ وَإِنَّ جَهَنَّمَ
لَمُحِيطَةٌ بِالْكَافِرِينَ ﴿٥٤﴾

يَوْمَ يَغْشَاهُمْ الْعَذَابُ مِنْ فَوْقِهِمْ وَمِنْ
تَحْتِ أَرْجُلِهِمْ وَيَقُولُ دُوُّهُمَا مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٥٥﴾

يَعْبَادِي الَّذِينَ آمَنُوا إِنِّي أَرْضِي وَاسِعَةً
فَإِنِّي فَأَعْبُدُونِ ﴿٥٦﴾

كُلُّ نَفْسٍ ذَائِقَةُ الْمَوْتِ ثُمَّ إِلَيْنَا تُرْجَعُونَ ﴿٥٧﴾

1 関連するアーヤ*として、家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

2 婦人章 97、集団章 10 とその訳注も参照。

58. 信仰し正しい行い*を行う者たち、われら*は必ずや彼らを、その下から河川が流れる楽園の高き住まいに、永遠に住ませよう。
(アッラー*の服従行為)を行っていた者たちの褒美は、何と素晴らしいことか。

59. (彼らは)忍耐*し、その主*にこそ、全てを委ねる者たち。

60. 自らの糧を調達することのない、どれほど多くの地を歩む生き物に対し、アッラー*は糧を授けられることか？¹そしてあなた方にも？ かれはよくお聞きになるお方、全知者であられる。

61. (使徒*よ、)もしも、あなたが彼ら(シルク*の徒)に「諸天と大地をお創りになり、太陽と月を仕えさせられたお方は誰なのか？」と尋ねれば、彼らは決まって(こう)言うのだ。「アッラー*である」。ならば一体、どうしてあなた方は(アッラー*の信仰から)背かされるのか？

62. アッラー*はその僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また(かれがお望みになる)外の者には控ええられる²。本当にアッラー*は、全てのことをご存知のお方なのだ。

63. また(使徒*よ)、もしもあなたが彼ら(シルク*の徒)に、「天から(雨)水をお降らしになり、それによって大地を、その死後に息吹かせられた³のは誰か？」と尋ねれ

وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَنُبَوِّئَنَّهُمْ
مِّنَ الْجَنَّةِ غُرًّا فَكَانَتْ جُزْءًا مِّنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ
خَالِدِينَ فِيهَا نَبْغِزُكُمْ أَجْرَ الْعَامِلِينَ ﴿٥٨﴾

الَّذِينَ صَبَرُوا وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ يَتَوَكَّلُونَ ﴿٥٩﴾

وَكَايْنِ مِّنْ دَآئِبِهِ لَا تَحْمِلُ رَزْقَهَا اللَّهُ
يَرْزُقُهَا وَإِيَّاكُمْ وَهُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿٦٠﴾

وَلَكِنْ سَأَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
وَسَحَّرَ الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ لَيَقُولُنَّ اللَّهُ فَأَنَّى
يُؤْفَكُونَ ﴿٦١﴾

اللَّهُ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَن يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ
وَيَقْدِرُ لَهُ إِنَّ اللَّهَ يَكُلُّ شَيْءًا عَلَيْهِ ﴿٦٢﴾

وَلَكِنْ سَأَلْتَهُمْ مَنْ نَزَّلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً
فَلَحَبًا بِهِ الْأَرْضُ مِنْ بَعْدِ مَوْتِهَا لَيَقُولُنَّ
اللَّهُ قُلِ الْحَمْدُ لِلَّهِ بَلْ أَكْثَرُهُمْ

1 多くの生物は、明日のための糧を備蓄(びちく)しない。しかしアッラー*がそれらに、糧をお授けになるのである(ムヤッサル 403 頁参照)。

2 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 と、それらの訳注も参照。

3 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

لَا يَعْقِلُونَ ﴿٦٢﴾

ば、彼らは決まって(こう)言うのだ。「アッラー*である」。言ってやれ。「アッラー*^{しょうさん}に称賛*^{わきま}あれ」。いや、彼らの大半は弁えない。

64. この現世の生活は戯れごとと遊興^{たわむ ゆうきよう}に過ぎない^す。そして本当に来世の住まい、それこそが(真の)生なのである。もし彼らが(そのことを)知っていたならば。

65. 彼ら(不信仰者*)が船に乗っ(て転覆を怖れ)た時には、アッラー*だけに真摯^{てんぷく おそ}に崇拜*^{しんし すうはい}を捧げつつ^{ささ}2、かれに祈るのだ。そして、かれが自分たちのことを陸地に救って下さった時には、どうであろう、シルク*を犯すのである。

66. こうして彼らは、われら*が彼に与えたもの^{おん}3に対して恩知らずとなり、(再び現世で)楽しむのだ。彼らはやがて、(自分たちの行いの悪い結果を)知ることになる。

67. 一体、彼ら(不信仰者*)は、われら*が安全なる聖域^{せいいき}4を設けたのを、見ないのか？ その周りから、人々は攫^{さら}われている^{もう}5というのに。一体、彼らは虚妄^{きまもう}をこそ信じ、アッラー*の恩恵^{おんけい}については恩知らずであるというのか？^{おん}6

وَمَا هَذِهِ الْحَيَاةُ الدُّنْيَا إِلَّا لَهْوٌ وَلَعِبٌ وَإِنَّ الدَّارَ الْآخِرَةَ لَهِىَ الْحَيَوَانُ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿٦٥﴾

فَإِذَا رَكِبُوا فِي الْفُلِ دَعَا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ فَلَمَّا نَجَّاهُمْ إِلَى الْبَرِ إِذَا هُمْ يُسْرِكُونَ ﴿٦٦﴾

لِيَكْفُرُوا بِمَا آتَيْنَاهُمْ وَلِيَسْتَمْتَعُوا فُسُوفَ يَعْلَمُونَ ﴿٦٧﴾

أَوْ لَعِبْرُوا أَنَّا جَعَلْنَا حَرَمًا مِمَّا وَبِئْسَ خُطْفُ النَّاسِ مِنْ حَوْلِهِمْ أَفَبَالِغِ يُؤْمِنُونَ وَبِعِصْمَةِ اللَّهِ يُكْفَرُونَ ﴿٦٨﴾

1 家畜章 32 の訳注も参照。

2 アッラー*だけに「真摯に崇拜*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

3 彼らや彼らの財産に対する、アッラー*の恩恵のこと (ムヤッサル 404 頁参照)。

4 「安全なる聖域」については雌牛章 125 の訳注、蟻章 91 「聖なる地」の訳注も参照。

5 当時、マッカ*の聖域外のアラブ部族は、互いに襲撃・略奪し合っており、殺人や捕虜などの被害を出していた (アル=アル=スィー21:14 参照)。

6 「虚妄を信じ…」については、蜜蜂章 72 の訳注を参照。

68. アッラー*に対して嘘^{うそ}をでっち上げた者よりも、ひどい不正*を働く者があるか？
あるいは真理を、それが自分のもとに^{こちら}到来した後、嘘呼^{うそ}ばわりした者よりも？ 地獄^{すみか}にこそ、不信仰者*たちの住处があるのではないか？

69. われら*において努力奮闘^{ふんとう}する者^{かなら}たち、われら*は必ずや彼らを、われら*の道^{みちび}²へと導こう。そして本当にアッラー*は、善^つを尽くす者たちとまさしく共にあるのだ³。

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أَوْ كَذَّبَ
بِالْحَقِّ لَمَّا جَاءَهُ ۚ أَلَيْسَ فِي جَهَنَّمَ مَثْوًى
لِّلْكَافِرِينَ ﴿٦٨﴾

وَالَّذِينَ جَاهَدُوا فِينَا لَنَهْدِيَنَّهُمْ سُبُلَنَا
وَإِنَّ اللَّهَ لَمَعَ الْمُحْسِنِينَ ﴿٦٩﴾

1 これは、アッラー*の敵、自分自身、シャイターン*と戦い、試練とアッラー*の道における困難において忍耐*する者のこと（ムヤッサル 404 頁参照）。

2 アッラー*の御許へと続く道のこと。あるいは、あらゆる善の道における導きを上乘せされ、そこを歩み続けるという成功を授けられること（アル＝バイダーウィー4:324 参照）。

3 アッラー*はその援助と、支持、ご加護、導きと共に、善を尽くす者たちと共にあられる（ムヤッサル 404 頁参照）。「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

第30章
ビザンチン章（アッ＝ルーム）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. アリフ・ラーム・ミーム²。
2. ビザンチン（軍）は、敗北した。
3. 最も近接した地³で。そして彼らはその敗北の後、やがて勝利するであろう。
4. 数年⁴の内に。アッラー*にこそ、（ビザンチン軍の勝利）以前と以後の、（全ての）物事は属する。そしてその日、信仰者たちは歓喜するのだ、⁵
5. （ビザンチンに授けられた）アッラー*の勝利に。アッラー*は、かれが盼望になる者をお助けになる。かれは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْم ①

عُلِّيَتْ الرُّومُ ②

فِي أَذْنِ الْأَرْضِ وَهُمْ مِنْ بَعْدِ عَلَيْهِمْ
سَيَقْلَبُونَ ③

فِي يَضَعُ سِنِينَ لِلَّهِ الْأَمْرُ مِنْ قَبْلُ وَمِنْ
بَعْدُ وَيَوْمَئِذٍ يَفْرَحُ الْمُؤْمِنُونَ ④

يَتَصَبَّرُ اللَّهُ يُنْصَرُّ مَنْ يُشَاءُ وَهُوَ
الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ⑤

- 1 マッカ*啓示で学者の見解は一致。スーラ*の名称は、冒頭に登場する、ビザンチン軍のササン朝ペルシャ軍に対する勝利（西暦 622 年）についての予言に由来。マッカ*啓示の常として、アッラーの唯一性*・ムハンマド*の使徒*性・復活と報（むく）いという、イスラーム*の基本的な信仰箇条（かじょう）を確認すると共に、シルク*を始めとした誤（あやま）った信仰を糾弾（きゅうだん）する。また、アッラー*の御力と偉大さを示す自然界の様々な現象が、スーラ*の所々で描写される。スーラ*の最後は、クライシュ族*の不信仰者*への語りかけと、預言者*への忍耐*の勸（すす）めによって締めくくられる。
- 2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。
- 3 ビザンチンにとってペルシャ側から最も近接した地である、シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）のこととされる（ムヤッサル 404 頁参照）。
- 4 「数年」の「数（ビドゥア）」は、アラビア語で三から九までの数を表す。そしてビザンチン軍が勝利したのは、このアーヤ*が下った九年後のことであった（イブン・カスィール 6:303 参照）。
- 5 当時、シルク*の徒は同じ偶像崇拝者である、ペルシャ人がビザンチン人に勝利することを望んでいた。一方ムスリム*たちは、同じ啓典の民*であるビザンチン人がペルシャ人に勝利することを望んでいた（アッ＝ティルミズィー 3193 参照）。

6. アッラー*のお約束を（、信仰者たちに約束された）。アッラー*はそのお約束を、破られない。しかし、（マッカ*の不信仰な）人々の大半は知らないのだ。
7. 彼らは、現世の生活の上^{うわべ}辺のことは知っている。実に来世^{あと}に関しては、まさしく無頓着^{むとんちゃく}な者たちなのだ。
8. 一体、彼らは自分自身^{じぶんごう}について熟考^{じゅくこう}しなかったのか？¹ アッラー*が諸天と大地、その間にあるものをお創りになったのは、真理と定められた時期（である復活の日*）²ゆえに外^{ほか}ならない。本^{ほん}当^{とう}に人々の多くはまさしく、自分たちの主*との拜謁^{はいえつ}に対する否定者なのである。
9. 一体、彼らは地上を旅し、彼ら以前の（不信仰）者*たちの結末がいかなるものであったかを見なかったのか？ その者たちは彼らよりも力が強く、大地^{たがや}を耕し、彼らがそれ（大地）を開拓^{かいたく}したのよりも沢山、開拓したのだ。そして彼らの使徒*たちは、明証^{めいし}を携^{たず}えて彼らのもとに到来^{とらい}した。アッラー*が彼らに不正*を働くなどということは、あり得べくもなかったのだ。しかし彼らが、自分自身に不正*を働いていたのである。
10. そしてアッラー*の御^み徴^{しるし}を嘘とし、それを嘲笑^{ちやうしやう}することによって悪を働いていた者たちの結末は、最悪なものである。
11. アッラー*は創造^{そうぞう}を始め給^{たま}ひ、それからそれをお戻^{もど}しになり、やがてあなた方は、かれの御許^{みもと}にこそ戻^{もど}らされる。

وَعَدَ اللَّهُ لَا يَخْلِفَ اللَّهُ وَعْدَهُ وَلَكِنْ أَكْثَرُ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١﴾

يَعْلَمُونَ ظَاهِرًا مِّنَ الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَهُمْ عَنِ الْآخِرَةِ هُمْ غَفِلُونَ ﴿٢﴾

أَوَلَمْ يَتَفَكَّرُوا فِي أَنفُسِهِمْ مَّا خَلَقَ اللَّهُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا إِلَّا بِالْحَقِّ وَأَجَلٍ مُّسَمًّى ۚ وَآتَىٰ كَثِيرًا مِّنَ النَّاسِ بِلِقَايَ رَبِّهِمْ لِكُفْرِهِمْ ﴿٣﴾

أَوَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ كَانُوا أَشَدَّ مِنْهُمْ قُوَّةً وَأَثَارُوا الْأَرْضَ وَعَمَرُوهَا أَكْثَرَ مِمَّا عَمَرُوهَا وَجَاءَتْهُمْ رُسُلُهُم بِالْبَيِّنَاتِ فَمَا كَانُوا لِيُظْلَمَهُمْ وَلَكِن كَانُوا أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿٤﴾

ثُمَّ كَانَتْ عَاقِبَةُ الَّذِينَ اسْتَفْهَمُوا السُّورَةَ ۚ أَن كَذَّبُوا بِآيَاتِ اللَّهِ وَكَانُوا بِهَا يَسْتَهْزِءُونَ ﴿٥﴾

اللَّهُ يَبْدَأُ الْخَلْقَ ثُمَّ يُعِيدُهُ ثُمَّ إِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٦﴾

1 詳細にされた章 53、撒（ま）き散らすもの章 21 も参照。

2 この「真理」については、イムラーン章 191 「我らが主*よ、あなたは…」の訳注を参照。

12. そして(復活^{とうらい}*)のその時が到来する日、罪惡者たちは(自分たちの救い難い^{ぐうがい}状況に、)落胆^{らくたん}する。
13. また彼らには、彼ら(がアッラー*)の同位者(として崇めていたもの)たちからの、いかなる執り成し手もない^{しうせい}1。そして彼らは、彼ら(がアッラー*)の同位者(として崇めていたもの)らへの否定者となる。2
14. (復活の)その時が到来する日、彼ら(信仰者と不信仰者*)はその日、離れ離れになる。
15. 信仰し、正しいい^{でい}い^{えん}を行^なった者たちといえ、彼らは(天国の)庭園で、喜悅^{きえつ}を授けられる。
16. そして不信仰に陥^{おちい}り*、われら*の御徴^{みしるし}と来世における拝謁^{はいえつ}を嘘^{うそ}としていた者たちはといえ、それらの者たちは懲罰^{ちやうばつ}に立ち合わされる者となる。
17. あなた方が夜を迎える時と朝を迎える時、アッラー*に称え*あれ(、と称えよ)。
18. ——かれにこそ、諸天と大地における称赞*がある——。また、夜に、そしてあなた方が昼^{ひる}を迎える時に(称えよ)。
19. かれは死から生を取り出され、生から死を取り出される^{しやうさん}3。また、かれは大地をその死後に、息吹かせられる^{しやうさん}4。そして同様に(人々

وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُبْلِسُ الْمُجْرِمُونَ ﴿٣٧﴾

وَلَا يَكُنْ لَهُمْ مِنْ شُرَكَائِهِمْ شُفَعَاءُ
وَكُنُوا بِشُرَكَائِهِمْ كَافِرِينَ ﴿٣٨﴾

وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُنْفَخُونَ أَصْفَادُهُمْ ﴿٣٩﴾

فَأَمَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
فَهُمْ فِي رَوْضَةٍ يُحْبَرُونَ ﴿٤٠﴾

وَأَمَّا الَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا
وَلِقَاءِ الْآخِرَةِ فَأُولَٰئِكَ فِي الْعَذَابِ
مُخْضَرُونَ ﴿٤١﴾

فَسُبْحَانَ اللَّهِ حِينَ تُمْسُونَ وَحِينَ تُصْبِحُونَ ﴿٤٢﴾

وَلَهُ الْحَمْدُ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ
وَعَشِيًّا وَحِينَ تُظْهِرُونَ ﴿٤٣﴾

يُخْرِجُ الْحَيَّ مِنَ الْمَيِّتِ وَيُخْرِجُ الْمَيِّتَ مِنَ الْحَيِّ
وَيُخْرِجُ النَّارَ مِنَ الْعِصْيَانِ وَأُولَٰئِكَ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿٤٤﴾

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 シルク*の徒と、彼らが神々として崇めていたものはその日、お互いに縁を切り合う(ムヤッサル 405 頁参照)。関連するアーヤ*として、雌牛章 166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、蜘蛛章 25、創成者*章 13-14、砂丘章 6 も参照。

3 イムラーン章 27 の訳注を参照。

4 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

よ、) あなた方は、(清算のため、墓場から呼び) 出されるのである。

20. かれ(アッラー)が、あなた方(の父祖アーダム*)を土からお創りになり¹、それから何と、あなた方が(アッラーの恩寵を求めて、大地に)散開する人間となったことは、かれの(偉大さと御力を示す)御徴の一つである。

21. また、かれがあなた方自身からあなた方のために、あなた方が安らぐために妻をお創りになり²、あなた方の間に愛情と慈悲の念をお授けになったことは、かれの(偉大さと御力を示す)御徴の一つである。本当にそこにはまさしく、熟考する民への御徴があるのだ。

22. また諸天と大地の創造と、あなた方の言葉と(肌の)色の違いは、かれの(偉大さと御力を示す)御徴の一つである。実にそこにはまさしく、知識ある者たちへの御徴がある。

23. また、夜と昼におけるあなた方の睡眠と、かれの恩寵に対するあなた方の追求³は、かれの(偉大さと御力を示す)御徴の一つである。本当にそこにはまさしく、耳を傾ける者たちへの御徴がある。

وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ خَلَقَكُمْ مِنْ تُرَابٍ ثُمَّ إِذَا أَنْتُمْ بَشَرٌ تَنْتَشِرُونَ ﴿٢٠﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ خَلَقَ لَكُمْ مِنْ أَنْفُسِكُمْ أَزْوَاجًا لِتَسْكُنُوا إِلَيْهَا وَجَعَلَ بَيْنَكُمْ مَوَدَّةً وَرَحْمَةً إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يَعْتَكِرُونَ ﴿٢١﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ خَلْقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَأَخْلَفَ الْمَسِيحُ وَالْوَيْحُ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِلْعَالِمِينَ ﴿٢٢﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ مَا مَكَّمُ بِاللَّيْلِ وَالنَّهَارِ وَأَتَّبَعَكُمْ مِنْ فَضْلِهِ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يُسْمَعُونَ ﴿٢٣﴾

1 アーダムが土から段階を経(へ)て創られたことについては、アル=ヒジュル章 26 の訳注を参照。

2 アーダム*の肋骨(ろっこつ)から創られた、ハウワウ*のことを示唆(しさ)している(イブン・カスィール 6:309 参照)。

3 つまり、人々が糧を求めて活動するため、昼をお創りになった(ムヤッサル 406 頁参照)。「夜と昼」のいずれも、「あなた方の睡眠」と「あなた方の追及」にかかるという説、「夜」は「あなた方の睡眠」だけにかかり、「昼」は「あなた方の追及」にかかる、という説もある(アッ=ラーズィー9:93 参照)。

24. また、かれがあなた方に、（あなたが）
恐怖と待望^{たいぼう}を抱く稲光^{いなびかり}をお見せになり、
天から（雨）水^{みづ}を降らせて、それによって
大地をその死後に息吹^{いきふ}かせる²のは、かれの
（偉大さと御力^{みちから}を示す）御徴^{みしるし}の一つであ
る。本当にそこにはまさしく、弁^みえる民^{しるし}へ
の御徴^{みしるし}があるのだ。

25. また、天と大地がかれのご命令によって成
り立っている³のは、かれの（偉大さと御力^{みちから}
を示す）御徴^{みしるし}の一つである。それから（復
活の日*、）かれがあなた方を大地から（出
てくるように）一声呼びかけられれば、ど
うであろう、あなた方は（墓場^{はかば}から）出さ
れるのである。

26. そして、かれにこそ諸天と大地にいる（全
ての）者^{もの}は属^{ぞく}する。全ては、かれに謹^{つつし}んで
仕^{つか}える者たちなのだ。

27. また、かれは創造^{そうぞう}をお始めになり、やがて
それを戻し給^{もど}うお方^{たち}——それはかれにと
って（最初の創造^{そうぞう}）より容易^{たやす}いこと——。
また、かれにこそ諸天と大地における最高
の属性^{ぞくせい}がある⁴。かれは偉力^{いりよく}ならびない*お
方、英知^{えいち}あふれる*お方。

28. （シルク*の徒^たよ、）かれはあなた方に、あ
なた方自身の内^{うち}から、一つの譬^{たと}えを挙げら
れた。あなた方に、われら*があなた方に授^{さづ}
けた物^{もの}において、自分たちの右手^{みぎ}が所有^{しゆりやう}す

وَمِنْ آيَاتِهِ يُرِيكُمْ الْبَرْقَ حَوَافًا وَطَمَعًا
وَيُنْزِلُ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَيُخْرِجُ بِهِ الْأَرْضَ
بَعْدَ مَوْتِهَا إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ
يَعْقِلُونَ ﴿١٤﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ تَقُومَ السَّمَاءُ وَالْأَرْضُ
بِأَمْرِهِ تَوًّا إِذَا دَعَا كُرْدَعُونَ مِنَ الْأَرْضِ إِذَا
أَشْرَعْتُمْ فَخُجُونَ ﴿١٥﴾

وَلَهُ فِي السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ كُلُّ لَهٍ
فَلْيَتَوَكَّرِ ﴿١٦﴾

وَهُوَ الَّذِي يَبْدَأُ الْخَلْقَ ثُمَّ يُعِيدُهُ وَهُوَ أَهْوَنُ
عَلَيْهِ وَلَهُ الْمَثَلُ الْأَعْلَىٰ فِي السَّمَوَاتِ
وَالْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿١٧﴾

صَرَبَ لَكُمْ مَثَلًا مِّنْ أَنفُسِكُمْ هَلْ
لَّكُمْ مِّنْ مَّا مَلَكَتْ أَيْمَانُكُمْ مِّنْ
شُرَكَاءَ فِي مَارَقَقْتُمْ فَلَتَشْفُوهُ

1 この「恐怖と待望」については、雷鳴章 12 の訳注を参照。また、雌牛章 19 の訳注も参照。

2 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

3 天地の安定や、天が崩れ落ちることのないことを示すとされる（ムヤッサル 407 頁参照）。

4 「最高の属性」については、相談章 11 とその訳注を参照。

るもの(奴隷*)である共同者がいたら？
そしてあなた方(とその共同者)がそこにおいて同等であり、あなた方があたかも(自由民である)あなた方自身を怖れるように、彼らを怖れるとしたら(、そのようなことはあなた方の気に入らないであろう)？¹ 同様にわれら*は弁える民に対し、御徴を明らかにするのである。

29. いや、不正*を働いた者たちは知識もなく、自らの欲望に従ったのだ。そしてアッラー*が迷わせ給うた者²を、誰が導くというのか？ 彼らには、(アッラー*の懲罰から救ってくれる)いかなる援助者もないというのに。

30. ならば(使徒*よ)、あなたの顔を純正³な宗教(イスラーム*)へと正すのだ。アッラー*がそのように人々をお創りになった、アッラー*の天性⁴に(従え)。アッラーの創造(と宗教)に変更はないのだぞ。それがまっすぐな宗教。しかし人々の大半は、分からないのだ。

31. かれ(アッラー*)に、よく(悔悟して)立ち返りつつ(従え)。またかれを畏れ*、礼拝を遵守*し、シルク*の徒の仲間となるのではない。

سَوَاءٌ يَخَافُونَهُمْ كَخِيفَتَكُمْ أَنْفُسَكُمْ
كَذَلِكَ نَقُصِّلُ الْآيَاتِ لِقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿٣٠﴾

بَلِ اتَّبَعَ الَّذِينَ ظَلَمُوا أَهْوَاءَ هُمْ يَغْيِرُونَ
فَمَنْ يَهْدِي مَنْ أَضَلَّ اللَّهُ وَمَا لَهُمْ مِنْ
نَاصِرِينَ ﴿٣١﴾

فَأَوْرَثْنَاكَ لِلدِّينِ حَنِيفًا فِطْرَتَ اللَّهِ
الَّتِي فَطَرَ النَّاسَ عَلَيْهَا لَا تَبْدِيلَ لِخَلْقِ اللَّهِ
ذَٰلِكَ الدِّينُ الْقَيِّمُ وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ
لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٢﴾

* مُنِيبِينَ إِلَيْهِ وَاتَّقُوهُ وَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ
وَلَا تَكُونُوا مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿٣٣﴾

1 同様のアーヤ*として、蜜蜂章 71 とその訳注も参照。

2 アッラー*が彼らを迷わせ給うたのは、彼らが不信仰と頑迷さに固執したがゆえに、ほかならない(ムヤッサル 407 頁参照)。

3 雌牛章 135 「純正な」についての訳注を参照。また「顔」についても、同章 112 の訳注を参照。

4 アッラー*は人間を、かれのみを崇拜*対象として信じるという天性のもとに、お創りになった。高壁章 172 とその訳注も参照(イブン・カスィール 6:313 参照)。

32. 自分たちの宗教を分裂させ、いくつもの分派となった者たちの内の（仲間とはなるな）。各派は、自分たちのもの（宗教）に有頂天^{う ちやうてん}でいる¹。

33. 害悪^{がいあく}が人々に降りかかれば、彼らはよく（悔悟^{かいご}して）立ち返る者となり、（救いを求めて）自分たちの主^{しゅ}*に祈る。それから、かれがその御許からのご慈悲を彼らに味わわせられれば、どうであろう、彼らの内の一派は自分たちの主^{しゅ}*に対してシルク*を犯すのである。

34. こうして彼らは、われら*が彼に与えたもの²に対して恩知らずとなるのだ。（シルク*の徒よ、現世の富^{とふ}を）楽しんでいよ。あなた方はやがて、（自分たちの行いの悪い結果を）知ることになるのだから。

35. いや、一体われら*が、彼らに根拠^{こんきよ}³を下したとでも？ そしてそれが、彼らがかれ（アッラー*）に対してシルク*を犯していたこと（の正当性）について、語るとでも？

36. われら*が人々に慈悲^{じひ}⁴を味わわせれば、彼らは（感謝することなく）それに有頂天^{う ちやうてん}になる。そして、もし彼らに、自分たちが行っていたことゆえに悪^{あく}⁵が降りかかれば、どうであろう、彼らは絶望の底に陥るのだ。

مِنَ الَّذِينَ قَرَعُوا دِيْنَهُمْ وَكَانُوا شُرَكَاءَ
كُلِّ جُزْءٍ يَمْلِكُ لَهُمْ فِرْحُونَ ﴿٣٢﴾

وَإِذَا مَسَّ النَّاسَ ضُرٌّ دَعَاؤُهُمْ مُنِيبِينَ إِلَيْهِ
سُئِلُوا أَذْأَقَهُمْ مَتَهُ رَحْمَةً إِذَا فَرِيقٌ مِنْهُمْ
بِرَبِّهِمْ يُشْرِكُونَ ﴿٣٣﴾

لِيَكْفُرُوا بِمَا آتَيْنَاهُمْ فَتَمَتَّعُوا فَسَوْفَ
تَعْلَمُونَ ﴿٣٤﴾

أَمْ أَنْزَلْنَاهُ عَلَيْهِمْ سُطْرًا فَهُوَ يَكْفُمُ بِمَا
كَانُوا بِرَبِّهِمْ يُشْرِكُونَ ﴿٣٥﴾

وَإِذَا أَذَقْنَا النَّاسَ رَحْمَةً فَرِحُوا بِهَا وَإِنْ تُصِيبَهُمْ
سَيِّئَةٌ لَّمَّا فَدِمَتْ أَيْدِيهِمْ إِذَا هُمْ يَقْنَطُونَ ﴿٣٦﴾

1 信仰者たち章 53 の訳注を参照。

2 彼らの害悪や困難を取り除いて下さった、アッラー*の恩恵のこと（ムヤッサル 408 頁参照）。

3 この「根拠」とは、啓典のこととされる（アッ=タバリ-8:6528 参照）。

4 この「慈悲」は、健康・無事・安楽といったアッラー*の恩恵（ムヤッサル 408 頁参照）。

5 この「悪」は、病氣・貧困・恐怖・苦難などのこと（前掲書、同頁参照）。

37. 彼らはアッラー*が、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる¹のを知らないのか？ 本当にそこにはまさしく、信仰する民への御徴があるのだ。

38. ならば（信仰者よ）、近親の者、貧者*、旅路（で苦境）にある者に、その権利²を与えよ。それがアッラー*の御顔を望む者たちにとってより善いのであり、それらの者たちこそが成功者なのだから。

39. あなた方が人々の財産から儲けるべく、利息として与えたもの（借金）ならば、それはアッラー*の御許では儲からない。そしてあなたがアッラー*の御顔を望みつつ、浄財*の内から与えるのであれば、それらの者たちこそは（褒美を）倍増する者たちである。

40. アッラー*は、あなた方をお創りになり、それから（現世で）あなた方に糧をお授けになり、やがてあなた方に死を与えられ、それから（復活の日*、）あなた方に生を与えられるお方。一体、あなた方（がアッラー*）の共同者（として崇めているもの）たちの内、それらのいずれかでも行う者はいるのか？ かれに称え*あれ、かれは彼らがシルク*を犯しているものから（無縁で）、遥か高遠なお方であられる。

أَوَلَمْ يَرَوْا أَنَّ اللَّهَ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ
وَيَقْدِرُ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٣٧﴾

فَتَاتِ ذَا الْقُرْبَىٰ حَقَّهُ وَالْمِسْكِينَ وَابْنَ
السَّبِيلِ ذَلِكَ خَيْرٌ لِلَّذِينَ يُرِيدُونَ وَجْهَ
اللَّهِ وَأُولَٰئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿٣٨﴾

وَمَاءِ اتِّبْتُمْ مِنْ ذِي الْقُرْبَىٰ فِي أَمْوَالِ النَّاسِ
فَلَا يَزِيدُكُمْ عِنْدَ اللَّهِ وَمَاءِ اتِّبْتُمْ مِنْ زَكَوٰتِ
تُرِيدُونَ وَجْهَ اللَّهِ فَأُولَٰئِكَ هُمُ
الْمُضْعِفُونَ ﴿٣٩﴾

اللَّهُ الَّذِي خَلَقَكُمْ ثُمَّ رَزَقَكُمْ ثُمَّ يُعِيدُكُمْ ثُمَّ
يُخَيِّطُكُمْ هَلْ مِنْ شُرَكَائِكُمْ مَنْ يَفْعَلُ
مِنْ ذَٰلِكُمْ مِثْلَ شَيْءٍ سُبْحٰنَهُ وَتَعَالَىٰ عَمَّا
يُشْرِكُونَ ﴿٤٠﴾

1 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 とそれらの訳注も参照。

2 「近親の者」の権利とは、よい近親関係の維持、施（ほどこ）しなど、その他の善行のこと。「貧者*」および「旅路で苦境にある者」の権利とは、浄財*やそれ以外の施しのこと（ムヤッサル 408 頁参照）。

41. 人々の手が稼いだもの（罪）ゆえに、陸と海に腐敗^{ふはい}¹が出現したのである。それはかれ（アッラー*）が、彼らの行ったある種のこと（ゆえの懲罰^{ちやうばつ}）を、彼らに味わわせ給うためなのだ。彼らが、（悔悟して）立ち返るように。
42. （使徒*よ、）言え。「地上を旅して、過去の（不信仰）者*たちの結末がどのようなものであったか、見てみるがよい」。彼らの大半は、シルク*の徒だったのだ。
43. ならば（使徒*よ）、アッラー*から押し戻す術のない（復活*の）その日が到来する前に、あなたの顔をまっすぐな宗教（イスラーム*）へと正せ²。彼らはその日、散り散りになる。
44. 不信仰である者*には、自分自身に自らの不信仰（ゆえの罰）がある。そして（信仰して）正しい行い*を行う者は、自分たちのために（天国の住まいの）支度^{しだく}をしているのである。
45. （それは）信仰し、正しい行い*を行う者たちに、かれ（アッラー*）がそのご恩寵からお報いになるため。本当にかれは、不信仰者*たちをお好みにはならないのだから。
46. かれが吉報^{きっほう}を告げる風を送られることは、かれの（偉大さと御力^{おちから}を示す）御徴^{みしるし}の一つである。かれがそのご慈悲からあなた方に味わわせ給い、（かれのご命令とご意思によって）船が進み、あなた方がかれのご

ظَهَرَ الْفَسَادُ فِي الْبَرِّ وَالْبَحْرِ بِمَا كَسَبَتْ
أَيْدِي النَّاسِ لِيُذِيقَهُمْ بَعْضَ الَّذِي عَمِلُوا
لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٤١﴾

قُلْ سِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَانظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ
الَّذِينَ مِنْ قَبْلُ كَانَ أَكْثَرُهُمْ مُشْرِكِينَ ﴿٤٢﴾

فَأَنذِرْ وَجْهَكَ لِلَّذِينَ الْقَيْنِ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَ
يَوْمٌ لَا مَرَدٍّ لَهُ مِنَ اللَّهِ يَوْمَئِذٍ يُصَدَّقُونَ ﴿٤٣﴾

مَنْ كَفَرَ فَعَلَيْهِ كُفْرُهُ، وَمَنْ عَمِلَ صَالِحًا
فَلَا نَفْسَ لَهُ يَتَنَاهَوْنَ ﴿٤٤﴾

لِيَجْزِيَ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ مِنْ
فَضْلِهِ إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الْكَافِرِينَ ﴿٤٥﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ يُرْسِلَ الرِّيحَ مُبَشِّرَاتٍ
وَلِيُذِيقَكُمْ مِنْ رَحْمَتِهِ وَلِتَعْلَمُوا أَنَّكُمْ بِأَمْرِهِ
وَلِتَتَّقُوا مِنْ فَضْلِهِ وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ﴿٤٦﴾

1 この「陸と海」は、文字通りの意味であるという説と、前者が「砂漠」、後者が「町」「川沿いの町」とする説がある（イブン・カシール 6:319-320 参照）。また「腐敗*」とは、旱魃（かんばつ）、雨不足、病気の蔓延（まんえん）などのこと（ムヤッサル 408 頁参照）。

2 アーヤ*30 も参照。

恩寵おんちようを求めるようにするため（かれはそうされたのだ）。あなた方が感謝するように、と。

47. （使徒しと*よ、）われら*は確かにあなた以前、使徒*たちをその民つかへと遣わした。そして彼ら（使徒*たち）は、彼らのもとに明証¹を携えて到来し（たが、民の大半は信じなかったのだ）、われら*は罪惡ざいあくを働いた者たちに報復ほうふくした。信仰者たちの援助は、もとよりわれら*にとって必須だったのだ。

48. アッラー*は風を送られるお方。そしてそれ（風）は雲を追いやり、かれ（アッラー*）はお望みのままに、それ（雲）を天に散りばめ、断片たんぺんにされる。そしてあなたは、その間から雨が出てくるのを見るのだ。また、かれがそれ（雨）を、かれの僕たちの内、彼がお望みになる者にお降らしになると、どうであろう、彼らは心躍こどらせる。

49. かれが彼らの上に（雨を）お降らしになる前、それ以前には、本当に彼らはまさしく（早魃かんばつに）落胆らくたんする者であったというのに。

50. ならば、かれがどのようにして大地をその死後に生き返らされるか、アッラー*のご慈悲の跡²を（しかと）見てみよ。本当にそれこそは、死んだものに生を与えられるお方。かれは全てのことがお出来のお方なのだ。

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ رُسُلًا إِلَى قَوْمِهِمْ
جَاءَهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ فَأَنْتَقَمْنَا مِنَ الَّذِينَ أَجْرُوهُمْ
وَكَانَ حَقًّا عَلَيْنَا نَصْرُ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٧﴾

اللَّهُ الَّذِي يُرْسِلُ الرِّيْحَ فَتَنُيْرِ سَحَابًا فَيَبْسُطُهُ
فِي السَّمَاءِ كَيْفَ يَشَاءُ وَيَجْعَلُهُ سَفَا فَنَرَى
الْوَدْقَ يَخْرُجُ مِنْ خِلَالِهِ فَإِذَا أَصَابَ بِهِ مَنْ
يَشَاءُ مِنْ عِبَادِنَا إِذَا هُمْ يَسْتَبْشِرُونَ ﴿٤٨﴾

وَإِنْ كَانُوا مِنْ قَبْلِي أَنْ يَنْزِلَ عَلَيْهِمْ مِنْ قَبْلِهِ
لَمُبْتَلِينَ ﴿٤٩﴾

فَأَنْظُرْ إِلَى آثَارِ رَحْمَتِ اللَّهِ كَيْفَ يُحْيِي
الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا إِنَّ ذَلِكَ لَمُنْجِي
الْمُؤْمِنِينَ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٥٠﴾

1 「明証」とは、彼らが招くものの正しさを示す明白な証拠。奇跡もその一つ（ムヤッサル 409 頁参照）。

2 「ご慈悲の跡」とは、雨が降ったことで生じた植物・木々・様々な果実のこととされる（アルーバイダーウィー 4:340 参照）。

51. そして、もしもわれら*が（彼らの作物に有害な）風を送り、それが（枯れて）黄色くになってしまうのを彼らが見れば、彼らはその後、（一転して）否定し続ける¹。

52. ゆえに（使徒*よ、）本当にあなたは、死人に聞かせることも、^{つんば}聾に呼びかけを聞かせることも出来ない。もし彼らが、背を向けて立ち去るのであれば。²

53. また（使徒*よ）、あなたは盲人³をその迷いから導く者でもない。あなたが聞かせられるのは、われら*の御徴を信じる者^{みしるし}だけであり、彼らは服従する者（ムスリム*）なのだ。⁴

54. アッラー*はあなた方を弱さ⁵からお創りになり、それから（幼児期の）弱さの後、（成人の）強さをお授け^{さづ}になり、そして強さの後に、弱さと老衰^{ろうすい}を与えられたお方。かれはお望みのものをお創りになる。かれは全知者、全能者なのだ。

55. （復活*の）その時が起こる日、罪惡者（シルク*の徒）たちは、自分たちが僅かな時間しか（現世で）過ごさなかった、と誓う⁶。そのように、彼らは（現世で、真理から）背かされていたのだ。

وَلَيْنَ أَرْسَلْنَا رِيحًا فَرَأَوْهُ مُصْفَرًّا لَّظَلُّوا مِنْ بَعْدِهِ يَكْفُرُونَ ﴿٥١﴾

فَإِنَّكَ لَا تَسْمِعُ الْمَوْتَى وَلَا تَسْمِعُ الصُّمَّ الدُّعَاءَ إِذَا وَلُوا مَدْبِرِينَ ﴿٥٢﴾

وَمَا آتَى بِهَذَا الْعَمَى عَنْ صَلَاتِهِمْ إِنْ تُسْمِعُ إِلَّا مَنْ يُؤْمِنُ بِآيَاتِنَا فَهُمْ مُسْلِمُونَ ﴿٥٣﴾

﴿اللَّهُ الَّذِي خَلَقَكُمْ مِنْ ضَعِفٍ ثُمَّ جَعَلَ مِنْ بَعْدِ ضَعِفٍ قُوَّةً ثُمَّ جَعَلَ مِنْ بَعْدِ قُوَّةٍ ضَعْفًا وَشَيْبَةً يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ وَهُوَ الْعَلِيمُ الْقَدِيرُ﴾ ﴿٥٤﴾

وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُقْسِمُ الْمُجْرِمُونَ مَا لِيُؤَخِّرَنِي سَاعَةً كَذَلِكَ كَانُوا يُؤْفَكُونَ ﴿٥٥﴾

1 アッラー*を否定し、その恩恵に対して恩知らずになる（ムヤッサル 410 頁参照）。

2 この「聾」については、雌牛章 272、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

3 この「盲人」については、雌牛章 7、18、家畜章 50、フード*章 20、24、雷鳴章 16、巡礼*章 46 とその訳注を参照。

4 最終的な導きがアッラー*のみに委ねられていることについては、雌牛章 272、ユーヌス*章 99-100、蜜蜂章 37、物語章 56 も参照。

5 この「弱さ」は、精液のこと。あるいは、幼少期の弱い状態のこと（アル=クルトゥビー 10:46 参照）。

6 ユーヌス*章 45 とその訳注、及びター・ハー章 103、信仰者たち章 113-114、砂丘章 35、引き離すもの章 46 も参照。

56. また、知識と信仰心を授けられた者たち¹は、言う。「あなた方は確かに、アッラー*の書の中で²、（あなた方が誕生した日から）復活の日まで、過ごしていたのである。そしてこれが復活の日なのだが、あなた方は知らなかった³のだ」。

57. そしてその日、不正*者たちをその言い訳が益⁴することはなく、彼らが（、アッラー*の）ご満悦を得ることも課されることはない⁴。

58. われら*はこのクルアーン*の中で確かに、人々に対してあらゆる譬えを挙げた。そして（使徒*よ）、もしもあなたが彼らに御徴⁵をもたらししても、不信仰に陥った者*たちは必ずや（こう）言うであろう。「（使徒*とその信徒たちよ、）あなた方は虚妄の徒以外の何ものでもない」。

59. 同様にアッラー*は、知らない者たち⁶の心を閉じられる。

60. ならば（使徒*よ）、あなたは忍耐*せよ。本当にアッラー*のお約束は、真実なのだから。そして（復活とその日の報いを）確信しない者たちが、あなたを動揺⁷させるようなことがあっては、断じてならない。

وَقَالَ الَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ وَالْإِيمَانَ لَقَدْ لَبِئْتُمْ فِي كِتَابِ اللَّهِ إِلَى يَوْمِ الْبَعْثِ فَهَذَا يَوْمُ الْبَعْثِ وَالْكَافِرُ كَذِبٌ لَا تَعْمَلُونَ ﴿٥٦﴾

فَيَوْمَئِذٍ لَا يَنْفَعُ الَّذِينَ ظَلَمُوا مَعذَرَتُهُمْ وَلَا هُمْ يُسْتَعْتَبُونَ ﴿٥٧﴾

وَلَقَدْ صَرَّفْنَا لِلنَّاسِ فِي هَذَا الْقُرْآنِ مِنْ كُلِّ مَثَلٍ وَلَئِنْ جِئْتَهُمْ بِآيَةٍ لَيَقُولُنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا إِنْ أَنْتُمْ إِلَّا مُبْطِلُونَ ﴿٥٨﴾

كَذَلِكَ يَطْمَعُ اللَّهُ عَلَى قُلُوبِ الَّذِينَ لَا يَعْمَلُونَ ﴿٥٩﴾

فَأَصْبِرْ إِنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ وَلَا يَسْتَخِفُّكَ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٦٠﴾

1 天使*、預言者*、信仰者などのこととされる（ムヤッサル 410 頁参照）。

2 つまり、アッラー*の定められた運命の中で、ということ（アッ=サアディー=645 頁参照）。

3 真理の探求と追従を怠（おこた）っていたために、復活の日が真実であることを知ることがなかった（アル=カースィミー=13:4790 参照）。

4 蜜蜂章 84 とその訳注も参照。

5 彼と、彼が人々を招いているものの正しさを示す、奇跡などの証拠のこと（アル=ジャザーイーリー=4:195 参照）。

6 知識を求めもせず、迷信にすがりつく者たちのこと。無知が重なると、真理を知ることから妨げられ、真理を嘘とするようになる（アル=バイダーウィー=4:343 参照）。心を閉じられることについては、雌牛章 7 の訳注を参照。

第 31 章
ルクマーン章¹

慈悲あまねく*慈愛深く*

アッラー*の御名において

1. アリフ・ラーム・ミーム²。
2. それは完全無欠³な啓典の御徴である。
3. 導きと、善を尽くす*者たちへの慈悲。
4. (彼らは)礼拝を遵守*し、浄財*を払い、そして来世をこそ、まさに確信する者たち。
5. それらの者たちは、その主*の導きの上であり、それらの者たちこそは成功者である。
6. 人々の中には、知識もなくアッラー*の道から迷わせ、(アッラー*の御徴を)嘲笑の的とすべく、下らない話⁴を買う者がいる。それらの者たち、彼らにこそ屈辱の懲罰があるのだ。
7. そして、われら*の御徴が読誦された時には、まるでそれを聞かなかったかのように、あたかもその両耳に重しがあるかのように⁵して、高慢にも立ち去った。ならば彼には、痛ましい懲罰の吉報を告げよ⁶。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

آلَمْ

تِلْكَ آيَاتُ الْكِتَابِ الْحَكِيمِ ①

هُدًى وَرَحْمَةً لِّلْمُحْسِنِينَ ②

الَّذِينَ يُقِيمُونَ الصَّلَاةَ وَيُؤْتُونَ الزَّكَاةَ وَهُمْ
بِالْآخِرَةِ هُمْ يُوقِنُونَ ③

أُولَٰئِكَ عَلَىٰ هُدًى مِّن رَّبِّهِمْ وَأُولَٰئِكَ هُمُ
الْمُقْلِحُونَ ④

وَمِنَ النَّاسِ مَن يَشْتَرِي لَهْوَ الْحَدِيثِ لِيُضِلَّ
عَن سَبِيلِ اللَّهِ يُعَذِّبُهُ وَيُعَذِّبُهَا لَهُمْ
أُولَٰئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ مُّهِينٌ ⑤

وَإِذَا نَسَىٰ عَلَيْهِ إِذْ تَأْوَلَّىٰ مُمْسِكَ
كَأَن لَّمْ يَسْمَعْهَا كَأَنَّ فِي أُذُنَيْهِ وَقْرًا فَبَسَّطَهُ
بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ⑥

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、アーヤ*12 以降に登場する、賢人ルクマーンに由来。自然界の様々な驚くべき現象の描写や、ルクマーンの息子に対する訓戒の言葉を通して、アッラーの唯一性*、清算と報(むく)いが待ち受ける来世の確証、正しい行い*のすすめ、復活の日*の警告などが提示される。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「完全無欠な啓典の御徴」については、ユースス*章 1 の訳注を参照。

4 「下らない話」とは、アッラーへの服従から勤(いそ)しませ、彼のお喜びから阻(はば)むような、あらゆる物事のこと(ムヤッサル 411 頁参照)。

5 「耳に重しがある」については、家畜章 25 の訳注を参照。

6 「懲罰の吉報を告げる」という表現については、イムラーン家章 21 の訳注を参照。

8. 本^{ほん}当^{たう}に信仰^{しんぎょう}し、正^{ただ}しい行^いい^ぎ*を行^なう者^{もの}たち、彼^{かれ}らには安寧^{あんねい}の楽^{らく}園^{えん}がある。
9. 彼^{かれ}らはそこ^{そこ}に永^{とこ}遠^とに留^{とど}まる。アッラー*の真^{まこと}実^{いりよく}のお約^{やく}束^{そく}。かれは偉^い力^{りき}ならび^ない*お方^{かた}、英^{えい}知^ちあふ^あれる*お方^{かた}。
10. アッラー*は諸^{しよ}天^{てん}を、いかな^いる柱^{ちゆう}もなし^なしにお創^そりにな^なった。あな^あた^た方^{かた}は、それ^{それ}を目^めにし^してい^いる^る¹。また、かれは大地^{ちき}に、それ^{それ}があなた^{あなた}方^{かた}と共^{とも}に揺^ゆれ動^{うご}かないよう、堅^{けん}固^こな山^{さん}々^{さん}を投^なげ入^いれられ、そこ^{そこ}に地^ちを歩^あむあ^あらゆる生^{さん}物^{ぶつ}を散^{さん}開^{かい}させ^せられ^られた。そし^そてわれ^{われ}ら^ら*²は天^{てん}から(雨^{あめ})水^{みづ}を降^ふらせ、そこ(大地^{ちき})にあ^あらゆる貴^きい種^{しゆ}類^{るい}の^の物^{もの}を生^{せい}育^{よく}させ^せたのだ。
11. こ^これがアッラー*の創^{そう}造^{ぞう}である。な^ならば(シルク*の徒^たよ)、かれ以^い外^{がい}の者^{もの}たち^{たち}が創^そった^た物^{もの}を、私^{わたし}に見^みせてみ^みよ。い^いや、不^ふ正^{せう}*者^{もの}たち^{たち}は紛^{まご}れも^もない迷^{めい}妄^{もう}の中^{なか}にある^あるのだ。
12. われ^{われ}ら*は確^さかに、ルクマーン³に英^{えい}知^ち⁴を授^{さづ}け(、こ^こう言^いっ)た。「アッラー*に(その恩^{おん}恵^{けい}に^に対^{たい}して)感^{かん}謝^{しゃ}せ^せよ。感^{かん}謝^{しゃ}するな^らば、彼^{かれ}は自^じ分^{ぶん}自^じ身^{しん}を益^{えき}するた^ために感^{かん}謝^{しゃ}するに外^{ほか}な^らないの^のであり、恩^{おん}知^ちら^らず^ずになる^なるのであ^あれば、実^{じつ}にアッラー*は(そ^そうな^な者^{もの}の感^{かん}謝^{しゃ}を必^{ひつ}要^{よう}と^とはさ^され^れない)満^{まん}ち足^{そく}りた*お方^{かた}、称^{しょう}賛^{さん}さ^される^るべき*お方^{かた}な^なのである」。

إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ جَنَّاتُ النَّعِيمِ ﴿٨﴾

خَالِدِينَ فِيهَا وَعَدَّ اللَّهُ حَقًّا وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٩﴾

خَالَقَ السَّمَوَاتِ بِغَيْرِ عَمَدٍ تَرَوْنَهَا وَالْأَرْضِ فِي الْأَرْضِ رَوَى أَنْ يَقْدِرَ بِكُمْ وَنَافِيهَا مِنْ كُلِّ دَابَّةٍ وَأَنْزَلْنَا مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَنْبَتْنَا فِيهَا مِنْ كُلِّ زَوْجٍ كَرِيمٍ ﴿١٠﴾

هَذَا خَلْقُ اللَّهِ فَأَرُونِي مَاذَا خَلَقَ الَّذِينَ مِنْ دُونِهِ بَلِ الظَّالِمُونَ فِي ضَلَالٍ مُبِينٍ ﴿١١﴾

وَلَقَدْ آتَيْنَا لُقْمَانَ الْحِكْمَةَ أَنْ اشْكُرْ لِلَّهِ وَمَنْ يَشْكُرْ فَإِنَّمَا يَشْكُرُ لِنَفْسِهِ وَمَنْ كَفَرَ فَإِنَّ اللَّهَ غَنِيٌّ حَمِيدٌ ﴿١٢﴾

1 この箇所^{この}の解^{かい}釈^{しやく}につ^{につ}いては、雷^{らい}鳴^{めい}章^{しやう}2の訳^{やく}注^{ちゆう}を参^{さん}照^{しやう}。

2 この人^{この}称^{しやう}の移^{うつ}り変^{へん}わりにつ^{につ}いては、食^{じき}卓^{たく}章^{しやう}12「われ^{われ}ら*」の訳^{やく}注^{ちゆう}を参^{さん}照^{しやう}。

3 イブ^{いぶ}ン・カス^{かす}ィール*によ^{によ}れば大^{だい}半^{はん}の学^{がく}者^{しや}は、ルク^{ルク}マーンは預^よ言^{げん}者^{しや}*でな^なく、英^{えい}知^ちを授^{さづ}けら^られた人^{ひと}物^{ぶつ}であ^あった、と^として^{して}い^いる。一^{いっ}説^{せつ}には容^{よう}色^{しき}の優^{ゆう}れな^ない、エチ^{えち}オ^おビ^びア人^{にん}奴^{なん}隷^{れい}であ^あった(6:333-334参^{さん}照^{しやう})。

4 この「英^{えい}知^ち」は宗^{しゆ}教^{きやう}理^り解^{かい}、理^り性^{しやう}、正^{ただ}しい言^い葉^{はく}のこ^{こと}とさ^される(ム^むヤ^やッ^っサ^さル411頁^{へい}参^{さん}照^{しやう})。

13. (使徒*よ、) ルクマーンがその息子に、彼を戒めつつ、(こう) 言った時のこと(を思い起こさせよ)。「我が息子よ、アッラー*に対してシルク*を犯すのではない。本当にシルク*はまさしく、この上ない不正*なのだから」。

14. ——われら*は人間に、両親に対して(孝行を) 命じた¹。彼の母親は、衰弱の上に衰弱を重ねて、彼を身ごもったのである。そして乳離れ(まで)は、二年かかるのだ。(われは言った。)「われに感謝せよ。そしてあなたの両親に。われにこそ行き先があり、そこでわれは全ての者に応報するのだから。

15. そして(信仰者の息子よ、) もし彼ら二人が、あなたが(崇拜*の正当性について) 何も知らないものをわれに並べるべく、あなたに執拗に迫って来たならば、彼らに従うのではない²。また現世において、彼らに適切な形³で同伴せよ。そしてわれによく(悔悟して) 立ち返る者の道⁴に従うのだ。それからわれにこそ、あなた方の帰り所があるのであり、われはあなた方に自分たちが(現世で) 行っていたことについて、あなた方に告げ聞かせるのである」——。

16. (ルクマーンは言った。)「我が息子よ、実にそれが(悪行であれ、善行であれ)、たとえ芥子種一粒の重さ(ほどのもの)であり、岩の中にあったとしても、または諸

وَإِذْ قَالَ لُقْمَانُ لِابْنِهِ وَهُوَ يُعَلِّمُهُ يَحْيَىٰ لَا تَشْرِكْ بِاللَّهِ إِنَّ الشِّرْكَ لَظُلْمٌ عَظِيمٌ ﴿١٣﴾

وَوَصَّيْنَا الْإِنْسَانَ بِوَالِدَيْهِ حَمَلَتْهُ أُمُّهُ وَهْنًا عَلَىٰ وَهْنٍ وَفَصَّلَهُ فِي عَامَيْنِ أَنِ اشْكُرْ لِي وَلِوَالِدَيْكَ إِلَيَّ الْمَصِيرُ ﴿١٤﴾

وَإِنْ جَاهَدَاكَ عَلَىٰ أَنْ تُشْرِكَ بِي مَا لَيْسَ لَكَ بِهِ عِلْمٌ فَلَا تُطِعْهُمَا وَصَاحِبْهُمَا فِي الدُّنْيَا مَعْرُوفًا وَاتَّبِعْ سَبِيلَ مَنْ أَنَابَ إِلَيَّ ثُمَّ إِلَيَّ مَرْجِعُكُمْ فَأُنَبِّئُكُمْ بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿١٥﴾

يَبْنِيْ اِنَّهَا اِنْ نَكَ مِنْ مَّقَالَ حَبْرٍ مِنْ حَرْوٍ لَمَ تَكُنْ فِيْ صَخْرَةٍ اَوْ فِي السَّمَوَاتِ اَوْ فِي الْاَرْضِ بِاَنْ يَّهِيَ اللّٰهُ اِنَّ اللّٰهَ لَطِيْفٌ خَبِيْرٌ ﴿١٦﴾

1 夜の旅章 23-24 も参照。

2 同様の意味を含む、蜘蛛章 8 とその訳注も参照。

3 罪にはならない形において、という意味 (ムヤッサル 412 頁参照)。

4 罪を悔悟し、アッラー*に立ち返り、預言者*ムハンマド*を信じた者の道 (前掲書、同頁参照)。

天（のどこか）、あるいは大地（のどこか）にあったとしても、アッラー*は（復活の日*）それを持ち出してこれ（^{はかり}秤にかける）のだ。本当にアッラーはまさしく、^{れいみひょう}霊妙な*お方、（^{つうごう}全てに）通曉されたお方なのだから。¹

17. 我が息子よ、^{れいはい}礼拝を^{じゅんしゅ}遵守*し、善事を命じ、悪事を禁じよ²。そしてあなたに降りかかったことにおいて、^{にんたい}忍耐*するのだ。本当にそれこそは、決意を固めるべき事柄の内のものである。

18. また、あなたの^{ほお}頬を（^{こうまん}高慢さから^{はす}斜に^{かま}構えて）人々に向けてはならず、^{とくい}大地を^{ぜん}得意然として歩いてはならない。本当にアッラー*は、^{そんだい}尊大ぶった^{こうまん}高慢ちきな者をお好みにはならないのだから。

19. また、あなたの歩みにおいて^{せつど}節度を^{かも}保ち³、自分の声を抑えよ。実に最も嫌な声とは、まさしく^{おさ}ロバの^{おさ}声なのだから⁴。

20. （人々よ、）^{おん}一体あなた方は、アッラー*があなた方に^{つか}諸天にあるものと^{あら}大地にあるものを^{ひそ}仕えさせられ、^{おんけい}かれの^{まっ}露わな、そして^{ひそ}密かな^{おんけい}恩恵を、あなた方に^{まっ}全うされ

يَبْنِيْ اَيْمَنَ الصَّلَاةِ وَاْمُرْ بِالْمَعْرُوفِ وَانْهَ عَنِ الْمُنْكَرِ وَاَصْبِرْ عَلٰى مَا اَصَابَكَ اِنَّ ذٰلِكَ مِنْ عَزَمِ الْاُمُوْر ۝۷

وَلَا تُصَعِّرْ خَدَّكَ لِلنَّاسِ وَلَا تَتَّبِعْ فِي الْاَرْضِ مَرَحًا اِنَّهٗ لَآ يَحِبُّ كُلُّ مُخْتَالٍ فَخُوْر ۝۸

وَاَقْصِدْ فِي مَسٰبِكِ وَاعْصِصْ مِنْ صَوْتِكَ اِنْ اَنْكَرَ الْاَصْوَاتِ لَصَوْتُ الْحَمِيْرِ ۝۹

اَلَمْ تَرَ اَنَّ اَللّٰهَ سَخَّرَ لَكُمْ مَآ فِى السَّمٰوٰتِ وَمَآ فِى الْاَرْضِ وَاَسْبَغَ عَلَيْكُمْ رِعْمَهُ وَاَظْهَرَ مِطْلَهٗ وَبَاطِنَهٗ ۝۱۰ وَمِنَ النَّاسِ مَنْ يُجَادِلُ فِى اللّٰهِ يَغْتَرِبْ عَلٰى

1 同様の意味のアーヤ*として、婦人章 40、洞窟章 49、預言者*たち章 47、地震章 7-8 などとも参照。

2 この「善事」と「悪事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

3 遅すぎでもなく、早過ぎでもなく、その中間で歩くこと（イブン・カスィール 6:339 参照）。

4 これは、話しすぎたり、必要もなく声を上げたりすることへの禁止と、それに対する厳しい非難を表す（前掲書、同頁参照）。これら全ては、謙虚さの命令を示している（アル＝クルトゥビー 14:71 参照）。

5 恩恵の「露わなもの」と「密かなもの」については、前者が「健康と財産など」、後者が「アッラーが罪を大目に見て下さること」、または前者が「現世での恩恵」、後者が「来世における恩恵」である、といった諸説があるが、もっと多くの意味も含みうる（イブン・ジュザイ 2:174 参照）。

たのを見ないのか？ 人々の中には、知識^{みちび}も導きも光明の書¹もないのに、アッラー*（の唯一性*）について（盾突いて）議論する者がいる。

وَلَا هُدًى وَلَا كِتَابٌ مُبِينٌ ﴿١٠﴾

21. また、彼らに「アッラー*が（預言者*ムハンマド*に）下されたものに^{したが}従え」と言われれば、彼らは（こう）言った。「いや、私たちは、^{みいだ}私たちが^{したが}見出した自分たちのご先祖様のやり方²に従う」。一体、シャイターン*が彼らを^{れっか}烈火の懲罰^{ちようばつ}へと招いているというのに、（彼らはそうするの）か？

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ اتَّبِعُوا مَا أَنزَلَ اللَّهُ قَالُوا بَلْ نَتَّبِعُ مَا وَحَدَنا عَلَيْهِ ءَابَاؤُنَا وَلَوْ أَنَّا كُنَّا نَعْلَمُ أَنَّ السَّيِّئِينَ يَدْعُوهُمْ إِلَى عَذَابِ السَّعِيرِ ﴿١١﴾

22. 誰であろうと、善を^{よく}尽くす者*でありつつ、アッラー*のみに顔を向けて服従^{ふくじゆう}する者³、その者は堅固な取っ手を^{にぎ}確かに握り締めたのである。そしてアッラー*にこそ、物事の結末^{そく}は属するのだ。

* وَمَنْ يُسَلِّمْ وَجْهَهُ إِلَى اللَّهِ فَهُوَ مُحْسِنٌ فَقَدْ اسْتَمْسَكَ بِالْعُرْوَةِ الْوُثْقَىٰ وَإِلَى اللَّهِ عَاقِبَةُ الْأُمُورِ ﴿١٢﴾

23. また（使徒*よ）、不信仰に^{おちい}陥った者*がいても、その不信仰があなた⁴を悲しませるようなことがあってはならない。（復活の日*、）われら*にこそ彼らの^{きり}帰り所はあり、われら*は彼らに自分たちが行ったことを^つ告げ聞かせ（、それに^{むく}報いを与え）るのだから。本当にアッラー*は、^{きようちゆう}胸中をご存知になるお方なのである。

وَمَنْ كَفَرَ فَلَا يَحْزَنُكَ كُفْرُهُ ۚ إِنَّا مَرْجِعُهُمْ فَنُنَبِّئُهُمْ بِمَا عَمِلُوا ۚ إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿١٣﴾

24. われら*は彼らを（現世で）少し^{ちようばつ}楽しませ、それから（復活の日*）荒々しい懲罰へと、彼らを無理強いする。

نُعَذِّبُهُمْ قَلِيلًا ثُمَّ نَضْطَرُّهُمْ إِلَىٰ عَذَابٍ غَلِيظٍ ﴿١٤﴾

1 「光明の書」については、イムラーン家章 184 の訳注を参照。

2 「ご先祖様のやり方」については、雌牛章 170 の訳注を参照。

3 「アッラーのみに顔を向けて服従する」については、雌牛章 112 の訳注を参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

25. また（使徒^{しと}*よ）、もしもあなたが彼ら（シルク^{しるく}*の徒）に「諸天と大地を創造されたのは、誰か？」と尋ねれば、彼らはきっと（こう）言う。「アッラー^{あやま}*である」。言ってやれ。「（彼らの誤りを、彼ら自身に証明させた）アッラー^{あやま}*に称賛^{しょうさん}*あれ」。いや、彼らの大半は知らないのだ。

26. アッラー^{あやま}*にこそ、諸天と大地にあるものは属^{ぞく}する。本当にアッラー^{あやま}*は満ち足りた^{しょうさん}*お方、称賛されるべき^{しょうさん}*お方。

27. そして、もし大地にある（全ての）木が筆となり、（水がインクと化した）海があって、その（インクが尽きた）後を、七つの海が（インクで）補充^{ほじゅう}したとしても、アッラー^{あやま}*の御言葉は書き尽くせなかつただろう¹。本当にアッラー^{あやま}*は、偉力^{いりよく}ならびない^{あやま}*お方、英知あふれる^{あやま}*お方。

28. （人々よ、アッラー^{あやま}*にとって）あなた方の創造と、あなた方の復活は、人間一人（の創造と復活）のような（容易^{たやす}い）もの。本当にアッラー^{あやま}*はよくお聞きになるお方、よくご覧になるお方。

29. （使徒^{しと}*よ、）一体あなたは、アッラー^{あやま}*が夜を昼にお入れになり、昼を夜にお入れになる²のを見ないのか？ また、かれが太陽と月——（その）いずれも、定められた時期（である復活の日^{つか}*）まで運行し続ける——を仕えさせられたのを？ また、アッ

وَلَيْن سَأَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
لَيَقُولَنَّ اللَّهُ قُلِ الْحَمْدُ لِلَّهِ بَلْ أَكْثَرُهُمْ
لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٩﴾

لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ إِنَّ اللَّهَ هُوَ الْعَزِيزُ
الْحَمِيدُ ﴿٢٠﴾

وَلَوْ أَنَّمَا فِي الْأَرْضِ مِنْ شَجَرَةٍ أَقْلَرٌ
وَالْبَحْرُ يَمُدُّهُ مِنْ بَعْدِهِ سَبْعَةُ أَبْحُرٍ
مَا تَفِدَتْ كُلُّمَتْ اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ عَزِيزٌ
حَكِيمٌ ﴿٢١﴾

مَا خَلَقَكُمْ وَلَا يَسْأَلُكُمْ إِلَّا كَنْفُسٍ وَاحِدَةً
إِنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ بَصِيرٌ ﴿٢٢﴾

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ يُولِجُ اللَّيْلَ فِي النَّهَارِ وَيُولِجُ
النَّهَارَ فِي اللَّيْلِ وَسَخَّرَ الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ كُلٌّ
يَجْرِي إِلَى أَجَلٍ مُسَمًّى وَأَنَّ اللَّهَ يَسْمَعُ
تَعْمَلُونَ حَتَّى ﴿٢٣﴾

1 いかなる創造物もアッラー^{あやま}*には似ていないように、アッラー^{あやま}*の属性の一つであるかれの御言葉もまた、どんな創造物の言葉とも似ていない（アッ=サアディー466 頁参照）。

2 「夜を昼に…」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

ラー*があなた方の行うこと(全て)に通曉^{つうぎょう}されているのを?

30. それはアッラー*こそが真理であり、彼ら(シルク*の徒)が、かれを差しおいて祈っているものが、虚妄^{きょもう}であるため。そしてアッラー*こそが、至高^{しこう}の*お方、大いなる*お方であるためなのだ。

31. 一体あなたは、船が(創造物^{そうぞう}に対する)アッラー*の恩恵^{おんけい}と共に、海を進むのを見ないのか? (それは)かれが、その御徴^{みしるし}¹のいくつかをあなた方にお見せになるため。本^{ほん}当^{たう}にそこにはまさしく、忍耐^{にんたい}*強く感謝^{かんしゃ}深い全ての者^{みしるし}²への御徴がある。

32. また、波が雲のように彼ら(シルク*の徒)を覆^{おお}(い、溺死^{できし}の恐怖^{おそ}が襲)えば、彼らはアッラーだけに真摯^{しんし}に崇拝^{すうはい}行為^ぎを捧げつつ、祈るのである³。そしてかれが彼らを陸にお救いになれば、彼らの中にはいい加減な者^{みしるし}⁴もいる。われら*の御徴^{みしるし}を否定するのは、あらゆる無節操^{むせつそう}で不信心^{ふしん}この上ない者のみなのだ。

33. 人々よ、あなた方の主*を畏^{しめ}*よ。また、父親が自分の子^{えき}を益^{えき}することがなく、子どももまた、その父親に対して少しの役にも立つこ

ذَٰلِكَ بِأَنَّ اللَّهَ هُوَ الْحَقُّ وَأَنَّ مَا يَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ الْبَاطِلُ وَأَنَّ اللَّهَ هُوَ الْعَلِيُّ الْكَبِيرُ ﴿٣٠﴾

أَلَمْ تَرَ أَنَّ الْفُلْكَ تَجْرِي فِي الْبَحْرِ بِنِعْمَتِ اللَّهِ لِيُرِيَكُمْ مِنْ آيَاتِهِ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَاتٍ لِّكُلِّ صَبَّارٍ شَكُورٍ ﴿٣١﴾

وَإِذَا غَشِيَ سَمَومٌ كَالظُّلُمِ دَعَا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ الْآيِينَ فَلَمَّا نَجَّاهُمْ إِلَى الْبَرِّ فَمِنْهُمْ مُّقْتَصِدٌ وَمَا يَجْحَدُ بِآيَاتِنَا إِلَّا كُلُّ خَتَّارٍ كَفُورٍ ﴿٣٢﴾

يَا أَيُّهَا النَّاسُ اتَّقُوا رَبَّ كَمَا وَحَّيْتُ إِلَيْكُمْ وَأَخْشَوْا أَيَّامًا لَا يَجْرِي وَالِدٌ عَنْ وَلَدِهِ وَلَا مَوْلَاٌ دُونَهُوَ جَائِعٌ

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*・御知識・御力とを示す証拠(アブー・アッ=サウード 7:77 参照)。

2 「忍耐*強く感謝深い」については、イブラーヒーム*章 5 の訳注を参照。

3 同様のアーヤである、ユーヌス章 22 とその訳注も参照。

4 「いい加減な者」と訳した語「ムクタシド」には、「海でアッラーに誓ったこと(その内容については、家畜章 63 などを参照)を守る者」「信仰者」「口では信仰を語るが、内心には不信仰を隠す者」といった諸説がある(アル=クルトゥビー 14:80 参照)。

とがない（復活の）日*を恐れよ。本当にアッラー*のお約束は真実なのだ。ならば決して、現世の生活があなた方を欺いたり、欺く者^{あどむ}があなた方を、アッラー*において欺いたりすることがあってはならない。

34. 本当にアッラー*、かれの御許にこそ、（復活の日*の）その時の知識がある。またかれは慈雨をお降らしになり、子宮の中にあるものをご存知になる。そしていかなる者も、自分が明日かせぐことになるものを知らず、いかなる者も、自分がいずこの地で死ぬことになるかを知らないのだ。本当にアッラー*は、全知者、（全てに）通暁^{つうぎょう}されるお方。²

وَالَّذِي سَمِعْنَا مِنْ رَبِّنَا أَنَّ اللَّهَ هُوَ الَّذِي
تَعَزَّيْنَا مِنْهُ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا وَلَا
يُعَزِّيُنَا بِهِ إِلَّا اللَّهُ الْعَزِيزُ ۝۳۴

إِنَّ اللَّهَ عِنْدَهُ عِلْمُ السَّاعَةِ وَيُنَزِّلُ
الْغَيْثَ وَيَعْلَمُ مَا فِي الْأَرْحَامِ وَمَا تَدْرِي
نَفْسٌ مِمَّا تَكْسِبُ غَدًا وَمَا تَدْرِي نَفْسٌ
بِأَيِّ أَرْضٍ تَمُوتُ إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ خَبِيرٌ ۝۳۵

1 「欺く者」とは、ジン*と人間からなる、シャイターン*のこと（ムヤッサル 414 頁参照）。

2 家畜章 59 とその訳注も参照。

第32章
アッ=サジダ*章¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. アリフ・ラーム・ミーム²。
2. (このクルアーン*は) 全創造物の主*からの、疑惑の余地のない、啓典の降示である。
3. いや、彼ら(シルク*の徒)は、「彼(ムハンマド*)がそれ(クルアーン*)を捏造したのだ」と言う。いや、(使徒*よ、)それはあなたが、あなた以前にいかなる警告者も訪れなかった民³を警告するための、あなたの主*からの真理なのである。(それは)彼らが、導かれるようにするためなのだ。
4. アッラー*は諸天と大地、その間のものを六日間でお創りになり⁴、それから御座に上がられた⁵。かれを差しおいて、あなた方にはいかなる庇護者も執り成し手もない。一体、あなた方は教訓を受けないのか？

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْعَلَمِ

تَنْزِيلَ الْكِتَابِ لَا رَيْبَ فِيهِ مِنْ رَبِّ

الْعَالَمِينَ ﴿١﴾

أَمْ يَقُولُونَ افْتَرَاهُ بَلْ هُوَ الْحَقُّ مِنْ رَبِّكَ

لِنَذِيرِ قَوْمًا مِمَّا أَتَتْهُمْ مِنْ نَذِيرٍ مِنْ قَبْلِكَ

لَعَلَّهُمْ يَهْتَدُونَ ﴿٢﴾

اللَّهُ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا

بَيْنَهُمَا فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ اسْتَوَى عَلَى

الْعَرْشِ مَا لَكُمْ مِنْ دُونِهِ مِنْ وَلِيٍّ وَلَا سَفِيْعٍ

أَفَلَا تَتَذَكَّرُونَ ﴿٣﴾

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。クルアーン*の真実性、アッラーの唯一性*とその御力、人間に対するその恩恵が描写された後、それに対する従順(じゅうじゅん)な信仰者と頑迷(がんめい)な不信仰者*の態度が対照的に描写される。スーラ*の名称ともなっている「サジダ*」は、信仰者たちが従順にサジダ*する描写に由来する(アーヤ*15 参照)。そして復活の日*の復活と清算が確証され、そこにおける信仰者と不信仰者*の描写がここでも対照的に提示される。スーラ*の最後は、預言者*への慰(なぐさ)めと、不信仰者*たちへの警告によって締めくくられる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 この「民」については、物語章 46 の訳注を参照。

4 「六日間での天地創造」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。

5 「御座に上られた」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

5. かれは天から地まで(創造物^{そうぞう}の)物事を司^{つかさど}られ、やがてそれは、あなた方が(現世で)数える千年の長さ^{ちと}に相当する日^{のぼ}*、かれの御許へ昇^あっていく。¹

6. それは不可視^{ふかし}の世界*と現象界^{じがい}²をご存知のお方、偉力^{いりよく}ならびない*お方、慈愛^{じあい}深い*お方。

7. (かれは、)かれがお創りになった全ての物事を、最善の形にされたお方。またかれは、人間の(祖アーダム*の)創造^{そうぞう}を泥土から始められた³。

8. それからかれはその子孫を、卑しい液体^い⁴から抽出^{ちゅうしゅつ}した物とされた。

9. それからかれは彼を^{ととの}整えられ、かれの魂^{たましい}⁵から、そこに吹き込まれた。そしてかれはあなた方に、聴覚^{ちやうかく}と視覚^{しかく}と心を備え付けて下さったのだ。あなた方が感謝すること、少ないこと。

10. 彼ら(シルク*の徒)は言った。「一体、私たちが(死んで砂となり、)地中に消え失せた後、本当に私たちが新たに創造^{そうぞう}⁶されるとでもいうのか？」いや、彼らは(復活の日*の)自分たちの主*との拝謁^{はいえつ}を、否定する者たちである。

يَذِيرُ الْأَمْرَ مِنَ السَّمَاءِ إِلَى الْأَرْضِ تُرْجَعُ
إِلَيْهِ فِي يَوْمٍ كَانَ مِقْدَارُهُ أَلْفَ سَنَةٍ مِمَّا
تَعُدُّونَ ﴿٥﴾

ذَٰلِكَ عِلْمُ الْغَيْبِ وَالشَّهَادَةِ الْعَزِيزِ
الرَّحِيمِ ﴿٦﴾

الَّذِي أَحْسَنَ كُلَّ شَيْءٍ خَلْقَهُ وَبَدَأَ خَلْقَ
الْإِنْسَانِ مِنْ طِينٍ ﴿٧﴾

ثُمَّ جَعَلَ نَسْلَهُ مِنْ سُلَالَةٍ مِّن مَّاءٍ مَّهِينٍ ﴿٨﴾

ثُمَّ سَوَّاهُ وَنَفَخَ فِيهِ مِن رُّوحِهِ وَجَعَلَ لَكُمُ
السَّمْعَ وَالْأَبْصَارَ وَالْأَفْئِدَةَ قَلِيلًا مَّا
تَشْكُرُونَ ﴿٩﴾

وَقَالُوا أَإِذَا ضَلَلْنَا فِي الْأَرْضِ أَإِنَّا لَفِي خَلْقٍ
جَدِيدٍ بَلْ هُمْ بِلِقَاءِ رَبِّهِمْ كَافِرُونَ ﴿١٠﴾

1 この「日」は「アッラー*のご命令が下り、また昇っていくまでの期間」とも、または復活の日*のことであるとも言われる(アッ=ジャンキーティ 6:183-184)。巡礼*章 47、離婚章 12、階段章 4も参照。

2 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

3 アーダム*が「泥土」から創造されたことについては、アル=ヒジュル章 26 の訳注を参照。

4 これは、それによって人間が生殖する、精液のこと(ムヤッサル 415 頁参照)。人間の創造の変遷(へんせん)については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 も参照。

5 この「かれ(アッラー*)の魂」に関しては、アル=ヒジュル章 29 の訳注を参照。

6 「新たな創造」とは、復活のこと(前掲書、同頁参照)。

11. (使徒*よ、) 言ってやるがいい。「あなた方を任された死の天使¹が、あなた方(の魂^{たましい})を召すのだ。それからあなた方の主*の御許にこそ、あなた方は戻られ(て、行いの清算を受け)る」。

12. そして、もしあなたが、自分たちの主*の御許で頭をうなだれている²罪悪者たちを見るならば。(彼らは言うのだ。)³「我らが主*よ、私たちは見、聞きました³。ですから、私たちを(現世に)返してください。そうすれば、正しい行い*を行います。本当に私たちは(今や、あなたの唯一性*と復活を)確信する者なのですから」。⁴

13. また、もしわれら*が望めば、全ての者に導きを与えたであろう。しかし、「われは必ずや、地獄を全ての(不信仰な)ジン*と人々で満たすのだ」という、われら*からの言葉が確定したのである。⁵

14. ならば(シルク*の徒よ)、自分たちのこの日の拝謁を忘れていたゆえに、(懲罰を)味わえ——実にわれら*も、あなた方を忘れ

﴿قُلْ يَتُوبُكُمْ مَلَكُ الْمَوْتِ الَّذِي نُكَلِّمُكُمْ إِذْ تُبْعَثُونَ﴾^{١١}

﴿وَلَوْ تَرَىٰ إِذْ الْمُرُؤَاتُ نَاجِيْنَ
رُءُوسِهِنَّ عِنْدَ رَبِّهِنَّ رَبَّنَا ابْقِ رِئَاسَتَنَا وَسَمْعَنَا
فَازْجِعْنَا تَعْمَلْ صَالِحًا إِنَّا مُوقِنُونَ﴾^{١٢}

﴿وَلَوْ شِئْنَا لَآتَيْنَا كُلَّ نَفْسٍ هُدًى
وَلَكِنْ حَقَّ الْقَوْلُ مِنِّي لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ
مِنَ الْجِنَّةِ وَالنَّاسِ أَجْمَعِينَ﴾^{١٣}

﴿فَذُوقُوا نَارَ سِمْيَاقَةِ يَوْمِكُمْ هَذَا إِنَّا
نَسِيْتَكُمْ وَذُوقُوا عَذَابَ الْخُلْدِ إِنَّا
كُنَّا تَعْمَلُونَ﴾^{١٤}

1 「死の天使*」については、家畜章 61、93 などとも参照。

2 恥ずかしさと後悔ゆえに、頭をうなだれる (アル=バガウィー 3:596 参照)。

3 (今、私たちは)自分たちが(現世で)嘘としていたものを見、否定していたものを聞きました、ということ。しかしこのような確信も、この時にはもう役に立たない (アル=クルトビー 14:95 参照)。家畜章 158 とその訳注も参照。

4 いざ復活の日* (あるいは死)が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりする。だが、もちろんそれは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒム*章 44、信仰者たち章 99-100、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

5 そしてそれは、彼らが導きをそっちのけで迷いを選んだことの結果である (ムヤッサル 416 頁参照)。

たのだ¹——。そしてあなたが行っていたこと（不信仰や罪）ゆえに、永遠の懲罰を味わえ。

15. われら^{みしるし}*の御徴（アーヤ^{あや}*）を信じ（、その教えを^{じっせん}実践す）るのは、それで教訓を与えられれば思い上がることなくサジダ^{しやうさん}*して崩れ落ち、自分たちの主^{しゅ}*の称賛^{しょうさん}*と共に（かれを）称える^{たたく}*者たちに外ならない。（読誦^{しやう}のサジダ^{さじだ}*）

16. （懲罰を）怖れ、（褒美を）望みつつ、その主^{しゅ}に祈りながら、彼らの脇腹は^{わきばら}寢床^{ねどこ}から遠ざかる^{とざかる}²。そして彼らは、われら^{われら}*が授けたものから（施しのために）費やす^{さず}³のだ。

17. また、いかなる者も、彼ら（信仰者たち）が行っていた（善い）ことゆえの報いとして、彼らのために秘蔵された喜びを知らない。⁴

18. 一体、信仰者だった者は、放逸^{ほういつ}だった者と同様だろうか？ 彼らは同等ではない。

19. 信仰し、正しい行い^い*を行っていた者たちはといえば、彼らには自分たちが行っていたことゆえの御もてなしとして、（真の^{すみか}）住処の楽園がある。

إِنَّمَا يُؤْمِنُ بِآيَاتِنَا الَّذِينَ إِذَا ذُكِّرُوا بِهَا خَرُّوا سُجَّدًا وَسَبَّحُوا بِحَمْدِ رَبِّهِمْ وَهُمْ لَا يَسْتَكْبِرُونَ ﴿١٥﴾

تَتَجَافَى جُنُوبُهُمْ عَنِ الْمَضَاجِعِ يَدْعُونَ رَبَّهُمْ خَوْفًا وَطَمَعًا وَيَمَازِرُ فَتَاهُمْ يَنْفِقُونَ ﴿١٦﴾

فَلَا تَعْلَمُ نَفْسٌ مَّا أُخْفِيَ لَهُم مِّن قُرَّةِ أَعْيُنٍ جَزَاءً بِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٧﴾

أَفَمَن كَانَ مُؤْمِنًا كَمَن كَانَ فَاسِقًا لَّا يَسْتَوُونَ ﴿١٨﴾

أَمَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَلَهُمْ أَجْرٌ ءَلَا يَمُوتُونَ ﴿١٩﴾

1 彼らが「忘れていた」というのは、来世のことをおろそかにし、現世の享楽（きょうらく）に溺れていたことを、アッラー*が「忘れた」というのは、彼らのことを懲罰の中に置き去りにすることを意味するとされる（ムヤッサル 416 頁参照）。

2 甘い眠りから遠ざかり、それよりも甘い、夜の礼拝に勤しむこと（アッ=サアディー655 頁参照）。

3 「われら*が授けたものから…」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

4 「喜び」については、マルヤム*章 26 の訳注を参照。預言者*は仰（おっしゃ）った。「アッラー*はこう仰せられた：『われは正しきわが僕（しもべ）に、いかなる目も見たこともなく、いかなる耳も聞いたこともなく、いかなる人間の心にも思い浮かんだことのないようなものを、用意しておいた』」（アル=ブハーリー4779 参照）。

20. そして、放逸であつた者たちはといへば、その住処は（地獄の）業火。そこから出ようとするたび、彼らはそこに戻される。そして（こう）言われるのだ。「あなた方が嘘呼ばわりしていた、業火の懲罰を味わうがよい」。

21. また、われら*は必ずや彼らを、最大の懲罰ではなく、最小の懲罰^{ちようばつ}から味わわせよう。（それは）彼らが、（その罪から）立ち返るようにするため。

22. 自分の主*の御徴で教訓を与えられていながら、それに背を向ける者よりもひどい不正*を働く者がいようか？ 本当にわれら*は、罪悪者らに報復する者なのである。

23. われら*は確かに、ムーサー*に啓典（トーラー*）を授けた。ならば、彼との面会^{めんかい}について、疑わしく思つてはならない。そしてわれら*はそれを、イスラエールの子ら*への導きとしたのだ。

24. また、われら*は彼ら（イスラエールの子ら*）が忍耐*した時、彼らの内から、われら*の命令によって導く導師たちを出した。そして彼らは、われら*の御徴をこそ、確信していたのである。

25. 本当に（使徒*よ）、あなたの主*こそは復活の日*、彼らが（宗教に関し）意見を異にしていたことについて、彼らの間をお裁きになる。

وَأَمَّا الَّذِينَ فَسَقُوا فَمَأْوَاهُمُ النَّارُ كَلَّمَا
أَرَادُوا أَنْ يَخْرُجُوا مِنْهَا أُعِيدُوا فِيهَا وَقِيلَ لَهُمْ
ذُوقُوا عَذَابَ النَّارِ الَّذِي كُنتُمْ بِكُمْ تُكَذِّبُونَ ﴿٢٠﴾

وَلَنَذِقَنَّهُمْ مِنَ الْعَذَابِ الْأَدْنَى دُونَ
الْعَذَابِ الْأَكْبَرِ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٢١﴾

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ ذُكِّرَ بِآيَاتِ رَبِّهِ ثُمَّ
أَعْرَضَ عَنْهَا إِنَّا مِنَ الْمُجْرِمِينَ مُنتَقِمُونَ ﴿٢٢﴾

وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْكِتَابَ فَلَا تَكُنْ فِي
مِرْيَةٍ مِنْ لِقَائِهِ وَجَعَلْنَاهُ هُدًى لِبَنِي
إِسْرَءِيلَ ﴿٢٣﴾

وَجَعَلْنَا مِنْهُمْ أَئِمَّةً يَهْدُونَ بِأَمْرِنَا لَمَّا
صَبَرُوا وَكَانُوا يَتْلُونَ آيَاتِنَا يُوَفُّونَ ﴿٢٤﴾

إِنَّ رَبَّكَ هُوَ يَفْصِلُ بَيْنَهُم يَوْمَ الْقِيَمَةِ
فِي مَا كَانُوا فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿٢٥﴾

1 「最大の懲罰」とは、復活の日*のもの。「最小の懲罰」とは、現世における試練や災難のこと（ムヤッサル 417 頁参照）。

2 この「面会」は、預言者*ムハンマド*が昇天した時（夜の旅章 1 の訳注を参照）に、ムーサー*と会った時のことを示しているとされる（前掲書、同頁参照）。

26. そして一体、われら*が彼ら以前にどれほど多くの（不信仰な）民*を滅ぼしたか、彼らには明らかになっていないのか？ 彼らはその者たちの住居の中を、（その滅亡の跡を目にして）歩いているというのに？ 本当にその中にはまさしく、御徴^{みしるし}がある。一体、彼らは（アッラー*の御言葉^{おことば}に）耳を傾けないのか？

27. また一体、彼らはわれら*が不毛の地に水を引っぱって行き、それによって作物を生育させるのを見なかったのか？ 彼らの家畜と彼ら自身は、そこから食するのだ。一体、彼らは（この恩恵^{おんけい}を）目にしないのか？²

28. 彼ら（シルク*の徒）は、言う。「（私たちが懲罰^{ちやうばつ}を受けるといふ）その裁決は、いつなのかね？³ もしあなた方が、本当のことを言っているのなら？」

29. （使徒*よ、）言ってやれ。「裁決の日、不信仰だった者*たちをその信仰が益することではなく⁴、彼らが猶予^{ゆうよ}を与えられることもない」。

30. ならば彼らから離れ、（アッラー*の彼らに対する処分を）待つのだ。実に彼らも（あなた方の不幸を）、待つ者たちなのである。

أَوَلَمْ يَهْدِ لَهُمْ كَمْ أَهْلَكْنَا مِنْ قَبْلِهِمْ
مِنَ الْقُرُونِ يَمْشُونَ فِي مَسْجِدِهِمْ
فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ أَفَلَا يَسْمَعُونَ ﴿٢٦﴾

أَوَلَمْ يَرَوْا أَنَّا نَسُوقُ الْمَاءَ إِلَى الْأَرْضِ
الْجُرُفِ فَتَخْرُجُ بِهِ زَرْعًا تَأْكُلُ مِنْهُ
أَنْعَامُهُمْ وَانْفُسُهُمْ أَفَلَا يُبْصِرُونَ ﴿٢٧﴾

وَيَقُولُونَ مَتَى هَذَا الْفَتْحُ إِنْ كُنْتُمْ
صَادِقِينَ ﴿٢٨﴾

قُلْ يَوْمَ الْفَتْحِ لَا يَنْفَعُ الَّذِينَ كَفَرُوا
إِيمَانُهُمْ وَلَا هُمْ يُنْظَرُونَ ﴿٢٩﴾

فَأَعْرِضْ عَنْهُمْ وَانْتَظِرِ إِنَّهُمْ مُنْظَرُونَ ﴿٣٠﴾

1 この「御徴」とは、使徒*たちの正直さと、その民のシルク*の虚妄さを示す証拠（ムヤツサル 417 頁参照）。

2 そしてそのような力があるアッラー*には、復活を行われる力が備わっていることに気付かないのか、ということ（前掲書、同頁参照）。

3 これは、「早く私たちに懲罰を下してみよ」という挑発を意味する（前掲書、同頁参照）。アーヤ*12 とその訳注も参照。

4 復活の日*、あるいは死が訪れた際の悔悟については、家畜章 158 とその訳注を参照。

第33章
部族連合章（アル＝アハザーブ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 預言者*よ²、アッラー*を畏れ*よ。そして不信仰者*たちと偽信者*たちに従ってはならない。本当にアッラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方なのだから。
2. また、あなたの主*からあなたに下されたもの（啓示）に従え。本当にアッラー*は、あなた方が行うこと（全て）に通曉されたお方である。
3. そしてアッラー*にこそ、全てを委ねる*のだ。アッラー*だけで、委任者³は十分なのである。
4. アッラー*はいかなる者にも、その内面に二つの心をお与えにはならなかった⁴。またか

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ اتَّقِ اللَّهَ وَلَا تُطِيعِ الْكَافِرِينَ
وَالْمُنَافِقِينَ إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَلِيمًا
حَكِيمًا ﴿١﴾

وَأَتَّبِعْ مَا يوحىٰ إِلَيْكَ مِنْ رَبِّكَ إِنَّ اللَّهَ
كَانَ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ﴿٢﴾

وَتَوَكَّلْ عَلَى اللَّهِ وَكَفَىٰ بِاللَّهِ وَكِيلًا ﴿٣﴾

مَا جَعَلَ اللَّهُ لِرَجُلٍ مِنْ قَلْبَيْنِ فِي جَوْفِهِ
وَمَا جَعَلَ أَزْوَاجَكُمْ أَلْفَىٰ تُظَاهَرُونَ

1 マディーナ*啓示で学者の見解は一致。スーラ*の名称は、クライシュ族*の不信仰者*と、彼らと徒党を組んだアラブ諸部族が、マディーナ*内のユダヤ教徒*の・部と偽信者*らの協力と共に、マディーナ*に攻めて来たヒジュラ暦*5年の「部族連合の戦い」別名「塹壕（ざんごう）の戦い」が描写されていることによる。マディーナ*啓示の常として、ズィハール*、養子縁組、結婚、ヒジャブ（女性のベール）などの法的側面を取り上げる。一方、預言者*とその家族に関する特別規定なども提示される。また部族連合の戦いにおけるムスリム*・信仰者*・不信仰者*・偽信者*らの様子や、兵数が約一万にも達した強大な敵軍（ムスリム*軍は兵数約三千）を戦うことなく奇跡的に撃退した情景の描写は、アッラー*の恩恵への感謝と、かれとその使徒*への従順（じゅうじゅん）さの重要性、そしてアッラー*の勝利は誠実な信仰者のもとにこそやって来る、ということを想起させる。

2 この預言者*ムハンマド*への語りかけについては、雌牛章 120 の訳注を参照。

3 「委任者」については、頻出名・用語解説の「請け負われる*お方」を参照。

4 この解釈には、「その頭の良さゆえに、自分を『二つの心がある者』だと言っていた、クライシュ族*の不信仰者*に対する批判」「一つの心が、信仰と不信仰を両立することはないこと」「人間に心が二つないのと同様、事実上『母親が二人いる』という主張であるズィハール*は、あり得ないこと」など諸説ある（アル＝クルトゥビー14:116-117 参照）。

れは、あなた方がズィハール*するあなた方の妻たちを、あなた方の母親とはされなかったし、あなた方の養子を、あなた方の（イスラーム*法的に正当な）子供ともされなかった。それはあなた方の口先の言葉¹である。そしてアッラー*は真実を語られるのであり、かれが（正しい）道へとお導きになるのだ。

5. 彼ら（養子）を、その（生みの）父親に帰属させて呼べ。それがアッラー*の御許で、より公正なのだから。そしてもし、あなた方が彼らの（生みの）父親を知らないのであれば、（彼らは）宗教におけるあなた方の同胞であり、盟友である。また、あなた方が（意図せず）間違ったことにおいて、あなた方にはいかなる罪もないが、（アッラー*がお咎めになるのは）あなた方の心が意図したことなのである。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

6. 預言者*（ムハンマド*）は、信仰者たちに関し、彼ら自身よりも優先されるのであり²、その妻たちは彼らの母親なのである³。また近親関係にある者たちは（遺産相続に関し）、アッラー*の定めにおいて、信仰者たちやムハージルーン*よりもお互いに優先

مِنْهُمْ أُمَّهَاتُكُمْ وَمَا جَعَلَ أَدْعِيَةَكُمْ
أَبْنَاءَكُمْ ذَلِكَ قَوْلُكُمْ بِأَفْوَاهِكُمْ وَاللَّهُ
يَعْلُو الْحَقُّ وَهُوَ يَهْدِي السَّبِيلَ ①

أَدْعُوهُمْ لِأَبَائِهِمْ هُوَ أَقْسَطُ عِنْدَ اللَّهِ فَإِنْ لَمْ
تَعْلَمُوا آبَاءَهُمْ فَلَا حَرْجَ فِي الَّذِينَ
وَمَوْلَاهُمْ وَلَيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ فِيمَا
أَخْطَأْتُمْ بِهِ وَلَكِنْ مَاتَعَمَّدَتْ
قُلُوبُكُمْ وَكَانَ اللَّهُ غَفُورًا رَحِيمًا ②

النَّبِيِّ أَوْلَىٰ بِالْمُؤْمِنِينَ مِنْ أَنْفُسِهِمْ
وَأَزْوَاجُهُ أُمَّهَاتُهُمْ وَأُولُو الْأَرْحَامِ
بَعْضُهُمْ أَوْلَىٰ بِبَعْضٍ فِي كِتَابِ اللَّهِ مِنَ
الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُهَاجِرِينَ إِلَّا أَنْ تَقُولُوا لِمَنْ
أَوْلَىٰ بِكُمْ مَعْرُوفًا كَانَ ذَلِكَ فِي

1 ズィハール*の言葉によって、自分の妻が実の母親のように結婚不可能な相手となることはなく、「これは私の息子だ」と主張することで、養子関係が確定することもない、ということ（ムヤッサル 418 頁参照）。

2 預言者*は仰（おっしゃ）った。「私のことが自分自身の親や子供、そして全ての人々よりも愛すべき存在となるまで、人は（真に）信仰してはいない」（アル=ブハーリー 15 参照）。

3 彼の妻たちは、彼以外の誰とも結婚できない関係にある（アーヤ*53 参照）と同時に、彼女らへの敬意、善行、尊敬といった義務ゆえに、「信仰者たちの母親」である（アル=クルトゥビー 14:123 参照）。

される¹。但し、あなた方の盟友に善事を行うこと²は別である。それはもとより、書（守られし碑板³）の中に記されていたのだ。

الْكِتَابِ مَسْطُورًا ①

7. （預言者⁴よ、）われら⁵が預言者⁶たちから、彼らの確約⁷を取った時のこと（を思い出せ）。またあなたから、そしてヌーフ⁸、イブラーヒーム⁹、ムーサー¹⁰、マルヤム¹¹の子イーサー¹²から（確約を取った時のことを）⁴。われら⁵は彼らから、厳粛なる確約を取ったのだ。

وَإِذْ أَخَذْنَا مِنَ النَّبِيِّينَ مِيثَاقَهُمْ وَمِنْكَ
وَمِنْ نُوحٍ وَإِبْرَاهِيمَ وَمُوسَى وَعِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ
وَأَخَذْنَا مِنْهُمُ مِيثَاقًا غَلِيظًا ⑤

8. （それは）かれ（アッラー¹³）が誠実な者たちに（復活の日¹⁴）、その誠実さについてお尋ねになる⁵ため。そしてかれは不信仰者¹⁵たちに、痛ましい懲罰を用意された。

لَيَسْأَلَنَّ الَّذِينَ آمَنُوا أَزْوَاجَهُمْ وَعَدَّ
لِلْكَافِرِينَ عَذَابًا أَلِيمًا ⑥

9. 信仰する者たちよ、あなた方に対するアッラー¹⁶の恩恵を思い起こすのだ。あなた方のもとに軍勢¹⁷が到来し、われら¹⁸が彼らに風と、あなた方には見えなかった軍勢を遣わした時のことを⁷。アッラー¹⁹はもとより、あなた方が行うことをご覧になっていたのだ。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا أَذْكُرُوا نِعْمَةَ اللَّهِ عَلَيْكُمْ
إِذْ جَاءَتْكُمْ جُنُودٌ فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِيحًا وَجُنُودًا
لَمْ تَرَوْهَا وَكَانَ اللَّهُ يَمَّا تَعْمَلُونَ نَبِيرًا ⑦

1 戦利品*章 75 とその訳注を参照。

2 近親関係にある相続人でもない者たちの相続は撤廃（てっばい）されたが、それ以外の「善事」、つまり援助、善行、よい関係の維持、遺言などは行うことが出来る（イブン・カスィール 6:382 参照）。

3 アッラー*の教えを伝え、かつ全ての預言者*を信じるという「確約」のこと（ムヤッサル 419 頁参照）。雌牛章 40 「契約」についての訳注も参照。

4 ここで数ある預言者*の中でもこの五人が取り上げられているのは、彼らが啓典と法を受けられた、「決然とした者たち（ウルー・アル＝アズム）」であるため（アル＝バガウィー 3:610 参照）とされる。相談章 13、砂丘章 35 も参照。

5 アッラー*は彼ら預言者*、そしてその追隨者たちに、確約を全（まっとう）うしたかどうか、お尋ねになる（アッ＝サアディー 659 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

6 この「軍勢」とは、部族連合のこと（ムヤッサル 419 頁参照）。詳しくは、スーラ*冒頭の訳注を参照。

7 強風が部族連合軍の設営したテントなどを吹き飛ばし、天からは天使*が送られ、その心に恐怖が吹き込まれた（前掲書、同頁参照）。

10. あなた方の上方から、そしてあなた方の下方から、彼らがやって来た時のこと（を思い出せ）¹。また、視線が（恐怖で敵に釘づけ）となって、彼ら以外の全てから）逸れ、心臓が喉元にまで達し、あなた方がアッラー*に対して（様々な）憶測²をした時のことを。

11. そこで信仰者たちは試練を受け、激しく動揺した。

12. また、偽信者*たちと心に病がある者³たちが、こう言った時のこと（を思い出せ）。
「私たちにアッラー*とその使徒*が約束したこと⁴は、欺き以外の何ものでもなかった」。

13. また、彼ら（偽信者*たち）の内の一団が、（こう）言った時のこと（を思い起こせ）。
「ヤスリブ⁵の民よ、あなた方が（戦いで敗れるために）駐留することはない。だから、（マディーナ*の中に）戻る⁶のだ」。

إِذْ جَاءَهُمْ مِنْ فَوْقِهِمْ مُوسِرٌ
مِنْكُمْ وَإِذْ رَأَوُا الْعَبْرَةَ
وَبَلَغَتِ الْقُلُوبُ الْحَنَاجِرَ وَنَظُنُّونَ بِاللَّهِ الظُّنُونَا ﴿١٠﴾

هَذَا لِكَيْ تُبَيِّنَ الْمُؤْمِنُونَ وَتُزِيلَ لَوْلَا
سَدِيدًا ﴿١١﴾

وَإِذْ يَقُولُ الْمُنَافِقُونَ وَالَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ
مَرَضٌ مَّا وَعَدَنَا اللَّهُ وَرَسُولُهُ إِلَّا غُرُورًا ﴿١٢﴾

وَإِذْ قَالَتْ طَائِفَةٌ مِنْهُمْ يَا أَهْلَ يَثْرِبَ لَا مُقَامَ
لَكُمْ فَارْجِعُوا وَيَسْتَأْذِنُ فَرِيقٌ مِنْهُمُ النَّبِيَّ
يَقُولُونَ إِنَّ بُيُوتَنَا عَوْرَةٌ وَمَا هِيَ بِعَوْرَةٍ
إِنْ يُرِيدُونَ إِلَّا فِرَاقًا ﴿١٣﴾

1 マディーナ*東部の谷の上方からアラブ諸部族が、西部の谷の下方からはクライシュ族*、ユダヤ教徒*のクライザ族らが迫って来たことを示すという（アル=クルトウビー14:144 参照）。

2 つまり真摯（しんし）な信仰者たちは、アッラー*のお約束が果たされると思い、またある者たちの脳裏（のうり）には敗北がよぎった。また、偽信者*たちは、次のアーヤ*以降に示されるようなことを憶測した（アル=バイダーウィー4:366 参照）。

3 「心に病がある者」とは、心に疑念がある、信仰心の弱いムスリム*のこと（ムヤッサル 419 頁参照）。

4 つまり、勝利のこと（前掲書、同頁参照）。預言者*は、カエサル（ローマ皇帝）とホスロー（ペルシャ王）の富はムスリム*のものとなるだろう、と予言していた（アル=ブハーリー 2952 参照）。

5 マディーナ*の旧称（ムヤッサル 419 頁参照）。

6 ムスリム*軍はマディーナ*郊外に塹壕（ざんごう）を掘り、その付近に駐留していた（アッ=サアディー660 頁参照）。

また、彼ら（偽信者*たち）の内の一派は、
「本当に私たちの家は（敵から）無防備な
のです」と言って、預言者*に（自宅に帰る）
許しを請う。それは無防備ではないという
のに。彼らが望んでいるのは、逃亡以外の
何ものでもないのだ。

14. また、もし彼ら（偽信者*たち）がその方々
から（敵軍に）侵入され、試練¹を要求され
たら、それを（進んで）差し出したであ
ろう。そしてそこ（試練）において、少し
だけしか持ち堪えることはなかったのだ。

15. また、彼らは確かに（その戦い）以前、背
を見せて逃げないとの契約を（、アッラー
*とその使徒*と）結んだ。アッラー*の契約
は、もとより（その遵守を）問われること
になっている。

16. （預言者*よ、彼ら偽信者*たちに）言って
やれ。「逃亡があなた方を益することはな
い。たとえあなたが、死や殺害から逃れ
たとしても。そしてそうしたとしても、あ
なた方は僅かばかりしか、（この現世で）
楽しませてはもらえないのだ」。

17. 言ってやるのだ。「あなた方をアッラー*
から守ってくれるのは、誰なのか？ もし
かれが、あなた方に災いを望まれるか、
あるいはあなた方にご慈悲を望まれるな
らば？」彼らはアッラー*以外、自分たち
へのいかなる庇護者も援助者も見出すこ
とがない。

وَلَوْ دَخَلَتْ عَلَيْهِمْ مِنْ أَقْطَارِهَا ثُمَّ سَأَلُوا
الْفِتْنَةَ لَأَنفَكُوا وَمَا تَلَبَّسُوا بِهَا إِلَّا سِيْرًا ﴿١٤﴾

وَلَقَدْ كَانُوا عَاهَدُوا اللَّهَ مِنْ قَبْلُ لَا يُولُونَ
الْأَدْبَرَ وَكَانَ عَهْدُ اللَّهِ مَسْئُورًا ﴿١٥﴾

قُلْ لَنْ يَنْفَعَكُمْ الْفِرَارُ إِنْ فَرَرْتُمْ مِنَ الْمَوْتِ
أَوِ الْقَتْلِ وَإِذًا لَأَمْتُنَّ عَنْ إِلَّا قَلِيلًا ﴿١٦﴾

قُلْ مَنْ ذَا الَّذِي يَعْصِمُكُمْ مِنَ اللَّهِ إِنْ أَرَادَ
بِكُمْ سُوءًا أَوْ أَرَادَ بِكُمْ رَحْمَةً وَلَا يَجِدُونَ لَهُمْ
مِنْ دُونِ اللَّهِ وَلِيًّا وَلَا نَصِيرًا ﴿١٧﴾

1 この「試練」とは、イスラーム*を棄（す）て、不信仰者*たちの宗教に戻る（アッ＝サアディー660頁参照）。

18. アッラー*は、あなた方の内（アッラー*の道における戦い）の妨害者たちと、その仲間たちに「（ムハンマド*を捨てて）私たちがもとに来るがよい」と言う者たちを、確かにご存知である。そして彼らは僅かばかりしか、戦いにやって来ることがない。¹

19. あなた方（信仰者たち）に対して、惜しみつつ²。（戦いによる死の）恐怖が到来した時、あなたは彼らがあなたを凝視するのを見たであろう。まるで死（への恐怖）ゆえに気絶する者のように、彼らの眼は回る。そして恐怖が立ち去った時には、善きもの（戦利品*）を惜しみつつ、あなた方に鋭い口調でまくし立てたのだ³。それらの者たちは信仰してはいなかったのであり、アッラー*はその行いを無駄にされた。それはアッラー*にとって、もとより容易いことだったのだ。

20. 彼ら（偽信者*たち）は、諸（部族）連合が行ってしまったのではない、と思っている⁴。また、もし諸（部族）連合が（再び）やって来たら、（マディーナ*を離れて）あなた方の（動向についての）知らせを尋ねつつ、ベドウィンたちと共に砂漠にいたならば、と望んだであろう。そしてもしあなた方と共にあったならば、彼らは僅かばかりしか戦うことなどなかったのだ。

*وَدَّعَاكَ اللَّهُ الْمَعْقُوفِينَ مِنْكُمْ وَلَقَدْ بَلَّغْنَا لَكُمْ إِلَهُكُمْ هَلُمَّ إِلَيْنَا وَلَا يَأْتُونَ الْبَأْسَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿١٨﴾

أَشِحَّةً عَلَيْكَ فَإِذَا جَاءَ الْخَوْفُ رَأَيْتَهُمْ يُنْظَرُونَ إِلَيْكَ وَتَدْرَأُهُمْ كَأَنَّهُمْ يَعْشَىٰ عَلَيْهِمِ الْمُوتُ فَإِذَا هَبَّ الْخَوْفُ سَلَفُوا بِأَلْسِنَةٍ حِدَادٍ أَشِحَّةً عَلَى الْخَيْرِ أُولَٰئِكَ لَمْ يُؤْمِنُوا فَأَحْبَطَ اللَّهُ أَعْمَالَهُمْ وَكَانَ ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرًا ﴿١٩﴾

يَحْسَبُونَ الْأَحْزَابَ لَمْ يَذْهَبُوا وَإِنْ يَأْتِ الْأَحْزَابُ يَوَدُّ أَنْ لَوْ أَنَّهُمْ بَادُونَ فِي الْأَعْرَابِ يَسْتَلُون عَنْ أَنْبِيَائِهِمْ وَلَوْ كَانُوا فِيكُمْ مَاقْتُلُوا إِلَّا قَلِيلًا ﴿٢٠﴾

1 死への恐怖のため。あるいは戦いに参加するのは、単なる外聞や見せかけのため（アル＝クルトウビー14:152 参照）。

2 偽信者*たちは信仰者たちへの敵意と憎しみゆえ、彼らに対して財産・生命・労力・愛情といったことを犠牲にすることを惜しんだ（ムヤッサル 420 頁参照）。

3 戦いの時には誰よりも臆病（おくびょう）だが、戦利品*の分配などにおいては、誰よりも雄弁になった（アル＝クルトウビー14:154 参照）。

4 アッラー*が彼らを退却（たいきやく）させられた後も、偽信者*たちは恐怖と臆病（おくびょう）さゆえに、彼らの退却を信じなかったのだという（ムヤッサル 420 頁参照）。

21. (信仰者たちよ、)確かに、あなた方にとってアッラー*の使徒*の内には、よき模範があった。アッラー*と最後の日*を望み¹、アッラー*をよく唱念^{しょうねん}していた者にとっては。

لَقَدْ كَانَ لَكُمْ فِي رَسُولِ اللَّهِ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ لِّمَن كَانَ يَرْجُوا اللَّهَ وَالْيَوْمَ الْآخِرَ وَذَكَرَ اللَّهَ كَثِيرًا ﴿٣١﴾

22. また信仰者たちは、諸(部族)連合を目にした時、(こう)言ったのである。「これはアッラー*とその使徒*が、私たちに約束したこと²。そしてアッラー*とその使徒*は、本当の^{おっしや}ことを仰^{うわ}られた」。それ³は彼らに、信仰心と従順さしか上乘せしなかったのだ。

وَلَقَارَأُ الْمُؤْمِنُونَ الْأَحْزَابَ قَالُوا هَذَا مَا وَعَدَنَا اللَّهُ وَرَسُولُهُ، وَهُمْ لَا يُخْلِفُونَ ﴿٣٢﴾

23. 信仰者たちの内には、アッラー*と契約したことに誠実であった男たちがいる。また、その中には誓約を果たした者⁴もいれば、その中には待つ者⁵もいる。彼らは(契約を)^{かいざん}改竄^{かいざん}してしまうことなど、なかったのだ。

مِنَ الْمُؤْمِنِينَ رِجَالٌ صَدَقُوا مَا عَاهَدُوا اللَّهَ عَلَيْهِ فَمِنْهُمْ مَّنْ قَضَىٰ نَحْبَهُ وَمِنْهُمْ مَّنْ يَنْتَظِرُ وَمَا بَدَّلُوا بَيْدًا ﴿٣٣﴾

24. (これらの出来事が起こったのは、)アッラー*が誠実な者たちをその誠実さで報われ、偽信者*たちを罰され——もし、かれが(彼らの懲罰^{ちやうばつ}を)お望みならばであるが——、あるいは彼らの悔悟^{かいご}をお受け入れになるため。本当にアッラー*はもとより、赦し深い^{じあい}お方、慈愛深い*お方。

لِيَجْزِيَ اللَّهُ الصَّادِقِينَ بِصِدْقِهِمْ وَيُعَذِّبَ الْمُنَافِقِينَ إِن شَاءَ أَوْ يَتُوبَ عَلَيْهِمْ إِنَّ اللَّهَ كَانَ غَفُورًا رَّحِيمًا ﴿٣٤﴾

1 この「望む」については、ユースス*章7の訳注を参照。

2 一説に、これは雌牛章214にある言葉。つまり近い日の勝利に先駆ける試練のこと(イブン・カスィール6:392参照)。

3 部族連合を目にしたこと(ムヤッサル420頁参照)。

4 アッラー*の道において殉教(じゅんきょう)したり、契約を全(まっとう)した、あるいは契約に誠実な状態で死を迎えたりした者のこと(前掲書421頁参照)。契約についてはアーヤ*15を参照。

5 勝利が殉教という、いずれにしても善きものを待つ者のこと(前掲書、同頁参照)。悔悟章52も参照。

25. またアッラー*は、不信仰だった者*たちをその 憤^{いきどお}りと共に、善いことなく（マディーナ*から）退却^{たいいきやく}させられた。そしてアッラー*は信仰者たちを、戦いなしで済ませて下さった^す1。アッラー*はもとより強力なお方、偉力ならびない*お方であられる。

26. またかれは、啓典^{けいてん}の民*の内、彼ら（部族連合）を援助した者たち^{とりで}2をその磐^{いわ}から引きずり出し、その心の内に恐怖を投げ入れられた。あなた方は（その）一派^{はい}を殺し、（別の）一派は捕虜とする。

27. また、かれはあなた方に、彼らの土地、彼らの住居、彼らの財産、そしてあなたがまだ足を踏み入れてはいない土地^つ3を引き継がされた。アッラー*はもとより、全てのことがお出来になるお方。

28. 預言者*よ、あなたの妻たちに言うのだ。「もし現世の生活とその飾^{かざ}りが欲しいのなら、来なさい。私はあなた方に贈り物^{おく}4をやり、あなた方と綺麗^{きれい}さっぱり別れてやろう。

وَرَدَّ اللَّهُ الَّذِينَ كَفَرُوا بِغَيْظِهِمْ لَمْ يَنَالُوا خَيْرًا وَكَفَى اللَّهُ الْمُؤْمِنِينَ الْقِتَالَ وَكَانَ اللَّهُ قَوِيًّا عَزِيزًا ﴿٥١﴾

وَأَنْزَلَ الَّذِينَ ظَلَمُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ مِنْ صَيَاصِيهِمْ وَقَذَفَ فِي قُلُوبِهِمُ الرُّعْبَ فَرِيقًا تَقْتُلُونَ وَتَأْسِرُونَ فَرِيقًا ﴿٥٢﴾

وَأَوْفَتْكُمْ أَنْصَهُمْ وَبَرَهُمْ وَأَمْرَهُمْ وَأَرْضًا لَمْ تَطُوهَا وَكَانَ اللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرًا ﴿٥٣﴾

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ قُلْ لِّأَزْوَاجِكَ إِن كُنْتُمْ تُرِيدُونَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا وَزِينَتَهَا فَتَعَالَيْتُمْ أَمْ تَتَّقُونَ وَأَسْرِحْكُمْ سَرَاحَ جَمِيلٍ ﴿٥٤﴾

1 部族連合の退却の経緯（いきさつ）については、アーヤ*9の訳注を参照。尚、この出来事を境（さかい）に敵の侵攻は途絶（とだ）え、逆にムスリム*軍の進撃が始まる（イブン・カスィール 6:396 参照）。

2 ユダヤ教徒*のクライザ族のこと（ムヤッサル 421 頁参照）。既にマディーナ*を追放されていたユダヤ教徒*ナディール族（集合章参照）の長フヤイイ・ブン・アフタブに唆（そその）かれ、協定を結んでいたムスリム*たちを裏切り、部族連合に協力した（イブン・カスィール 6:384 参照）。

3 その当時、まだムスリム*たちの土地とはなっていなかったマッカ*、ハイバル、ペルシャ、ローマ帝国、イエメンなどのこと（アッ=タバリー-8:6650 参照）。

4 雌牛章 236 で言及されている、離婚の際の贈り物のこと（前掲書、同頁参照）。

29. そして、もしあなたがアッラー*とその使徒*、来世の住まいを望む（がゆえに忍耐*して使徒*に従う）のなら、本当にアッラー*はあなた方の内、善を尽くす*者たちに偉大な褒美を用意されている。¹

30. 預言者*の妻たちよ、あなた方の内、紛れもない醜行²を犯す者があれば、その者には懲罰が二倍に倍增されよう。そしてそれはもとよりアッラー*にとって、容易いことなのだ。

31. あなた方の内、アッラー*とその使徒*に謹んで仕え、正しい行い*を行う者があれば、われら*はその者に褒美を二度与えよう。そしてわれら*は彼女のために、貴い糧³を用意しておいたのだ。

32. 預言者*の妻たちよ⁴、あなた方は（その徳と地位において、）女性たちの誰とも同様ではない。もしあなたが（アッラー*を）畏れ*るならば、（マハラム*でもない男性に対して）なよなよとした物言いをし、心に病がある者に（禁じられた）欲望を抱かせてしまってはならない。そして適切な物言い⁵をするのだ。

وَإِنْ كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَالذَّارِ
الْآخِرَةَ فَإِنَّ اللَّهَ أَعَدَّ لِلْمُحْسِنِينَ مِنْكُمْ
أَجْرًا عَظِيمًا ﴿٣٩﴾

يَا نِسَاءَ النَّبِيِّ مَنْ يَأْتِ مِنْكُمُ بِفَاحِشَةٍ
مُبِينَةٍ يَضَعُفْ لَهَا الْعَذَابُ ضِعْفَيْنِ
وَكَانَ ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرًا ﴿٤٠﴾

* وَمَنْ يَقْنُتْ مِنْكُمْ لِلَّهِ وَرَسُولِهِ وَتَعْمَلْ
صَالِحًا نُؤْتِهَا أَجْرَهَا مَرَّتَيْنِ وَأَعْتَدْنَا لَهَا
رِزْقًا كَرِيمًا ﴿٤١﴾

يَا نِسَاءَ النَّبِيِّ لَسْتُنَّ كَأَحَدٍ مِنَ النِّسَاءِ
إِنَّ أَنْفَاقَكُمْ فَلَا تَحْصَعْنَ بِالْقَوْلِ فَيَطْمَعَ الَّذِي
فِي قَلْبِهِ مَرَضٌ وَقُلْنَ قَوْلًا مَعْرُوفًا ﴿٤٢﴾

1 アーヤ*28-29 は、自分たちへの出費を増やすよう要求した、預言者*の妻たちに関して下ったものとされる。そして彼女らは全員、アッラー*とその使徒*、そして来世を選んだ（ムヤッサル 421 頁参照）。

2 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

3 「貴い糧」とは、天国のこと（前掲書 422 頁参照）。

4 この呼びかけによる一連の指導は、預言者*の妻だけでなく、全てのムスリム*女性にも向けられたものである（イブン・カシール 6:408 参照）。

5 疑惑の原因となるようなことを避けつつ、イスラーム*法に沿った形で、聞く者が嫌にも思わず、放逸な者の欲望を煽（あお）らないような物言い（アッ=シャウカーニー 4:365 参照）。

33. また（必要時以外は）あなた方の家に留まり、先（代）のジャーヒリーヤ*の飾り立てのように、自らをこれ見よがしに飾り立ててはならない¹。そして礼拝を遵守²し、淨財*を支払い、アッラー*とその使徒*に従え。本当にアッラー*は——（預言者*の）家の者たち²よ——、あなた方から穢れを取り除き、あなた方を綺麗に清められたいのである。

34. そして（預言者*の妻たちよ）、あなた方の家で読誦されるアッラー*の御微³と英知³を唱念するのだ。本当にアッラー*はもとより、靈妙な*お方、通曉されたお方。

35. 本当に服従する男（ムスリム*）たちと服従する女たち、信仰する男たちと信仰する女たち、従順な男たちと従順な女たち、（言動において）正直な男たちと正直な女たち、忍耐*する男たちと忍耐*する女たち、恭順⁴な男たちと恭順な女たち、よく施す男たちとよく施す女たち、（義務、任意を問わず）サウム*する男たちとサウム*する女たち、自らの陰部を（禁じられた物事⁵から）守る男たちと（それを）守る女たち、アッラー*をよく唱念する者たちと、（かれをよく）唱念する女たち、アッラー*は

وَقَرَنَ فِي بُيُوتِكُمْ وَلَا تَخْرُجَنَّ تَرَجَّ
الْجَاهِلِيَّةِ الْأُولَى وَأَقِمْنَ الصَّلَاةَ
وَأَتِينَ الزَّكَاةَ وَأَطِعْنَ اللَّهَ
وَرَسُولَهُ إِنَّمَا يُرِيدُ اللَّهُ لِيُذْهِبَ عَنْكُمْ
الْزِّيغَ أَهْلَ الْبَيْتِ وَيُطَهِّرَكُمْ تَطْهِيرًا ﴿٣٣﴾

وَأَذْكُرْتَ مَا بَيْنَكَ فِي بُيُوتِكُنَّ
مِنْ آيَاتِ اللَّهِ وَالْحِكْمَةِ إِنَّ اللَّهَ
كَانَ لَاطِيفًا خَبِيرًا ﴿٣٤﴾

إِنَّ الْمُسْلِمِينَ وَالْمُسْلِمَاتِ
وَالْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ وَالْقَانِتِينَ
وَالْقَانِتَاتِ وَالصَّادِقِينَ وَالصَّادِقَاتِ
وَالصَّابِرِينَ وَالصَّابِرَاتِ وَالْخَاشِعِينَ
وَالْخَاشِعَاتِ وَالْمُتَصَدِّقِينَ وَالْمُتَصَدِّقَاتِ
وَالصَّامِعِينَ وَالصَّامِعَاتِ وَالْحَافِظِينَ
فُرُوجَهُمُ وَالْحَافِظَاتِ وَالذَّاكِرِينَ
اللَّهَ كَثِيرًا وَالذَّاكِرَاتِ
أَعَدَّ اللَّهُ لَهُمْ مَغْفِرَةً وَأَجْرًا عَظِيمًا ﴿٣٥﴾

1 アーヤ*59、御光章 31、60 も参照。

2 預言者*の妻、子孫を含む、その一族のこと（ムヤッサル 422 頁参照）。

3 「御微」はクルアーン*のアーヤ*、「英知」は、その奥にひそむ意味と、預言者*のスナ*のこと。このアーヤ*の意味には、その言葉を「心に刻む」だけでなく、その読誦、熟考（じゅっこう）、そこに含まれる英知と法規定の発見、その実践と解釈なども含まれるとされる（アッ＝サアディー663 頁参照）。

4 「恭順」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

5 この「禁じられた物事」については、御光章 30 の訳注を参照。

彼らのために、お赦しと偉大な褒美^{ほうび}^{ゆる}1をご用意された。

36. 信仰者の男性も、信仰者の女性も、アッラー*とその使徒*が何かを裁決したら、彼らに自分たちの裁量^{さいりよう}による（別の裁決^{さいけつ}）選択はない。そしてアッラー*とその使徒*に逆らう者がいれば、確かに彼は紛れもなく迷い去っているのである。2

37. （預言者*よ、）アッラー*が恩恵をお授けになり、あなたが恩恵^{おんけい}を与えた者（ザイド・ブン・ハハリサ）3に、あなたが（こう）言った時のこと（を思い出させよ）。「（ザイドよ、）あなたの妻^{とど}4を自分のもとに留めておけ。そしてアッラー*を畏れる*のだ」。そしてあなたは、アッラー*が露わにされることになるものを心の内に隠し^{かく}5、アッラー*があなたの恐れるにより相応しいお方なのに、人々を恐れていた6。そしてザイドが彼女との（離婚という）用件を果たし、（イッダ*が終了し）た時、われら*はあなたと彼女を結婚させた。（それは）自分たちの養子の妻（との結婚）に関し、彼らが彼

وَمَا كَانَ لِمُؤْمِنٍ وَلَا مُؤْمِنَةٍ إِذَا قَضَى اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَمْرًا أَنْ يَكُونَ لَهُمُ الْخِيَرَةُ مِنْ أَمْرِهِمْ وَمَنْ يَعْصِ اللَّهَ وَرَسُولَهُ فَقَدْ ضَلَّ ضَلَالًا مُبِينًا ﴿٣٦﴾

وَإِذْ تَقُولُ لِلَّذِي أَنْعَمَ اللَّهُ عَلَيْهِ وَأَنْعَمْتَ عَلَيْهِ أَمْسِكْ عَلَيْكَ زَوْجَكَ وَاتَّقِ اللَّهَ وَتُخْفِي فِي نَفْسِكَ مَا اللَّهُ مُبْدِيهِ وَتَخْشَى النَّاسَ وَاللَّهُ أَحَقُّ أَنْ تَخْشَاهُ فَلَمَّا قَضَى زَيْدٌ مِنْهَا وَطَرًا زَوَّجْنَاكَهَا لِكَيْ لَا يَكُونَ عَلَى الْمُؤْمِنِينَ حَرَجٌ فِي أَزْوَاجِ أَدْعِيَائِهِمْ إِذَا قَضَوْا مِنْهُنَّ وَطَرًا وَكَانَ أَمْرُ اللَّهِ مَفْعُولًا ﴿٣٧﴾

1 天国のこととされる（ムヤッサル 422 頁参照）。

2 同様のアーヤ*として、婦人章 65 も参照。

3 アッラー*は彼にイスラーム*の恩恵をお授けになり、預言者*ムハンマド*は奴隸*であった彼を解放し、（イスラーム*において養子関係が禁じられる前に）彼を自分の養子とした（前掲書 423 頁参照）。

4 ザйнаブ・ビント・ジャハシュのこと（前掲書、同頁参照）。

5 アッラー*は、ザイドがその妻ザйнаブを離婚し、預言者*が彼女と結婚することになることを、預言者*に前もって知らせていた（前掲書 423 頁参照）。

6 悪意ある人々が、「ムハンマド*は自分の養子の妻と結婚した」と言うことを、恐れていた（前掲書、同頁参照）。

女らとの（離婚という）用件を果たしたならば、信仰者たちにとっての罪にはならない（ようにする）ためである¹。アッラー*のご命令はもとより、実行されることになっていたのだ。

38. 預言者*はアッラー*が彼のために（合法と）定められたことにおいて、何の罪もない。過去に滅び去った（預言）者*たちにおける、アッラー*の摂理（として、かれがお定めになったことなのである）。アッラー*のご命令はもとより、（既に）定められていた定命なのだ。

39. （彼ら預言者*たちは、）アッラー*のお言伝を伝達し、かれ（のみ）を恐れ、アッラー*以外のいかなるものも恐れることのない者たち。そしてアッラー*だけで、清算者*は十分である。

40. ムハンマド*はそもそも、あなた方の男性の内の、誰の父親でもない²。しかしアッラー*の使徒*、預言者*たちの封印³なのだ。そしてアッラー*はもとより、全てのことをご存知のお方。

41. 信仰する者たちよ、アッラー*をよく唱念せよ。

42. そしてかれを、朝に夕に称え*よ。

مَا كَانَ عَلَى النَّبِيِّ مِنْ حَرَجٍ فِيمَا فَرَضَ اللَّهُ لَهُ سُنَّةَ اللَّهِ فِي الَّذِينَ خَلَوْا مِنْ قَبْلُ وَكَانَ أَمْرُ اللَّهِ قَدَرًا مَقْدُورًا ﴿٣٨﴾

الَّذِينَ يَسْلَعُونَ رَسُولَ اللَّهِ وَيَخْشَوْنَهُ وَلَا يَخْشَوْنَ أَحَدًا إِلَّا اللَّهَ وَكُنِيَ بِاللَّهِ حَسِيبًا ﴿٣٩﴾

مَا كَانَ مُحَمَّدٌ أَبَا أَحَدٍ مِنْ رِجَالِكُمْ وَلَكِنْ رَسُولَ اللَّهِ وَخَاتَمَ النَّبِيِّينَ وَكَانَ اللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمًا ﴿٤٠﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا أَذْكُرُوا اللَّهَ ذِكْرًا كَثِيرًا ﴿٤١﴾

وَسَبِّحُوْهُ بُكْرَةً وَأَصِيْلًا ﴿٤٢﴾

1 つまりアッラー*は、自分の養子が離婚した女性と結婚することを合法とするため、預言者*をその実例としてお選びになった。養子関係そのものはアーヤ*5 によって禁じられた（ムヤッサル 423 頁参照）。

2 預言者*は生前、ザイドを含め、いかなる成人*男性の父親となることもなかった。彼の男児は皆、夭折（ようせつ）している（アル＝クルトウビーヤ 14:196 参照）。

3 最後の預言者*、ということ（ムヤッサル 423 頁参照）。

43. かれは、あなた方（信仰者）^{やみ}を闇から光^{あかり}¹へと（導き）出すべく、あなた方のために（善きことを）念じられた²お方。そして、かれの天使*たちも（あなた方のため、善きことを念じる³）。かれはもとより、信仰者たちに対して慈愛深い*お方なのだ。

44. その日（天国で）、彼らが（アッラー*から）受け取るその挨拶は、「（あなた方に）平安を⁴」。そしてかれは彼らのため、貴い褒美⁵をご用意された。

45. 預言者*よ、実にわれら*はあなたを、証人⁶、吉報を伝える者、警告を告げる者⁷として遣わした。

46. また、かれのお許しのもとに、アッラー*（のタウヒード*）へと招く者、煌々たる灯火⁸として。

47. そして（預言者*よ、）信仰者たちには、アッラー*の御許から彼らへの大きなご恩寵があることの吉報⁹を伝えよ。

48. また、不信仰者*たちや偽信者*^{にせしんじや}たちには従わず、彼らの害は放^{ほう}っておき、アッラー*のみに全てを委ねる*のだ。アッラー*^{した}だけで、委任者^{いじん}*は十分なのである。

هُوَ الَّذِي يُصَلِّيْ عَلَيْكُمْ وَمَلَائِكَةُ
يُخْرِجُكُمْ مِنَ الظُّلُمَاتِ إِلَى النُّوْرِ وَكَانَ
بِالْمُؤْمِنِينَ رَحِيْمًا ﴿١٧﴾

يَجْزِيهِمْ يَوْمَ يَقُوْمَةُ سَلَامًا وَعَدَ لَهُمْ أَجْرًا
كَبِيْرًا ﴿١٨﴾

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ إِنَّا أَرْسَلْنَاكَ شَهِيدًا وَمُبَشِّرًا
وَنَذِيرًا ﴿١٩﴾

وَدَاعِيًا إِلَى اللَّهِ بِإِذْنِهِ وَسِرَاجًا مُنِيرًا ﴿٢٠﴾

وَبَشِّرِ الْمُؤْمِنِينَ بِأَنَّ لَهُمْ مِنَ اللَّهِ فَضْلًا
كَبِيْرًا ﴿٢١﴾

وَلَا تُطِيعِ الْكُفْرِيْنَ وَالْمُنَافِقِيْنَ وَدَعْ أَذُنَهُمْ
وَتَوَكَّلْ عَلَى اللَّهِ وَكَفَى بِاللَّهِ وَكِيلًا ﴿٢٢﴾

1 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

2 アッラー*が彼らのために「念じられる」とは、彼らにご慈悲をかけ、彼らを讃美（さんび）されること（ムヤッサル 423 頁参照）。

3 天使*たちが彼らのために「念じる」とは、彼らのために祈願すること（前掲書、同頁参照）。
赦し深いお方章 7-9 も参照。

4 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注も参照。

5 「貴い褒美」とは、天国のこと（前掲書 424 頁参照）。

6 「証人」については、雌牛章 143 の訳注を参照。

7 「吉報を伝える者」「警告を告げる者」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

8 頻出名・用語解説の「全てを請け負われる*お方」も参照。

49. 信仰する者たちよ、あなた方が信仰者の女たちと結婚し、それから彼女らに触れる前に彼女らと離婚したならば、あなた方にとって彼女らに数えるべきイッダ*はない²。ならば彼女らに贈り物を与え³、(結婚関係から)綺麗に解き放ってやるのだ。

50. 預言者*よ、本当にわれら*はあなたに、あなたが婚資金*を贈ったあなたの妻たちを合法とした。また、アッラー*があなたに戦利品⁴としてお与えになった、あなた方の右手が所有した者たち(奴隷*女性)も。またあなたと共に移住*した⁵、あなた方の父方の叔(伯)父の娘たち、あなた方の父方の叔(伯)母の娘たち、あなた方の母方の叔(伯)父の娘たち、あなた方の母方の叔(伯)母の娘たちも⁶。また信仰者の女性も、もし彼女が預言者*に、自らを(婚資金*なしで妻として)贈ったならば(、彼女は彼にとって合法である)。(但し、それは)もし預言者*が、彼女との結婚を望んだ場合であるが⁷。(それは外の)信仰者たちは別とした、あなただけの特別なもの。われら

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا نَكَحْتُمُ الْمُؤْمِنَاتِ
 ثُمَّ طَلَقْتُمُوهُنَّ مِنْ قَبْلِ أَنْ تَمْسُوهُنَّ فَمَا
 لَكُمْ عَلَيْهِنَّ مِنْ عِدَّةٍ تَعْتَدُونَهَا فَيَعْبُوهُنَّ
 وَسَرَاجُهُنَّ سَرَاحًا جَمِيلًا ﴿٤٩﴾

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ إِنَّا أَحْلَلْنَا لَكَ أَزْوَاجَكَ الَّتِي
 ءَاتَيْتَ أَجُورَهُنَّ وَمَا مَلَكَتْ يَمِينُكَ مِمَّا
 أَفَاءَ اللَّهُ عَلَيْكَ وَبَنَاتِ عَمِّكَ
 وَبَنَاتِ خَالَكَ وَبَنَاتِ خَالَاتِكَ الَّتِي
 هَاجَرْنَ مَعَكَ وَأَمْرًاؤَةً مُؤْمِنَةً إِنْ وَهَبَتْ
 نَفْسَهَا لِلنَّبِيِّ إِنْ أَرَادَ النَّبِيُّ أَنْ يَسْتَنْكِحَهَا
 خَالِصَةً لَكَ مِنْ دُونِ الْمُؤْمِنِينَ قَدْ
 عَلِمْنَا مَا فَرَضْنَا عَلَيْهِمْ فِي أَزْوَاجِهِمْ
 وَمَا مَلَكَتْ أَيْمَانُهُمْ لِكَيْلَا يَكُونَ
 عَلَيْكَ حَرَجٌ وَكَانَ اللَّهُ غَفُورًا
 رَحِيمًا ﴿٥٠﴾

1 性交する前に、ということ (ムヤッサル 424 頁参照)。

2 イッダ*の種類については、雌牛章 228 「三度の月経」についての訳注も参照。

3 雌牛章 236-237 も参照。

4 この「戦利品* (ファイウ)」については、頻出名・用語解説を参照。

5 これは預言者*ムハンマド*だけの、特別な条件とされる (アッ=サアディー 669 頁参照)。

6 アーヤ*冒頭からここまでは、預言者*だけでなくムスリム*男性一般に共通した規定。また、ここで一部の近親女性が挙げられているのは、それ以外の女性が禁じられているというわけではなく (婦人章 23 も参照)、結婚することを許される最近縁の女性を示しているに過ぎない (前掲書、同頁参照)。

7 現実上、預言者*に自らを差し出した女性は複数に上るが、彼がそれを受け入れたことは一度もなかったとされる (イブン・カスィール 6:444 参照)。

*は確かに、彼ら（信仰者たち）の妻と、彼らの右手が所有するもの（奴隷*女性）について、われら*が彼らに定めたもの¹を知っている。（これらのことを、あなたに特別に合法としたのは、）あなたに困難がないようにするため。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

51. あなたは、あなたが望む者を遅らせ、あなたが望む者を自分のもとに引き寄せる²。また、あなたが（一旦は）避けた者の内、あなたが（後に）欲した者も。あなたにはいかなる罪もない。それが、彼女たちが喜んで⁴、悲しむことはなく、彼女たち全員が、あなたが彼女らに与えたものに満足するのに、より適切なのである。アッラー*は、あなた方の心の中にあることをご存知である。アッラー*はもとより全知者、寛大な*お方なのだから。

52. 以後、（既に結婚していた妻たちとは別の）女性たち（との結婚）は、あなたに許されないし、彼女らを（離婚して、別の）妻た

* تُبْعَى مِنْ نِسَاءِ مَنْهَنْ وَتُؤَيَّ إِلَيْكَ مِنْ نِسَاءِ مَنْ أَبْغَيْتَ وَمَنْ عَزَلْتَ فَلَا جُنَاحَ عَلَيْكَ ذَلِكَ أَدْنَىٰ أَنْ تَقَرَّ أَعْيُنُهُنَّ وَلَا يَخْزَيْنَ وَيَرْضَيْنَ بِمَا آتَيْنَهُنَّ كُلُّهُنَّ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا فِي قُلُوبِكُمْ وَكَانَ اللَّهُ عَلِيمًا حَلِيمًا ﴿٥١﴾

لَا يَحِلُّ لَكَ النِّسَاءُ مِنْ بَعْدُ وَلَا أَنْ تَبَدَّلَ بِهِنَّ مِنْ أَزْوَاجٍ وَلَوْ أَعْجَبَكَ حُسْنُهُنَّ إِلَّا مَا مَلَكَتْ يَمِينُكَ ﴿٥٢﴾

1 この「定めたもの」とは、自由民女性には四人まで、奴隷*女性には数の制限なく結婚できること、そして結婚の際には、後見人、婚資金*、証人が条件付けられることであるとされる（ムヤッサル 424 頁参照）。

2 これは、自らを差し出した女性や、共に過ごす時間を妻たちの間で配分すること（婦人章 128 とその訳注も参照）に関することとされる。一部の学者は、妻たちへの時間の平等な配分は、預言者*にとっての義務ではなかったが、それでも彼は時間を平等に振り分けていた、とする（イブン・カスィール 6:446 参照）。

3 「それ」とは、その選択のこと（ムヤッサル 425 頁参照）。または、自分にとっては義務ではないにも関わらず、預言者*が妻たちに平等に時間を割（さ）いていたこと（イブン・カスィール 6:446 参照）。

4 この「喜び」については、マルヤム*章 26 の訳注を参照。

ちと換えることも（許されない）¹。たとえ、彼女ら（妻以外の女性たち）の美しさが、あなたを魅了したとしても、^{みりよう}但し、あなたの右手が所有するもの（奴隷*女性）は別である。アッラー*はもとより、全てのことを見守られるお方。

53. 信仰する者たちよ、あなた方に食事へと許可された場合を除き、^{のぞ}預言者*の家にってはならない²。（食事が用意できる）その時を、（彼の家の中で）待ってもならない。しかし呼ばれたら入り、食べ終わったら解散するのだ。（^{かいさん}預言者*の迷惑になるまで、夢中になって長々と）話に興じることなく。本当にそのことは預言者*を害していたのであり、彼はあなた方に対して羞恥心を抱く^{いだ}のだから——アッラー*は、真理に対して恥じ入れられないが——。また、あなた方が彼女ら（彼の妻たち）に何らかの物を頼む時には、^{おお}覆いの向こうから、彼女らに頼むのだ。それがあなた方の心と彼女らの心にとって、より清いのである。また、あなた方にはアッラー*の使徒*を害したり、彼の（死）後、その妻たちと結婚したりすることは、絶対^{ゆる}に許されない³。本当にそれはもとより、アッラー*の御許でこの上ないこと⁴なのである。

وَكَانَ اللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ رَءِيفًا ﴿٥٣﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَدْخُلُوا بُيُوتَ النَّبِيِّ إِلَّا أَنْ يُدْعَا لَكُمْ إِلَى طَعَامٍ غَيْرَ نَظِيرٍ لَهُ إِنَّهُ وَلَئِنْ إِذَا دُعِيتُمْ فَادْخُلُوا فَإِذَا طَعِمْتُمْ فَانْصَرِفُوا وَلَا تُسْتَفْسِدِينَ الْحَدِيثَ إِنَّ دَلِيلَكُمْ كَانَ يُؤْذِي النَّبِيَّ فَيَسْتَحْيِهِ مِنْكُمْ وَاللَّهُ لَا يَسْتَحْيِي مِنَ الْحَقِّ وَإِذَا سَأَلْتُمُوهُنَّ مَتَاعًا فَاسْأَلُوهُنَّ مِنْ وَرَاءِ حِجَابٍ دَلِيلَكُمْ أَظْهَرَ لِقُلُوبِكُمْ وَقُلُوبِهِنَّ وَمَا كَانَ لَكُمْ أَنْ تُؤْذُوا رَسُولَ اللَّهِ وَلَا أَنْ تَنْكِحُوا أَزْوَاجَهُ مِنْ بَعْدِهِ أَبَدًا إِنَّ ذَلِكَ كَانَ عِنْدَ اللَّهِ عَظِيمًا ﴿٥٤﴾

1 これは預言者*ムハンマド*の妻たちが、アーヤ*29 を受けて、アッラー*とその使徒*と来世を選んだことによる、栄誉と報いであった（ムヤッサル 425 頁参照）。

2 一説にこのアーヤ*は、ヒジュラ暦*5 年暮れの、預言者*とザイナブ・ビント・ジャハシュの婚宴（こんえん）の食事で起きたことに関して下った（イブン・カスィール 6:451 参照）。

3 アーヤ*6 にもある通り、彼女らは信仰者たちの母であり（ムヤッサル 425 頁参照）、現世と来世における預言者*ムハンマド*の妻なのである（アッ=サアディー 670 頁参照）。

4 この上ない罪、ということ（ムヤッサル 425 頁参照）。

54. あなた方が何かを露わにしようと、それを隠そうと、実にアッラー*はもとより、全てのことをご存知のお方。

55. 彼女たちにとって、(以下の者たちから、身を覆わなくても) 罪はない²：自分たちの父親。自分たちの息子。自分たちの兄弟。自分たちの兄弟の息子。自分たちの姉妹の息子。自分たちの女性。自分たちの右手が所有するもの(奴隷*男性)。アッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*はもとより、全てのことの証人であられるのだから。

56. 本当にアッラー*とその天使*たちは、預言者*のために(善きことを)念じる³。信仰する者たちよ、彼のために(善きことを)念じ、平安を祈るのだ⁴。

57. 本当にアッラー*とその使徒*を害する⁵者たち、アッラー*は彼らを現世と来世において呪われた⁶。そしてかれは彼らに、屈辱的な懲罰をご用意されたのだ。

إِنْ تَبْدُوا شَيْئًا أَوْ تُخْفُوهُ فَإِنَّ اللَّهَ كَانَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمًا ﴿٥٤﴾

لَا جُنَاحَ عَلَيْكُمْ فِيءِ آبَائِهِمْ وَلَا أَبْنَائِهِمْ وَلَا إِخْوَانِهِمْ وَلَا أَسْتَبَاءَ إِخْوَانِهِمْ وَلَا يَسَائِهِمْ وَلَا مِمَّا مَلَكَتْ أَيْمَانُهُمْ ۚ وَأَقْبَرَتِ اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدًا ﴿٥٥﴾

إِنَّ اللَّهَ وَمَلَائِكَتَهُ يُصَلُّونَ عَلَى النَّبِيِّ ۚ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا صَلُّوا عَلَيْهِ وَسَلِّمُوا تَسْلِيمًا ﴿٥٦﴾

إِنَّ الَّذِينَ يُؤْذُونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ لَعَنَهُمُ اللَّهُ فِي الدُّنْيَا وَالْآخِرَةِ وَأَعَدَّ لَهُمْ عَذَابًا مُهِينًا ﴿٥٧﴾

1 預言者*の妻たちと、それ以外のムスリム*の成人*・自由民女性のこと(アッ=シャウカーニー4:394 参照)。アーヤ*59 も参照。

2 ムスリム*の成人*・自由民女性が身を覆うべきとされる相手については、御光章 31 とその訳注により詳しく描写されている。また体のどこを覆うべきかについては、同アーヤ*の訳注、および類出名・用語解説の「アウラ*」を参照。

3 アッラー*が預言者*のために「念じる」とは、かれのお傍(そば)に控えている天使*たちのもとで、彼を讃美(さんび)すること。天使*たちが彼のために「念じる」とは、彼を讃美し、彼のために祈願することとされる(ムヤッサル 426 頁参照)。

4 ムスリム*が預言者*のために「念じる」形式には、様々なものがある。その内の代表的なものとして、アル=ブハーリー4797 に収録されたものを参照(前掲書、同頁参照)。また、「平安を祈る」については、家畜章 54 の訳注を参照。

5 「アッラー*を害する」とは、不信仰、シルク*、かれに対して相応しくない言葉(前掲書、同頁参照)。「アッラー*の使徒*への害」は、彼を害する全ての言行(アル=クルトゥビー 14:237-238 参照)。

6 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

58. また、信仰者の男たちと信仰者の女たちを、彼らが稼いだことでもないことで害する¹者たち、彼らは確かに大嘘と紛れもない罪を背負い込んだのである。

59. 預言者*よ、あなたの妻たちとあなたの娘たち、信仰者たちの女性らに、彼女らの外衣²の一部を自らの上に垂らすよう、言うのだ。それが、彼女らが認識され³、害されることがないようにするのに、より相応しいのだから。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

60. もしも偽信者*たち、心の中に病がある者たち、マディーナ*で(ムスリム*に対する嘘を)吹聴する者たちが(悪事を)止めなかったのなら、われら*は必ずやあなたを彼ら(の懲罰)へと促そう。それから彼らは僅かな間しか、そこであなたと隣り合って暮らすことはない。

61. 呪われた者たちとなって。彼らはどこであろうと、(捕虜として)捕らえられ、完膚なきまでにやつつけられるのだ。

62. 過去に滅び去った(偽信)者*たちにおける、アッラー*の摂理(として、かれがお定めになったこと)。そして(預言者*よ、)あなたはアッラー*の摂理に、いかなる変更も見出すことはない。

وَالَّذِينَ يُؤْذُونَ الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ
بِغَيْرِ مَا اكْتَسَبُوا فَقَدْ احْتَمَلُوا
بُهْتَانًا وَإِصْغَامًا ۖ

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ قُلْ لِّأَزْوَاجِكَ وَبَنَاتِكَ
وَنِسَاءِ الْمُؤْمِنِينَ يُدْبِرْنَ عَلَيْهِنَّ مِنْ
جَلْبَابٍ ذَلِكُمْ أَذْنُ أَنْ يَعْرِفْنَ فَلَا
يُؤْذِينَ ۖ وَكَانَ اللَّهُ عَفُورًا رَحِيمًا ۝

*لَيْنَ لِّرَبِّتِنَا الْمُتَّقِينَ وَالَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ
مَّرَضٌ وَالْمُرْجِفُونَ فِي الْمَدِينَةِ
لَنُغْرِيَنَّكَ بِهِمْ ثُمَّ لَا يُجَاوِرُونَكَ فِيهَا إِلَّا
فَلِيكًا ۝

مَلْعُونِينَ ۖ إِنَّمَا تُقْبَلُوا وَتُؤْخَذُوا وَيُقْلُوا
تَقْتِيلًا ۝

سُنَّةَ اللَّهِ فِي الَّذِينَ خَلَوْا مِنْ قَبْلُ
وَلَنْ تَجِدَ لِسُنَّةِ اللَّهِ تَبْدِيلًا ۝

1 言ったり、やったりしていない罪のこと (ムヤッサル 426 頁参照)。

2 この「外衣(ジルバブ)」は、御光章 31 にある「スカーフ」よりも大きく、全身を包むもの(アル=クルトゥビー 14:243 参照)。

3 慎(つつし)み深さと、保身を認識されるということ (ムヤッサル 426 頁参照)。あるいは、奴隷*女性やふしだらな女性ではなく、自由民女性と認識されること。一説に、マディーナ*の夜には放逸な者たちが出現し、用事のために外出した奴隷*女性らを害することがあった。しかし外衣をまとった女性は自由民と認識され、害されることはなかったのだという(イブン・カスィール 6:482 参照)。

63. (使徒*よ、)人々はあなたに、(復活*の)その時について尋ねる¹。言ってやれ。「その知識は、アッラー*の御許にこそある」。そして何があなたに知らせるというのか、その時が近いかもしれないことを?²
64. 本当にアッラー*は、不信仰者*たちを呪われ³、彼らに烈火をご用意された。
65. 彼らはそこに、いかなる庇護者も援助者も見出すことなく、永遠に留まる。
66. 業火の中でその顔がひっくり返される日、彼らは(こう)言う。「ああ、私たちがアッラー*に^{したが}従い、使徒*に^{したが}従っていたならば!」
67. そして、彼らは言う。「我らが主*よ、本当に私たちは自分たちの長と有力者たちに^{したが}従い、彼らは私たちを道に迷わせました。
68. 我らが主*よ、彼らには懲罰の内から倍のものをお与えになり、彼らをこっぴどく呪ってください」。⁴
69. 信仰する者たちよ、ムーサー*を害した者たちのようになってはならない。アッラー*はムーサー*を、彼らが言ったことから潔白として下さったのだ⁵。彼はアッラー*の御許で、栄誉ある者だった。

يَسْأَلُكَ النَّاسُ عَنِ السَّاعَةِ ۖ قُلْ إِنَّمَا أَعْلَمُهَا عِنْدَ اللَّهِ وَمَا يَذِّكُّكَ لَعَلَّ السَّاعَةَ تَكُونُ قَرِيبًا ﴿٦٣﴾

إِنَّ اللَّهَ لَعَنَ الْكُفْرِينَ وَأَعَدَّ لَهُمْ سَعِيرًا ﴿٦٤﴾

خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا لَا يَجِدُونَ فِيهَا وَلِيًّا وَلَا يُصِيرُ ﴿٦٥﴾

يَوْمَ تَقَلَّبُ وُجُوهُهُمْ فِي النَّارِ يَقُولُونَ يَا نَبِيَّتَنَا اطْعَمْنَا اللَّهُ وَأَطَعْنَا الرَّسُولَ ﴿٦٦﴾

وَقَالُوا رَبَّنَا إِنَّا أَطَعْنَا سَادَتَنَا وَكُبَرَاءَنَا فَأَصْلَحْنَا السَّبِيلَ ﴿٦٧﴾

رَبَّنَا إِنَّهُمْ ضَعَفَيْنَا مِنَ الْعَذَابِ وَالْعَنَتُمْ لَعْنًا كَبِيرًا ﴿٦٨﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَكُونُوا كَالَّذِينَ ءَادُوا مُوسَىٰ فَبَرَأَهُ اللَّهُ مِمَّا قَالُوا وَكَانَ عِنْدَ اللَّهِ وَجِيهًا ﴿٦٩﴾

1 ある者はそれを早く起こしてみよ、と言い(家畜章 57-58 とその訳注も参照)、ある者はそれを嘘とした(アッ=サアディー672 頁参照)。

2 「復活の日*の近さ」については、蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注も参照。

3 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

4 同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、サバア章 31-33、40-41 も参照。

5 一説に、ムーサー*は非常に羞恥(しゅうち)心が強く、人に肌を見せることがなかった。それでイスラーイールの子ら*の一部の者たちは、彼の体には欠陥(けっかん)があるのだと主張したが、アッラー*はある時、彼の体には何の欠陥もないことを証明された(アル=ブハーリー3404 参照)。

70. 信仰する者たちよ、アッラー*を畏れ*、ま
ったような物言い^{おそ}をせよ。

71. (そうすれば) かれはあなた方のため、あ
なた方の行いを正して下さり、あなた方の
ためにその罪^{つみ}をお赦^{ゆる}し下さろう。アッラー
*とその使徒^{しと}*に従^{したが}う者は誰でも、確かに
(現世と来世において、) 偉大な勝利を
獲得したのだ。

72. 本当にわれら*は信託^{しんたく}を、諸天と大地と山々
に差し出し(選択させ)た。そしてそれら
はそれを請け負^ううのを拒否^{きよひ}して、それ(を
遂行できないこと)に怯え、人間がそれを請
け負^おったのだ。本当に彼は不正*極まりな
く、無知この上ない者だったのである³。

73. (人間がそれを請け負^うったのは) アッラー
*が偽信者^{にせしんじや}*の男たちと偽信者^{にせしんじや}*の女たち、シルク*
の徒の男たちとシルク*の徒の女たち
を罰され、またアッラー*が信仰者の男たち
と信仰者の女たちの悔悟^{かいご}をお受け入れに
なるため⁴。アッラーはもとより、赦し深い
お方、慈愛深い*お方である。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا اتَّقُوا اللَّهَ وَقُولُوا قَوْلًا
سَدِيدًا ﴿٧٠﴾

يُصْلِحْ لَكُمْ أَعْمَالَكُمْ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ
وَمِنَ بَطْنِ اللَّهِ وَرَسُولِهِ قَدْ قَوْلًا عَظِيمًا ﴿٧١﴾

إِنَّا عَرَضْنَا الْأَمَانَةَ عَلَى السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ
وَالْجِبَالِ فَأَبَيْنَ أَنْ يَحْمِلْنَهَا وَأَشْفَقْنَ مِنْهَا
وَحَمَلَهَا الْإِنْسَانُ إِنَّهُ كَانَ ظَلُومًا جَهُولًا ﴿٧٢﴾

لِيُعَذِّبَ اللَّهُ الْمُنَافِقِينَ وَالْمُنَافِقَاتِ
وَالْمُشْرِكِينَ وَالْمُشْرِكَاتِ وَيَتُوبَ
اللَّهُ عَلَى الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ وَكَانَ اللَّهُ
عَفُوًّا رَحِيمًا ﴿٧٣﴾

1 「まっとうな物言い」とは、真実に根ざした、嘘のないまっすぐな言葉(ムヤツサル 427 頁参照)。

2 この「信託」とは、公私の別なく、アッラー*のご命じになることを行い、禁じられることを避ければ褒美(ほうび)を授かり、それが出来なければ罰を受ける、という信託の事(アッ=サアディー673 頁参照)。高壁章 172 とその訳注も参照。

3 人間は、その弱さ、無知さ、不正*—アッラー*が成功をお授けになった者には、そうではない者たちもいるが—にも関わらず、信託を請け負った(イブン・カスィール 6:489 参照)。

4 人間はこの「信託」に対する態度において、このアーヤ*で言及されている三種に分類される。つまり信託を表面的にのみ実行する偽信者*、それを表面的にも内面的にも実行しないシルク*の徒、そしてそれを表面的にも内面的にも実行する信仰者である(アッ=サアディー—673 頁参照)。

第34章
サバア章¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものが属し、来世における称賛^{しょうさん}があるお方、アッラー*に称賛^{しょうさん}あれ。かれは、英知あふれる*お方、通曉^{つうぎょう}されるお方。
2. かれは大地の中に入り込むものも、そこから出てくるものも、天から落ちてくるものも、そこへ昇^{のぼ}っていくもの³も、(全て)ご存知である。かれは慈愛深い*お方、赦し深いお方。
3. 不信仰^{おちい}に陥った者*たちは、言った。「(復活*)その時は、私たちにはやって来ない」。(使徒*よ、) 言ってやれ。「いや、不可視^{ふかし}の世界*をご存知である我が主*^{どうらい}にかけて、それは必ずや、あなたの方のもとに到来する。諸天であろうが大地であろうが、僅かな重みでも、かれ(の知識)から免れることはない。また、それより小さいものでも、大きなもの

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي لَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَلَهُ الْحَمْدُ فِي الْآخِرَةِ وَهُوَ الْحَكِيمُ الْحَكِيمُ ﴿١﴾

يَعْلَمُ مَا يَلِجُ فِي الْأَرْضِ وَمَا يَخْرُجُ مِنْهَا وَمَا يَنْزِلُ مِنَ السَّمَاءِ وَمَا يَعْرُجُ فِيهَا وَهُوَ الرَّحِيمُ الْغَفُورُ ﴿٢﴾

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لَا تَأْتِينَا السَّاعَةُ قُلْ سَلَىٰ وَرَبِّي لَتَأْتِيَنَّكُمْ عَلَىٰ الْعَيْنِ لَا يَعْرِفُ عَنْهُ وُثْقَالٌ ذَرَوْنِي السَّمَوَاتِ وَلَا فِي الْأَرْضِ وَلَا أَصْعُرُ مِنْ ذَلِكَ وَلَا أَكْثَرُ إِلَّا فِي كِتَابٍ مُبِينٍ ﴿٣﴾

- 1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、古代イエメンに栄えたが、洪水で滅んだサバアの民に関する記述に由来。マッカ*啓示の常として、アッラーの唯一性*・復活と報い・ムハンマド*の使徒*性など、イスラーム*の基本的信仰を取り上げる。また、アッラー*からの恩恵に感謝深かった預言者*たちの話と共に、恩知らずな不信仰者*に対する現世と来世における罰が、サバアの民を例に挙げて描写されている。そしてスーラ*の最後は、シルク*の徒に対する信仰への誘いによって締めくくられる。
- 2 アッラー*が全ての者を完全なる公正さと英知によって裁かれる時、現世ではなかったほどのアッラー*への称賛*が、天国の民・地獄の民の間に起こる(アッ=サアディー674頁参照)。
- 3 「大地の中に入り込むもの」とは、水などを、「そこから出てくるもの」とは、植物、鉱物、水などを、「天から落ちてくるもの」とは雨、天使*、啓示などを、「そこへ昇っていくもの」とは天使*、人間の行いなどを指す、とされる(ムヤッサル428頁参照)。

でも、明白な書（守られし碑板^{あらかじ}）に（予め記されてい）ないものはないのだ¹。

4. （復活の日^{とうらい}*の到来は、）かれが、信仰し、正しい行い^{むく}*を行う者たちに報われるため。それらの者たちには、お赦しと貴い糧^{ゆる}^{とうと}^{かて}²がある」。

5. われら^{みしるし}*の御徴^{しと}において、（使徒^{しと}*とクルアーン^{うそ}*を嘘呼ばわりするために）ねじ伏せようと躍起になっていた者たち、それらの者たちには痛ましい制裁による懲罰がある。

6. そして知識^{さず}を授けられた者たちは、あなたの主^{しゅ}*からあなたに下されたもの（クルアーン^{うそ}*）が真理であり、偉力^{いりよく}ならびない*。お方、称賛^{しょうさん}されるべき*。お方（アッラー*）の道へと導いてくれるものであると分かるのだ。

7. 不信仰に陥^{おちい}った者^{ちやうしやう}*たちは（嘲笑^{あとかた}しつつ、お互いに）言った。「（死んで）跡形もなくばらばらにされた後、本当にあなた方は新たに創造^{そうぞう}されるのだ、などとあなた方に告げる男^{おちび}³を、あなた方に見せてやろうか？」

8. 一体、彼はアッラー*に対して嘘^{うそ}を捏造^{ねつぞう}したのか？ それとも、彼には憑^つき物がついている⁴とでも？ いや、来世を信じない者たちは（来世においては）懲罰と、（現世においては）遠い迷いの中にある。

لَيَجْزِيَنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
أُولَئِكَ لَهُمْ مَغْفِرَةٌ وَرِزْقٌ كَرِيمٌ ﴿١﴾

وَالَّذِينَ سَعَوْا عَلَيْنَا فُتِنًا مُعْجِزِينَ
أُولَئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ مِنْ رِجْزِ أَلِيمٍ ﴿٥﴾

وَيَرَى الَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ الَّذِي أُنْزِلَ إِلَيْكَ
مِنْ رَبِّكَ هُوَ الْحَقُّ وَيَهْدِي إِلَى صِرَاطٍ
الْعَزِيزِ الْحَمِيدِ ﴿٦﴾

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَهَلْ نَذْرٌ عَلَى رَسُولٍ
يُنَبِّئُكُمْ إِذَا مُرِقْتُمْ كُلٌّ مُمْرِقٌ إِلَيْكُمْ لَفِي
خَلْقٍ جَدِيدٍ ﴿٧﴾

أَفَلَمْ يَأْتِ عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أَمْ بِهِ حِجَّةٌ عَلَى الَّذِينَ
لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ فِي الْعَذَابِ وَالضَّلَالِ
الْبَعِيدِ ﴿٨﴾

1 同様のアーヤ*として、婦人章 40、家畜章 59、ユーヌス*章 61 も参照。

2 「貴い糧」とは、天国のこととされる（ムヤッサル 428 頁参照）。

3 復活を説く預言者*ムハンマド*のことを、意図している（前掲書、同頁参照）。

4 アルーヒジュル章 6 「憑かれた者」の訳注を参照。

9. 一体、彼ら（不信仰者*たち）は天と大地という、自分たちの前にあるものと、自分たちの後ろにあるものを見なかったのか？もしわれら*が望めば、われら*は彼らを地面に飲み込ませ、あるいは彼らの上に天から破片を下してやる¹のだ。本当にその中にはまさに、よく（アッラー*に悔悟^{かいご}して）立ち返る、全ての僕^{しもべ}への御徴がある。

10. われら*は確かに、われら*の御許^{みもと}からの恩寵^{おんちゆう}²を、ダーウッド*に授けた。（われら*は言った。）「山々よ、彼と、そして鳥と共に（アッラー*を称え^{たた}て）連呼せよ」。また、われら*は彼のために、鉄^{てつ}を柔^{やわ}らかくしてやった。

11. （われら*は命じた。）「すっぽり覆^{おお}うもの（鎧^{よろい}）をこしらえ、継ぎ目^{つぎめ}を（いい^{あんばい}）^{調整^{ちようせい}}せよ。（ダーウッド*とその一族よ、）あなた方は正しい行い*を行え。本当にわれは、あなた方の行いを見る者なのだから」。

12. またスライマーン*には、その午前（の進行距離^{きやうり}）は一ヶ月（の旅程）で、午後（の進行距離^{きやうり}）は一ヶ月（の旅程）の風を（、^{つか}仕えさせた）⁴。そして、われら*は彼のために銅^{どう}の泉^{いづみ}を溶かしてやり⁵、ジン*の内か

أَفَلَمْ يَرَوْا إِلَى مَا بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ مِنْ
السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ إِنْ نَشَاءُ نَحْطِفُهُمْ الْأَرْضَ
أَوْ نُسْقِطُ عَلَيْهِمْ كِسَفًا مِنَ السَّمَاءِ إِنْ
فِي ذَلِكَ لَآيَةٌ لِّكُلِّ عَبْدٍ مُّنِيبٍ ﴿٩﴾

﴿٩﴾ وَلَقَدْ آتَيْنَا دَاوُدَ مِنْكَ فَضْلًا يَجِبَالُ
أَوْيَ مَعَهُ وَالظُّبُرَ وَأَلَكْنَا لَهُ الْحَدِيدَ ﴿١٠﴾

إِنْ أَعْمَلَ سَبِيحًا وَقَدِرًا فِي السَّرِّ
وَأَعْمَلُوا صَليحًا إِنِّي بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿١١﴾

وَأَلْسَلِمَنْ الرِّيحَ غَدُوها سَهْرًا وَوَحْشًا
سَهْرًا وَأَسَلْنَا لَهُ عَيْنَ الْقِطْرِ وَمِنَ الْجِنِّ مَن
يَعْمَلُ بَيْنَ يَدَيْهِ بِإِذْنِ رَبِّهِ وَمَنْ يَزِغْ
مِنْهُمْ عَنْ أَمْرٍ نَأْتِدْقُهُ مِنْ عَذَابِ السَّيْرِ ﴿١٢﴾

1 「天から破片を下す」については、夜の旅章 92 の訳注を参照。

2 預言者*としての使命と、啓典、知識のこと（ムヤッサル 429 頁参照）。

3 部品を小さくし過ぎて華奢（きゃしゃ）にするのではなく、大きくし過ぎて装着する者の負担にするのでもないように調整せよ、ということ（前掲書、同頁参照）。

4 彼は一日で二ヶ月の旅程を進むこの風を、自分やその他の物を乗せたりして、望みのままに操（あやつ）ったのだという（アッ=サアディー676 頁参照）。

5 彼の鉱山には、溶けた銅が水の泉のように流れたのだという（アル=クルトゥビー14:270 参照）。彼はそれで、望む物を作ることが出来た（ムヤッサル 429 頁参照）。

らは、その主*のお許しのもと、彼の前で働く者も（仕えさせた）。彼ら（ジン*）の内、われら*の命令¹に背く者があれば、われら*は彼に烈火の懲罰の内から、味わわせてやろう。

13. 彼ら（ジン*）は彼（スライマーン*）のため、ミフラーブ²、（銅やガラス製の）像³、池のような貯水槽、堅固な鍋といった、彼の望む物を作る。（われら*は言った。）「ダーウード*の一族よ、（アッラー*に）感謝すべく、行え⁴。わが僕の内、僅かな者だけが、感謝する者なのだから」。

14. そして、われら*が彼（スライマーン*）に死を定めた時、彼の杖を蝕む地面の虫以外、彼らにその死を知らせた者はなかった⁵。それでスライマーン*が（地面に）崩れ落ちた時、ジン*たちは、もし彼らが不可視の世界*を知っていたなら、彼らが屈辱の懲罰の中に留ま（り続け）ることはなかったのだ、と分かった⁶のだった。

يَعْمَلُونَ لَهُ مَا يَشَاءُونَ مِنْ مَّحَارِبٍ وَيَكْمِلُ
وَجِفَانٍ كَالْجَوَابِ وَقُدُورٍ رَاسِيَتٍ آعْمَلُوا
عَالِ دَاوُودَ شُكْرًا وَقَلِيلٌ مِّنْ عِبَادِيَ الشَّكُورُ ﴿١٣﴾

فَلَمَّا فَضَّيْنَا عَلَيْهِ الْمَوْتَ مَا دَلَّهُمْ عَلَى مَوْتِهِ
إِلَّا دَابَّةُ الْأَرْضِ تَأْكُلُ مِنْسَأَتَهُ فَلَمَّا
خَرَّتْ سَاقُ الْجِنِّ أَنَّ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ الْعَذَابَ
مَا يَسْتَوْفِي الْعَذَابِ الْمُهِينِ ﴿١٤﴾

1 スライマーン*に従え、というアッラー*のご命令のこと（ムヤッサル 429 頁参照）。

2 「ミフラーブ」については、イムラーン家章 37 の訳注を参照。

3 当時、「像」は合法であった（アル＝クルトゥビー 14:273 参照）。

4 この「行い」とは、アッラー*に服従し、かれのご命令を実行すること（ムヤッサル 429 頁参照）。

5 スライマーン*は杖に寄りかかったまま他界したため、ジン*たちは暫（しばら）くの間、彼が生きているものだと思って働き続けた。彼の死が明らかになったのは、その杖が虫に喰われて朽（く）ち、遺体が崩れ落ちた時のことだった（アッ＝サアディー 676 頁参照）。

6 ある種の人々が考えているように、ジン*が不可視の世界*を知っていたのなら、彼らはスライマーン*の死後も厳しい労働の中に留まり続けることはなかったのだ、ということ（ムヤッサル 429 頁参照）。

15. 確かにサバア¹（の民）には、その住まいの中に（アッラー*の御力を示す）御徴があった。右と左に二つの果樹園²。（彼らには、こう言われた。）「あなた方の主*の糧から食べ、かれに感謝せよ。（あなた方の国は）よき国であり、（恩恵の主は）赦し深い主*なのだから」。

16. そして彼らは（アッラー*のご命令と使徒*に）背いたので、われら*は彼らに、猛烈な洪水を送った。またハムトの実とアスルの木、僅かばかりのシドル³からのものがある二つの果樹園で、彼らの二つの果樹園と取って換えた。

17. 彼らが不信仰であり、恩恵への感謝を怠ったことゆえ、われら*はまさしくそれで彼らに報いたのである。そしてわれら*が不信心この上ない者の外に、（このような）罰を与えることがあろうか？

18. また、われら*は彼らと、われら*が祝福を授けた町々⁴との間に、（その近さゆえ互いに）目に見える町々を設け、そこに（ちょうどいい間隔の）旅程を整えた。（そして、われらは彼らにこう言ったのだ。）「夜に昼に、そこを安全に行くがよい」。

لَقَدْ كَانَ لِسَبَإٍ فِي مَسْكِهُمْ آيَةٌ ۖ إِنَّهُمْ جَنَّاتَانِ عَنْ يَمِينٍ وَيَسْمَالٍ ۚ كُلُّ امْنٍ رَزَقٍ رَبِّكَ وَاشْكُرُوا لَهُ ۖ بَلَدَةٌ طَيِّبَةٌ ۚ وَرَبِّ غَفُورٌ ۝۱۵

فَأَعْرَضُوا فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ سَيْلَ الْعَرِمِ وَبَدَّلْنَاهُمْ بِجَنَّتَيْهِمْ جَنَّتَيْنِ ذَوَاتِ أُكُلٍ خَمْطٍ وَأَثْلٍ وَشَيْءٍ مِّن سِدْرٍ قَلِيلٍ ۝۱۶

ذَٰلِكَ جَزَاءُ مَن كَفَرَ ۖ وَهَلْ يُجْزَى إِلَّا الْكَفُورُ ۝۱۷

وَجَعَلْنَا بَيْنَهُمُ الْوَادِيَّ الَّتِي بَكَرْنَا فِيهَا فَرْقًى طَاهِرَةً ۚ وَقَدَّرْنَا فِيهَا السَّبْرَ سَبْرًا فِيهَا الْيَابِلُ وَأَيَّامًا مَّعِينَةً ۝۱۸

1 「サバア」の民については、スーラ*冒頭の訳注を参照。

2 サバアの民の町、マアラブには渓谷（けいこく）があり、彼らはそこにダムを築いていた。その水の利用により、渓谷の両側には豊かな果樹園が広がっていた（アッ=サアディー677頁参照）。

3 これらの植物は、いずれも砂漠性のもの。「ハムト」はいわゆるアラークの木で、苦いものの代名詞。「アスル」は、タマリスクに似た棘々の大きな木。「シドル」はナツメの木に似た、棘のある木のこと（イブン・アーシュール 22:171 参照）。

4 シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）のこと、とされる（ムヤッサル 430 頁参照）。

19. そして彼らは（安楽と豊かな暮らしに飽きて）、言った。「我らが主*よ、私たちの（町から町への）旅行（の距離を）を遠ざけて下さい」。こうして彼らが（不信仰によって）自分たちに不正*を働いたので、われら*は彼らを（後世へと）語り継がれるものとし、跡形もなくばらばらにしてやった。本当にその中にはまさしく、忍耐*強く感謝深い¹全ての者への御徴がある。

20. また、イブリース*は確かに、彼ら（人間たち）に対して自分の思い込み²を実現し、彼らは信仰者たちの一派以外、彼に従った。

21. そして彼（イブリース*）には、（彼らを自分に従わせることにおいて、）彼らに対するいかなる（正当な）根拠³もなかった。しかし（それは、）われら*が来世を信じる者を、それに疑念を抱いている者から判別するためだったのだ。あなたの主*は、全てのことをよくお守りになる*お方である。

22. （使徒*よ、）言え。「アッラー*を差しおいて、あなた方が（かれの同位者と）主張して（崇めて）いる者たちに、祈るがよい。彼らは諸天においても大地においても、僅かな重みすら有してはいないのだ⁴。そして彼らにはそこにおいて、（アッラー*に対する）いかなる加担もなければ、かれ（アッラー*）には、彼らからのいかなる援助者もない」。

فَقَالُوا رَبَّنَا بَعْدَ بَيْنِ أَسْفَارِنَا وَظَلَمُوا أَنْفُسَهُمْ فَجَعَلْنَاهُمْ أَحَادِيثَ وَمَزَقْنَاهُمْ كُلَّ مُمَزَّقٍ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّكُلِّ صَبَّارٍ شَكُورٍ ﴿١٩﴾

وَلَقَدْ صَدَقَ عَلَيْهِمْ إِبْلِيسُ ظَنَّهُ وَقَالَ لِبُعُوهُ الْإِنْفِرِيقَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٢٠﴾

وَمَا كَانَ لَهُ عَلَيْهِمْ مِنْ سُلْطَانٍ إِلَّا لِنَعْتَمِدَ مَنْ يُوْمِنُ بِالْآخِرَةِ مِمَّنْ هُوَ مِنْهَا فِي شَكٍّ وَرَبُّكَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ حَفِیْظٌ ﴿٢١﴾

قُلْ أَدْعُوا الَّذِينَ رَعَيْتُمْ مِنْ دُونِ اللَّهِ لَا يَمْلِكُونَ مِنْ قُلُوبِ اللَّهِ دَرْزَقًا فِي السَّمَوَاتِ وَلَا فِي الْأَرْضِ وَمَا لَهُمْ فِيهَا مِنْ شِرْكٍ وَمَا لَهُ مِنْهُمْ مَنْ ظَاهِرٌ ﴿٢٢﴾

1 「忍耐*強く感謝深い」については、イブラーヒーム*章5の訳注を参照。

2 イブリース*が人類を迷わせ、彼らがアッラー*への不服従において、自分に従うという「思い込み」のこと（ムヤッサル 430 頁参照）。

3 この「根拠」に関しては、イブラーヒーム*章22の同語についての訳注も参照。

4 いかなる害益（がいえき）をもたらず力もない、ということ（アッ=タバリ-8:6750 参照）。

23. またかれの御許^{みもと}では、かれがお許^{ゆる}しになった者に対してしか、執^とり成^なしが益^{えき}することはない¹。やがて彼らの心から戦慄^{せんりつ}が取り除^{のぞ}かれると²、彼らは（互いに）言う。「あなた方の主^{しゅ}*は、なんと仰せられたのか？」彼らは言う。「真実を（仰せられた）。かれは至高の*お方、大いなる*お方であられる」。

24. （使徒^{しと}*よ、彼らシルク^と*の徒に）言^{かて}ってやれ。「あなた方に諸天と大地から、糧^{きよ}を授けられるお方は誰か？」言^{かて}ってやるのだ。「（それは）アッラー*である。そして実に私たちとあなた方（のいずれか）が、まさしく導きの上か、あるいは紛れもなき迷いの中にあるのだ³」。

25. 言^{かて}ってやれ。「私^{つみ}たちが罪^{おか}を犯したことで、あなた方が問われることはなく、私たちもあなた方が行うことで問われはしない」。

26. 言え。「我^{しゅ}らが主^{しゅ}*が、（復活の日*に）私たちをお集めになり、それから私たちの間を真理によってお裁きになる。かれは裁決^{さいけつ}者、全知者であられる」。

وَلَا تَنْفَعُ الشَّفَعَةُ عِنْدَهُ إِلَّا لِمَنْ أَذِنَ لَهُ
حَتَّىٰ إِذَا فُزِّعَ عَنْ قُلُوبِهِمْ قَالُوا مَاذَا قَالَ
رَبُّكُمْ قَالُوا الْحَقُّ وَهُوَ الْعَلِيُّ الْكَبِيرُ ﴿٣٦﴾

*قُلْ مَنْ يَرْزُقُكُمْ مِنَ السَّمَوَاتِ
وَالْأَرْضِ قُلِ اللَّهُ وَإِنَّا أَوْيَاكُمْ لَعَلَىٰ
هُدًى أَوْفٍ ضَلَّلَ مُبِينٌ ﴿٣٧﴾

قُلْ لَا تَسْتَأْذِنُ عَنَّا أَجْرَمْنَا وَلَا نَسْتَعْلِفُ
عَمَّا نَعْمَلُونَ ﴿٣٨﴾

قُلْ يَجْمَعُ بَيْنَنَا رَبُّنَا ثُمَّ يَفْتَحُ بَيْنَنَا بِالْحَقِّ
وَهُوَ الْفَتَّاحُ الْعَلِيمُ ﴿٣٩﴾

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 この「彼ら」は「シルク*の徒」とも、「天使*たち」とも言われる。前者の場合、彼らが復活の日*、自分たちが現世で否定していたことが真理であったことを認める描写となる。また後者の場合、天界での啓示の様子描写となる（アッ=サアディー=678 頁参照）。アッラー*が天で何かを語られると、天使*たちは畏怖（いふ）の念ゆえに震（ふる）え上がるとされる（アル=ブハーリー=4800 参照）。

3 天地から糧をお授けになるお方に対し、シルク*を犯している者たちこそが迷いの中にあるのは自明であるが、あえて間接的な問いかけをしている（アル=クルトゥビー=14:298-299 参照）。

27. 言ってやるのだ。「あなた方が、かれに
(崇拝*における)同位者として属させた者
たち(の根拠)を、私に見せてみよ。断じ
て(、そのようなものは)ない。いや、か
れは偉力ならびなく*、英知あふれる*アッ
ラー*であられる」。

28. (使徒よ、)われら*があなたを遣わしたの
は、全ての人に向けて¹、占報を伝える者、
警告を告げる者²としてに外ならない。しか
し大半の人々は、知らないのだ。

29. 彼ら(シルク*の徒)は、言う。「その約束
(復活の日*)は、いつなのか? もし、あな
た方が本当のことを言っているのなら」。

30. (使徒*よ、)言ってやれ。「あなた方には、一時
たりとも遅らせることも出来ず、早めることも
出来ない(復活の)日*の約束があるのだ」。

31. また、不信仰に陥った者*たちは言った。
「私たちはこのクルアーン*を信じないだ
ろうし、それ以前のもの³も(信じない)」。
(使徒*よ、)もしあなたが、不正*者たち
がその主*の御許で(清算のために)拘留さ
れ、お互いに(譴責の)言葉を返し合う時
のことは見るならば、抑圧されていた者た
ちは、高慢だった者たち⁴に(こう)言うの
だ。「もしあなたがいないければ、私たち
は信仰者だったのに」。⁵

قُلْ أَرَأَيْتُمُ الَّذِينَ أَحَقُّمُ بِمِثْلِ مَا كُنتُمْ تَعْبُدُونَ أَفَلَا تَعْلَمُونَ
بَلْ هُوَ اللَّهُ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٢٧﴾

وَمَا أَرْسَلْنَاكَ إِلَّا كَافَّةً لِّلنَّاسِ بَشِيرًا
وَنَذِيرًا وَلَكِنَّ أَكْثَرِ النَّاسِ لَا
يَعْلَمُونَ ﴿٢٨﴾

وَيَقُولُونَ مَتَى هَٰذَا الْوَعْدُ إِن كُنتُمْ
صَادِقِينَ ﴿٢٩﴾

قُلْ لَّكُمْ مِيعَادُ يَوْمٍ لَا تَسْتَجِزُونَ عَنْهُ
سَاعَةً وَلَا تَسْتَقْدِمُونَ ﴿٣٠﴾

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لَنُؤْمِنَ بِهِ هَٰذَا
أَلْفَنِينَ وَلَا يَأْتِي بَيِّنَةٌ بِيَدَيْهِمْ وَلَوْ تَرَى إِذِ
الظَّالِمُونَ مَوْفُوقُونَ عِندَ رَبِّهِمْ يُرْجَعُ
بَعْضُهُمْ إِلَىٰ بَعْضٍ الْقَوْلَ يَقُولُ الَّذِينَ
أَسْتَضِعُوا لِّلَّذِينَ أَسْتَكْبَرُوا لَوْلَا أَنشَأَ
لَنَا مَوْمِنِينَ ﴿٣١﴾

1 高壁章 158 とその訳注も参照。

2 「占報を伝え…」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

3 クルアーン*以前の啓典のこと(ムヤッサル 431 頁参照)。

4 自分たちが迷うだけでなく、他人をも迷わせていた不信仰の長たちのこと(ムヤッサル 431 頁参照)。

5 同様の情景の描写として、アーヤ*40-41、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*
章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68 も参照。

32. 高慢^{こうまん}だった者^{よくあつ}たちは、抑圧^{よくあつ}されていた者^{みちび}たちに言う。「一体、私たちがあなた方を導きから阻^{はば}んだというのか？ あなた方のもとに、それが到来^{とうらい}した後に？ いや、あなた方は（自ら不信仰^{ぶしんぎょう}を選んだ）罪悪者^{ざいあく}だったのだ」。

33. そして、抑圧^{よくあつ}されていた者^{こうまん}たちは高慢^{こうまん}だった者^はたちに言う。「いや、私たちがアッラー*を否定^{すうはい}し、かれに（崇拜^{そうはい}の）同位者^{どういしや}を置くよう、あなた方が私たちに命^{めい}じていた時、（あなた方の）夜と昼の策謀^{さくぼう}が（私たちを破滅^{はめつ}させたのだ）」。そして懲罰^{ちやうばつ}を目^めの当^{あた}りにする時、彼らは（余りの恐怖^{おそ}ゆえ）後悔^{こうかい}の念^{ねん}を露^{あら}わに出来ない^い。また、われら*は不信仰^{ぶしんぎょう}だった者^{かぜ}*たちの首^{しほ}に、枷^{かせ}を縛^{しば}り付ける。一体彼らが報^{はら}われるのは、自分たちが（現世^{げんせい}で）行^いっていたこと（によるもの）以外の、何ものでもないのではないか？

34. われら*が警告^{けいこく}者を町^{つか}に遣^{つか}わした時には決^{けつ}まって、その（町の）贅沢^{ぜいたく}者^{ざいたく}たちは（こう）言^いったものだった。「本^{ほん}当^{たう}に私^{わが}たちは、あなた方が携^{たずさ}えて遣^{つか}わされたものを認めない者^{しや}である」。

35. また、彼らは言^いった。「私^{わが}たちは財産^{ざいさん}も子供^{こども}も（あなた方）より多^{おほ}いし、私^{わが}たちは（現世^{げんせい}でも来世^{らいせい}でも、）罰^{ばつ}される者^{しや}などではない」。

36. （使徒^{しと}*よ、）言^いってやれ。「本^{ほん}当^{たう}に我^{われ}が主^{しゅ}*は、かれが^かれが^れお望^{ぼう}みの者^{しや}に糧^{かう}を豊^{ほう}富^ふに与^{あた}えられ、また控^{ひか}えられる。しかし、大半^{たはん}の人^{ひと}々は知^しらないのだ」。²

قَالَ الَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا لِلَّذِينَ اسْتَضَعُّوْا
أَتَحْنُ صَدَدُكُمْ عَنِ الْهُدَىٰ بَعْدَ إِذْ جَاءَكُمْ
بَلْ كُنتُمْ مُجْرِمِينَ ﴿٣٢﴾

وَقَالَ الَّذِينَ اسْتَضَعُّوْا لِلَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا
بَلْ مَكْرُؤٌ لَّيْلٍ وَالنَّهَارُ إِذَا تَأْمُرُونَنَا
لَنَكْفُرَ بِاللَّهِ وَنَجْعَلَ لَهُ أَندَادًا وَأَسْرُوا
الْعَدَاةَ لَمَّا رَأَوْا الْعَذَابَ وَجَعَلْنَا الْأَغْلَلَ
فِي آفَاقِ الَّذِينَ كَفَرُوا أَهْلَ بَحْرُونَ إِلَّا مَا
كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٣٣﴾

وَمَا أَرْسَلْنَا فِي قَرْيَةٍ مِّنْ نَّذِيرٍ إِلَّا قَالَ
مُرُوفُهُا إِنَّا يَمَّا أُرْسِلُمْ بِهِ كُفْرُونَ ﴿٣٤﴾

وَقَالُوا لَوْ كُنَّا نَسْمَعُ أَوْ نَعْقِلُ مَا كُنَّا فِي
أَصْفَادٍ مِّنْ بَعْدِئِذِينَ ﴿٣٥﴾

قُلْ إِنَّ رَبِّي يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَن يَشَاءُ وَيَقْدِرُ
وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٦﴾

1 「後悔の念を露わに出来ない」という表現については、ユースス*章 54 の訳注を参照。

2 豊かであるか貧しいか、ということは、その者に対するアッラー*の寵愛（ちょうあい）や憎悪を示しているのではなく、アッラー*からの試練である。だが、多くの人々はそのことを知らない（ムヤッサル 432 頁参照）。物語章 82、暁章 15-16 とそれらの訳注も参照。

37. あなた方の財産もあなた方の子息も、あなた方がわれら*のもとでお近づきを得るものではない。しかし信仰し、正しい行い*を行う者、それらの者たちにこそ、彼らが行ったことゆえの倍の褒美があるのだ¹。そして彼らは(懲罰から)安全な状態で、(天国の) 高き住まいにある。

38. また、われら*の御徴において、(嘘呼ばわりするために) ねじ伏せようと躍起になる者たち、それらの者たちは、懲罰へと立ち合わされる者たちである。

39. (使徒よ) 言ってやれ。「本当に我が主は、その僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる²。そして、あなた方がどんなものでも(アッラー*に命じられたことに) 費やせば、かれはそれを(褒美で) 継がせ給う³。かれは、最もよく糧を授けられるお方」。

40. かれ(アッラー*) が彼ら(シルク*の徒) 全員を召集され、それから天使*たちに(こう) 仰せられる日のこと(を思い起こさせよ)。
「一体これらの者たちは、あなた方(天使*たち) のことを崇めていたのか?」⁴

وَمَا أَمْوَالُكُمْ وَلَا أَوْلَادُكُمْ بِالَّتِي تُقَرَّبُكُمْ عِنْدَنَا
زُلْفَىٰ إِلَّا مَنْ آمَنَ وَعَمِلَ صَالِحًا فَأُولَٰئِكَ
لَهُمْ جَزَاءُ الْوَعْدِ بِمَا عَمِلُوا وَهُمْ فِي الْغُرُفَاتِ
ءَامِنُونَ ﴿٣٧﴾

وَالَّذِينَ يَسْتَوُونَ فِي آيَاتِنَا مُعْجِزِينَ أُولَٰئِكَ
فِي الْعَذَابِ مُحَضَّرُونَ ﴿٣٨﴾

قُلْ إِنَّ رَبِّي يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَن يَشَاءُ مِنْ
عِبَادِهِ وَيَقْدِرُ لَهُ وَمَا أَنْفَقْتُمْ مِنْ شَيْءٍ
فَهُوَ يَخْلِفُهُ، وَهُوَ خَيْرُ الرَّازِقِينَ ﴿٣٩﴾

وَيَوْمَ يُحْشَرُهُمْ جَمِيعًا ثُمَّ يَقُولُ لِلْمَلَكَةِ
أَهْلُوا إِلَيَّ إِنِّي أَكْرَمُ كَأَلْوَابِعْدُونَ ﴿٤٠﴾

1 財産や子息は、それ自体ではアッラー*へのお近づきを望めない。しかし正しい信仰者が、その財産をアッラー*の道に費やしたり、あるいは自分の子供に善いことを教えたり、正しい教育を施したりすることで、初めてアッラー*へのお近づきを望めるのである(アル=バイダーウィー4:403 参照)。

2 アーヤ 36 の訳注を参照。

3 現世においてはそれに代わるもので、来世においては褒美で償(つぐな) われる、ということ(ムヤッサル 432 頁参照)。

4 同様の情景の描写として、アーヤ*31-33、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68 も参照。

41. 彼ら（天使たち）は申し上げる。「あなたに称え*あれ。彼らは無関係で¹、あなたこそが私たちの庇護者*です。いえ、彼らはジン*²を崇めていました。彼らの大半は、彼ら（ジン*）のことを信じて（従って）いたのです」。

42. （復活の）この日、あなた方はお互いに、益も害も有してはいない。そしてわれら*は不正*を働いていた者たちに、（こう）言うのだ。「あなた方が嘘呼ばわりしていた、業火の罰を味わうがよい」。

43. われら*の明白な御徴（アーヤ*）が彼ら（マツカ*の不信仰者*）に読誦されれば、彼らは言ったものであった。「これ（預言者*ムハンマド*）は、あなた方のご先祖様が崇めていたものから、あなた方を阻もうとする男以外の何ものでもない」。また、（こう）言った。「これ（クルアーン*）は、捏造されたでっち上げに過ぎない」。そして不信仰だった者*たちは真理に対し、それが彼らのもとに到来した時、（こう）言ったのである。「これは紛れもない魔術に外ならない」。

44. われら*は（クルアーン*以前）、彼ら³が熟読するいかなる啓典も、彼らに下しはしなかったし、（使徒*よ、）あなた以前にはいかなる警告者も、彼らに遣わすことはなかったのだ。

قَالُوا سُبْحٰنَكَ اَنْتَ وَلِيْنَا مِنْ دُوْنِهِمْ بَلْ كَانُوْا يَعْبُدُوْنَ الْاِلٰهَ اَكْثَرَهُمْ يَوْمَئِذٍ ﴿٤١﴾

فَالْيَوْمَ لَا يَمْلِكُ بَعْضُكُمْ لِبَعْضٍ نَفْعًا وَلَا ضَرًّا وَنَقُولُ لِلَّذِيْنَ ظَلَمُوْا ذُوقُوْا عَذَابَ النَّارِ الَّتِيْ كُنْتُمْ بِهَا تُكَذِّبُوْنَ ﴿٤٢﴾

وَإِذَا نُنَادِيْنَاهُمْ اَكْبٰتًا يَبْتَغِيْنَ قَالُوْا مَا هٰذَا اِلَّا رَجُلٌ يُرِيْدُ اَنْ يَّصْدِرَكَ عَنْمَا كَانَ يَعْبُدُ اٰبَاؤَكُمْ وَقَالُوْا مَا هٰذَا اِلَّا اِلٰفٌ مُّفْتَرٰى وَقَالَ الَّذِيْنَ كَفَرُوْا لِلْحَقِّ لَمَّا جَاءَهُمْ اِنْ هٰذَا اِلَّا اَسْحَرٌ مُّبِينٌ ﴿٤٣﴾

وَمَاۤ اَتٰنٰهُمْ مِنْ كُتُبٍ يَدْرُسُوْنَهَا وَمَاۤ اَرْسَلْنَا اِلَيْهِمْ قَبْلَكَ مِنْ نَّذِيْرٍ ﴿٤٤﴾

1 私たちは彼らのことを自分たちへの崇拝*者としたわけでもなく、彼らの庇護を引き受けたわけでもない、ということ（アッ=シャウカーニー4:437 参照）。

2 ここでの「ジン*」は、シャイターン*の意（ムヤッサル 433 頁参照）。

3 ここでの「彼ら」は、アラブ人のこととされる（イブン・カスィール 6:525 参照）。

45. また、彼ら以前の（不信仰）者*たちは、（われら*の使徒*たちを）嘘つき呼ばわりした。彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）は、われら*が彼ら（それ以前の不信仰者*たち）に与えたもの¹の、十分の一にも達していないというのに。彼らは、われの使徒*たちを嘘つき呼ばわりしたのである。それで、わが否認はいかなるものだったか？²

46. （使徒*よ、彼らに）言ってやれ。「まさに私は、あなた方に一つだけ訓戒^{くんかい}する。あなたがアッラー*に向かって二人ずつ、また一人ずつ立ち上がり、それから熟考^{じゅうこう}することを³。あなた方の仲間（ムハンマド*）に、憑きものなど憑いてはいない⁴。彼は（あなたが味わうことになる）厳しい懲罰に先立つ、あなた方への警告者^{きこく}に過ぎないのだ⁵」。

47. （使徒*よ、）言え。「もし、私があなた方に何らかの見返りを求めた⁶としても、それはあなた方のもの。私の見返りは、アッラー*から以外にはないのだ。そしてかれは、全てのことの証人であられる」。

وَكَذَّبَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ وَمَا بَلَّغُوا
مِعْشَارَ مَا آتَيْنَاهُمْ فَكَذَّبُوا رُسُلِي
فَكَيْفَ كَانَ نَكِيرِ ﴿٤٥﴾

*قُلْ إِنَّمَا أَعِظُكُمْ بِوَعْدِ اللَّهِ أَنْ تَقُومُوا لِلَّهِ
مَشْنًى وَفَرَّدَ لَكُمْ تَفَكُّرًا مَا يَصْلَحِيكُمْ
مِنْ جَنَّةٍ إِنْ هُوَ إِلَّا نَذِيرٌ لَكُمْ بَيْنَ يَدَيْ
عَذَابٍ شَدِيدٍ ﴿٤٦﴾

قُلْ مَا سَأَلْتُكُمْ مِنْ أَجْرٍ فَهُوَ لَكُمْ إِنْ أَجَرْتُ إِلَّا
عَلَى اللَّهِ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ﴿٤٧﴾

1 これは勢力、財産、長寿などのこととされる（ムヤッサル 433 頁参照）。

2 「わが否認はいかなるものだったか？」については、巡礼*章 44 の訳注を参照。

3 預言者*の件について、決意と熱意、真理の追求とアッラー*への真摯さをもって立ち上がり、寄り集まって調べ合い、あるいは一人で自分自身に問いかけてみれば、彼が憑（つ）かれてなどないことが分かる（アッ=サアディー 682 頁参照）。

4 アル=ヒジュル章 6 「憑かれた者」の訳注を参照。

5 縋り合わされた章の訳注 1 も参照。

6 この「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

48. 言うのだ。「実に我が主^{しゅ}*は、真理を（虚妄^{きょもう}に向けて）投げかけ給い^{たま}、不可視の世界^{ふかし}*を熟知^{じゅくち}されるお方である」。

49. 言え。「真理^{とうらい}は到来した。そして虚妄^{きょもう}は（滅び、もはや）出現することも、回帰することもない」。²

50. 言ってやれ。「もし私が（真理から）迷ったのなら、私は自分自身に対して（罪を負うべく）迷っているのである。そしてもし（正しく）導かれたのなら、（それは）我が主^{しゅ}*が私に啓示されたものゆえのこと。本当にかれはよくお聞きになるお方、（かれを呼ぶ者の）近くにおられるお方」。

51. （使徒^{しと}*よ、）彼ら（不信仰者^{せんりつ}*たち）が戦慄する時のことを、目にしたならば。彼らに逃げ道はなく、近い場所から連れて行かれるのだ³。

52. そして彼らは（、その時になって）言う。「私たちはそれ^{やすす}を信じた」。どうして遠い場所から、易々と（信仰を）手に入れられるというのか？⁵

قُلْ إِنْ رَبِّي يَقْذِفُ بِالْحَقِّ عَلَى الْغُيُوبِ ﴿٤٨﴾

قُلْ جَاءَ الْحَقُّ وَمَا يُبْدِي الْأَبْطُلُ وَمَا يُعِيدُ ﴿٤٩﴾

قُلْ إِنْ صَلَّيْتُكُمْ فَلَنْ أَصِلَ عَلَى نَفْسِي وَإِنْ أَهْتَدَيْتُمْ فَمَا يُوجِي إِلَى رَبِّي إِنَّهُ سَمِيعٌ قَرِيبٌ ﴿٥٠﴾

وَلَوْ تَرَى إِذْ فُتِحُوا فَلَا قُوَّةَ وَخُذُوا مِنْ مَكَانٍ قَرِيبٍ ﴿٥١﴾

وَقَالُوا لَأَمْتَابُهُمْ وَآلَانِ لَهُمُ الشَّوْشُ وَمَكَانٍ بَعِيدٍ ﴿٥٢﴾

1 その他、「アッラー*はその啓示を、かれがお選びになる者に下される」「真理を世界中に広められる」といった解釈もある（アル＝バイダーウィー4:406 参照）。

2 つまり虚妄は跡形もなく消え去り、進退も開始も再開もままならない状況になった。あるいは、「虚妄」とはシャイターン*のことで、それは何を創造することも出来なければ、何かを蘇（よみがえ）らせることも出来ない（アッ＝シャウカーニー4:441 参照）。

3 このアーヤ*の解釈には、「（死が訪れ、）地表から地下へと移される時のこと」「復活の日*の清算の場から、地獄へと落とされる時のこと」「かつては強力だったのが、戦場において容易（たやす）く負かされる時のこと」といった諸説がある（アル＝カースィミー14:4968 参照）。

4 この「それ」は、アッラー*、啓典、使徒*のこと（ムヤッサル 434 頁参照）。

5 既に現世から遮（さえぎ）られ、そこが「遠い場所」となってしまった後では、信仰を手にすることは出来ない（前掲書、同頁参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

53. 彼らは確かに以前、それを否定し、不可視^{ふかし}の世界^{*}について（真理から）遠い場所から（虚妄^{きょもう}に満ちた）憶測^{おくそく}をしていたというのに。

54. そして彼らと、彼らが渴望^{かつぼう}するもの¹との間は阻^{はば}まれた。ちょうど彼らの（先代である）同類者たちが、以前（そう）されたように。本当に彼らは（現世で）、大きな疑惑^{ぎわく}の中にあつた²のである。

وَقَدْ كَفَرُوا بِهِ مِنْ قَبْلُ وَيَقْذِفُونَ
بِالْغَيْبِ مِنْ مَكَانٍ بَعِيدٍ ﴿٩٣﴾

وَجِيلَ بَيْنَهُمْ وَبَيْنَ مَا يَشْتَهُونَ كَمَا فُعِلَ
بِأَشْيَاءِهِمْ مِنْ قَبْلُ إِنَّهُمْ كَانُوا فِي شَكٍّ
مُزِينٍ ﴿٩٤﴾

1 「渴望すること」とは、現世に戻って信仰すること（ムヤッサル 434 頁参照）。

2 つまり、使徒^{*}、復活、清算について疑念の中にあつた（前掲書、同頁参照）。

第35章
創成者*章 (アル=ファーティル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. アッラー*にこそ称賛*はあり。諸天と大地の創成者*。天使*たちを、二枚、三枚、四枚と、翼を備えた御使いとされたお方。かれは創造において、お望みのものを増やし給う。本当にアッラー*は、全てのことがお出れのお方である。
2. アッラー*が人々にご慈悲^{じひ}を開き放てば、それを押し留める（ことの出来る）者はいない。また、かれが（それを）押し留めるならば、かれを差しおいてそれを放つ（ことの出来る）者はいない。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。
3. 人々よ、あなた方に対するアッラー*の恩恵を思い起こすのだ。あなた方に天地から糧をお授けになるアッラー*の外、創造主があるというのか？ かれの外に崇拜*すべき、いかなるものもない。どうしてあなた方は、（アッラー*だけを崇拜*することから）背かされるのか？

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْحَمْدُ لِلَّهِ فَاطِرِ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ جَاعِلِ
الْمَلَائِكَةَ رُسُلًا أُولِي أَجْنِحَةٍ مَثْنَى وَثُلَاثَ
وَرُبْعٍ يَزِيدُ فِي الْخَلْقِ مَا يَشَاءُ إِنَّ اللَّهَ عَلَى كُلِّ
شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿١﴾

مَا يَفْتَحِ اللَّهُ لِلنَّاسِ مِنْ رَحْمَةٍ فَلَا مُمْسِكَ لَهَا
وَمَا يُمْسِكْ فَلَا مُرْسِلَ لَهُ مِنْ بَعْدِهِ وَهُوَ
الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٢﴾

يَا أَيُّهَا النَّاسُ أَذْكُرُوا نِعْمَتَ اللَّهِ عَلَيْكُمْ هَلْ مِنْ
خَلْقٍ غَيْرِ اللَّهِ يَرْزُقُكُمْ مِنَ السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ
لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ قَاتِلُوا أَنْفُسَكُمْ أَنْ تَكُونُوا
لِلْإِلَهِ الْأَهْوَاءِ قَاتِلِينَ ﴿٣﴾

- 1 マッカ*啓示で学者の見解は一致。スーラ*の名称は、冒頭に登場するアッラー*の美名の一つ「創成者」に由来。その名の通り、アッラー*の御力・唯一性*を示す自然界の様々な創造が、スーラ*の所々において描写されている。またマッカ*啓示の常として、シルク*への警告、ムハンマド*の使徒*性・復活の確証、よき品格の強調がなされると同時に、アッラー*の恩恵の描写とその感謝のすすめ、信仰者と不信仰者*のたとえ、預言者*への励ましや慰（なぐさ）めなども窺（うかが）える。
- 2 この「ご慈悲」とは、生活の糧、雨、健康、知識といった諸々の恩恵のこと（ムヤッサル 434 頁参照）。

4. また（使徒*よ）、もし彼ら（不信仰者*たち）があなたを嘘つき呼ばわりしたとしても、あなた以前の使徒*たちも確かに、嘘つき呼ばわりされたのである。そして（来世では）アッラー*にこそ物事は戻され（て、全ての者はその報いを受け）るのだ。
5. 人々よ、本当にアッラー*のお約束¹は真実である。ならば決して、現世の生活があなた方を欺いたり、欺く者²があなた方を、アッラー*において欺くことがあったりしてはならない。
6. 実にシャイターン*は、あなた方にとっての敵なのである。ならば彼を、敵とせよ。本当に彼はその徒党を、彼らが（地獄の）烈火の仲間となるべく、（迷妄へと）招くのである。³
7. 不信仰に陥った者*たち、彼らには厳しい懲罰がある。そして信仰し、正しい行い*を行う者たち、彼らにはお赦しと大きな褒美がある。
8. 一体、自分の行いの悪が目映く見え、それを美しく思う者は（、正しく導かれ、それを美しく思う者と同様だろうか）？ 実にアッラー*は、かれがお望みになる者を迷わされ、お望みになる者をお導きになるのだ。ならば、彼ら（の不信仰）への悲嘆ゆえ、あなた⁴自身を滅ぼしてはならない。本当に

وَإِنْ يَكْفُرْ بِكَ فَكُذِّبَتْ رُسُلٌ مِنْ قَبْلِكَ وَإِلَى اللَّهِ تُرْجَع الْأُمُورُ ﴿١﴾

يَا أَيُّهَا النَّاسُ إِنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ فَلَا تَغُرَّكُمْ الْحَيَاةُ الدُّنْيَا وَلَا يَغُرَّكُمْ بِاللَّهِ الْغُرُورُ ﴿٢﴾

إِنَّ الشَّيْطَانَ لَكُمْ عَدُوٌّ فَاتَّخِذُوهُ عَدُوًّا إِنَّمَا يَدْعُو حِزْبَهُ لِيَكُونُوا مِنْ أَصْحَابِ السَّعِيرِ ﴿٣﴾

الَّذِينَ كَفَرُوا لَهُمْ عَذَابٌ شَدِيدٌ وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ مَغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ كَبِيرٌ ﴿٤﴾

أَمْ نَرِي لَهُ لُؤْسًا وَمِثْلَهُ نَقْدَةً حَسَنًا فَإِنْ أَلَّفَ الْبُضْلُ مِنَ نِسَاءٍ وَهَدَى مِنْ نِسَاءٍ فَلَا تَنْدُحِبُ نَفْسُكَ عَلَيْهِمْ حَسَرْتَ إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ بِمَا يَصْنَعُونَ ﴿٥﴾

1 復活、褒美（ほうび）、懲罰といった来世でのお約束のこと（ムヤッサル 434 頁参照）。

2 「欺く者」については、ルクマーン章 33 の訳注を参照。

3 シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル=ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

アッラー*は、あなた方のなすことをご存知のお方なのだから。

9. アッラー*は、風を送られるお方。それ（風）は雲を追いやり、われら*はそれを死んだ土地へと率^{ひき}いて行き、それ¹によって大地をその死後に息吹^{いぶ}かせる²。（復活の日*の）再生も、同様なのだ。

10. 権勢^{けんせい}を求める者があるならば（、アッラー*からそれを求めよ³）、アッラー*にこそ全ての偉力^{いりよく}が属するのだ。かれにこそ善き言葉^{のぼ}は昇^{のぼ}っていくのであり、正しい行い*がそれを上げ^{きげ}る⁴。そして悪を策謀^{ちようぼう}する者たち、彼らには厳しい懲罰^{きび}があり、それらの者たちの策謀^{さくぼう}こそは、ご破算^{はさん}になるのだ。

11. アッラー*はあなた方（の父祖^{ふそ}アダム*）を土から⁵、そして（その子孫を）一滴の精液からお創りになり⁶、それからあなた方を夫婦とされた。また、いかなる女性も、かれがご存知になることなくしては、妊娠す

وَاللَّهُ الَّذِي أَرْسَلَ الرِّيحَ فَتَنِّي رُوحًا بَاقِيَةً
إِلَى بَلَدٍ مَيِّتٍ فَأَخْيَيْنَاهُ الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا
كَذَلِكَ الشُّورُ ﴿٩﴾

مَنْ كَانَ يُرِيدُ الْعِزَّةَ فَلِلَّهِ الْعِزَّةُ جَمِيعًا إِلَيْهِ يَصْعَدُ
الْكِبَرُ الطَّيِّبُ وَالْعَمَلُ الصَّالِحُ يَرْفَعُهُ
وَالَّذِينَ يَمْكُرُونَ السَّيِّئَاتِ لَهُمْ عَذَابٌ
شَدِيدٌ وَمَكْرُ أُولَئِكَ هُوَ يُبْورُ ﴿١٠﴾

وَاللَّهُ خَلَقَكُمْ مِنْ تُرَابٍ ثُمَّ مِنْ نُطْفَةٍ ثُمَّ
جَعَلَكُمْ أَزْوَاجًا وَمَا تَحْمِلُ مِنْ أُنْثَى وَلَا تَضَعُ
إِلَّا بِإِذْنِهِ وَمَا يَعْمُرُ مِنْ مُعَمَّرٍ وَلَا يُنْقِصُ مِنْ
عُمُرِهِ إِلَّا فِي كِتَابٍ إِنَّ ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ﴿١١﴾

1 「それ」とは、雲から降る雨のこと（ムヤッサル 435 頁参照）。

2 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

3 アッラー*ではなく、その創造物に権勢を求める者は卑（いや）しめられることになるが、アッラー*から権勢を求める者は、かれからそれを授かる。そしてアッラー*からの権勢とは、かれへの服従によって得られるものなのである（前掲書、同頁参照）。

4 「善き言葉」は、シャハーダ*の言葉、唱念、祈願、クルアーン*の読誦、イスラーム*学の教授など、全ての善い言葉を指すとされる。本文のように「正しい行い*」が「善き言葉」を上げる、つまり正しい行い*が伴わない言葉は受け入れられない、といった解釈の外にも、①「善き言葉」が「正しい行い*」を上げる、つまりシャハーダ*の言葉を語ったムスリム*からこそ、正しい行い*は受け入れられる、②アッラー*がそれを「上げて」お受け入れになる、といった解釈もある（イブン・ジュザイ 2:212-213 参照）。

5 アーダム*が上から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュール章 26 の訳注を参照。

6 人間の創造の変遷（へんせん）については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 の訳注を参照。

ることも出産することもない。そして長命者が長生きさせられることも、その年から差し引かれることも、全て書（守られし碑板*）の中に（あらかじめ記録されて）あるのだ。本当にそれはアッラー*にとって、容易いことなのである。

12. また、二つの海は同様ではない。こちらは甘くて美味、飲むに喉越しがよく、こちらはしょっぱくて辛いというように。そしてそのいずれから、あなた方は新鮮な肉を食べ、あなた方が身に纏う装飾品を採り出す。また、あなたはそこを、船が水を切りつつ走るのを見る。（それは）あなた方が、かれのご恩寵から求めるためであり、そしてあなた方が（授かった恩恵に対し、アッラー*に）感謝するようにするためである。

13. かれは夜を昼にお入れになり、また昼を夜にお入れになり、太陽と月を仕えさせられた。（その）いずれも、定められた時期（である復活の日*）まで運行し続けるのである。そのお方がアッラー*、あなた方の主*、かれにこそ（全ての）王権はある。そして彼らが、かれをよそに祈っている者たちは、薄皮^{うすかわ}すら有してはいないのだ。

14. （人々よ、）もし、あなた方が（アッラー*をよそに）彼らに祈っても、彼らにはあなた方の祈願が聞こえない。また、たとえ聞こえたとしても、彼らがあなた方に応じる

وَمَا يَسْتَوِي الْبَحْرَانِ هَذَا عَذَبٌ مُّزَاتٌ
سَابِغٌ شَرَابُهُ وَهَذَا مِلْحٌ أُجَاجٌ وَمِنْ كُلِّ
تَأْكُلُونَ لَحْمًا طَرِيًّا وَتَسْتَخْرِجُونَ
حَبْلَهُ تَلْكُسُونَهَا وَتَرَى الْفُلْكَ فِيهِ مَوَاجِرَ
لِتَبْتَغُوا مِنْ فَضْلِهِ وَعَلَيْكُمْ
تَشْكُرُونَ ﴿١٢﴾

يُولِجُ اللَّيْلُ فِي النَّهَارِ وَيُولِجُ النَّهَارُ فِي
الْأَيْلِ وَسَخَرُ الشَّمْسِ وَالْقَمَرُ كُلٌّ
يَجْرِي لِأَجَلٍ مُّسَمًّى ذَلِكُمُ اللَّهُ
رَبُّكُمْ لَهُ الْمُلْكُ وَالَّذِينَ تَدْعُونَ مِنْ
دُونِهِ مَا يَمْلِكُونَ مِنْ قِطْمِيرٍ ﴿١٣﴾

إِنْ تَدْعُوهُمْ لَا يَسْمَعُوا دُعَاءَكُمْ وَلَوْ سَمِعُوا
مَا اسْتَجَابُوا لَكُمْ وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ يَكْفُرُونَ
بِشِرْكِكُمْ وَلَا يُنَبِّئُكَ مِثْلُ خَبِيرٍ ﴿١٤﴾

1 「夜を昼に…」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

2 原語では「キトミール」で、種子の上を覆う薄皮のこと（ムヤツサル 436 頁参照）。僅（わず）かな物も有してはいない、ということとえ（イブン・アーシュール 22:283 参照）。

ことはない。そして復活の日*、彼らはあなたの方のシルク*を否定するのである¹。(使徒*よ、誰も、全てに)通曉されるお方(アッラー*)のようには、あなたに(正しいことを)伝えることはないのだ。

15. 人々よ、あなた方はアッラー*なしではいられない貧者^{ひんじや}であり、アッラー*は満ち足りておられる*お方^{しょうさん}、称賛されるべき*お方なのである。

16. かれがご希望なら、あなた方を滅ぼされ、新たな創造物^{そうぞう}²をもたられるのだ。

17. そしてそれは、アッラー*にとって難しいことなどではない。

18. また、(罪の)重荷^{つみ}を背負^{おも}う者は、他の(者が犯した罪の)重荷^{つみ}まで背負^{おも}うことはない。そして、もし(罪の)重荷^{つみ}を背負^{おも}わされた者が(他人に)それを背負^{おも}ってくれるように頼んでも、そこから少しも背負^{おも}ってもらえることはない。たとえ、それが近親者であったとしても(、そうなのである)。

(使徒*よ、)あなたは、まだ見ぬまに自分たちの主*を恐れ^{しゆ}³、礼拝を遵守^{れいはい じゅんしゆ}*する者たちにこそ(、有効な)警告^{けいこく}をするのだ。

自らを努めて清める者^{つと}⁴は、清めることで自分を益するに外ならない。そしてアッラー*にこそ、(全ての者の)行き先はある。

* يَا أَيُّهَا النَّاسُ أَنْتُمُ الْفُقَرَاءُ إِلَى اللَّهِ
وَاللَّهُ هُوَ الْغَنِيُّ الْحَمِيدُ ﴿١٥﴾

إِنْ يَشَأْ يُذْهِبْكُمْ وَيَأْتِ بِخَلْقٍ جَدِيدٍ ﴿١٦﴾

وَمَا ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ بِعَزِيزٍ ﴿١٧﴾

وَلَا تَزِرُ وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ وَإِنْ تَدْعُ مُثْقَلَةٌ إِلَىٰ جِهَلِمَا لَا يَحْمِلُ مِنْهُ شَيْءٌ وَلَوْ كَانَ ذَا قُرْبَىٰ إِنَّمَا تُنذِرُ الَّذِينَ لَا يَخْشَوْنَ رَبَّهُمْ بِالْغَيْبِ وَأَقَامُوا الصَّلَاةَ وَمَنْ تَرَكْنَا فَاِنَّمَّا يَتَذَكَّرُ لِنَفْسِهِ ۚ وَإِلَى اللَّهِ الْمَصِيرُ ﴿١٨﴾

1 この具体的な情景の描写として、雌牛章 166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、蜘蛛章 25、砂丘章 6 などとも参照。

2 この「新たな創造物」については、イブラーヒーム*章 19 の訳注を参照。

3 「まだ見ぬまに自分たちの主を恐れる」については、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

4 この「自らを努めて清める」については、ター・ハー章 76 の訳注を参照。

19. 盲人と見る者は、同じではない。¹
20. また、闇^{やみ}と光も。²
21. また、(天国の)陰^{かげ}と(地獄の)熱風も。
22. そして、生者と死者³も。実にアッラー*は、かれがお望みになる者を、(理解と許容の耳で)聞かせられるのであり、(使徒*よ、)あなたは墓^{はか}の中にいる者⁴に聞かせる者ではないのだ。
23. あなたは、警告者^{けいこく}に外ならないのだから。
24. 本当にわれら*はあなたを、^{きつぽう}占報^{しつぽう}を伝える者、警告^{けいこく}を告げる者⁵として、真理^{しんり}と共に遣わした。そして、警告者^{けいこく}が(出現しては、不信仰^{ふしやう}の結末^{けつまつ}を警告^し、)過ぎ去^すっていかなかった共同体など、ないのだ。
25. そして、もし彼ら(シルク*の徒)があなたを嘘^{うそ}つき呼ばわりするならば、彼ら以前の者たちも確かに、(使徒*たちを)嘘^{うそ}つき呼ばわりしたのである。彼らの使徒*たちは、明証^{しょうかん}や書卷^{しよかん}や明白^{けいいでん}な啓典^{たぎき}を携^{たづ}えて、彼らのもとに到^{とうらい}来した。
26. それからわれは、不信仰^{ふしやう}に陥^{おちい}った者*たちを(様々な懲罰^{ちやうばつ}で)捕^とらえた。それで(彼らの行いに対する)、わが否認^{ひにん}はいかなるものだったか?⁷

وَمَا يَسْتَوِي الْأَعْمَىٰ وَالْبَصِيرُ ﴿١٩﴾

وَلَا الظُّلُمَاتُ وَلَا النُّورُ ﴿٢٠﴾

وَلَا الظُّلُ وَلَا الْحَرُورُ ﴿٢١﴾

وَمَا يَسْتَوِي الْأَحْيَاءُ وَلَا الْأَمْوَاتُ إِنَّ اللَّهَ يُسْمِعُ مَن يَشَاءُ وَمَا أَنتَ بِمُسْمِعٍ مَّن فِي الْقُبُورِ ﴿٢٢﴾

إِنَّ أَنتَ إِلَّا نَذِيرٌ ﴿٢٣﴾

إِنَّا أَرْسَلْنَاكَ بِالْحَقِّ بَشِيرًا وَنَذِيرًا وَإِن مِّنْ أُمَّةٍ إِلَّا خَلَا فِيهَا نَذِيرٌ ﴿٢٤﴾

وَإِن يَكْفُرُوا فَقَدْ كَذَّبَ الَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ جَاءَتْهُمْ رُسُلُهُم بِالْبَيِّنَاتِ وَبِالزُّبُرِ وَبِالْكِتَابِ الْمُنِيرِ ﴿٢٥﴾

ثُمَّ أَخَذْتُ الَّذِينَ كَفَرُوا فَكَيْفَ كَانَ نَكِيرِ ﴿٢٦﴾

1 「盲人」はアッラー*の宗教に盲目な者、「見る者」は真理を見出し、それに従った者(ムヤッサル 437 頁参照)。また、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20 とその訳注も参照。

2 「闇」は不信仰で、「光」は信仰のこと(前掲書、同頁参照)。雌牛章 257 の訳注も参照。

3 「生者」は、信仰で心が生きている者、「死者」は不信仰で心が死んだ者(前掲書、同頁参照)。

4 「墓の中にいる者」は、心が死んだ不信仰者*のたとえ(前掲書、同頁参照)。

5 「占報を…」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

6 「真理」とは、アッラー*への信仰と、宗教上の決まりのこと(前掲書、同頁参照)。

7 巡礼*章 44 の訳注も参照。

27. (使徒*よ、) あなたはアッラー*が天から
(雨) 水をお降らしになるのを見ないの
か? そしてわれら*はそれによって、様々
な色の果実を生育させる。また山々の内には、
白や赤の、異なる色の(道) 筋があり、
漆黒のものもある。

28. また人々や地を歩く生物、家畜の内にも同
様に、異なる色のものがある。アッラー*
を恐れるのは、その僕たちの内、(アッラ
ー*について) 知識ある者たちに外ならない¹。
本当にアッラー*は偉力ならびない*お
方、赦し深いお方なのだ。

29. 本当にアッラー*の啓典(クルアーン*)を読
誦し²、礼拝を遵守*し、われら*が彼らに授
けたものから(施しのために) 密に、露わ
に、費やす³者たちは、決してご破算になる
ことのない取引⁴を望む者たち。

30. (それは) かれが彼らにその褒美を全うさ
れ、そのご恩寵から彼らに上乗せされるた
め。本当にかれは赦し深いお方、よく労わ
られる*お方なのだから。

31. (使徒*よ、) われら*があなたに下した啓典
(クルアーン*) は、それ以前のもの⁵を確
証する真理である。本当にアッラー*はその

الَّذِينَ أَنْزَلَ اللَّهُ أَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ
مَاءً فَأَخْرَجْنَا بِهِ ثَمَرَاتٍ مُخْتَلِفًا أَلْوَانُهَا
وَمِنَ الْجِبَالِ جُدَدٌ بَيَضٌ وَحُمْرٌ مُخْتَلِفٌ
أَلْوَانُهَا وَعَرَايِبُ سُودٌ ﴿٢٧﴾

وَمِنَ النَّاسِ وَالْأَنْعَامِ مُخْتَلِفٌ
أَلْوَانُهُ كَذَلِكَ إِنَّمَا يَخْشَى اللَّهَ مِنْ عِبَادِهِ
الْعَالِمُونَ ﴿٢٨﴾ إِنَّ اللَّهَ عَزِيزٌ غَفُورٌ ﴿٢٩﴾

إِنَّ الَّذِينَ يَتْلُونَ كِتَابَ اللَّهِ وَأَقَامُوا الصَّلَاةَ
وَأَنفَقُوا مِمَّا رَزَقْنَاهُمْ سِرًّا وَعَلَانِيَةً يَرْجُونَ
تِجَارَةً لَّنْ نَّبُورَ ﴿٣٠﴾

لِيُؤْتِيَهُمْ أَجْرَهُمْ وَيزِيدَهُمْ مِنْ فَضْلِهِ
إِنَّهُ عَزِيزٌ سُكُورٌ ﴿٣١﴾

وَالَّذِي أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ مِنَ الْكِتَابِ هُوَ الْحَقُّ
مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ إِنَّ اللَّهَ بِعِبَادِهِ

1 創造物が様々に異なるように、人々のアッラー*に対する恐れや度合いも様々である(アル＝クルトゥビー10:46 参照)。完全なる属性と美名で形容されるアッラー*について知れば知るほど、かれに対する恐れや念は強くなる(イブン・カスィール 6:544 参照)。

2 この「読誦」については、雌牛章 121 の訳注も参照。

3 アッラー*が「授けたものから(施しとして) 費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

4 それらの行いと引き換えに、アッラー*のお喜びと多大な褒美を得るという取引のこと(ムヤッサル 437 頁参照)。

5 「それ以前のもの」とは、クルアーン*以前の啓典のこと(前掲書 438 頁参照)。

僕^{しもべ}たちに対し、まさしく通曉^{つうぎょう}されるお方、よくご覧^{らん}になられるお方。

لَّخَيْرٍ بَصِيرٌ ﴿٢١﴾

32. それからわれら*はその啓典^{けいてん}(クルアーン*)を、われら*の僕^{しもべ}の内から、われら*が選び抜いた者^つたちに受け継^つがせた。それで彼らの内^{みづか}には、自ら^{みづか}に対して不正*を働く者もいるし、ほどほどの者もいるし、アッラー*のお許^{ゆる}しと共に善へと急ぐ者^{おんちよう}もいる。それ²こそは、大いなる恩寵^{おんちよう}なのだ。

ثُمَّ أَوْرَثْنَا الْكِتَابَ الَّذِينَ اصْطَفَيْنَا مِنْ عِبَادِنَا فَمِنْهُمْ ظَالِمٌ لِّنَفْسِهِ وَمِنْهُمْ مُّقْتَصِدٌ وَمِنْهُمْ سَابِقٌ بِالْخَيْرَاتِ يُأْتِيَنَّ اللَّهَ ذَلِكَ هُوَ الْفَضْلُ الْكَبِيرُ ﴿٢٢﴾

33. 永久^{とわ}の樂園、彼らはそこに入る。彼らはそこで金製の腕輪^{うでわ}と真珠^{しんじゆ}で飾り立てられ、そこでの彼らの衣服^{きぬ}は絹^{きぬ}なのである。³

جَنَّاتٌ عَدْنٍ يَدْخُلُونَهَا يُجَلَّوْنَ فِيهَا مِنْ أَسَاوِرَ مِنْ ذَهَبٍ وَلُؤْلُؤًا وَلِبَاسُهُمْ فِيهَا حَرِيرٌ ﴿٢٣﴾

34. 彼らは(天国に入った時、こう)言う。「私たちから悲しみ⁴を消して下さったアッラー*に、称賛^{しょうさん}あれ。本当に我らが主*は、まさしく赦^{ゆる}し深いお方、よく労^{いたわ}わられる*お方だ。

وَقَالُوا الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي أَذْهَبَ عَنَّا الْحَزْنَ إِنَّ رَبَّنَا لَغَفُورٌ شَكُورٌ ﴿٢٤﴾

35. (かれは)そのご恩寵^{おんちよう}により、私^{わたし}たちを永住の世界(である天国)に住まわせて下さったお方。そこでは私^{わたし}たちに、いかなる消耗も及ぶことはなく、そこでは私^{わたし}たちに、いかなる疲労^{疲労}が及ぶこともない」。

الَّذِي أَحَلَّنَا دَارَ الْمَقَامَةِ مِن فَضْلِهِ لَا يَمَسُّ فِيهَا نَصَبٌ وَلَا يَمَسُّ فِيهَا الْغُوبُ ﴿٢٥﴾

1 「自らに対して不正*を働く者」とは罪を犯す者のことで、「ほどほどの者」とは宗教義務を果たし、禁じられた物事を避ける者のこと、「善へと急ぐ者」とは義務行為のほか、任意の善行にも励(はげ)む者のこととされる(ムヤッサル 438 頁参照)。

2 この「それ」は、アッラー*が啓典をお授けになり、預言者*ムハンマド*の共同体をお選びになったということ(前掲書、同頁参照)。

3 天国の民が身にまとう物については、洞窟章 31、巡礼*章 23、煙霧章 51-53、人間章 12、21 も参照。

4 この「悲しみ」とは、地獄の懲罰、復活の日*の恐怖、現世での心配事などにおける、あらゆる悲しみのこと(イブン・ジュザイ 2:217 参照)。

36. また、不信仰に陥った者*たち、彼らには地獄の業火があり、(死の)裁決を下されることで死ぬこともなく、その懲罰が軽減されることもない。同様にわれら*は、あらゆる不信心この上ない者に報いるのだ。

37. そして彼ら(不信仰者*)はそこで、叫びわめく。「我らが主*よ、私たちを(地獄から)出して下さい。そうして(現世に戻して)下さったら、私たちは自分たちが(現世で)行っていたのとは違う、正しい行い*を行います」。¹(するとアッラー*は仰せられる。)「一体われら*は、教訓を受ける者がそこにおいて教訓を受けるだけの(十分な)年月を、あなた方に与えなかったのか？そしてあなた方のもとには、警告者が到来したのでは？ならば(地獄の懲罰を)味わえ。不正*者たちには、いかなる援助者もないのだから」。

38. 本当にアッラー*は、諸天と大地の不可視の世界* (に関する知識)をご存知のお方。実にかれば、胸の内にあるものをご存知であられる。

39. (人々よ、) かればあなた方を地上の継承者²とされたお方。不信仰に陥った者*は自分自身に対して、その不信仰(の害)がある。そして不信仰者*たちの不信仰はその主*の御許において、自分自身への憎悪しか上乗せすることがなく、不信仰者*たちの不信仰は自分自身に、損失しか上乗せしないのだ。

وَالَّذِينَ كَفَرُوا لَهُمْ نَارُ جَهَنَّمَ لَا يُقْضَىٰ عَلَيْهِمْ فَيَمُوتُوا وَلَا يُخَفَّفَ عَنْهُمْ مِنْ عَذَابِهَا كَذَلِكَ نَجْزِي كُلَّ كَاْفِرٍ ﴿٣٦﴾

وَهُمْ يَصْطَرِخُونَ فِيهَا رَبَّنَا أَخْرِجْنَا نَعْمَلْ صَالِحًا غَيْرَ الَّذِي كُنَّا نَعْمَلُ ۚ أُولَٰئِكَ يُعَذِّبُهُمْ رَبُّهُمْ لِمَا يَنْتَكِبُونَ فِيهِمْ مِنْ ذُنُوبٍ ۚ وَجَاءَهُمُ النَّذِيرُ فَذُوقُوا فَمَا لِلظَّالِمِينَ مِنْ نَاصِرٍ ﴿٣٧﴾

إِنَّ اللَّهَ عَلَيْهِ غَيْبُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ ۚ إِنَّهُ عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿٣٨﴾

هُوَ الَّذِي جَعَلَ خَلْقَ فِي الْأَرْضِ مَنْ كَفَرَ فَعَلَيْهِ كُفْرُهُ ۖ وَلَا يُزِيدُ الْكَافِرِينَ كُفْرُهُمْ إِلَّا عَذَابًا ۚ وَلَا يُزِيدُ الْكَافِرِينَ كُفْرُهُمْ إِلَّا خَسَارًا ﴿٣٩﴾

1 同様の情景の描写として、家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ=サジダ*章 12、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

2 「地上の継承者」については、家畜章 165 の訳注を参照。

40. (使徒*よ、シルク*の徒に) 言ってやれ。「言ってみよ、あなた方がアッラー*をよそに祈っている、あなた方(がアッラー*)の同位者たち(として崇拜*しているもの)について。彼らが地上で何を創造したのか、私に見せてみよ」。いや、一体彼らには、諸天(の創造)における、(アッラー*への)加担があるというのか? いや、一体われら*が彼らに啓典を与え、彼らがそれによる明証¹に基づいているとでも? いや、不正*者たちは互いに偽りしか約束することがない。

41. 実にアッラー*は諸天と大地を、それらが崩れ落ちないように、お支えになる。そして、もしも彼らが崩れ去ったならば、かれの後、いかなる者も彼らを支えられない。本当に彼はもとより、寛大な*お方、赦し深いお方である。

42. 彼ら(不信仰者*)は躍起^{やっき}になって、アッラー*にかけて誓った。もしも自分たちのもとに警告者が到来したならば、自分たちは必ずや、数々の民²のいずれよりも導かれたものとなる、と。だが彼らのもとに警告者(預言者*ムハンマド*)が到来した時、それは彼らに対し、(真理から)離れ去ることに拍車をかけただけだった。

43. 地上で奢り高ぶり、悪の策謀^{さくぼう}を(望みつつ)。悪い策謀は、その者自身を包囲するだけだというのに。そして彼らは、昔の人々の摂理^{せつり}を待っているだけなのか? と

قُلْ أَرَأَيْتُمْ شُرَكَاءَ الَّذِينَ تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ أَرُونِي مَاذَا خَلَقُوا مِنَ الْأَرْضِ أَمْ لَهُمْ شِرْكٌ مِنَ السَّمَوَاتِ أَمْ أَتَيْنَاهُمْ بِكِتَابٍ فَهُمْ عَلَى بَيِّنَةٍ مِنْهُ بَلْ إِنْ يَعْذِرُ الظَّالِمُونَ بَعْضُهُمْ بَعْضًا إِيَّائِهِمْ فَلَا

* إِنْ اللَّهُ يَمْسِكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ أَنْ تَزُولَا وَلَئِنْ رَأَيْتَ أَنَّ أَمْسَكْنَاهُمَا مِنْ لَحْدَمٍ مِنْ بَعْدِهِ إِنَّهُ كَانَ حَلِيمًا غَفُورًا

وَأَقْسَمُوا بِاللَّهِ جَهْدَ أَيْمَانِهِمْ إِنْ جَاءَهُمْ نَذِيرٌ لَيَكُونُنَّ أَهْدَىٰ مِنْ إِحْدَى الْأُمَمِ فَلَمَّا جَاءَهُمْ نَذِيرٌ مَارَدَهُمْ إِلَّا نُفُورًا

أَسْتَكْبَرُوا فِي الْأَرْضِ وَمَكْرُ السَّيِّئِ لَا يَبْحِثُ الْمَكْرُ السَّيِّئِ إِلَّا أَهْلَهُ ۚ هُمْ لَا يَنْظُرُونَ إِلَّا سُنَّتَ الْأَوَّلِينَ ۚ فَلَنْ يَجْعَلَ اللَّهُ بُدْلًا

1 シルク*を正当化する明証のこと(アッ=サアディー691頁参照)。

2 ユダヤ教徒*、キリスト教徒*、あるいはその他の自分たち以外の民のこと(ムヤツサル 439頁参照)。

3 「昔の人々の摂理」については、戦利品*章 38 の訳注を参照。

もあれ、あなたはアッラー*の摂理^{せつり へんこう}に変更^{みいだ}を見出すこともなく、アッラー*の摂理^{せつり}に転移^{みいだ}を見出すこともないのだ。

وَلَنْ تَجِدَ لِسَانَ اللَّهِ تَحِيلًا ﴿١٧﴾

44. そして彼ら（不信仰者*）は地上を旅し、彼らよりも力強かった、彼ら以前の（不信仰者*）たちの結末がいかなるものだったかを、見てみないのか？ アッラー*はもとより、諸天においても大地においても、いかなるものもかれ（の懲罰^{ちやうばつ}）から逃れようもないお方。本当に彼はもとより、全知者、全能者なのだ。

أَوَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ وَكَانُوا أَشَدَّ مِنْهُمْ قُوَّةً وَمَا كَانَ اللَّهُ لِيُعْجِزَهُ مِنْ شَيْءٍ فِي السَّمَوَاتِ وَلَا فِي الْأَرْضِ إِنَّهُ كَانَ عَلِيمًا قَدِيرًا ﴿١٨﴾

45. もしアッラー*が人々を、彼らが稼いだもの^{かせ}の^{とが}ゆえにお咎めになれば、かれは（大地の）その表面に、いかなる生物も残してはおかなかっただろう³。しかしかれは、彼ら（の懲罰^{ちやうばつ}）を定められた時まで遅らせ給うのだ。そして彼らの（懲罰^{ちやうばつ}の）時が来たら、（かれは彼らを罰し給う、）本当にアッラー*はもとより、その僕たちをよくご覧になるお方。

وَلَوْ يَؤْخِذُ اللَّهُ النَّاسَ بِمَا كَسَبُوا مَا تَرَكَ عَلَى ظَهْرِهِمَا مِنْ ذَنْبَةٍ وَلَا كُنَ يُؤْخِرُهُمْ إِلَىٰ أَجَلٍ مُّسَمًّىٰ فَإِذَا جَاءَ أَجَلُهُمْ فَإِنَّ اللَّهَ كَانَ يَعْبَادُهُ بِصِيرًا ﴿١٩﴾

1 この「アッラー*の摂理」とは不信仰者*への懲罰のこと。誰もそれを変えたり、それを自分から他人に転移させることなど出来ない（ムヤッサル 439 頁参照）。

2 「稼いだもの」とは、罪のこと（前掲書 440 頁参照）。

3 同様のアーヤ*として、蜜蜂章 61 とその訳注を参照。

第36章

ヤー・スィーン章¹

慈悲あまねく*慈愛深く*

アッラー*の御名において

1. ヤー・スィーン²。
2. 完全無欠な³クルアーン*に誓って、
3. 本当に（ムハンマド*よ、）あなたはまさしく、使徒*の一人、
4. まっすぐな道（イスラーム*）の上にある。
5. （アッラー*は、クルアーン*を）偉力ならびなく*、慈悲あまねき*お方の下されたものとして（お下しになった）。
6. （それは使徒*よ、あなたの到来以前に）自分たちの先祖が警告されておらず、（信仰と正しい行い*において）無頓着になっている民⁴に、あなたが警告するため。
7. （真理を知った後に拒否した）彼らの多くには、既に（懲罰という）御言葉が確定した。彼らは、信仰しないのだから。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يس١

وَالْقُرْآنِ الْحَكِيمِ ٢

إِنَّكَ لَمِنَ الْمُرْسَلِينَ ٣

عَلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ ٤

نَزِيلَ الْعَزِيزِ الرَّحِيمِ ٥

لِنُنذِرَ قَوْمًا مَّا أُنْذِرَ آبَاؤُهُمْ فَهُمْ غَافِلُونَ ٦

لَقَدْ حَقَّ الْقَوْلُ عَلَى أَكْثَرِهِمْ فَهُمْ لَا

يُؤْمِنُونَ ٧

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭のアーヤ*に由来。啓示・預言者*ムハンマド*の使徒*性・復活の日*・報（むく）い・天国と地獄・アッラーの唯一性*といった、イスラーム*の基本的な信仰箇条（かじょう）を取り上げる。また、当時のマッカ*における預言者*と不信仰者*らの情景を彷彿（ほうふつ）とさせる、使徒*が遣わされた町の話は、使徒*に逆らう民への警告と共に、使徒*に従う者たちへの占報を告げている。そしてスーラ*の最後は、このスーラ*の基本的テーマである、復活と報い、その証明によって締めくくられる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「完全無欠な」については、ユースス*章1の訳注を参照。

4 この「民」は、アラブ人のこと（ムヤッサル 440 頁参照）。尚このアーヤ*が、アラブ人以外の者に対しての警告を否定することにはならない。家畜章 19、高壁章 158 とその訳注、識別章 1、サバア章 28 などとも参照（イブン・カスィール 6:166 参照）。

8. 本当にわれら*は、彼らの首に枷をつけた。
それは彼らのあごに至っており、彼ら（の
顔）は上を仰がされた状態にある。¹
9. そしてわれら*は（その不信仰と傲慢さゆえ
に）、彼らの前に障壁を置き、その後ろか
らも障壁を置き²、彼ら（の眼）を覆った³。
それで彼らは（正道を）見ることがない。
10. （使徒*よ、）あなたが彼らに警告したとし
ても、警告しなかったとしても、彼らにと
っては同じこと。彼らは信じないのだ。
11. 本当にあなたは教訓（クルアーン*）に従
い、まだ見ぬままに慈悲あまねき*お方（ア
ッラー*）を恐れる⁴者にこそ、（有効な）警告
をするのである。ならばその者には（罪の）
赦しと、貴い褒美⁵の占報を伝えよ。
12. 本当にわれら*は（復活の日*、）死者たちに
生を与えるのであり、彼らが（現世で）行っ
ていたことと、その軌跡⁶を書き留める。そ
してわれら*は全ての物事を、明らかなる規
範⁷の中で数え尽くしておいたのである。

إِنَّا جَعَلْنَا فِي أَعْنَاقِهِمْ أَغْلَالًا فَفِي إِلَى
الْأَذْقَانِ فَهُمْ مُقْمَقُونَ ﴿٨﴾

وَجَعَلْنَا مِنْ بَيْنِ أَيْدِيهِمْ سَدًّا وَمِنْ خَلْفِهِمْ
سَدًّا فَأَغْشَيْنَاهُمْ فَهُمْ لَا يُبْصِرُونَ ﴿٩﴾

وَسَوَاءٌ عَلَيْهِمْ أُنذِرْتَهُمْ أَمْ لَا تُنذِرُهُمْ لَا
يُؤْمِنُونَ ﴿١٠﴾

إِنَّمَا تُنذِرُ مَنِ اتَّبَعَ الذِّكْرَ وَخَشِيَ
الرَّحْمَنَ الْغَيْبِ فَلْيُسْرِهِمْ فَيَغْفِرْ لَهُمْ وَاجْزِ
كَرِيمٍ ﴿١١﴾

إِنَّا نَحْنُ الْحَقُّ الْمَوَدَّىٰ وَيَكُفُّ مَا قَدَّمُوا
وَإِذَا نُهُمُ كُلٌّ شَيْءٍ أَحْصَيْنَاهُ فِي
إِمَامٍ مُّبِينٍ ﴿١٢﴾

1 両手をあごの下につけた形で、首もろとも枷をつけられているので、頭が上方を向いた状態（イブン・カシール 6:166 参照）。この解釈には、「導かれない状態のたとえ」「アッラー*の道において施（ほどこ）さないことのたとえ（夜の旅章 29 参照）」「あらゆる善から阻（はば）まれている状態」「地獄の懲罰の光景（赦し深いお方章 71 参照）」など、諸説ある（アル＝クルトゥビー 15:8-9 参照）。

2 これは、信仰から阻まれている様子のこと（ムヤッサル 440 頁参照）。

3 雌牛章 7、フード*章 20 とその訳注も参照。

4 「まだ見ぬままにアッラー*を恐れること」については、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

5 天国のこととされる（ムヤッサル 440 頁参照）。

6 「その軌跡」とは、彼らの生前と死後に、彼らが原因として生じた善いことや悪いこと。前者の例としては正しい子供、有益な知識、継続する施（ほどこ）しなどがあり、後者の例としては、シルク*や諸々の罪などがある（前掲書、同頁参照）。

7 「明らかなる規範」とは、守られし碑板*。存在する全てのものは元々、この中に記録されている、ということ（イブン・カシール 6:568 参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

13. (使徒*よ、) 彼ら(シルク*の徒)に、一つの譬えを挙げよ。町の人々(の話)を。使徒たちが、そこへとやって来た時のこと。
14. われら*が彼らに(アッラー*への信仰と、シルク*の放棄へと招く)二人(の使徒)を遣わし、彼らが二人を嘘つき呼ばわりした時のこと。それでわれら*は(その二人を)三人目(の使徒)で強化した。すると、彼ら(使徒たち)は言った。「本当に私たちは、あなた方へと遣わされた者なのです」。
15. 彼ら(町の人々)は言った。「あなた方は、私たちと同様の人間に過ぎない。そして慈悲あまねき*お方(アッラー*)は、(啓示など)何一つ下してはいないのだ。あなた方は嘘をついているに過ぎない」。
16. 彼ら(使徒たち)は言った。「我らが主*は、本当に私たちがまさしく、あなた方に対する使徒であることをご存知である。
17. そして私たちの義務は、(啓示の)明白なる伝達に外ならない」。
18. 彼ら(町の人々)は言った。「本当に私たちは、あなた方を不吉に思う¹。もしも、あなたが(私たちをあなた方の教えに招くのを)止めなければ、私たちは必ずや、あなた方を(石で)打ち殺してやろう²。そして、きっと私たちからの痛ましい懲罰が、あなた方に降りかかるであろう」。

وَأَضْرَبَ لَهُمْ مَثَلًا أَصْحَابَ الْقَرْيَةِ إِذْ جَاءَهَا الْمُرْسَلُونَ ﴿١٣﴾

إِذْ أَرْسَلْنَا إِلَيْهِمُ اثْنَيْنِ فَكَذَّبُوهُمَا فَعَزَّزْنَا بِثَالِثٍ فَقَالُوا إِنَّا إِلَهُكُم مُّرْسَلُونَ ﴿١٤﴾

قَالُوا مَا أَنْتُمْ إِلَّا بَشَرٌ مِثْلُنَا وَمَا أَنْزَلَ الرَّحْمَنُ مِنْ شَيْءٍ إِنْ أَنْتُمْ إِلَّا تَكْذِبُونَ ﴿١٥﴾

قَالُوا رَبَّنَا عَلِّمْنَا لِنَا إِلَهُكُم لِنُرْسِلُوهُنَّ ﴿١٦﴾

وَمَا عَلَيْنَا إِلَّا الْبَلَاغُ الْمُبِينُ ﴿١٧﴾

قَالُوا إِنَّا نَطَّعُ نَابَكُمْ لَئِنْ لَمْ تَنْتَهُوا لَنَرْجُمَنَّكُمْ وَلَيَمَسَّنَّكُم مِّنْ عَذَابِ إِلَيْنَا ﴿١٨﴾

1 「不吉に思う」については、高壁章 131 の訳注を参照。

2 「(石で) 打ち殺す」については、フード*章 91 の同表現の訳注を参照。

19. 彼ら（使徒たち）は言った。「あなた方の不吉のものは、あなた方のところにある¹。たとえ教訓を与えられたとしても、（あなた方は私たちを不吉がり、私たちを脅すの）か？ いや、あなた方は（罪と嘘呼ばわりにおいて）度を越した民である」。
20. そして（彼らが使徒たちを手をかけようとした時）、町の一番遠くから、一人の男が急いでやって来た。彼は言った。「我が民よ、使徒たちに従うのだ。
21. あなた方に見返り²を求めない者に、^{したが}従え。彼らは導かれた者たちなのだ。
22. それに私が、自分のことを創成して下さった*お方を崇めない、などということがあろうか？ かれの御許にこそ、あなた方は戻らされるというのに？
23. 一体私が、かれを差しおいて（外の）神々³を選ぶというのか？ もし慈悲あまねき*お方（アッラー*）が私に害悪をお望みになれば、彼らの執り成しは私を何一つ益することもなく、彼らは私を救ってもくれないのに。
24. そんなことをすれば、本当に私はまさしく紛れもない迷いの中にある。
25. 本当に私は、あなた方の主*^{しゅ}を信じた。だから、私に耳を傾けるのだ」。

قَالُوا طَائِفَةٌ مِّنْكُمْ مَّعَكُمْ أَبَىٰ ذِكْرُكُمْ بَلْ
أَنْتُمْ قَوْمٌ مُّسْرِفُونَ ﴿١٩﴾

وَجَاءَ مِنْ أَقْصَا الْمَدِينَةِ رَجُلٌ يَسْعَىٰ قَالَ
يَنْقُومُ أَنْتُمْ اتَّبِعُوا الْمُرْسَلِينَ ﴿٢٠﴾

اتَّبِعُوا مَنْ لَا يَسْأَلُكُمْ أَجْرًا وَهُمْ
مُهْتَدُونَ ﴿٢١﴾

وَمَا لِيَ لَا أُعْبُدَ الَّذِي فَطَرَنِي وَإِلَيْهِ
تَرْجَعُونَ ﴿٢٢﴾

أَتَتَّخِذُ مِنْ دُونِهِ آلِهَةً إِن يُرِدْنِ الرَّحْمَنُ
بِضُرٍّ لَّا تُغْنِ عَنِّي شَفَاعَتُهُمْ شَيْئًا وَلَا
يُنْقِذُونِ ﴿٢٣﴾

إِنِّي إِذًا لَّفِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٢٤﴾

إِنِّي ءَامَنْتُ بِرَبِّكُمْ فَاسْمِعُونِ ﴿٢٥﴾

1 不吉なことが起こるのは、彼らの不信仰のせいだ、ということ。あるいは、善いことも悪いことも、全て既に定命なのである、ということ（アル＝バガウィー4:11 参照）。

2 この「見返り」については、家畜章 90 の訳注を参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

26. (彼はこうして殉教した後、こう) 言われた。「天国に入るがよい」。彼は言った。「我が民が、知っていたらよかったのに。
27. (私の信仰と忍耐^{にんたい}、使徒^{しと}たちへの追従^{ついじゅう}ゆえに) 我が主^{えい}が私をお赦しになり、私を栄誉高き者たちの一人として下さったことを」。
28. われら^{*}はその(男の死と、使徒たちを嘯つき呼ばわりした)後、その民に対し、天から(天使^{てんし}の)軍勢など下すまでもなかった。われら^{*}は(人々を滅ぼすため、わざわざ天使^{てんし}を)下す者ではなかったのである。
29. それは、(轟く)一声に過ぎなかった。そしてどうであろう、彼らは息絶えた者となってしまったのである。
30. (復活の日^{ちようぶつ}、懲罰を目の当たりにした時の、)僕たちの悲痛よ！ 使徒^{しと}が彼らのもとを訪れば、彼らは決まって彼(使徒)のことを嘲笑したものだのだ。
31. 一体彼らは、われら^{*}が彼ら以前にどれだけ多くの世代を滅ぼしたのかを、見なかったのか？ 彼らは、(現世にいる)彼らのもとに戻っては来ない。
32. そして(それら滅ぼされた世代の)全ての者は、(復活の日^{ちようふく}には)例外なく、われら^{*}のもとに(清算のため)連れて来られるのである。

فَبَلَّغْنَاكَ الْجَنَّةَ ۖ فَبَلَغْتَ قَوْمِي
يَعْلَمُونَ ﴿٦٦﴾

يَسْأَلُنِي رَبِّي وَجَعَلَنِي مِنَ الْمُكْرَمِينَ ﴿٦٧﴾

﴿٦٨﴾ وَمَا أَرْزَلْنَا عَلَى قَوْمِهِ مِنْ بَعْدِهِ مِنْ جُنْدٍ
مِّنَ السَّمَاءِ وَمَا كُنَّا مُنْزِلِينَ ﴿٦٩﴾

إِنْ كَانَتْ إِلَّا الصَّيْحَةُ وَاحِدَةً ۖ فَذَا هُمْ فَجُودُونَ ﴿٧٠﴾

يَحْزَنُونَ عَلَى الْعِبَادِ ۚ مَا يَأْتِيهِمْ مِّن رَّسُولٍ
إِلَّا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِءُونَ ﴿٧١﴾

أَلَيْسَ لَهُمُ الْيَوْمَ إِلَٰهَتٌ إِلَّا يَهُدَىٰ ۚ لَّا يَرْجِعُونَ ﴿٧٢﴾

وَإِنَّ كُلَّ لَمَّا جُمِعَ لَدُنَّا مُحْضَرُونَ ﴿٧٣﴾

33. また、死んだ土地は彼らへの御徴^{みしるし}¹である。われら*はそれを息吹かせ、そこから種粒^{たねつぶ}を生育させ、あなた方はそこから食べるのだ。
34. また、われら*はそこに、ナツメヤシ、葡萄^{ぶどう}からなる果樹園を設け、そこに泉を噴き出させたのである。
35. (それは)彼らがその果実から食するため——それを作ったのは、彼らの手ではない^{おんけい}²——。彼らは、(この恩恵に)感謝しないのか？
36. 大地から生育するものの内に、あらゆる種類をお創りになったお方に称え*あれ。そしてあなた方自身³の内と、あなた方の知らないものの内にも。
37. また、夜は彼らへの御徴^{みしるし}⁴である。われら*がそこから昼を剥ぎ取ると、どうであろう、彼らは真っ暗になってしまう。
38. また、その停まり場⁵へと進み行く太陽も(、彼らへの御徴^{みしるし})。それは偉力^{いりよく}ならびない*。お方、全知者のお定めなのだ。

وَأَيُّ آيَةٍ لَهُمُ الْأَرْضُ الْمَيِّتَةُ أَحْيَيْتَهَا
وَأَخْرَجْنَا مِنْهَا حَبًّا فَمِنْهُ يَأْكُلُونَ ﴿٣٣﴾

وَجَعَلْنَا فِيهَا جَنَّاتٍ مِنْ نَخِيلٍ وَأَعْنَابٍ
وَفَجَّرْنَا فِيهَا مِنَ الْعُيُونِ ﴿٣٤﴾

لِيَأْكُلُوا مِنْ ثَمَرِهِ وَمَا عَمِلَتْهُ أَيْدِيهِمْ
أَفَلَا يَشْكُرُونَ ﴿٣٥﴾

سُبْحَنَ الَّذِي خَلَقَ الْأَزْوَاجَ كُلَّهَا
وَمَا تَشِئْتُمْ إِلَّا أَرْضٌ وَمِنْ أَنْفُسِهِمْ وَمِمَّا لَا
يَعْلَمُونَ ﴿٣٦﴾

وَأَيُّ آيَةٍ لَهُمُ اللَّيْلُ نَسْلَخُ مِنْهُ النَّهَارَ فَإِذَا
هُم مُظْلِمُونَ ﴿٣٧﴾

وَالشَّمْسُ تَجْرِي لِمُسْتَقَرٍّ لَهَا ذَلِكَ
تَقْدِيرُ الْعَزِيزِ الْعَلِيمِ ﴿٣٨﴾

1 この「御徴」は、アッラー*に復活と、再生を行う力があることの証拠（ムヤッサル 442 頁参照）。

2 「彼らがその果実と、自分たちが作ったものを食べるため」という解釈もある（アッ=タバリ-8:6831-6832 参照）。

3 つまり人間のことも性別、形質、性格、外面的・内面的特徴において、異なるものとされた（アッ=サアディー-695 頁参照）。

4 この「御徴」は、アッラーの唯一性*と、完全なる御力を示す証拠のこと（ムヤッサル 442 頁参照）。

5 毎日、あるいは毎年、決められた周期のこと。あるいは、その動きが止まる、この世の終わりのこと（アル=カースィミー-14:5005 参照）。

39. また、月も。われら*はそれが（細い三日月^{ふたたび}から満月となり、再び）古い望^{くき}のように戻り行くまで、（毎晩の）その諸々の宿り場^{もろもろやど}を定めた。
40. 太陽が月に追いつくことはありえず、夜が昼に先駆けることもない。そして全ては、その軌道^{きどう}を走る。
41. また、われら*が彼ら（アードム*の子ら）の子孫を、（各種の生き物で）満載^{まんさい}された船^{ふね}で運んだのも、（アッラー*のみが崇拜^{そうはい}されるべきことを示す、）彼らへの御徴である。
42. またわれら*は彼ら³にも、彼らが乗る、それと同じような物を作った。
43. もしわれら*が望めば、彼らを溺れさせるのである。そして彼らにはいかなる救助者もなく、救われることもない。
44. しかし、われら*からの慈悲ゆえ、そして（彼らに定められた）時⁴までの楽しみゆえ（、彼らを無事に運行させるのだ）。
45. また、彼ら（シルク*の徒）に、「あなた方の前にあるものと、あなた方の後ろにあるもの⁵を畏れ*よ。（それは）あなた方が、（アッラー*から）慈しまれるようにするためなのだ」と言われれば（、彼らは背を向け、それに応じなかった）。

وَالْقَمَرَ قَدَرْنَاهُ مَنَازِلَ حَتَّىٰ عَادَ كَالْعُرْجُونِ
الْقَدِيمِ ﴿٣٩﴾

لَا الشَّمْسُ يَنْبَغِي لَهَا أَنْ تُدْرِكَ الْقَمَرَ وَلَا اللَّيْلُ
سَابِقُ النَّهَارِ وَكُلٌّ فِي فَلَكٍ يَسْبَحُونَ ﴿٤٠﴾

وَأَيُّ لَهْمٍ أَنَا حَمَلْنَا ذُرِّيَّتَهُمْ فِي الْفَلَكِ
الْمَسْحُونِ ﴿٤١﴾

وَخَلَقْنَا لَهُمْ مِنْ مِثْلِهِ مَا يَرْكَبُونَ ﴿٤٢﴾

وَإِنْ نَشَأْ نُفِثْهُمْ فَمَا صِرَاحٌ لَهُمْ وَلَا هُمْ
يُنْقَذُونَ ﴿٤٣﴾

إِلَّا رَحْمَةً مِنَّا وَمَتَاعًا إِلَىٰ حِينٍ ﴿٤٤﴾

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ اتَّقُوا مَا بَيْنَ أَيْدِيكُمْ وَمَا
خَلْفَكُمْ لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ﴿٤٥﴾

1 この「莖（ウルジューン）」とは、ナツメヤシの実をつける、先端部分の莖のこと。その細さ、湾曲（わんきょく）した形、黄色い色ゆえに、細い三日月にたとえられている（ムヤッサル 442 頁参照）。

2 これは預言者*ヌーフ*と信仰者たち、生き物たちを乗せた船のこと（前掲書 443 頁参照）。

3 「彼ら」とは、シルク*の徒や、その他の者たち（前掲書、同頁参照）。

4 この「時」は、死期、あるいは復活の日*のこととされる（アル＝クルトウビー 15:35 参照）。

5 「前にあるもの」は来世と、彼らを待ち受ける恐怖のこと。「後ろにあるもの」とは、現世と、そこにおける懲罰のこと（ムヤッサル 443 頁参照）。

46. そして彼らの主*の御徴^{しめ みるし}の内の、いかなる御徴^{しるし}が彼らのもとに到来した時でも、彼らがそれに背を向けないことはなかったのである。

47. また彼らに、「アッラー*があなた方に授けたものから、（施しのために）費やす^{ついで}のだ」と言われれば、不信仰に陥った者*たちは信仰する者たちに、（こう）言った。「もしアッラー*がお望みになれば食べさせ給うた者に、私たちが食べさせるというのか？^{たも} あなた方は確かに、紛れもない迷いの中にいる^{まぎ}」。

48. 彼ら（不信仰者*）は、言う。「（復活の）この約束はいつなのか？ もしあなたが本当のことを言っているのなら」。

49. 彼らは、彼らが（現世の生活において）議論^{ぎろん}し合っている最中に自分たちを（突然^{おそ}）襲う、（轟^{とどろ}きの）一声^{いし}を待っているに過ぎない。

50. そして彼らは（その時、誰^{ゆいごん}にも）遺言^{いごん}できないし、家族のもとに戻ることも出来ない。^{もと} 6

وَمَا تَأْتِيهِمْ مِنْ آيَةٍ مِنْ آيَاتِ رَبِّهِمْ إِلَّا
كَانُوا عَنْهَا مُعْرِضِينَ ﴿١٦﴾

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ أَنْفِقُوا مِمَّا رَزَقَكُمُ اللَّهُ قَالَ الَّذِينَ
كَفَرُوا لِلَّذِينَ آمَنُوا أَنْطَعِمُ مَنْ لَوْ يَسَاءُ اللَّهُ
أَطْعَمَهُ إِنْ أَنْتُمْ إِلَّا فِي ضَلَالٍ مُبِينٍ ﴿١٧﴾

وَيَقُولُونَ مَتَى هَذَا الْوَعْدُ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿١٨﴾

مَا يَنْظُرُونَ إِلَّا صَيْحَةً وَاحِدَةً تَأْخُذُهُمْ
وَهُمْ يَخِصِّمُونَ ﴿١٩﴾

فَلَا يَسْتَطِيعُونَ تَوْصِيَةً وَلَا إِلَىٰ أَهْلِهِمْ
يَرْجِعُونَ ﴿٢٠﴾

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*と預言者*ムハンマド*の正直さを示す根拠の数々のこと（イブン・カスィール 6:580 参照）。

2 雌牛章 3 の訳注も参照。

3 ムスリム*たちは恵まれない者への施しを勧めていたが、彼らは吝嗇と嘲笑ゆえに、「アッラー*が食を禁じられた者に、私たちが食べさせるわけにはいかない」「全ての物事はアッラー*の御手に委ねられているなら、どうして私たちに施しを求めるのか？」などと返した（イブン・ジュザイ 2:225 参照）。

4 「あなた方は確かに…」という言葉は、不信仰者*たちに対するアッラー*の言葉、あるいは不信仰者*たちに対する信仰者たちの言葉、という説もある（アル＝クルトゥビー 15:37 参照）。

5 復活の日*に吹き鳴らされる、最初の角笛の・吹きのこと（ムヤッサル 443 頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

6 つまり、その場で即死ということ（前掲書、同頁参照）。

51. そして（二度目に）^{つのぶえ ふ}角笛に吹き込まれると、^は、どうであろう、彼らは墓から（出て来て、）自分たちの主^{しゅ}*の御許へと、急いで馳せ参じて行く。
52. 彼らは（無念^{むねん}がって、こう）言うのだ。「我らが災^{わざわ}いよ！^{よみがえ} 私たちを、私たちの寢床から蘇^{よみがえ}らせたのは誰だ？」（すると、彼らにこう言われる。）「これが、慈悲あまねき*お方（アッラー*）が約束され給い、使徒*たちが正直に語ったものである」。
53. （復活は、^{とどろ}轟きの）一声に過ぎなかったのだ。そしてどうであろう、彼らは皆、（清算と報いのため）われら*のもとに連れて来られるのである。
54. この日、人は少しも不正*を受けることがない。そしてあなた方が報われるのは、自分たちが（現世で）行っていたこと（によるもの）以外の、何ものでもない。
55. 実に天国の住人たちはその日、（様々な安寧に）喜々として忙しい。
56. 彼らとその妻たちは日陰におり、寝台に寄りかかっている。
57. 彼らにはそこで（様々な）果実があり、彼らには自分たちが求める（あらゆる）ものがある。
58. 慈愛深き*主（アッラー*）からのお言葉、「（あなた方に）平安あれ」（という挨拶も。）^{あいさつ} 3

وَنُفِخَ فِي الصُّورِ فَإِذَا هُمْ مِنَ الْأَجْدَاثِ إِلَى رَبِّهِمْ يَنْسِلُونَ ﴿٥١﴾

قَالُوا إِنَّا كُنَّا مِنْ عِبَادِنَا مَنْ مَرَقَدْنَا هَذَا مَا وَعَدَ الرَّحْمَنُ وَصَدَقَ الْمُرْسَلُونَ ﴿٥٢﴾

إِنْ كُنَّا نَتَّيِلُ إِلَّا صَيْحَةً وَاحِدَةً فَإِذَا هُمْ جَمِيعٌ لَدَيْنَا مُحْضَرُونَ ﴿٥٣﴾

قَالِيَوْمَ لَا تُظَلَمُ نَفْسٌ شَيْئًا وَلَا تُجْزَوْنَ إِلَّا مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٥٤﴾

إِنْ أَصْحَابَ الْجَنَّةِ الْيَوْمَ فِي شُغْلٍ فَكَهْنُونَ ﴿٥٥﴾

هُمْ وَأَزْوَاجُهُمْ فِي ظِلِّ عَلَى الْأَرَائِكِ مُتَّكِئُونَ ﴿٥٦﴾

لَهُمْ فِيهَا فَاكِهَةٌ وَلَهُمْ مَاءٌ دَائِعُونَ ﴿٥٧﴾

سَلَامٌ قَوْلًا مِنْ رَبِّ رَحِيمٍ ﴿٥٨﴾

1 二度目の角笛が鳴らされると、魂は肉体に戻られて復活する（ムヤッサル 443 頁参照）。

2 この表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

3 「平安を」については、雷鳴章 24 の訳注を参照（前掲書 444 頁参照）。

59. そして（不信仰者*たちには、こう言われる。）「この日、あなた方は（信仰者たちから）^{はな}離れていよ。^{ごいあく}罪悪者たちめ」。¹
60. （アッラー*は彼らに^{おお}仰せられる。）アードム*の子らよ、^{しと}一体われは、（使徒*たちを通じて）あなた方に命じなかったのか？ シャイターン*を^{おが}崇める^{ごいあく}の^{まぎ}のではない、と？ 本当に彼は、あなた方にとって^{まぎ}紛れもない敵なのだから。
61. また、われ（のみ）を^{さうはい}崇拜*せよ、と（命じなかったのか）？ これが（わが喜びと天国へと至る、）まっすぐな道なのである。
62. また、彼（シャイターン*）はあなた方の内、多くの^{そうぞう}創造物を迷わせた³。一体、あなた方は^{わきま}弁えていなかったのか？
63. これが、あなた方が（現世で）約束されていた地獄である。
64. あなた方は今日、自分たちが不信仰であったことゆえに、そこに入って^{あぶ}炙られよ。
65. 今日われら*は、彼ら（シルク*の徒）の口を封じる。そして彼らが^{かぜ}稼いでいたもの（^{つみ}罪）については、彼らの手がわれらに話し、その足が証言するのである。⁴

وَأَمَّا زُورُوا الْيَوْمَ إِلَيْهَا الْمُجْرِمُونَ ﴿٥٩﴾

*أَلَمْ أَعْهَدْ إِلَيْكُمْ رَبِّيَ آدَمَ أَنْ لَا تَعْبُدُوا الشَّيْطَانَ إِنَّهُ لَكُمْ عَدُوٌّ مُبِينٌ ﴿٦٠﴾

وَأَنْ أَعْبُدُونِي هَذَا صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ﴿٦١﴾

وَلَقَدْ أَضَلَّ مِنْكُمْ جِيلًا كَثِيرًا أَفَلَمْ تَكُونُوا تَعْقِلُونَ ﴿٦٢﴾

هَذِهِ جَهَنَّمُ الَّتِي كُنْتُمْ تُوعَدُونَ ﴿٦٣﴾

أَصْلَوْهَا الْيَوْمَ بِمَا كُنْتُمْ تَكْفُرُونَ ﴿٦٤﴾

الْيَوْمَ نَخْتِمُ عَلَى أَفْوَاهِهِمْ وَتُكَلِّمُنَا أَيْدِيهِمْ وَنَنشَأُ مِنْ أَرْجُلِهِمْ بِمَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿٦٥﴾

1 ユーヌス*章 28 とその訳注も参照。

2 「シャイターン*を崇める」とは、彼への服従のこと。そこには、あらゆる種類の不信仰と罪が含まれる（アッ=サアディー698 頁参照）。

3 シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル=ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

4 食卓章 109、高壁章 8、夜の旅章 97 の各訳注、および御光章 24 も参照。

66. また、もしわれら*が望めば、彼らの眼を消すことも出来るのだ。そうなれば彼らは道を競い合うが、どうして彼らが（道を）見ることが出来るだろうか？¹
67. また、もしわれら*が望めば、彼ら（の創造）をその場で変異させてしまうことも出来る。そうなれば彼らは進むことも出来なければ、戻れもしない。²
68. また、われら*が長生きさせる者があれば、われら*はその創造を逆転させる³。一体、彼らは弁えないのか？
69. われら*は彼（預言者*ムハンマド*）に詩を教えたりはしなかったし、それは彼に相応しくないこと。それは教訓と、解明する⁴クルアーン*に外ならないのだ。
70. （それは）彼が（心の）生きている者⁵に警告し、不信仰者*たちに御言葉が確定する⁶ためのものである。
71. そして彼らは、われら*が彼らのために、われら*の手がなしたものである家畜を創造したのを見なかったのか？ 彼らはそれらの所有者なのである。

وَلَوْ نَشَاءُ لَطَمَسْنَا عَلَىٰ أَعْيُنِهِمْ فَاسْتَبَقُوا
الْبَصِرَ ط فَاَنَّىٰ يَبْصُرُونَ ﴿٦٦﴾

وَلَوْ نَشَاءُ لَمُصَحَّخْنَاهُمْ عَلَىٰ مَكَائِهِمْ
فَمَا اسْتَطَعُوا مُضِيًّا وَلَا يَرْجِعُونَ ﴿٦٧﴾

وَمَنْ يُعْمِرْهُ نَنْكِسْهُ فِي الْخَلْقِ أَفَلَا
يَعْقِلُونَ ﴿٦٨﴾

وَمَا عَلَّمْنَاهُ السِّعَرَ وَمَا يَتَّبِعِي لَهُ إِن هُوَ إِلَّا
ذِكْرٌ وَقُرْآنٌ مُّبِينٌ ﴿٦٩﴾

لِيُنذِرَ مَنْ كَانَ حَيًّا وَيُحَقِّقَ الْقَوْلَ عَلَى
الْكَافِرِينَ ﴿٧٠﴾

أَوَلَمْ يَرَوْا أَنَّا خَلَقْنَا لَهُمْ مِن مَّاعِينَكْ أَيْدِيًا
أَتَعْمَلُونَ لَهَا مَّا يَكُونُ ﴿٧١﴾

1 このアーヤ*の意味には、「視力がなくなることのたとえ」「信仰における迷いのたとえ」「復活の日*、地獄の上にかけられた橋の話。そこを越えられる者は、天国の民しかない」といった解釈がある（アル＝クルトウビー15:49-50 参照）。

2 このアーヤ*の意味には、「石などの物質や、動物などに変異させ、思うように動けなくさせる」「復活の日*のこと（アーヤ*66 の訳注を参照）」といった解釈がある（前掲書 15:50 参照）。

3 高齢になると、幼少期のように、知的・身体的に弱体化することを表す（ムヤッサル 444 頁参照）。

4 「解明する」については、ユースフ*章 1 の訳注を参照。

5 心が生き、目覚めている者こそが、クルアーン*によって清められ、その知識と行いを深める者である。それはちょうど、良質の土地に雨が降る様子に似ている（アッ＝サアディー 698 頁参照）。高壁章 58 とその訳注も参照。

6 この「御言葉」は、懲罰のこと。クルアーン*という明白な根拠ゆえ、彼らは自分たちが不信仰であったことに関し、言い逃れできなくなる（ムヤッサル 444 頁参照）。

72. そしてわれら*は、それら（家畜^{かちく}）を彼らのために仕えさせた。その内には彼らの乗り物があり、また彼らはそこから食べるのである。
73. また、そこ（家畜^{かちく}）には彼らにとっての（別の）利益¹と飲み物²もある。一体、彼らは感謝（て、アッラー*のみを崇拝^{すうはい}*し）しないのか？
74. 彼ら（シルク*の徒）は、アッラー*をよそに（崇める）神々³を選んだ。自分たちが（それらによって、アッラー*の懲罰^{ちようばつ}から）助けられるように、と。
75. 彼ら（それらの神々^{すうはい}）は、彼ら（その崇拝者たち）を助けることなど出来ない。彼らは彼らのために、立ち会わされた兵隊であるというのに⁴。
76. ならば（使徒*よ）、彼らの言葉⁵に悲しんではならない。実にわれら*は彼らが秘密にしていることも、露わ^{あら}にしていることも知っているのだから。
77. 一体、（復活を否定する）人間は、われら*が彼を一滴の精液から創った⁶のを見なかったのか？ なのにどうであろうか、彼はあからさまな反論者である⁷。

وَذَلَّلْنَاهَا لَهُمْ فَمِنْهَا رَكُوبُهُمْ وَمِنْهَا يَأْكُلُونَ ﴿٧٢﴾

وَلَهُمْ فِيهَا مَنَافِعُ وَمَشَارِبٌ أَفَلَا يَشْكُرُونَ ﴿٧٣﴾

وَاتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ آلِهَةً لَّهُمْ يُنَصِّرُونَ ﴿٧٤﴾

لَا يَسْتَطِيعُونَ نَصْرَهُمْ وَهُمْ لَهُمْ جُنْدٌ مُنْخَضَرُونَ ﴿٧٥﴾

فَلَا يَخِزُّكَ قَوْلُهُمْ إِنَّ آلَنَا مِنْ أُولَئِكَ وَمَا يَعْلَمُونَ ﴿٧٦﴾

أَوَلَمْ يَرِ الْإِنْسَانُ أَنَّا خَلَقْنَاهُ مِنْ نُطْفَةٍ فَإِذَا هُوَ خَصِيمٌ مُبِينٌ ﴿٧٧﴾

1 具体的な利益の例については、蜜蜂章 5-8、80 も参照。

2 つまり、乳のこと（ムヤッサル 445 頁参照）。蜜蜂章 66 も参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 この二つの「彼ら」は、前者がシルク*の徒、後者がその神々という説と、その逆という説がある。前者の説の場合、現世において、シルク*の徒がそれらの神々の兵隊的な存在であることを、後者の説の場合、それらの神々が彼らと共に地獄に入ることを意味する（アル＝クルトゥビー 15:57 参照）。

5 アッラー*への不信仰、使徒*の嘘つき呼ばわり、彼への嘲笑などに関する言葉（ムヤッサル 445 頁参照）。

6 人間の創造の変遷については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 とその訳注を参照。

7 蜜蜂章 4 の訳注も参照。

78. そして彼は自分自身の創造そうぞうを忘れて、われら*に対して（許されない）^{たと}譬え^{たと}を挙げた。彼は言ったのだ。「誰が、朽くち果はてた骨に生を与えるというのか？」
79. 言ってやれ。「それを最初にお創りになったお方が、それに生なまを与えられる。かれは、^{そうぞう}全ての創造についてご存知のお方」。
80. （かれは）あなた方のために（湿しめった）^{りよく}緑樹じゆから、火を生じさせられるお方²。そしてどうであろう、あなた方はそこから火を起こすのである。
81. 一体、諸天と大地をお創りになったお方は、彼らと同様のものを（^{ふたたび}再び）お創りになることが出来るお方ではないか？ いや、（かれにはお出来である、）そしてかれは創造主^{そうぞうしゆ}、全知者であられるのだ。
82. 本当にかれのご命令というものは、かれが一事をお望みになった時、それに「あれ」と仰おほせられるだけで、それは存在するのである。
83. ならば、^{たた}称え*あれ。その御手^{みて}にこそ、全てのことの絶対なる王権そくが属するお方に。そしてかれの御許みもとにこそ、あなた方は戻もどらされるのである。

وَضَرَبَ لَنَا مَثَلًا وَنَسِيَ خَلْقَهُ ۖ قَالَ مَنْ يُحْيِي الْعِظَامَ وَهِيَ رَمِيمٌ ﴿٧٨﴾

قُلْ يُحْيِيهَا الَّذِي أَنشَأَهَا أَوَّلَ مَرَّةٍ وَهُوَ بِكُلِّ خَلْقٍ عَلِيمٌ ﴿٧٩﴾

الَّذِي جَعَلَ لَكُم مِّنَ الشَّجَرِ الْأَخْضَرِ نَارًا ۖ فَإِذَا أَنتُم مِّنْهُ تُوقَدُونَ ﴿٨٠﴾

أَوَلَيْسَ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِقَدِيرٍ عَلَىٰ أَن يَخْلُقَ مِثْلَهُمْ بَلَىٰ وَهُوَ الْخَلَّاقُ الْعَلِيمُ ﴿٨١﴾

إِنَّمَا أَمْرُهُ إِذَا أَرَادَ شَيْئًا أَن يَقُولَ لَهُ كُنْ فَيَكُونُ ﴿٨٢﴾

فَسُبْحَنَّ الَّذِي يَدْعُوهُ مَلَكُوتُ كُلِّ شَيْءٍ ۖ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٨٣﴾

1 創造主の力を、創造物の力と同様のものとして推測したことを表す（ムヤツサル 445 頁参照）。

2 つまり、ある物から全く反対の物を創造することが可能なお方は、死人に生を与え、蘇（よみがえ）らせることも可能である（前掲書、同頁参照）。

第37章
整列者章 (アッ=サーフアート) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 列をなす整列者たち²にかけて (、誓う)。³
2. また、力強く追いつ立てる者たち、
3. そして、教訓^{どくしやう}を読誦する者たちにかけて。⁴
4. (人々よ、) 本当^{すうはい}にあなた方の崇拜*すべきは、ただお一方、
5. 諸天と大地とその間にあるものの主*、いくつもの東^{しやう}の主⁵。
6. 本当^{すうはい}にわれら*は、最下層の天を、星々という装飾^{そうしよく}で飾った。
7. 反抗的な、あらゆるシャイターン*からの護衛^{えい}のため。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالصَّافَّاتِ ①

فَالرَّجِرَاتِ ②

فَالْقَائِمَاتِ ③

إِنَّ إِلَهَكُمْ لَوَاحِدٌ ④

رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا رَبُّ

الْمَشْرِقِ ⑤

إِنَّا زَيْنَا السَّمَاءَ الدُّنْيَا بِرَبِّهِ الْكَوَاكِبِ ⑥

وَحَفِظْنَا مِنْ كُلِّ شَيْطَانٍ مَّارِدٍ ⑦

- 1 マッカ*啓示で、学者間の見解は一致。スーラ*の名称の由来は、スーラ*冒頭のアーヤ*に由来。アッラー*の崇拜*に従順な天使*が描写され、当時の人々が信じていた天使*の神性はもちろんのこと、それ以下の存在の神性も否定される。スーラ*全般を通して、あらゆる形のシルク*の否定と、アッラーの唯一性*の証明が提示されている。そしてその一環として、アッラー*とその預言者*に従い、シャイターン*に屈しなかった者たちと、その逆の状態にあった不信仰者*たちの来世での結末が、復活、清算、報(むく)いの確証と共に、過去の預言者*たちとその民の逸話を通して描写される。
- 2 アッラー*に仕えるため、整列する天使*たちのこと、とされる (アッ=サアディー700 頁参照)。
- 3 これは、アッラー*の誓い。アッラー*は、かれがお望みになるもので誓われるが、人間はアッラー*以外のものにおいて誓ってはならない (ムヤッサル 446 頁参照)。
- 4 大半の解釈学者は、アーヤ*2 を「雲を追いやり、移動させる」天使*たちのことであるとし、このアーヤ*も「アッラー*の教訓を読誦する」天使*たちである、としている (アッ=シャルビーニー3:448 参照)。
- 5 ここでの「東」は、同年において毎日異なる、太陽の昇る地点のこととされる。また、「陽の目を見る、全てのものの主」という説もある (アル=バガウィー4:26 参照)。

8. 彼ら（シャイターン*）は、（天の）最上層の貴人たち（である天使*たちが、啓示について話すこと）に聞き耳を立てては、あらゆる方向から（流星で）撃たれ（、それを阻止され）る。
9. （彼らを）放逐^{ほうちく}すべく。そして彼らには（来世で）、常なる懲罰^{ちやうばつ}がある。
10. 但し、（話を）さっと掠め取り、貫く流星によって追尾される者は別である。¹
11. （使徒*よ、）彼ら（復活を否定する者たち）に聞いてみよ。一体彼らがより強力なのか、それともわれら*が創造^{そうぞう}した（これらの）ものか？ 本当にわれら*は、彼ら（の父祖アーダム*）をねばねばする泥土から創ったのだぞ²。
12. いや（使徒*よ）、あなたは（彼らが復活を否定することに）驚いた。彼らは（あなたの言葉を）嘲笑^{ちやうしやう}している。
13. また喚起^{かんき}させられても、教訓を得ない。
14. そして（あなたの預言者*性を示す）御徴を見れば、嘲笑する。
15. また、彼らは言った。「これは紛れもない魔術に外ならない。
16. 一体、死んで土と骨と化した後で、本当に私たちが蘇^{よみがえ}らされる身であるなどというのか？
17. そして、私たちの昔のご先祖様たちも？」

لَا يَسْمَعُونَ إِلَى الْمَلَأِ الْأَعْلَى وَيُقَذَّفُونَ مِنْ كُلِّ جَانِبٍ ﴿٨﴾

دُحُورًا وَلَهُمْ عَذَابٌ وَاصِبٌ ﴿٩﴾

إِلَّا مَنْ حَقَفَ أَنْظَفَهُ فَاتَّبَعَهُ شِهَابٌ ثَاقِبٌ ﴿١٠﴾

فَاسْتَفْتَيْهِمْ أَهْأَشَدُّ حَلْقًا أَمْ مَنْ حَلَقْنَا إِنَّا خَلَقْنَاهُمْ مِنْ طِينٍ لَازِبٍ ﴿١١﴾

بَلْ عَجَبْتَ وَيَسْخَرُونَ ﴿١٢﴾

وَإِذَا ذُكِّرُوا لَا يَذْكُرُونَ ﴿١٣﴾

وَإِذَا رَأَوْا آيَةً يَسْتَسْخِرُونَ ﴿١٤﴾

وَقَالُوا إِن هَذَا إِلَّا سِحْرٌ مُبِينٌ ﴿١٥﴾

إِنَّا دَمْنَانَا وَكَأَنَّا بَاوِعُ عَظَمَاءَ إِنَّا لَنَاعْبُدُ نُؤُودَ ﴿١٦﴾

أَوَءَابَاؤُنَا الْأَوَّلُونَ ﴿١٧﴾

1 アル=ヒジウル章 17-18、詩人たち章 212、223 とその訳注、王権章 5、ジン*章 89 も参照。

2 人間の創造の変遷については、巡礼*5 章、信仰者たち章 14 とその訳注を参照。

18. (使徒*よ、) 言ってやれ。「ああ。あなた方は蔑まれた者となって、蘇^{よみがえ}らされる」。
19. それは、ただの一声^すに過ぎないのだぞ。するとどうであろうか、彼らは(蘇^{よみがえ}って、復活の日*の恐怖を)目の当たりにする。
20. そして彼らは言う。「我らが災^{わざわ}いよ! ² これは報^{むく}いの日*だ」。
21. (すると、彼らに言われる。) 「これが、あなたが(現世で)嘘呼^{うそ}ばわりしていた裁決の日^{さいけつ} ³である」。⁴
22. (そして天使*たちに、こう言われる。) 不正*を犯した者たちと彼らと同様の者たち⁵、そして彼らが崇^{あが}めていた者たちを召^{しょう}集^{しゅう}せよ。
23. アッラー*をよそに(崇^{あが}めていた者たちを)。そして彼らを、火獄の道へと案内せよ。
24. また(地獄に入る前に)、彼らを止めよ。実に彼らは(現世での言動について)、問われる者たちなのだから。⁶

قُلْ نَعَمْ وَأَنْتُمْ دَارُونَ ﴿١٨﴾

فَإِنَّمَا هِيَ زَجْرَةٌ وَاحِدَةٌ فَإِذَا هُمْ يَنْظُرُونَ ﴿١٩﴾

وَقَالُوا لَيْدِنَا هَذَا أَيُّومُ الَّذِينَ ﴿٢٠﴾

هَذَا يَوْمُ الْقَضَى الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ ﴿٢١﴾

* أَحْشَرُوا الَّذِينَ ظَلَمُوا وَأَرْجَعُهُمْ مَا كَانُوا يَعْبُدُونَ ﴿٢٢﴾

مِنْ دُونِ اللَّهِ فَأَهْدُوهُمْ إِلَى صِرَاطِ الْجَحِيمِ ﴿٢٣﴾

وَقِفُّهُمْ إِنَّهُمْ مَسْئُولُونَ ﴿٢٤﴾

1 この「一声」は、二回目の角笛とされる(アル=クルトゥビー15:72 参照)。家畜章 73 の訳注も参照。

2 「我らが災いよ」という表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

3 善い行いの者と悪い行いの者が分けられる、「裁決の日」のこと(アル=バガウィー4:29 参照)。

4 この言葉の主には、「アッラー*」「天使*」「地獄の民どうしの言葉」という説がある(アル=クルトゥビー15:72 参照)。

5 「不正*を犯した者たち」とは、シルク*を犯した者たちのこと。それと「同様の者たち」には、「不信仰において同調していた彼らの妻たち」「彼らの仲間であるシャイターン*」といった解釈がある(前掲書 15:73 参照)。

6 食卓章 109、高壁章 8 の訳注も参照。

25. (そして彼らには、こう言われる。)
「あなた方が互いに助け合わないのは、どうい
うことか？」
26. いや、彼らはその日、(アッラー*のご命令
に) 降参した者たちなのだ。
27. 彼ら(不信仰者*)は互いに近づき、質問し
合う。
28. 彼ら(他人に倣^{なら}って不信仰者*となった者た
ち)は、(自分たちを不信仰へと主^{しゅ}導した
者たちに)言う。「本当にあなた方は(私
たちを迷わせるべく)、右側から私たちの
もとにやって来ていた¹」。²
29. 彼ら(不信仰へと主^{しゅ}導した者たち)は、言
う。「いや、あなた方は(そもそも)信仰
者(となるべき者)ではなかったのだ。
30. また、私たちには(あなた方を信仰から阻^は
むことにおいて)、あなた方に対するいか
なる(正当な)根拠³もなかった。いや、あ
なた方は放埒^{ほうらつ}な民だったのである。
31. それで私たちに対して、我らが主*の御
言葉^{ことば}が実現したのだ。本当に私たちは、
まさしく(懲罰^{ちやうばつ})を味わう者たちなので
ある。

مَا لَكُمْ لَا تَنصُرُونَ ﴿٥٥﴾

بَلْ هُمْ آيَوْمَ مُنْصَفُونَ ﴿٥٦﴾

وَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ عَلَى بَعْضٍ يَتَسَاءَلُونَ ﴿٥٧﴾

قَالُوا إِنَّا كُنْزُكُمْ تَأْتُونَنَا عَنِ الْيَمِينِ ﴿٥٨﴾

قَالُوا بَلْ لَمْ تَكُونُوا مُؤْمِنِينَ ﴿٥٩﴾

وَمَا كَانَ لَنَا عَلَيْكُمْ مِنْ سُلْطَانٍ بَلْ كُنْتُمْ قَوْمًا طَٰغِينَ ﴿٦٠﴾

فَحَقَّ عَلَيْنَا قَوْلُ رَبِّنَا إِنَّا لَذَٰلِكَ أَفْعُونَ ﴿٦١﴾

1 「右側から来る」の解釈には、「期待させるようなことを言いつつ」「誓いの言葉を添えつ
つ」「宗教的側面から」「力づくで」などの諸説がある(アル=クルトゥビー15:75 参照)。

2 同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別
章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33 なども参照。

3 イブラーヒーム*章 22 の同語に関する訳注も参照。

4 この「御言葉」は、アッ=サジダ*章 13 にある、懲罰の言葉とされる(アル=バガウィー
4:30 参照)。

32. そして私たちは、あなた方を（正しい道から）逸脱^{いつだつ}させた。本当に私たちは、誤^{あやま}った者たちであった」。
33. （復活^{ちようぼつ}*の）その日、本当に彼らは（全員）、共に懲罰^{ちようばつ}の中にある。
34. 本当にわれら^{ぜいあく}*は罪惡者たちに対し、このようにするのだ。
35. 実に彼らは、「アッラー^{ほか}*の外に、崇拜^{すうはい}*すべきいかなるものもない（、と言^いいなさい）」と言われた時、（そうせずに）奢^{おご}り高ぶっていた。
36. そして、彼らは言うのだ。「一体、本当に私たちが、憑^つかれた¹詩人（ムハンマド*のこと）ゆえに、自分たちの神々^{しん}を棄^すて去ろうか？」
37. いや、彼（ムハンマド*）は真実^{たずさ}を携^{たづさ}えてやって来たのであり、（彼以前に）遣^{つか}わされた（預言^{よげん}）者*たち（がアッラー*について伝えたこと）を確証したのだ。
38. 本当に（シルク*の徒よ、）あなた方はまさに、痛ましい懲罰^{ちようばつ}を味わう者たちである。
39. そしてあなたが（来世^{むく}で）報^{むく}われるのは、自分たちが（現世^{げんせい}で）行っていたこと（によるもの）以外の、何ものでもない。
40. 但^{ただ}し、精^{せい}選^{せん}されたアッラー*の僕^{しもべ}たち³は別であるが。

فَأَعْيَتَكُمْ إِنَّا كَاغِبُونَ ﴿٣٢﴾

فَالَهُمْ يَوْمَئِذٍ فِي الْعَذَابِ مُشْتَرِكُونَ ﴿٣٣﴾

إِنَّا كَذَلِكَ نَفْعَلُ بِالْمُجْرِمِينَ ﴿٣٤﴾

إِنَّهُمْ كَانُوا إِذَا قِيلَ لَهُمْ لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ يَسْتَكْبِرُونَ ﴿٣٥﴾

وَيَقُولُونَ إِنَّا نَأْتِيكُم بِآيَاتٍ مِّنَ السَّمَاءِ بِمُحْضُونٍ ﴿٣٦﴾

بَلْ جَاءَ بِالْحَقِّ وَصَدَّقَ الْمُرْسَلِينَ ﴿٣٧﴾

إِنَّكُمْ لَذَائِقُوا الْعَذَابِ الْأَلِيمِ ﴿٣٨﴾

وَمَا تُحْزَنُونَ إِلَّا مَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٣٩﴾

إِلَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿٤٠﴾

1 アル=ヒジュル章6「憑かれた者」の訳注も参照。

2 「神々」に関しては、雌牛章133の訳注を参照。

3 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章24の訳注を参照。

41. それらの者たちには、周知^{かて}の糧¹がある。
42. (それは) 果実であり、彼らは厚遇^{こうぐう}される者たち。
43. 安寧^{あんねい}の樂園で、
44. 互いに向かい合いつつ²、寝台の上に。
45. (酒の) 湧き水^わからの 盃^{さかずき} が、彼らに回される。
46. (その 盃^{さかずき} は) 白く、飲む者たちにとって 美味なもの。
47. そこには (頭や腹の) 痛みもなければ、それゆえに理性を失うこともない。
48. また彼らのもとには、(自分の夫だけに) 視線^{うらわ}を定めた³、麗しい眼の女性たちがいる。
49. 彼女たちはまるで、秘められた卵⁴のよう。
50. 彼らは互いに近づき、(現世における彼らの状態について、) 質問し合う。
51. 彼ら (天国の民) の内の、ある者は言う。
「本当に私には (現世で)、付きまとう者⁵がありました。

أُولَٰئِكَ لَهُمْ رِزْقٌ مَّعْلُومٌ ﴿١١﴾
فَرِيكُهُمْ وَهُمْ مَكْرُومُونَ ﴿١٢﴾

فِي جَنَّاتٍ النَّعِيمِ ﴿١٣﴾

عَلَىٰ سُرُرٍ مُّتَقَابِلِينَ ﴿١٤﴾

يُطَافُ عَلَيْهِمْ بِكَأْسٍ مِّنْ مَّعِينٍ ﴿١٥﴾

بَيْضَاءَ لَذَّةٍ لِلشَّارِبِينَ ﴿١٦﴾

لَا فِيهَا عِوَالٌ وَلَا هُمْ عَنْهَا يُنْفَوْنَ ﴿١٧﴾

وَعِنْدَهُمْ قَاصِرَاتُ الطَّرْفِ عِينٌ ﴿١٨﴾

كَأَنَّهُنَّ بَيْضٌ مَّكُونٌ ﴿١٩﴾

فَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ يَتَسَاءَلُونَ ﴿٢٠﴾

قَالَ قَائِلٌ مِّنْهُمْ إِنِّي كَانَ لِي رَاقٍ ﴿٢١﴾

1 その永遠性、美味さといった特質において、「周知の」糧 (アル=バイダーウィー5:11 参照)。

2 アル=ヒジュル章 47 の訳注を参照。

3 天国の妻は貞淑で、夫以外の誰のそばにも近づかない。そしてそれは彼女の夫もまた美しく、完全であるためである。あるいは、彼女が夫だけを見つめるのは、夫が完全な美しさを備えた彼女だけを見つめているからなのである (アッ=サアディー702 頁参照)。雌牛章 25 「純潔な妻」、及び煙霧章 54 の訳注も参照。

4 「秘められた卵」の意味には、「その羽で風や埃 (ほこり) から守った、ダチョウの卵。黄色地に白身がかった色で、最も美しい女性の色の象徴」「殻 (から) が割れる前の、卵の中身のこと」「卵の薄い殻」「真珠のたとえ」といった諸説がある (アル=クルトゥビー15:80-81 参照)。

5 これには「シャイターン*」「人間」「兄弟」などの説があるが、いずれにせよ復活を否定する者であった (アル=バガウィー4:32 参照)。

52. 彼は（こう）言っていました。『本当にあなたは、（復活を）信じるというのか？』

يَقُولُ أَتَيْتُكَ لِيُنْصَرِّفَ ۝

53. 死んで土と骨と化した後で、本当に私たちが（蘇^{よみがえ}らされ、自分の行い^{むく}で）報われる身であると？』

إِذْ أَمْنَّا وَكُنَّا رِجَالًا أَوْ عِظَامًا ۚ تَالْمَدِينُونَ ۝

54. 彼（天国の民のある者）は、（仲間たちに）言う。「あなた方は、（現世で付きまっていたその者の結末を）見てみますか？」

قَالَ هَلْ أُشْرُطُ بِكُمْ ۝

55. それで見てみると、彼が火獄の真ん中にいるのを目にする。

فَأَطَّلَ قَوْمَهُ فِي سَوَاءِ الْجَحِيمِ ۝

56. 彼は（現世で付きまっていた者に、）言う。「アッラー*に誓^{ちか}って。本当にあなたは、私のこと^はを（信仰^{あが}の妨害^{がい}によって、）まさしく（破滅^{めつ}へと）転落させるところだった。

قَالَ تَاللَّهِ إِنْ كِدْتُ لَأَزِيدَنَّ ۝

57. そしてもし、（信仰という）我が主^{しゅ}*の恩恵^{おんけい}がなければ、私は（あなたと共に懲罰^{ちやうばつ}へと）連行される者となっていた。

وَلَوْلَا نِعْمَةُ رَبِّي لَكُنْتُ مِنَ الْمُخْضَرِّينَ ۝

58. 私たちは（永遠^{えんえい}に安寧^{あんねい}を味わう者であり、）死にゆく者ではないのではないか？

أَفَمَا نَحْنُ بِمَعِينِينَ ۝

59. ただ、（現世で）一度の死だけ（を味わったのみ）であり、（天国に入った後、）私たちは罰^{ばつ}されることなどないのではないか？

إِلَّا أَمْوَنَتْنَا الْأُولَىٰ وَمَا نَحْنُ بِمُعَذِّبِينَ ۝

60. 本当にこれこそは、まさに偉大なる勝利。

إِنَّ هَذَا لَهُوَ الْقَوْمُ الْعَظِيمُ ۝

61. このようなもの（の獲得^{かくとく}）のためにこそ、勤行者^{ごんぎやう}たちは、（現世で）勤行^{ごんぎやう}するがよい」。¹

لِيُجِزِلَ هَذَا فَمَا لَيَعْمَلِ الْعَامِلُونَ ۝

1 アーヤ*60-61 は、天国の民の言葉ではなく、アッラー*の御言葉という説もある（アル＝バイダーウィー5:14 参照）。

62. 一体それが、より善い御もてなしなのか、それともザクームの木¹か？
63. 本当にわれら*はそれを、不正*者たちの試練としたのだ。
64. 実にそれは、火獄の奥底^{おくそこ}に生え出る木。
65. その実は、あたかもシャイターン*の頭のよう（に醜い）。
66. 本当に彼ら（シルク*の徒）は、まさしくそこから食べ、それで腹を満たすことになる。
67. それから本当に彼らには、その上に煮えたぎる湯の混じった（飲み）物がある。
68. それから彼らの戻り場所こそは、まさに火獄なのだ。
69. 本当に彼らは、自分たちの先祖が（シルク*を犯して）迷っているのを認め、
70. その跡^{あと}を辿^{たど}って急ぐのだから（、そのような結末となったのである）。
71. 彼ら以前にも確かに、昔の人々の多くが（真理から）迷った。
72. そしてわれら*は確かに、彼らに警告者たち^{けいこく}を遣^{つか}わしたのである。
73. ならば、見てみるがよい。警告された者たちの結末がいかなるものであったかを？
74. 但し、精選^{せいせん}されたアッラー*の僕たち^{しもべ}は別であるが。

أَذَلَّكَ حَيْرُؤُكُلَا أَمْ شَجَرَةُ الزَّقُّومِ ﴿٣٧﴾

إِنَّا جَعَلْنَاهَا فِتْنَةً لِلظَّالِمِينَ ﴿٣٨﴾

إِنَّهَا شَجَرَةٌ تَخْرُجُ فِي أَصْلِ الْجَحِيمِ ﴿٣٩﴾

طَلْعُهَا كَأَنَّهُ رُؤُوسُ الشَّيَاطِينِ ﴿٤٠﴾

فَأَنَّهُمْ لَآ يَكُونُ مِنْهَا فَاكِهَةٌ وَمِنْهَا الْبُطُونَ ﴿٤١﴾

فَإِنَّ لَهُمْ عَلَيْهَا لَشَوْبًا مِّنْ حَمِيمٍ ﴿٤٢﴾

ثُمَّ إِنِّي رَمَعْتُهُمُ لِّأَلِّ الْجَحِيمِ ﴿٤٣﴾

إِنَّهُمْ أَقْوَامٌ أَتَابَهُمُ طَغْيَاؤُنِ ﴿٤٤﴾

فَهُمْ عَلَىٰ آثَارِهِمْ مُّهْرَمُونَ ﴿٤٥﴾

وَلَقَدْ ضَلَّ قَبْلَهُمْ أَكْثَرُ الْأَوَّلِينَ ﴿٤٦﴾

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا فِيهِمْ مُّنْذِرِينَ ﴿٤٧﴾

فَانظُرْ كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٨﴾

إِلَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿٤٩﴾

1 夜の旅章 60「呪われた木」の訳注、および煙霧章 43-46、出来事章 52-53 を参照。

2 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

75. ヌーフ*は確かに、われら*に呼びかけた¹。
（彼に）応えられるお方の、何とまさしく
素晴^{すば}らしいことか。
76. そしてわれら*は、彼とその家族をこの上な
い苦悩²から救った。
77. また、われら*はその子孫を（溺れずに）生
き残る者とした。
78. そして後世の人々の内に、彼へ（の賛美を）
残しておいた。³
79. 全創造物において、ヌーフ*に平安を。⁴
80. 本当にわれら*はこのように、善を尽くす者
⁵たちに報いるのだ。
81. 実に彼（ヌーフ*）は、信仰者であるわれら
*の僕^{しもべ}たちの一人である。
82. それからわれら*は、（信仰者ではない）他
の者たちを溺^{おほ}れさせた。
83. また、彼（ヌーフ*）の党派⁶の一人が、ま
さしくイブラーヒーム*である。

وَلَقَدْ نَادَيْنَا نُوْحًا فَلْيَعْمَلْ الْمَعْجُودُونَ ﴿٧٥﴾

وَنَجِّنَهُ وَأَهْلَهُ مِنَ الْكَرْبِ الْعَظِيمِ ﴿٧٦﴾

وَجَعَلْنَا ذُرِّيَّتَهُ هُمُ الْبَاقِينَ ﴿٧٧﴾

وَتَرَكْنَا عَلَيْهِ فِي الْآخِرِينَ ﴿٧٨﴾

سَلَامٌ عَلَى نُوْحٍ فِي الْعَالَمِينَ ﴿٧٩﴾

إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿٨٠﴾

إِنَّهُ مِنْ عِبَادِنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿٨١﴾

ثُمَّ أَعْرَفْنَا الْآخَرِينَ ﴿٨٢﴾

*وَلَانَ مِنْ شِيعَتِهِ لِإِبْرَاهِيمَ ﴿٨٣﴾

1 呼びかけた祈願の内容については、月章 10、ヌーフ*章 26-27 を参照。また、ヌーフ*とその民の間の出来事については、高壁章 59-64、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、詩人たち章 105-122、月章 9-17 などとも参照。

2 「この上ない苦悩」については、預言者*たち章 76 の訳注を参照。

3 アッラー*は復活の日*まで、彼が他の預言者*たちや民の間で、賛美され、褒（ほ）められたようにされた（アル=バガウィー 4:34 参照）。

4 一説に、この「平安」はアッラー*からの御言葉で、誰からも彼が悪く言われることはない、というアッラー*からの保証のこと。また一説に、これは彼が復活の日*まで、「平安を」という挨拶（家畜章 54 の訳注を参照）を受け続けるということ（イブン・アティーヤ 4:478 参照）。

5 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

6 その宗教と手法において、同じ党派であったということ（ムヤッサル 449 頁参照）。

84. 彼が健全な心¹と共に、その主^{しゅ}*の御許^{みもと}へやって来た時²のこと。
85. 彼がその父と民に、(こう)言った時。「あなた方は、何を崇めているのですか？」
86. でっち上げ、つまりアッラー*以外の神々³を、あなた方は求めているのですか？」
87. 全創造物^{そうぞう}の主^{しゅ}*についての、あなた方のご推測^{すいそく}はいかがなものなのですか？⁴」
88. そして彼(イブラーヒーム*)は、星々の方へと視線をやると、⁵
89. (民に)言った。「本当に私は、病気なのです」。
90. こうして彼らは背を向けて、(イブラーヒーム*を後に)立ち去った。
91. それから彼(イブラーヒーム*)は、彼らの神々(彫像)^{ちようざう}のところへ赴き、(蔑^{おもむ}んで)言った。「あなた方は、(供え物の食事を)食べないのか？」
92. あなた方が喋^{しゃべ}らないのは、どういうことか？」

إِذْ جَاءَ رَبَّهُ بِقَلْبٍ سَلِيمٍ ﴿٤٤﴾

إِذْ قَالَ لِأَبِيهِ وَقَوْمِهِ مَاذَا تَعْبُدُونَ ﴿٤٥﴾

أَفَعْبَادُ الْهَذِهِ دُونَ اللَّهِ يُرِيدُونَ ﴿٤٦﴾

فَمَا ظَنُّكُمْ بِرَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٤٧﴾

فَنَظَرَ نَظْرَةً فِي النُّجُومِ ﴿٤٨﴾

فَقَالَ إِنِّي سَقِيمٌ ﴿٤٩﴾

فَوَلَّوْا عَنْهُ مُدْبِرِينَ ﴿٥٠﴾

فَرَاغَ إِلَى اللَّهِ الْمُنِجِمِ ﴿٥١﴾ فَقَالَ إِنَّا نَكُونُ ﴿٥٢﴾

مَا لَكُمْ لَا تَنْطَفُونَ ﴿٥٣﴾

1 「健全な心」については、詩人たち章 89 の訳注を参照。

2 「主*の御許へやって来た時」とは、アッラーの唯一性*とかれへの服従へと人々を招いた時のこと、あるいは、彼が火の中に放り込まれた時のことを指す、とされる(アル=クルトゥビー-15:91 参照)。イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70-89、金の裝飾章 26-28 も参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 もしあなたがアッラー*にシルク*を犯したら、かれはあなた方をどうされると思うのか、ということ(ムヤッサル 449 頁参照)。

5 人々と共に祭日に出かけなくても済むよう、言い訳を思案した様子を表す(前掲書、同頁参照)。そしてそれは彼らの不在中に、彫像を破壊するためであった(イブン・カスィール 7:24 参照)。この一連の出来事については、預言者*たち章 57-70 とその訳注も参照。

93. そして彼は右の手で殴り（壊し）つつ、それらを回った。
فَرَّاعَ عَلَيْهِمْ ضَرْبًا بَالِيمِينَ ﴿٣٧﴾
94. こうして彼ら（民）は、彼（イブラーヒーム*）のもとに、駆け足でやって来た。
فَأَقْبَلُوا إِلَيْهِ يَرَوْنَ ﴿٣٨﴾
95. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「一体あなた方は、自分たちが彫ったものを崇めるのですか？
قَالَ اتَّعْبُدُونَ مَا تَنْجُونَ ﴿٣٩﴾
96. アッラー*があなた方と、あなた方が行うもの¹をお創りになったというのに？」
وَاللَّهُ خَلَقَكُمْ وَمَا تَعْمَلُونَ ﴿٤٠﴾
97. 彼らは言った。「彼のために建屋を建て（て、そこに火をつけ）、彼を火獄の中へと放り込んでしまえ」。²
قَالُوا ابْنُوا آلَهُ نُبَيْنًا فَأَقْلُوهُ فِي الْحَجِيمِ ﴿٤١﴾
98. こうして彼らは彼（イブラーヒーム*）に策略^{さくりやく}を望んだが、われら*は彼らを敗北者とした。
فَارَادُوا بِهِ كَيْدًا فَجَعَلْنَاهُمُ الْأَخْسَفِينَ ﴿٤٢﴾
99. また、彼は言った。「私はまさしく、我が主*の御許へと赴く^{おもむ}者^{しゅ}である。かれは私を、お導き下さろう。
وَقَالَ إِنِّي ذَاهِبٌ إِلَىٰ رَبِّي سَيَهْدِينِ ﴿٤٣﴾
100. 我が主*よ、私に正しい者*たちから（の者となる子供を）、お授け下さい」。
رَبِّ هَبْ لِي مِنَ الصَّالِحِينَ ﴿٤٤﴾
101. それでわれら*は彼に、寛大な（者となる）男児（イスマーイール*）の吉報^{きつぽう}を伝えた。
فَبَشَّرْنَاهُ بِغُلَامٍ حَلِيمٍ ﴿٤٥﴾
102. こうして、彼（イスマーイール*）が彼（イブラーヒーム*）と共に働くようになるま
فَلَمَّا بَلَغَ مَعَهُ السَّعْيَ قَالَ يَبْنَؤُا بِيْ اَرْضِيْ
الْمَنَامِ اِنِّيْ اَذْبَحُكَ فَاَنْظُرْ مَاذَا تَرٰوْا قَالَ

1 「あなた方が行うもの」とは、「行為一般」または「作成した彫像のこと」（イブン・カスィール 7:24 頁参照）。

2 預言者*たち章 69-70 とその訳注も参照。

3 不信仰の民*の土地から、アッラー*の崇拜*が出来る土地へと移住すること（ムヤッサル 449 頁参照）。預言者*たち章 71 とその訳注も参照。

で成長した時、彼（イブラーヒーム*）は言った。「息子よ、実に私は夢で、私がお前のことを屠^{ほふ}るのを見る¹のだ。ならば、お前はどうか、考えてみるがよい」。彼（イスマーイール*）は言った。「お父さん、あなたが命じられることをして下さい。あなたは——アッラー*がお望みなら——、私が忍耐^{にんたい}強い者であることを見出す^{いだ}でしょう」。

103. こうして彼らが（主*のご命令に）服し、彼（イブラーヒーム*）が彼（イスマーイール*）を、こめかみを（地面に）つけて（横向きに）倒した時、
104. われら*は彼に呼びかけた。「イブラーヒーム*よ、
105. あなたは確かに夢を確認した。実にわれら*は善^つを尽くす者²たちに対し、このように報^{むく}いるのだ。
106. 本当にこれこそはまさしく、紛^{まぎ}れもなき試練であつた」。
107. そしてわれら*は彼（イスマーイール*）を、この上ない犠^ぎ牲^{せい}で償^{つぐな}った。³
108. また後世の人々の内に、彼へ（の賛美^{さんび}を）残しておいた。⁴

يَا أَبَتِ افْعَلْ مَا تُؤْمَرُ سَتَجِدُنِي إِن شَاءَ اللَّهُ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿١٣﴾

فَلَمَّا أَسْلَمَا وَتَلَّهُ لِلْجَبِينِ ﴿١٤﴾

وَنَدَيْنَاهُ أَنْ يَا إِبْرَاهِيمُ ﴿١٥﴾

قَدْ صَدَّقْتَ الرُّؤْيَا إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٦﴾

إِنَّ هَذَا لَهُوَ الْبَلَاءُ الْمُبِينُ ﴿١٧﴾

وَقَدَرْنَاهُ بِذَبْحٍ عَظِيمٍ ﴿١٨﴾

وَتَرَكْنَاهُ فِي الْآخِرِينَ ﴿١٩﴾

1 つまり、アッラー*が夢の中で彼を屠（ほふ）るようにご命じになる、ということ。預言者*の夢は啓示である、と言われる（アッ＝サアディー705 頁参照）。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 「この上ない屠り物」とは大きな羊のこと。これがイスマーイール*の代わりに屠られた（ムヤッサル 450 頁参照）。

4 この意味については、アーヤ*78 の訳注を参照。

109. 全創造物^{そうぞう}において、イブラーヒーム*に平安を。¹
110. 本当にわれら*はこのように、善を^{むく}尽くす者²たちに報いるのだ。
111. 実に彼（イブラーヒーム*）は、信仰者^{しんぱ}であるわれら*の僕たちの一人である。
112. またわれら*は彼（イブラーヒーム*）に、（後に）正しい者*の一人である預言者*となる、イスハーク*（誕生）の吉報^{きっほう}を伝えた。
113. そしてわれら*は、彼（イブラーヒーム*）とイスハーク*^{しゅくふく}を祝福した。彼ら二人の子孫には、善を^つ尽くす者³もいれば、自らに明らかな不正*を働く者もいる。
114. またわれら*は確かに、ムーサー*とハールーン*に（預言者*としての使命という）恵み^{めぐみ}を授けた。
115. そして彼ら二人とその民（イスラァイルの子ら*）を、この上ない苦悩*から救った。
116. またわれら*は彼らを助け、彼らはまさに（フィルアウン*とその民に対する）勝利者となった。
117. そしてわれら*は彼ら二人に^{かいめい}解明の啓典^{けいてん}⁵を授け、

سَلَّمَ عَلَىٰ إِبْرَاهِيمَ ﴿١٨﴾

كَذَٰلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٩﴾

إِنَّهُ مِنْ عِبَادِنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿٢٠﴾

وَبَشَّرْنَاهُ بِإِسْحَاقَ نَبِيًّا مِّنَ الصَّالِحِينَ ﴿٢١﴾

وَبَارَكْنَا عَلَيْهِ وَعَلَىٰ إِسْحَاقَ وَمِنْ ذُرِّيَّتِهِمَا مُحْسِنٌ وَظَالِمٌ لِّنَفْسِهِ مُبِينٌ ﴿٢٢﴾

وَلَقَدْ مَنَّا عَلَىٰ مُوسَىٰ وَهَارُونَ ﴿٢٣﴾

وَنَجَّيْنَاهُمَا وَقَوْمَهُمَا مِنَ الْكَرْبِ الْعَظِيمِ ﴿٢٤﴾

وَنَصَرْنَاهُمْ فَاكُونُوا هُمُ الْغَالِبِينَ ﴿٢٥﴾

وَأَنزَلْنَاهُمَا الْكِتَابَ الْمُسْتَبِينَ ﴿٢٦﴾

1 この意味については、アーヤ*79の訳注を参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 アーヤ*110 の訳注を参照。

4 彼らの「苦悩」とは、溺死（できし）のこと（ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 24 参照）、またはフィルアウン*に対する隷属（れいぞく）状態と抑圧（雌牛章 49 とその訳注を参照）のこと。

5 トーラー*のこと。高壁章 145 の訳注も参照。

118. 彼ら二人^{みちび}をまっすぐな道（イスラーム*）へと導いた。
119. また後世の人々の内に、彼ら二人^{さん}へ（の賛美^びを）残しておいた。¹
120. 全創造物^{そうぞう}において、ムーサー*とハールーン*に平安を。²
121. 本当にわれら*はこのように、善を尽くす者^{むく}3たちに報いるのだ。
122. 実に彼ら二人は、信仰者であるわれら*の僕たちの内の者である。
123. また実にイルヤース*は、まさしく（預言者^{げんしや}*として）遣わされた者の一人であった。
124. 彼がその民に、（こう）言った時。「一体あなた方は、（アッラー*を）畏れ^{おそ}ないのか？
125. 一体あなた方はバアル⁴に祈り、創造する者の内でも最善のお方（アッラー*）を放ったらかしにするというのか？
126. アッラー*を、つまりあなた方の主^{しゅ}*であり、あなた方の昔の先祖の主^{しゅ}を？」
127. そして彼らは、彼（イルヤース*）を嘘つき呼ばわりした。ゆえに、本当に彼らは（復活の日*、）必ずや（懲罰^{ちやうばつ}へと）連行される者となる。

وَهَدَيْنَهُمَا الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيمَ ﴿١١٨﴾

وَرَكَّعْنَا عَلَيْهِمَا فِي الْأَخْيَرِ ﴿١١٩﴾

سَلِّمُ عَلَى مُوسَى وَهَارُونَ ﴿١٢٠﴾

إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٢١﴾

إِنَّهُمَا مِنْ عِبَادِنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٢٢﴾

وَإِنَّ إِلْيَاسَ لَمِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٢٣﴾

إِذْ قَالَ لِقَوْمِهِ أَلَأَتَدْعُونَ

أَنَدْعُونَ بَعْلًا وَتَذَرُونَ أَحْسَنَ الْخَالِقِينَ ﴿١٢٥﴾

اللَّهِ رَبَّكُمْ وَرَبَّ آبَائِكُمُ الْأَوَّلِينَ ﴿١٢٦﴾

فَكَذَّبُوهُ فَأَنَّهُمْ مُحْضَرُونَ ﴿١٢٧﴾

1 この意味については、アーヤ*78 の訳注を参照。

2 この意味については、アーヤ*79 の訳注を参照。

3 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

4 「バアル」とは、彫像の名とされる（アッ＝サアディー707 頁参照）。

128. 但し、精選されたアッラー*の僕たち¹は別であるが。
129. またわれら*は、後世の人々の内に、彼へ（の賛美を）残しておいた。²
130. 全創造物において、イル・ヤースィーン³に平安を。⁴
131. 本当にわれら*はこのように、善を尽くす者⁵たちに報いるのだ。
132. 実に彼（イルヤース*）は、信仰者であるわれら*の僕たちの一人である。
133. また、実にルート*は、まさに（預言者*として）遣わされた者の一人であった。⁶
134. われら*が彼とその家族を、皆救い出した時のこと。
135. 但し、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人であった老女⁷だけは、別だったが。
136. それからわれら*は、（信仰者ではない）他の者たちを滅ぼした。
137. そして（マッカ*の民よ）、本当にあなた方はまさしく、彼ら（ルート*の民）のもとを朝に通り過ぎている。⁸

إِلَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿١٢٨﴾

وَرَبَّنَا عَلَيهِ فِي الْآخِرِينَ ﴿١٢٩﴾

سَلِّمْ عَلَىٰ آلِ يَاسِينَ ﴿١٣٠﴾

إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٣١﴾

إِنَّهُ مِنْ عِبَادِنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٣٢﴾

وَإِنْ لَوْطَا لَمِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٣٣﴾

إِذْ نَجَّيْنَاهُ وَأَهْلَهُ أَجْمَعِينَ ﴿١٣٤﴾

إِلَّا عَجُوزًا فِي الْغَائِرِينَ ﴿١٣٥﴾

نُفَرِّمَنَّا الْآخِرِينَ ﴿١٣٦﴾

وَأَنْتُمْ لَتَمُرُّونَ عَلَيْهِمْ مُصْبِحِينَ ﴿١٣٧﴾

1 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

2 この意味については、アーヤ*78 の訳注を参照。

3 「イル・ヤースィーン」の解釈としては、「イルヤース*自身の別称」「イルヤース*の信徒たち」など、諸説ある（アル＝バイダーウィー5:26 参照）。

4 この意味については、アーヤ*79 の訳注を参照。

5 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

6 彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 69-83、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 も参照。

7 この「老女」については、詩人たち章 171 の訳注を参照。

8 アル＝ヒジュル章 76 とその訳注を参照。

138. また、夜にも。一体、あなた方は弁え^{わかま}ないのか？
139. また実にユーヌス*は、まさに（預言者*^{よげんしゃ}として）遣^{つか}わされた者の一人であった。
140. 彼が（自分の民に立腹^{りつぶく}して、）満載^{まんさい}の船へと逃げた時のこと。¹
141. そしてくじ引きをし、彼（ユーヌス*）は負けた内の者となった。²
142. こうして（ユーヌス*は海に落とされたが）、大魚^のが彼を呑み込んだ。彼は咎^{とが}められるべき者であった。
143. もし彼が、（アッラー*を）よく称^{たた}える*者の一人でなかったなら、³
144. 彼ら^{よみがえ}が蘇^{よみがえ}らされる（復活*の）日まで、その腹の中に留^{とど}まったことであろう。⁴
145. こうしてわれら*は彼を（大魚の腹の内から）、弱り切った状態で、不毛の地に放り投げた。
146. そしてわれら*は彼の上に、瓜の木⁵を一本、生やしてやった。

وَبِأَيِّ لِّقَاءٍ أَفْلَا تَعْقِلُونَ ﴿١٣٨﴾

وَإِنَّ يُونُسَ لَمِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٣٩﴾

إِذْ أَبَقَ إِلَى الْفُلِ الْكَاسِ الْفَاسِقِينَ ﴿١٤٠﴾

فَسَاهَمَ فَكَانَ مِنَ الْمُدْحَضِينَ ﴿١٤١﴾

فَالْتَقَمَهُ الْكُوفُ وَهُوَ مُبْعَثٌ ﴿١٤٢﴾

فَلَوْلَا أَنَّهُ كَانَ مِنَ الْمُسْتَجِيبِينَ ﴿١٤٣﴾

لَلَيْتَ فِي بَطْنِهِ إِلَى يَوْمِ يُبْعَثُونَ ﴿١٤٤﴾

*فَنَبَذْنَاهُ بِالْعَرَاءِ وَهُوَ سَقِيمٌ ﴿١٤٥﴾

وَأَنْبَتْنَا عَلَيْهِ شَجَرَةً مِّنْ يَقْطِينٍ ﴿١٤٦﴾

1 この出来事については、預言者*たち章 87 とその訳注を参照。

2 船は荒波に襲われ、乗員たちは船の転覆（てんぷく）を恐れた。それで彼らは船の重量を減らすため、誰が犠牲になるかで、くじ引きをした（ムヤッサル 451 頁参照）。

3 それ以前に行っていた多くの崇拝*行為や正しい行い*がなかったら、という意味とされる。預言者*たち章 87 に描写されている、この時の彼の言葉も参照（前掲書、同頁参照）。

4 そこが彼の墓となったであろう、という意味（前掲書、同頁参照）。

5 これにより彼は日陰と、その他の益を得た（前掲書、同頁参照）。

147. またわれら*は彼を十万人、いや、それ以上（の民）へと遣わした。¹
148. そして彼らは信じ、われら*は彼らを（彼らに死が訪れる）その時まで楽しませておいた。
149. ならば（使徒*よ）、彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）に尋ねよ。一体あなたの主*には娘があり、彼らには息子があるのか、と。²
150. それとも、われら*は彼らが立ち会う中、天使*を女として創ったのか？
151. 本当に彼らはでっち上げて、まさに（こう）言っているのではないか。
152. 「アッラー*は子供をお産みになった」。本当に彼らは、まさしく嘘つきなのだ。
153. 一体かれが、息子を差しおいて娘をお選びになったというのか？
154. 一体、あなた方はどうしたことか？ あなた方はいかに（不当な）決め方をするのか？
155. 一体、あなた方は教訓を受けないのか？
156. いや、一体あなた方には（そのような主張への、）紛れもない証拠でもあるというのか？
157. では、あなた方の啓典^{けいてん}を持って来てみよ。もし、あなた方が本当のことを言っているのなら。

وَأَرْسَلْنَاهُ إِلَى مِائَةِ آلَافٍ أَوْ يَزِيدُونَ ﴿١٤٧﴾

فَتَأْتُوا فَمَتَّعْنَاهُمْ إِلَى حَبِيبٍ ﴿١٤٨﴾

فَأَمْسَقْتُمُ الْبَنَاتِ وَالْأَسْنَانُ وَلَهُمُ الْبُسُونُ ﴿١٤٩﴾

أَمْ خَلَقْنَا الْمَلَائِكَةَ إِنثًا وَهُمْ سَاهُونَ ﴿١٥٠﴾

أَلَا إِنَّهُمْ مِنْ أَفْكِهَمَ يَفْكُونُ ﴿١٥١﴾

وَلَدَ اللَّهُ وَإِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ ﴿١٥٢﴾

أَصْطَفَى الْبَنَاتِ عَلَى الْبَنِينَ ﴿١٥٣﴾

مَا لَكُمْ كَيْفَ تَحْكُمُونَ ﴿١٥٤﴾

أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ﴿١٥٥﴾

أَمْ لَكُمْ سُلْطَانٌ مُبِينٌ ﴿١٥٦﴾

فَأْتُوا بِكِتَابِكُمْ إِن كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿١٥٧﴾

1 そもそもユース*が預言者*として遣わされたのは、大魚から出た後のことであるという説もある。また大魚から出た後、彼が自分の民だけでなく、別の民にも遣わされたのだ、という説もある（イブン・カスィール 7:40 参照）。

2 このアーヤ*の意味については、蜜蜂章 57 とその訳注を参照。

158. 彼ら（シルク*の徒）は、かれ（アッラー*）とジン*の間に近親関係をもうけた。そしてジン*は確かに、彼ら（シルク*の徒）が（復活の日*、懲罰へと）まさしく連行されることを、知っているのだ。¹
159. 彼らの言うようなことから（無縁な）、アッラー*に称え*あれ。²
160. 但し、精選されたアッラー*の僕たち³は別であるが。⁴
161. （シルク*の徒よ、）本当にあなた方と、あなた方が（アッラー*を差しおいて）崇めているもの、
162. あなた方はそれゆえに、（誰かを）迷わせる（ことが出来る）者ではない、
163. （不信仰ゆえに）火獄に入り炙られる（ことになる、とアッラー*によって定められた）者を除いては。
164. （天使*たちは、言う。）「私たちの内で、（天に）特定の持ち場⁵がない者はいない。
165. 私たちこそは、まさしく（アッラー*に仕えるため）整列する者。
166. そして本当に私たちこそは、（アッラー*を）称える*者」。

وَجَعَلُوا بَيْنَهُ وَبَيْنَ الْجَنَّةِ نِجَابًا وَقَدْ عَلِمَتِ
الْجَنَّةُ إِنَّهُمْ لَمَحْضُرُونَ ﴿١٥٨﴾

سُبْحَنَ اللَّهِ عَمَّا يُصِفُونَ ﴿١٥٩﴾

إِلَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿١٦٠﴾

فَأَنذَرُكُمْ وَمَا تَعْبُدُونَ ﴿١٦١﴾

مَا أَنشَأَ عَلَيْهِ فِتْنَيْنِ ﴿١٦٢﴾

إِلَّا مَن هُوَ صَالٍ الْجَبِينِ ﴿١٦٣﴾

وَمَا مِمَّا إِلَّا لَهُ مَقَامٌ مَّعْلُومٌ ﴿١٦٤﴾

وَأَنَّا لَنَحْنُ الصَّافُونَ ﴿١٦٥﴾

وَأَنَّا لَنَحْنُ الْمُسَبِّحُونَ ﴿١٦٦﴾

1 ここでの「ジン*」は、大半の学者によれば天使*のこと（アル＝クルトゥビー15:135 参照）。

2 雌牛章 116 の訳注も参照。

3 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

4 つまり、彼らはアッラー*にふさわしくないことを言わない（ムヤッサル 452 頁参照）。

5 アッラー*を崇拝*し、命じられた通りの任務をこなす「持ち場」（アル＝カーシミー 14:5068 参照）。

167. (預言者*よ、あなたが遣わされる前、)
本当に彼ら(マッカ*の不信者*ら)は、
(こう)言っていた。

وَلَا كَانُوا يَتَّقُونَ ﴿١٦٧﴾

168. 「もし私たちのもとに、昔の人々からの
教訓¹があったならば、

لَوْ أَنَّ عِنْدَنَا ذِكْرًا مِّنَ الْأَوَّلِينَ ﴿١٦٨﴾

169. 私たちは、精選されたアッラー*の僕²で
あったのに」。

لَكُنَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿١٦٩﴾

170. しかし彼らは(使徒*ムハンマド*がクル
アーン*を携えて到来した時)、それを否
定した。ならば、彼らは(来世での自分
たちの結末を)知るであろう。

فَكْفَرُوا بِهِ ۖ فَسُوفَ يَعْلَمُونَ ﴿١٧٠﴾

171. 遣わされた者であるわれら*の僕³たちに
は確かに、(彼らが理論と力によって勝
利するとの)われら*の言葉が、既に定め
られている。

وَلَقَدْ سَبَقَتْ كَلِمَتُنَا لِعِبَادِنَا الْمُرْسَلِينَ ﴿١٧١﴾

172. 本当に彼らこそは、援助される者。

إِنَّهُمْ لَهُمُ الْمَنْصُورُونَ ﴿١٧٢﴾

173. また本当にわれら*の軍勢こそは、勝利者。

وَلَا جُنْدَنَا لَهُمُ الْغَالِبُونَ ﴿١٧٣﴾

174. ならば(使徒*よ、)その時まで、彼らか
ら背を向けよ。³

فَقَوْلَ عَنْهُمْ فِي حِينٍ ﴿١٧٤﴾

175. そして彼ら(が、どんな目にあうか)を
見ておけ。そうすれば、彼らはやがて(懲
罰⁴)を見ることとなろう。

وَأَبْصَرَ هُوَ سَوْفَ يَبْصُرُونَ ﴿١٧٥﴾

176. 一体彼らは、われら*の懲罰⁴を性急⁵に求
めるのか?⁴

أَفَعِدَّائِنَا يَسْتَعْجِلُونَ ﴿١٧٦﴾

1 この「教訓」とは、過去の民に到来した、啓典や預言者*のこと(ムヤッサル 452 頁参照)。

2 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

3 真理を受け入れない頑固な者たちを、アッラー*が猶予(ゆうよ)されたその時まで放っておけ、ということ(前掲書、同頁参照)。

4 「懲罰を急ぐ」については、家畜章 57-58、戦利品章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 などとも参照。

177. そしてそれが彼らの庭に到着する時、
警告けいこくされていた者たちの朝は、何と忌ま
わしいことだろうか。¹
178. ならば（使徒しと*よ、）その時まで、彼らか
ら背を向けよ。²
179. そして彼ら（が、どんな目にあうか）を
見ておけ。そうすれば、彼らはやがて（懲
罰ばつ）を見ることとなるろう。
180. 彼らの言うようなことから（無縁むえんな）、
あなたの主しゆ*、権勢けんせいの主しゆ*に称え*あれ。
181. また遣わつかされた者たちに、平安を。³
182. そして全創造物の主そうぞう*アッラー*に、称賛しょうさん*
あれ。

فَإِذَا نَزَلَ بِسَاحِيهِمْ فَسَاءَ صَبَاحُ الْمُنْذَرِينَ ﴿١٧٧﴾

وَتَوَلَّ عَنْهُمْ حَتَّى جَبِينِ ﴿١٧٨﴾

وَأَبْصَرَ فَسَوْفَ يُبْصَرُونَ ﴿١٧٩﴾

سُبْحَنَ رَبِّكَ رَبِّ الْعِزَّةِ عَمَّا يَصِفُونَ ﴿١٨٠﴾

وَسَلَّمَ عَلَى الْمُتْرَسِلِينَ ﴿١٨١﴾

وَالْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٨٢﴾

1 懲罰が、敵の軍隊にたとえられている。また「朝」という語は、不意打ちを連想させる（イブン・アーシュール 23:197 参照）。

2 アーヤ*174 の訳注を参照。

3 この意味については、アーヤ*79 の訳注を参照。

第 38 章
サード章¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. サード²。教訓を含むクルアーン*に誓って。
2. いや、不信仰に陥った者*たちは、(真理に対する)尊大さと対立の中にある。
3. われら*は彼ら(シルク*の徒)以前にも、どれだけの(不信仰な)世代を滅ぼしてきたか。彼らは(懲罰が訪れて)救いがなくなった時、(救いと悔悟の)呼び声を上げたのだ。³
4. また彼らは、自分たちのもとに自分たちの内から(人間の)警告者が到来したことに、驚いた。そして不信仰者*たちは、言ったのだ。「これは大嘘つきの魔術師だ。
5. 一体彼は、神々⁴を一つの神とする⁵というのか？ 本当にこれは、まさしく驚愕すべきこと」。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

صَّ وَالْقُرْآنِ ذِي الذِّكْرِ ۝

بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا فِي عِزِّهِمْ وَشِقَاقِي ۝

كُلَّ أَهْلِكَ كَانِ مِنْ قَبْلِهِمْ مِنْ قَرْنٍ فَأَذَاتِ وَلَاتِ حِينَ
مَنَاصِ ۝

وَيَحْجِبُوا أَنْ جَاءَهُمْ مُنْذِرٌ مِنْهُمْ وَقَالَ الْكَافِرُونَ
هَذَا سِحْرٌ مُكَذَّبٌ ۝

أَجْعَلِ الْآلِهَةَ إِلَهًا وَاحِدًا إِنَّ هَذَا لَشَيْءٌ
غَجَابٌ ۝

- 1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭のアーヤ*に出現する文字「サード」に由来。アッラーの唯一性・シルク*の禁止・啓示・預言者*ムハンマド*の使徒*性・復活の日・清算・天国と地獄などといった、イスラーム*の基本的な信仰箇条(かじょう)を取り上げる。また、過去の預言者*たちを訪れた試練の描写は、マッカ*で迫害されていた預言者*ムハンマド*への慰(なぐさ)めと、励(はげ)ましともなっている。
- 2 この文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。
- 3 「悔悟が受け入れられない時」については、家畜章 158 とその訳注も参照。
- 4 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。
- 5 つまりアッラー*にいかなる同位者も置かず、かれだけを崇拜*することを命じた(アッ=サアディー709 頁参照)。

6. そして、彼らの内の有力者らが歩み出(て、民にこう言っ)た。「(そのままシルク*を)やり通し、あなた方の神々(の崇拜*)にしがみ付け。本当にこれはまさしく、仕組まれたこと¹なのだ。
7. 私たちはこのようなことを、最近の宗教²では聞いたことがない。これは捏造に外ならないのだ。
8. 一体、私たちの間から(ムハンマド*が特別に選ばれて)、彼に教訓(クルアーン*)が下されたというのか? いや、彼らはわが教訓(クルアーン*)に対して、疑念の中にある。いや、彼らはまだ我が懲罰を味わってはいない(から、そのようなことが言えるのだ)。
9. いや、一体彼らには、偉力ならびなく*、恵み深い*あなたの主*のご慈悲の宝庫があるというのか?
10. いや、一体彼らには、諸天と大地、その間にあるものの王権があるというのか? ならば、綱で(天へと)昇ってみさせよ。³
11. (彼らは、それ以前の不信仰な)徒党のように、そこ⁴で敗北することになる、たかが軍勢^{ぐんぜい}なのだから。

وَأَنطَلَقَ الْمَلَأُ مِنْهُمْ أَنِ امْشُوا وَاصْبِرُوا عَصَى
ءَالِهَةٍ كَذِبٍ إِن هَذَا لَهُمْ قَوْلٌ كَاذِبٌ ﴿٦﴾

مَا سَمِعْنَا بِهَذَا فِي الْمِلَّةِ الْآخِرَةِ إِن هَذَا إِلَّا
أَخْيَالٌ ﴿٧﴾

أَنزَلَ عَلَيْهِ الذِّكْرُ مِن بَيْنِنَا بَلْ هُمْ فِي شَكٍّ مِّن
ذِكْرِي بَلْ لَّمَّا يَدُوءُهُمْ عَذَابٌ ﴿٨﴾

أَمْ عِندَهُمْ خَزَائِنُ رَحْمَةِ رَبِّكَ الْعَزِيزِ الْوَهَّابِ ﴿٩﴾

أَوَلَهُمْ مَّلَكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا
فَلْيَرْقُؤْا فِى السَّحَابِ ﴿١٠﴾

جُنْدٌ مَّا هَآءَ لَكَ مَهْزُومٌ مِّنَ الْآخِرَابِ ﴿١١﴾

- 1 預言者*ムハンマド*は、彼自身が権勢を得るために、その教えを広めようとしているのだということ(ムヤッサル 453 頁参照)。
- 2 一説にはクライシュ族*の宗教、また一説にはキリスト教(イブン・カスィール 7:55 参照)。
- 3 彼らに天地の王権があり、そこにあるものを自由に出来るというのなら、天に昇って本当にそうしてみよ、ということ(ムヤッサル 453 頁参照)。巡礼*章 15 とその訳注も参照。
- 4 この「そこ」が何を指すかには、「彼らが陥っていた不信仰という立場」「天」「バドルの戦い*」などといった説がある(イブン・ジュザイ 2:248 参照)。

12. 彼ら以前にも、ヌーフ*の民、アード*、杭¹の主フィルアウン*が、(使徒*たちを)嘘つき呼ばわりした。
13. またサムード*、ルート*の民、藪の仲間たち²も。それらの者たちは(不信仰の)徒党であった。
14. (彼ら)全員が、例外なく使徒*たちを嘘つき呼ばわりし、それで(彼らへの)わが懲罰³が確定したのである。
15. そしてこれらの者たち(シルク*の徒)は、(シルク*に留まることで、轟く)一声(による懲罰)を待っているに過ぎない。そこには、帰り所などない。
16. 彼らは言った。「我らが主*よ、清算の日の前に、私たちに取り分をお与え下さい」。³
17. (使徒*よ、)あなた⁴は彼らの言うことに耐え、つわもの⁵であったダーウッド*を思い起こすのだ。実に彼は、常に回帰する者⁶であったのだから。

كَذَّبَتْ قَبْلَهُمْ قَوْمُ نُوحٍ وَعَادٌ وَفِرْعَوْنُ
ذُو الْأَوْتَادِ ﴿١٢﴾

وَيَمُودُ وَقَوْمُ لُوطٍ وَأَصْحَابُ لَيْكَةِ أُولَئِكَ
الْآخِرُونَ ﴿١٣﴾

إِنْ كُلُّ إِلَّاكْذَبَ الرُّسُلَ فَحَقَّ
عِقَابِ ﴿١٤﴾

وَمَا يَنْظُرُ هَؤُلَاءِ إِلَّا صَيْحَةً وَاحِدَةً مِمَّا لَهَا
مِنْ فَوَاقٍ ﴿١٥﴾

وَقَالُوا رَبَّنَا عَجِّلْ لَنَا قِطْعَانَا قَبْلَ يَوْمِ الْحِسَابِ ﴿١٦﴾

أَصْبِرْ عَلَى مَا يَقُولُونَ وَادْكُرْ عَبْدَنَا دَاوُدَ ذَا الْأَيْدِ
إِنَّمَا أَوْلَا بَ ۖ ﴿١٧﴾

1 「杭」の解釈には、「完成度の高い建築物」「多くの建築物」「武力」「人を罰する時に用いていた杭のこと」「多くの軍勢」などといった説がある(アル=クルトゥビー 15:154 参照)。

2 「藪の仲間たち」については、アル=ヒジュール章 78 の訳注を参照。

3 懲罰、あるいは天国の享樂の一部を、現世で下してみよ、ということ。これは、不信仰者*らが嘲笑して言った言葉(前掲書 15:157-158 参照)。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

5 「つわもの」とは、アッラー*の敵に対しては力強く、かれへの服従においては忍耐*強い者のこと(ムヤッサル 454 頁参照)。

6 「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

18. 本当にわれら*は、夕に朝に、彼（ダーウッド*）と共に（アッラー*を）^{たた}称える*山々を、^{つか}仕えさせた。
19. また、集合させられた鳥たちも（、^{つか}仕えさせた）。（その）^た全ては、かれ¹に常に回歸する者であった。
20. そして、われら*は彼の王権を強力にし、彼に英知^{のうべん}と能弁^{さず}さを授けた。
21. また（使徒*よ、）あなたに論争（者たち）の消息は届いたか？ 彼ら（二人）がミフラーブ²を乗り越えて（、ダーウッド*のところへ入って）来た時のこと。
22. 彼らがダーウッド*のもとに入って来て、^{おのの}彼が慄いた時のこと。彼らは言った。「怖れてはいけません。（私たちは）^{おそ}論争中で、一方が他方を侵害しています。ですので真理によって私たちの間を裁き、^{まじ}誤ることなく、私たちを全うな道へとお導き^{あやま}下さい」。
23. （一方の男は言った。）「実にこれは我が兄弟で、九十九頭の^{め ひつじ}雌羊を所有していますが、私には一頭の雌羊しかいません。なのに彼は、『それを私に（よこして、）任せなさい』と言って、^{め ひつじ}議論^{ぎろん}で私を打ち負かしたのです」。

إِنَّا سَخَرْنَا الْجِبَالَ مَعَهُ يُسَبِّحْنَ بِالْعُشِيِّ
وَالْأَشْرَاقِ ﴿١٨﴾

وَالطَّيْرَ مَحْشُورَةً كُلٌّ لَهُ أَوَّابٌ ﴿١٩﴾

وَسَدَدْنَا مَلَكُوهَ، وَعَاقِبَتَهُ الْحُكْمَ وَفَضَّلَ
الْخِطَابِ ﴿٢٠﴾

* وَهَلْ أَنْتَ نَبَأُ الْخَصْمِ إِذْ تَسَوَّرُوا
الْمِجْرَابِ ﴿٢١﴾

إِذْ دَخَلُوا عَلَى دَاوُدَ فَفَزِعَ مِنْهُمْ قَالُوا لَا تَخَفْ
خَصِمَانِ بَعْضُنَا عَلَى بَعْضٍ فَأَحْكُم بَيْنَنَا
بِالْحَقِّ وَلَا تَسْطِطْ وَاهْدِنَا إِلَى سَوَاءِ الصِّرَاطِ ﴿٢٢﴾

إِنَّ هَذَا أَخِي لَهُ تِسْعٌ وَتِسْعُونَ نَعْجَةً وَلِيَ نَعَجَةً
وَحِيدَةً فَقَالَ أَكْفَيْنِيهَا وَعَزَّنِي فِي الْخِطَابِ ﴿٢٣﴾

1 この「かれ」はアッラー*のこととも、ダーウッド*のことであるともされる。一説に、山々や鳥たちは、ダーウッド*がアッラー*を称える*たびに、それに応えて彼とともに称えた（アル＝クルトゥビー15:161 参照）。サバア章 10 も参照。また「常に回歸する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

2 「ミフラーブ」については、イムラーン家章 37 の訳注を参照。

24. 彼（ダーウッド*）は言った。「彼（あなた）の兄弟は、あなたの一頭の雌羊を、彼の（九十九頭の）雌羊に（加えることを）要求することで、あなたに対して確かに不正*を働いた。そして実に共同者たちの多くは、信仰し、正しい行い*を行う者たちを除き——そして彼らは数少ないのだ——、まさに互いに侵害し合うものなのである」。するとダーウッド*は、われら*が彼を（その論争で）試練にかけたということを確信し、彼の主*にお赦しを乞い、ルクウ*しながら崩れ落ち、（アッラー*に悔悟して）立ち返った。（読誦のサジダ*）¹

25. それでわれら*は彼（ダーウッド*）に、そのこと²を赦した。そして本当に彼にはまさしく、われら*のもとにおけるお近づきと、（来世における）善き戻り場所があるのだ。

26. ダーウッド*よ、本当にわれら*は、あなたを地上における継承者³とした³。ゆえに、真理によって人々の間を裁くのだ。そして私欲⁴に従って、自分をアッラー*の道から迷わせてはならない。本当にアッラー*の道から迷う者たちには、清算の日を忘れたことゆえの厳しい懲罰がある。

قَالَ لَقَدْ ظَلَمَكَ بِسُؤَالِ نَعْتِكَ إِلَىٰ نَعْتِهِ وَإِنَّ كَثِيرًا مِّنَ الظَّالِمِ لِيَئِنِّي بَعْضُهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَقَلِيلٌ مَّا هُمْ وَظَنَّ دَاوُدُ أَنَّمَا فَتْنَتْهُ فَاسْتَقْفَرَ رَبَّهُ وَخَرَّ رَاكِعًا وَأَنَابَ ﴿١٨﴾

فَعَفَرْنَا لَهُ ذَٰلِكَ وَإِنَّ لَهُ عِندَنَا لَزُلْفَىٰ وَحُسْنَ مَّوَابٍ ﴿١٩﴾

يٰۤدَاوُدُ إِنَّا جَعَلْنَاكَ خَلِيفَةً فِي الْأَرْضِ فَاحْكُم بَيْنَ النَّاسِ بِالْحَقِّ وَلَا تَتَّبِعِ الْهَوَىٰ فَيُضِلَّكَ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ إِنَّ الَّذِينَ يَضِلُّونَ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ لَهُمْ عَذَابٌ شَدِيدٌ يَوْمَ الْحِسَابِ ﴿٢٠﴾

1 イブン・カスィール*によれば、多くの解釈学者らがこのアーヤ*に関して言及している説話は、大半がクルアーン*以外の啓典由来の情報で、預言者*ムハンマド*にまで辿（たど）ることのできる真正*な伝承は一つとしてない。ゆえにこの話は読誦するだけに留めておき、その真の意図はアッラー*に委ねておくべきだ、としている（7:60 参照）。

2 アッラー*はその不要性ゆえに、「そのこと」を明言されなかったのであり、それを追及するのは行き過ぎというものである。この話の意図はそもそも、ダーウッド*の優しさや悔悟、そして悔悟の後にはそれ以前よりも優れた者となった、ということなのだから（アッ=サアディー711 頁参照）。また、預言者*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

3 アッラー*は彼を、善事を命じ、悪事を禁じる王とし、それ以前の預言者*・正しい導師たちの後を継がせられた（アル=クルトゥビー15:188 参照）。

27. ——われら*は天と大地とその間にあるものを、無意味に創ったのではない¹。それは不信仰に陥った者*たちの思い込みである。そして不信仰に陥った者*たちには、(地獄の)業火の災いあれ。

28. いや、一体われら*が、信仰して正しいい*を行う者たちを、大地で腐敗*を働く者たちと同様にするとでも？ いや、一体われら*が敬虔*な者たちを、放逸な者たちと同様にするというのか？

29. (使徒*よ、このクルアーン*は)彼らがその御徴を熟慮し、澄んだ理性の持ち主らが教訓を得るべく、われら*があなたに下した啓典、祝福あふれたものである——。

30. われら*はダーウード*に、(その息子)スライマーン*を授けた。僕(スライマーン*)の素晴らしいことよ、本当に彼は常に回帰する者²なのだから。

31. 彼(スライマーン*)に夕の頃、優良な駿馬³が見せられた時のこと(を思い起こさせよ)。

32. そして彼(スライマーン*)は、言った。「本当に私は、(太陽が)覆いに包まれる⁴まで、我が主*の唱念をよそに、財産⁵への愛情を傾けてしまった。⁶

وَمَا خَلَقْنَا السَّمَاءَ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا بَاطِلًا
ذَٰلِكَ ظَنُّ الَّذِينَ كَفَرُوا فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ كَفَرُوا مِنَ
النَّارِ ﴿٧﴾

أَمْ جَعَلَ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ كَالْمُفْسِدِينَ
فِي الْأَرْضِ أَمْ جَعَلَ الْمُتَّقِينَ كَالْفُجَّارِ ﴿٨﴾

كَتَبْنَا إِلَيْكَ الْبَيِّنَاتِ مُبْرَكَةً وَلَذِكْرُوا لَهَا
وَلِيَسْذَكِّرُوا آلَ الْآلِبِ ﴿٩﴾

وَوَهَبْنَا لِدَاوُدَ سُلَيْمَانَ نِعَمَ الْعَبْدِ إِنَّهُ
أَوَّلٌ ﴿١٠﴾

إِذْ عَرَضَ عَلَيْهِ بِالْعَشيِّ الصَّفِيَّتُ الْمَيَادُ
﴿١١﴾

فَقَالَ إِنِّي أَحْبَبْتُ حُبَّ الْخَيْرِ عَن ذِكْرِ رَبِّي حَتَّى
تَوَارَتْ بِالْحِجَابِ ﴿١٢﴾

1 イムラーン家章 191 の訳注も参照。

2 「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

3 「駿馬」と意識した語「サーフィナート」は、馬のみに用いられる能動分詞の複数形。止まっている時に三本足で立ち、四本目の足は爪先立ちしている様子のこと。敏捷(びんしょう)さを示す印とされる(イブン・アージュール 23:255 参照)。

4 つまり日没のこと(ムヤッサル 455 頁参照)。

5 この「財産」は、馬のこと(前掲書、同頁参照)。

6 解釈学者たちはこの出来事を、スライマーン*が馬の観賞に熱中して、アスル*の礼拝を忘れてしまったのだとしている(イブン・カスィール 7:65 参照)。預言者*の無謬(むびゅう)性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

33. それら（馬）を私のもとに、また連れて来い」。そして（馬が連れて来られると、）彼は（剣で）その足と首を打ち始めた。¹
34. また、われら*はスライマーン*を試練^{しれん}にかけ、その椅子^{いす}に（死）体を投げた^{ふさわ}。それから彼は、（アッラー*に悔悟^{かいご}して）立ち返ったのだ。
35. 彼（スライマーン*）は言った。「我が主*よ、私をお赦し下さい。そして私の後の（人間の内、）誰にも相応しくないような（偉大な）E権を、私にお授け下さい。本当にあなたこそは、恵み深い*お方なのですから」。
36. また、われら*は彼（スライマーン*）に、彼の命令によって、彼の意図した場所へと走る、穏やかな風^{おど}3を仕えさせた。
37. また、シャイターン*たち、つまり（彼の命令に従う）あらゆる建設家、潜水夫^{せんすい}4を（仕えさせた）。
38. そして、枷^{かせ}でがんじがらめにされている、別の者たち⁵を。

رُدُّوْهَا عَلَيَّ فَطْلِقْ مَسْحًا بِالسُّوقِ
وَالْأَعْنَاقِ ﴿٣٣﴾

وَلَقَدْ فَتَنَّا سُلَيْمَانَ وَالْقَيْنَانَ عَلَى كُرْسِيِّهِ
جَسَدًا ثُمَّ أَنَابَ ﴿٣٤﴾

قَالَ رَبِّ اغْفِرْ لِي وَهَبْ لِي مُلْكًا لَا يَبْغَى لِأَحَدٍ
مِّنْ بَعْدِي إِنَّكَ أَنْتَ الْوَهَّابُ ﴿٣٥﴾

فَسَخَّرْنَا لَهُ الرِّيحَ تَجْرِي بِأَمْرِهِ رُحَاءً حَيًّا
أَصَابَ ﴿٣٦﴾

وَالشَّيْطَانِ كُلِّ بَنَاءٍ وَعَوَاصٍ ﴿٣٧﴾

وَالْآخَرِينَ مُقَرَّنِينَ فِي الْأَصْفَادِ ﴿٣٨﴾

- 1 馬を殺したのではなく、愛情をもってたてがみと足を撫（な）でた、という解釈もある（アッ＝タバリー8:7000 参照）。
- 2 スライマーン*はある時、自分が全員の妻と交わり、その結果、彼女ら全員はアッラー*の道ゆえに戦う騎士（きし）を産むのだと誓ったが、その際「もしアッラー*がお望みならば」と付け加えなかった（洞窟章 23-24 とその訳注も参照）。その結果、彼の妻たちの内、妊娠したのは一人だけで、しかも彼女が産んだのは未熟児だったという（アル＝ブハーリー 6639 参照）。
- 3 風はスライマーン*の思い通りに、強くなったり、穏やかになったりした（アル＝バガウィー 3:301 参照）。預言者*たち章 81、サバア章 12 も参照。
- 4 サバア章 13 で示されているようなものを建設・作成する者たちや、海に潜って真珠や宝石などを採集する者たちのこと（イブン・カスィール 7:73 参照）。
- 5 これはシャイターン*の内でも、反抗的な者たちのこととされる（ムヤッサル 455 頁参照）。

39. これは(スライマーン*への)、われら*の贈り物。ならば(望む者には)際限なく恵み、あるいは(望む者には)禁じるがよい。
40. そして本当に彼(スライマーン*)にはまさしく、われら*のもとにおける近侍と、(来世における)善き戻り場所があるのだ。
41. われら*の僕、アイユーブ*を思い出せ。彼がその主*に、「シャイターン*は疲労と罰¹で、私を襲いました」と呼びかけた時のこと。
42. (われら*は言った。)「あなたの足で(地面を)蹴るがよい」。(そしてその通りにすると、水が吹き出た。)²「これは冷たい洗淨水であり、飲み物である」。²
43. また、われら*は彼にその家族と、更にそれと同様のもの³を授けた。われら*からの慈悲と、澄んだ理性の持ち主たちへの教訓⁴として。
44. (われら*は言った。)⁵「そして手に(草の)一束を取り、それでそれ(妻)を叩き、(誓いを)破るのではない⁵」。実にわれら*は、彼が忍耐*する者であることを認めた。僕(アイユーブ*)の素晴らしいことよ、本当に彼は常に回帰する者⁶なのだから。

هَذَا عَطَاؤُنَا فَامْنُنْ أَوْ أَمْسِكْ بِغَيْرِ حِسَابٍ ﴿٣٩﴾

وَإِنَّمَا وَعْدُنَا لِلرَّحْمَنِ وَحَسَنَ مَّكَابٍ ﴿٤٠﴾

وَإِذْ ذَكَرْنَا عَبْدَنَا يُوسُفَ إِذْ كَادَىٰ رَبُّهُ أَنِّي مَسْنِيَّ الشَّيْطَانُ يَنْصُبُ وَعْدًا ﴿٤١﴾

أَرْكُضْ بِرِجْلِكَ هَذَا غُغْسَلٌ بِمَاءٍ مُّسْرَرٍ ﴿٤٢﴾

وَوَهَبْنَا لَهُ أَهْلَهُ وَمِمَّا هُمْ قَعَمُونَ زَمَنًا وَذَكَرَ لَنَا أُولَىٰ الْأَلْبَابِ ﴿٤٣﴾

وَجَدْنَاهُ لَكَ ضَعْفًا فَأَضْرِبْ بِهِ وَلَا تَحْنَطْ إِنَّهُ وَجَدْنَاهُ صَابِرًا نِعْمَ الْعَبْدُ إِنَّهُ أَوَّابٌ ﴿٤٤﴾

- 1 アイユーブ*はシャイターン*により、自分の体、財産、家族において甚大(じんだい)な被害を受けたとされる(ムヤッサル 455 頁参照)。
- 2 彼がそれを飲み、それで体を洗うと、彼を苦しめていた害悪は消え去った(前掲書、同頁参照)。
- 3 この「同様のもの」については、預言者*たち章 84 の訳注を参照。
- 4 忍耐*の後には、慰(なぐさ)めと、害悪の解消があるという「教訓」(前掲書 456 頁参照)。
- 5 アイユーブ*は病に苦しんでいる時、些細(ささい)なことでも妻のことを怒り、もしアッラー*が彼の病を治して下さったら、彼女を鞭(むち)で百回打つ、と誓った。ただし彼女は正しい女性だったので、アッラー*はその誓いをアーヤ*で言及されている行為によって免じられ、彼と彼女を慈しまれたのだという(前掲書、同頁参照)。預言者*の無謬(むびゅう)性については、雌牛章 36 の訳注を参照。
- 6 「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

45. また、われら*の僕たち^{しもべ}、つわもの^{はいがん}の¹で、慧眼の主^{めし}だったイブラーヒーム*、イスハーク*、ヤアクーブ*を思い出せ。
46. 本当にわれら*は彼らを(偉大なる)特性、つまり(来世の)住まいの^{しやうねん}唱念^{せうれん}で、精錬した²。
47. また本当に彼らはわれら*のもとで、(啓示の伝達のために)まさに^{ふくじゆう}選び抜かれた者たち、(われら*への服従のために)選ばれし者たちである。
48. また、イスマール*とアル=ヤサア*とズル=キフル*を思い出せ。(彼らは)皆、選ばれし者たちである。
49. これ(クルアーン*)は、訓戒³。本当に^{けいけん}敬虔*な者たちには、実によい^{もと}戻り所がある、
50. 彼らに向けて門が開かれた、永久^{とわ}の楽園が。
51. 彼らはそこで、(寝台に)寄りかかっている。そこで(望むだけの)沢山の果実と飲み物を、持って来させつつ。
52. また彼らのもとには、同い年の、(自分の夫だけに)視線を定めた女性⁴たちがいる。
53. (敬虔^{けいけん}*者たちよ、)これが清算の日に、あなた方が約束されているもの。

وَأَذْكُرْ عَبْدًا آتَيْنَاهُ مِنْهُ وَاسْتَحَقَّ وَيَعْقُوبَ أُولَى
الْأَيْدِي وَالْإِسْحَاقَ ۝١٥

إِنَّا أَخْلَصْنَاهُمْ بِخَالِصَةٍ ذِكْرَى الدَّارِ ۝١٦

وَأَنَّهُمْ عِنْدَنَا لَمِنَ الْمُصْطَفَيْنَ الْآخِيَارِ ۝١٧

وَأَذْكُرْ إِسْمَاعِيلَ وَالْيَسَعَ وَذَا الْكِفْلِ وَكُلٌّ
مِّنَ الْآخِيَارِ ۝١٨

هَذَا ذِكْرٌ لِّمَن تَقَىٰ لِحُسنِ مَّعَابٍ ۝١٩

جَنَّاتٍ عَدْنٍ مُّفْتَحَةٌ لَهُمْ الْأَنْوَاعُ ۝٢٠

مُتَّكِئِينَ فِيهَا يَدْعُونَ فِيهَا بِفَكَهٍ كَثِيرٍ وَشَرَابٍ ۝٢١

*وَعِنْدَهُمْ قَصِيرَاتُ الْفَلَاحِ ۝٢٢

هَذَا مَا وَعَدُونَا لِيَوْمِ الْحِسَابِ ۝٢٣

1 「つわもの」については、アーヤ*17の訳注を参照。

2 つまり来世をよく想起し、来世のために現世で努力し、アッラー*に服従し、かれを意識して行動する者とした、ということ。自分だけではなく他人のことも、アッラー*と来世について想起させる者、という意味も含まれ得る(アッ=タバリー-8:7018 参照)。

3 栄誉、という解釈もある(アル=バガウィー-4:74 参照)。金の装飾章 44 も参照。

4 「視線を定めた女性」については、整列者章 48 の訳注を参照。

54. 実にこれはまさしく、（あなた方への）われらの糧^{かて}。そこに決して終わりはない。
55. これは（、敬虔な^{ひょうけん}*者たちのためのもの）。実に（不信仰において）度^どを越した者たちには、本当に悪い^{もど}戻り場所がある、
56. 彼らが入って炙^{あぶ}られることになる、地獄が。その寢床^{ねどこ}は何と醜悪^{しゅうあく}であろうか。
57. これは——彼らにそれを味わわせよ——、煮えたぎる湯と膿汁^{のうじゅう}¹。
58. また、それと同様の別のものが、各種ある。
59. （地獄の民は、別の集団がそこに入って来ると、お互いに言う²。）「これは、あなた方と共に（地獄に）飛び込んで来る集団だ」。「彼らの疎ましい^{うと}こと。本当に彼らは（私たちと同様に、）業火^{ごうか}に入^{あぶ}って炙^{あぶ}られるのだから」。
60. 彼ら（既に地獄に入っている集団^なに倣^なって不信仰者^す*となった、後から地獄に入^なって来た集団）は、（自分たちを不信仰^{しやど}へと主導した集団に）言う。「いや、あなた方こそ疎ましい^{うと}こと。あなた方がそれを、私たちに提供^{しやど}したのである³。その留まり所^どは、何と醜悪^{しゅうあく}であろうか」。

إِنَّ هَذَا لِرِزْقِنَا مَالَهُ مِنْ نَفَادٍ ﴿٢٥﴾

هَذَا وَإِنَّ لِلظَّالِمِينَ لَشَرَّ مَقَابٍ ﴿٢٦﴾

جَهَنَّمَ يَصْلَوْنَهَا فَيَسَّ السَّيِّئَاتِ ﴿٢٧﴾

هَذَا أَفَلَيْدُوهُ حَبِيمٌ وَعَسَاقٍ ﴿٢٨﴾

وَأَخْرَجَ مِنْ سَكْنِهِ أَزْوَاجٌ ﴿٢٩﴾

هَذَا فَوْجٌ مُفْتَحٌ مَعَكُمْ لَا مَرْجَأَ

بِهِمْ أَنْتُمْ صَالُوا النَّارِ ﴿٣٠﴾

قَالُوا بَلْ أَنْتُمْ لَا مَرْجَأَ بِكُمْ أَنْتُمْ قَدْ مَتَمُّوهُ لَنَا

فَيَسَّ الْقَرَارِ ﴿٣١﴾

1 「膿汁」と訳した語「ガッサーク」の解釈には、「強烈な異臭の膿」「極限まで冷やされた冷水」「毒の泉の名称」「地獄の民の体液」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー 15:221-222 参照）。

2 あるいは、最初の言葉は地獄の番人で、次の言葉は不信仰へと主導した有力者たちのもの（前掲書 15:223 参照）。

3 あなた方は現世で私たちを迷わすことで、私たちに地獄の住まいを提供したので、という意味（ムヤッサル 456 頁参照）。同様の情景の描写として、雌牛章 166 167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21 22、識別章 17 19、物語章 63、部族連合章 67 68、サバア章 31 33 も参照。

61. 彼ら（後から地獄に入ってきた集団）は、言う。「我らが主*よ、私たちにこれを提供した者には、業火の中で倍の懲罰を上乗せして下さい」。
62. 彼ら（地獄の民の内、暴虐な不信仰だった者*たち）は、言う。「私たちが、（現世で）ろくでなしと見なしていた男たち¹を（ここで）見かけないのは、どうしたことだ？
63. 一体、私たちは彼らを（誤って）嘲笑^{あやま}的^{ちやうしやう}にしていたのか？ それとも（彼らは地獄にいるのに、私たちの）目は彼らから逸^そらされてしまったのか？²
64. 実にそれは、まさしく真実なのである。（それは）地獄の民の議論^{ぎろん}なのだ。
65. （使徒*よ、）言え。「本当に私は一人^{いひごく}の警告者である。そして唯一^{くんにん}の*お方、君臨^{きんりん}し給う*お方であるアッラー*の外^{ほか}に、崇拜^{そうはい}*すべきいかなるものもない。
66. 諸天と大地と、その間にあるもの^{しよ}の主*、偉力^{いりき}ならびない*お方、赦^{ゆる}し深いお方である（アッラー*の外^{ほか}には）」。
67. （使徒*よ、民に）言ってやれ。「これ（クルアーン*）は偉大なる消息^{しやうそく}。
68. あなた方はそこから背を向けているが。
69. 私には、最上界の貴人（天使）たちが（アーダム*の創造^{そうぞう}に関して）議論^{ぎろん}している時³の知識など、なかったのである。

قَالُوا رَبَّنَا مَنْ قَدَّمَ لَنَا هَذَا فَزِدْهُ عَذَابًا
صِغْفَارًا فِي النَّارِ ﴿١٦﴾

وَقَالُوا مَا لَنَا لَاتْرَى رِجَالًا كَانُوا نَعُدُّهُمْ مِّنَ
الْأَشْرَارِ ﴿١٧﴾

أَتَخَذْتَهُمْ سِحْرِيَاءَ أَمْ زَاغَتْ عَنْهُمْ الْأَبْصَارُ ﴿١٨﴾

إِنَّ ذَلِكَ لَحَقٌّ تَخَاصُّمُ أَهْلِ النَّارِ ﴿١٩﴾

قُلْ إِنَّمَا أَنَا مُنذِرٌ وَمَأْنِي إِلَى اللَّهِ إِلَا اللَّهُ الْوَاحِدُ
الْقَهَّارُ ﴿٢٠﴾

رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا الْعَزِيزُ
الْفَتَّارُ ﴿٢١﴾

قُلْ هُوَ رَبُّ الْعَرْشِ الْعَظِيمِ ﴿٢٢﴾

أُنَبِّئُكُمْ مِّنْ مَّعْرُوضٍ ﴿٢٣﴾

مَا كَانَ لِي مِنْ عِلْمٍ بِالْمَلَأِ الْأَعْلَى إِذْ يَخْتَصِمُونَ ﴿٢٤﴾

1 信仰者たちのこと（アッ=サアディー716 頁参照）。

2 あるいは、「本当は彼らは自分たちより優れていたのに、現世でそれを見落としてしまったのか？」という意味（アル=バガウィー4:76 参照）。

3 この内容は、アーヤ*71 以降に描写されている出来事のこと（イブン・カスィール 7:81 参照）。

70. 私に啓示^{けいじ}が下されるのは、まさに私が明白^{めいはく}なる警告者であるゆえに外ならない」。
71. あなたの主^{しゅ}*が天使*たちに、(こう)仰せられた時のこと(を思い起こさせよ)¹。「本^{ほん}当にわれは、泥土^{どど}²から人間を創る者である。
72. それでわれら*がそれを整え、そこにわが魂^{たましい}³より吹き込んだら、彼(アダム*)に向かつてサジダ⁴せよ」。
73. それで天使*たちは皆、一斉にサジダ*した。
74. 但し、イブリース*だけは別だった。彼は高慢^{こうまん}だったのであり、不信仰者*の類^{たぐ}いだったのだ。
75. かれ(アッラー*)は仰せられた。「イブリース*よ、わが両手によって創造した⁵ものに対し、あなたがサジダ*するのを妨げたのは、何なのか? 一体あなたは(アダム*)に対し、高慢^{こうまん}だったのか、それとも(われに対して)奢り高ぶる者たちの類^{たぐ}いだったのか?」
76. 彼(イブリース*)は申し上げた。「私は彼(アダム*)よりも優れています。あなたは私を火からお創りになり、彼のことは泥土からお創りになったのですから」。⁶

إِنْ يُوحَىٰ إِلَىٰ إِلَّا أَنَّمَا أَنَا بَشَرٌ مُّثَيٌّ ﴿٧٠﴾

إِذْ قَالَ رَبُّكَ لِلْمَلَكَةِ إِنِّي خَلَقْتُ بَشَرًا مِّن طِينٍ ﴿٧١﴾

فَإِذَا سَوَّيْتُهُ، وَنَفَخْتُ فِيهِ مِن رُّوحِي فَقَعُوا لَهُ سَاجِدِينَ ﴿٧٢﴾

فَسَجَدَ الْمَلَكَةُ كُلُّهُمْ أَجْمَعُونَ ﴿٧٣﴾

إِلَّا إِبْلِيسَ اسْتَكْبَرَ وَكَانَ مِنَ الْكَافِرِينَ ﴿٧٤﴾

قَالَ يَا إِبْلِيسُ مَا مَنَعَكَ أَن تَسْجُدَ لِمَا خَلَقْتُ بِإِيْدِي اسْتَكْبَرْتَ أَفُكِدْتَ مِنَ الْعَالِينَ ﴿٧٥﴾

قَالَ أَنَا خَيْرٌ مِّنْهُ خَلَقْتَنِي مِن نَّارٍ وَخَلَقْتَهُ مِن طِينٍ ﴿٧٦﴾

1 この出来事の詳細に関しては、雌牛章 34-39、高壁章 11-25、アル=ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、ター・ハー章 116-123 も参照。

2 アダム*が土から段階を経(へ)て創られたことについては、アル=ヒジュル章 26 の訳注を参照。

3 「わが魂」については、アル=ヒジュル 29 の訳注を参照。

4 このサジダ*については、雌牛章 34 の訳注を参照。

5 アッラー*はこうすることでアダム*を、他のいかなる創造物に対しても与えられなかった栄誉を授けられた(アッ=サアディー716 頁参照)。

6 このイブリース*の言葉については、高壁章 12 の訳注を参照。

77. かれ（アッラー*）は仰せられた。「ならば、そこ（樂園）から出て行くがよい。まさにあなたは、追放された¹者なのだ。
78. そして本当にあなたの上には、報いの日*まで、わが呪い²がある」。
79. 彼（イブリース*）は申し上げた。「我が主*よ、それなら私に、彼らが蘇³らされる日まで猶予をお授け下さい。
80. かれ（アッラー*）は仰せられた。「それでは、実にあなたは猶予される者の一人である。³
81. 定められた（復活の*）時の日まで」。
82. 彼（イブリース*）は申し上げた。「では、あなたのご偉力⁴に誓って、私は必ずや彼ら（人類）を全員、踏み誤らせてみせましよう。
83. 但し、彼らの内、精選されたあなたの僕たち⁴はその限りではありませんが」。
84. かれ（アッラー*）は仰せられた。「真実こそ（、わが誓い）。そして真実をこそ、われは語る。
85. われは必ずや地獄を、あなた（イブリース*）と、彼ら（人類）の内であなたに従った者全員で、満たそう」。

قَالَ فَأَخْرِجْ مِنْهَا فَإِنَّكَ رَجِيمٌ ﴿٧٧﴾

وَأَنَّ عَلَيْكَ لَعْنَتِي إِلَى يَوْمِ الدِّينِ ﴿٧٨﴾

قَالَ رَبِّ فَأَظْهِرْ لِي فِي يَوْمٍ يُبْعَثُونَ ﴿٧٩﴾

قَالَ فَإِنَّكَ مِنَ الْمُنْظَرِينَ ﴿٨٠﴾

إِلَى يَوْمِ الْوَقْتِ الْمَعْلُومِ ﴿٨١﴾

قَالَ فَبِعِزَّتِكَ لأُخْذِبَنَّهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٨٢﴾

إِلَّا عِبَادَكَ مِنْهُمْ الْمُخَاصِينَ ﴿٨٣﴾

قَالَ فَالْحَقُّ وَالْحَقُّ أَقُولُ ﴿٨٤﴾

لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنْكَ وَمِمَّنْ بَعَاكَ مِنْهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٨٥﴾

1 「追放された」については、イムラーン家章 36 の訳注を参照。

2 アッラー*の「呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

3 イブリース*の申し出が受け入れられたことについては、高壁章 15 の訳注を参照。

4 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

86. (使徒*よ、) 言うがよい。「私はそのことゆえに、あなた方に見返り¹を求めているわけではないし、無理(して預言者*を自称)する者の類いでもない。
87. それ(クルアーン*)は、全創造物への教訓に外ならないのだ。
88. そしてあなた方はきっと、しばらく後にその消息²を知ることになるう」。

قُلْ مَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ وَمَا أَنَا مِنَ الْمُتَكَلِّفِينَ ﴿٨٦﴾

إِنْ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِلْعَالَمِينَ ﴿٨٧﴾

وَلَتَعْلَمُنَّ نَبَأَهُ بَعْدَ حِينٍ ﴿٨٨﴾

1 この「見返り」については、家畜章 90 の訳注を参照。

2 この「消息」とは、クルアーン*の伝える内容と、その正しさのこと。彼ら不信仰者*はイスラーム*が栄え、人々が一斉に改宗する時、あるいは実際に彼らを懲罰が襲い、取り返しがつかなくなる時になって、それを認めることとなる(ムヤッサル 458 頁参照)。

第 39 章
集団章（アッ＝ズマル）¹

慈悲あまねく*慈愛深く*

アッラー*の御名において

1. （このクルアーン*は、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*からの啓典の降示。
2. （使徒*よ、）本当にわれら*はあなたに、真実と共に啓典を下した。ゆえにアッラー*を崇拝*せよ、かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ²。
3. アッラー*にこそ、純粋な宗教が属するのではないか³。けれども、かれをよそに庇護者を設ける者たちは、（こう言っている。）「私たちが彼らを崇めるのは、彼らが私たちをアッラー*のお傍へと近づけてくれるために外ならない⁴」。本当にアッラー*は（復活の日*）、彼ら（信仰者とシルク*の徒）が意見を異にしていたことにおいて、彼らの間をお裁きになる。本当にアッラー*は、嘘つきで不信心この上ない者を、お導きにならないのだ。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

نَزِيلَ الْكِتَابِ مِنَ اللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ﴿١﴾

إِنَّا أَنْزَلْنَاهُ إِلَيْكَ الْكِتَابَ بِالْحَقِّ فَأَعْبُدِ اللَّهَ مُخْلِصًا لَهُ الدِّينَ ﴿٢﴾

أَلَا لِلَّهِ الدِّينُ الْخَالِصُ وَالَّذِينَ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءَ مَا نَعْبُدُهُمْ إِلَّا لِيُقَرِّبُونَا إِلَى اللَّهِ زُلْفَىٰ إِنَّ اللَّهَ يَحْكُمُ بَيْنَهُمْ فِي مَا هُمْ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ۗ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي مَنْ هُوَ كَاذِبٌ كَفَّارٌ ﴿٣﴾

1 マッカ*啓示（一部のアーヤ*は、マディーナ*啓示説もあり）。アッラーの唯一性*の正しさ・シルク*の誤（あやま）りを様々な根拠と例を挙げて証明し、信仰者と不信仰者*の様子を多様な形でたとえ、不信仰者*たちに一刻も早い悔悟をすすめる。スーラ*終盤（しゅうばん）では、天国の民となる幸福な集団（アーヤ*71）と、地獄の民となる不幸な集団（アーヤ*73）の来世での様子が明瞭なコントラストと共に描かれるが、これがスーラ*の名称の由来ともなっている。

2 「かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

3 アッラー*にこそシルク*とは無縁な、完全な服従を捧げなければならない（ムヤッサル 458 頁参照）。

4 彼らは、それらの存在が創造もしなければ、糧を与えてくれないことを知っていた。ただ、それらが、かれの御許で執り成してくれることを望んでいたのである（アッ＝サアディー717 頁参照）。

4. もしアッラー*が、（彼らが思い込んでいるように）子供を設けられることをお望みであつたなら、かれがお創りになるものの内から、お望みのものをお選^{えん}びになったであろう¹。（そのようなこととは無縁な）かれに称え*あれ²。かれは唯一であり*、君臨^{くんりん}し給^{たま}う*アッラーである。

5. かれは諸天と大地を、真理によってお創りになった³。かれは夜を昼に巻き付け（覆^{おほ}われ）、昼を夜に巻き付け（覆^{おほ}い）給^{たま}う⁴。また、太陽と月を（人間を益^{えき}する秩序^{ちつじよ}において）仕えさせられた。（その）いずれも、定められた時期（である復活の日*）まで（その軌道^{きどう}を）運行^{ゆん}し続ける。かれは偉力ならびないお方、赦し深いお方ではないか。

6. かれはあなた方を、一人の人間（アダム*）からお創りになり、そしてそれ（アダム*）から、彼の妻をお創りになった。また、かれはあなた方のために、家畜の内から八頭⁵を下した。かれはあなた方を、あなた方の母親の胎内^{たいない}に創造の後^{そうぞう}に創造を重ねつつ、三つの闇^{やみ}においてお創りになる。そのお方がアッラー*、あなた方の主^{しゅ}*、かれにこそ王

لَوَارَادَ اللَّهُ أَنْ يَتَّخِذَ وَلَدًا لَأَصْطَفَىٰ مِمَّا يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ سُبْحَنَهُ ۚ هُوَ اللَّهُ الْوَاحِدُ الْقَهَّارُ ﴿١﴾

خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ يُصَوِّرُ أَلِيلَ عَلَى النَّهَارِ وَيُكَوِّرُ النَّهَارَ عَلَى أَلِيلٍ وَسَخَّرَ الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ كُلٌّ يَجْرِي لِأَجَلٍ مُّسَمًّى ۚ أَلَا هُوَ الْعَزِيزُ الْغَفَّورُ ﴿٢﴾

خَلَقَكُمْ مِنْ نَفْسٍ وَاحِدَةٍ ثُمَّ جَعَلَ مِنْهَا زَوْجَهَا وَأَنزَلَ لَكُمْ مِنْ الْأَنْعَامِ ثَمَانِيَةَ أَزْوَاجٍ يَخْلُقُكُمْ فِي بُطُونِ أُمَّهَاتِكُمْ خَلْقًا مِنْ بَعْدِ خَلْقٍ فِي ظُلُمَاتٍ ثَلَاثٍ ۚ ذَٰلِكُمْ اللَّهُ رَبُّكُمْ ۖ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ قَاتِلُ الضُّرُوفِ ﴿٣﴾

1 この仮定はそもそも不可能であり、つまりは天使*をアッラー*の娘とし、イーサー*をかれの息子と主張した、シルク*の徒の無知さを露呈（ろてい）させる意味の修辭的表現である（イブン・カシール 7:85 参照）。預言者*たち章 17、金の裝飾章 81 も参照。

2 雌牛章 116 の訳注も参照。

3 「真理によって…」については、イムラーン章 191 「我らが主よ、あなたは…」の訳注も参照。

4 イムラーン家章 27 「夜を昼の中にお入れになり…」の訳注も参照。

5 ラクダ、牛、羊、山羊の雌雄（しゆう）のこと（ムヤッサル 459 頁参照）。家畜章 143-144 も参照。

6 「三つの闇」とは、お腹、子宮、胎盤（たいばん）のこととされる（前掲書、同頁参照）。

権は属する。かれの外に、崇拝*されるべき
いかなるものもない。ならば一体、どうし
てあなた方は（かれの崇拝*から）逸らされ
るのか？

7. （人々よ、）もしあなた方が不信仰に陥っ
ても、実にアッラーはあなた方（に対する
必要）などから、満ち足りた*お方。また、
かれはその僕たちに不信仰をお喜びにはな
らない。そして、もしあなた方が（かれの
恩恵に）感謝するならば、かれはあなた方
にそれをお喜びになる。（罪の）重荷を背負
う者は、他の者（が犯した罪）の重荷まで
背負うことはない。それからあなた方の主
にこそ、（復活の日*の）あなた方の歸り所
はあり、かれはあなた方が行っていたこと
について、あなた方に告げ聞かせ給う。本
当にかれは、胸の内をご存知のお方なのだ
から。

8. 害悪^ふが人に降りかかれば、彼は自分の主*
に（悔悟して）立ち返りつつ、祈る。それ
からかれ（アッラー*）が（その害悪を取り
除いてやり、）かれの御許からの恩恵を彼
にお恵みになれば、かれは以前、自分がか
れに祈っていたことを忘れ、アッラー*に同
位者を設け（て崇拝*し）、かれの道から（他
者を）迷わせてしまう。（使徒*よ、）言う
のだ。「あなたの不信仰を、少しばかり楽
しんでいよ。本当にあなたは（死後）、業火
の仲間となるのだから」。

إِنْ تَكْفُرُوا فَإِنَّ اللَّهَ عَنَّا وَلَا يَرْضَى
لِعِبَادِهِ الْكُفْرَ وَإِنْ تَشْكُرُوا يَرْضَهُ لَكُمْ وَلَا
تَزِدْوا زِرَّةً وَزِدْوا آخِرَى ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُمْ
مَرْجِعُكُمْ فَيُنَبِّئُكُمْ بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ إِنَّهُ
عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿٥٩﴾

* وَإِذَا مَسَّ الْإِنْسَانَ ضُرٌّ دَعَا رَبَّهُ مُنِيبًا إِلَيْهِ
ثُمَّ إِذَا خَوَّلَهُ نِعْمَةً مِّنْهُ نَسِيَ مَا كَانَ يَدْعُو
إِلَيْهِ مِن قَبْلُ وَجَعَلَ لِلَّهِ أَنْدَادًا لِّیُضِلَّ عَنْ
سَبِيلِهِ قُلْ مَتَّعْتُكُمْ بِكُفْرِكُمْ لَقِيلَ إِنَّكَ مِنْ
أَصْحَابِ النَّارِ ﴿٦٠﴾

1 「害悪」とは、試練、苦境、病気などのこと（ムヤッサル 459 頁参照）。

9. (そのような不信仰者*がよいのか、)それとも来世(の懲罰)を用心し、自分の主*のご慈悲を望みつつ、夜の刻にサジダ*し、起立(しつつ礼拝)する従順な者か？(使徒*よ、)言ってやれ。「一体、(自分の主*と宗教を)知る者たちと、知らない者たちは同等か？ 本当に教訓を得るのは、澄んだ理性の持ち主だけである」。
10. (使徒*よ、われがこう言っている、と)言うのだ。「信仰するわが僕たちよ、あなた方の主を畏れ*よ。この現世で善を尽くす者¹には、善きもの²がある。そしてアッラー*の大地は広大なのだ³。本当に忍耐*する者たちは、その褒美を際限なく全うされる」。
11. (使徒*よ、)言え。「本当に私(と私の信者)は、アッラー*を崇拜*するよう命じられた。かれだけに真摯に崇拜*行為を捧げつつ⁴。
12. そして(自分の共同体において)、服従する者(ムスリム*)たちの先駆けとなるよう、命じられたのだ」。
13. (使徒*よ、)言うのだ。「本当に私は、もし我が主*に逆らったりしたら、偉大な(復活の)日*の懲罰を怖れる」。

أَمَّنْ هُوَ قَائِمٌ عَلَى أَوَّلِ سَاجِدٍ أَقَامًا
يَحْذَرُ الْآخِرَةَ وَيَرْجُو رَحْمَةَ رَبِّهِ قُلْ هَلْ
يَسْتَوِي الَّذِينَ يَعْلَمُونَ وَالَّذِينَ لَا
يَعْلَمُونَ إِنَّمَا يَذْكُرُوا الْآلِهَةَ ①

قُلْ يَاعِبَادِ الَّذِينَ آمَنُوا اتَّقُوا رَبَّكُمُ الَّذِينَ
أَحْسَنُوا فِي هَذِهِ الدُّنْيَا حَسَنَةً وَأَرْضُ
اللَّهِ وَسِعَةٌ إِنَّمَا يُوَفَّى الصَّابِرُونَ أَجْرَهُمْ بِغَيْرِ
حِسَابٍ ②

قُلْ إِنِّي أُمِرْتُ أَنْ أَعْبُدَ اللَّهَ مُخْلِصًا لَهُ الدِّينَ ③

وَأُمِرْتُ لِأَنْ أَكُونَ أَوَّلَ الْمُسْلِمِينَ ④

قُلْ إِنِّي أَخَافُ إِنْ عَصَيْتُ رَبِّي عَذَابَ قَوْمٍ عَظِيمٍ ⑤

1 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

2 この「善きもの」とは、来世では天国、現世では健康、糧、勝利などのこと(ムヤッサル 459 頁参照)。

3 つまり祖国で「善を尽くす」ことを全う出来ないのであれば、それが出来るところへと移住せよ、ということ(アル=バイダーウィー5:61 参照)。婦人章 97、蜘蛛章 56 も参照。

4 「かれだけに真摯に崇拜*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

14. (使徒*よ、) 言え。「私はアッラー*をこそ、崇拝*する。かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ¹。

15. ならば(シルク*の徒よ)、あなた方が望んだ、かれ以外のものを崇めるがよい²」。(使徒*よ、) 言ってやれ。「本当に損失者とは(現世と不信仰への誘惑によって)、復活の日*に自分自身とその家族を損ねる者たち³のこと。それこそは紛れもない損失ではないか」。

16. 彼らには(復活の日*、)その上から(何重もの)業火の層があり、その下からも(同様の)層がある。アッラー*はそれによって、その僕たちを怖れさせる。わが僕たちよ、ならばわれを畏れる*のだ。

17. ターゲット*を崇めることを避け、アッラー*へと(悔悟して不断に)立ち返る者たち、彼らにこそは吉報⁴がある。ゆえに、わが僕たちに吉報を伝えよ。

18. (彼らは)言葉を聞き、その内の最善のものに従う⁵者たち。それらの者たちは、アッラー*が導かれた者たちであり、それらの者たちこそは、澄んだ理性の持ち主なのだ。

قُلِ اللَّهُ أَعْبُدْهُ خَالِصًا لَهُ دِينِي ﴿١٤﴾

فَاعْبُدُوا أَمَّا شِئْتُمْ مِنْ دُونِهِ قُلِ إِنْ أَنْتُمْ إِلَّا الَّذِينَ خَسِرُوا أَنْفُسَهُمْ وَأَهْلِيهِمْ يَوْمَ الْقِيَمَةِ ﴿١٥﴾ أَلَا ذَلِكَ هُوَ الْخُسْرَانُ الْمُبِينُ ﴿١٦﴾

لَهُمْ مِنْ فِيهِمْ ظُلُمٌ مِنَ النَّارِ وَمِنْ تَحْتِهِمْ ظُلُمٌ ﴿١٧﴾ ذَلِكَ يُخَوِّفُ اللَّهَ يَوْمَ عِبَادَتِهِ يَجْعَلُونَ ﴿١٨﴾

وَالَّذِينَ اجْتَنَبُوا الظُّلُمَاتِ أَنْ يَعْبُدُوا مَا أَتَوْا إِلَى اللَّهِ لِيُحْكُمَ فِي بَيْنِهِمْ ﴿١٩﴾

الَّذِينَ يَسْمَعُونَ الْقَوْلَ فَيَتَّبِعُونَ أَحْسَنَهُ أُولَئِكَ الَّذِينَ هَدَاهُ اللَّهُ وَأُولَئِكَ هُمْ أُولُوا الْأَلْبَابِ ﴿٢٠﴾

1 「かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

2 これはシルク*の徒への、警告的な意味合い (ムヤッサル 460 頁参照)。

3 現世へと誘惑し、信仰から迷わせることによって損ねること (前掲書、同頁参照)。

4 この「吉報」とは、現世では讃美され、アッラー*の成功へと導かれること。そして来世ではアッラー*のお喜びと、天国における永遠の安寧 (あんねい) を得ること (前掲書、同頁参照)。

5 「言葉を聞き、その内の最善のものに従う」の解釈には、「クルアーン*とそれ以外のものを聞いた後、クルアーン*に従う」「善いことと悪いことを聞けば、善いことだけを話し、悪いことからは口を閉ざす」「クルアーン*と預言者*の言葉を聞けば、その内の明確なものに従う (イムラーン家章 7 とその訳注を参照)」など、諸説ある (アルークルトウビー 15:244 参照)。

19. 一体（逸脱^{いつだつ}と頑迷^{がんめい}さの中にあり続けることで、）懲罰（という定め）の言葉がその身に確定した者が、（使徒^{しと}*よ、あなたによって導^{みちび}かれよう）か？ 一体地獄の中にある者を、あなたが救い出せるというのか？

20. しかし自分たちの主^{しゅ}*を畏^{おそ}れた*者たち、彼らには（天国で）高き住まいがある。その上には、（幾重^{いくえ}にも重^{かさ}なって）建てられた高き住まいがあり、その下からは河川^{かせん}が流れているのだ。（アッラー*はそれを、実現する）アッラー*のお約束（として、約束された）。アッラー*はそのお約束を、破^{やぶ}り給^{たま}わない。

21. （使徒^{しと}*よ、）一体あなたはアッラー*が天から（雨）水をお降^{わか}らしになり、それを噴泉として（湧き出ることになる）大地にお入れになったのを、見ないのか？ それからかれは、それ（水）によって異なる色の作物を生育させるが、やがてそれは枯^かれてしまい、あなたはそれが黄色くなるのを目にする。それからかれは、それを木^きっ端微塵^{みじん}にしてしまうのだ。本当にそこにはまさしく、澄んだ理性の持ち主への教訓がある。

22. 一体、アッラー*がその胸^{むね}を服従^{ふくじゅう}（イスラーム*）へと広げられ、その主^{しゅ}*からの（お導きという）光の上にある者が、（そうでない者と同様）か？ その心がアッラー*の教訓^{めづわ}に対し、硬くなってしまった者たちに災いあれ。それらの者たちは、明らかな迷いの中にあるのだから。

أَفَمَنْ حَقَّ عَلَيْهِ كَلِمَةُ الْعَذَابِ أَفَأَنْتَ تُنقِذُ
مَنْ فِي النَّارِ ﴿١٩﴾

لِكِ الَّذِينَ اتَّخَذُوا لَهُمْ عُرْفًا مِنْ فَوْقِهِمْ عُرْفٌ
مَبْنِيَّةٌ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ وَعَدَ اللَّهُ
لَا يَخْلِفُ اللَّهُ الْمِيعَاتِ ﴿٢٠﴾

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ أَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَسَلَكَهُ
يَنْبِيعٌ فِي الْأَرْضِ ثُمَّ يُخْرِجُ بِهِ زَرْعًا مُخْتَلِفًا
أَلْوَنُهُ ثُمَّ يَهْبِجُ فَتَرْكُهُ مُضْطَرًّا ثُمَّ
يَجْعَلُهُ حُطَامًا إِنَّ فِي ذَلِكَ لَذِكْرًا
لِأُولِي الْأَلْبَابِ ﴿٢١﴾

أَفَمَنْ سَرَّحَ اللَّهُ صَدْرَهُ لِلْإِسْلَامِ فَهُوَ عَلَى
نُورٍ مِنْ رَبِّهِ قَوْلٌ لَلْقَسَمَةِ فُلُوبُهُمْ مَنْ ذَكَرَ
اللَّهُ أَوْلَيْكَ فِي ضَلَالٍ مُبِينٍ ﴿٢٢﴾

23. アッラー*は話の内で最高のもの、つまり(その内容が互いに)似通い、反復する¹啓典(クルアーン*)を下された。その主*を畏れる*者たちの皮膚はそれ²によって逆立ち、それから彼らの皮膚と心は、アッラー*の(占報の)想念へと和らぐ³。それは、かれがそれによって、かれがお望みの者を導かれるアッラー*のお導き。そして、アッラー*が(その不信仰と頑迷さゆえに)迷わせ給う者には、いかなる導き手もないのだ。

24. 一体、復活の日*、(自らの不信仰と迷いゆえ、地獄に放り込まれて)自分の顔で忘まわしい懲罰から自らを守る(はめになる)者が(、導かれて天国に入る者と同等)か? ⁴不正*者たちには、(こう)言われるのだ。「あなた方が(現世で)稼いでいたもの⁵(ゆえの罰)を味わえ」。

25. 彼ら以前の者たちも、(その使徒*たちを)嘘つき呼ばわりした。それで懲罰は、彼らが気付きもしない所から、彼らのもとに到来したのである。

اللَّهُ نَزَّلَ أَحْسَنَ الْحَدِيثِ كِتَابًا مُتَشَابِهًا
مَثَانِي نَقَّصِرُ مِنْهُ جُلُودُ الَّذِينَ يَخْشَوْنَ
رَبَّهُمْ ثُمَّ تَلِينُ جُلُودُهُمْ وَقُلُوبُهُمْ إِلَى
ذِكْرِ اللَّهِ ذَلِكَ هُدَى اللَّهِ يَهْدِي بِهِ مَنْ
يَشَاءُ وَمَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِنْ هَادٍ ﴿٣٩﴾

أَفَمَنْ يَتَّبِعْ بِوَجْهِهِ سُوءَ الْعَذَابِ يَوْمَ
الْقِيَامَةِ وَقِيلَ لِلظَّالِمِينَ ذُوقُوا مَا كُنْتُمْ
تَكْسِبُونَ ﴿٤٠﴾

كَذَّبَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ فَانْظُرْ أَفَآتَهُمُ الْعَذَابُ
مِنْ حَيْثُ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٤١﴾

1 「似通う」とは、各アーヤ*が、その美しさ、完璧さ、矛盾のなさにおいて、互いに似通っていること。また「反復する」とは、物語、法規定、証明、根拠などがくり返し出現し、かつ、どれだけ沢山読んでも飽(あ)きが来ることもなく、くり返し読まれるものであることを指す(ムヤッサル 461 頁参照)。

2 この「それ」とは、クルアーン*に含まれる警告のこと(前掲書、同頁参照)。

3 アッラー*の懲罰への恐怖ゆえに鳥肌が立つが、彼らの皮膚と心はその後、アッラー*の褒美への希望によって和らぐ(アッラーズィー5:450-451 参照)。戦利品*2、雷鳴章 28 も参照。

4 このアーヤ*の解釈には、「顔から逆様に地獄を引きずられる」「顔からそこに放り込まれる」「手を縛られた状態で、首に巨大な鱗(リン)の塊をつけられ、燃やされる」といった諸説がある(アル=バガウィー4:87 参照)。

5 これは、アッラー*に対する不服従のこと(ムヤッサル 461 頁参照)。

26. こうしてアッラー*は彼らに、現世の生活における屈辱を味わわせられた。そして来世の懲罰こそは、より甚大なのである。もし彼らが、(そのことを)知っていたならば。
27. われら*は確かに人々に対し、彼らが教訓を受けるようにと、このクルアーン*の中であらゆる譬えを挙げた。
28. 彼らが(アッラー*を)畏れる*ようにと、歪みのないアラビア語のクルアーン*として。
29. アッラー*は、互いに確執する複数の共同(所有)者がいる(奴隷*の)男と、一人の男(主人)に従順な(奴隷*の)男の譬えを挙げられた¹。一体、彼ら二人は譬えとして、同等だろうか？ アッラー*にこそ全ての称赞*あれ。いや、彼らの大半は知らないのである。
30. (使徒*よ、)実にあなたは死にゆく者であり、本当に彼らも死にゆく者たちなのだ。
31. それから本当にあなた方は復活の日*、あなた方の主*の御許で、議論し合(い、アッラー*はあなた方を正義によって裁き給)う。
32. アッラー*に対して嘘をつき、真実が自分のもとに到来した時に嘘呼ばわりした者よりも、ひどい不正*者があるうか？ 一体、地獄にこそ、不信仰者*たちの住まいがあるのではないか？

فَإِذَا قَهَّمُ اللَّهُ الْحَزَنَى فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَلَعَذَابُ
الْآخِرَةِ أَكْبَرُ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿٦٨﴾

وَلَقَدْ صَرَبْنَا لِلنَّاسِ فِي هَذَا الْقُرْآنِ مِنْ كُلِّ
مَثَلٍ لَعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ﴿٦٩﴾

قُرْآنًا عَرَبِيًّا غَيْرَ ذِي عِوَجٍ لَعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ ﴿٧٠﴾

صَرَبَ اللَّهُ مَثَلًا رَجُلًا فِيهِ شُرَكَاءُ مُتَشَبِّهُونَ
وَرَجُلًا سَلَمًا لِرَجُلٍ هَلْ يَسْتَوِيَانِ مَثَلًا
الْحَمْدُ لِلَّهِ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٧١﴾

إِنَّكَ مَيِّتٌ وَإِنَّهُمْ مَيِّتُونَ ﴿٧٢﴾

ثُمَّ إِنَّكُمْ يَوْمَ الْقِيَمَةِ عِنْدَ رَبِّكُمْ تَخْتَصِمُونَ ﴿٧٣﴾

* فَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ كَذَبَ عَلَى اللَّهِ
وَكَذَبَ بِالْصِّدْقِ إِذْ جَاءَهُ ۗ أَلَيْسَ فِي
جَهَنَّمَ مَثْوًى لِّلْكَافِرِينَ ﴿٧٤﴾

1 方針の違う複数の主人に仕えなければならず、彼ら全員を満足させようとして困惑する者が、困惑と疑念の中にあるシルク*の徒にたとえられ、方針が明白なただ一人の主人に仕える者が、安らぎと落ち着きの中にある信仰者にたとえられている(ムヤッサル 461 頁参照)。

33. 真実をもたらし、それを確証した者¹、それらの者たちこそは敬虔な^{けいけん}者^{*}たち。
34. 彼らには、その主^{しゅ}*の御許^{みもと}において、彼らの望むものがある。それは善を尽くす者²たちへの褒美^{ほうび}。
35. (それは) アッラー*が、彼らが(現世で)行った最悪のもの³を彼らのために帳消しにされ、彼らが(そこで)行っていた最善のもので、彼らにその褒美^{ほうび}をお報いになるからである。
36. 一体アッラー*だけで、その僕^{しもべ}(ムハンマド*の守護)には十分なのではないか？(使徒^{しと}*よ、)彼ら(シルク*の徒)は、かれ(アッラー*)以外の者たちによって、あなたを怖がらせる。アッラー*が迷わせ給う者^{こわ}には、いかなる導き手もないのだ。
37. そしてアッラー*がお導きになる者、彼にはいかなる迷わし手もない。一体アッラー*は偉力^{ゐりよく}ならびない*お方^{ほう}、報復^{ほうふく}の主ではないのか？
38. (使徒^{しと}*よ、)もしあなたが彼ら(シルク*の徒)に、「諸天と大地を作ったのは誰か？」と尋ねたならば、彼らはきっと(こ

وَالَّذِي جَاءَ بِالصِّدْقِ وَصَدَّقَ بِهِ
أُولَئِكَ هُمُ الْمُتَّقُونَ ﴿٣٣﴾

لَهُمْ مَا يَشَاءُونَ عِنْدَ رَبِّهِمْ ذَلِكَ جِزَاءُ
الْمُحْسِنِينَ ﴿٣٤﴾

يُكَفِّرُ اللَّهُ عَنْهُمْ أَسْوَأَ الَّذِي عَمِلُوا
وَيَجْزِيَهُمْ أَجْرَهُم بِأَحْسَنِ الَّذِي كَانُوا
يَعْمَلُونَ ﴿٣٥﴾

لَيْسَ اللَّهُ بِكَافٍ عَبْدَهُ وَيُخَوِّفُونَكَ
بِالَّذِينَ مِنْ دُونِهِ وَمَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَمَا
لَهُ مِنْ هَادٍ ﴿٣٦﴾

وَمَنْ يَهْدِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِنْ مُضِلٍّ لَيْسَ
اللَّهُ بِعَزِيزٍ ذِي انْتِقَامٍ ﴿٣٧﴾

وَلَيْن سَأَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
لَيَقُولُنَّ اللَّهُ قُلْ أَفَرَأَيْتُمْ مَا تَدْعُونَ مِنْ
دُونِ اللَّهِ إِنْ أَرَادَنِيَ اللَّهُ بِضُرٍّ هَلْ هُنَّ

1 これらの者たちの筆頭が預言者*であり、その信徒たちである(ムヤッサル 461 頁参照)。ほかに、「真実をもたらした」のはジブリール*で「それを確証した」のが預言者*であるとか、「真実」とはシャハーダ*の言葉で「それを確証した」のが預言者*である、といった解釈もある(イブン・カシール 7:99 参照)。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 罪が「最悪のもの」と表現されているのは、最悪の罪が放免(ほうめん)されるのであれば、それ以外のものは尚更である、という強調の意味。あるいは、彼ら「善を尽くす者たち」にとっては、小さな罪も最悪なものとして位置づけられていたことを表す(アル＝バイダーウィー 5:67 参照)。

う) 言ったであろう。「アッラー*である」。
 言ってやれ。「では试试看よ。あなた方はアッラー*をよそに、何を祈っているのか？ もしアッラー*が私に何らかの害をお望みになったら、一体それらはかれの（お望みになった）害を、除去してくれるというのか？ それとも、かれが私にご慈悲をお望みになったら、それらがかれのご慈悲を押し留める（ことが出来る）とでも？」言うのだ。「アッラー*だけで、私には十分。（何かを誰かに）委ねる者には、かれだけに（全てを）委ねさせよ*」。

39. （使徒*よ、）言え。「我が民よ、あなた方は自分たちのやり方で（出来る限りのことを）行うがよい。実に私も、（自分のやり方で）行おう。あなた方はやがて、（誰に罰が下るかを）知ることになるだろうから」。

40. （現世で）懲罰が訪れる者、かれ（アッラー*）はその者たちを辱しめられる。そして（来世では）彼らの上に、永劫の懲罰が降りかかるのだ。

41. （使徒*よ、）本当にわれら*はあなたに、人々への啓典（クルアーン*）を真理と共に下した。それで導かれた者は、自分自身のため（に導かれたの）であり、また迷った者は、自分を害するために迷うだけ。そしてあなたは、彼らに対する代理人などではない。

42. アッラー*は魂を、その死の折にお召しになる。また、その眠りにおいて死ななかったもの（魂）も。そしてかれは、死を決定されたものを（そのまま）留められ、別のものは定められた期限まで放たれ、そ

كَشِفْتُ صُرُوءَهُ أَوْ أَرَادَنِي بِرَحْمَةٍ هَلْ هُنَّ مُمَسِّكَتٌ رَحْمَتَهُ فَلَحَسَنِي اللَّهُ عَلَيْهِ يَتَوَكَّلُ الْمُتَوَكِّلُونَ ﴿٣٩﴾

فَلْيَقْوُوا عَمَلُوا عَلَى مَكَاتِبِكُمْ إِنِّي عَمِلٌ فَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ﴿٤٠﴾

مَنْ يَأْتِهِ عَذَابٌ يُخْزِيهِ وَيَحِلُّ عَلَيْهِ عَذَابٌ مُقِيمٌ ﴿٤١﴾

إِنَّا أَنْزَلْنَا عَلَيْكَ الْكِتَابَ لِلنَّاسِ بِالْحَقِّ فَمَنْ أَسْهَدْنِي فَلْيَنْفُسْهُ وَمَنْ صَلَّ فَإِنَّمَا يَضِلُّ عَلَيْهَا وَمَا أَنْتَ عَلَيْهِمْ بِوَكِيلٍ ﴿٤٢﴾

اللَّهُ يَتَوَفَّى الْأَنفُسَ حِينَ مَوْتِهَا وَالَّتِي لَمْ تَمُتْ فِي مَنَامِهَا فَيُمْسِكُ الَّتِي قَضَىٰ عَلَيْهَا الْمَوْتَ وَيُرْسِلُ الْأُخْرَىٰ إِلَىٰ أَجَلٍ مُّسَمًّى إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ

の肉体へとお戻しにな)る¹。本当にその中にはまさしく、熟考する民への御徴²があるのだ。

43. いや、彼らはアッラー*をよそに、執り成し手を設けたのか? (使徒*よ、) 言ってやれ。「一体、彼らは何一つ所有してもしなければ、(あなた方の崇拜*も) 弁えることがないというのに、(そうするの) か?」

44. 言うのだ。「アッラー*にこそ、全ての執り成しが属する³。かれにこそ、諸天と大地の王権は属するのだ。それから(復活の日*、) かれの御許にこそ、あなた方は戻されるのである」。

45. また、アッラー*だけ(を崇拜*すること)が言及されれば、来世を信じない者たちの心は嫌悪する。そしてかれ以外の者たち(への崇拜*)が言及されれば、どうであろうか、彼らは喜ぶのだ。

46. 言え。「諸天と大地の創成者*、不可視の世界*も現象界*もご存知のアッラー*よ、あなたは(復活の日*、) あなたの僕たちの間を、彼らが(あなたについて) 意見を異にしていたことにおいて、お裁きになります」。

47. もし、不正*を働いた者たち(シルク*の徒)に大地にあるもの全てと、それと一緒に(別の) 同様のものがあつたとしたら、復

يَتَفَكَّرُونَ ﴿٤٣﴾

أَمْ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ شُفَعَاءَ قُلْ أُولَئِكَ أَنْتُمْ أُولَا يَعْقِلُونَ ﴿٤٤﴾

قُلْ لِلَّهِ الشَّفَعَةُ جَمِيعًا اللَّهُ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ ثُمَّ إِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٤٥﴾

وَإِذَا دُكِرَ لِلَّهِ وَحْدَهُ آسَمَاءُ ذُنُوبٍ قُلُوبِ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ وَإِذَا دُكِرَ الَّذِينَ مِنْ دُونِهِ إِذَا هُمْ يَسْتَبْشِرُونَ ﴿٤٦﴾

قُلِ اللَّهُمَّ فَاطِرَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ عَلِمْتَ الْغَيْبِ وَالشَّهَادَةِ أَنْتَ تَحْكُمُ بَيْنَ عِبَادِكَ فِي مَا كَانُوا فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿٤٧﴾

وَلَوْ أَنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا مَا فِي الْأَرْضِ جَمِيعًا وَمِثْلَهُ مَعَهُ، لَافْتَدَوْا بِهِ مِنْ سُوءِ الْعَذَابِ يَوْمَ الْقِيَمَةِ وَبَدَا لَهُمْ مِنَ اللَّهِ مَا لَمْ يَكُونُوا

1 このアーヤ*の意味については、家畜章 60 とその訳注を参照。

2 この「御徴」は、アッラー*の御力を示す証拠のこと (ムヤッサル 463 頁参照)。

3 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

4 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

يَحْسِبُونَ ﴿١٧﴾

活の日、それで忌まわしい懲罰を償ったであろう（が、それは受け入れられないのだ）。そしてアッラー*の御許から、彼らに、自分たちが（現世で）予想もしなかったことが出現する。

48. また、彼らには（その日、現世で）自分たちが稼いだ悪（の報い）が現れる。そして自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包囲するのである。

49. また人間は、害悪が降りかかれば、われら*に（その除去を）祈る。それからわれら*が、われら*のもとからの恩恵を彼に恵んでやれば、（こう）言うのだ。「私は本当に、自分にある知識ゆえに、これを授けられたのだ¹」。いや、それは試練²である。しかし彼らの大半は、（そのことを）知らない。

50. 彼ら以前の（不信仰）者*たちも確かに、そう言ったのだ。そして彼らが稼いでいたもの³は、（懲罰が訪れた時、）彼らを益すことがなかったのである。

51. こうして彼らに、彼らが稼いだ悪（の罰）が襲いかかったのだ。そしてそれらの者（マッカ*の民）の内、不正*を働いた者たちには、自分たちが稼いだ悪が襲いかかるだろう。そして彼らは、（アッラー*から）逃れられる者などではない。

وَيَذَّأَلَهُمْ سَيِّئَاتُ مَا كَسَبُوا وَحَاقَ بِهِمْ
مَا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِءُونَ ﴿١٨﴾

فَإِذَا مَسَّ الْإِنْسَانَ ضُرٌّ دَعَا نَحْمَهُ إِذَا حَوَّلْنَاهُ
نِعْمَةً مِنَّا قَالَ إِنَّمَا أُوتِيتُهُ عَلَىٰ عِلْمٍ مُّلْكِي
فِتْنَةً وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٩﴾

فَدَقَّأَلَهَا الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ فَمَا أَغْنَىٰ عَنْهُمْ
مَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿٢٠﴾

فَأَصَابَهُمْ سَيِّئَاتُ مَا كَسَبُوا وَالَّذِينَ
ظَلَمُوا مِنْ هَٰؤُلَاءِ سَيُصِيبُهُمْ سَيِّئَاتُ
مَا كَسَبُوا وَهَٰهُمْ بِمُعْجِزِينَ ﴿٢١﴾

1 この意味については、物語章 78 の訳注を参照。

2 恩恵に対して感謝深い者と、恩知らずな者を差別する「試練」のこと（ムヤッサル 464 頁参照）。

3 財産や子供などのこと（前掲書、同頁参照）。

52. 一体、彼らはアッラー*がその僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられることを知らなかったのか？¹ 本当にその中にはまさしく、信仰する民への御徴がある。

53. (使徒*よ、われがこう言っている、と言え。)² 「自分自身に対し、(罪という重荷を) 背負いに背負った、わが僕たちよ。アッラー*のご慈悲に絶望するのではない。本当にアッラー*は、罪を全てお赦しになるのだから。本当にかれこそは、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだぞ。²

54. また、あなた方に懲罰が訪れる前に、あなた方³の主*に(悔悟して) 立ち返り、かれに服従(イスラーム*)⁴ せよ。(懲罰が訪れたら、あなた方は罰され、) そこから助けられることはなくなってしまうのだ。

55. そして、あなた方が気付かぬまま、懲罰があなた方のもとに突然やってくる前に、あなた方⁵の主*から自分たちに下された最善のもの(クルアーン*)⁶ に従え。

56. 人が、『ああ、私が(現世で)、アッラー*のことに於いていい加減だったことゆえの、我が悲痛よ！ 私はまさしく、嘲笑者³の類いだったのだ』と言うようにならないために。

أَوَلَمْ يَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ وَيَقْدِرُ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٥٢﴾

* قُلْ يٰعِبَادِيَ الَّذِينَ آمَنُوا عَلَىٰ أَنْفُسِهِمْ لَا تَقْنَطُوا مِنْ رَّحْمَةِ اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ يَغْفِرُ الذُّنُوبَ جَمِيعًا إِنَّهُ هُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ﴿٥٣﴾

وَأَنِيبُوا إِلَىٰ رَبِّكُمْ وَأَسْلُمُوا لَهُ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَكُمُ الْعَذَابُ ثُمَّ لَا تُصْرَفُونَ ﴿٥٤﴾

وَأَنِيبُوا أَحْسَنَ مِمَّا أُنْزِلَ إِلَيْكُمْ مِنْ رَبِّكُمْ قَبْلَ أَنْ يَأْتِيَكُمُ الْعَذَابُ بَغْثَةً وَأَنْتُمْ لَا تَشْعُرُونَ ﴿٥٥﴾

أَنْ تَقُولَ نَفْسٌ يٰحَسْرَتَىٰ عَلَىٰ مَا فَرَّطْتُ فِي جَنْبِ اللَّهِ وَإِنْ كُنْتُ لَمِنَ السَّخِرِينَ ﴿٥٦﴾

1 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 とその訳注も参照。

2 このアーヤ*は、殺人や姦通などを散々犯した挙げ句、預言者*のもとにやって来て「あなたが語り、招いているものは素晴らしい。私たちが犯したことへの償(つぐな)いについて、教えて下さい。」と尋ねた、シルク*の徒らに関して下ったものとされる(アループハーリー 4810 参照)。

3 アッラー、クルアーン、使徒、信仰者たちを「嘲笑」する者のこと(ムヤッサル 464 頁参照)。

57. または、『アッラー*が私のことを導いて下さっていたら、私は敬虔な*者たちの仲間となっていたのに』とか、
58. あるいは（復活の日*）、懲罰を目の当たりにする際に、『もし、私に（現世へと）戻ることが出来て、善を尽くす者たちの一人となることが出来たなら』とか、言わないようにするために。
59. いや、（真理を示す）わが御徴は確かに、あなたのもとに到来したのだ。そしてあなたはそれを嘘呼ばわりし、（その受容に対し）高慢で、不信仰者*の一人だったのだ」。
60. 復活の日*、あなたはアッラー*に対して嘘をついた者²たちの顔が黒ずむ³のを見る。一体、地獄にこそ、（アッラー*に対して）高慢だった者たちの住まいがあるのではないか？
61. そしてアッラー*は敬虔*だった者たちを、その勝利によって（地獄から）お救いになる。彼らには忌まわしいことが降りかかることもないし、（現世でやり残したことにについて）悲しむこともない。
62. アッラー*は全てのものの創造主で、かれは全てのことを請け負われる*お方であられる。

أَوْ تَقُولَ لَوْ أَنَّ اللَّهَ هَدَانِي لَكُنْتُ مِنَ الْمُتَّقِينَ ﴿٥٧﴾

أَوْ تَقُولَ حِينَ تَرَى الْعَذَابَ لَوْ أَنَّ لِي كَرَّةً فَأَكُونَ مِنَ الْمُحْسِنِينَ ﴿٥٨﴾

بَلَىٰ قَدْ جَاءَ نَكَالَ الْبَاقِيَ فَكَذَّبَتْ بِهَا وَأَسْكَرَتْ وَكُنْتَ مِنَ الْكَافِرِينَ ﴿٥٩﴾

وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ تَرَى الَّذِينَ كَذَبُوا عَلَى اللَّهِ وُجُوهُهُم مُّسْوَدَّةٌ أَلَيْسَ فِي جَهَنَّمَ مَثْوًى لِّلْمُتَكَبِّرِينَ ﴿٦٠﴾

وَيَسْجَىٰ اللَّهُ الَّذِينَ اتَّقَوْا بِمَفَازٍ لَهُمْ لَمْ يَكُن لَّهُمُ شَأْنٌ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٦١﴾

اللَّهُ خَالِقُ كُلِّ شَيْءٍ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ وَكِيلٌ ﴿٦٢﴾

1 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

2 アッラー*にとってふさわしくないことを言ったり、シルク*を犯していたりした者のこと（ムヤッサル 465 頁参照）。

3 「顔が黒ずむ」ことに関しては、イムラーン家章 106 の訳注を参照。

63. かれにこそ、諸天と大地の（宝庫の）鍵は属するのだ。そしてアッラー*の御徴を否定する者たち、それらの者たちこそは損失者である。
64. （使徒*よ、）言ってやれ。「あなた方は、私がアッラー*以外のものを崇めるよう命じるのか？ 無知な者たちよ」。
65. （使徒*よ、）あなたと、あなた以前の者（使徒*）たちには、確かに（こう）啓示されたのである。「もしもあなたがシルク*を犯したならば、あなたの行いは必ずや台無しとなるのであり、あなたは必ずや損失者の類いとなるのだ」。
66. いや、（預言者*よ、）あなたはアッラー*をこそ崇拝*せよ。そして（アッラー*の恩恵に）感謝深い者の一人となるのだ。
67. 彼ら（シルク*の徒）は、アッラー*を真に敬わなかった。そして復活の日*、大地は全てかれの一個みの中にあり、諸天はかれの右手で折りたたまれた状態となる¹。アッラー*に称え*あれ、かれは彼らの言うようなこと（シルク*）から（無縁で）、遥か高遠なお方であられる。
68. そして角笛に吹き込まれ²、諸天にいる者と大地にいる者は（皆）、アッラー*がお望みになった者³以外、卒倒（して死亡）する。それから、そこ（角笛）にもう一回

لَهُ مَقَالِيدُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِ اللَّهِ أُولَٰئِكَ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿٣٩﴾

قُلْ أَفَعَبَدَ اللَّهُ مَا مَرُوتَ أَغْبُدُ أَيُّهَا الْجَاهِلُونَ ﴿٤٠﴾

وَلَقَدْ أَوْحَىٰ إِلَيْكَ وَإِلَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِكَ لَئِنْ أَشْرَكْتَ لَيَحْبَطَنَّ عَمَلُكَ وَلَتَكُونَنَّ مِنَ الْخَاسِرِينَ ﴿٤١﴾

بَلِ اللَّهِ فاعْبُدْ وَكُنْ مِنَ الشَّاكِرِينَ ﴿٤٢﴾

وَمَا قَدَرُوا اللَّهَ حَقَّ قَدْرِهِ وَالْأَرْضُ جَمِيعًا قَبْضَتُهُ يَوْمَ الْقِيَمَةِ وَالسَّمَوَاتُ مَطْوِيَّاتٌ بِيَمِينِهِ سُبْحَنَهُ وَعَلَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٤٣﴾

وَنُفِخَ فِي الصُّورِ فَصَبَقَ مَنْ فِي السَّمَوَاتِ وَمَنْ فِي الْأَرْضِ إِلَّا مَنْ شَاءَ اللَّهُ تَوُفِّعَ فِيهِ أُخْرَىٰ فَإِذَا هُمْ قِيَامٌ يَنْظُرُونَ ﴿٤٤﴾

1 同様のアーヤ*として、預言者*たち章 104 も参照。

2 これは一回目の吹き込みのこと（ムヤッサル 466 頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

3 これが誰のことであるかという解釈には、「殉教者たち」「ジブリール*などの一部の天使*たち」「それ以前に既に死んでしまった者たち」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー 15:279-280 参照）。

吹き込まれると、どうであろう、彼らは立ち上がって（自分たちの処遇）を見守る者たちとなる。

69. また、大地はその主*の御光によって輝き、帳簿が置かれ¹、預言者*たちと証人たちが連れて来られる²。そして不正*を受けることなく、彼らの間が真理によって裁かれるのだ。

70. また全ての者は、自分が行ったこと（報い）を全うされる。かれ（アッラー*）は、彼らが（現世で）することを、最もよくご存知なのだ。

71. そして不信仰だった者*たちは、集団で地獄に引き連れて来られる。やがて彼らがそこにやって来ると、その門が開けられ、門番は言う。「一体あなたの方のもとには、あなた方に自分たちの主*の御徴を誦読し、この日の拜謁を警告する、あなた方の内からの使徒*たちは訪れなかったのか？」彼らは言う。「ええ（、確かに訪れました）」。しかし懲罰の御言葉³が、不信仰者*たちには確定したのだ。

72. （不信仰者*たちには、こう）言われる。「あなた方は、地獄の門に入れ。そこに永遠に。（信仰に対して）高慢な者たちの住まいは、何と醜悪なことか」。

وَأَشْرَقَتِ الْأَرْضُ بِنُورِ رَبِّهَا وَوُضِعَ
الْكِتَابُ وَجَاءَتْ بِالْأَنْبِيَاءِ وَالشَّهَدَاءِ
وَفُضِيَ بَيْنَهُم بِالْحَقِّ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ﴿٦٩﴾

وَوُفِّيَتْ كُلُّ نَفْسٍ مَّا عَمِلَتْ وَهُوَ أَعْلَمُ بِمَا
يَفْعَلُونَ ﴿٧٠﴾

وَسِيقَ الَّذِينَ كَفَرُوا إِلَىٰ جَهَنَّمَ رُمًّا
حَتَّىٰ إِذَا جَاءَهُمْ فَتَحَتْ أَبْوَابُهَا وَقَالَ
لَهُمْ حَزَنَتُنَا أَلَمْ يَأْتِكُمْ رُسُلٌ مِّنكُمْ يَتْلُونَ
عَلَيْكُمْ آيَاتِ رَبِّكُمْ وَيُنذِرُونَكُمْ لِقَاءَ
يَوْمِكُمْ هَذَا قَالُوا بَلَىٰ وَلَٰكِنْ حَقَّتْ كَلِمَةُ
الْعَذَابِ عَلَى الْكَافِرِينَ ﴿٧١﴾

فَبَلِّغْ أَدْحُلُوا الْبَابَ جَهَنَّمَ خَالِدِينَ فِيهَا
فَبِئْسَ مَثْوًى لِّلْمُتَكَبِّرِينَ ﴿٧٢﴾

1 天使*たちによって、各人の行いの帳簿が広げられる（ムヤッサル 466 頁参照）。高壁章 8 の訳注と、洞窟章 49 も参照。

2 雌牛章 143、婦人章 41 とその訳注も参照。

3 この「御言葉」とは一説に、アッ=サジダ*章 13 にある言葉（アル=クルトゥビー-15:284 参照）。

73. また、自分たちの主^{しゅ}*を畏れ^{おそ}*た者たちは、集団で天国へと引き連れて来られる。やがて彼らがそこにやって来ると、その門が開けられ、門番は彼らに言う。「あなた方に平安を¹。あなた方は、素晴らしい状態となった²。ならば、永遠にそこに入るがよい」。

74. そして、彼ら（信仰者たち）は言う。「そのお約束を私たちに実現され、私たちに（天国の）地を引き継^つがせて下さった³お方に、全ての称賛^{しょうさん}*あれ。私たちは天国で望む所に住むことができます。（アッラー*への服従^{ふくじゆう}に）勤しむ者たちの褒美^{ほうび}は、何と素晴^{すば}らしいことでしょう」。

75. また（預言者^{よげんしゃ}*よ、）あなたは天使^{てんし}*たちが、その主^{しゅ}*の称賛^{しょうさん}*と共に（かれを^た）称え^{たた}*ながら、御座^{みくら}⁴のまわりを囲むのを見る。そして彼らの間は真理によって裁かれ、（こう）言われるのだ。「全創造物^{そうぞう}の主^{しゅ}*アッラー*に、全ての称賛^{しょうさん}*あれ」。⁵

وَسِيقَ الَّذِينَ اتَّقَوْا رَبَّهُمْ إِلَى الْجَنَّةِ زُمَرًا
حَتَّىٰ إِذَا جَاءَهُمْ وَفُتِحَتْ أَبْوَابُهَا وَقَالَ
لَهُمْ خَزَنَتُهَا سَلِّمُوا عَلَيْكُمْ رَبِّكُمْ
فَادْخُلُوهَا خَالِدِينَ ﴿٧٣﴾

وَقَالُوا الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي صَدَقَنَا وَعْدَهُ
وَأَوْثَقَنَا الْأَرْضَ نَبْشُؤْمِنَ الْجَنَّةِ
حَيْثُ نَشَاءُ فَنِعْمَ أَجْرُ الْعَامِلِينَ ﴿٧٤﴾

وَنَرَى الْمَلَائِكَةَ حَافِينَ مِنْ حَوْلِ الْعَرْشِ
يُسَبِّحُونَ بِحَمْدِ رَبِّهِمْ وَقُضِيَ بَيْنَهُمُ بِالْحَقِّ
وَقِيلَ الْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٧٥﴾

1 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注も参照。

2 現世における行いと言葉、努力が素晴らしいものだったため、その報いも素晴らしいものとなった（イブン・カシール 7:122 参照）。

3 「天国の地を引き継がせる」という表現については、マルヤム*章 63 の訳注を参照。

4 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

5 その裁決と公正さについて、全創造物がかれを称賛する（イブン・カシール 7:125 参照）。

第40章
 赦し深いお方章（ガーフィル）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム²。
2. （このクルアーン*は、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*からの、啓典の降示。
3. 罪をお赦しになり、悔悟をお受け入れになり、懲罰が厳しく、豊潤さの主である（アッラー*からの降示）。かれ以外に、崇拜*すべきいかなるものもない。かれにこそ、（復活の日*における、全創造の）行き先はある。
4. 不信仰に陥った者*たち以外、アッラー*の御徴³に（盾ついて）議論したりはしない。ならば（使徒*よ）、不信仰者*らが（商売や現世での享楽に）勤しんでいるのに、惑わされてはならない。
5. 彼ら以前にも、ヌーフ*の民とその後の徒党が、（使徒*たちを）嘘つき呼ばわりしたのだ。そして（それら）全ての共同体は、その使徒*を捕らえ（て殺害し）ようと意図し、真理を消し去るべく虚妄によって議論し

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حم

نَزِيلُ الْكِتَابِ مِنَ اللَّهِ الْعَزِيزِ الْعَلِيمِ

غَافِرِ الذَّنْبِ وَقَابِلِ التَّوْبِ شَدِيدِ الْعِقَابِ ذِي

الطُّولِ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ إِلَهٌ الْمَصْدُورِ

مَا يُجَادِلُ فِي آيَاتِ اللَّهِ إِلَّا الَّذِينَ كَفَرُوا فَلَا

يَعْزُوكَ ثَقُلَتْهُمُ فِي يَدَيْهِ

كَذَّبَتْ قَبْلَهُمْ قَوْمُ نُوحٍ وَالْأَحْزَابُ مِنْ

بَعْدِهِمْ وَهَمَّتْ كُلُّ أُمَّةٍ بِرَسُولِهِمْ

أِيَّاءُ حُدُوهُ وَجَدُوا يُأَيِّدُ بَطْلَانَهُمْ

بِهِ الْحَقُّ فَأَخَذْنَاهُمْ فَكَيْفَ كَانَ عِقَابِ

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に登場する「赦し深いお方（ガーフィル）」という語によるが、「信仰者章」などの別称もあり。マッカ*啓示の常であるように、アッラー*への信仰・来世といった基本的信仰が取り上げられ、真理と迷妄、信仰と不信仰に関する議論が一貫して描かれている。ムーサー*とフィルアウン*、フィルアウン*の民の中で信仰した者の話も、その流れで取り上げられたもの。また、アッラー*の御力と唯一性*を示す宇宙の神秘も、随所で描写されている。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」参照。

3 この「御徴」はクルアーン*や、アッラー*の唯一性*の証拠のこと（ムヤッサル 467 頁参照）。

た。それでわれら*は、彼らを（懲罰）^{ちようばつ}
捕らえたのだ。わが懲罰は、いかなるもの
だったか？

6. 同様に不信仰に陥った者*たちには、彼ら
は業火の住人であるという、あなたの主*
の御言葉が確定したのである。

7. 御座を運ぶ者たちと、その周りにいる者^{みくら}
は、彼らの主*の称赞*と共に（かれを）称
え*、かれを信じる。そして、信仰する者た
ちのために（こう言って）赦しを乞う。「我
らが主*よ、あなたは全てのものを、慈悲と
知識で網羅されました。ですから、悔悟し、
あなたの道（イスラーム*）に従った者た
ちをお赦しになり、彼らを火獄の懲罰から
お守り下さい。

8. 我らが主*よ、そして彼らを、あなたが彼ら
にお約束になった永久の樂園にお入れ下
さい。また、彼らの父祖、妻、子孫たちの
内、正しかった者*を。本当にあなたこそは、
偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方
なのですから。

9. また、彼らを悪（の結末）から、お守り下
さい。あなたが（復活の）その日、悪から
お守りになる者こそは、あなたが確かにご
慈悲をかけられた者。それこそは、偉大な
勝利です」。

10. 本当に不信仰に陥った者*たちには、（地
獄の番人から、こう）呼びかけられる。「（現
世で）あなた方が信仰へと呼びかけられ、

وَكَذَلِكَ حَقَّتْ كَلِمَتُ رَبِّكَ عَلَى الَّذِينَ
كَفَرُوا أَنَّهُمْ أَصْحَابُ النَّارِ ﴿٥١﴾

الَّذِينَ يَحْمِلُونَ الْعَرْشَ وَمَنْ حَوْلَهُ يُسَبِّحُونَ
بِحَمْدِ رَبِّهِمْ وَيُؤْمِنُونَ بِهِ وَيَسْتَغْفِرُونَ
لِلَّذِينَ آمَنُوا رَبَّنَا وَسِعْتَ كُلَّ شَيْءٍ
رَّحْمَةً وَعِلْمًا فَاغْفِرْ لِلَّذِينَ تَابُوا وَاتَّبَعُوا
سَبِيلَكَ وَفِيهِمْ عَذَابٌ الْجَحِيمِ ﴿٥٢﴾

رَبَّنَا وَأَدْخِلْهُمْ جَنَّاتٍ عَدْنٍ الَّتِي وَعَدْتَهُمْ
وَمَنْ صَلَحَ مِنْ آبَائِهِمْ وَأَرْوَاجِهِمْ
وَذُرِّيَّتِهِمْ إِنَّكَ أَنْتَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٥٣﴾

وَفِيهِمُ السَّيِّئَاتِ وَمَنْ تَقَى السَّيِّئَاتِ
يَوْمَئِذٍ فَقَدْ رَحِمْنَاهُ وَذَلِكَ هُوَ الْفَوْزُ
الْعَظِيمُ ﴿٥٤﴾

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا يُنَادُونَ لَمَقْتُ اللَّهُ
أَنْتَ بِرَبِّكَ مِنْ مَقْتِ كَرِهُتُمْ أَنْ تُدْعَوْ
إِلَى الْإِيمَانِ فَتَكْفُرُوا ﴿٥٥﴾

1 いずれも天使*たちのこと（ムヤッサル 467 頁参照）。「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

それを否定していた時の（あなた方に対する）アッラー*の憎悪こそは、（今の）あなた方の自分自身に対する憎悪よりも、大きかったのだぞ」。¹

11. 彼ら（不信仰者*たち）は言う。「我らが主*よ、あなたは私たちに二度、死を与えられ、二度、生を与えられました²。そして私たちは（今）、自分たちの罪を認めました。ですので、（私たちが地獄から）出る術はありますでしょうか？」³

12. （不信仰者*たちよ、）それ（地獄の懲罰）はあなた方が、アッラー*だけが呼ばれた時⁴には否定し、かれに同位者が並べられれば信じていたからなのだ。（全ての）裁決は、至高で*大いなる*アッラーにこそ属する。

13. （人々よ、）かれはあなた方に（、創造の完全さを示す）その御徹をお見せになり、天からあなた方に糧を下されるお方。そして、よく（悔悟して）立ち返る者以外、教訓を受けることはない。

قَالُوا رَبَّنَا أَمَتْنَا الْفِتْنِينَ وَأَحْيَيْتَنَا الْفِتْنِينَ
فَاعْرِفْنَا بِذُنُوبِنَا فَهَلْ إِلَى خُرُوجٍ مِنْ سَبِيلٍ ﴿١١﴾

ذَلِكَ بِأَنَّهُ إِذَا دُعِيَ اللَّهُ وَحْدَهُ،
كَفَرْتُمْ وَإِنْ يُسْرَكْ بِهِ تُؤْمِنُوا
فَالْحُكْمُ لِلَّهِ الْعَلِيِّ الْكَبِيرِ ﴿١٢﴾

هُوَ الَّذِي يُرِيكُمْ آيَاتِهِ وَيُنَزِّلُ لَكُمْ مِنَ السَّمَاءِ رِزْقًا وَمَا يَتَذَكَّرُ إِلَّا مَنْ يُنِيبُ ﴿١٣﴾

- 1 不信仰者*たちはいざ地獄を目にすると、自分自身をこれ以上ないほど、激しく憎悪する。しかし現世で不信仰に固執（こじつ）していた彼らに対するアッラー*の憎悪こそは、それよりも激しい憎悪だったのである（ムヤッサル 468 頁参照）。
- 2 一度目の「死」は、魂を吹き込まれる前の精液だった状態で、二度目の「死」は、現世での人生の終わり。また一度目の「生」は現世での誕生、二度目の「生」は死後の復活のこと（前掲書、同頁参照）。
- 3 もちろん、現世に戻ることは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ=サジダ*章 12、創成者*章 37、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。
- 4 アッラーの唯一性*と、かれのみゆえの善行へと招かれた時、ということ（前掲書、同頁参照）。

14. だから、アッラー*だけに真摯^{しんし}に崇拜^{かうはい}*行為^{ぎゐ}を捧げつつ^{すうは}、祈^{いの}(り、崇拜^{かうはい}*す)るのだ。たとえ不信仰者^{ふしやうしや}*たちが、(それを)嫌^{きら}ったとしても。

15. (アッラー*は)位^{くら}高^{かい}きお方^{ほう}、御座^{みくら}^{ぬし}^{しるべ}の主^{ぬし}、かれは会合^{かいごう}の日^ひ³を警告^{けいこく}するため、その僕たちの内からお望^{のぞ}みの者に、そのご命令^{めいれい}によって魂^{たましい}⁴を投げかけられる。

16. 彼ら^あが露^{あら}わな者^{もの}たち⁵となる、その日を(警告^{けいこく}するため)。彼らの(状態^{じたい}や行い^いの)内、アッラー*から隠^{かく}れられるものなど、何一つない。(アッラー*は仰^{おほ}せられる。)
「今日^{けふ}、王権^{おうけん}は誰^{たれ}のものか？」(かれは、自^{みづか}らお答えになる。)
「唯一^{くんにん}*かつ君臨^{きんりん}し給^{たま}う*アッラー*にこそ、属^{ぞく}するのだ⁶」。

17. この日^ひ全ての者は、自^{みづか}らが(現世^{げんせい}で)稼^{かせ}いだものによって報^{むく}われる。この日、不正^{ふせい}*はない⁷。本^{ほん}当^{とう}にアッラー*は即座^{そくざ}に計算^{けいさん}される*お方^{ほう}なのだから。

18. (使徒^{しと}*よ、)心臓^{しんざう}が(恐怖^{こふ}ゆえに)喉元^{のどもと}にまで達^たし、沈鬱^{ちんうつ}になる、間近^{かんじん}な日^ひ⁸のことを彼らに警告^{けいこく}せよ。不正^{ふせい}*者^{もの}たちには近^きしい友

فَادْعُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ وَلَوْ كَرِهَ الْكَافِرُونَ ﴿١٤﴾

رَفِيعَ الدَّرَجَاتِ ذُو الْعَرْشِ يُلْقِي الرُّوحَ مِنْ أَمْرِهِ عَلَى مَنْ يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ لِيُنْذِرَ يَوْمَ التَّلَاقِ ﴿١٥﴾

يَوْمَهُمْ يَنْبُرُونَ لَا يَخْفَى عَلَى اللَّهِ مِنْهُمْ شَيْءٌ لِمَنِ الْمُلْكُ الْيَوْمَ لِلَّهِ الْوَاحِدِ الْقَهَّارِ ﴿١٦﴾

الْيَوْمَ نُخْرِجُ كُلَّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ لَا ظُلْمَ الْيَوْمَ إِنَّ اللَّهَ سَرِيعُ الْحِسَابِ ﴿١٧﴾

وَأَنْذِرْهُمْ يَوْمَ الْآزِفَةِ إِذِ الْقُلُوبُ لَدَى الْحَنَاجِرِ كَظِيمٍ مَا لِلظَّالِمِينَ مِنْ حَمِيمٍ وَلَا سَمِيعٌ بِطَآءِ ﴿١٨﴾

1 「アッラー*だけに真摯に崇拜*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

2 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

3 先代と後代の者が一同に会する、復活の日*のこと (ムヤッサル 468 頁参照)。

4 この「魂」とは、啓示のこと。肉体が魂によって生を受けるように、心は啓示によって生を受けるため (アル=バガウィー 4:108 参照)。

5 その日、彼らを覆い隠すものは、何一つない (イブン・カシール 7:136 参照)。家畜章 94 とその訳注、洞窟章 48、預言者*たち章 104 も参照。

6 家畜章 73 「かれにこそ王権は属する」の訳注も参照。

7 つまり悪行が不当に付け加えられたり、善行が差し引かれたりすることはない (アッ=サーアディー 735 頁参照)。

8 「間近な日」とは、復活の日*のこと。その「近さ」については蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注を参照。

人もいなければ、受け入れられる執り成し手もない¹。

19. かれは眼が掠め取るもの²も、胸が潜める（善いものも悪い）ものもご存知である。

20. アッラー*が真理³で（人々の間を）裁かれるのであり、彼らがかれをよそに祈っている者たちは、何も裁きはしない。本当にアッラー*こそは、よきお聞きになるお方、よくご覧になるお方なのだから。

21. 彼らは地上を旅し、（預言者*たちを嘘つき呼ばわりした）彼ら以前の者たちの結末が、どのようなものであったかを見なかったのか？ 彼ら（以前の者たち）は、彼らよりも力と、大地の建設において強力だった。そしてアッラー*は彼らを、その罪ゆえに（懲罰で）捕らえられ、彼らにはアッラー*（の懲罰）に対してのいかなる守護者もなかったのである。

22. それは彼らが、自分たちの使徒*が明証を携えて彼らのもとに到来していたのに、不信仰に陥ったからである。それでアッラー*は、彼らを（懲罰で）捕らえられたのだ。本当にかれは強いお方、厳しく懲罰されるお方であられる。

23. われら*はムーサー*を確かに、われら*の御徴⁴と紛れもない証拠⁵と共に遣わした。

يَعْلَمُ خَائِبَةَ الْأَعْيُنِ وَمَا تُخْفِي الصُّدُورُ ﴿١٩﴾

وَاللَّهُ يَقْضِي بِالْحَقِّ وَالَّذِينَ يَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ لَا يَقْضُونَ بِشَيْءٍ إِنَّ اللَّهَ هُوَ السَّمِيعُ الْبَصِيرُ ﴿٢٠﴾

*أُولَئِكَ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ كَانُوا مِنْ قَبْلِهِمْ كَانُوا هُمْ أَشَدَّ مِنْهُمْ قُوَّةً وَآثَارًا فِي الْأَرْضِ فَأَخَذَهُمُ اللَّهُ بِذُنُوبِهِمْ وَمَا كَانَ لَهُمْ مِنْ اللَّهِ مِنْ وَاكِ ﴿٢١﴾

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ كَانَتْ تَأْتِيهِمْ رُسُلُهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ فَكَفَرُوا فَأَخَذَهُمُ اللَّهُ إِنَّهُ قَوِيٌّ شَدِيدُ الْعِقَابِ ﴿٢٢﴾

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا مُوسَىٰ بِآيَاتِنَا وَسُلْطَانٍ مُبِينٍ ﴿٢٣﴾

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 見ることを許されないものを、こっそり見る（アッ=シャウカーニー4:638 参照）。

3 この「真理」とは、公正さのこと（ムヤッサル 469 頁参照）。

4 この「御徴」とは、啓示の真实性を証明するもの（前掲書、同頁参照）。夜の旅章 101 「九つの御徴」の訳注も参照（アル=クルトゥビー15:304 参照）。

5 「紛れもない証拠」については、フード*章 96 の訳注を参照。

24. フィルアウン*とハーマーンとカールーン¹へと。すると彼らは言った。「(彼は) 大嘘^{うそ}つきの魔術師^{まじゅつ}だ」。
25. そして彼(ムーサー*)がわれら*のもとから、真理^{たしき}を携えて彼らのもとにやって来た時、彼ら(フィルアウン*たち)は言った。「彼と共に信じた者たちの男児を殺し、その女兒は生かしておけ²」。不信仰者*たちの策謀^{さくぼう}は、無に帰すのである。
26. フィルアウン*は、(自分の民の有力者たちに) 言った。「私にムーサー*を殺させ、彼を自分の主*に祈^{いの}らせてみよ。本当に私は、彼があなた方の宗教^{しゅうきやう}を変えてしまったり、地上(エジプト)に腐敗*を出現させたりすることを怖^{おそ}れているのだ」。
27. ムーサー*は言った。「実に私は、我が主*とあなた方の主*に、清算の日を信じないあらゆる高慢^{かうまん}な者からのご加護^{かご}を乞いました」。
28. フィルアウン*の一族の内、その信仰を隠していた信仰者の男は、言った。「一体あなた方は一人の男を、『我が主*はアッラー*です』と言う(だけ) ゆえに、殺すというのですか? 彼(ムーサー*)はあなた方の主*から、明証^{めいしやう}⁴を携えてあなた

إِلَىٰ قِرْعَوْنَ وَهَمَرَ ۖ وَقَرُّونَ فَقَالُوا
سَجْرٌ كَذَّابٌ ﴿٢٤﴾

فَلَمَّا جَاءَهُمْ بِالْحَقِّ مِنْ عِنْدِنَا قَالُوا
أَقْسَلُوا أَبْنَاءَ الَّذِينَ ءَامَنُوا مَعَهُ
وَاسْتَحَبُّوا نِسَاءَهُمْ وَمَا كَيْدُ
الْكَافِرِينَ إِلَّا فِي ضَلَالٍ ﴿٢٥﴾

وَقَالَ قِرْعَوْنُ دُرُودُنِي أَقْتُلْ مُوسَىٰ وَلْيَدْعُ
رَبَّهُ ۚ إِنِّي أَخَافُ أَنْ يُبَدِّلَ دِينَكُمْ أَوْ أَنْ
يُظْهِرَ فِي الْأَرْضِ الْفَسَادَ ﴿٢٦﴾

وَقَالَ مُوسَىٰ إِنِّي عُذْتُ بِرَبِّي وَرَبِّكُمْ مِنْ كُلِّ
مُتَكَبِّرٍ لَا يُؤْمِنُ بِيَوْمِ الْحِسَابِ ﴿٢٧﴾

وَقَالَ رَجُلٌ مُؤْمِنٌ مِنْ آلِ قِرْعَوْنَ
يَكْتُمُ إِيمَانَهُ أَتَقْتُلُونَ رَجُلًا أَنْ يَقُولَ
رَبِّيَ اللَّهُ وَقَدْ جَاءَكُمْ بِالْبَيِّنَاتِ مِنْ
رَبِّكُمْ ۖ وَإِنَّكَ كَذَّابٌ بَاطِلٌ ۖ كَذِبُهُ
وَإِنَّ بِكَ صَادِقًا يُصِيبُكُمْ بَعْضُ الَّذِي

1 「ハーマーン」については物語章 6 の訳注を、「カールーン」については物語章 76-82 を参照。

2 高壁章 127 の訳注も参照。

3 フィルアウン*を崇める「宗教」のこと(アル=クルトウビー15:305 参照)。フィルアウン*は神を自称していた。詩人たち章 29、物語章 38、至高者*章 24 も参照。

4 この「明証」の意味については、アーヤ*23「紛れもない証拠」の訳注を参照(ムヤッサル 470 頁参照)。

方のもとにやって来たと言うのに。そして、もし彼が嘘つきならば、その嘘(の罰)は彼自身が負います。また、もし彼が正直者ならば、彼があなた方に約束するものの一部¹が、あなた方に襲いかかるでしょう。本当にアッラー*は、(真理への拒否において)度を越した大嘘つきを、お導きにはなりません。

29. 我が民よ、あなた方にこそ今日、地上(エジプト)での勝利者として、王権はあります。でも、アッラー*の(懲罰という)猛威が私たちのもとにやって来たら、誰が私たちを助けてくれるのでしょうか？」
フィルアウン*は、(自分の民に)言った。
「(人々よ、)私があなた方に示すのは、私が(私とあなた方にとって有益なものと)認めるものに外ならない。そして私があなた方を導く^{みちび}のは、正道に外ならないのだ」。

30. 信仰する者は言った。「我が民よ、(あなた方がムーサー*を殺せば、)本当に私はあなた方に、徒党の日²のようなことを怖れるのです。
31. ヌーフ*の民、アード*、サムード*、そして彼らの後の(不信仰)者*たちの習いのようなことを。そしてアッラー*は全世界に対し、断じて不正*などお望みにはなりません。

يَعِدُّكُمْ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي مَنْ هُوَ مُسْرِفٌ كَذَّابٌ ﴿٢٨﴾

يَقُومُ لَكُمْ الْمَلِكُ الْيَوْمَ ظَاهِرِينَ فِي الْأَرْضِ فَمَنْ يَنْصُرُنَا مِنْ بَأْسِ اللَّهِ إِنْ جَاءَنَا قَالَ فِرْعَوْنُ مَا أُرِيكُمْ إِلَّا مَا أَرَى وَمَا أَهْدِيكُمْ إِلَّا سَبِيلَ الرَّسَدِ ﴿٢٩﴾

وَقَالَ الَّذِينَ آمَنُوا يَوْمَ يَقُومُ إِبْرَاهِيمُ إِلَىٰ أَحَافٍ عَلَيْكُمْ مِثْلَ يَوْمِ الْأَحْزَابِ ﴿٣٠﴾

مِثْلَ دَابِ قَوْمِ نُوحٍ وَعَادٍ وَثَمُودَ وَالَّذِينَ مِنْ بَعْدِهِمْ وَمَا اللَّهُ يُرِيدُ ظُلْمًا لِلْعِبَادِ ﴿٣١﴾

1 これは現世での懲罰のこと(アッ=サアディー736頁参照)。

2 「徒党の日」とは、預言者*たちに敵対して徒党を組んだ者たちが、罰された日々のことを指す(アル=クルトゥビー15:310参照)。

32. また我が民よ、本当に私はあなた方に、呼び合いの日^{おそ}を怖れます。
33. あなた方が背を向けて逃げる、その日を。あなた方にはアッラー*^{おそ}に対し、いかなる援助者もありません。そしてアッラー*^{おそ}が迷わせ給うた者には、いかなる導き手^{みちび}もないのです。²
34. (ムーサー*)以前、ユースフ*は明証^{たず}を携えて、確かにあなた方のもとにやって来ました。そしてあなた方はまだ、彼があなた方にもたらししたものに対する疑念^{ぎねん}の中にあるのです。やがて彼が死んだ時、あなた方は(自分たちの疑念とシルク*に拍車をかけて、こう)言いました。『アッラー*は彼の後、使徒*^{つか}を遣わされることはない』。同様にアッラー*は、(真理への拒否において)度を越し、(アッラー*の唯一性*に)疑惑の念を抱く者を(正道から)迷わせられます。
35. アッラー*の御徴^{みしるし} (を拒むこと)において、(アッラー*の御許から)到来した根拠もなく議論する者たち、(そのような議論は)アッラー*の御許と信仰した者たちのもとで、忌まわしいことこの上ないのです。同様にアッラー*は、(アッラー*への服従に対して)高慢で尊大な(あらゆる)者の全ての心を、閉じてしまわれます」。⁴

وَيَقُومُوا إِلَىٰ آخَا۟فٍ عَلَىٰ كُرۡسِيِّ الرَّسَادِ ﴿٣٢﴾

يَوْمَ تُولَوْنَ مُدۡبِرِينَ مَا لَكُم مِّنَ اللَّهِ مِنۢ عَاصِمٍ
وَمَن يُضِلِلِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِنۡ هَادٍ ﴿٣٣﴾

وَلَقَدْ جَاءَ كُمۡ يُوسُفُ مِنۢ قَبْلِ بَابِلَيسَ
فَمَا زِلْتُمۡ فِي شَكٍّ مِّمَّا جَاءَ كُمۡ بِهِ
حَتَّىٰ إِذَا هَلَكَ قُلْتُمۡ لَنۡ يَبْعَثَ اللَّهُ مِنۢ
بَعْدِهِ رَسُولًا كَذَٰلِكَ يُضِلُّ اللَّهُ مَنۢ
هُوَ مُسْرِفٌ مُّرۡتَابٍ ﴿٣٤﴾

الَّذِينَ يَجِدُونَ فِي ءَايَاتِ اللَّهِ بَغۡيَرٍ
سُلۡطٰنِ أَنۡتَاهُمۡ كِبَرُ مَقَتٍّ عِنۡدَ اللَّهِ
وَعِنۡدَ الَّذِينَ ءَامَنُوا كَذَٰلِكَ يَطۡعُ اللَّهُ عَلَىٰ
كُلِّ قَلۡبٍ مُّتَكَبِّرٍ جَبَّارٍ ﴿٣٥﴾

1 人々が自分の指導者のもとに呼ばれ(夜の旅章 71 参照)、互いに呼び合い、天国の民と地獄の民、そして高壁の民が互いに呼び合う(高壁章 44-51 参照)、復活の日*のこと(アル＝バガウィー 4:112 参照)。

2 アーヤ*33・34 にある言葉は、①信仰者の男のもの、②ムーサー*のもの、という説がある。アーヤ*35 の言葉は、①アッラー*のもの、②信仰者の男のもの、という説もある(アル＝クルトゥビー 15:312-313 参照)。

3 この「明証」は、アッラー*だけを崇拜*せよ、という命令と、彼の言葉の正しさを示す証拠のこと(ムヤッサル 471 頁参照)。

4 アーヤ*33 の訳注も参照。

36. フィルアウン*は、言った。「ハーマーン¹よ、私のために塔を建てよ。私が通り道に到達できるように。²

37. 諸天の通り道に。私は、ムーサー*の神を見てみよう。本当に私は、彼がまさに嘘つきだと思うのだ」。このように、フィルアウン*には彼の悪い行いが目映く映り、彼は（真理の）道から阻まれた。フィルアウン*の策略³は、破滅する外ないのである。

38. 信仰する者は言った。「我が民よ、私に従いなさい。あなた方を正道へと導いてあげましょう。

39. 我が民よ、本当にこの現世の生活は（僅かな）楽しみなのであり、実に来世こそは、（あなたが定着する）留まり所なのです。

40. （現世で）悪を行った者は、（来世において）それと同等のものでしか、報われません。そして男性であれ女性であれ、信仰者で正しい行い*を行う者、それらの者たちは天国に入ります。彼らはそこで際限なく、糧を授けられます。

41. 我が民よ、どういことでしょうか？ 私があなた方を（地獄から天国への）救い⁴へと招いているのに、あなた方が私を地獄（の原因となる行い）へ招くのは？

وَقَالَ فِرْعَوْنُ يَهْمُنُ ابْنُ لِي صَرَحًا عَلَيَّ
أَبْلُغْ أَلَا تَسْتَبْ ۝٣٦

أَسْتَبِ السَّمَوَاتِ فَأَطِلِعَ إِلَى إِلَهِ مُوسَى
وَإِنِّي لأَظُنُّهُ كَذَّابًا وَكَذَلِكَ زَيْنُ
لِفِرْعَوْنَ سُوءُ عَمَلِهِ وَصُدَّ عَنِ السَّبِيلِ
وَمَا كَيْدُ فِرْعَوْنَ إِلَّا فِي تَبَابٍ ۝٣٧

وَقَالَ الَّذِينَ آمَنُوا يَنْقُومُ آتِيعُونَ
أَهْدِكُمْ سَبِيلَ الرَّشَادِ ۝٣٨

يَنْقُومُ إِنَّمَا هَذِهِ الْحَيَاةُ الدُّنْيَا مَتَّعُ
وَإِنَّ الْآخِرَةَ هِيَ دَارُ الْقَرَارِ ۝٣٩

مَنْ عَمِلَ سَيِّئَةً فَلَا يُخْزَىٰ إِلَّا أَمْرًا لَهَا
وَمَنْ عَمِلَ صَالِحًا مِّنْ ذَكَرٍ وَأُنْثَىٰ وَهُوَ
مُؤْمِنٌ فَأُولَٰئِكَ يَدْخُلُونَ الْجَنَّةَ
يُرْزَقُونَ فِيهَا بِغَيْرِ حِسَابٍ ۝٤٠

* وَيَنْقُومُ مَا لِيَ أَذْعُوكُمُ إِلَى الْكَفَرِ
وَيَدْعُونِي إِلَى النَّارِ ۝٤١

1 「ハーマーン」については、物語章 6 の訳注を参照。

2 同様のアーヤ*として、物語章 38 も参照。

3 フィルアウン*が正しく、ムーサー*が間違っていると人々に信じさせる「策略」のこと（ムヤッサル 471 頁参照）。

4 つまりアッラー*への信仰と、その使徒*ムーサー*への服従のこと（前掲書 472 頁参照）。

42. あなた方は私がアッラー*を否定し、私が
(その崇拝*の正当性について)何も知らないものを、かれに並べることへと招いているのです。私はあなた方を、偉力ならびなく*、赦し深いお方へ(通じる道へ)と招いているというのに。

43. 間違いなく、あなた方が私を招いているものには、現世においても来世においても、いかなる招き(の価値)もありません。そして私たちの戻り場所がアッラー*の御許であり、(罪に)度を越した者たちこそが、地獄の徒であるということも」。

44. (そして民が彼の助言に従わなかった時、彼は言った。)「それでは、あなた方は私があなた方に言っていることを、やがて思い出すでしょう。私はアッラー*に、自分の事を委ねます。本当にアッラー*は僕たちのことを、よくご覧になるのですから」。

45. こうしてアッラー*は彼を、彼らが策謀したことの悪からお守りになり、(溺死という)忌まわしい懲罰がフィルアウン*の一族を包囲した。

46. (更にその死後には、)朝に夕に晒されることになる業火が、(彼らを包囲する)。そして(復活*の)その時が起こる日、(彼らにはこう言われるのだ、)「フィルアウン*の一族を、最も厳しい懲罰に入れよ」。¹

تَدْعُونِي لَأَكْفُرَ بِاللَّهِ وَأُشْرِكَ بِهِ مَا
لَيْسَ لِي بِهِ عِلْمٌ وَأَنَا أَدْعُوكُمْ إِلَى
الْعَزِيزِ الْغَفِيرِ ﴿٤٢﴾

لَا جَرَمَ أَنَّمَا تَدْعُونِي إِلَيْهِ لَيْسَ لَهُ دَعْوَةٌ
فِي الدُّنْيَا وَلَا فِي الْآخِرَةِ وَأَنْ مَّرَدَّنَا
إِلَى اللَّهِ وَأَنَّ الْمُسْرِفِينَ هُمْ أَصْحَابُ
النَّارِ ﴿٤٣﴾

فَسَتَذْكُرُونَ مَا أَقُولَ لَكُمْ وَأَفْوِضُ
أَمْرِي إِلَى اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ بَصِيرٌ بِالْعِبَادِ ﴿٤٤﴾

فَوَقَّهَ اللَّهُ سَيِّئَاتٍ مَا مَكَرُوا وَخَافَ يُنَالِ
فِرْعَوْنَ سُوءَ الْعَذَابِ ﴿٤٥﴾

النَّارُ يُعْرَضُونَ عَلَيْهَا غُدُوًّا وَعَشِيًّا
وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ أَدْخِلُوا آلَ
فِرْعَوْنَ أَشَدَّ الْعَذَابِ ﴿٤٦﴾

1 死後、復活の日*まで、彼らの魂は業火に晒される。そして復活の日*が来れば、魂と肉体が合わさった形で、地獄の業火に入れられることになる(イブン・カシール 7:146 参照)。

47. 彼らが（地獄の）業火^{ごうか}で議論^{ぎろん}し合い、弱者^{じやくしやく}たちが高慢^{かうまん}だった者たち¹に（こう）言う時のこと（を思い起こさせよ）。「本当に私たちは（現世で）あなた方に追従^{ついじゅう}していたわけだが、（この日）あなた方は業火^{ごう}の一部からでも、私たちを守ってくれるのか？」

48. 高慢^{かうまん}だった者たちは、言う。「（そのようなことは出来ない。）本当に私たちは皆、（地獄の）その中にあるのだ。本当にアッラー^{*}は、確かに僕^{しもべ}たちの間に裁き^{さば}を下されたのである²」。

49. また、業火^{ごうか}の中にある者たちは、地獄の門番^{しゅ}たちに言う。「あなた方の主^{しゅ}*に祈^{いの}ってくれ。かれが私たちから、一日でも懲罰^{ちやうばつ}を軽減^{くげん}して下さるよう」。³

50. 彼ら（地獄の門番^{しゅ}たち）は言う。「一体、あなた方の使徒^{しと}*たちは明証^{たうしぎ}を携えて、あなた方のもとに到来^{とうらい}していたのではなかったか？」彼ら（地獄の民）は言う。「その通りです」。彼ら（門番^{しゅ}たち）は言う。「ならば（私たちは祈^{いの}らないから、）あなた方が祈^{いの}るがよい。不信仰者^{ふしやうしや}*たちの祈願^{きがん}は、全くの徒勞^{とろう}である」。

وَإِذْ يَتَحَاوَرُونَ فِي النَّارِ فَيَقُولُ
الضُّعْفَةُ لِلَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا إِنَّا
كُنَّا لَكُمْ تَبَعًا قَهْلَ أَنْتُمْ مُّعْتَدُونَ عَنَّا
نَصِيبًا مِنَ النَّارِ ﴿٤٧﴾

قَالَ الَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا إِنَّا كُلٌّ
فِيهَا إِنَّا لَنُؤْخَذُ بِمَا نَصِفُكَ
فِيهَا إِنَّ اللَّهَ فَدَّحَكَ بِتِ الْعِبَادِ ﴿٤٨﴾

وَقَالَ الَّذِينَ فِي النَّارِ لِخَزَنَةِ جَهَنَّمَ
ادْعُوا رَبَّكُمْ يُخَفِّفْ عَنَّا يَوْمًا مِّنَ
الْعَذَابِ ﴿٤٩﴾

قَالُوا أَوَلَمْ تَكُنْ تَأْتِيكُمْ رُسُلُكُمْ
بِالْبَيِّنَاتِ قَالُوا بَلَىٰ قَالُوا فَادْعُوا وَمَا دَعَا
الْكُفْرِينَ إِلَّا فِي ضَلَالٍ ﴿٥٠﴾

1 「弱者たち」と「高慢だった者たち」については、イブラーヒーム*章 21 の訳注を参照。また同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33 も参照。

2 つまりアッラー*はその公正な裁決により、彼らの間に、各人に適当な形で懲罰を振り分けられた（ムヤッサル 472 頁参照）。

3 金の装飾章 77 も参照。

51. 本^{ほん}当^{たう}にわれら*は、現世の生活と、証人たちが立つ^{たつ}！(復活の)日*に、われら*の使徒*たちと、信仰する者たちを必ずや助けるのである。
52. 不正*者たちをその言^いい訳^{わけ}が益^{えき}することがない、その日に。そして彼らの上には呪いがあり、彼らには(来世で)忘^わまわしい住まいがある。
53. われら*は確かにムーサー*に導^{みちび}きを授^{さづ}け、イスラ^いーイ^いールの子^こら*に啓典(トラー*)を引き継^つがせた。
54. 澄^すんだ理性の持^ぬち主^みへの導^{みちび}きと、教訓として。
55. ならば(使徒*よ)、忍^{にん}耐^{たい}*せよ。本^{ほん}当^{たう}にアッラー*のお約束は真^{しん}実^{じつ}なのだ。そしてあなたの罪の赦^{しめ}しを乞^こい、夕^{ゆふ}に朝^{あさ}に、あなたの主*の称^{しょう}賛^{さん}*と共に(かれを)称^たえる*のだ。
56. 本^{ほん}当^{たう}にアッラー*の御^み徴^{しるし}(を拒^{こぼ}むこと)において、(アッラー*から)到^{とう}来^{らい}した根拠もなく議^ぎ論^{ろん}する者たち、彼らの胸の内には、彼らが到達することもないもの²に対する高慢さしかない。ならばアッラー*に、(彼らの悪からの)ご加^か護^ごを乞^こえ。本^{ほん}当^{たう}にかれこそは、よくお聞^ききになるお方、よくご覧^{らん}になるお方なのだから。
57. 諸^{しよ}天^{てん}と大地の創^{そう}造^{ぞう}こそは、人々の創^{そう}造^{ぞう}(とその再生)よりも偉大なのだ。しかし、人々の大半は分^わか^からない。

إِنَّا لَنَنْصُرُ رُسُلَنَا وَالَّذِينَ آمَنُوا فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَيَوْمَ يَقُومُ الْأَشْهَادُ ﴿٥١﴾

يَوْمَ لَا يَنْفَعُ الظَّالِمِينَ مَعَذَرُهُمْ وَلَا هُمْ
الْعَفَا وَلَهُمْ سَوْءُ الدَّارِ ﴿٥٢﴾

وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْهُدَى وَأَوْرَثْنَا
بَنِي إِسْرَءِيلَ الْكِتَابَ ﴿٥٣﴾

هُدًى وَذِكْرًا لِأُولَى الْأَلْبَابِ ﴿٥٤﴾
فَأَصْرَبْنَا وَعَدَ اللَّهِ حَقًّا وَاسْتَغْفِرُ
لِذُنُوبِكَ وَسَيَجْزِيكَ بِمَا عَمِلْتِ
وَالْإِنْصَارَ ﴿٥٥﴾

إِنَّ الَّذِينَ يُجَادِلُونَ فِي آيَاتِ اللَّهِ
يَغْيِرُ سُلْطَانُ أَتْمَهُمْ إِنْ فِي صُدُورِهِمْ
إِلَّا كِبَرٌ مَّا هُمْ بِبَالِيغِيهِ فَاسْتَعِذْ
بِاللَّهِ إِنَّهُ هُوَ السَّمِيعُ الْبَصِيرُ ﴿٥٦﴾

لَخَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ أَكْبَرُ مِنْ
خَلْقِ النَّاسِ وَالْكَسْبِ أَكْبَرُ الْكَسَالِ لَا
يَعْلَمُونَ ﴿٥٧﴾

1 復活の日*の証人については、雌牛章 143、婦人章 41 を参照。

2 アッラー*が預言者*に授けられた恩寵(おんちょう)や、預言者*としての使命という榮譽のこと(ムヤッサル 473 頁参照)。

58. また、盲人^{もうじん}と見える者は同じではなく¹、信仰して正しい行い^{*}を行う者たちと悪い行いの者²は、同じではない。あなた方が教訓を得ることの、少ないこと。
59. 本当に（復活の）その時は、疑惑の余地なく、必ずや到来する。しかし、人々の大半は信じないのだ。
60. また（人々よ）、あなた方の主^{しゅ}^{おお}は仰せられた。「私に（のみ）祈るのだ。そうすればわれは、あなた方に応えよう。本当にわれの崇拜^{そうはい}^{おご}に対して奢り高ぶる者たちは、やがて蔑まれた者となって、地獄に入ることになる。
61. アッラー^{*}はあなた方のために、あなた方がそこで安らぐべく夜をお創りになり、昼を（生活のために）視界が利くものとされた。本当にアッラー^{*}はまさしく人々に対する恩寵の主であられるが、人々の大半は（かれへの服従と崇拜^{そうはい}によって、かれに）感謝しない。
62. そのお方がアッラー^{*}、あなた方の主^{しゅ}^{おお}、全ての創造主。かれの外に、崇拜^{そうはい}すべきいかなるものもない。なのに一体、どうしてあなた方は（かれを信仰し、崇拜^{そうはい}することから）背かされるのか？
63. 同様に、アッラー^{*}の御徴^{みしるし}を否定していた者たちは、（真理から）背かされるのである。

وَمَا يَسْتَوِي الْأَعْمَىٰ وَالْبَصِيرُ وَالَّذِينَ
آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَلَا الْمُسِيءُ
قَلِيلًا مَّا تَذَكَّرُونَ ﴿٥٨﴾

إِنَّ السَّاعَةَ لَأَيُّمَةٌ لَا رَيْبَ فِيهَا وَلَكِنَّ
أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٥٩﴾

وَقَالَ رَبُّكُمْ ادْعُونِي أَسْتَجِبْ لَكُمْ
إِنَّ الَّذِينَ يَسْتَكْبِرُونَ عَنْ عِبَادَتِي
سَيَحْمِلُونَ جَهَنَّمَ دَاخِرِينَ ﴿٦٠﴾

اللَّهُ الَّذِي جَعَلَ لَكُمْ الَّيْلَ لَتَسْكُنُوا
فِيهِ وَالنَّهَارَ لَمِشْرًا إِنَّ اللَّهَ لَذُو فَضْلٍ
عَلَى النَّاسِ وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا
يَشْكُرُونَ ﴿٦١﴾

ذَلِكُمُ اللَّهُ رَبُّكُمْ خَلِقُ كُلِّ شَيْءٍ
لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ فَاتَّقُوا اللَّهَ
﴿٦٢﴾

كَذَلِكَ يُؤْفَكُ الَّذِينَ كَانُوا بِآيَاتِ اللَّهِ
يَجْحَدُونَ ﴿٦٣﴾

1 この意味については、家畜章 50 の訳注を参照。

2 前者はアッラー^{*}が唯一、真に崇拜^{*}に値する存在であることを認め、その使徒^{*}たちの招きに応え、アッラー^{*}の教えに沿って行う者たち。後者はそのようにしない者のこと（ムヤッサル 473 頁参照）。

64. アッラー*はあなた方のために大地を安住の地とされ、空を屋根とされたお方。また、かれはあなた方を形づくられ、あなた方の形を最善のものとされ、あなた方に善きものの内からお恵みになった（お方）。そのお方がアッラー*、あなた方の主*。そして全創造物の主*アッラー*は、祝福にあふれたお方よ。

65. かれは永生されるお方。かれの外に崇拜*すべきいかなるものもない。ゆえに、かれだけに真摯に崇拜*行為を捧げつつ¹、かれに祈るのだ。全創造物の主*アッラー*に称賛*あれ。

66. （使徒*よ）言ってやるがいい。「本当に私は、我が主*からの明証²が自分に訪れた時、あなたがアッラー*を差しおいて祈っている者たちの崇拜*を禁じられたのだ。また私は、全創造物の主*に服従（イスラーム*）するよう命じられたのである」。

67. かれはあなた方（の父祖アダム*）を土から³、そして（あなた方を）一滴の精液から、次いで一塊の凝血からお創りになり、その後あなた方を子供として（生まれ）出させ、それからあなたが成熟に達し、更に老人になるべく（あなた方の年齢を積み重ねて行かれる）。あなた方の内には、（これらの段階）以前に召される者もいる。また、

اللَّهُ الَّذِي جَعَلَ لَكُمُ الْأَرْضَ قَرَارًا
وَالسَّمَاءَ بَنَاءً وَصَوَّرَكُمْ فَأَحْسَنَ
صُورَكُمْ وَرَزَقَكُمْ مِنَ الطَّيِّبَاتِ
ذَٰلِكُمْ اللَّهُ رَبُّكُمْ فَتَبَارَكَ اللَّهُ
رَبُّ الْعَالَمِينَ ﴿١٤﴾

هُوَ الْحَيُّ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ فَادْعُوهُ مُخْلِصِينَ
لَهُ الدِّينَ الْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ
الْعَالَمِينَ ﴿١٥﴾

*قُلْ إِنِّي نُهَيْتُ أَنْ أَعْبُدَ الَّذِينَ
يَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ لَمَّا جَاءَنِي الْبَيِّنَاتُ
مِنْ رَبِّي وَأُمِرْتُ أَنْ أُسْلِمَ لِرَبِّ
الْعَالَمِينَ ﴿١٦﴾

هُوَ الَّذِي خَلَقَكُمْ مِنْ نَرَابٍ ثُمَّ مِنْ نُطْفَةٍ
ثُمَّ مِنْ عَلَقَةٍ ثُمَّ يُخْرِجُكُمْ طِفْلًا ثُمَّ لِتَبْلُغُوا
أَسَدَكُمْ ثُمَّ تَرْتَكُوا سُيُومًا وَفِيكُمْ مَنْ
يُؤْتَى مِنْ قَبْلِ طَرَلٍ وَتَبْلُغُوا أَجْلًا مُسَمًّى
وَلَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ﴿١٧﴾

1 「かれだけに真摯に崇拜*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

2 この「明証」とは、アッラーの唯一性*を示す、論理的根拠と神的神秘（啓示）のこと（アッ＝シャウカーニー4:656 参照）。

3 アダム*が上から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

かれは、あなた方が（これらの段階を経て）定められた時期¹へと到達^{とうたつ}すべく（、あなた方の年齢^{ねんれい}を積み重ね^{つかさ}て行かれる）。そして（それは、）あなた方が弁^{わきま}える²ようにするためなのだ。

68. かれは生を与えられ、死をお与えになるお方。そして、かれが一事をお取り決めになり、お望みに^{おお}なれば、それに「あれ」と仰せられるだけで、それは存在するのである。

هُوَ الَّذِي يُحْيِي وَيُمِيتُ فَإِذَا قُضِيَ أَمْرُ فَإِنَّمَا يَقُولُ لَهُ كُنْ فَيَكُونُ ﴿٣٨﴾

69. （使徒^{しと}*よ、）一体あなたは、アッラー*の御徴^{しるし}³に（盾^{たて}ついて）議論する者たちが、いかに（そこから）逸^ぎらされてしまっているか、見ないのか？

أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ يَكْفُرُونَ فِي آيَاتِ اللَّهِ أَنَّهُمْ يُضِرُّونَ ﴿٣٩﴾

70. （彼らは）啓典^{けいてん}と、われら*がわれら*の使徒*たちと共に遣^{つか}わしたもの⁴を、嘘呼^{うそ}ばわりした者たち。ならば、彼らはやがて（その結末を）知るようになる。

الَّذِينَ كَذَّبُوا بِالْكِتَابِ وَمَا أُرْسِلَ بِهِ رَسُولًا فَسَوْفَ يَعْلَمُونَ ﴿٤٠﴾

71. その首に枷^{かせ}と、（その足に）鎖^{くさり}が付けられて、（それで）彼らが引き回される時に。

إِذَا الْأَعْلَى فِي أَغْتَقِهِمْ وَالسَّكِينِ يُسْحَبُونَ ﴿٤١﴾

72. 煮えたぎる湯の中で、それから業火^{ごうか}の中で、彼らは（彼ら自身がその燃料となって、地獄を）煮えたぎらされる。

فِي الْحَمِيمِ ثُمَّ فِي النَّارِ يُسْجَرُونَ ﴿٤٢﴾

1 「定められた時期」とは、死期、あるいは復活の日*のこと（アル＝バイダーウィー5:100 参照）。

2 そのようなことがお出来るのはアッラー*のみであり、崇拜*はかれにのみ行わなければならないということを「弁える」こと（ムヤッサル 475 頁参照）。

3 この「御徴」は、アッラーの唯一性*と御力を示す、明白な証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

4 「啓典」はクルアーン*で、「…と共に遣わしたもの」はそれ以前の啓典のこと（前掲書、同頁参照）。

使徒*も、アッラー*のお許しなしには御徴¹をもたらしことなどなかった。そしてアッラー*のご命令^{とうらい}が到来すれば、(使徒*たちと彼らを嘘つき呼ばわりしていた者たちの間)は真実によって裁かれ、(真実を)虚妄とする者たちは、そこで損失するのである。

وَحَسِرُهَا لَكَ الْمَبْطُورُونَ ﴿٧٨﴾

79. アッラー*は、あなた方のために家畜^{かちく}をご用意されたお方。それはあなた方がその内のものに乗る、そこから食べるため。

اللَّهُ الَّذِي جَعَلَ لَكُمُ الْأَنْعَامَ
لِتَرْكَبُوا مِنْهَا وَمِنْهَا تَأْكُلُونَ ﴿٧٩﴾

80. またそこ(家畜)には、あなた方のための諸利益³がある。そしてそれらに乗って、あなた方の脳裏^{のうり}に浮かぶ(遠い場所での)用事を果たすため、(アッラー*はそれらをあなた方にご用意された)。あなた方はそれらや、船に乗って運ばれる。

وَأَكْثَرُ فِيهَا مَتَاعٌ وَلَتَبْلُغُوا عَلَيْهَا حَاجَةً
فِي صُدُورِكُمْ وَعَلَيْهَا وَعَلَى الْفُلْكِ
تَحْمَلُونَ ﴿٨٠﴾

81. また、かれはあなた方に、その(御力と、かれこそが全創造を司^{つかさど}っているのだということを示す)御徴をお見せになる。一体あなた方は、アッラー*のいずれの御徴を否定するというのか？

وَيُرِيكُمْ آيَاتِهِ فَأَيَّ آيَاتِ اللَّهِ
تُنْكِرُونَ ﴿٨١﴾

82. 一体、彼らは地上を旅し、彼ら以前の(預言者*たちを嘘つき呼ばわりした)者たちの結末がどのようなものであったかを、見なかったのか？ 彼ら(以前の者たち)は、彼らよりも多勢で、力と、大地の建設において強力だった。そして(アッラー*の懲罰が降りかかった時、)彼らが稼いでいたものは、彼らを益することがなかったのだ。

أَفَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ
كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ كَانُوا
أَكْثَرُ مِنْهُمْ وَأَشَدُّ قُوَّةً وَآثَارًا فِي الْأَرْضِ
فَمَا أَغْنَى عَنْهُمْ مَالُهُمْ أَنْ يَكْسِبُوا ﴿٨٢﴾

1 この「御徴」とは、論理的証拠(啓示・論証)と感覚的証拠(奇跡)のこと(ムヤッサル 476 頁参照)。

2 「家畜」については、食卓章 1「家畜獣」の訳注を参照。

3 具体的な利益の例については、蜜蜂章 5-8、80 も参照。

83. また、彼らのもとに彼らの使徒たちが明証^{しと}を携えてやってきた時、彼らは自分たちのもとにある知識^{ちようてん}¹に有頂天になった。そして自分たちが嘲笑^{ちようしやう}していたもの（懲罰^{ちようばつ}）が、彼らを包圍したのだ。

84. また、われら*の猛威^{もうい}（という懲罰^{ちようばつ}）を目の当たりにした時、彼らは（こう）言ったのだ。「私たちはアッラー*だけを信じ、私たちがかれに並べて（崇拜^{すうはい}して）いたものを、否定しました」。

85. そして彼らの信仰は（その時）、彼らを益^{えき}することがなかった²。彼らが、われら*の猛威^{もうい}（という懲罰^{ちようばつ}）を目の当たりにした時には（、もう遅かったのだ）。（懲罰^{ちようばつ}が訪れたら信仰しても遅いという、）かれの僕^{しもべ}たちにおいて過ぎ去って来た、アッラー*の摂理^{せつり}。そして不信仰者*たちは、そこで損失^{そんしつ}したのである。

فَلَمَّا جَاءَ نَجْمُهُمْ رَسُولُهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ فَرِحُوا بِمَا
عِنْدَهُمْ مِنَ الْعِلْمِ وَخَافَ بِهِمْ مَا كَانُوا بِهِ
يَسْتَهْزِءُونَ ﴿٤٣﴾

فَلَمَّا رَأَوْا بَأْسَنَا قَالُوا آمَنَّا بِاللَّهِ وَحَدُّهُ
وَكَفَرْنَا بِمَا كُنَّا يَمُوشُونَ ﴿٤٤﴾

فَلَمْ يَكْ يَنْفَعُهُمْ إِيمَانُهُمْ لَمَّا رَأَوْا بَأْسَنَا
سُئِلَ اللَّهُ أَلَمْ تَدْخَلْ فِي عِبَادِهِ وَخَيْرَ
هَٰؤُلَاءِ الْكَافِرُونَ ﴿٤٥﴾

1 「自分たちのもとにある知識」の解釈には、「彼ら（不信仰者*たち）の、『自分たちは罰されることも、蘇（よみがえ）らされることもないことを知っている』という主張」「彼ら（不信仰者*）の、現世に関する知識（ビザンチン章7も参照）」「彼ら（預言者*たち）がアッラー*から授かった、『信仰者が救われ、不信仰者*たちが滅ぼされる』という知識」といった諸説がある（アル=クルトゥビー15:336 参照）。

2 家畜章 158 とその訳注も参照。

しょうさい
第41章
詳細にされた章 (フッスィラト) ¹

じ ひ じ あい
慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム²。
2. (このクルアーン*は、) 慈悲あまねく*、慈愛深き*お方からの降示である。
3. 知識ある民のため、アラビア語のクルアーン*として、そのアーヤ*が詳細にされた啓典。
4. 占報を伝え、警告を告げるもの³として。そして彼らの大半は(それに)背を向け、耳を傾けない。
5. また、彼ら(不信仰者*たち)は(使徒*ムハンマド*に)言った。「私たちの心は、あなたが私たちを招くもの(への理解)から(阻む)覆いがかけられ、私たちの耳には重しがかけられており⁴、私たちとあなたとの間には(、あなたの招きに応じることを阻む)障壁がある。ならば、あなたは(自分の宗教に*従って)行方がよい。本当に私たちは、(自分たちの宗教に*従って)行方から」。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حَمْدٌ

نَزِيلٌ مِنَ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

كِتَابٌ فَضِّلْتَ لَهُ الْبَيِّنَاتِ وَرَفَعْنَا فِي الْقَوْمِ
بَعْلَمُونَ

بَشِيرًا وَنَذِيرًا فَأَعْرَضَ أَكْثَرُهُمْ فَهُمْ لَا
يَسْمَعُونَ

وَقَالُوا أَفُلُونَا فِي أَكْثَرِ مَا نَدْعُونَ إِلَهُهُ وَإِنَّا
ءَادَانَا وَقَدْ رَأَيْنَا بَيْنَنَا وَبَيْنَكَ حَبَابٌ فَاغْمَلْ
إِنَّا عَمِلُونَ

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、アーヤ*3 とアーヤ*44 に登場する「詳細にされた(フッスィラト)」という語による。アッラー*への信仰、啓示とその真实性、復活の日*・来世の様子などの基本的信仰が取り上げられる。また、啓示に対する不信仰者*たちの様子、過去の不信仰者*たちの結末、そして来世における信仰者と不信仰者*の状況が対照的に描写されるほか、天地創造を始め、アッラーの唯一*性と御力を示す多様な印の数々も所々に言及されている。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「占報を伝え、警告を告げる」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

4 「耳に重しがかけられた」については家畜章 25 の訳注を参照。

6. (使徒*よ、) 言ってやれ。「私は、『あなたの方(真に) 崇拜*すべきは、ただ一つの神¹』との啓示を受けている、あなた方と同様の一人の人間に過ぎない。ゆえに、かれへとまっすぐに歩み²、かれにお赦しを乞うのだ。そしてシルク*の徒たちには、災いを。
7. (彼らは) 浄財*を支払う³ことなく、来世に対してはまさに不信仰者*である。
8. 本当に信仰し、正しい行い*を行う者たち、彼らには尽きることのない⁴褒美がある」。
9. (使徒*よ) 言え。「本当にあなた方は、大地を二日間で創られたお方を否定し、かれに同位者⁵を設け(て崇拜*す)するとか? そのお方は、全創造物の主*なのである。
10. またかれはそこに、その上に(聳える)堅固な山々を置かれ、そこを祝福され、ちょうど四日(目)⁵で、その糧⁶をそこにお定めになった。(天地創造の時間について) 問う者たちへのために⁶、(彼らがそれを知るべく)。

قُلْ إِنَّمَا أَنَا بَشَرٌ مِّثْلُكُمْ يُوحَىٰ إِلَىٰ أَنَّمَا إِلَهُ الْكَوَالَةِ وَحِيدٌ فَأَنْتُمْ قَائِمُونَ إِلَيْهِ وَأَنْتُمْ قَائِمُونَ وَيُوحَىٰ لِلْمُسْرِكِينَ ①

الَّذِينَ لَا يُؤْتُونَ الزَّكَاةَ وَهُمْ بِالْآخِرَةِ كَفُورُونَ ⑤

إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ ⑤

* قُلْ أَنتُمْ تَعْبُدُونَ بِالَّذِي خَلَقَ الْأَرْضَ فِي يَوْمَيْنِ وَتَتَعَلَّوْنَ لَهُ أَندَادًا ذَلِكَ رَبُّ الْعَالَمِينَ ①

وَجَعَلَ فِيهَا رَوَاسِيَ مِنْ تَحْتِهَا وَبَارَكَ فِيهَا وَقَدَّرَ فِيهَا أَقْوَانَهَا فِي أَرْبَعَةِ أَيَّامٍ سَوَاءً لِّلنَّاسِ لَآئِلَاتُ ①

1 この「神」については、洞窟章 110 の訳注を参照。

2 アッラー*へと「まっすぐに歩む」とは、かれの御言葉信じ、そのご命令を守ること、かれへと続く道を歩み続けること(アッ=サアディー744 頁参照)。また、使徒*たちの手法に沿って、かれだけに崇拜*行為を捧(ささ)げること(イブン・カスィール 7:164 参照)。

3 この「浄財*」については、家畜章 141 「義務」の訳注を参照。

4 「尽きることのない(マムヌーン)」の意味には、その他「不足ない」「際限(さいげん)ない」「恩着せがましくない」といった解釈もある(アル=クルトゥビー 15:341-342 参照)。

5 アーヤ*9 にある、アッラー*が大地を創造された二日間は、ここで言及されている四日間の中の最初の二日間である(ムヤッサル 477 頁参照)。

6 あるいは、「(糧を) 求める者たちのため、ちょうどいい案配に」糧をお定めになった(イブン・カスィール 7:166 参照)。

11. それから、かれは煙状であった天（の創造）をお望みになり、それ（天）と大地に向かって、（こう）仰せられた。「従順にであろうと、嫌々であろうと、（わが命令へと）来たれ」。それら（天と大地）は、申し上げた。「私たちは従順に、参りました」。
12. こうしてかれはそれらを二日間で、七層の天（の創造）として終えられ¹、天の各々（の層）に、そのご命令を示された。また、われらは最下層の天を（星）灯りで飾りつけ、（それをシャイターン*に対する）護衛とした²。それは偉力ならびなく*、英知あふれる*お方の定めである。
13. もし彼らが（アッラー*とクルアーン*のことを説明された後に）背を向けるのなら、言ってやるがいい。「私はあなた方にアード*とサムード*の懲罰のような懲罰を警告した」。
14. 使徒*たちが、彼らの前と後ろから彼ら（アード*とサムード*）のもとに到来し³、アッラー*以外は崇拜*してならない、と言った時のこと。彼らは言った。「もし我らが主*がお望みになったなら、天使*たちを（使徒*として）下したであろう⁴。ゆえに私たちは、あなた方が携えて遣わされたものを否定する」。

ثُمَّ أَسْمَوْنَ إِلَى السَّمَاءِ وَهِيَ دُخَانٌ فَقَالَ لَهَا وَلِلْأَرْضِ ائْتِيَا طَوْعًا أَوْ كَرْهًا قَالَتَا أَتَيْنَا طَائِعِينَ ﴿١١﴾

فَقَضَيْنَا سَبْعَ سَمَوَاتٍ فِي يَوْمَيْنِ وَأَوْحَىٰ فِي كُلِّ سَمَاءٍ أَمْرَهَا وَزَيَّنَّا السَّمَاءَ الدُّنْيَا بِمَصَابِيحَ وَحِفْظًا ذَلِكَ تَقْدِيرُ الْعَزِيزِ الْعَلِيمِ ﴿١٢﴾

فَإِنْ أَغْرَضُوا فَقُلْ أَنْذَرْتُكُمْ صَاعِقَةً مِّثْلَ صَاعِقَةِ عَادٍ وَثَمُودَ ﴿١٣﴾

إِذْ جَاءَهُمُ الرُّسُلُ مِنْ بَيْنِ أَيْدِيهِمْ وَمِنْ خَلْفِهِمْ أَلَّا يَعْبُدُوا إِلَّا اللَّهَ قَالُوا لَوْ شَاءَ رَبُّنَا لَأَنْزَلَ مَلَائِكَةً فَإِنَّا بِمَا أُرْسِلْتُمْ بِهِ كَافِرُونَ ﴿١٤﴾

1 こうしてアッラー*は天地の創造を、日曜日から金曜日まででの六日間で終えられた。全能のアッラー*は、お望みであれば、天地を一瞬でお創りになることもお出来だが、それらをこの日数でお創りになったのは、かれの英知ゆえのことである（アッ=サアディー745頁参照）。

2 アル=ヒジュル章 17-18 とその訳注、詩人たち章 212、223、整列者章 6-10、王権章 5、ジン*章 8-9 も参照。

3 つまり、次々と連続して到来した、ということ（ムヤッサル 478 頁参照）。

4 家畜章 8-9 も参照。

15. それでアード*とはいえば、不当にも地上で高慢となり、（こう）言った。「誰が私たちよりも強力だと言うのか？」¹ 彼らは一体、彼らをお創りになったアッラー*が、彼らよりも強力であるとは思わないのか？ 彼らは、かれの御徴²を否定していたのだ。

16. それでわれら*は、彼らに現世の生活における屈辱³の懲罰を味わわせるべく、大難⁴の日々⁵において、彼らに咆哮⁶の暴風を送った。そして来世の懲罰こそは、より屈辱に満ちたものなのだ。彼らは（誰からも）援助されることがない。

17. またサムード*とはいえば、われら*が彼らに導きを示した後、導きよりも（迷いという）盲目を好んだ。それで彼らが稼いでいたもの⁷ゆえ、屈辱的な懲罰の稲妻⁸が彼らを捕らえたのだ。

18. そしてわれら*は、信仰し、敬虔⁹*だった者たちを救った。

19. アッラー*の敵たちが業火へと集められ、整列させられる時（のことを、思い起こさせよ）。

فَأَمَّا عَادٌ فَاسْتَكْبَرُوا فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ وَقَالُوا مَنْ أَشَدُّ مِنَّا قُوَّةً أَوَلَمْ يَرَوْا أَنَّ اللَّهَ الَّذِي خَلَقَهُمْ هُوَ أَشَدُّ مِنْهُمْ قُوَّةً وَكَانُوا بِعَيْنِنَا لَاحِظِينَ ﴿١٥﴾

فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِيحًا صَرْصَرًا فِي أَيَّامٍ نَحْسَاتٍ لِنَبْلُوهُمْ أَكَانَ لِيُذِيقَهُمْ عَذَابَ الْخِزْيِ فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَلَعَذَابُ الْآخِرَةِ أَكْثَرُ وَلَهُمْ لَا يَبْصُرُونَ ﴿١٦﴾

وَأَمَّا ثَمُودُ فَهَدَيْنَاهُمْ فَاسْتَحَبُّوا الْعَمَى عَلَى الْهُدَى فَأَخَذَتْهُمْ صَيْغَةُ الْعَذَابِ الْهُونِ بِمَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿١٧﴾

وَنَجَّيْنَا الَّذِينَ آمَنُوا وَكَانُوا يَتَّقُونَ ﴿١٨﴾

وَيَوْمَ يُنْفَخُ الْأَعْدَاءُ اللَّهُ إِلَى النَّارِ فَهُمْ يُوزَعُونَ ﴿١٩﴾

1 アード*は強力な身体と武力を備えており、アッラー*の懲罰にすら太刀打ちできると考えていた（イブン・カシール 7:169 参照）。

2 この「御徴」の解釈には、「使徒*の奇跡」「啓示」「世の中に存在する（アッラーの唯一性*と偉大さの）印」あるいは「それら全てのこと」といった諸説がある（アッ=シャウカーニー 4:669 参照）。

3 この「大難の日々」については、真実章 5-7 も参照。

4 アッラー*への不信仰と、その使徒*たちを嘘つき呼ばわりした罪のこと（ムヤッサル 478 頁参照）。

5 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

20. やがて彼らがそこに到来（し、自分たちの罪を否定）すると、彼らの耳と目と皮膚は、彼らが（現世で）行っていたことについて、彼らに不利な証言をする¹。

21. そして彼らは、自分たちの皮膚に（こう）言う。「あなた方は、どうして私たちに不利な証言をするのか？」彼ら（皮膚）は、言う。「全てのものに言葉を喋らせられるアッラー*が、私たちを喋らせられたのだ。かれがあなた方を最初にお創りになったのであり、かれの御許にこそ、あなた方は戻られる。

22. あなた方は（罪に手を染める時）、自分たちの耳や目や皮膚が（復活の日*、）自分たちにとって不利な証言をする（だろうことを怖れるが）ゆえに、身を隠すこともしなかった。しかしあなた方はアッラー*が、自分たちの行う（罪の）多くを知らないだろう、と思いついていたのである。

23. そしてそれは、あなた方が自分たちの主*に対して思っていた、あなた方の憶測である。それはあなた方を（破滅に）転落させ、あなた方は損失者の類いとなったのだ」。²

24. それで、もし彼らが（懲罰を）忍ぶとしても、業火が彼らの住まいである。もし彼らが（アッラー*の）ご満悦を得よう³としても、彼らがご満悦を得ることなど叶うわけもないのだ。

حَتَّىٰ إِذَا مَا جَاءَهُمَا شَهِدَ عَلَيْهِمْ سَمْعُهُمْ
وَأَبْصَرُهُمْ وَقُلُوبُهُمْ بِمَا كَانُوا
يَعْمَلُونَ ﴿٢٠﴾

وَقَالُوا الْجُلُودُ هِيَ شَهِدَتْ عَلَيْنَا قَالُوا
أَنْطَقَنَا اللَّهُ الَّذِي أَنْطَقَ كُلَّ شَيْءٍ وَهُوَ
خَلَقَكُمْ أَوَّلَ مَرَّةٍ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٢١﴾

وَمَا كُنْتُمْ تَسْتَعِزُّونَ أَنْ يَشْهَدَ عَلَيْكُمْ
سَمْعُكُمْ وَلَا أَبْصَرُكُمْ وَلَا جُلُودُكُمْ وَلَكِنْ
ظَنَنْتُمْ أَنَّ اللَّهَ لَا يَعْلَمُ كَيْفَ إِيْرَاءَكُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٢٢﴾

وَذَلِكُمْ ظَنُّكُمُ الَّذِي ظَنَنْتُمْ بِرَبِّكُمْ
أَرَدْتُمْ أَنْ تَصْبِرُوا عَلَىٰ خُلُوعٍ مِنَ الْفَعْرِينَ ﴿٢٣﴾

فَإِنْ يَصْبِرُوا فَالْكَارُ مَتَوًى لَهُمْ وَإِنْ يَسْتَغِيثُوا
فَمَأْهُمُ مِنَ الْمُعَذِّبِينَ ﴿٢٤﴾

1 御光章 24、ヤー・スィーン章 65 も参照。

2 皮膚の言葉は、アーヤ*21「…喋らせられたのだ」まで、あるいは「…思いついていたのである」までという説もある。そしてその場合、そこからアーヤ*23 までの言葉はアッラー*、あるいは天使*のもの、とされる（アル＝クルトゥビー 15:350-351 参照）。

3 蜜蜂章 84 とその訳注も参照。

25. またわれら*は彼ら（不信仰者*たち）に、付きまとう者たち¹をあてがった。そして彼らは彼らに対し、その前にあるものと後ろにあるものを目映く見せた²。彼らにはジン*と人間からなる、彼ら以前に滅んだ（不信仰の）民*の一員として（地獄に入るという）、御言葉が確定したのである。本当に彼らは、損失者だったのだ。

26. 不信仰に陥^{おちい}った者*たちは（、互いに助言し合って、こう）言った。「このクルアーン*には耳を傾けず、それ（読誦）^{どくしやう}に対して戯言^{たわごと}を言って（邪魔して）やれ³。（それによって読誦^{どくしやう}を阻み、）あなた方が優勢となるように」。

27. われら*は必ずや、不信仰に陥^{おちい}った者*たちに（現世と来世において）厳しい懲罰^{めいばつ}を味わわせ、彼らが行っていた最悪のもの⁴で、必ずや彼らに報いよう。

28. それがアッラー*の敵どもの報い、業火である。彼らにはそこで、彼らが（現世で）われら*の御徴^{みしるし}⁵を否定していたことゆえの報いとして、永遠の住まいがある。

﴿وَقَيَّضْنَا لَهُمْ قُرَنَاءَ فَزَيَّنُوا لَهُمْ مَا بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ وَحَقَّ عَلَيْهِمُ الْقَوْلُ فِي أُمَمٍ قَدْ خَلَتْ مِنْ قَبْلِهِمْ مِنَ الْجِنَّ وَالْإِنْسِ إِنَّهُمْ كَانُوا خَاسِرِينَ﴾

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لَا تَسْمَعُوا لِهَذَا الْقُرْآنِ وَالْغَوْا فِيهِ لَعَلَّكُمْ تَعْلَبُونَ ﴿٢٦﴾

فَلْيَذِيقَنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا وَعَادُوا شَدِيدًا وَلَتَجْزِيَنَّهُمْ أَشْرُؤُا الَّذِي كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢٧﴾

ذَٰلِكَ جَزَاءُ أَعْدَاءِ اللَّهِ الَّذِينَ اتَّخَذُوا لَهُمْ هَاوًا وَلِلْخَلْقِ جَزَاءٌ بِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢٨﴾

1 人間とジン*からなる、シャイターン*たちのこと（ムヤッサル 479 頁参照）。

2 「その前にあるもの」を目映く見せるとは、現世で悪事を善いことのように見せ、その禁じられた楽しみや欲望へと招くこと。「後ろにあるもの」を目映く見せるとは、来世のことを忘れさせたり、復活を嘘とする考えへと招いたりすること（前掲書、同頁参照）。高壁章 17 とその訳注も参照。また、シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

3 クライシュ族*の不信仰者らは、預言者*がクルアーンを読誦すると、口笛や拍手をしたり、雑音を立てたりして、それを妨害した（アッ＝タバリ－9:7191 参照）。

4 つまり不信仰と、アッラー*への不服従のこと（アッ＝サアディー748 頁参照）。

5 創造物の内に存在するアッラー*の（唯一性*と偉大さの）印、および預言者*に啓示されたアーヤ*のこと（イブン・アティーヤ 5:13 参照）。

29. また、不信仰に陥^{おちい}った者*たちは（地獄で、こう）言う。「我らが主*よ、ジン*と人間の内、私たちを迷わせた者たちを、お見せ下さい。（そうすれば、）彼らが（地獄の）最下層^{そう}の者となるべく、私たちの足の下にしてやります」。¹

30. 本当に「我らが主*はアッラー*です」と言い、それからまっすぐに歩んだ者²たち、彼らには（その死期に、）天使*たちが（こう言いつつ）下る。「怖れるのでも、悲しむのでもない³。あなた方が（現世で）約束されていた天国を、喜ぶのだ。

31. 私たちは現世の生活と来世における、あなた方の味方⁴である。そして、そこ（天国）にはあなた方のために、あなた方自身が欲するものがある。そこにはあなた方のために、あなた方が求めるものがあるのだ。

32. 赦し深く、慈愛深い*お方からの御もてなしとして」。

33. アッラー*（の唯一性*と崇拜*）へと招き、正しい行い*を行い、「本当に私は、服従^{ふくじゅう}する者（ムスリム*）の一人です」と言う者よりも、善い言葉の者がいようか？

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا رَبَّنَا أَرَبْنَا الَّذِينَ
أَصْلًا نَأْمِنُ بِالْجَنِّ وَالْإِنسِ جَمْعَهُمَا نَحْتِ
أَقْدَامًا لِيَكُونَا مِنَ الْأَتَقِينَ ﴿٢٩﴾

إِنَّ الَّذِينَ قَالُوا رَبُّنَا اللَّهُ ثُمَّ اسْتَقَمُوا
تَتَنَزَّلُ عَلَيْهِمُ الْمَلَائِكَةُ أَلَّا تَكْفُلُوا
وَلَا تَحْزَنُوا وَتَبْشِرُوا بِالْجَنَّةِ الَّتِي كُنتُمْ
وَعُودُونَ ﴿٣٠﴾

نَحْنُ أَوْلِيَاؤُكُمْ فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَفِي
الْآخِرَةِ وَلَكُمْ فِيهَا مَا تَشْتَهُونَ
أَنْفُسُكُمْ وَلَكُمْ فِيهَا مَا تَدْعُونَ ﴿٣١﴾

نُزِّلًا مِنْ غَفُورٍ رَحِيمٍ ﴿٣٢﴾

وَمَنْ أَحْسَنُ قَوْلًا مِمَّنْ دَعَا إِلَى اللَّهِ وَعَمِلَ
صَالِحًا وَقَالَ إِنَّنِي مِنَ الْمُسْلِمِينَ ﴿٣٣﴾

1 同様の情景の描写として、高壁章 38-39 も参照（イブン・カシール 7:175 参照）。

2 つまり「アッラー*への服従において、信仰、言葉、行いがまっすぐであり続けた者」（アル＝クルトゥビー 15:358 参照）。

3 雌牛章 38「怖れもなければ、悲しむこともない」の訳注も参照。

4 つまり天使*たちは、現世ではアッラー*の命によって信仰者たちを正し、成功させ、守護した。そして来世においては、墓の中・復活の日*の恐怖を和らげ、復活の時には安心させ、地獄の架け橋（鉄章 13 参照）を渡るのを助け、天国へと到達させてくれる（イブン・カシール 7:177 参照）。

34. 善と悪とは同じではない。(使徒*よ、あなた¹に悪くする者にも、)より善いものでもって、返してやれ。そうすればどうだろう、あなたとの間に敵対心がある者も、あたかも親しい味方のようになるのだ。

35. そしてそれは、忍耐*する者しか手にすることがなく、それは(現世と来世における、)この上ない幸福の持ち主しか手にすることはない。

36. また、もしシャイターン*からの一突きがあなたを突いたら²、アッラー*にご加護を乞うのだ。かれこそはよくお聴きになるお方、全知者であられるのだから。

37. 夜、昼、太陽、月は、かれの(唯一性*と全能性を示す)御徴の一部である。太陽にも月にもサジダ*せず、それらをお創りになったアッラー*にサジダ*せよ。もしあなた方が、かれのみを崇拜*するのなら。

38. そして、もし彼らが(アッラー*へのサジダ*に対して)奢り高ぶったとしても、(放っておくがよい、)あなたの主*の御許にいる者(天使*)たちは倦むことなく、夜に昼にかれを称えている*のだから。(読誦のサジダ*)

39. またあなたが、大地が惨めな有様³なのを見ても、そこにわれら*が(雨)水を降らせると、それが震動し、膨張する⁴のは、

وَلَا تَسْمَوِي الْحَسَنَةَ وَلَا السَّيِّئَةَ ادْفَعِ
بِالَّتِي هِيَ أَحْسَنُ فَإِذَا الَّذِي بَيْنَكَ وَبَيْنَهُ
عَدَاوَةٌ كَأَنَّهُ وَلِيٌّ حَمِيمٌ ﴿٤١﴾

وَمَا يَنْفَعُهَا إِلَّا الَّذِينَ صَبَرُوا وَمَا يَنْفَعُهَا
إِلَّا الدُّوْحُظُّ عَظِيمٌ ﴿٤٢﴾

وَمَا يَنْزِعُ عَنْكَ مِنَ الشَّيْطَانِ نَزْعٌ فَاتَّبِعْهُ
بِاللَّهِ إِنَّهُ هُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿٤٣﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ آتَاكَ أَزْوَاجًا وَلِلَّهِ السُّمُورُ
وَالْفُلُومُ لَا تَسْجُدُ لِلشَّمْسِ وَلَا لِلْقَمَرِ
وَأَسْجُدُوا لِلَّهِ الَّذِي خَلَقَهُنَّ إِن كُنتُمْ
إِيَّاهُ تَعْبُدُونَ ﴿٤٤﴾

فَإِنْ أَسْتَكْبَرُوا فَالَّذِينَ عِنْدَ رَبِّكَ
يُتَسَبَّحُونَ لَهُ بِاللَّيْلِ وَالنَّهَارِ وَهُمْ لَا
يَسْأَمُونَ ﴿٤٥﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ تَرَى الْأَرْضَ خَاشِعَةً فَإِذَا
أَنزَلْنَا عَلَيْهَا الْمَاءَ اهْتَزَّتْ وَرَبَتْ إِنَّ الَّذِي
أَحْيَاهَا الْمَوْتُ إِنَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٤٦﴾

1 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

2 この表現については、高壁章 200 の訳注を参照。

3 「惨めな有様」とは、乾ききって不毛な様子のこと (ムヤッサル 481 頁参照)。

4 「震動」は、植物が芽生え、動き出すことを、「膨張」は大地が水を含んで、膨張することを指すという (イブン・アーシュール 24:302 参照)。

かれの(唯一性*と全能性を示す)御徴^{みしるし}の一つ。それに生を与えたお方こそは、まさしく死んだものに生を与えられるお方。本当にかれは全てのことがお出来になるお方なのだ。

40. 本当に、われら*の御徴^{みしるし} (アーヤ*) において (真理から) 逸脱^{いつだつ}する者たちが、われら*から隠れることは出来ない。それで (その逸脱者のように、) 業火^{ごうか}に放り込まれる者がより善いのか、それとも復活の日*に (御徴^{みしるし}を信じる者として、懲罰から) 安泰^{あんたい}な状態でやってくる者か? あなた方が望むことを行うがよい。本当にかれは、あなた方が行くことをご覧になっている。

41. 本当に、その教訓 (クルアーン*) が自分たちのもとに到来した時に、それを否定した者たちは (、破滅する定めにある)。それこそは、まさしく偉力^{いりよく}あふれた啓典^{けいてん}なのだ。

42. その前からも、その後ろからも、虚妄^{きょもう}が訪れることがない³ (啓典^{けいてん})。英知あふれる*、称赞^{しょうさん}されるべき*お方から下されたもの。

43. (使徒*よ、シルク*の徒から) あなたに言われることは、既にあなた以前の使徒*たちに言われたことに外ならない。本当にあなたの主*は、まさしく赦しの主であり、痛烈^{しゅりゃく}な懲罰^{ちやうばつ}の主である。

إِنَّ الَّذِينَ يُلْحِدُونَ فِي آيَاتِنَا لَا يَخَفُونَ
عَلَيْنَا أَفَمَنْ يُلْقَى فِي النَّارِ خَيْرٌ أَمْ مَنْ يَأْتِي
ءَامِنًا يَوْمَ الْقِيَمَةِ اعْمَلُوا مَا شِئْتُمْ إِنَّهُ بِمَا
تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿٤٠﴾

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا بِالذِّكْرِ لَمَّا جَاءَهُمْ وَإِنَّهُ
لَكَيْدٌ عَزِيزٌ ﴿٤١﴾

لَا يَأْتِيهِ الْبَاطِلُ مِنْ بَيْنِ يَدَيْهِ وَلَا مِنْ خَلْفِهِ
تَنْزِيلٌ مِنْ حَكِيمٍ حَمِيدٍ ﴿٤٢﴾

مَا يُقَالُ لَكَ إِلَّا مَا قَدْ قِيلَ لِلرُّسُلِ مِنْ قَبْلِكَ
إِنْ رَزَقْنَاكَ لَذُو مَغْفِرٍ وَذُو عِقَابٍ أَلِيمٍ ﴿٤٣﴾

- 1 否定、嘘呼ばわり、改ざん、真の意味からの脱線、アッラー*がお望みになってはいない別の意味を与えることなど、あらゆる形での「逸脱」(アッ=サアディー750頁参照)。
- 2 アッラー*によって偉力あふれたものとされ、あらゆる種類の変更から守られた「啓典」のこと (ムヤッサル 481頁参照)。
- 3 クルアーン*はアッラー*によって守られた啓典であり、そこに新たな削除や付け加えが及ぶことはない (前掲書、同頁参照)。アル=ヒジュール章9とその訳注も参照。

44. もし、われら*がそれを外国語のクルアーン*としたならば、彼ら（シルク*の徒）は言ったことだろう。「そのアーヤ*はどうして、（私たちに理解できるよう）詳細にはされなかったのか？ 外国語（の啓示）とアラブ人¹（の預言者*）だと？」（使徒*よ、）言ってやれ。「それ（クルアーン*）は、信仰する者たちにとっての導きと癒し²なのだ。信仰しない者たちはその耳に重し³があり、それは彼らにとっての盲目（の原因）である。それらの者たちは、遠い場所から呼びかけられているのだ⁴」。

45. われら*は確かに、ムーサー*に啓典（トラー*）を授けたが、そこにおいて異論が生じ（、ある者は信じ、ある者は信じなかった）。そして（使徒*よ）、もし（あなたの民に対する懲罰^{ちやうばつ}を猶予する、という）あなたの主*からの先んじた御言葉がなければ、彼らの間には裁決^{さいけつ}が下されてしまったであろう。本当に彼らはそれ（クルアーン*）に対する、大きな疑惑^{ぎわく}の真^まっ只中にあるのだ。

46. 誰でも正しい行い*を行う者は、自分のために（そうするの）であり、悪い行いをする者は、自分に対して（そうするの）である。アッラー*は、その僕たちに対する不正*者などではない。

وَلَوْ جَعَلْنَاهُ قُرْءَانًا أَعْجَمِيًّا لَقَالُوا لَوْلَا فُضِّلَتْ آيَاتُهُ ۖ أَتَعْجَبُونَ وَعَرَبِيٌّ قُلُّهُ ۚ لِّلَّذِينَ آمَنُوا هُدًى وَبَشِيرَةٌ ۖ وَلِلَّذِينَ كَفَرُوا يُوسِفُونَ فِي آذَانِهِمْ وَقُفْرًا وَهُوَ عَلَيْهِمْ عَمًى ۚ أُولَٰئِكَ يُنَادَوْنَ مِن مَّكَانٍ بَعِيدٍ ﴿٤٤﴾

وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْكِتَابَ فَاخْتَلَفَ فِيهِ وَلَوْلَا كَلِمَةٌ سَبَقَتْ مِن رَّبِّكَ لَفُضِّحَ بِهِمْ وَإِنَّهُمْ لَفِي سَكِّ مِّنْهُ مُرِيبٌ ﴿٤٥﴾

مَنْ عَمِلَ صَالِحًا فَلِنَفْسِهِ ۖ وَمَنْ أَسَاءَ فَعَلَيْهَا ۚ وَمَا رَبُّكَ بِظَالِمٍ لِّلْعَالَمِينَ ﴿٤٦﴾

1 それが出た者の言葉はアラビア語なのに、外国語のクルアーン*とはどういうことだ、ということ（ムヤッサル 481 頁参照）。

2 「癒し」については、ユースス*章 57 の訳注を参照。

3 「耳に重しがある」については、家畜章 25 の訳注を参照。

4 つまり呼びかけを聞くこともなければ、それに応じることもない（前掲書、同頁参照）。

47. かれ(アッラー*)の御許にこそ、(復活の)その時の知識は歸される。また、かれの知識なしには果実がその包みから出て来ることはなく、女性が身ごもることも、出産することもない。かれが(シルク*の徒に、)「(あなた方が、崇拝*において)われの同位者たち(としていた者たち)は、どこなのか?」と呼びかけられる、その日のこと(を思い起こさせよ)。彼らは言う。「(今)私たちは、あなたにお知らせします。私たちの中には、誰も証言者¹がいません」。

48. また、彼らが以前(アッラー*をよそに)祈っていたものは、消え失せてしまう。そして彼らは自分たちに、いかなる逃げ道もないことを確信するのだ。

49. 人間は、善の祈願²には飽きることがない。そして、もし悪が彼を襲えば、失意の念激しい者、絶望の底に陥った者となる³。

50. また、もしもわれら*が、彼(人間)に災難が襲った後、われら*の御許からの慈悲を味わわせたならば、彼は必ずや(こう)言うのだ。「これは私のため(に相応しいもの)であり、私は(復活の)その時が起こるとは、思わない。そして、もしも私が我が主*のもとに戻らされたとしても、私にこそはかれの御許において、まさしく最善のもの⁴

* إِلَهِ يَرُدُّ السَّاعَةَ وَمَا تَخْرُجُ مِنْ ثَمَرَاتٍ مِنْ أَكْثَامِهَا وَمَا تَحْمِلُ مِنْ نَثْقٍ وَلَا تَضَعُ إِلَّا بِعِلْمِهِ وَيَوْمَ يُنَادِيهِمْ أَيْنَ شُرَكَائِيَ قَالُوا أَدْذَكَ مَا مِنَّا مِنْ شَهِيدٍ ﴿٤٧﴾

وَصَلَّ عَنْهُمْ مَا كَانُوا يَدْعُونَ مِنْ قَبْلُ وَظَنُوا مَا لَهُمْ مِنْ مَحِيصٍ ﴿٤٨﴾

لَا يَسْمَعُ الْإِنْسَانُ مِنْ دَعَاةِ الْخَيْرِ وَإِنْ مَسَّهُ الشَّرُّ فَيَئُوسٌ قَوُوتٌ ﴿٤٩﴾

وَلَيْنَ أَذَقْنَهُ رَحْمَةً مِنَّا مِنْ بَعْدِ ضَرَّاءَ مَسَّتْهُ لَيَقُولَنَّ هَذَا لِي وَمَا أَطْنُ السَّاعَةَ فَأَيَّامَةٌ وَلَيْنَ رُجِعْتُ إِلَى رَبِّي إِنَّ لِي عِنْدَهُ لِلْخُسْفَى فَلَنُنَبِّئَنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا بِمَا عَمِلُوا وَلَنُذِيقَنَّهُمْ مِنْ عَذَابٍ غَلِيظٍ ﴿٥٠﴾

1 アッラー*に同位者がいる、と証言する「証言者」のこと(ムヤッサル 482 頁参照)。

2 富、財産、子供など、現世の魅力的なものを求める祈願のこと(アッ=サアディー752 頁参照)。

3 つまり、アッラー*のご慈悲に絶望し、その試練が一卷の終わりと思い込む。しかし信仰者はこれとは逆に、善いことがあればアッラー*に感謝し、それが罰の前触れではないかと警戒する。そして災難が襲えば忍耐*し、アッラー*の恩寵(おんちょう)を乞うのである(前掲書、同頁参照)。

4 つまり天国のこと(ムヤッサル 482 頁参照)。

があるのだ」。では、われら*はきっと不信仰に陥った者*たちに、彼らが行った（悪）事を告げ、彼らに必ずや、荒々しい懲罰を味わわせよう。

51. われら*が人間に恩恵を授ければ、彼は（真理に従うことを）拒み、そっぽを向いて遠ざかる。そして自分に悪が降りかかると、延々と祈願する者となる。

52. （使徒*よ、）言ってやれ。「言ってみよ。もし、それ（クルアーン*）がアッラー*の御許からのものであり、そしてあなた方がそれを否定したとすれば（、あなた方ほど迷っている者はいないではないか）？（真理と）遠い対立の中にある者よりも、ひどく迷っている者があろうか？」

53. われら*は、彼らに見せよう。それ（クルアーン*）が彼らに真実であることが明らかになるまで、われら*の御徴を彼方に、そして彼ら自身の内に¹。一体、あなたの主*だけで、かれが全てのことの証人ということだけで、（クルアーン*の真実性の証拠は）十分なのではないか？

54. 本当に彼ら（不信仰者*たち）は、自分たちの主*との（死後の）拝謁を、疑わしく思っているのではないか。本当にかれ（アッラー*）は、全てのものを悉く包囲される*お方なのではないか。

وَإِذَا أَعْمَسْنَا عَلَى الْإِنْسَانِ أَعْرَضَ وَنَايَحَانِيهِ
وَإِذَا مَسَّهُ الشَّرُّ فَوَدُّ دُعَاءَ عَرِيضٍ ﴿٥١﴾

قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ كَانَ مِنْ عِنْدَ اللَّهِ نَزْلٌ
كَقُرْآنِهِ مِنْ أَصْلٍ مِمَّنْ هُوَ فِي
شِقَاقٍ بَعِيدٍ ﴿٥٢﴾

سُبُّهُمْ أَلَيْنَا فِي الْأَفَاقِ وَفِي أَنْفُسِهِمْ
حَتَّى يَتَّبِعَنَ لَهُمْ آتُهُ الْحَقُّ أَوْ لَمْ يَكُنْ
بِرَبِّكَ أَنَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ﴿٥٣﴾

أَلَا أُنْهَى فِي مِرْقَةٍ مِنْ لِقَاءِ رَبِّهِمْ أَلَّا يَكُونُوا
بِكُلِّ شَيْءٍ مُجَبِّطِينَ ﴿٥٤﴾

第 42 章
相談章（アッ＝シューラー）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム。
2. アイン・スィーン・カーフ。²
3. そのように（預言者*よ、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*は、あなたに、そしてあなた以前の（預言）者*たちにも啓示³し給う。
4. かれにこそ、諸天にあるものと大地にあるものは属するのであり、かれは至高の*お方、この上なく偉大なる*お方であられる。
5. 諸天は（アッラー*の偉大さと莊嚴さゆえ、）その上方から割れ裂けんばかり。そして天使*たちは彼らの主*の称賛*と共に（かれを）称え*、大地にいる（信仰）者たちのため、赦しを乞う⁴。実にアッラー*こそは赦し深いお方、慈愛深い*お方ではないか。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حَمْدٌ

عَسَقٌ

كَذَلِكَ يُوحِي إِلَيْكَ وَإِلَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِكَ اللَّهُ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ

لَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَهُوَ الْعَلِيُّ الْعَظِيمُ

تَكَادُ السَّمَوَاتُ يَنْقَطِعْنَ مِنْ فَوْقِهِنَّ وَالْمَلَائِكَةُ يُسَبِّحُونَ بِحَمْدِ رَبِّهِمْ وَيَسْتَغْفِرُونَ لِمَنْ فِي الْأَرْضِ ۚ إِنَّ اللَّهَ هُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*冒頭と末尾に見受けられるように、啓示、および預言者*としての使命の真実が主なテーマになっており、その他、アッラーの唯一性*、復活の日*の信仰などの基本的信仰も取り上げられている。また、アッラー*の御力を示す自然界の様々な恩恵の描写や、施し、赦しの心など、信仰者としての具体的な特徴も描写される。スーラ*の名称ともなっている「相談（アーヤ*38 参照）」の必要性も、この流れで言及されたもの。

2 アーヤ*1-2 の文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 つまりアッラーの唯一性*と復活の信仰へと招く、啓示のこと（アッ＝シャウカーニー 4:688 参照）。

4 人間に対する天使*の祈願については、赦し深いお方章 7-9 も参照。

6. かれをよそに庇護者^{ひご しょう}を設け（て崇め^{あが}）た者たち、アッラー*は彼らの（行いを）見守られるお方であり、（使徒^{しと}*よ、）あなたは（警告者であって）彼らの代理人^{だいじん}なのではない。
7. そのように、われら*はあなたにアラビア語のクルアーン^{くわいじ}*を啓示した。（それは）あなたが都市^つの母と、その周辺^{ぎわく}にいる者に警告^{けいこく}を告げ、疑惑^{ぎわく}の余地^{よち}のない集合^{しゅうごう}の日^ひ²を警告するため。（そこにおいて）ある集団^{しゅうだん}は天国にあり、またある集団^{しゅうだん}³は烈火^{れつか}の中にある。
8. また、もしアッラー*がお望みだったならば、かれは彼ら（人々）を（導^{みちび}かれた）一つの共同体にされただろう。しかしかれは、かれがお望みになる者を、そのご慈悲の中にお入れになる。そして不正^{しじ}*者たち、彼らにはいかなる庇護者^{ひご しょう}も援助者もない。
9. いや、一体彼ら（シルク*の徒）は、かれ（アッラー*）をよそに庇護者^{ひご しょう}を設け（て崇め^{あが}）るといえるのか？ そうだとしてもアッラー*こそが（真の）庇護者^{ひご しょう}*であり、かれは死んだものに生を与えられる。そしてかれは、全てのことがお出来なのだ。
10. （人々よ、）あなた方がそこ（宗教）において、何について意見を異にしたにせよ、その裁決^{さいけつ}はアッラー*に属^{ぞく}するのだ。（使徒^{しと}*よ、言え。）「そのお方がアッラー*、我が主^{しゅ}*。かれにこそ、私は全てを委ね^{ゆだね}*、かれにこそ、私はよく（悔悟^{かいご}して）立ち返るのだ」。

وَالَّذِينَ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءَ اللَّهُ
حَفِظَ عَلَيْهِمْ وَمَأْنَتْ عَلَيْهِمْ يَكْفُلُ ①

وَكَذَلِكَ أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ قَوْلَ أَنَا عَرَبِيٌّ فَاعْرِفْ
أَلْقُرْآنَ وَفِيهِ نَذِيرٌ وَمَوْعِظَةٌ لِّلْجَمْعِ لَا
رَيْبَ فِيهِ فَرِيقٌ فِي الْجَنَّةِ وَفَرِيقٌ فِي السَّعِيرِ ②

وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ لَجَعَلَهُمْ أُمَّةً وَاحِدَةً وَلَكِنْ يَدْخُلُ
مَنْ يَشَاءُ فِي رَحْمَتِهِ وَالظَّالِمُونَ مَا لَهُمْ مِنْ وَلِيٍّ
وَلَا نَصِيرٍ ③

أَمِ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءَ قَالَهُ هُوَ الْوَلِيُّ وَهُوَ
يُحْيِي الْمَوْتِ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ④

وَمَا اخْتَلَفْتُمْ فِيهِ مِنْ شَيْءٍ فَحُكْمُهُ إِلَى
اللَّهِ ذَلِكُمُ اللَّهُ رَبِّي عَلَيْهِ تَوَكَّلْتُ وَإِلَيْهِ
أُنِيبُ ⑤

1 「都市の母」「その周辺にいる者」については、家畜章 92 の訳注を参照。

2 つまり復活の日*の懲罰のこと（ムヤッサル 483 頁参照）。

3 前者の「集団」は、アッラー*を信じ、預言者*に従った集団。後者はその逆（前掲書、同頁参照）。

11. (アッラー*は) 諸天と大地の創成者*。かれはあなた方自身の内から、あなた方のために配偶者を創られ、家畜の内からも雌雄をお創りになった。かれはそこにおいて、あなた方を繁茂させるのである。いかなるものも、かれには似ていない¹。そしてかれはよくお聞きになるお方、よくご覧になるお方である。

12. かれにこそ、諸天と大地の鍵は属する²。アッラー*は、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる³。本当にかれは、全てのことをご存知であるのだから。

13. (人々よ、) かれは、かれがヌーフ*に命じた宗教の一部を、あなた方に明らかにした。また、(使徒*よ、) われら*⁴があなたに啓示したものと、イブラーヒーム*とムーサー*とイーサー*⁵に命じたものを。つまり「あなた方は宗教を確立し⁶、そこにおいて分裂してはならない」ということである。
(ムハンマド*よ、) あなたが彼らを招いているもの(タウヒード*)は、シルク*の徒にとって重大であった。アッラー*は、かれがお望みの者をそこ(タウヒード*)へと選び抜かれ、よく(悔悟して)立ち返る者をそこへと導かれる。

فَاطِرُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ جَعَلَ لَكُم مِّنْ أَنْفُسِكُمْ أَزْوَاجًا وَمِنَ الْأَنْعَامِ أَزْوَاجًا يَذُرُّكُمْ فِيهِ لَأَيْسَ كَيْفِيَّةً لِّشَيْءٍ وَهُوَ السَّمِيعُ الْبَصِيرُ ﴿١١﴾

لَهُ مَقَالِيدُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ وَيَقْدِرُ إِنَّهُ يُكَلِّمُ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿١٢﴾

* مَشَرَعَ لَكُم مِّنَ الدِّينِ مَا وَصَّى بِهِ نُوحًا وَالَّذِي أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ وَمَا وَصَّيْنَا بِهِ إِبْرَاهِيمَ وَمُوسَى وَعِيسَى أَنْ أَقِيمُوا الدِّينَ وَلَا تَتَفَرَّقُوا فِيهِ كَبُرَ عَلَى الْمُشْرِكِينَ مَا تَدْعُوهُمْ إِلَيْهِ اللَّهُ يَجْتَبِي إِلَيْهِ مَنْ يَشَاءُ وَيَهْدِي إِلَيْهِ مَنْ يُنِيبُ ﴿١٣﴾

1 アッラー*はその本質、美名、属性、行為において、いかなる創造物にも似ていない(ムヤッサラ 484 頁参照)。ビザンチン章 27 も参照。

2 天地の王権、慈悲と糧の鍵はアッラー*にこそ属する(前掲書、同頁参照)。

3 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 とその訳注も参照。

4 この主語の転換については、食卓章 12 「われら*」の訳注を参照。

5 ここで言及されている五人の使徒*については、部族連合章 7 の訳注を参照。

6 アッラー*のタウヒード*と、かれへの服従、かれのみの崇拜*によって、「宗教を確立」すること(前掲書、同頁参照)。

14. 彼ら（シルク*の徒）が（宗教において）分裂したのは、彼らのもとに知識が到来した後のこと、彼らの間の侵犯ゆえ以外の何ものでもなかった¹。そして定められた期限²までの、あなたの主*からの先んじた御言葉がなかったならば、彼らの間には（早期での懲罰という）裁決が下されていただろう。本当に、彼らの後に啓典を引き継がされた者たち（啓典の民*）は、そこ（宗教と信仰）における大きな疑惑の真っ只中にあるのだ。

15. ならば（使徒*よ）、あなた³はそこ（正しい宗教）へと招き、自分が命じられたようにまっすぐであれ。そして、彼ら（真実に疑念を抱く者たち）の私欲に従ってはならない。また、言うのだ。「私は、アッラー*が啓典として下された（全ての）ものを信じた。そして私は、あなた方の間を公正に取り持つことを命じられたのである。アッラー*は私たちの主*であり、あなた方の主*。私たちには私たちの行い（の報い）があり、あなた方にはあなた方の行い（の報い）がある。（真実が明らかになった後、）私たちとあなた方の間に、議論の余地はない。アッラー*は（復活の日*、）私たちをお集めにな（り、真実でお裁きにな）る。そしてかれにこそ、戻り場所があるのだ」。

وَمَا نَقَرُوا إِلَّا مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَهُمُ الْعِلْمُ بَعِيًّا
بَيْنَهُمْ وَلَوْلَا كَلِمَةُ سُبْحَتٍ مِنْ رَبِّكَ إِلَى
أَجَلٍ مُسَمًّى لَفُضِيَ بَيْنَهُمْ وَإِنَّ الَّذِينَ أُورِثُوا
الْكِتَابَ مِنْ بَعْدِهِمْ لَقَدْ شَكَّ مِنْهُ
مُرِيبٌ ﴿١٤﴾

فَإِنَّكَ فَادِعٌ وَأَسْتَفْتَمُ كَمَا أُمِرْتُ وَلَا
تَتَّبِعْ أَهْوَاءَهُمْ وَقُلْ إِيَّاكُمْ أَمَرْتُ بِمَا أُنْزِلَ اللَّهُ
مِنْ كِتَابٍ وَأُمِرْتُ لِأَعْدِلَ بَيْنَكُمُ اللَّهُ رَبُّنَا
وَرَبُّكُمْ لَنَا أَعْمَلْنَا وَلَكُمْ أَعْمَلْنَا اللَّهُ يَحْكُمُ
بَيْنَنَا وَبَيْنَكُمْ اللَّهُ يَتَجَمَّعُ
بَيْنَنَا وَبَيْنَهُ الْمَصِيرُ ﴿١٥﴾

1 この「知識」とは、「分裂の禁止」「使徒*の到来」「使徒*や啓典」についての知識など、諸説ある（アル＝バイダーウィー5:125 参照）。「侵犯」については、雌牛章 213 とその訳注を参照。

2 この「期限」の解釈には、「復活の日*」「彼らが現世で罰されることになっている日」（アル＝クルトゥビー16:12 参照）「彼らの死期」などの説がある（アル＝バイダーウィー5:125 参照）。

3 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

16. アッラー* (の宗教) について、彼 (預言者^{よげんしゃ} *ムハンマド* の呼びかけ) が (人々に) 応じられ (て、従われ^{したが}) た後、(盾ついで^{たて}) 議論する者たち、彼らの議論はその主* の御許^{ごもと}で脆いものである。そして彼らの上には (現世ではアッラー* からの) お怒りがあがり、(来世では) 厳しい懲罰^{ちやうばつ}があるのだ。

17. アッラー* は真理^{けいてん}と共に啓典^{はかり}と、秤^{はかり} 1 をお下しになったお方。そして (復活の) その時が近いかもしれないこと²を、何があなたに知らせるというのか？

18. それを信じない者たちは、それ (が到来する^{とうらい}) のを性急に求める³。そして信仰する者たちは、それ (の到来^{とうらい}) を怯える者たちであり、それが真実であることを知っている。本当に、その時 (の到来^{とうらい}) について疑わしく思っている者たちはまさしく、遠い迷いの中にあるのだ。

19. アッラー* はその僕たち^{しもべ}に対して靈妙^{れいみょう}な* お方であり、かれがお望みの者^{かて}に糧^{さす}をお授けになる。そしてかれは強力^{いりよく}なお方、偉力ならびない* お方。

20. われら* は、来世^{しゅうかく}の収穫^{しゅうかく}を望んでいた者⁴には誰でも、その収穫^{しゅうかく}に上乘^{うわの}せする。そして現世^{しゅうかく}の収穫 (だけ) を望んでいた者にも、

وَالَّذِينَ يُخَاجَتُونَ فِي اللَّهِ مِنْ بَعْدِ مَا
أَسْتَجِيبَ لَهُمْ جَحِشُهُمْ وَأُحْصِصَ عَنْهُمْ
وَعَلَيْهِمْ عَذَابٌ سَدِيدٌ ﴿١٦﴾

اللَّهُ الَّذِي أَنْزَلَ الْكِتَابَ بِالْحَقِّ وَالْمِيزَانَ
وَمَا يَدْرِيكَ لَعَلَّ السَّاعَةَ قَرِيبٌ ﴿١٧﴾

يَسْتَعْجِلُ بِهَا الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِهَا
وَالَّذِينَ آمَنُوا مُشْفِقُونَ مِنْهَا وَيَعْلَمُونَ
أَنَّهَا الْحَقُّ الْآلِآنَ الَّذِينَ يَسْأَلُونَ فِي
السَّاعَةِ لَفِي ضَلَالٍ بَعِيدٍ ﴿١٨﴾

اللَّهُ لَطِيفٌ بِعِبَادِهِ يَرْزُقُ مَنْ يَشَاءُ وَهُوَ
الْقَوِيُّ الْعَزِيزُ ﴿١٩﴾

مَنْ كَانَ يُرِيدُ حَرْثَ الْآخِرَةِ نَزِدْ لَهُ فِي
حَرْثِهِ وَمَنْ كَانَ يُرِيدُ حَرْثَ الدُّنْيَا نُؤْتِهِ
مِنْهَا وَمَا لَهُ فِي الْآخِرَةِ مِنْ نَصِيبٍ ﴿٢٠﴾

1 この「秤」は、公正さのこと (ムヤッサル 485 頁参照)。鉄章 25 も参照。

2 「復活の日*の近さ」については、蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注も参照。

3 彼らは復活の日*を嘘とし、あり得ないこととして、不信仰と頑迷さから、このように言った (イブン・カスィール 7:197 参照)。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユースス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、階段章 1-2 も参照。

4 来世を信じ、その褒美ゆえに努力する者のこと (アッ=サアディー 756 頁参照)。

そこから与えてやるが、彼には来世において少しの取り分もないのだ。¹

21. いや、一体彼ら（シルク*の徒）には、アッラー*がお許しにもなっていないことを、彼らの宗教として定めた共同者たち²がいるというのか？そして（彼ら^{ちようぼつ}の懲罰^{ゆうよ}の猶予^{さうよ}を定めた）裁断^{さいだん}の御言葉^{おことば}がなければ、彼らの間には裁決^{さいけつ}が下されていただろう³。本当に（アッラー*を信じない）不正*者^{ちようぼつ}たちには（復活の日*）、痛ましい懲罰がある。

22. （使徒*よ、）あなたは（復活の日*に）不正*者^{しと}たちが怯えるのを見る。彼らが（現世^{げんせい}で）稼いだものゆえ、それ（懲罰^{ちようぼつ}）が自分たちに降りかかってくる状況の中で。一方、信仰^{ていえん}し、正しい行い*を行う者たちは、天国の庭園にある。彼らにはその御許に、望むものがあるのだ。それこそは大いなる恩寵^{おんちよう}なのである。

23. それはアッラー*が、信仰して正しい行い*を行うその僕^{しもべ}たちに、吉報^{きつほう}をお告げになっているもの。（使徒*よ、）言うのだ。「私はそのことで、あなた方に見返りを要求しているわけではない⁴。ただ、近親関係における愛情（を、あなた方から求める）だけ」。そして一つの善^{かせ}を稼ぐ者には、われら*がそこに善^{うわの}を上乗せしてやる。本当にアッラー*は赦し深いお方、よく労わられる*お方。

أَمْرُهُمْ شُرَكَاءُ شَرَعُوا لَهُمْ مِنَ الدِّينِ مَا لَوْ بَيَّنَّا لَهُمْ أَنَّهُمْ لَوَلَّا كَلِمَةَ الْفَضْلِ لَفُضُّوا بَيْنَهُمْ وَإِنَّ الظَّالِمِينَ لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٢١﴾

تَرَى الظَّالِمِينَ مُشْفِقِينَ مِمَّا كَسَبُوا وَهُوَ وَاقِعٌ بِهِمْ وَالَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فِي رَوْضَاتٍ الْجَنَّاتِ لَهُمْ مَا يَشَاءُونَ عِنْدَ رَبِّهِمْ ذَلِكَ هُوَ الْفَضْلُ الْكَبِيرُ ﴿٢٢﴾

ذَلِكَ الَّذِي يُبَشِّرُ اللَّهُ عِبَادَهُ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ قُلْ لَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ أَجْرًا إِلَّا الْمَوَدَّةَ فِي الْقُرْبَىٰ وَمَن يَقْرِضْ حَسَنَةً نَّزِدْ لَهُ فِيهَا حَسَنًا إِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ شَكُورٌ ﴿٢٣﴾

1 夜の旅章 18-21 も参照（イブン・カスィール 7:198 参照）。

2 この「共同者たち」とは、不信仰における共同者であり、彼らをそこへと促していたシャイターン*のこと。あるいは、彼らがアッラー*に並べて崇めていた偶像のこと（アル＝カースィミー 14:5237 参照）。

3 このアーヤ*の詳細については、アーヤ*14 とその訳注を参照。

4 この「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

24. いや、一体彼ら(シルクの徒*)は、「彼(ムハンマド*)はアッラー*に対して嘘を捏造した¹」と言うのか？ もし(使徒*よ、あなたがそのようなことをし、)アッラー*がお望みになれば、かれはあなたの心を塞がれよう²。アッラー*は虚妄を無に帰させられ、その御言葉によって真理を確立させられる³。本当にかれは、(人々の)胸の内をご存知であられるのだから。

25. またかれは、(アッラー*だけに服従する)その僕たちから悔悟をお受け入れになり、悪行を大目に見られ、あなた方のすることをご存知のお方。

26. また信仰し、正しい行い*を行う者たちは(アッラー*の呼びかけに)応え(て服従する)のであり、かれはそのご恩寵から彼らに上乗せされる。そして不信仰者*たちには、(復活の日*に)厳しい懲罰があるのだ。

27. もしアッラー*が、その僕たちに糧を豊富に与えられたならば、彼らは地上で度を越した⁴であろう。しかしかれは、彼がお望みになるものを適度に下されるのだ。本当にかれは、その僕たちのことを通曉されるお方、よくご覧になるお方。

أَمْ يَقُولُونَ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ كَذِبًا إِنْ يَشَاءِ اللَّهُ يَخْتِمْ عَلَى قَلْبِكَ وَيَمْحُ اللَّهُ الْأَبْطُلَ وَيُحَقِّقُ الْحَقَّ يَوْمَ تَكْمُلُنَا إِنَّهُ عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿١٤﴾

وَهُوَ الَّذِي يَقْبَلُ التَّوْبَةَ عَنْ عِبَادِهِ وَيَعْفُو عَنِ السَّيِّئَاتِ وَيَعْلَمُ مَا تَفْعَلُونَ ﴿١٥﴾

وَيَسْتَجِيبُ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَيَزِيدُهُمْ مِنْ فَضْلِهِ ۗ وَالْكَافِرُونَ لَهُمْ عَذَابٌ شَدِيدٌ ﴿١٦﴾

* وَلَوْ سَـَّطَ اللَّهُ الرِّزْقَ لِعِبَادِهِ لَبِغَوْا فِي الْأَرْضِ وَلَـٰكِنْ يُنَزِّلُ بِقَدَرٍ مَّا يَشَاءُ إِنَّهُ يَعْلَمُ صُورَةَ مَا تَفْعَلُونَ ﴿١٧﴾

1 つまり彼らは、クルアーン*が嘘だと主張した(ムヤッサル 486 頁参照)。関連するアーヤ*として、家畜章 105、蜜蜂章 103、識別章 4-5、煙霧章 14 も参照。

2 同様のアーヤ*として、真実章 44-47 も参照(イブン・カスィール 7:204 参照)。

3 ここでの「真理」と「虚妄」については、戦利品*章 8 の訳注を参照。

4 この「度を越す」の解釈には、「放埒になり、反抗的になる」「多くのものを与えられれば、更に多くのものを求める」「富ゆえに互いに侵害し合う」「高慢になる」といった諸説がある(アルークルトゥビー 16:27 参照)。

28. かれは、彼らが^{かんぼつ}（旱魃による）絶望の底に^{おちい}陥った後に、慈雨^{じう}を下され、そのご慈悲^{じひ}を^{しやうさん}広められるお方。かれは庇護者^{ひご}*、称賛^{しょうさん}されるべき*お方。

29. 諸天^{しうてん}と大地の創造と、歩行生物^{しゆくせいぶつ}の内、かれがその両方^{さんかい}に散開^{さんかい}させられたもの¹は、かれの（偉大さと御力、権威を示す）御徴^{みしるし}の一つである。そしてかれは（復活の日*）、かれがお望みになる時に、それらを集合させることがお出来になるお方。

30. （人々よ、）いかなる災難^{さいなん}であれ、あなた方に降りかかったものは、あなた方の手が^{かせ}稼いだ（悪）事ゆえのこと²。そして、かれは多く（の悪行）を大目に見られる³。

31. あなた方は地上で、（アッラー*の御力^{おちから}から）逃げられる者ではない。そしてあなた方にはアッラー*の外に、いかなる庇護者^{ひご}も援助者もないのだ。

32. また、山々のように海を進むもの⁴は、かれの（御力、権威を示す）御徴の一つ。

33. もしかれがお望みなら、風^{しず}を鎮められ、それら（の船）は（海の）その表面^{ていりゆう}に停留^{ていりゆう}し続ける。本当にその中にはまさしく、忍耐^{にんたい}*強く感謝深い⁵全ての者への御徴がある。

وَهُوَ الَّذِي يُزِيلُ الْعُقَيْتَ مِنْ بَعْدِ مَا قُضُوا وَيُنْشُرُ
رَحْمَتَهُ وَهُوَ الْوَلِيُّ الْحَمِيدُ ﴿٢٨﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ خَلْقُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا
فِي سِتِّينَ يَوْمًا وَهُوَ عَلَى جَمْعِهِمْ إِذَا يَشَاءُ قَدِيرٌ ﴿٢٩﴾

وَمَا أَصْبَرُكُمْ مِنْ مُصِيبَةٍ فِيمَا كَسَبَتْ أَيْدِيكُمْ
وَيَعْتَوْنَ عَنْ كَثِيرٍ ﴿٣٠﴾

وَمَا أَنْتُمْ بِمُعْجِزِينَ فِي الْأَرْضِ وَمَا لَكُمْ
مِنْ دُونِ اللَّهِ مِنْ وَلِيٍّ وَلَا نَصِيرٍ ﴿٣١﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ الْجَوَارِ فِي الْبَحْرِ كَالْأَعْلَامِ ﴿٣٢﴾

إِنْ يَشَأْ يُسْكِنِ الرِّيحَ فَيَظْلَنَ رَوَاكِدَ عَلَى
ظَهْرِ إِيَّانَ فِي ذَلِكَ لَأَبَيَتْ لِكُلِّ صَبَّارٍ شُكُورٍ ﴿٣٣﴾

1 アッラー*が諸天に散開させられた「歩行生物」の解釈には、「天使」「未知の生物」「そもそも『両方』ではなく、大地だけが意図されている」といった説がある（イブン・ジュザイ 2:303 参照）。また一説に、地上に下りれば歩行する鳥類のこと（イブン・アーシュール 25:97 参照）。

2 関連するアーヤ*として、婦人章 79 とその訳注も参照。

3 蜜蜂章 61、創成者*章 45 も参照。

4 「山々のように…」とは、大きな船のこと（ムヤッサル 487 頁参照）。慈悲あまねき*お方章 24 の訳注も参照。

5 「忍耐*強く感謝深い」については、イブラーヒーム*章 5 の訳注を参照。

34. あるいは、かれは彼らが稼いだもの¹ゆえに、それら（の船）を沈没させられる。そしてかれは、多く（の罪）^{つみ}を大目に見られるのだ。

أَوْ يَوْبَهُمْ يَمَاسِكُوا وَيَعْفُ عَنْ كَثِيرٍ ﴿٣٤﴾

35. われら^{きよもうもち}*の（唯一性^{みしるし}*を示す）御徴^{ごてい}に対して（虚妄^{きょもう}を用いて）議論^{ぎろん}する者たちが、自分たちには（アッラー^{ちようばつ}*の懲罰^{ちようばつ}から）逃げ道一つないことを知るように、（われら^{おぼ}*は彼らを溺れさせるの）である。

وَيَعْلَمُ الَّذِينَ يُجَادِلُونَ فِي آيَاتِنَا مَا لَهُمْ مِنْ حِجْبٍ ﴿٣٥﴾

36. （人々よ、）あなた方がいかなるものを授けられたとしても、（それは）現世の生活の（儚い）楽しみ。そしてアッラー^{みもと}*の御許^{ごしよ}にあるものは、信仰し、自分たちの主^{しゅ}*に全てを委ねる^{ゆだ}*者たちにとって、より善く、より長く続くものなのだ。

فَمَا أُوَيْسُكُمْ مِنْ شَيْءٍ فَتَمَتَّعُوا بِالْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَمَا عِنْدَ اللَّهِ حَيْرٌ وَأَبْقَى لِلَّذِينَ آمَنُوا وَعَلَىٰ رُبِّهِمْ يُتَوَكَّلُونَ ﴿٣٦﴾

37. そして（彼らは）、罪^{つみ}の内の大きなもの²と醜行^{しゆうこう}³を避け、（誰かに悪くされて）怒ってしまった時にも、赦^{ゆる}してやる⁴者たち。

وَالَّذِينَ يَجْتَنِبُونَ كَبِيرَ الْإِثْمِ وَالْفَوَاحِشَ وَإِذَا مَا غَضِبُوا هُمْ يَغْفِرُونَ ﴿٣٧﴾

38. また（彼らは、）その主^{しゅ}*（の唯一性^{ふく}*と服従^{じゆう}の呼びかけ）に応え、礼拝^{れいはい}を遵守^{じゆんしゆ}*し、その諸事が彼らの間の相談（によって決定されるの）であり、われら^{きよもうもち}*が彼らに授けたものの内から（施し^{ほどこ}として）費やす^{つい}⁵者たち。

وَالَّذِينَ اسْتَجَابُوا لِرَبِّهِمْ وَأَقَامُوا الصَّلَاةَ وَأَمْرُهُمْ شُورَىٰ بَيْنَهُمْ وَمِمَّا رَزَقْنَاهُمْ يُنفِقُونَ ﴿٣٨﴾

1 船に乗っている者たちの罪のこと（ムヤッサル 487 頁参照）。アーヤ³⁰*とその訳注も参照。

2 「罪の内の大きなもの」については頻出名・用語解説の「大罪³⁰」を参照。

3 「醜行³⁰」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

4 詳細にされた章 34-35 も参照。

5 「われら³⁰*が…費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

39. また（彼らは）侵害に遭えば、（その侵害に対して）打ち勝つ者たち。

وَالَّذِينَ إِذَا أَصَابَهُمُ الْبَغْيُ هُمْ يَنْتَصِرُونَ ﴿٣٩﴾

40. 一つの悪の報いは、それと同様の一つの悪²。それで（悪を行った者を）大目に見、（その者との関係を）改善するならば、その褒美はアッラー*の御許で確定する。本当にかれは、不正*者たちをお好みにはならないのだから。

وَجَزَاءُ سَيِّئَةٍ سَيِّئَةٌ مِّثْلُهَا فَمَنْ عَفَا وَأَصْلَحَ فَأَجْرُهُ عَلَى اللَّهِ إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الظَّالِمِينَ ﴿٤٠﴾

41. またその不正*の後、（自分に不正*を働いた者に対して）打ち勝つ者、それらの者たちには（そうすることで、）咎められる謂れはない。

وَلَمَنْ انتَصَرَ بَعْدَ ظُلْمِهِ فَأُولَٰئِكَ مَا عَلَيْهِمْ مِنْ سَبِيلٍ ﴿٤١﴾

42. 実に咎められるべきは、人々に不正*を働き、地上において不当に度を越す者たち。それらの者たちには、厳しい懲罰がある。

إِنَّمَا السَّبِيلُ عَلَى الَّذِينَ يَظْلِمُونَ النَّاسَ وَيَبْغُونَ فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ أُولَٰئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٤٢﴾

43. また忍耐*し、赦してやる者こそは、本当にそれこそは、あなた方が決意を固めるべき事柄の内のもの。

وَلَمَنْ صَبَرَ وَغَفَرَ إِنَّ ذَلِكَ لَمِنْ عَزِيزِ الْأَعْمَارِ ﴿٤٣﴾

44. アッラー*が（その者の不正*ゆえに）迷わせ給う者には、かれをおいて、いかなる庇護者もない。そして（使徒*よ、）あなたは（復活の日*）、不正*者たちが懲罰を目の当たりにする時、（こう）言うのを見出すであろう。「（私たちに、現世へ）戻る術はありますでしょうか？」³

وَمَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِنْ وَبِئْسَ مَا يَفْعَلُ وَرَأَى الظَّالِمِينَ لَمَّا رَأَوْا الْعَذَابَ يَقُولُونَ هَلْ إِلَىٰ مَرَدٍّ مِنْ سَبِيلٍ ﴿٤٤﴾

1 不正*や侵害に打ち勝つ力があり、無力でも惨（みじ）めでもない。その一方で預言者*ムハンマド*は、侵害に報いる力がありながら、自分を迫害した者たち、魔術をかけた者、毒殺しようとした者など、自分を害した多くの者たちを赦したものだ（イブン・カシール 7:211 参照）。蜜蜂章 129 も参照。

2 二番目の「悪」は報復のことであり、そもそも「悪」ではないが、表面上の類似点から同じ言い回しが用いられている（アル＝バガウィー 4:151 参照）。雌牛章 178 「キサース刑」についての訳注も参照。

3 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予や、現世への回帰を求める。だが、もちろんそれは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、偽信者*たち章 10-11 も参照。

45. また(使徒*よ)、あなたは彼らが、そこ(業火)に晒されるのを見る。彼らは屈辱ゆえになす術もなく、(懲罰を、その恐怖ゆえに)ちらちらと横目で見ると、(現世で)信仰していた者たちは(これを見て)、言う。「本当に(真の)損失者たちとは、復活の日*に自分たちとその家族を(、業火に入れることによって)損ねた者たちのこと。まさに不正*者たちは、永遠の懲罰の中にあるのではないか」。

46. また、彼らには(復活の日*)、アッラー*をおいて彼らを助けてくれる、いかなる庇護者もない。アッラー*が(その者の不信仰ゆえに)迷わせ給うた者には、いかなる道¹もないのだ。

47. (不信仰者*たちよ、)アッラー*からそれを押戻す術のない(復活の日*)が来る前に、あなた方の主*に(信仰と服従によって)応えるのだ。その日、あなた方には(懲罰からの)いかなる避難所もなく、あなた方にはいかなる否認もない²。

48. それで、たとえ彼らが(信仰から)背を向けても、(使徒*よ、)われら*はあなたを彼らの監視役³として遣わしたわけではない。あなたの使命は、(啓示の)伝達のみ。

وَرَبُّهُمْ يُعْرِضُونَ عَلَيْهَا حَشِيعَاتٍ مِّنَ الدَّلِّ يَنْظُرُونَ مِنْ ظُرْفٍ خَفِيٍّ وَقَالَ الَّذِينَ آمَنُوا إِنَّ الْخَبِيرِينَ الَّذِينَ خَيْرٌ وَأَنفُسُهُمْ وَأَهْلِيهِمْ يَوْمَ الْقِيَمَةِ ۖ أَلَا إِنَّ الظَّالِمِينَ فِي عَذَابٍ مُّقِيمٍ ﴿٤٥﴾

وَمَا كَانَ لَهُمْ مِنْ أَوْلِيَاءَ يَنْصُرُوهُمْ مِّنْ دُونِ اللَّهِ وَمَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَهُوَ مِنْ سَبِيلٍ ﴿٤٦﴾

أَسْتَجِيبُوا لِرَبِّكُمْ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَ يَوْمٌ لَا مَرَدَّ لَهُ مِنَ اللَّهِ مَا لَكُم مِّنْ مَّلْجَأٍ يَوْمَ يُنْفَخُ مَا لَكُمْ مِنْ تَكْبِيرٍ ﴿٤٧﴾

فَإِنْ أَعْرَضُوا فَقَدْ أَنزَلْنَاكَ عَلَيْهِمْ حَفِظًا إِنَّ عَلَيْكَ إِلَّا الْبَلَاغُ وَإِنَّا إِذَا أَذَقْنَا الْإِنْسَانَ مِنَّا رَحْمَةً فَحَمَّ بِهَا وَانْصَبْهُمْ سَيْئَةً يُمَا قَدَّمَتْ أَيْدِيهِمْ فَإِنَّ

1 現世では真理へと至る「道」、来世では天国へと至る「道」のこと(ムヤッサル 488 頁参照)。

2 この解釈には、「その日、彼らに襲いかかる懲罰を否認する者はいない」「自分たちの罪を否認する者はいない」「いかなる援助者もない」といった諸説がある(アル=クルトウビー 16:47 参照)。

3 「監視役」については、婦人章 80 の訳注を参照。

われら*が人間に、われら*の御許^{みもと}から慈悲^{じひ}¹を味わわせれば、彼らはそれに有頂天^{うちようてん}になる。そしてもし悪^{みずか}²が、自らの手が行った（悪）事ゆえに彼らを襲^{おそ}えば（、彼らは恩知らずになる）。本当に人間は、不信心^{おん}この上ない。

الْإِنْسَانَ كَفُورًا ﴿٤٨﴾

49. アッラー*にこそ、諸天と大地の王権^{ぞく}は属する。かれはお望みのものを創^{つく}られる。お望みの者には女（子のみ）を授^{さづ}けられ、お望みになる者には男（子のみ）を授^{さづ}けられるのだ。

لِلَّهِ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يُخْلُقُ مَا يَشَاءُ يَهَبُ لِمَنْ يَشَاءُ إِنْتَا وَيَهَبُ لِمَنْ يَشَاءُ الذَّكَورَ ﴿٤٩﴾

50. あるいは、かれは（お望みの者に）男子と女子（の両方）を、組み合わせ^{さず}（て授け）られる。そしてお望みの者を、不妊^{さず}にされるのだ。本当にかれは全知者、全能者である。

أَوْ يَرْزُقُهُمْ ذُكْرًا وَإِنْتَا وَيَجْعَلُ مَنْ يَشَاءُ عَقِيمًا إِنَّهُ عَلِيمٌ قَدِيرٌ ﴿٥٠﴾

51. アッラー*が人間に語りかけ^{たま}給うことなどは、あり得べくもない。しかし啓示^{けいじ}によるものか、または覆い^{おほ}の向こうから（語りかけられるもの）、あるいは御使^{つか}いを遣^{つか}わせて、かれのお許^{ゆる}しと共に、かれがお望みのことを啓示^{けいじ}し給う場合は別である³。本当にかれは、至高の*お方、英知あふれる*お方であられる。

*وَمَا كَانَ لِنَبِيٍّ أَنْ يَكْلِمَهُ اللَّهُ إِلَّا وَحْيًا أَوْ مِنْ وَرَآئِ حِجَابٍ أَوْ يُرْسِلَ رَسُولًا فَيُوحِيَ بِإِذْنِهِ مَا يَشَاءُ إِنَّهُ عَلَىٰ حَكِيمٍ ﴿٥١﴾

1 ここでの「慈悲」とは、健康、豊かな糧、地位などのこと（アッ=サアディー761頁参照）。

2 この「悪」とは、病気、貧困などのこと（前掲書、同頁参照）。

3 「啓示によるもの」とは、啓示を使徒の心の中に下すこと。「覆いの向こうから語りかける」とは、ムーサー*が経験したように、見えないところから直接語りかけられること。「御使いを遣わせる」とは、ジブリール*などの天使*を介して、アッラー*が語りかけること（前掲書 762頁参照）。

52. また（預言者*よ）、われら*はそのように、われら*の命令による魂^{たましい}を、あなたに啓示^{けいし}した。あなたは（それ以前、）啓典が、そして信仰が何かを、知らなかったのだ。しかしわれら*はそれ（クルアーン*）を、われら*が望む僕たちを導く、光としたのである。（使徒*よ、）本当にあなたはまさしく、まっすぐな道（イスラーム*）へと導くのだ²。

53. 諸天と大地にあるもの（全て）が属^{ぞく}するお方（アッラー*）の道へ。アッラー*の御許^{みもと}にこそ、（全ての）物事は戻り行くので（あり、各人はその行いによって、報^{むく}いを受けるので）はないか。

وَكَذَلِكَ أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ رُوحَانًا مِمَّا كُنْتَ تَدْرِي مَا الْكِتَابُ وَلَا الْإِيمَانُ وَلَكِنْ جَعَلْنَاهُ قُرْآنًا نَهْدِي بِهِ مَن نَّشَاءُ مِنْ عِبَادِنَا وَإِنَّكَ لَهَادِي إِلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ ﴿٥٢﴾

صِرَاطَ اللَّهِ الَّذِي لَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ ۚ أَلَا إِلَى اللَّهِ تَصِيرُ الْأُمُورُ ﴿٥٣﴾

1 「われら*の命令による魂を、あなたに啓示した」とは、奇跡的な文体と驚異的な構成からなるクルアーン*を、かれがお望みの形で、お望みの者に下されたこと（アル＝クルトゥビー 16:55 参照）。ここで啓示が「魂」と呼ばれている理由については、赦し深いお方章 15 の訳注を参照。

2 前者の「導き」は、「導きを授けること」であり、アッラー*だけに可能な特別な導きのこと。一方、後者の「導き」は「説明、案内による導き」であり、一般的な導きのこと（アッ＝シャンキーティー 7:21 参照）。雌牛章 272、蜜蜂章 37、ユースス*章 99-100、蟻章 80、物語章 56 とその訳注も参照。

第43章
金の装飾章（アッ＝ズフルフ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム²。
2. 解明する啓典³に誓って。
3. 本当にわれら*はそれを、アラビア語のクルアーン*とした。あなた方が（その意味を）、弁えることが出来るように。
4. そして本当にそれは、われら*の御許にある啓典の母⁴の中で、実に気高く、完全無欠⁵なものなのである。
5. 一体、あなた方が（不信仰に）度を越した民だからといって、われら*があなた方への教訓（クルアーン*の啓示）を見合わせ、保留しておくというのか？
6. われら*は昔の人々に、どれだけ多くの預言者*を遣わしたことか。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حَم

وَالْكِتَابِ الْمُبِينِ ①

إِنَّا جَعَلْنَاهُ قُرْآنًا عَرَبِيًّا لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ②

وَاللَّهُ فِي أُولَى الْأَنْبِيَاءِ عَلِيمٌ ③
حَكِيمٌ ④

أَفَقَصِرْ عَنْكُمْ الذِّكْرُ صَفْحًا أَنْ كُنْتُمْ قَوْمًا مُّسْرِفِينَ ⑤

وَكَمْ أَرْسَلْنَا مِنْ نَبِيِّ فِي الْأَوَّلِينَ ⑥

- 1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、アーヤ*35 に登場する「金の装飾」という語による。クルアーン*の奇跡性、アッラーの唯一性*と御力の証明に始まるが、スーラ*の全体を流れているテーマは、シルク*を始めとした、ジャーヒリヤ*の迷信の打破（だは）と信仰の矯正（きょうせい）というテーマである。過去の不信仰の民*と、イブラーヒーム*、ムーサー*など、彼らに遣わされた使徒*たちの話も、この流れで取り上げられたもの。最後は天国と地獄の描写、不信仰者*たちに対する警告によって締めくくられる。
- 2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。
- 3 「解明する啓典」については、ユースフ*章1の訳注を参照。
- 4 「啓典の母」とは、クルアーン*がそこから写された「啓典の原版」である、守られし碑板*のこと（アッ＝タバリ－9:7263 参照）。出来事章 77-78、星座章 21-22 も参照。
- 5 「完全無欠」については、ユースス*章1の訳注を参照。

7. そして彼らのもとに預言者^{よ げん し ゃ}*が訪^{おとず}れた時は決まって、彼らは彼（預言者^{よ げん し ゃ}*）のことを嘲笑^{ちやうしやう}したものだ^たった。
8. それでわれら^は*は、彼ら¹よりも強力な者たちを滅^{はろ}ぼした。昔の人々の有り様は、（不信仰ゆえの破滅^{はめつ}という形で）過^すぎ去^りっていったのである。
9. （使徒^{しと}*よ、）もしあなたが彼ら（シルク^{そうぞう}*の徒）に、「諸天と大地を創造^{そうぞう}したのは誰か？」と尋ねたならば、彼らはきっと（こう）言^いっただろう。「偉力^{いりよく}ならびなく*、全知のお方が、それらをお創りになったのだ」。
10. （アッラー*は、）あなた方のために大地を平坦^{へいたん}にされ、あなた方のためにそこに（多くの）道をお通しになったお方。あなた方^{みちび}が導かれるように、と。
11. また（アッラー*は）、天から適量の（雨）水を下されたお方。そしてわれら²はそれで、死んだ土地を生き返す。同様に、あなた方は（復活の日*、死んで砂となった後に元通りになって、大地から）出されるのである。
12. また（アッラー*は、生物や植物に）あらゆる種類をお創りになり、あなた方のために船^{かふく}や家畜といった、あなた方が乗る者を創られたお方。

وَمَا يَأْتِيهِمْ مِنْ نَبِيٍّ إِلَّا كَانُوا بِهِ
يَسْتَهْزِءُونَ ﴿٧﴾

فَأَهْلَكْنَا أَشَدَّ مِنْهُمْ بَطْشًا وَمَضَى
مِثْلُ الْأَوَّلِينَ ﴿٨﴾

وَلَيْن سَأَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
لَيَقُولَنَّ خَلَقَهُنَّ الْعَزِيزُ الْعَلِيمُ ﴿٩﴾

الَّذِي جَعَلَ لَكُمُ الْأَرْضَ مَهْدًا وَجَعَلَ
لَكُمْ فِيهَا سُبُلًا لَعَلَّكُمْ تَهْتَدُونَ ﴿١٠﴾

وَالَّذِي نَزَّلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً يَقْدَرِ
فَأَنْشُرَ نَابِهَ بَلَدَةٍ مَيِّمًا كَذَلِكَ تُخْرَجُونَ ﴿١١﴾

وَالَّذِي خَلَقَ الْأَزْوَاجَ كُلَّهَا وَجَعَلَ لَكُمُ
فِي الْفُلْكِ وَالْأَنْعَامِ مَا تَرْغَبُونَ ﴿١٢﴾

1 この「彼ら」とは、預言者*ムハンマド*の民、つまりマッカ*の不信仰者*たち（ムヤッサル 489 頁参照）。

2 連続した文章での主語の変換については、食卓章 12 の訳注を参照。

13. (それは) あなた方がその上に乗るためであり、あなた方がその上に乗った時には自分たちの主*の恩恵を思い起こし、(こう)言うためである。「私たちに、これを仕えさせて下さったお方に、称え*あれ。私たちには、それを屈従させることは叶いませんでした。

14. そして本当に私たちは、私たちの主*の御許にこそ、まさしく戻り行く身なのです」。

15. 彼ら(シルクの徒*)はかれ(アッラー*)に、その僕たちの内からの分身があるとした¹。本当に人間は、紛れもない不信心者である。

16. いや、一体かれ(アッラー*)が、ご自身がお創りになるものの内から娘たちをお選びになり、あなた方には男子を特別に割り当てられたと?²

17. 彼らの内のある者は、自分が慈悲あまねき*お方(アッラー*)に対して譬えを挙げたものの古報³を告げられれば、(悲しみで)意気消沈し、その顔は黒く翳ってしまうのに。

18. 一体、議論において明確でもなく、飾り立てられつつ育てられた者⁴を(、アッラー*の子だなどとするのか)?

لَيْسُوا عَلَىٰ ظُهُورِهِمْ ذُرِّيَّتُهُمْ بِمَا كَانُوا يُكَفِّرُونَ
إِذَا اسْتَوَيْنَا عَلَيْهِ وَنَقُولُوا سُبْحَنَ الَّذِي
سَخَّرَ لَنَا هَذَا وَمَا كُنَّا لَهُ مُقْرِنِينَ ﴿١٣﴾

وَأَنَّا إِلَىٰ رَبِّنَا لَمُنْقَلِبُونَ ﴿١٤﴾

وَجَعَلُوا اللَّهَ مِنْ عِبَادِهِ جُزْءًا إِنَّ الْإِنْسَانَ
لَكَفُورٌ مُّبِينٌ ﴿١٥﴾

أَمْ لَتَأْخُذَ مِمَّا يَخْلُقُ بَنَاتٍ وَأَصْفَحَكُمْ
بِالْبَيِّنِ ﴿١٦﴾

وَإِذَا بُشِّرَ أَحَدُهُمْ بِمَا صَرَبَ لِلرَّحْمَنِ مَثَلًا
ظَلَّ وَجْهَهُ مُسْوَدًّا وَهُوَ كَظِيمٌ ﴿١٧﴾

أَوْ مَنْ يَنْشُرُنِي فِي الْحِلْيَةِ وَهُوَ فِي الْخِصَامِ
غَيْرُ مُبِينٍ ﴿١٨﴾

1 アーヤ*16にある通り、「天使*たちはアッラー*の娘である」という言葉のこと(ムヤッサル 490 頁参照)。

2 このアーヤ*の裏にある背景については、蜜蜂章 57 とその訳注を参照。

3 つまり、女兒誕生の知らせのこと(前掲書、同頁参照)。「慈悲あまねき*お方に対しての譬(たとえ)」については、この前のアーヤ*とその訳注を参照。

4 喋(しゃべ)ることも出来ない、金銀や宝石などで作られた彼らの偶像のことを指しているという説もある(アル=クルトゥビー 16:72 参照)。

19. 彼ら（シルク*の徒）は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）の僕である天使*たちを、女（娘）とした。一体彼らは、彼ら（天使*たち）の創造に立ち会っていたとでも？（天使*はアッラー*の娘である、という）彼らの証言は書きとめられ、彼らは（そのことについて来世で）問われることになる。

20. また、彼らは言った。「もし慈悲あまねき*お方（アッラー*）がお望みだったら、私たちは彼ら^{あが}を崇めたりはしなかった²」。彼らにはそれについて、いかなる知識もない。彼らは（根拠もなく）、ただ決めつけているに過ぎないのだ。

21. いや、一体われらが彼らに、それ（クルアーン*）以前に啓典を授けたのであり、彼らがそれを遵守し（、使徒*に対する自分たちの主張の根拠とし）ているとでも？

22. いや、彼らは言ったのだ。「本当に私たちは、ご先祖様が宗教に属しているのを見出した。私たちは、彼らの（辿った）道筋の上に、導かれた者なのである」。

23. また同様に（使徒よ、）あなた以前、われらが町に警告者³を遣わした時には決まって、その（町の）贅沢者たちは（こう）言ったものなのだ。「本当に私たちは、ご先祖様が宗教に属しているのを見出した。私たちは、彼らの（辿った）道筋を継ぐ者なのだ」。

وَجَعَلُوا الْمَلَائِكَةَ الَّذِينَ هُمْ عِنْدَ الرَّحْمَنِ
إِنْتَا أَشْهَدُوا خَلَقَهُمْ سَتُكْتَبُ
شَهَادَتُهُمْ وَيُسْأَلُونَ ﴿١٩﴾

وَقَالُوا لَوْ شَاءَ الرَّحْمَنُ مَا عَبَدْنَاهُمْ مَّا لَهُمْ
بِذَلِكَ مِنْ عِلْمٍ إِنْ هُمْ إِلَّا يَخْرُصُونَ ﴿٢٠﴾

أَمْ أَنْتُمْ خَيْرُ كِتَابٍ مِّن قَبْلِهِ فَهُمْ بِهِ
مُسْتَمْسِكُونَ ﴿٢١﴾

بَلْ قَالُوا إِنَّا وَجَدْنَاهُ آبَاءَ نَاعِلٍ أُمَمَةٍ
وَوَنَّا عَلَىٰ عَادَتِهِمْ مُّقْتَدُونَ ﴿٢٢﴾

وَكَذَلِكَ مَا أَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ فِي قَرْيَةٍ مِّنْ نَّذِيرٍ
إِلَّا أَقَالُ مَتَّعُوهُمْ إِنَّا وَجَدْنَاهُ آبَاءَ نَاعِلٍ أُمَمَةٍ
وَوَنَّا عَلَىٰ عَادَتِهِمْ مُّقْتَدُونَ ﴿٢٣﴾

1 「彼ら」とは、天使*たち、あるいは偶像のこと（アル＝バガウィー4:157 参照）。

2 同様のアーヤである、家畜章 148 とその訳注を参照。

3 不信仰者*には懲罰が下るという「警告者」のこと（ムヤッサル 491 頁参照）。

24. 彼¹は言った。「私が、あなた方^{みいだ}が見出したあなた方の先祖のものよりも正しい^{みちび}導きを携えて、あなた方のもとに到来^{とうらい}したとしても（、そうするの）か？」
25. ゆえに、われら^{ちようばつ}*は彼らに（懲罰^{ほうふく}で）報復した。ならば見てみよ、（アッラー^{みしるし}*の御徴とその使徒^{しと}*たちを）嘘つき呼ばわりする者たちの結末が、いかなるものだったかを？
26. イブラーヒーム^{あが}*が、彼の父と民に（こう）言った時のこと²（を思い出させよ）。「本当に私は、あなた方が（アッラー^{むえん}*をよそに）崇めているものから無縁です。
27. 但し、私^{ただ}を創成^{そうせい}されたお方^{みちび}³は別ですが。本当にかれは、私をお導きになるでしょうから」。
28. 彼（イブラーヒーム^{しと}*）はそれ⁴を、彼の後（世）における永遠の言葉とした。（それは）彼らが、（不信仰から信仰へと）戻^{もど}って来るようにするためである。
29. いや（、使徒^{しと}*よ）、われら^{あが}*はそれらの者たちとその先祖^{しと}⁵を、彼らのもとに真理と解明の使徒^{あが}⁶が到来するまで、（現世において）楽しませておいたのだ。

قُلْ أُولَٰئِكَ جَاءُواكُمْ بِإِهْدَىٰ مِمَّا وَجَدْتُمْ
عَلَيْهِمْ آيَاتُكُمْ قَالُوا إِنَّا بِمَا أُرْسِلْتُمْ بِهِ
كَافِرُونَ ﴿٢٤﴾

فَأَنْقَمْنَا مِنْهُمْ فَأَنْظُرْ كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ
الْمُكَذِّبِينَ ﴿٢٥﴾

وَإِذْ قَالَ إِبْرَاهِيمُ لِأَبِيهِ وَقَوْمِهِ إِنَّنِي بَرَاءٌ مِّمَّا
تَعْبُدُونَ ﴿٢٦﴾

إِلَّا الَّذِي فَطَرَنِي فَإِنَّهُ سَيَهْدِينِ ﴿٢٧﴾

وَجَعَلَهَا كَلِمَةً بَاقِيَةً فِي عَقِبِهِ لَعَلَّهُمْ
يَرْجِعُونَ ﴿٢٨﴾

بَلْ لَمَنَعْتُ هَٰؤُلَاءَ وَآلِهَهُمْ حَتَّىٰ جَاءَهُمُ الْحَقُّ
وَرَسُولٌ مُّبِينٌ ﴿٢٩﴾

1 この「彼」は、預言者*ムハンマド*を含む、使徒*たちのこと。言葉を向けられた相手は、アーヤ*22・23のような主張をしていた者たち（ムヤッサル 491 頁参照）。

2 イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70-89、整列者章 85-98 も参照。

3 頻出名・用語解説の「創成者*」も参照。

4 「それ」とは、アッラー*以外に崇拜*すべきいかなるものもなし、という言葉（前掲書、同頁参照）。

5 預言者*ムハンマド*の時代のシルクの徒*と、その先祖のこと（前掲書、同頁参照）。

6 「真理」はクルアーン*、「解明の使徒*」とは、人々が必要としている宗教上の物事を明らかにする使徒*のこと（前掲書、同頁参照）。

30. そして彼らのもとに真理がやって来た時、
彼らは言った。「これは魔術であり、実に
私たちはその否定者である」。
31. また、彼らは言った。「どうしてこのクル
アーン*は、二つの町の（いずれかの）偉大
な者に¹に下らなかったのか？」
32. 一体彼らが、あなたの主*のご慈悲²を（望
む者に）割り当てるといえるのか？ われら
*は、現世の生活における彼らの生活（の糧）
を彼らの間に割り当て、彼らがお互いに仕
える身となる³べく、彼らの内のある者を別
の者よりも高い位に上げたのである。
（使徒*よ、）あなたの主*のご慈悲⁴は、彼
らが（現世で）集めている（つまらない）
ものよりも善いのだ。
33. もし、人々が（不信仰な）一つの共同体と
なってしまうのでなければ、われら*は慈悲
あまねき*お方（アッラー*ご自身）を否定
する者の家に、銀の屋根と、彼らがそこへ
と昇る階段^{のぼ}を与えたであろう。⁵

وَلَمَّا جَاءَهُمُ الْحَقُّ قَالُوا هَذَا سِحْرٌ وَإِنَّا بِهِ
كَاذِبُونَ ﴿٣٠﴾

وَقَالُوا لَوْلَا نُزِّلَ هَذَا الْقُرْآنُ عَلَى رَجُلٍ مِّنَ
الْقَرْيَتَيْنِ عَظِيمٍ ﴿٣١﴾

أَمْ هُمْ يَقْسِمُونَ رَحْمَتَ رَبِّكَ نَحْنُ قَسَمْنَا بَيْنَهُمْ
مَعِيشَتَهُمْ فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَرَفَعْنَا بَعْضَهُمْ
فَوْقَ بَعْضٍ دَرَجَاتٍ لِّيَتَّخِذَ بَعْضُهُم بَعْضًا
سُجْرًا وَرَحْمَتَ رَبِّكَ خَيْرٌ مِّمَّا يَجْمَعُونَ ﴿٣٢﴾

وَلَوْلَا أَن يَكُونَ النَّاسُ أُمَّةً وَاحِدَةً لَّجَعَلْنَا
لِمَن يَكْفُرُ بِالرَّحْمَنِ لِيُؤْتِيَهُمْ سُقُوطًا مِّنَ
السَّمَاءِ وَمَعَازٍ عَلَيْهَا يَظْهَرُونَ ﴿٣٣﴾

1 マッカ*かターイフにおける、彼ら不信仰者*らの目に偉大な者、という意味（イブン・カス
ィール 7:225 参照）。具体的に誰を指しているか、ということについては諸説ある。家畜
章 124、物語章 68 とその訳注も参照。

2 この「ご慈悲」は、預言者*としての使命を指す（前掲書、同頁参照）。

3 各々の必要において依存し合い、それによって親愛と団結が生まれ、世界は秩序立ったも
のとなる（アル＝バイダーウィー5:145 参照）。家畜章 165 「…高く位置づけられたお方」
の訳注も参照。

4 この「ご慈悲」の解釈には、「預言者*としての使命」「天国」「来世での褒美」などの諸説
あり（アル＝クルトゥビー16:84 参照）。家畜章 124 とその訳注も参照。

5 全ての人々が現世へと傾倒し、来世を放棄することによって不信仰に陥（おちい）るので
なければ、彼らに現世でそれらのものを授けられただろう、ということ（アル＝クルトゥ
ビー16:84）。

34. また彼らの家に、（銀の）^{とびら}扉と、彼らが寄^よりかかる寝台を。
35. また、金の装飾^{そうしよく}を。それら全ては、現世の生活の（儚い）^{はかな}楽しみでしかない。そして来世（の安寧）^{あんねい}はあなたの主^{しゅ}*の御許^{みもと}で、敬虔^{けいけん}な*者たちのためにあるのである。
36. 慈悲^{じひ}あまねき*お方（アッラー*）の教訓（クルアーン*）に目をつむる者があれば、われら*はその者にシャイターン*^{あいてん}をあてがい、彼（シャイターン*）はその者の相棒となろう。
37. また、本当に彼ら（シャイターン*）は、彼ら（教訓に目をつむる者）のことを（真理の）道から、まさしく^{はば}阻むのである。彼らは、自分たちが導^{みちび}かれた者だと思っているのだが。
38. やがて彼（教訓に目をつむる者）は（復活の日*、清算のために）われら*のもとにやって来ると、（相棒に、こう）言う。「ああ、私とあなたの間に、東西（ほど）^{へだ}の隔たりがあったらよかったのに！（あなたは）何と醜悪^{しゅうあく}な相棒^{あいてん}であろうか」。
39. この日、（現世でシルク*という）不正*^{ちようぼう}を（共に）働いたゆえ、あなた方が懲罰の中で一緒になっても、そのことがあなた方を益^{えき}することはない。
40. 一体（使徒*^{しと}よ）、あなたは聾^{つんぼ}に聞かせ、盲人^{もうじん}¹と明らかな迷いの中にある者を導く^{みちび}²というのか？

وَابْوِيْتَهُمُ آبُؤَابَا وَسُرُرًا عَلَيْهَا يَتَكَبَّرُونَ ﴿٣٤﴾

وَزُخْرُفًا وَإِنْ كُلُّ ذَلِكَ لَمَّا مَتَعَ الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَالْآخِرَةُ عِنْدَ رَبِّكَ لِلْمُتَّقِينَ ﴿٣٥﴾

وَمَنْ يَعْشُ عَنْ ذِكْرِ الرَّحْمَنِ نُقَيِّضْ لَهُ شَيْطَانًا فَهُوَ لَهُ قَرِينٌ ﴿٣٦﴾

وَأَنَّهُمْ لَصُدُوقٌهُمْ عَنِ السَّبِيلِ وَيَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ مُهُتَدُونَ ﴿٣٧﴾

حَتَّىٰ إِذَا جَاءَنَا قَالَ يَلَيْتَ بَيْنِي وَبَيْنَكَ بَعْدَ الْمُشْرِقَيْنِ فَيَلْسَنُ الْقَرِينُ ﴿٣٨﴾

وَلَنْ يَنْفَعَكَ يَوْمَ إِذْ ظَلَمْتُمْ أَنتُمْ فِي الْعَذَابِ مُشْتَرِكُونَ ﴿٣٩﴾

أَفَأَنْتَ تُسْمِعُ الصُّمَّ أَوْ تَهْدِي الْعُمْى وَمَنْ كَانَ فِي ضَلَالٍ مُبِينٍ ﴿٤٠﴾

1 この「聾」と「盲人」については、雌牛章 7、18、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

2 この「導き」については、雌牛章 272 とその訳注を参照（イブン・カスィール 7:228 参照）。

41. (使徒*よ、) もし、われら*があなたを(、不信仰の民*に対する勝利の前に)他界させたとしても、本当にわれら*は(来世における)彼らへの報復者である。

فَإِنَّمَا نَذْهَبَنَّ بِكَ فَإِنَّا مِنْهُمْ مُنْتَقِمُونَ ﴿٤١﴾

42. あるいは、われら*が彼らに約束したもの¹をあなたに見せてやるとしても、本当にわれら*は(早かれ遅かれ、)彼らを掌握する者なのだ。

أَوْ يُرِيكَ الَّذِي وَعَدْنَاهُمْ فَإِنَّا عَلَيْهِمْ مُّقْتَدِرُونَ ﴿٤٢﴾

43. ならば(使徒*よ)、あなたに啓示されたものを固守せよ。本当にあなたは、まっすぐな道(イスラーム*)の上にあるのだから。

فَأَسْتَمِيعَ بِالَّذِي أَوْحَى إِلَيْكَ إِنَّكَ عَلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ ﴿٤٣﴾

44. また、本当にそれ(クルアーン*)はまさしく、あなた方とあなたの民に対する榮譽²なのだ。あなた方は(そのことに関するアッラー*への感謝と、その実践について)問われることになるう。

وَإِنَّهُ لَذِكْرٌ لَّكَ وَلِقَوْمِكَ وَسَوْفَ تُسْأَلُونَ ﴿٤٤﴾

45. また(使徒*よ、)われら*の使徒*たちの内、われら*があなた以前に遣わした者たち(の信徒である啓典の民*)に、尋ねてみよ。一体われら*が、慈悲あまねき*お方(アッラー*)をよそに崇められる神々³を設けたのか、と。

وَسَقَلْ مَنْ أَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ مِنْ رُسُلِنَا أَجَعَلْنَا مِنْ دُونِ الرَّحْمَنِ آلِهَةً يُعْبَدُونَ ﴿٤٥﴾

1 アルーバガウィー*によれば、大半の解釈学者はこれをバドルの戦い*のこととしている(4:162 参照)。

2 クルアーン*は預言者*ムハンマド*の民の言葉で下ったのであり、それゆえに彼らはそれに対する最もよい理解者・実践者たるべきである。その意味でクルアーン*は彼らへの「榮譽」なのであり、よい先人であったムハージールーン*の精鋭たち、彼らと同様の者たち、彼らを踏襲(とうしゅう)した者たちはその好例である(イブン・カシール 7:229 参照)。預言者*たち章 10、信仰者たち章 71 とその訳注も参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

46. われら*は確かにムーサー*を（彼の正しさを示す）われら*の御徴^{みしるし}と^{うか}共に、フィルアウン*とその有力者たちに遣わした。そして彼（ムーサー*）は、言ったのだ。「本当に私は、全創造物の主*の使徒*^{しゆしと}なのです」。
47. それで彼（ムーサー*）が、われら*の御徴^{みしるし}を携^{たずさ}えて彼らのもとに^{とうらい}来ると、どうだろうか、彼らはそれ（御徴^{みしるし}）を笑い飛ばした。
48. また、われら*が彼らに御徴^{みしるし}を見せる時、それは決まってそれに先行するものよりも大きなものとなった。そしてわれら*は、彼らを懲罰^{ちやうばつ}で捕らえたのである。彼らが、（不信仰から信仰へと）^{もど}戻るようにと。²
49. 彼ら（フィルアウン*たち）は、（ムーサー*に向かって）言った。「魔術師^{まじゅつ}よ、私たちのため、あなたの主*に、かれがあなたに約束されたもの^{ちようばつ}で^の祈^かてくれ。（そうすれば、）本当に私たちは必ず、導^{かな}かれた者となるから」。
50. それでわれら*が彼らから懲罰^{ちやうばつ}を取り除けてやると、どうであろう、彼らは（約束を）破るのだ。
51. フィルアウン*は、自分の民に呼びかけた。彼は言った。「我が民よ、私にこそエジプトの王権^{きん}は属^{ぞく}し、これらの河川は私の（宮殿^{きやう}の）下から流れているのではないか？ 一体、あなた方は（我が偉大さと、ムーサー*の無力さを）見ないのか？

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا مُوسَىٰ بِآيَاتِنَا إِلَىٰ فِرْعَوْنَ وَمَلَئِهِ فَقَالَ إِنِّي رَسُولُ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٤٦﴾

فَلَمَّا جَاءَهُمْ بِآيَاتِنَا إِذَا هُمْ مِنْهَا يَضْحَكُونَ ﴿٤٧﴾

وَمَا نُرِيهِمْ مِنْ آيَةٍ إِلَّا هِيَ أَكْبَرُ مِنْ أُخْتِهَا وَأَخَذْنَاهُمْ بِالْعَذَابِ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٤٨﴾

وَقَالُوا إِنَّا إِلَهُ السَّاحِرِ أَدْعُ لِنَارِكَ بِمَا عَاهَدَ عِنْدَكَ إِنَّا لَمُهْذُوتُونَ ﴿٤٩﴾

فَلَمَّا كَشَفْنَا عَنْهُمْ الْعَذَابَ إِذَا هُمْ يَنْكُتُونَ ﴿٥٠﴾

وَنَادَىٰ فِرْعَوْنُ فِي قَوْمِهِ قَالَ يَنْقُورُ الْبَاسُ لِي مُلْكُ مِصْرَ وَهَٰذَا لَأَنْهَرُ نَجْرِي مِنْ تَحْتِي أَفَلَا بُصُورٌ ﴿٥١﴾

1 その筆頭が、九つの奇跡(夜の旅章 101 の訳注を参照)である(アル=クルトウビー16:97 参照)。

2 同様の情景の描写として、高壁章 133-136 も参照(ムヤッサル 493 頁参照)。

3 当時、魔術師の地位は高く、人々の尊敬を集める存在だったとされる(前掲書、同頁参照)。

4 「約束されたもの」については、高壁章 134 の訳注を参照。

52. いや、私の方が、取るに足らず（言葉の）説明もままならない¹この者よりも、優れているのではないか？

أَمْ أَنَا خَيْرٌ مِّنْ هَٰذَا الَّذِي هُوَ مِثْلُ
وَلَا يَكَادُ يُبِينُ ﴿٥٢﴾

53. （ムーサー*が本当のことを言っている）ならば、どうして彼には金製の腕輪^{うでわ}が下されたり、彼と共に天使*たちが連なり合^{つら}って到来し（、彼の正しさを証言し）たりはしないのか？」

فَلَوْلَا الْفِئَةُ عَلَيْهِ أَسْوَرَةٌ مِّنْ ذَهَبٍ أَوْ جَاءَ
مَعَهُ الْمَلَأُ بِكُمْ مُّقْرِنِينَ ﴿٥٣﴾

54. そして彼（フィルアウン*）は、その民を無知へ追いやって迷妄^{めいもう}へと招き、自分に従^{したが}わせた。本当に彼らは、放逸な民だったのだ。

فَأَسْخَفَ قَوْمَهُ، فَأَطَاعُوهُ إِنَّهُمْ
كَانُوا قَوْمًا فَسِيقِينَ ﴿٥٤﴾

55. それで彼らが（、反抗と不信仰によって）われら*を^{いざお} 憤^{おぼ}らせた時、われら*は彼らに報復し、彼らを皆、溺れさせたのである。²

فَلَمَّا اسْفُتُوا اتَّقَمْنَا مِنْهُمُ فَأَعْرَفْنَاهُمْ
أَجْمَعِينَ ﴿٥٥﴾

56. そしてわれら*は彼らを、後世の（同様の）者たちへの先駆と、譬えとした。

فَجَعَلْنَاهُمْ سَلَفًا وَمَثَلًا لِّلْآخِرِينَ ﴿٥٦﴾

57. また、マルヤム*の息子（イーサー*）が譬えとして挙げられれば、どうであろう、あなたの民はそのことで（喜んで）どよめく。³

*وَلَمَّا ضُرِبَ ابْنُ مَرْيَمَ مَثَلًا إِذَا قَوْمُكَ
مِنْهُ يُصِدُّونَ ﴿٥٧﴾

58. そして、彼らは言った。「一体、私たちの神々がより優れているのか、それとも彼（イーサー*）か？⁴」彼らは議論^{ぎろん}のために、あなたに対して彼を（譬えに）挙げたに過ぎない。いや、彼らは（虚妄^{きやもう}によって）議論^{ろん}する民なのである。

وَقَالُوا أَلَهْمُ تَخَيْرٌ أَمْ هُوَ مَا ضَرَبُوهُ لَكَ
إِلَّا جَدَلًا بَلْ هُمْ قَوْمٌ خَصِمُونَ ﴿٥٨﴾

1 詳しくはター・ハー章 27 とその訳注、詩人たち章 13 を参照。

2 この時の様子については、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77 78、詩人たち章 61 66 も参照。

3 一説に、このアーヤ*と後続のアーヤ*は、預言者*たち章のアーヤ*98 が下った時、シルクの徒*がイーサー*らについて議論したことについて下ったとされる（ムヤッサル 493 頁参照）。詳しくは預言者*たち章 101 の訳注を参照。

4 つまり、彼らがアッラー*の娘として崇めている天使*たちの方が、イーサー*より優れた存在であり、ゆえに天使*たちはイーサー*よりも崇拜*に値する、ということ（アル＝カースィミー 14:5278-5279 参照）。

59. 彼（イーサー*）はわれら*が^{おんけい}恩恵^{さず}¹を授け、イスラ—イルの子ら*への^{たと}譬え²とした、一人の^{しもべ}僕^すに過ぎない。
60. もしわれら*が望めば、われら*はあなた方（人類）の代わりに地上で（物事の管理を）^{けいしやう}継承する、天使*たちをもうけただろう³。
61. そして本当に彼（イーサー*）はまさしく、（復活の）その時の^{たが}知証⁴である。ならば、それ（復活の日*）を疑わしく思わず、私に^{したが}従うのだ。これが（天国へと続く）まっすぐな道なのである。
62. また、決してシャイターン*に、あなた方を（私への^{ふくじやう}服従^{はば}から）阻ませてはならない。彼こそはあなた方に対する、^{まぎ}紛れもない敵なのだから。
63. イーサー*が^{たずさ}明証⁵を携えて（イスラ—イルの子ら*のもとに）到来した時、彼は言った。「私は確かに、^{たずさ}英知⁶を携えてあなた方のもとに到来した。そしてあなた方に、あなた方が（宗教において）意見を異にし

إِنَّهُوَ إِلَّا عَبْدٌ أَنْعَمْنَا عَلَيْهِ وَجَعَلْنَاهُ مِثْلًا لِّبَنِي إِسْرَءِيلَ ﴿٥٩﴾

وَلَوْ نَشَاءُ لَجَعَلْنَا مِنْكُمْ مَلَائِكَةً فِي الْأَرْضِ يَخْلُقُونَ ﴿٦٠﴾

وَإِنَّهُ لَعِلْمٌ لِّلْآسَافَةِ فَلَا تَمْتَرُنَّ بِهَا وَاتَّبِعُونِ هَذَا صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ﴿٦١﴾

وَلَا يَصُدُّكُمْ الشَّيْطَانُ إِنَّهُ لَكُمْ عَدُوٌّ مُبِينٌ ﴿٦٢﴾

وَلَمَّا جَاءَ عِيسَى بِالْبَيِّنَاتِ قَالَ قَدْ جِئْتُكُمْ بِالْحِكْمَةِ وَلِأُبَيِّنَ لَكُمْ بَعْضَ الَّذِي تَخْتَلَفُونَ فِيهِ فَأَتَوْا اللَّهَ وَأَطِيعُوا ﴿٦٣﴾

1 この「恩恵」とは、預言者*としての使命のこと（ムヤッサル 493 頁参照）。

2 アッラー*の御力を示す御徴と、訓戒としての「譬(たと)え」（前掲書、同頁参照）。

3 「あなた方人類の内から天使を*もうけ、彼らを地上に住ませ、天使*が天にすることが、崇拜*に値する栄誉ではないことを教えたであろう」という解釈もある（アル＝クルトウビー 16:105 参照）。

4 末世にイーサー*がこの世に降臨（こうりん）することは、復活の日*があることを示す証拠である、と言う意味（ムヤッサル 494 頁参照）。

5 この解釈には「奇跡」「福音*」「明白な法規定」などの諸説がある（アル＝バイダーウィー 5:151 参照）。

6 この「英知」の解釈には、「奇跡」「福音*」「預言者*としての使命」などの諸説がある（アル＝クルトウビー 16:107-108 参照）。

ている、いくつかのことを明らかにするため¹。アッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

64. 本当にアッラー*こそは我が主*であり、あなた方の主*。ならば、かれを崇拜*せよ。これがまっすぐな道なのだから」。

65. それから（イーサー*に関し）、彼らの間で派閥が意見を異にした²。それで（イーサー*に神性を認めるといふ）不正*を働いた者たちに、（復活の）その日の痛ましい懲罰の災いあれ。

66. 一体彼らは、（復活の）その時が、気付かぬ内に突然、彼らのもとにやって来るのを待っているだけなのか？

67. （不信仰と罪における）親友たちはその日、お互いに敵となる。但し、敬虔な*者たちは別（で、その親愛は永遠）だが。

68. （敬虔な*者たちには、こう言われる。）「わが僕たちよ、この日あなた方に怖れはなく、悲しむこともない³」。

69. （彼らは）われら*の（啓典と使徒*という）御徴を信じ、服従する者（ムスリム*）だった者たち。

70. （また、彼らにはこう言われる。）「あなた方とあなた方と同様の者たち⁴は、喜悦を授けられて天国に入るがよい。

إِنَّ اللَّهَ هُوَ رَبِّي وَرَبَّكُمْ فَأَعْبُدُوهُ هَذَا صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ﴿٦٤﴾

فَاخْتَلَفَ الْأَحْزَابُ مِنْ بَيْنِهِمْ فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا مِنْ عَذَابٍ يَوْمَ الْيَوْمِ ﴿٦٥﴾

هَلْ يَنْظُرُونَ إِلَّا السَّاعَةَ أَنْ تَأْتِيَهُمْ بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٦٦﴾

الْأَجَلَاءُ يَوْمَذِ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ عَدُوٌّ إِلَّا الْمُتَّقِينَ ﴿٦٧﴾

يَعْبَادِ لَا خَوْفٌ عَلَيْكُمُ الْيَوْمَ وَلَا أَنْتُمْ تَحْزَنُونَ ﴿٦٨﴾

الَّذِينَ آمَنُوا بِآيَاتِنَا وَكَانُوا مُسْلِمِينَ ﴿٦٩﴾

ادْخُلُوا الْجَنَّةَ أَنْتُمْ وَأَزْوَاجُكُمْ تُحْبَرُونَ ﴿٧٠﴾

1 イーサー*はムーサー*の法、つまりトーラー*の法規定を完遂（かんすい）すべく、到来した（アッ=サアディー768 頁参照）。イムラーン家章 50 も参照。

2 マルヤム*章 37 の訳注も参照。

3 「怖れはなく…」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

4 妻、子供、友人などの内、彼らと同様の行いであった者たちのこと（アッ=サアディー769 頁参照）。

71. 彼らには、金の皿（に載った食事）と（金の）杯（に盛られた飲み物）が回される¹。また、そこには心が欲し、眼を喜ばせる物があり、あなた方はそこに永遠に留まるのだ。
72. そしてそれは、あなた方が（現世で）自分たちが行っていたことゆえに引き継がされた²、天国である。
73. そこにはあなた方に沢山の果実があり、あなた方はそこから食べるのだ」。
74. 本当に（不信仰を犯した）罪悪者たちは、地獄の懲罰の中に永遠に留まる。
75. それが彼らに対して鎮められることはなく、彼らはそこで落胆する。
76. われら*が（懲罰によって）彼らに不正*を働いたのではない。しかし彼らこそが、（シルク*と預言者*への不服従を犯す）不正*者だったのだ。
77. 彼らは呼ぶ。「マーリクよ、あなたの主*に、（私たちが苦しみから休めるよう、）私たちの息の根を止めさせてくれ」。彼（マーリク）は言う。「実にあなた方は、（永遠にそこに）留まる身なのである」。³

يُطَافُ عَلَيْهِمْ بِصِحَافٍ مِنْ ذَهَبٍ وَأَكْوَابٍ
وَفِيهَا مَا نَشْتَهِيهِ الْأَنفُسُ وَتَلَذُّ
الْأَعْيُنُ وَأَنْتَرَفُفِيهَا خَالِدُونَ ﴿٧١﴾

وَتِلْكَ الْجَنَّةُ الَّتِي أُورِثْتُمُوهَا بِمَا كُنْتُمْ
تَعْمَلُونَ ﴿٧٢﴾

لَكُمْ فِيهَا فَاكِهَةٌ كَثِيرَةٌ مِنْهَا تَأْكُلُونَ ﴿٧٣﴾

إِنَّ الْمَجْرِمِينَ فِي عَذَابٍ مُتَسَاوِينَ ﴿٧٤﴾

لَا يَنْفَعُهُمْ عَنْهُمْ وَهُمْ فِيهِ مُبْسُوُونَ ﴿٧٥﴾

وَمَا ظَنَنْتُمْ وَلَكِنْ كَانُوا هُمُ الظَّالِمِينَ ﴿٧٦﴾

وَنَادَىٰ أَيْمَانُكَ لِقَبْضِ عَلَيْنَا رَبُّكَ قَالَ إِنَّكُمْ
مَنْكُحُونَ ﴿٧٧﴾

1 天国の民の食べ物と飲み物についてはヤー・スィーン章 57、整列者章 45-47、サード章 51、詳細にされた章 31、煙霧章 55、ムハンマド*章 15、山章 22、慈悲あまねき*お方章 52、68、出来事章 17-21、真実章 23、人間章 5-6、14、17-18、21、送られるもの章 42、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28 などとも参照。

2 天国を「引き継がされた」という表現については、マルヤム*章 63 の訳注を参照。

3 「マーリク」は、地獄の番人の名（ムヤッサル 495 頁参照）。赦し深いお方章 49 も参照。

78. われら*は確かに、あなた方に真実をもたらした。しかしあなた方の大半は、真実を嫌う者だったのだ。¹

لَقَدْ جِئْتَكُمْ بِالْحَقِّ وَلَكِنَّ أَكْثَرَكُمْ لِلْحَقِّ كُرْهُونَ ﴿٧٨﴾

79. いや、一体彼らは（真理に対する策謀^{さくぼう}を、）万全に準備したというのか？ だとしても、われら*こそが（彼らへの懲罰^{ちやうばつ}を、）万全に準備する者なのである。

أَمْ أَمَرْتُمُوهُمْ أَنْ يُتِمُّوا آمِرًا فَإِنَّا مُبْرِمُونَ ﴿٧٩﴾

80. いや、一体彼らは、本当にわれら*が彼らの秘密も、彼らの密談も聞いてはいないと思っているのか？ いや、われら*の使いたち^{みつだん}はわれら*のもとで、（彼らの全ての行いを）記録しているというのに。

أَمْ تَحْسَبُونَ أَنَّا لَا نَسْمَعُ سِرَّهُمْ وَنَجْوَاهُمْ بَلَىٰ وَرُسُلُنَا لَدَيْهِمْ يَكْتُبُونَ ﴿٨٠﴾

81. （使徒^{しと}*よ、シルク*の徒に）言うのだ。「もし（、あなた方が思い込んでいるように）、慈悲あまねき*お方（アッラー*）に御子^{みこ}が（その）崇拝^{すうはい}*者の先駆け^{さき}だっただろう³」。

قُلْ إِن كَانَ لِلرَّحْمَنِ وَلَدٌ فَأَنَا أَوَّلُ الْعَبِيدِ ﴿٨١﴾

82. 彼らが言うことから（無縁^{むえん}な、）諸天と大地の主*、御座^{みくら}4の主*に、称え*あれ。

سُبْحَنَ رَبِّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ رَبِّ الْعَرْشِ عَمَّا يَصِفُونَ ﴿٨٢﴾

83. ならば（使徒^{しと}*よ）、彼らを放っておけ。（そうすれば）彼らは、自分たちが（懲罰^{ちやうばつ}を）約束されている日に遭遇^{そうぐう}するまで、（虚妄^{きやもう}の中に）のめり込み、（宗教において）戯^{たわむ}れるであろう。

فَذَرَهُمْ خَوْضًا يُلْعَبُونَ حَتَّىٰ يُلَاقُوا يَوْمَهُمُ الَّذِي يُوعَدُونَ ﴿٨٣﴾

1 この言葉は、アッラー*のものとも、天使*たちのもの、とも言われる。また地獄の民のみならず、クライシュ族*に向けて語られている、ともされる（アブー・ハイヤーン 8:2 参照）。

2 人間の行いを記録する天使たちのこと（ムヤッサル 495 頁参照）。雷鳴章 11 とその訳注も参照。

3 もちろん、そのようなことは過去にも未来にもあり得ないことである（前掲書、同頁参照）。同様のアーヤ*として、預言者*たち章 17、集団章 4 とその訳注も参照。

4 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

5 この「懲罰」は現世のもの、来世のもの、あるいはそのいずれもとより得る（前掲書、同頁参照）。

84. かれ（アッラー*）は天で（真に）崇拜*されるべき（唯一の）お方であり、大地で（真に）崇拜*されるべき（唯一の）お方。かれは英知あふれる*お方、全知者であられる。

85. また、諸天と大地、そしてその間の（全ての）ものの王権が属し、その御許に（復活*の）その時の知識があり、かれにこそあなた方が戻り行くお方（アッラー*）は、祝福にあふれたお方よ。

86. 彼ら（シルクの徒*）が、かれ（アッラー*）をよそに祈っている者たちは、執り成し¹を有していない。但し、知識と共に、真理を証言する者²は別だが。

87. （使徒*よ、）もしもあなたが彼らに、誰が彼らを創ったのかと尋ねたならば、彼らは必ずや（こう）言ったことだろう。「アッラー*である」。では、どうして彼らは（アッラー*だけを崇拜*することから）背かされるのか？

88. また、「我が主*よ、本当にこれらの者たちは信じない民なのです」という彼（預言者*）の言葉も（、アッラー*はご存知である）。³

89. ならば（使徒*よ）、彼らを見逃してやり、「（私がすべきは）平安である⁴」と言うのだ。彼らはやがて、（自分たちが遭遇する試練と懲罰を）知るであろう。

وَهُوَ الَّذِي فِي السَّمَاءِ إِلَهٌُ وَفِي الْأَرْضِ إِلَهٌُ
وَهُوَ الْحَكِيمُ الْعَلِيمُ ﴿٨٤﴾

وَتَبَارَكَ الَّذِي لَهُ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ
وَمَا بَيْنَهُمَا وَعِنْدَهُ عِلْمُ السَّاعَةِ وَإِلَيْهِ
تَرْجَعُونَ ﴿٨٥﴾

وَلَا يَمْلِكُ الَّذِينَ يَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ
الشفعةَ إِلَّا مَنْ شَهِدَ بِالْحَقِّ وَهُمْ
يَعْلَمُونَ ﴿٨٦﴾

وَلَكِنْ سَأَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَهُمْ يَقُولُ اللَّهُ فَاَنَّى
يُؤْفَكُونَ ﴿٨٧﴾

وَقِيلَ لَهُمْ رَبِّ اِنَّ هَؤُلَاءِ قَوْمٌ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٨٨﴾

فَاَصْفَحْ عَنْهُمْ وَقُلْ سَلَامٌ فَسَوْفَ يَعْلَمُونَ ﴿٨٩﴾

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 アッラーの唯一性*とムハンマド*の預言者*性を、その真実性を知った上で証言する者のこと（ムヤッサル 495 頁参照）。

3 「『我が主*よ』という彼の言葉に誓って、本当にこれらの民は…」という、文法的解釈もある（イブン・アーシュール 25:273 参照）。

4 つまり、彼らから安全な状態であり、かつ彼らとの平穏（へいおん）な状態を保つこと（アッ＝ジャウカーニー 4:742 参照）。

第44章
煙霧章 (アッ＝ドゥハーン) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム²。
2. 解明する啓典³に誓って。
3. 本当にわれら*は祝福あふれる(誉れの)夜*
に、それを下した。われら*こそは、もとより
(使徒*を遣わし、啓示を下す)警告者なのだ。
4. あらゆる的確な物事はそこで、決定される。⁴
5. われら*の御許からの命令として(、決定される)。われら*こそはもとより、(使徒*
たちをその民に)遣わす者。
6. (使徒*よ、)あなたの主*からのご慈悲として(、使徒*たちは遣わされるのだ)。本当にかれこそは、よくお聞きになるお方、全知者であられる。
7. 諸天と大地、その間にあるものの主(からのご慈悲として)。もし、あなた方が(そのことを)確信する者だったのなら(、アッラー*を信じよ。)

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حَمْدٌ

وَالْكِتَابِ الْمُبِينِ

إِنَّا أَنْزَلْنَاهُ فِي لَيْلَةِ مُبَرَكَةٍ إِنَّا كُنَّا مُنْذِرِينَ

فِيهَا يُفَرَّقُ كُلُّ أَمْرٍ كَبِيرٍ

أَمْرًا مِنْ عِنْدِنَا إِنَّا كُنَّا مُرْسِلِينَ

رَحْمَةً مِنْ رَبِّكَ إِنَّهُ هُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ

رَبِّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا إِنَّ كُنْتُمْ مُوقِنِينَ

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、アーヤ*10 に登場する「煙霧」という語による。クルアーン*の啓示、アッラーの唯一性*、死後の復活の確証が主なテーマであり、それに対する不信仰者*らの反応が描写されると共に、彼らに警告が向けられる。ムーサー*とフィリヤウン*の話も、その流れで取り上げられたもの。スーラ*後半では、来世における信仰者と不信仰者*の行き先が、対照的に描かれる。
- 2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。
- 3 「解明する啓典」については、ユースフ*章 1 の訳注を参照。
- 4 誉れの夜に、その一年間における物事の期限や糧についてのことなど、的確に定められた全てのことが、守られし碑板*から、筆記者である天使*たちへのもとへと写される(ムヤッサル 496 頁参照)。

8. かれの外に、崇拜^{ほかに}*すべきいかなるものもない。かれは生を与えられ、死を与えられるお方。あなた方^{すうはい}の主^{しゅ}*と、あなた方の昔の先祖^{しゅ}の主^{しゅ}*である。
9. いや、彼ら（シルクの徒^{ぎ ねん}*）は疑念^{たわむ}の中で戯れている。
10. ならば（使徒^{しと}*よ）、天が明らかなる煙霧^{えんむ}をもたらす日を待て。¹
11. それ（煙霧^{えんむ}）は人々を包み込む。（そして彼らには、こう言われる）。「これが痛ましい懲罰^{ちやうばつ}だ」。
12. （すると彼らは言う）。「我らが主^{しゅ}*よ、私たちから懲罰を取り除いて下さい。本当に私たちは、（あなたを）信じる者となりますから」。²
13. （この期に及んで、）どうして彼らに教訓^{かいめい}などだろうか？ 彼らのもとには解明の使徒^{しと}³（ムハンマド*）が確かに到来^{とうらい}したというのに。
14. それから彼らは彼（使徒^{しと}*）から立ち去り、言ったのだ。「（ムハンマド*は使徒^{しと}*などではなく、）教授された者⁴、憑かれた者⁵である」。

لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ يُحْيِي وَيُمِيتُ رَبُّكُمْ وَرَبُّ
آبَائِكُمُ الْأَوَّلِينَ ﴿٨﴾

بَلْ هُمْ فِي شَكٍّ يَلْعَبُونَ ﴿٩﴾

فَارْتَقِبْ يَوْمَ تَأْتِي السَّمَاءُ بِدُحَانٍ مُبِينٍ ﴿١٠﴾

يَعْنِي النَّاسَ هَذَا عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١١﴾

رَبَّنَا اكْشِفْ عَنَّا الْعَذَابَ إِنَّا مُؤْمِنُونَ ﴿١٢﴾

أَنَّى لَهُمُ الذِّكْرَى وَقَدْ جَاءَهُمْ رَسُولٌ
مُّبِينٌ ﴿١٣﴾

ثُمَّ تَوَلَّوْا عَنْهُ وَقَالُوا مُعَلَّمٌ مَجْنُونٌ ﴿١٤﴾

1 この「煙霧」の解釈には、「預言者*の祈りによってクライシュ族*を飢饉（ききん）が襲った時、余りの飢えで見た、幻覚の煙」という説以外にも、「復活の日*の予兆の一つ」という説もある（アッ=サアディー771 頁参照）。

2 「懲罰」は取り除かれたが、彼らは約束どおり信仰者とはならなかった（ムヤッサル 496 頁参照）。

3 人々に必要な宗教的・現世的諸事を明白にする「使徒*」のこと（アッ=シャウカーニー 4:746 参照）。

4 古い師、シャイターン*などの他人から、教授された者ということ（ムヤッサル 496 頁参照）。家畜章 105、蜜蜂章 103、識別章 4-5 も参照。

5 アル=ヒジュル章 6 「憑かれた者」の訳注も参照。

15. 実にわれら*は少しの間、(あなた方から)懲罰を取り除こう。本当にあなた方は、(不信仰と迷妄へと)回歸する者となろうから。
16. われら*が(全ての不信仰者*を)、最大の制圧によって制圧する(復活*の)日のこと(を思い起こせ)。本当にわれら*は報復者なのだ。
17. われら*は確かに彼ら以前、フィルアウン*の民を試練にかけた。そして彼らのもとの高貴な使徒*(ムーサー*)が到来したのだ。
18. (ムーサー*は彼らに言った。)
「アッラー*の僕たち(イスラァイルの子ら*)を、私にお渡し下さい¹。本当に私は、あなた方への誠実な使徒*なのです。
19. そして(私を否定することで)、アッラー*に対して思い上がりませんよう。本当に私はあなた方に、紛れもない明証²を携えて来たのですから。
20. また本当に私は、我が主*とあなた方の主*(であるアッラー*)に、あなた方が私を(石で)打ち殺すこと³からのご加護を乞いました。
21. そして、もし私を信じないのなら、私のことを放っておいて下さい」。
22. (しかし彼らはムーサー*を、放ってはおかなかった。)それで彼(ムーサー*)は、彼の主*に祈った。これらの者たちは、罪惡の民なのです、と。

إِنَّا كَاشِفُو الْعَذَابِ قَلِيلًا إِنَّكُمْ عَائِدُونَ ﴿١٥﴾

يَوْمَ نَبْطِشُ الْبَطْشَةَ الْكُبْرَىٰ إِنَّا مُنتَقِمُونَ ﴿١٦﴾

﴿١٧﴾ وَلَقَدْ فَتَنَّا قَوْمَهُمْ قَوْمَ فِرْعَوْنَ وَجَاءَهُمْ رَسُولٌ كَرِيمٌ ﴿١٧﴾

أَن أَدُوًّا إِلَىٰ عِبَادِ اللَّهِ إِنِّي لَكُمْ رَسُولٌ أَمِينٌ ﴿١٨﴾

وَأَن لَا تَعْلُوا عَلَى اللَّهِ إِنِّي آتِيكُمْ بِسُلْطَانٍ مُّبِينٍ ﴿١٩﴾

وَلِيَّ عِزَّتِي وَرَبِّكُمْ أَن تَرْجُمُونِ ﴿٢٠﴾

وَإِن لَّمْ تَوْمَسُوا لِي فَأَعْرِضُونِ ﴿٢١﴾

فَدَعَا رَبَّهُ أَن هَؤُلَاءِ قَوْمٌ مُّجْرِمُونَ ﴿٢٢﴾

1 つまりアッラー*だけを崇拝*するべく、私と共に行かせて下さい、ということ(ムヤッサル 496 頁参照)。同様のくんだりとして、高壁章 105 とその訳注、ター・ハー章 47、詩人たち章 16-17 も参照。

2 この「紛れもない明証」については、婦人章 153 の同語に関する訳注を参照。

3 「(石で) 打ち殺すこと」については、フード*章 91 の同語についての訳注も参照。

23. ならば(ムーサー*よ、信仰した)わが僕たちと共に、夜に旅立て。実にあなたは、(フィルアウン*とその民から)追われる身となろう。¹

فَأَسْرِ بِعِبَادِي لَيْلًا إِنَّكَ مُتَّبَعُونَ ﴿٣٣﴾

24. そして海を(閉じずに、割れて)空いたままにせよ。本当に彼らは、溺れる軍勢なのだから。²

وَأَتْرَكَ الْبَحْرَ هَوًّا إِنَّهُمْ جُنْدٌ مُّعْرِفُونَ ﴿٣٤﴾

25. 彼らは一体、どれだけの果樹園と泉を残し(て滅び)たのか？

كَمْ تَرَكُوا مِنْ جَنَّاتٍ وَعُيُونٍ ﴿٣٥﴾

26. また作物と、麗しい住まいを？

وَزُرُوعٍ وَمَقَامٍ كَرِيمٍ ﴿٣٦﴾

27. そして(恩恵の)享受を？ 彼らはそこで、喜々としていたのだ。

وَتَعْمَرُ كَانُوا فِيهَا فَكِهِينَ ﴿٣٧﴾

28. このように(、われら*はわれら*に反逆する者を、滅ぼすのである)。そしてわれら*はそれら(の恩恵)を、別の民(イスラールの子ら*)に引き継がせたのだ。

كَذَلِكَ وَأَوْرَثْنَاهَا قَوْمَاءَ آخَرِينَ ﴿٣٨﴾

29. それで天も大地も、彼ら(の滅亡への悲しみ)ゆえに泣くことはなかった³し、彼らは(懲罰を)猶予されもしなかった。

فَمَا بَكَتْ عَلَيْهِمُ السَّمَاءُ وَالْأَرْضُ وَمَا كَانُوا مُنْظَرِينَ ﴿٣٩﴾

30. われら*は確かに、イスラールの子ら*を屈辱的な懲罰から救った。

وَلَقَدْ نَجَّيْنَا نَبِيَّ إِسْرَءِيلَ مِنَ الْعَذَابِ الْمُهِينِ ﴿٤٠﴾

31. フィルアウン*から(、彼らを救った)。本当に彼は高慢で、(アッラー*の法の侵犯に)度を越した者たちの一人だった。

مِنْ فِرْعَوْنَ إِنَّهُ كَانَ عَالِيًا مِنَ الْمُسْرِفِينَ ﴿٤١﴾

1 詩人たち章 52 とその訳注も参照。

2 この状況の詳細については、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66 とその訳注を参照。

3 「天と大地が泣く」の解釈には、「偉人が他界した時、アラブ人が用いるお悔やみの表現」「泣くのは天と大地にいる天使*たちのこと」「信仰者が他界すると天と地が泣くが、不信仰のまま死んだ彼らに対しては泣かなかった」といった説がある(アル=クルトゥビー 16:139-140 参照)。

32. われら*は彼ら（イスラーイールの子ら*）を知識と共に、全ての者の上に選び上げた。¹
33. そして彼らに御徴²の内から、明らかな試験（と恩恵）を含むものを授けたのだ。
34. 本当に（使徒*よ、あなたの民である）これらの者たちは、まさしく（こう）言っている。
35. 「それ（死）は、私たちの最初（で最後）の死に外ならず、私たちは（死後）生き返される者などではないのだ。
36. では、（既に他界している）私たちのご先祖様を連れてきてみよ。もしあなたが、本当のことを言っているならば」。
37. 一体彼ら（シルクの徒*）がより優れているのか、それともトッバウの民³と、彼ら以前の（不信仰）者*たちか？ われら*は彼らを滅ぼしたのだ。本当に彼らは、罪悪者であった。
38. われら*は諸天と大地、その間にあるものを、遊び半分で創ったのではない。
39. われら*がそれらを創造したのは、真理ゆえに外ならないのだ⁴。しかし彼らの大半は、（そのことを）知らない。

وَلَقَدْ اخْتَرْنَهُمْ عَلَىٰ عِلْمٍ عَلَىٰ الْعَالَمِينَ ﴿٣٢﴾

وَمَا كُنَّا نَعْلَمُ مِنْ آيَاتِهِ مَا فِيهِ بَلَاءٌ
مُبِينٌ ﴿٣٣﴾

إِنَّ هَؤُلَاءِ لَيَقُولُونَ ﴿٣٤﴾

إِنْ هِيَ إِلَّا أَمْوَاتُنَا الْأُولَىٰ وَمَا نَحْنُ بِمُنشَرِينَ ﴿٣٥﴾

فَأَنذِرْ عَادَاتِ بَنِي آدَمَ إِن كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٣٦﴾

أَهُمْ خَيْرٌ أَمْ قَوْمُ تُبَّعٍ وَالَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ
أَهْلَكْنَاهُمْ إِنَّهُمْ كَانُوا مُجْرِمِينَ ﴿٣٧﴾

وَمَا خَلَقْنَا السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا
لَعِينٍ ﴿٣٨﴾

مَا خَلَقْنَاهُمَا إِلَّا بِالْحَقِّ وَلَكِنْ أَكْثَرُهُمْ لَا
يَعْلَمُونَ ﴿٣٩﴾

1 つまり「彼らの内から多くの預言者*が出現するという、われら*の知識と共に」ということ（アル＝クルトゥビー16:142 参照）。「全ての者の上に選び上げた」については、雌牛章47の訳注を参照。

2 この「御徴」は、ムーサー*に授けられた奇跡の数々のこと（ムヤッサル 497 頁参照）。

3 イブン・カスィール*によれば「トッバアの民」とは、サバアの民のこと（サバア章参照）。サバアの民にとって「トッバア」とは、ペルシャのホスローやローマのカエサル同様、自分たちの王への称号だったとされる（7:256 参照）。

4 イムラーン章 191「あなたはこれらを…ありません」の訳注も参照。

40. 本当に裁決の日^{さいけつ}は、彼ら全員の約束の時である。
41. 味方同上が少しも益^{えき}し合うことはなく、助けられることもない日。²
42. 但し、アッラー*がご慈悲^{じひ}をおかけになった（信仰）者は別である。本当にかれこそは、偉力^{いりよく}ならびない*お方^{じあい}、慈愛深い*お方なのだから。
43. 実にザククームの木³、
44. （その実は、）罪に溺れた者の食べ物で、
45. 腹の中で煮え立つ、溶けた鉛^{なまり}のようなもの。
46. 煮えたぎる湯の沸騰^{ふっとう}のように。
47. 「彼を捕まえ、火獄の真ん中へと彼をしょっぴいていけ。
48. それから彼の頭上^{ちようばう}に、煮えたぎる湯の懲罰^{せさく}を注ぎかけてやれ」。⁴
49. （そして罪に溺れたその者には、こう言われる）。「（罰を）味わえ。あなたこそは、偉大な者、高貴な者なのだから」。⁵

إِنَّ يَوْمَ الْقِيَامِ مِيقَاتُهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٤٠﴾

يَوْمَ لَا يُغْنِي مَوْتَى عَنْ مَوْتَى شَيْئًا وَلَا هُمْ

يُنصَرُونَ ﴿٤١﴾

إِلَّا آمَنَ رَحِمَهُ اللَّهُ إِنَّهُ هُوَ الْعَزِيزُ

الرَّحِيمُ ﴿٤٢﴾

إِنَّ سَجَرَتِ الزَّقُّومِ ﴿٤٣﴾

طَعَامُ الْأَثِيرِ ﴿٤٤﴾

كَالْمُهْلِ يَغْلِي فِي الْبُطُونِ ﴿٤٥﴾

كَغَلِي الْحَمِيمِ ﴿٤٦﴾

خُذُوهُ فَاعْتِلُوهُ إِلَى سَوَاءِ الْجَحِيمِ ﴿٤٧﴾

ثُمَّ صُفِّدُوهُ فَوْقَ رَأْسِهِ مِنْ عَذَابِ

الْحَمِيمِ ﴿٤٨﴾

ذُقْ إِنَّكَ أَنْتَ الْعَزِيزُ الْكَرِيمُ ﴿٤٩﴾

1 「裁決の日」については、整列者章 21 の同語の訳注を参照。

2 アーヤ*42 にもあるように、復活の日*に「執り成し」は起こる。詳しくは雌牛章 48、マールヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

3 「ザククームの木」については、夜の旅章 60「呪われた木」の訳注、および整列者章 62-66、出来事章 52-53 も参照。地獄の民の飲食物については、イブラーヒーム*章 16-17、洞窟章 29、サード章 57-58、ムハンマド*章 15、出来事章 52-55、衣を纏（まと）う者章 13、真実章 36-37、圧倒的事態章 5-7 も参照。

4 アーヤ*47-48 は、ザバーニヤという地獄の番人（凝血章 18 の訳注を参照）への命令の言葉とされる（アル=バガウィー4:182 参照）。

5 これは、蔑（さげす）みと咎（とが）めの言葉（ムヤッサル 498 頁参照）。自分がアッラー*の懲罰から免（まぬが）れることが出来るほど偉大で、高貴だと思い込んでいた不信仰者*に、このように言われる（アッ=サアディー774 頁参照）。

50. 実にこれは、あなた方が（現世で）^{うたが}疑わしく思っていたものなのである。
51. 本当に敬虔な^{けいけん}*者たちは（来世で）、安全な居場所にある。
52. 果樹園^{かじゅ}と泉の中に。
53. 彼らはお互いに向かい合って、精巧な絹地^{せいこう きぬじ}と重厚な絹地のものを身にまとっている。¹
54. （それらの恩恵と）同様に、われら^{おんけい}*は彼らに、麗しい眼の色白の女性たち^{うるわ}²を連れ添わせる。
55. 彼らはそこで安泰^{あんたい}に、あらゆる果実を持って来させる。
56. 彼らはそこで、（現世での）最初の死の外、死を味わうことがない。そしてかれ（アッラー*）は、彼らを火獄の懲罰^{ちやうばつ}からお守り下さったのだ。
57. あなたの主^{しゅ}*からのご恩寵^{おんちやう}ゆえに。それこそは偉大なる勝利。
58. （使徒^{しと}*よ、）われら^{しゅ}*はそれ（クルアーン*）を、あなたの言葉（であるアラビア語）によって容易なものとしたのだ。（それは）彼らが教訓を受けるように、とのためである。
59. ならば（使徒^{しと}*よ）、待つのだ³。実に彼らも、待つ者たち^{しゅ}⁴なのでから。

إِنَّ هَذَا مَا كُنْتُمْ بِهِ تَمْتَرُونَ ﴿٥٠﴾

إِنَّ الْمُتَّقِينَ فِي مَقَامٍ أَمِينٍ ﴿٥١﴾

فِي جَنَّاتٍ وَعُيُونٍ ﴿٥٢﴾

يَلْبَسُونَ مِنْ سُندُسٍ وَإِسْتَبْرَقٍ مُتَقَابِلِينَ ﴿٥٣﴾

كَذَلِكَ وَزَوَّجْنَاهُمْ بِحُورٍ عِينٍ ﴿٥٤﴾

يَدْعُونَ فِيهَا بِكُلِّ فَاكِهَةٍ آمِنِينَ ﴿٥٥﴾

لَا يَذُوقُونَ فِيهَا الْمَوْتَ إِلَّا الْمَوْتَةَ الْأُولَىٰ وَوَقَّعَهُمْ عَذَابَ الْجَحِيمِ ﴿٥٦﴾

فَضْلًا مِّن رَّبِّكَ ذَٰلِكَ هُوَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿٥٧﴾

فَإِنَّمَا يَسَّرْنَاهُ بِلِسَانِكَ لَعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ﴿٥٨﴾

فَأَرْتَبْنَا لَهُمْ مُّزَاقًا مَّزِينًا ﴿٥٩﴾

1 天国の民の衣服については、洞窟章 31、巡礼*章 23、創成者*章 33、人間章 12、21 も参照。

2 この中には、現世で自分の妻だった者もいれば、アッラー*が天国だけのために創造された女性（出来事章 35 参照）もいる（イブン・アーシュール 25:319 参照）。雌牛章 25「純潔な妻」の訳注も参照。

3 アッラー*が預言者*に約束された、シルクの徒*に対する勝利と、彼らに降りかかる懲罰を待て、ということ（ムヤッサル 498 頁参照）。

4 預言者*の死と、自分たちの勝利を「待つ者たち」（前掲書、同頁参照）。

第45章
跪く章 (アル=ジャースィヤ) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム²。
2. (このクルアーン*は、) 偉力ならびなく*、
英知あふれる*アッラー*からの啓典の降示。
3. 本当に、諸天と大地の中にはまさしく、(ア
ッラー*の存在と御力を示す) 信仰者たちへ
の御徴がある。
4. また(人々よ)、あなた方の創造と、かれが散開
させられる、地を歩く生物の中には、(アッ
ラー*とその教えを) 確信する民への(、アッ
ラー*の存在と御力を示す) 御徴がある。
5. また夜と昼の交代、アッラー*が天から糧と
して下されたもの(雨)——アッラー*はそ
れで大地を、それが死んだ後に生き返らされ
る——、風の変化は、分別する民への(、ア
ッラー*の存在と御力を示す) 御徴である。
6. (使徒*よ、) それは、われら*が真実と共に
あなたに誦んで聞かせる、アッラー*の(唯
一性*と御力を示す) 御徴。なのに一体、
彼らはアッラー*とその御徴を差しおいて、
いかなる話を信じるというのか？

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حم

نَزِيلَ الْكِتَابِ مِنَ اللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ

إِنَّ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ لَآيَاتٍ لِلَّذِينَ

وَفِي خَلْقِهِ وَمَا يَبُتُّ مِنْ دَابَّةٍ لَآيَاتٌ لِقَوْمٍ

يُوقِنُونَ

وَاخْتَلَفَ اللَّيْلُ وَالنَّهَارُ وَمَا نَزَلَ مِنَ السَّمَاءِ

مِنْ زَرْقٍ فَأَحْيَاهُ الْآرْضُ بَعْدَ مَوْتِهَا تَصْرِيفَ

الرِّيحِ ؕ آيَاتٌ لِقَوْمٍ يَعْقِلُونَ

بَلَاءٌ ؕ آيَاتُ اللَّهِ تَتْلُوهَا عَلَيْكَ بِالْحَقِّ فَبِأَيِّ

حَدِيثٍ بَعْدَ اللَّهِ وَآيَاتِهِ يَرْوُمُونَ

1 マッカ*啓示で、学者間の見解はほぼ一致。啓示、アッラーの唯一性*、来世への信仰とい
った基本的な信仰箇条のほか、自然界における様々な様相によって、アッラー*の御力が証
明される。また、啓示・死後の復活・清算を嘘呼ばわりする者への様子が描写され、彼らに
対して警告がなされる。スーラ*の最後は、来世における信仰者と不信仰者*の描写だが、
スーラ*の名称ともなっている「跪く」(アーヤ*28)は、こうした中での清算の場におけ
る、人々の様子である。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

7. 大嘘つきで罪に溺れた、全ての者に災いあれ。

وَيَذُلُّ لِكُلِّ أَفَّاكٍ أَثِيمٍ ﴿٧﴾

8. 彼はアッラー*の御徴（アーヤ*）が自分に読誦されるのを聞いても、まるでそれを耳にしなかったかのように、（アッラー*とその使徒*への服従に対して）高慢な者となり（不信仰を）続ける。（使徒よ、）ならば彼には、痛ましい懲罰の占報を告げてやるがよい¹。

يَسْمَعُ آيَاتِ اللَّهِ تُنْزِلُ عَلَيْهِ ثُمَّ يُصِرُّ مُسْتَكْبِرًا
لَمْ يَسْمَعْهَا فَايْتِرُهَا بِعَذَابٍ آلِيمٍ ﴿٨﴾

9. また彼は、われら*の御徴（アーヤ*）の内から何か耳にすれば、それを嘲笑的にした²。それらの者たちには、屈辱的な懲罰がある。

وَإِذَا عَلِمَ مِنْ آيَاتِنَا شَيْئًا اتَّخَذَهَا هُزُوًا أُولَٰئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ مُّهِينٌ ﴿٩﴾

10. 彼らの前には、地獄がある。そして彼らが稼いだもの³も、彼らがアッラー*をよそに盟友としたものも、彼らを少しも益することはない。彼らにはこの上ない懲罰があるのだ。

فِي سِجِّينٍ وَلَا يَجِدُ عَنْهُمْ مَأْكُسًا
وَلَا جُنْدًا وَمَا اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ أَوْلِيَاءَ وَلَهُمْ عَذَابٌ عَظِيمٌ ﴿١٠﴾

11. これ（クルアーン*）は、導きである。されど自分たちの主*の御徴（アーヤ*）を否定した者たちには、痛ましい制裁による懲罰がある。

هَٰذَا هُدًى وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِ رَبِّهِمْ لَهُمْ عَذَابٌ مِنْ رِجْزٍ أَلِيمٌ ﴿١١﴾

12. アッラー*はあなた方のために、海を仕えさせられたお方。（それは）かれのご命令によって船がそこを進み、あなた方がその恩寵から（糧を）求めるためであり、あなた方が（アッラー*に）感謝するようにするためである。

* اللَّهُ الَّذِي سَخَّرَ لَكُمُ الْبَحْرَ لِتَجْرِيَ الْفُلُكُ فِيهِ بِأَمْرِهِ وَلِتَبْتَغُوا مِنْ فَضْلِهِ وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ﴿١٢﴾

1 「懲罰の占報を告げる」という表現については、イムラーン家章 21 の訳注を参照。

2 夜の旅 60「呪われた木」訳注にあるような、嘲笑のこと（アル＝クルトゥビー 16:159 参照）。

3 「稼いだもの」とは、財産や子供などのこと（ムヤッサル 499 頁参照）。

13. またかれはあなた方に、諸天にあるものと大地にあるもの、その全てを仕えさせられた。本当にそこには（アッラーの唯一性*を示す）、熟考する民への御徴がある。

14. （使徒*よ、）信仰する者たちに、言うのだ。アッラー*の日々を望まない¹者たちを、赦してやれ、と。（それは）かれが民を、自分たちが（現世で）稼いでいたもので報われるようにするためである。

15. 誰でも正しい行い*を行う者は、自分自身を益するのであり、（行いが）悪い者は、自分自身を害するのだ。それからあなた方は（復活の日*）、自分たちの主*の御許へと戻られ（、自分の行いの報いを受け）るのである。

16. われら*はイスラァイルの子ら*に、啓典（トラー*、福音*）と英知²と預言者*としての天分³を与え、善きものの内から授け、彼らを全創造物よりも引き立てた⁴。

17. また、われら*は彼ら（イスラァイルの子ら*）に、そのことにおける明証⁵を授けた。そして彼らがそこにおいて意見を異にしたのは、彼らのもとに知識が到来した後のこと、彼らの間の侵犯ゆえ以外の何ものでもなかった⁶。（使徒*よ、）本当にあなた

وَسَخَّرَ لَكُم مَّا فِى السَّمَوَاتِ وَمَا فِى الْأَرْضِ جَمِيعًا
مِّنْهُ إِنَّ فِى ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يَتَفَكَّرُونَ ﴿١٣﴾

قُلْ لِلَّذِينَ آمَنُوا أَغْفِرُوا لِلَّذِينَ لَا يُرْجُونَ
آيَاتَ اللَّهِ لِيَجْزِيَ قَوْمًا بِمَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿١٤﴾

مَنْ عَمِلَ صَالِحًا فَلِنَفْسِهِ ۖ وَمَنْ أَسَاءَ
فَعَلَيْهَا ۖ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُمْ تُرْجَعُونَ ﴿١٥﴾

وَلَقَدْ آتَيْنَا بَنِي إِسْرَءِيلَ الْكِتَابَ وَالْحَكْمَ
وَالنَّبُوَّةَ وَزَرَقْنَا مِنْهُمُ الْطَائِفَاتِ وَقَضَّيْنَاهُمْ
عَلَى الْعَالَمِينَ ﴿١٦﴾

وَأَتَيْنَاهُم بِبَيِّنَاتٍ مِنَ الْأَمْرِ فَمَا اخْتَلَفُوا
إِلَّا أَلَمِنَ بَعْدَ مَا جَاءَهُمُ الْعِلْمُ بَعَثْنَا فِيهِمْ
رَبَّنَا يُقْضَىٰ فِيهِمْ يَوْمَ الْقِيَمَةِ فِيمَا
كَانُوا فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿١٧﴾

1 「アッラー*の日々」とは、アッラー*が各人に、現世での行いに対して報いを与える復活の日*のこと（ムヤッサル 500 頁参照）。「望む」については、ユースス*章 7 の訳注を参照。

2 この「英知」については、イムラーン家章 79 の同語の訳注を参照。

3 大半の預言者*は、イスラァイルの子ら*から出現した（ムヤッサル 500 頁参照）。

4 「彼らを…引き立てた」については、雌牛章 47 の訳注を参照。

5 「そのことにおける明証」の意味については、「ムハンマド*の預言者*性の証拠」「物事の合法性・非合法性を明らかにする、法のこと」といった解釈がある（アルークルトウビー 16:163 参照）。

6 詳しくは、雌牛章 213、相談章 14 とその訳注を参照。

の主*は復活の日*、彼らが意見を異にして
いたことについて、彼らの間に裁決をお下
しになる。

18. それから（使徒*よ）、われら*はあなたを、
そのことにおける道¹の上に立脚²させた。
ゆえに、あなたはそれに従³うのだ。そして、
（真理を）知らない者たちの私欲⁴に従³って
はならない。

19. 本当に彼ら（シルクの徒*）は、アッラー*
（の懲罰）において、あなたを少しも益し
はしない。そして本当に不正*者たちはお互
いに盟友⁵なのであり、アッラー*は敬虔⁶な*
者たちの庇護⁷者なのだ。

20. これ（クルアーン*）は人々への開眼、導き
であり、（クルアーン*の真理性を）確信す
る民への慈悲である。

21. いや、悪行を稼いだ者たちは、われら*が彼
らを信仰して正しい行い*を行う者たちと
同様にするとでも思ったのか？ その生と
死²において、同等だとも？ 彼らの決めつ
けることの、何と忌まわしいことか。

22. アッラー*は真理によって、諸天と大地をお
創りになった³。そして（それはかれがご自
身の御力⁴をお示しになり、来世において）
各人が不正*を受けることなく、自分が稼い
だものによって報われるようにするため
だったのだ。

ثُمَّ جَعَلْنَاكَ عَلَىٰ شَرِيعَةٍ مِّنَ الْأَمْرِ
فَاتَّبِعْهَا وَلَا تَتَّبِعْ أَهْوَاءَ الَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٨﴾

إِنَّهُمْ لَنَبَغُونَا عَنْكَ رَبِّ اللَّهِ شَيْئًا وَإِنْ
أَظْلَمَ بَعْضُهُمْ أَوْلِيَاءَ بَعْضٍ وَاللَّهُ وَلِيُّ
الْمُتَّقِينَ ﴿١٩﴾

هَذَا بَصِيرَةٌ لِلنَّاسِ وَهُدًى وَرَحْمَةٌ لِّقَوْمٍ
يُوقِنُونَ ﴿٢٠﴾

أَمْ حَسِبَ الَّذِينَ اجْتَرَحُوا السَّيِّئَاتِ أَنْ
نَجْعَلَهُمُ كَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
سَوَاءً مَّحْيَاهُمْ وَمَمَاتُهُمْ سَاءَ
مَا يَحْكُمُونَ ﴿٢١﴾

وَخَلَقَ اللَّهُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ
وَلِيَجْزِيَ كُلَّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ وَهُمْ
لَا يُظْلَمُونَ ﴿٢٢﴾

1 「そのことにおける道」とは、真理へと導く、宗教における明らかな手法のこと（アル＝クルトゥビー16:163 参照）。

2 この「生と死」は、現世と来世という意味（ムヤッサル 500 頁参照）。

3 イムラーン章 191 「我らが主*よ、あなたは…」の訳注も参照。

23. (使徒*よ、) 言ってみよ、自分の欲望(への服従)を自分の崇拜*すべきもの(への服従)とした者¹について。彼は知識を有していたにも関わらずアッラー*に迷わされ²、その聴覚と心を塞がれ、その視覚には覆いをかけられた³のである。アッラー* (による迷い) の後、誰が彼を導けるというのか? 一体、あなた方は教訓を得ないのか?

24. 彼ら(シルク*の徒)は言った。「それ(人生)は、私たちの(今、生きている)現世の生活以外にはない。私たちは(この現世で)死に、生きる(だけな)のであり、私たちを滅ぼすのは、時間に外ならない⁴のだ」。彼らには(、彼らが言っている)そのことについて、いかなる知識もないのに。彼らは憶測しているに過ぎないのだ。

25. また、彼らに(、復活が起こることを確認する)われら*の明らかな御徴(アーヤ*)が読誦されれば、彼らの論拠は(こう)言うことでしかなかった。「私たちのご先祖様たちを、(生き返して)連れて来てみよ。もし、あなた方が本当のことを言っているのなら」。

أَفَرَأَيْتَ مَنِ اتَّخَذَ إِلَهُهُ هَوَاهُ وَأَصْلَبَ اللَّهُ عَلَى عِلْمِهِ
وَحَافِرًا عَلَى سَمْعِهِ، وَقَلْبِهِ، وَجَعَلَ عَلَى بَصَرِهِ عَنَسَةً
فَمَنْ يَهْدِيهِ مِنْ بَعْدِ اللَّهِ أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ﴿٢٣﴾

وَقَالُوا مَا هِيَ إِلَّا أَحْيَاءُ النَّاسِ الَّذِينَ قَدْ تَمَوَّجُوا بِهَا
يَهْلِكُنَّ إِلَّا الْآدَهْرُ وَمَا لَهُمْ بِذَلِكَ مِنْ عِلْمٍ إِنْ هُمْ
إِلَّا يَظُنُّونَ ﴿٢٤﴾

وَإِذَا نَسَّيْنَا عَنْ آلِهَتِنَا مَكَانَ حُجَّتِهِمْ إِلَّا
أَن قَالُوا اتَّبِعُوا آيَاتِنَا إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٢٥﴾

1 識別章 43 とその訳注も参照。

2 正常な理性があるのに、あるいは正しい導きに関する知識が伝わった後に、迷いを選んだことを示すとされる(イブン・アーシュール 25:358 参照)。また一説には、「アッラー*は、彼がそれにふさわしいことをご存知であるがゆえに、彼を迷わせられた」という意味(イブン・カスィール 7:268 参照)。

3 「その聴覚と心を…」については、雌牛章 7 の訳注を参照。

4 シルク*の徒は、自分たちを死なせ、滅ぼす主*の存在を否定し、「自分たちを滅ぼすのは、歳月の流れと年齢の積み重ねに過ぎない」と言ったものだった(アッ=タバリー 9:7381 参照)。

26. (使徒*よ、) 言ってやるがいい。「アッラー*はあなた方に生を与えられ、それから死を与えられる。それからかれは、あなた方を疑惑の余地のない復活の日*へと、集められるのだ。しかし人々の大半は(、アッラー*の御力を)知らない」。

27. アッラー*にこそ、諸天と大地の王権は属する。そして(復活の)その時が到来する日、その日(真実)を虚妄とする者たちは損失するのだ。

28. そして(使徒*よ)、あなたは(復活の日*)全ての共同体が 跪く^{ひざまず}のを見る¹。全ての共同体は、自分たちの帳簿^{ちやうぼ}へと呼ばれる。(そして、こう言われる。)²「この日あなた方は、自分たちが(現世で)行っていたことを報われるのだ」。

29. これが、あなた方に対して(あなた方の行いを)真理と共に語る、われら*の帳簿である。われらは、あなた方が行っていたことの転写を(天使*たちに)命じていたのだから。³

30. それで信仰し、正しい行い*を行う者たちはといえ、主*は彼らをそのご慈悲⁴の中へとお入れになる。それこそは紛れもない勝利なのだ。

قُلِ اللَّهُ يُحْيِيكُمْ ثُمَّ يُمِيتُكُمْ ثُمَّ يَجْمَعُكُمْ إِلَى يَوْمِ الْقِيَمَةِ لَا رَيْبَ فِيهِ وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٦﴾

وَلِلَّهِ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُومِدُ خَاسِرًا لِّمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ﴿٣٧﴾

وَتَرَى كُلَّ أُمَّةٍ جَائِيَةٌ كُلُّ أُمَّةٍ تُدْعَى إِلَى كِتَابِهَا الْيَوْمَ تُجْزَوْنَ مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٣٨﴾

هَذَا كِتَابُنَا يَطُوعُ عَلَيْكُمْ بِالْحَقِّ إِنَّا كُنَّا نَسْتَنْسِخُ مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٣٩﴾

فَأَمَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَيَدْخُلُهُمْ رَبُّهُمْ فِي رَحْمَتِهِ ؕ ذَٰلِكَ هُوَ الْفَوْزُ الْمُبِينُ ﴿٤٠﴾

1 これは、恐怖と共にアッラー*の裁きを待つ様子のこと (アッ=サアディー778 頁参照)。

2 現世での行いが記録された「帳簿」のこと (ムヤッサル 501 頁参照)。高壁章 8 の訳注も参照。

3 イブン・アッパース*らによれば、人々の行いを記録する天使*たちは、その記録と共に天に昇って行き、守られし碑板*から写された帳簿のもとにいる天使*たちに会う。その帳簿は毎年、誉れの夜*に守られし碑板*から写されたものであり、記録と帳簿は一字一句符合する (イブン・カスィール 7:271 参照)。

4 この「ご慈悲」とは、つまり天国のこと (ムヤッサル 501 頁参照)。

31. また、不信仰に陥った者*たちはといえ（こう言われる）。「一体、わが御徴（アーヤ*）は（現世で）あなた方に、読誦されてはいなかったのか？ そしてあなた方は（それに耳を傾け、信仰することから）高慢になったのであり、罪惡の民だったのでは？

32. また、『本当に（復活に関する）アッラー*のお約束は真実で、その時（の到来）は、疑惑の余地がない』と言われた時、あなた方は言った。『私たちは（復活の）その時が何のことか、分らない。私たちには、それが思い込みにしか思えない。私たちは（その到来を）、確信する者ではないのだ』」。

33. そして彼らには（その日）、自分たちが（現世で）行った悪（の報い）が現れる。そして自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包圍するのだ。

34. また、彼らには（こう）言われる。「この日われら*は、あなた方を忘れよう。ちょうどあなた方が、あなた方のこの日の拝謁を忘れたように¹。そしてあなた方の住処は（地獄の）業火であり、あなた方にはいかなる援助者もない」。

35. それというのも、あなた方はアッラー*の御徴を嘲笑の的とし、現世の生活によって欺かれていたからなのである。この日、あなた方はそこ（業火）から出されることもなく、（アッラー*の）ご満悦を得ること²も課されない。

وَأَمَّا الَّذِينَ كَفَرُوا فَهُمْ أَكْفَرُ مِنْكُمْ إِنِّي أَنَا اللَّهُ تَعَالَى عَلَيْكُمْ
فَأَسْتَكْبِرُوا وَكُنْتُمْ قَوْمًا مُّجْرِمِينَ ﴿٣١﴾

وَإِذَا قِيلَ إِنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ وَالسَّاعَةُ لَا رَيْبَ فِيهَا قُلْتُمْ مَا نَدْرِي مَا السَّاعَةُ إِنْ نَظُنُّ إِلَّا ظَنًّا وَمَا نَحْنُ بِمُتَّبِعِينَ ﴿٣٢﴾

وَبَدَأَ لَهُمْ فِيهَا آيَاتٍ مَّا عَمِلُوا وَصَاحَ بِهِمْ
مَا كَانُوا بِهِيَ يَنْتَهِزُونَ ﴿٣٣﴾

وَقِيلَ الْيَوْمَ نَنْسِفُكُمْ كَمَا نَسِفْنَا لِقَاءَ يَوْمِكُمْ هَذَا
وَمَا وَكُمُ النَّارُ وَمَا لَكُم مِّنْ نَّاصِرِينَ ﴿٣٤﴾

ذَلِكُمْ بِأَنكُمُ اتَّخَذْتُمْ آيَاتِ اللَّهِ هُزُوًا وَعَرَزْتُمْ
لِحَيَاتِهِ الدُّنْيَا فَاَلْيَوْمَ لَا يُخْرَجُونَ مِنْهَا وَلَا هُمْ
يُسْتَعْبَدُونَ ﴿٣٥﴾

1 この「忘れる」については、高壁章 51 の訳注を参照。

2 蜜蜂章 84 とその訳注も参照。

36. アッラー*に称賛^{しょうざん}*あれ、諸天^{しゅてん}の主*、大地^{だいぢ}の主*、全創造^{ぜんぞうぞう}の主*に。
37. またかれにこそ、諸天^{しゅてん}と大地^{だいぢ}の権威^{けんい}は属^{ぞく}する。そしてかれは偉力^{いりよく}ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

فَلِلَّهِ الْحَمْدُ رَبِّ السَّمَوَاتِ وَرَبِّ الْأَرْضِ رَبِّ
الْعَالَمِينَ ﴿٣٦﴾
وَلَهُ الْكِبَرِيَّةُ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَهُوَ
الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٣٧﴾



第46章

砂丘章 (アル=アフカーフ) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム²。
2. (このクルアーン*は、) 偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*からの、啓典の降示。
3. われら*が諸天と大地、その間にあるものを創ったのは、真理と定められた期限ゆえに外ならない。にも関わらず、不信仰に陥った者*たちは、自分たちが警告されていることに対し背を向けている。
4. (使徒*よ、彼ら不信仰者*たちに) 言ってやれ。「言ってみよ、あなた方がアッラー*をよそに祈っている者たち(である神々について)。彼らが大地から創ったものを、私に見せてみよ。いや、彼らに、諸天(の創造)において(アッラー*への)何らかの関与でもあるというのか? (シルク*を正当化する) これ以前の啓典か、あるいは(過去の預言者*から引き継いだ)知識の遺物を、私のもとに持って来てみるがいい。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば」。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حَمْدٌ

تَنْزِيلُ الْكِتَابِ مِنَ اللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ①

مَا خَلَقْنَا السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا إِلَّا
بِالْحَقِّ وَأَجَلٍ مُّسَمًّى وَالَّذِينَ كَفَرُوا عَمَّا أُنذِرُوا
مُعْرِضُونَ ②

قُلْ أَرَأَيْتُمْ مَا تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ أَرُونِي
مَاذَا خَلَقُوا مِنَ الْأَرْضِ أَمْ لَهُمْ شِرْكٌ فِي
السَّمَوَاتِ أَتَوْنِي بِكِتَابٍ مِنْ قَبْلِ هَذَا أَوْ أَتَذَرُونِي
عَلِمٌ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ③

1 マッカ*啓示(一部アーヤ*には、マディーナ*啓示説あり)。クルアーン*の奇跡性と真実性、アッラーの唯一性*、復活の日*の確証、そしてそれらを否定する者たちへの警告が主なテーマ。スーラ*の名称「砂丘」は、不信仰であったアード*の民が住んでいた場所として言及されたもの(アーヤ*21 参照)。スーラ*後半部では、マッカ*時代の布教期において困難の中にあった、預言者*ムハンマド*とその信徒らへの慰(なぐさ)めと励(はげ)ましとして、ジン*の集団がイスラーム*を受け入れた出来事が描(えが)かれる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「真理と定められた期限」については、ビザンチン章 8 の訳注を参照。

5. 一体アッラー*をよそに、復活の日*まで自分（の祈り）に応えてはくれない者（である神々）に祈る者より、ひどく迷った者がいるだろうか？ 彼ら（アッラー*以外の神々）は、彼らの祈りなどには無頓着だというのに。

6. また、人々が（復活の日*）に召集された時には、彼らは自分たちにとっての敵となるのであり、彼らの崇拜*を否定する者となるというのに。¹

7. 彼ら（シルク*の徒）にわれら*の明白な御徴（アーヤ*）が読誦されれば、不信仰に陥った者*たちは真理（クルアーン*）が彼らに到来した時、（こう）言ったのだ。「これは紛れもない魔術である」。

8. いや、彼ら（シルク*の徒）は「彼（ムハンマド*）が、それ（クルアーン*）を捏造した」と言うのか？²（使徒*よ、）言ってやれ。「もし私がそれを捏造したの（であり、アッラー*がそれゆえに私を罰される）なら、あなた方は私の（援護の）ために、アッラー*に対して何も出来ない。かれは、あなた方が（クルアーン*について）喋り立てていることを、最もよくご存知である。かれだけで、私とあなた方の間の証人は十分なのであり、かれは赦し深いお方、慈愛深い*お方であられるのだ」。

وَمَنْ أَضَلُّ مِمَّن يَدْعُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ مَنْ لَا يَسْتَجِيبُ لَهُمْ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ وَهُمْ عَنْ دُعَائِهِمْ غَفْلُونَ ﴿٥﴾

وَإِذَا حُشِرَ النَّاسُ كَانُوا لَهُمْ أَعْدَاءً وَكَانُوا بِعِبَادَتِهِمْ كَافِرِينَ ﴿٦﴾

وَلَا تُنْتَلَىٰ عَلَيْهِمْ آيَاتُنَا نَزَلَتْ قَالِ الَّذِينَ كَفَرُوا الْحَقُّ لَنَا جَاءَ هَذَا سِحْرٌ مُبِينٌ ﴿٧﴾

أَمْ يَقُولُونَ افْتَرَاهُ قُلْ إِنِ افْتَرَيْتُهُ، فَلَا تَمْلِكُونَ لِي مِنَ اللَّهِ شَيْئًا هُوَ أَعْلَمُ بِمَا تُفْقِصُونَ فِيهِ كَذِبٌ ﴿٨﴾
شَهِيدًا بَيْنِي وَبَيْنَكُمْ وَهُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ﴿٩﴾

1 復活の日*、偶像などのシルク*の対象は、それを崇拜*していた者への敵となる。雌牛章 166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、蜘蛛章 25、創成者*章 13-14 も参照。

2 家畜章 105、蜜蜂章 103、識別章 4-5、煙霧章 14 とその訳注も参照。

9. (使徒*よ、) 言ってやるがいい。「私は使徒*たちの内でも、目新しい(ことを言う)者ではない¹。また自分についても、あなた方についても、(現世で)どのように処遇されることになるかも分からない²。私は自分に啓示されたことに従うだけであり、明白なる警告者に外ならないのだ」。

10. (使徒*よ、シルク*の徒に) 言ってやれ。「言ってみよ。もし(クルアーン*が)アッラー*の御許からのもので、あなた方がそれを否定し、イスラエイルの子ら*の証人³がそれと同様のもの⁴を証言してそれを信じ、あなた方が(信仰に対して)高慢になったのならば(、それ以上の不信仰があろうか)? 本当にアッラー*が、不正*者である民を導かれることはない」。

11. 不信仰に陥った者*たちは、信仰する者たちに、(こう)言った。「もし、それ⁵が善いものだったなら、彼らが私たちを差しおいてそれを先取りし(て信仰し)たはずが

قُلْ مَا كُنْتُ بِدَعَايِ الرُّسُلِ وَمَا أَدْرَى مَا
يَفْعَلُ بِي وَلَا بِكُمْ إِنْ أَتَيْتُكُمْ إِلَّا مَبُوحًى إِلَيَّ وَمَا
أَنَا إِلَّا نَذِيرٌ مُبِينٌ ﴿٩﴾

قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ كَانَ مِنْ عِنْدِ اللَّهِ وَكَفَرْتُمْ بِهِ
وَشَهِدَ شَاهِدٌ مِنْ بَنِي إِسْرَءِيلَ عَلَى مِثْلِهِ
فَتَأْتُونَ فِتْنًا وَأُسْتُكَفَرُوا إِنْ اللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ
الظَّالِمِينَ ﴿١٠﴾

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لِلَّذِينَ آمَنُوا لَوْ كَانَ
خَيْرًا مَّا سَبَقُونَا إِلَيْهِ وَإِذْ لَمْ يَهْتَدُوا بِهِ
فَسَبَقُونَا هَذَا أَفَنُكَّرُ ﴿١١﴾

1 預言者*ムハンマド*は史上初の預言者*ではなく、過去の預言者*たちと同様の教えを伝える者であった(イブン・ジュザイ 2:332 参照)。

2 家畜章 50 「…不可視の世界*も知らない」の訳注も参照。

3 この「証人」には、「ユダヤ教徒*からムスリム*になった教友*イブン・サラームのこと」「ムーサー*」「イスラエイルの子ら*の、ある預言者*」といった解釈がある(アル=バガウィー4:193-194 参照)。

4 「それと同様のもの」の解釈には、「クルアーン*と同様のもの。つまりクルアーン*の内容を裏づけ、それと一致するトーラー*の一部のこと」「トーラー*と同様、アッラー*の御許からのものであるクルアーン*そのもののこと」(アル=バイダーウィー5:178 参照)など諸説がある。詩人たち章 197 とその訳注も参照。

5 「それ」とは、クルアーン*、あるいは預言者*ムハンマド*のこと(アッ=シャウカーニー 5:22 参照)。

ない」¹。そしてそれによって導かれなかったのなら、彼らは（こう）言い続けるであろう。「これは、古いでっち上げだ」。

12. それ（クルアーン*）以前には、（従^{したが}うべき）指針と（信仰者への）慈悲である、啓典（トラー^{しん}ラー*）があった。そしてこれ（クルアーン*）は、（それ以前の啓典を）確証し、アラビア語で下された啓典であり、（不信仰によって自らに）不正^{けいてん}*を働いた者たちには警告し、（信仰と服従に）善を尽くす者^{けいこく}たちには^{みずか}占報^{きつぽう}を伝えるためのものなのである。³

13. 本当に「我らが主^{しゅ}*はアッラー*」と言い、それからまっすぐ歩んだ者^{あそ}たち、彼らには怖れもなければ、悲しむこともない⁵。

14. それらの者たちは天国の徒。彼らはそこに永遠に留まる。自分たちが（現世で）行っていた（正しい）ことゆえの、報いである。

15. われら*は人間に、両親への孝行を命じた。彼女（母親）は、大変な思いで彼を身ごもり、大変な思いで彼を出産したのだから。そしてその妊娠と乳離れ（の期間）は、三十ヶ月。やがて彼は成熟^{せいじゅく}⁶し、四十歳になった時、（こう）言うのだ。「我が主^{しゅ}*よ、あなたが私と我が両親に授けて下さった

وَمِنْ قَبْلِهِ كَتَبَ مُوسَىٰ إِمَامًا وَرَحْمَةً
وَهَذَا كِتَابٌ مُصَدِّقٌ لِّمَا عَرَبَيْنَا أُتِيذَرُ
الَّذِينَ ظَلَمُوا وَابْشُرِ لِلْمُحْسِنِينَ ﴿١٢﴾

إِنَّ الَّذِينَ قَالُوا رَبُّنَا اللَّهُ ثُمَّ اسْتَفْهَمُوا فَلَا
خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿١٣﴾

أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ خَالِدِينَ فِيهَا جَزَاءً بِمَا
كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٤﴾

وَوَصَّيْنَا الْإِنْسَانَ بِوَالِدَيْهِ إِحْسَانًا حَمَلَتْهُ
أُمُّهُ كُرْهًا وَوَضَعَتْهُ كُرْهًا وَحَمْلُهُ وَفِصْلُهُ
ثَلَاثُونَ شَهْرًا حَتَّىٰ إِذَا بَلَغَ أَشُدَّهُ وَبَلَغَ
أَرْبَعِينَ سَنَةً قَالَ رَبِّ أَوْزِعْنِي أَنْ أَشْكُرَ
بِعِمَّتِكَ الْوَيْلَ لِيَ وَالْوَيلَ لِيَ وَأَنْ
أَعْمَلَ صَالِحًا تَرْضَاهُ وَأَصْلِحْ لِي فِي ذُرِّيَّتِي

1 一説に、これは高い地位にあった不信仰者*たちが、社会的に弱い立場にあったムスリム*たちを見下して言った言葉（イブン・カスィール 1:279 参照）。家畜章 53、マルヤム*章 73 とその訳注も参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 この「警告」と「占報」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

4 「まっすぐ歩む」については、詳細にされた章 30 の同様の表現についての訳注を参照。

5 「怖れもなければ…」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

6 この「成熟」については、巡礼*章 5 の訳注を参照。

あなたの恩恵に、私が感謝できるようにして下さい。また私が、あなたを喜ばせるような正しい行い*を行えるように。そして私のため、我が子孫を正して下さい。本当に私はあなたに悔悟したのであり、まさに私は服従した者（ムスリム*）の一人なのですから」。¹

16. それらの者たちは、われら*が彼らの行った最善のものを受け入れ、その悪行は天国の徒と共に見過ごしてやる者たち。（それは、）彼らが約束されていた、真なる約束。
17. 一方、（アッラー*と復活の信仰へと招かれれば、）自分の両親に対して「あなた方は呆れ果てたこと。私以前にも数々の世代が滅び去つ（て、戻って来ることもなかったというのに、私が（死後、墓の中から）出されるんですって？」と言う者。彼ら（両親）は、（子供が導かれるよう、こう言いながら）アッラー*にご助力を求めているというのに。「お前の災いよ²！ 信じなさい。本当に（復活という）アッラー*のお約束は、真実なのだから」。それでも、彼は言う。「これは、昔の人々のお伽話以外の何ものでもありませんよ」。
18. それらの者たちには、ジン*と人間からなる、彼ら以前に滅んだ（不信仰の）民*の一員として（地獄に入るといふ）御言葉が確定したのだ。本当に彼らは、損失者だったのである。

إِنِّي نَبْتُ إِلَيْكَ وَإِنِّي مِنَ الْمُسْلِمِينَ ﴿١٥﴾

أُولَئِكَ الَّذِينَ تَقَبَّلُ عَنْهُمْ أَحْسَنَ مَا عَمِلُوا وَتَتَجَاوَزُ عَنْ سَيِّئَاتِهِمْ فِي أَصْحَابِ الْجَنَّةِ وَعَدَ الصِّدْقِ الَّذِي كَانُوا يُوعَدُونَ ﴿١٦﴾

وَالَّذِي قَالَ لَوْلَا أُفٍّ لَّكُمَا أَنْتُمَا ابْنَانِ أَخْرَجَ وَقَدْ خَلَّتِ الْقُرُونُ مِنْ قَبْلِي وَهُمَا يَسْتَعْجِلَانِ اللَّهَ وَيَلَاكِ آيَاتُنَا إِنَّا وَعَدَ اللَّهُ حَقًّا يَقُولُ مَا هَذَا إِلَّا أَسْطُورُ الْأَوَّلِينَ ﴿١٧﴾

أُولَئِكَ الَّذِينَ حَقَّ عَلَيْهِمُ الْقَوْلُ فِي أُمَمٍ قَدْ خَلَتْ مِنْ قَبْلِهِمُ مِنَ الْجِنِّ وَالْإِنْسِ إِنَّهُمْ كَانُوا خَاسِرِينَ ﴿١٨﴾

1 これは親孝行であり続け、人生において最も忙しい時期に到達した時でさえも親孝行を忘れず、親の目の前でも陰（かげ）でも親孝行することが出来ますように、とアッラー*に祈る信仰者の描写であるという（イブン・アーシュール 26:32 参照）。

2 この言い回しについては、食卓章 31「我が災いよ」の訳注を参照。

19. 各人には(復活の日*)、自分たちが(現世で)行ったことゆえ、(アッラー*の御許での)位がある。それは(アッラー*が)その行い(に対する報い)を彼らにふんだんに報われるためであり、彼らは不正*を受けることがない。

20. 不信仰だった者*たちが、業火に晒される日。(彼らには、こう言われる。)
「あなた方は、現世のあなた方の生活における自分たちの善きもの¹とはおさらばし、それを楽しんだ。だからこの日あなた方は、自分たちが地上で(アッラー*への信仰と服従に反して)不当にも奢り高ぶっていたことと、放逸だったことゆえに、屈辱の罰で報われるのだ」。

21. アード*の同胞(フード*)を、思い出せ。彼が砂丘²で、彼の民に(こう)警告した時のことを——既に数々の警告者が、彼(フード*)の前後に過ぎ去って行ったのである——
「アッラー*以外(何も)崇拜*してはならない。本当に私は、あなた方に、偉大なる(復活の日*)の懲罰を怖れているのだ」。

22. 彼らは言った。「あなたは、私たちを私たちの神々³(への崇拜*)から背かせるために、やって来たのか? では、あなたが約束するもの(懲罰)を、私たちに持って来てみよ⁴。もし、あなたが正直者の類いなのであれば」。

وَلِكُلِّ دَرَجَةٍ مَّا عَمِلُوا أُولَئِكَ بِهِمْ أَجْرُهُمْ
وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ﴿١٩﴾

وَيَوْمَ يُعْرَضُ الَّذِينَ كَفَرُوا عَلَى النَّارِ أَلْهَبُوا
طِينًا مِّنْ فِي حَيَاتِكُمُ الدُّنْيَا وَاسْتَمْتَعْتُمْ بِهَا
فَالْيَوْمَ تُجْزَوْنَ عَذَابَ الْهُونِ بِمَا كُنتُمْ
تَسْتَكْبِرُونَ فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ وَبِمَا
كُنتُمْ تَتَسَوَّغُونَ ﴿٢٠﴾

* وَأَذْكُرْ أَهْلَ عَادٍ إِذْ أَنْذَرْنَاهُمْ رَبِّي الْأَحْقَافَ
وَقَدْ حَلَّ النَّذْرُ مِنْ بَيْنِ يَدَيْهِ وَمَنْ خَلْفَهُ
أَلَّا تَعْبُدُوا إِلَّا اللَّهَ إِنِّي أَخَافُ عَلَيْكُمْ عَذَابَ
يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿٢١﴾

قَالُوا أَجِئْنَا بِتِلْكَ آيَةٍ وَالْهَيْبَةُ قَاتِلَتْنَا بِمَا
تَعْبُدُونَ إِن كُنتُمْ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٢٢﴾

1 この「善きもの」とは、アッラー*の法に反した形での、欲望や快楽(アル=クルトウビー 16:200 参照)。

2 アラビア半島南部の、砂丘が多く連なる地帯とされる(ムヤッサル 505 頁参照)。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 家畜章 57-58、戦利品章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

23. 彼（フード*）は言った。「本当に（懲罰が到来する時の）知識はアッラー*の御許にあるのであり、私は自分が携えて遣わされたものを、あなた方に伝えるだけ。しかし私には、（懲罰を急ぐ）あなた方が無知な民に見える」。

24. こうして、雲の形をしたそれ（懲罰）が自分たちの谷に向かってくるのを見た時、彼らは言った。「これは、私たちに雨を降らしてくれる雲だ」。いや、それは、あなた方が性急に求めているもの。痛ましい懲罰を運ぶ、風なのである。

25. それはその主*のご命令により、全てのものを破壊する。こうして（彼らの国には、）彼らの住居の外、（何一つ）見えなくなってしまった。同様に、われらは罪悪者である民に報いるのである。

26. また（クライシュ族*の不信仰者*たちよ）、われらは確かに彼ら（アード*の民）を、あなた方を（そこまでは）強力にしなかったほどに、（現世で）強力にした¹。また、われらは彼らに聴覚と視覚と心を与えたのに、彼らの聴覚も視覚も心も、彼らを少しも益することはなかった。彼らはアッラー*の（唯一性*を示す）御徴を否定していたのであり、自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包囲したのだ。

قَالَ إِنَّمَا الْعِلْمُ عِنْدَ اللَّهِ وَإِنَّمَا كُنَّا نُرْسِلُكُمْ بِهِ رَسُولَكُنَا أَنْ تَكُونُوا بِمَعْلُومٍ ۚ

فَلَمَّا رَأَوْهُ عَارِضًا مُسْتَقْبِلَ أَوْدِيَّتِهِمْ قَالَ لَوْ هَذَا عَارِضٌ مُمْطِرُنَا بَلْ هُوَ مَا أَسْعَجَلَكُم بِهِ رِيحٌ فِيهَا عَذَابٌ أَلِيمٌ ۝

نَذِيرٌ كُلِّ شَيْءٍ بِأَمْرِ رَبِّهَا فَاصْبِرْ لَآ يَرَى إِلَّا أَلَمَاسَهُمْ كَذَلِكَ تَجْزِي الْقُوَّةُ الْمُجْرِمِينَ ۝

وَلَقَدْ مَكَّنَّهُمْ فِيمَا إِنْ مَكَّنَّاكُمْ فِيهِ وَجَعَلْنَا لَهُمْ سَمْعًا وَأَبْصَارًا وَفُؤَادًا عَنَىٰ عَنْهُمْ سَمْعُهُمْ وَلَا أَبْصَارُهُمْ وَلَا فُؤَادُهُمْ مِنْ شَيْءٍ إِذْ كَانُوا يَجْحَدُونَ بِآيَاتِ اللَّهِ وَحَاقَ بِهِمْ مَا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِءُونَ ۝

1 アッラー*はアード*に対し、クライシュ族*にもお授けにはならなかったような沢山の財産と強靱（きょうじん）な肉体を授けられたが、その不信仰ゆえに滅ばされた（アッ=タバリ9:7419 参照）。

27. また(クライシュ族*の不信仰者*たちよ、) われら*は確かに、あなた方の周りの町々 (の民)¹を滅ぼし、(彼らに)²御徴を多彩に示した²。(それは)彼らが、(不信仰から)戻って来るようにするためである。

28. そして彼らがアッラー*をよそに、(その崇拜*がアッラー*へと)近づけてくれるもの、つまり神々³としていた者たちは、どうして(彼らが必要としている時、)彼らを助けなかったのか? いや、それら(神々とされたものたち)は、彼ら(シルク*の徒)から、消え去ってしまったのである。それ(シルク*)は彼らのでっち上げであり、彼らが捏造していたものだったのだ。

29. (使徒*よ、)われら*があなたへと、クルアーン*に耳を傾けるジン*の集団を送った時のこと(を、思い出させよ)。彼らは、彼(使徒*)のもとにやって来た時、(互いに)言った。「(クルアーン*の読誦を、)傾聴せよ」。そして(読誦が)済むと、彼らは(不信仰者*への懲罰に対する)警告者*となって、自分たちの民へと帰って行った。⁴

وَلَقَدْ أَهَلَكْنَا مَا حَوْلَكُمْ مِنَ الْقَرْيَةِ
وَصَرَفْنَا آلَايَتِنَا لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٢٧﴾

فَلَوْلَا نَصْرُهُمُ الَّذِينَ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ
اللَّهِ قُرْبَانًا إِلَهًا بَلْ صَلَّوْا عَنْهُمْ
وَذَلَّكَ إِنْكِبَهُمْ وَمَا كَانُوا يَنْقُصُونَ ﴿٢٨﴾

وَإِذْ صَرَفْنَا إِلَيْكَ نَفَرًا مِنَ الْجِنِّ يَسْتَمِعُونَ
الْقُرْآنَ إِن كُنَّا حَاضِرُوهُ قَالُوا أَنْصُرُوا
فَلَمَّا قُضِيَ وَلَوْ إِلَى قَوْمِهِمْ مُنْذِرِينَ ﴿٢٩﴾

1 遣わされた使徒*を嘘つき呼ばわりして滅ぼされた、アード*、サムード*、サバア (サバア章、冒頭の訳注を参照)、マドゥヤン*、ルート*の民などのこと (イブン・カスィール 7:288 参照)。

2 証拠、譬 (たと) え、訓戒、教示を様々な形で、くり返し示した、ということ (アル・ジャザーイーリー 5:63 参照)。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 イブン・カスィール*によれば、ジン*が預言者*のクルアーン*読誦を聞いたことに関する伝承は、多様な形で数多く存在しており、そのような出来事が起きたのは一度だけではないことを示している (7:296 参照)。

30. 彼らは言った。「我らが民よ、本当に私たちは、ムーサー*の後に下された、それ以前のもの^{けいてん}を確証する啓典^{あひび}を聞いたのだ。それは真理へと導き、まっすぐな道へと導くのである。

31. 我らが民よ、アッラー*の招き手^{まね}（預言者*^{よげんしゃ} ムハンマド*）に応え、彼を信じよ。かれ（アッラー*）はあなた方のためにその罪^{つみ}の一部をお赦しになり、あなた方を痛ましい懲罰からお守り下さろう。

32. そしてアッラー*の招き手^{まね}に應じなかった者は、地上で（アッラー*の懲罰^{ちようばつ}から）逃^{のが}れられる者ではない。また、その者にはかれ（アッラー*）以外、庇護者^{ひご}などないのだ。それらの者たちは、明らかな迷いの中にある」。

33. 一体、彼らは諸天と大地をお創りになり、その創造^{そうぞう}が不可能ではなかったお方（アッラー*）が、死人に生を与えることがお出来なのを知らなかったのか？ いや、本当にかれは、全てのことがお出来のお方。

34. 不信仰だった者*たちが、業火^{ごう}に晒^{さら}される（復活の）日*。（彼らには、こう言われる）「一体、これ^{しゆ}は真実ではないのか？」彼らは言う。「我らが主*にかけて、確かにそうです」。かれは仰^{おほ}せられる。「では、あなた方が（現世で地獄^{ちようぼつ}の懲罰を）否定していたことゆえに、懲罰を味わうがよい」。

قَالُوا إِنَّا سَمِعْنَا كِتَابًا أُنزِلَ مِنْ
بَعْدِ مَوْسَىٰ مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ يَهْدِي
إِلَى الْحَقِّ وَالْإِطْرَاقِ مُسْتَقِيمٍ ﴿٤٠﴾

يَقُولُونَ أَجِيبُوا دَعَايَ اللَّهِ وَآمِنُوا بِهِ
بَعِثْ لَكُمْ مِنْ ذُرِّيَّتِكُمْ وَمُجْرِمٌ مِنْ عَذَابٍ
أَلِيمٍ ﴿٤١﴾

وَمَنْ لَا يُجِبْ دَعَايَ اللَّهِ فَلَيْسَ بِمُعْجِزٍ فِي
الْأَرْضِ وَلَيْسَ لَهُ مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءُ أُولَٰئِكَ
فِي ضَلَالٍ مُبِينٍ ﴿٤٢﴾

أُولَٰئِكَ يَرَوْنَ أَنَّ اللَّهَ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ
وَالْأَرْضَ وَلَمْ يَتَّخِذْ لَهُمْ شَيْئًا مِنْ خَلْقِهِمْ
يَقْدِرُ عَلَىٰ أَنْ يُخَيِّطَ الْمَوْتَ بِئِنَّ إِيَّاهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٤٣﴾

وَيَوْمَ يُعْرَضُ الَّذِينَ كَفَرُوا عَلَى النَّارِ أَلَيْسَ هَذَا
بِأَلْفٍ قَالُوا بَلَىٰ وَرَبَّنَا قَالِ ذُرِّيَّتُنَا آلَتْ
بِمَا كُنْتُمْ تَكْفُرُونَ ﴿٤٤﴾

1 地獄の懲罰のこと（ムヤッサル 506 頁参照）。

35. ならば（使徒^{しと}*よ）、使徒^{しと}*たちの内の決然とした者たち¹が忍耐^{ちようぼつ}*したごとく、忍耐^{ちようぼつ}*せよ。そして、彼らに（懲罰^{ちようばつ}が降りかかるのを）性急に求めるのではない。自分たちが約束されているもの（懲罰^{ちようばつ}）を目の当たりにする日、彼らは（現世で）あたかも昼の一時しか過^すごさなかったかのようなだから²。（これこそは、）伝達だ。そして放逸^{ほういつ}な民以外に、（懲罰^{ちようばつ}で）滅^{ほろ}ぼされることなどあろうか？

فَاصْبِرْ كَمَا صَبَرَأُولُوا الْعِزِّ مِنَ الرُّسُلِ وَلَا
تَسْتَعْجِلْ لَهُمْ كَانَتْهُمْ يَوْمَ يَرْوْنَ مَا يُوعَدُونَ
لَمْ يَلْبَسُوا إِلَّا سَاعَةً مِنْ نَهَارٍ بَلِّغْ فَهَلْ
يُهْلِكُ إِلَّا الْقَوْمَ الْفَاسِقُونَ ﴿٥٥﴾

1 「決然とした者たち」については、部族連合章7の訳注を参照。

2 ユーヌス*章45とその訳注、及びター・ハー章103、信仰者たち章113-114、ビザンチン章55、引き離すもの章46も参照。

第 47 章
ムハンマド*章¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 不信仰であり、アッラー*の道から（人々）を阻んだ者たち、かれ（アッラー*）は彼らの行いを無に帰させ給う。
2. そしてかれは、信仰し、正しい行い*を行い、ムハンマド*に下されたもの——それは彼らの主*からの真実——を信じる者たちの悪行を帳消しにされ、（現世と来世における）彼らの諸事を正される。
3. それというのも、不信仰に陥った者*たちは虚妄に従い、信仰する者たちはその主*からの真実に従うためである。このようにアッラー*は、彼らの様を人々に示される。
4. ゆえに（信仰者たちよ）、あなた方が不信仰に陥った者*たちと（戦場で）会ったならば、首への打撃を（食らわせよ）。やがて、あなた方が彼らを徹底的に痛めつけたならば、戦争が幕を引くまで（捕虜に）綱を縛りつけ、後に情けをかけて（無償で解放して）やるか、身代金（を受け取って解放する）か（、するのだ）²。（事は、）そうなので

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الَّذِينَ كَفَرُوا وَصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ أَضَلَّ
أَعْمَالَهُمْ ﴿١﴾

وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَآمَنُوا بِمَا
نَزَّلَ عَلَىٰ مُحَمَّدٍ وَهُوَ الْحَقُّ مِنْ رَبِّهِمْ كَفَرَ عَنْهُمْ
سَيِّئَاتِهِمْ وَأَصْلَحَ بَالَهُمْ ﴿٢﴾

ذَلِكَ بِأَنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا اتَّبَعُوا الْبَاطِلَ وَأَنَّ الَّذِينَ
آمَنُوا اتَّبَعُوا الْحَقَّ مِنْ رَبِّهِمْ كَذَلِكَ يَضْرِبُ اللَّهُ
لِلنَّاسِ أَمْثَلَهُمْ ﴿٣﴾

وَإِذَا الْقِيَمَةُ لِلَّذِينَ كَفَرُوا فَضْرٌ إِلَىٰ آلِهَتِهِمْ إِذَا
اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ آلِهَةً مَا تَعْبُدُونَ إِلَّا اللَّهَ
حَتَّىٰ تَضَعَ الْحَرْبُ أَوْدَاجَهَا ذَٰلِكَ وَلَوْ يَشَاءُ اللَّهُ
لَا تَصْرُ مِنْهُمْ وَلَٰكِنْ لِّيَبْلُوَ بَعْضَكُمْ بِبَعْضٍ
وَالَّذِينَ قَاتَلُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ فَلَنْ يُضِلَّ أَعْمَالَهُمْ ﴿٤﴾

1 マディーナ*啓示で、学者間の意見はほぼ一致。スーラ*名は、アーヤ*2 に出現する預言者*ムハンマド*の名に由来。アッラー*を否定し、イスラーム*を阻止（そし）しようとするシルク*の徒との戦いへと、ムスリム*たちを力強い調子で促（うなが）す。勝利の要因、過去の不信仰者*たちの結末、来世における信仰者と天国の様子、偽（にせ）信者*らの描写も、その流れの中で登場するもの。

2 捕虜はこのほか、「死刑」「奴隷*にする」などという選択肢もある（法学派によって相違の見解あり）が、いずれもその決定権は、イスラーム*国家の統治者、あるいはその代理人に属する（クウェイト法学大全4：200-201）。アーヤ*20「戦いの命令」についての訳注、および戦利品*章 67-68 とその訳注も参照。

ある。そしてアッラー*がお望みであったなら、（信仰者たちを、戦いなしで）彼ら（不信仰者*たち）に勝利させられただろう。だが（戦いが定められたのは）、あなた方の一方を別の一方で試練^{しれん}におかけになるため。かれ（アッラー*）は、アッラー*の道において殺された（信仰）者たちの行い（に）に対する報^{むく}い）を、無に帰^きさせ給^{たま}わない。

5. かれ（アッラー*）は、彼らを導^{みちび}かれ、その諸事を正して下さろう。

سَيَهْدِيهِمْ وَيُصْلِحُ بَالَهُمْ ﴿٥﴾

6. そして彼らを、天国に入れて下さる。かれはそれを、彼らにご教示されたのだ²。

وَيُدْخِلُهُمُ الْجَنَّةَ عَرَّفَهُمُ ﴿٦﴾

7. 信仰する者たちよ、もしあなた方がアッラー*（の宗教）を援助³するならば、かれ（アッラー*）はあなた方を援助され、（戦いにおいて）あなた方の足^{けんて}を堅固にして下さろう。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِن تَصْرُوهَا اللَّهُ يَضُرَّكُمْ
وَيُزِيلَنَّ أَقْدَامَكُمْ ﴿٧﴾

8. 不信仰に陥^{おちい}った者*たち、彼らには没落^{ぼつらく}があり、かれ（アッラー*）はその行いを無に帰^きさせ給^{たま}う。

وَالَّذِينَ كَفَرُوا فَتَعْسَا لَهُمْ وَأَسْلُ أَعْمَالُهُمْ ﴿٨﴾

9. それというのも、彼らがアッラー*が下されたもの（クルアーン*）を嫌^{きら}ったためである。それでかれ（アッラー*）は、彼らの行いを台無しにされたのだ。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ كَرِهُوا آيَاتِي وَأَنزِلَ اللَّهُ فَتَحَبَّطَ
أَعْمَالُهُمْ ﴿٩﴾

1 「試練」については、雌牛章 214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、蜘蛛章 2、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

2 大半の解釈学者の見解では、「天国での各人の居場所を、ご教示された」という意味（アル＝クルトゥビー16:231 参照）。

3 「アッラー*（の宗教）の援助」とは、アッラー*の道において戦い、その啓典によって裁決を下し、かれのご命令を守り、禁じられたものを避（さ）けること（ムヤッサル 507 頁参照）。

10. 一体、彼ら（不信仰者*たち）は地上を旅して、彼ら以前の（不信仰）者*たちの結末が、どのようなものであったかを見なかったのか？ アッラー*は彼らに対して破壊し尽くし給うたのであり、不信仰者*たちには（彼らを襲ったのと）同様のものがある。
11. それというのも、アッラー*こそが信仰する者たちの庇護者*であり、不信仰者*たちには庇護者などないからなのだ。
12. 本当にアッラー*は、信仰し、正しいい*を行う者たちを、その下から河川が流れる樂園に入れて下さる。一方、不信仰に陥った者*たちは（現世を）楽しみ、まるで家畜が食べるように（ひたすら）食べている。（地獄の）業火が、彼らの住処なのだ。
13. （使徒*よ、）われら*は、あなたを追いつ出した、あなたの町（マッカ*）よりも強力な町（の民）を、一体どれだけ滅ぼしたことか？ そして彼らには、いかなる援助者もなかったのだ。
14. その主*の御許からの明証に依拠する者は、（シャイターン*によって）自分の悪行が目映く見せられ、自分たちの欲望¹に従う者と同様であろうか？
15. 敬虔な*者たちに約束された天国の様子（とは、このようなもの）：そこには、濁ることのない水の河川、その味わいが変わらない乳¹の河川、飲む者にとって美味な酒の河川、純粋な蜂蜜の河川がある。また、そこには彼らのためにあらゆる果実と、彼らの

﴿أَفَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ دَمَّرَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ وَلِلْكَافِرِينَ أَمْثَلُهُمْ﴾

﴿ذَلِكَ بِأَنَّ اللَّهَ مَوْلَى الَّذِينَ آمَنُوا وَأَنَّ الْكَافِرِينَ لَا مَوْلَى لَهُمْ﴾

﴿إِنَّ اللَّهَ يُدْخِلُ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ وَالَّذِينَ كَفَرُوا يَسْمَعُونَ نَيْبًا كَمَا تَأْكُلُ الْأَنْعَامُ وَالنَّارُ مَثْوًى لَهُمْ﴾

﴿وَكَايْنٍ مِّنْ قَرْيَةٍ هِيَ أَشَدُّ قُوَّةً مِّنْ قَرْيَةٍ آخَى أَخْرَجْنَاهُ أَهْلَكَاهُ فَكَانَ نَاصِرًا لَهُمْ﴾

﴿أَفَمَنْ كَانَ عَلَىٰ يَدَيْهِ أَشَدُّ قُوَّةً مِّنْ رَّبِّهِ لَمْ يَكُنْ لَهُ سُوءُ عَمَلٍ ۖ وَأَتَّبَعُوا أَهْوَاءَهُمْ﴾

﴿مَثَلُ الْجَنَّةِ الَّتِي وُعِدَ الْمُتَّقُونَ فِيهَا أَنْهَارٌ مِّنْ مَّاءٍ غَيْرِ آسِنٍ وَأَنْهَارٌ مِّنْ لَّبَنٍ لَّيِّعٍ غَيْرِ طَعْمُهُ، وَأَنْهَارٌ مِّنْ خَمْرٍ لَّدَوٍّ لَّشْدِيدٍ وَأَنْهَارٌ مِّنْ عَسَلٍ مُّصَفًّى وَلَهُمْ فِيهَا مِن كُلِّ الثَّمَرَاتِ وَمَغْفِرَةٌ مِّنْ رَبِّهِمْ كَمَنْ هُوَ خَالِدٌ فِي النَّارِ وَسُقُوا مَاءً حَمِيمًا فَقَطَّعَ

1 この「欲望」は、シルク*を始めとした罪のこと（ムヤッサル 508 頁参照）。

主からの（罪の）お赦しがある。（一体、この天国の中にある者は、）業火に永遠に留まり、煮えたぎる湯を飲ませられて腸が散り散りになってしまう者と、同様であろうか？

أَمْعَاهُمْ ١٥

16. （預言者*よ、）彼ら（偽信者*たち）の内には、（理解することなく、ふざけ半分で）あなたに耳を傾ける者もいる。挙げ句、彼らはあなたのもとから出て行くと、（啓典の）知識を授けられた者たちに（嘲笑してこう）言うのだ。「今、彼（ムハンマド*）は何を語ったのか？」アッラー*は、それらの者たちの心を（真理の理解から）塞がれた¹のであり、彼らは（不信仰と迷妄において）自分たちの欲望に従ったのである。

وَمِنْهُمْ مَّن يَسْتَمِعُ إِلَيْكَ حَتَّىٰ إِذَا خَرَجُوا مِنْ عِنْدِكَ قَالُوا لِلَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ مَاذَا قَالَ آنِذَا
أُولَٰئِكَ الَّذِينَ طَبَعَ اللَّهُ عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ وَاتَّبَعُوا أَهْوَاءَهُمْ ١٦

17. 一方、導かれた者たち²はといえば、かれ（アッラー*）から導きを上乘せされ、敬虔さを授けられる。

وَالَّذِينَ آمَنُوا وَآذَنُوا لَهُمْ هُدًى وَآذَنُوا لَهُمْ ١٧

18. 彼ら（真理を嘘呼ばわりする者たち）は、（復活の）その時が自分たちのもとに突然やって来るのを、待っているだけなのか？ その予兆³は、確かに到来したというのに。彼らのもとに（復活の時）訪れた時、どうして彼らの教訓（に益）があらうか？⁴

فَهَلْ يَنْظُرُونَ إِلَّا السَّاعَةَ أَنْ تَأْتِيَهُمْ بَغْتَةً
فَقَدْ جَاءَ أَشْرَاطُهَا فَأَنَّىٰ لَهُمْ إِذَا جَاءَهُمْ ١٨

1 「心を塞がれた」については、雌牛章 7 の訳注を参照。

2 つまり、「導き」を求めた者たち（イブン・カスィール 7:315 参照）。

3 預言者*ムハンマド*の到来は、復活の日*の予兆の一つ（前掲書、同頁参照）。蜜蜂章 1 の訳注も参照。

4 復活の日*が到来した時、彼らは教訓を受け、信仰する。しかしその日、信仰が役立つことはない（アッ＝シャンキーティー 7:255 参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

19. ならば（預言者*よ）、アッラー*の外には（真に）崇拝*されるべき何ものもないことを知り、自分の罪のお赦しを乞うのだ。そして男の信仰者たちと、女の信仰者たちのためにも（罪の赦しを乞え）。アッラー*はあなた方の動作も、あなた方の住処¹もご存知であられる。

20. 信仰する者たちは、言う。「どうして、（私たちに不信仰者*たちとの戦いを命じる）スーラ*が下されないのですか？」そして明確なスーラ*が下され、そこで戦い（の命令²）が言及された時、（預言者*よ、）あなたは心に病がある者³たちが、死（の恐怖）ゆえに気絶する者の視線で、あなたを凝視するのを目にする。彼らには先決であるのに、⁴

21. （アッラー*への）服従と、適切な言葉⁵が。（不信仰者*との戦いという）ご命令が決定した時、彼らがアッラー*に正直だったなら、それが彼らにとってより善いことであつたのだ。

22. あなた方は、もし（イスラーム*の教えから）背を向けたら、地上で腐敗*を働いたり、自分たちの近親関係を断絶したりするのではないか？

فَاعْلَمُ أَنَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ وَاسْتَغْفِرْ
لِذَنبِكَ وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ وَاللَّهُ
يَعْلَمُ مَقَالِكُمْ وَمَنَاسِكُمْ ﴿١٩﴾

وَيَقُولُ الَّذِينَ آمَنُوا لَوْلَا نَزَّلَتْ سُورَةٌ فَإِنَّا
أُنزِلَتْ سُورَةٌ مَّحْكَمَةٌ وَذُكِرَ فِيهَا الْقِتَالُ
رَأَيْتَ الَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ يَنْظُرُونَ إِلَيْكَ
نَظَرَ الْمَغْشِيِّ عَلَيْهِ مِنَ الْمَوْتِ فَأَوْلى لَهُمْ ﴿٢٠﴾

طَاعَةٌ وَقَوْلٌ مَعْرُوفٌ فَإِذَا عَزَمَ الْأَمْرُ فَلَوْ
صَدَّقُوا اللَّهَ لَكَانَ خَيْرًا لَّهُمْ ﴿٢١﴾

فَهَلْ عَسَيْتُمْ إِن تَوَلَّيْتُمْ أَن تُفْسِدُوا فِي
الْأَرْضِ وَتَقَطَعُوا أَرْحَامَكُمْ ﴿٢٢﴾

1 この「動作」と「住処」の解釈には、それぞれ「現世における行動と、来世における行き先」「昼間の行動と、夜の寝場所」「父親の精巣から母親の子宮への移動、地上での居住地」などといった諸説がある（アル=バガウィー4:215 参照）。

2 「戦いの命令」については、雌牛章 190、悔悟章 36 とその訳注も参照。

3 アッラー*の宗教に対して疑念のある者や、偽信者のこと（ムヤッサル 509 頁参照）。

4 「彼らには先決である」ではなく、「彼らにもっと（破壊が）近づくよう」という解釈もある。その場合、次のアーヤ*冒頭は「…が（、彼らにはより善い）」という意味（アル=バイダーウィー5:194 参照）。

5 「適切な言葉」とは、イスラーム*の教えに沿った言葉のこと（ムヤッサル 509 頁参照）。

23. それらの者たちは、アッラー*が呪われ¹、
聾^{つんぼ}にされ、その眼を盲目にされた²者たち。
24. 一体、彼ら^{にせ}（偽信者*たち）は、クルアーン
*を熟慮しないのか？ いや、心に錠が^{じよう}か
けられているのだ。
25. 本当に、導^{みちび}きが明らかにされた後^{しりぞ}に及ん
で、背中を向けて（不信仰へと）退いた者
たちに、シャイターン*は（彼らの過^{あやま}ちを）
目映く見せ、彼らに（欺^{あざむ}きの願望を）長引
かせた³のだ。
26. それというのも彼らが、アッラー*が下され
たものを嫌った者たちに対し、（こう）言
った⁴からである。「私^{わたが}たちはいくつかの事
において、あなた方に従おう」。アッラー
*は、彼らの秘密をご存知だというのに。
27. では、天使*たちがその顔と背中^{なぐ}を殴りつけ
つつ、彼ら（の魂^{たましい}）を取り上げる時（の
状況）は、いかなるものとなろうか？⁵
28. それというのも彼らは、アッラー*を激怒^{げきど}させ
ることに^{したが}従い、かれのご満悦を嫌ったからな
のだ。それでかれ（アッラー*）は、彼らの行
い（の褒美^{ほうび}）を台無しにされたのである。
29. いや、心の中に病^{やまい}がある者たちは、アッラ
ー*が彼らの（イスラーム*とムスリム*）に対
する憎悪を（信仰者たちの眼前に）引き
出されないとでも思い込んでいたのか？

أُولَٰئِكَ الَّذِينَ لَعَنَهُمُ اللَّهُ فَأَصَمَّهُمْ وَأَعَمَّى
أَبْصَرَهُمْ ﴿٢٣﴾

أَفَلَا يَذْكُرُونَ الْقُرْآنَ أَنِ آمَرَ عَلَىٰ قُلُوبٍ أَفْقًا لَهَا ﴿٢٤﴾

إِنَّ الَّذِينَ أَرَادُوا أَنْ يَنْصُرُوا هَٰؤُلَاءِ مِنْ بَعْدِ
مَا نَبَيَّاهُمْ أَهْدَاهُمُ الشَّيْطَانُ سَوَاءً
لَهُمْ وَأَمَلَىٰ لَهُمْ ﴿٢٥﴾

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ قَالُوا لِلَّذِينَ كَرِهُوا مَا
نَزَّلَ اللَّهُ سَطِيعُكُمْ فِي بَعْضِ الْأَمْرِ
وَاللَّهُ يَعْلَمُ إِسْرَارَهُمْ ﴿٢٦﴾

فَكَيْفَ إِذَا تَوَفَّتْهُمُ الْمَلَائِكَةُ
يَضْرِبُونَ وُجُوهَهُمْ وَأَدْبَارَهُمْ ﴿٢٧﴾

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ اتَّبَعُوا مَا أَسْخَطَ اللَّهَ
وَكَرِهُوا رِضْوَانَهُ، فَأَخْبَطَ أَعْمَالَهُمْ ﴿٢٨﴾

أَمْ حَسِبَ الَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ أَن لَّا
يُخْرِجَ اللَّهُ أَضْغَانَهُمْ ﴿٢٩﴾

1 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

2 「聾」「盲目」については、雌牛章 7、18、フード*章 20 とその訳注も参照。

3 婦人章 120 も参照。

4 この言葉を誰が誰に言ったかについては、「偽信者*たちが、シルク*の徒に言った」「偽信者*
たちが、ユダヤ教徒*に言った」「その逆」という説がある（アッ=シャウカーニー5:51 参照）。

5 この様子については、家畜章 93、戦利品*章 50 とそれらの訳注を参照。

30. そして(預言者*よ)、もしわれら*が望めば、われら*はあなたに彼らを(特定して)見せ、あなたは必ずや彼らをその特徴で知るであろう。また、あなたは必ずや(彼らの意図が見え隠れする)含みを持たせた言葉によって、彼らを知るのだ。アッラー*は、あなた方の行いをご存知である。

31. また(信仰者たちよ)、われら*は必ずや、あなた方を試練¹にかけろ。われら*が、あなた方の内の努力奮闘する者たちと、忍耐*ある者たちを如実に表し、あなた方の消息²を試すために。

32. 本当に不信仰であり、アッラー*の道から(人々を)阻み、自分たちに導きが明らかになった後に使徒*に歯向かった者たちは、少しもアッラー*(の宗教)を害することなどない。そしてかれ(アッラー*)はいずれ、彼らの行いを台無しにされるのである。

33. 信仰する者たちよ、アッラー*に従い、使徒*に従え。そしてあなた方の行いを、(不信仰や罪で)無駄にしてはならない。

34. 本当に不信仰であり、アッラー*の道から(人々を)阻み、それから不信仰者*のまま死んだ者たちを、アッラー*がお赦しになることはないのだ。

وَلَوْ نَشَاءُ لَأَمَرْنَاكُم بِالْحَمْدِ فَلَغَرَفْتُمُوهُمْ
يَسْمِعُونَ وَلَتَعْرِفَنَّهُمْ فِي لَحْنِ الْقَوْلِ
وَاللَّهُ يَعْلَمُ أَعْمَالَكُمْ ﴿٣٠﴾

وَلَتَبْلُوَنكُمْ حَتَّى نَعْلَمَ الْمُجْتَهِدِينَ مِنْكُمْ
وَالصَّابِرِينَ وَتَبْلُوَ أَخْبَارَكُمْ ﴿٣١﴾

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا وَصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ
وَشَاقُوا الرِّسُولَ مِنْ بَعْدِ مَا بَيَّنَّ لَهُمْ
الْهُدَىٰ لَنْ يَضُرُّوا اللَّهَ شَيْئًا وَسَيُحِطُّ
أَعْمَالُهُمْ ﴿٣٢﴾

*يَتَّبِعُهَا الَّذِينَ آمَنُوا أَطِيعُوا اللَّهَ
وَأَطِيعُوا الرِّسُولَ وَلَا تُبْطِلُوا أَعْمَالَكُمْ ﴿٣٣﴾

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا وَصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ
مَاتُوا وَهُمْ كُفَّارٌ فَلَنْ يَغْفِرَ اللَّهُ لَهُمْ ﴿٣٤﴾

1 「試練」については、雌牛章 214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、蜘蛛章 2、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

2 この「消息」の解釈については、「あなた方の行いについて、それが善いものだったか、あるいは悪いものだったか、知らせるもの」「信仰心と信仰者たちへの愛情において、それが誠実だったか、嘘だったかを知らせるもの」といった諸説がある(アル＝バイダーウィー 5:196 参照)。

35. ならば（信仰者たちよ）、あなた方が優位者であるというのに、弱気になったり、講和へと呼びかけたりしてはならない¹。アッラー*は（その勝利と援助によって）、あなた方と共にあり、あなた方の行い（の褒美）を減らしたりはされないのだ。

36. 現世の生活とは、遊興と戯れに過ぎない²。もし、あなた方が信仰し、（アッラー*を）畏れる*なら、かれはあなた方にその褒美を授けられる。そして、あなた方の財産を（浄財*として、全て）要求されることはない。

37. もし、かれ（アッラー*）がそれをあなた方に要求され、あなた方を無理強いさせられるならば、あなた方は出し惜しみし、かれはあなた方の憎悪を引き出されるであろう。

38. ほら、（信仰者たちよ、）あなた方という人たちは、アッラー*の道において出費することへと招かれているのに、あなた方の内には出し惜しみする者がいる。出し惜しみする者は誰でも、自分自身に出し惜みしているに外ならない³。アッラー*が満ち足りた*お方なのであり、あなた方が貧しい者たちなのだ。そして、もしあなたが（アッラー*への信仰と服従に）背を向けるなら、かれ（アッラー*）はあなた方ではない別の民と（あなた方を）交換され、それから彼らはあなた方のように（アッラー*に不服従に）なることもないであろう。

فَلَا يَهِنُوا وَتَدْعُوا إِلَى السَّلَامِ وَأَنْتُمْ الْأَعْلَوْنَ
وَاللَّهُ مَعَكُمْ وَلَنْ يَترَكَا عَمَلَكُمْ ﴿٣٥﴾

إِنَّمَا الْحَيَاةُ الدُّنْيَا لَعِبٌّ وَلَهُوَ إِنْ تَوَلَّوْا
وَتَشَقَّوْا بُرْءُكُمْ وَأَجُورُكُمْ وَلَا يَسْأَلُكُمْ
أَمْوَالُكُمْ ﴿٣٦﴾

إِنْ يَسْأَلْكُمْ هَا فَبِحِيفَةٍ تَسْأَلُكُمْ وَأَخْرِجْ
أَصْغَرَكُمْ ﴿٣٧﴾

هَآ أَنَسَمُ هَؤُلَاءِ لَدُّ دَعَوَن لِّتَنَفِقُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ
فَمِنْكُمْ مَنْ يَبْخُلُ وَمَنْ يَبْخُلْ فَإِنَّمَا يَبْخُلْ
عَنْ نَفْسِهِ وَاللَّهُ الْغَوِيُّ وَأَنْتُمْ الْفُقَرَاءُ
وَلَنْ تَسْأَلُوا بِتَسْتَبْدِلَ قَوْمًا غَيْرَكُمْ ثُمَّ لَا
يَكُونُوا أَمْثَلَكُمْ ﴿٣٨﴾

1 「不信仰者*との講和」については、不信仰者*の方から講和を申し入れてきた時には、それを受け入れるのも可能。戦利品*章 61 も参照（アッ=シャンキーティー7:390 参照）。

2 家畜章 32 の訳注も参照。

3 というのも彼らはそうすることで、自分たちにアッラー*からの褒美を禁じ、多くの善を取り損ねたからである（アッ=サアディー790 頁参照）。

第48章

勝利章 (アル=ファトゥフ) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、) 本当にわれら*はあなたに、明白なる勝利で勝利させた。²
2. (それは) アッラー*があなたのために、あなたの罪の内、先んじたものと後から生じたもの³をお赦しになり、あなたの上にその恩恵を全うされ、あなたをまっすぐな道へと導かれるため。
3. また、あなたを、この上ない援助で援助されるため。
4. かれ(アッラー*)は信仰者たちの心に、その信仰心の上に更なる信仰心を上乗せすべく、静寂を下された⁴お方。そしてアッラー*にこそ、諸天と大地の軍勢は属する。アッ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ فَتْحًا مُبِينًا ①

يَغْفِرُ لَكَ اللَّهُ مَا تَقَدَّمَ مِنْ ذَنْبِكَ وَمَا تَأَخَّرَ
وَيُثَبِّتُ لَكَ اللَّهُ عَلَيْهِ وَيَهْدِيكَ صِرَاطًا
مُسْتَقِيمًا ②

وَيَضْرِبُكَ اللَّهُ تَضْرِبًا عَظِيمًا ③

هُوَ الَّذِي أَنْزَلَ السَّكِينَةَ فِي قُلُوبِ الْمُؤْمِنِينَ
لِيَزِيدُوا إِيْمَانًا مَعَ إِيْمَانِهِمْ وَلِلَّهِ جُودُ
السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَكَانَ اللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ④

- 1 マディーナ*啓示。ムスリム*側にとっては一見不利に見えるフダイビーヤの和議*の後、啓示される。スーラ*名の由来は、スーラ*冒頭、そしてその後も繰り返される「勝利」という言葉(アーヤ*1、18、27 参照)による。また一方で、アッラー*の道における戦いへの誘い、あらゆる局面で従順(じゅうじゅん)な信仰者たちの賛美、それと対照的に不従順なバドウィンや偽信者*らへの非難も描写される。
- 2 大多数の解釈学者によれば、この「勝利」は、フダイビーヤの和議*のこと(アッ=シャウカーニー5: 59 参照)。その他「マッカ開城*」「ローマ帝国、その他の征服」「イスラーム*の勝利」などの諸説もあるが、いずれにせよ、それらは全て実現した(アル=カースィミー15:5395 参照)。
- 3 罪の内で「先んじたもの」「後から生じたもの」の解釈には、それぞれ「使徒*となった時以前のものと、以後のもの」「使徒*となった時以前のものと、それからこのアーヤ*が下る時までのもの」「使徒*となった時以前のものと、将来の全ての罪」など、数多くの説がある(アル=クルトウビー16:262 参照)。尚、預言者*や使徒*の無謬(むびゅう)性については、雌牛章 36 の訳注を参照。
- 4 これはアッラー*とその使徒*の決定に従(したが)った、フダイビーヤの和議*の日の教友*たちの描写とされる(イブン・カスィール 7:328 参照)。

ラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方であられる。

5. 信仰者の男たちと、信仰者の女たちを、その下から河川が流れる楽園に永遠に留まるべく入れ給い、彼らのためにその悪行を帳消しにされるべく（、静寂を下された）。それはもとより、アッラー*の御許で偉大な勝利であった。

6. また、アッラー*に対して悪い憶測^{おくそく}をしている、偽信者*の男たちと偽信者*の女たち、シルク*の徒の男たちとシルク*の徒の女たちを罰するため。彼らの方にこそ、彼らが憶測^{おくそく}している状況の）悪しき暗転があるのだ。そしてアッラー*は彼らをお怒りになり、呪われ²、彼らのために地獄を用意された。（それは）何と忌まわしい行き先であろうか。

7. そしてアッラー*にこそ、諸天と大地の軍勢^{ぐんぜい}は属する。アッラー*はもとより、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

8. （使徒*よ、）本当にわれら*はあなたを証人^{しんじん}、吉報を伝える者、警告を告げる者⁴として、遣わした。

9. （それは）あなた方がアッラー*とその使徒*を信じ、かれ（の宗教）を助け⁵、かれを畏敬し、かれを朝に夕に称える*ためである。⁶

لِيَدْخُلَ الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا وَيُكَفَّرُ عَنْهُمْ سَيِّئَاتُهُمْ وَكَانَ ذَلِكَ عِنْدَ اللَّهِ قَوْلًا عَظِيمًا ﴿٥﴾

وَيُعَذِّبُ الْمُنَافِقِينَ وَالْمُنَافِقَاتِ وَالْمُشْرِكِينَ وَالْمُشْرِكَاتِ الظَّالِمِينَ يَا اللَّهُ ظَرَبَ السَّوْءَ عَلَيْهِمْ دَائِرَةُ السَّوْءِ وَغَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ وَلَعَنَهُمْ وَأَعَدَّ لَهُمْ جَهَنَّمَ وَسَاءَتْ مَصِيرًا ﴿٦﴾

وَلِلَّهِ جُنُودُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَكَانَ اللَّهُ غَنِيًّا حَكِيمًا ﴿٧﴾

إِنَّا أَرْسَلْنَاكَ شَهِيدًا وَمُبَشِّرًا وَنَذِيرًا ﴿٨﴾

لِيُؤْمِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَتُعَزِّرُوهُ وَتُوَقِّرُوهُ وَتُسَبِّحُوهُ بُكْرَةً وَأَصِيلًا ﴿٩﴾

1 アッラー*が、預言者*と信仰者たちをその敵に対して援助されず、イスラーム*のことも勝利させられない、という「悪い憶測」のこと（ムヤッサル 511 頁参照）。

2 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

3 「証人」については雌牛章 143、婦人章 41 の訳注を参照。

4 「吉報を伝える者…」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

5 ムハンマド*章 7 と、その訳注も参照。

6 「かれを助け、かれを畏敬し」の「かれ」に限っては、アッラー*ではなく、預言者*のことを指す、という解釈もある（アル＝バガウィー 4:224 参照）。

10. (預言者^{よげんしゃ}*よ、)あなたに誓^{ちか}う者たちこそは、まさしくアッラー*に誓^{ちか}っている¹のである。アッラー*の御手^{おんて}は、彼らの手の上にあるのだから²。(その誓^{ちか}いを)破った者は誰であろうと、(その罰が自分に返ってくるゆえ、)自分に対して破っているのである。そして誰であろうと、アッラー*と契約^{けいやく}したことを全^まうする者に対し、アッラー*は偉大な褒美^{ほうび}をお授^{さず}けになろう。

11. (預言者^{よげんしゃ}*よ、)ベドウィンたちの内、(あなたと共にマッカ*に出発せず)居残らされた者たち³は、あなたに言うであろう。「私たちの財産と家族が、私たちを掛かりつきりにさせたのだ。だから私たちのため、(そのことについてアッラー*に)赦^{ゆる}しを乞^こうてくれ」。彼らは自分たちの心にもないことを、口先で言っている。言^いってやるのだ。「ではアッラー*があなた方に害をお望^{えき}みになるか、あるいは益をお望^{えき}みになるとしたら、かれ(のご意思)に反して誰か、あなた方に何かしてやれる者がいようか? いや、アッラー*はもとより、あなた方が行^{つうぎょう}うことに通曉されるお方である。

إِنَّ الَّذِينَ يَبَايِعُونَكَ إِنَّمَا يُبَايِعُونَ
اللَّهَ يَدُ اللَّهِ فَوْقَ أَيْدِيهِمْ فَمَنْ نَكَكَ
فَأِنَّمَا يَنُكُّ عَلَى نَفْسِهِ وَمَنْ أَوْفَى بِمَا
عَاهَدَ عَلَيْهِ اللَّهُ فَسَيُؤْتِيهِ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿١٥﴾

سَمِعُولُ لَكَ الْمُخَلَّفُونَ مِنَ الْأَعْرَابِ
شَغَلَتْنَا أَمْوَالُنَا وَأَهْلُونَا فَاسْتَغْفِرْنَا
يَقُولُونَ بِأَلْسِنَتِهِمْ مَا لَيْسَ فِي قُلُوبِهِمْ
فَلَوْ أَنَّ يَمَلِكُ لَكُمْ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا إِنْ أَرَادَ بِكُمْ
ضَرًّا أَوْ أَرَادَ بِكُمْ نَفْعًا بَلْ كَانَ اللَّهُ بِمَا
تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ﴿١٦﴾

1 これは「リドワーンの誓い」のこと。詳しくは、頻出名・用語解説の「フダイビーヤの和議*」を参照。

2 あたかもアッラー*に直接、手を重ねて誓ったかのようなものである、ということ。誓いの意味の確認と強調、その遵守(じゅんしゅ)への奨励(しょうれい)の意味(アッ=サアディー 792 頁参照)。

3 預言者*がウムラ*のためマッカ*へ出発した際、クライシュ族*への警戒心から同行を命じたものの、それに応じなかったマディーナ*周辺のベドウィンたちのこと(アル=クルトゥビー 16:268 参照)。悔悟章 81 の同語についての訳注も参照。

12. いや、あなた方は使徒*と信仰者たちが（殺され）、彼らの家族のもとに永遠に帰って来ないだろうと憶測していたのであり、それはあなた方の心に目映く映ったのだ。そしてあなた方はまさしく悪い憶測をしたのであり、あなた方は滅亡の民だったのだ」。

13. アッラー*とその使徒*を信じない者たちは誰であろうと（罰されることになる）、本当にわれら*は不信仰者*たちのために烈火を用意したのだから。

14. そして諸天と大地の王権は、アッラー*にこそ属する。かれはお望みになる者をお赦しになり、お望みになる者を罰される。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

15. 居残らされた者たち¹は、あなた方が戦利品*を手に入れるべく出発した時²、（こう）言うだろう。「私たちを、あなた方にお供させて下さい」。彼らはアッラー*の御言葉³を、変更しようとしている。言ってやるがいい。「あなた方が、私たちについて来ることはない。アッラー*は以前、そのように仰せられたのだ」。すると、彼らは言う。「いや、あなた方は私たちを嫉妬している」。いや、彼らは僅かばかりしか、理解することがなかったのである。

بَلْ ظَنَنْتُمْ أَنْ لَّنْ يَنْقَلِبَ الرَّسُولُ
وَالْمُؤْمِنُونَ إِلَىٰ أَهْلِيهِمْ أَبَدًا وَرُبَّمَا ذَٰلِكَ فِي
قُلُوبِكُمْ وَظَنَنْتُمْ ظَنًّا سَوْءًا وَكُنْتُمْ قَوْمًا بُورًا ﴿١٢﴾

وَمَنْ لَّمْ يُؤْمِنْ بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ فَإِنَّا أَعْتَدْنَا
لِلكَافِرِينَ سَعِيرًا ﴿١٣﴾

وَلِلَّهِ مُلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ يَعْفُرُ لِمَنْ
يَشَاءُ وَيُعَذِّبُ مَنْ يَشَاءُ وَكَانَ اللَّهُ عَظِيمًا
رَّحِيمًا ﴿١٤﴾

سَيَقُولُ الْمُخَلَّفُونَ إِذَا انْطَلَقْتُمْ إِلَىٰ
مَعَارِئِ لِنَأْخُذْهَا ذُرًى وَنَتَّبِعْكُمْ بِرِيْدُونَ
أَنْ يُبَدِّلُوا كَلِمَ اللَّهِ قُلْ لَنْ تَتَّبِعُونَا كَذَلِكُمْ
قَالَ اللَّهُ مِنْ قَبْلُ فَسَيَقُولُونَ بَلْ تَحْسُدُونَنَا
بَلْ كَاوُوا لَا يَفْقَهُونَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿١٥﴾

1 「居残された者たち」については、アーヤ*11の訳注を参照。

2 これは、ハイバルの戦い*への出征のこと（ムヤッサル 512 頁参照）。

3 アル＝クルトウビー*によれば、大半の解釈学者はこの「御言葉」を、「アッラー*がフダイビーヤの和議*に立ち会った者たちに、ハイバルの戦利品*を約束されたこと」としている（16:271 参照）。

16. ベドウィンたちの内、(あなたと共に出発せず)居残らされた者たち¹に、言ってやれ。「あなた方は、強烈な武力を備えた民²(との戦い)へと呼ばれるだろう。あなた方が彼らと戦うか、彼らが(戦わずして)服従(イスラーム*)するかの、いずれかなのである³。それで、もしあなた方が(その呼びかけに)応じるのなら、アッラー*はあなた方に善き褒美^{ほうび}をお授けになる。そして、もし以前(マッカ*へと出発する命令に)背いたように、あなた方が背くのであれば、かれ(アッラー*)はあなた方を痛ましい懲罰^{ちやうぼう}で罰されよう」。

17. (出征^{しゅつせい}しないことに関し、)視覚に障害^{しやうがい}ある者に罪はなく、足が不自由な者にも罪はなく、病人^{つみ}にも罪はない。アッラー*は、かれとその使徒^{しと}*に従う者は誰でも、その下から河川が流れる楽園に入れて下さる。そしてかれは(アッラー*とその使徒^{しと}*)に背く者を、痛ましい懲罰^{ちやうぼう}で罰されるのだ。

18. (預言者^{よげんしゃ}*よ、)アッラー*は確かに信仰者たちを、お喜びになった。彼らが木の下であなたに誓^{ちか}った時のこと。かれは彼らの心の内(の信仰心と正直さ^{せいじさく}、忠誠心)をご存知になり、彼らの上に静寂^{せいじやく}を下され、彼らに近い勝利(の約束)でお報いになったのだ。⁴

قُلْ لِلْمُحَلِّفِينَ مِنَ الْأَعْرَابِ سُدُّونَ إِلَى قَوْمِ أُولَىٰ بَأْسٍ سَدِيدٍ يُقَاتِلُونَهُمْ أَوْ يُسَلِّمُوا ۚ فَإِنْ يَظْهَرُوا عَلَيْكُمْ أَجْرًا حَسَنًا ۖ وَإِنْ تَوَلَّوْا كَمَا تَوَلَّيْتُمْ مِنْ قَبْلُ يُعَذِّبُكُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٦﴾

لَيْسَ عَلَى الْأَعْمَىٰ حَرَجٌ وَلَا عَلَى الْأَنفُسِ حَرَجٌ وَلَا عَلَى الْمَرِيضِ حَرَجٌ ۚ وَمَنْ يُطِيعِ اللَّهَ وَرَسُولَهُ يَدْخُلْهُ جَنَّاتُ تَجْرَى مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ ۖ وَمَنْ يَتَوَلَّ مِنْ بَعْدِهِ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١٧﴾

*لَقَدْ رَضِيَ اللَّهُ عَنِ الْمُؤْمِنِينَ إِذْ يُبَايِعُونَكَ تَحْتَ الشَّجَرَةِ فَعَلِمَ مَا فِي قُلُوبِهِمْ فَأَنْزَلَ السَّكِينَةَ عَلَيْهِمْ وَأَثَبَهُمْ فَتْحًا وَنَافِلَاتٍ ﴿١٨﴾

1 「居残された者たち」については、アーヤ*11の訳注を参照。

2 この「民」の解釈には、「ペルシャ人」「ローマ人」「その両方」「ハワーズイン族とサキーフ族(頻出名・用語解説「フナインの戦い*」参照)」「ヤマーマ地方で預言者*を自称した、ムサイリマとその民ハニーファ族」などの諸説がある(アル=クルトウビー16:272参照)。

3 これは、ジズヤ*を受け入れられない種類の人々に関する規定とされる(前掲書16:273参照)。雌牛章190、悔悟章36の訳注も参照。

4 これは、「リドワーン^{リドワーン}の誓い」のこと(ムヤッサル513頁参照)。詳しくは、頻出名・用語解説「フダイビーヤの和議*」を参照。また「近い勝利」とは、ハイバルの戦い*のこと(前掲書、同頁参照)。

19. また、彼らが手にすることになる沢山の戦利品*¹（の約束）で（お報いになった時）。アッラー*はもとより、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

20. アッラー*はあなた方に、あなた方が手にすることになる沢山の戦利品*をお約束になり、あなた方のためにこれを前倒しにされたのだ²。また、かれは人々³の手をあなた方から阻まれたのであり、（それは、そのことが）信仰者たちにとっての御徴となり、あなた方をまっすぐな道へとお導きになるためであった。

21. また、アッラー*が既に確保され、あなた方がまだ人手できてはいない、別の物も（お約束になった）。アッラー*はもとより、全てのことがお出来のお方。

22. たとえ不信仰に陥った者*たち⁴が、あなた方と戦ったところで、背中を見せて敗走するのが落ちなのである。その後、彼らは（自分たちの）庇護者も援助者も見出すことがない。

23. 過去に、（不信仰者*の民と信仰者の民の間において）過ぎ去ってきた、アッラー*の摂理。そして（預言者*よ）、あなたはアッラー*の摂理に、いかなる変更も見出すことはない。

وَمَعَائِهِ كَثِيرَةٌ يَأْخُذُ بِهَا وَكَانَ اللَّهُ عَزِيزًا
حَكِيمًا ﴿١٩﴾

وَعَدَكُمُ اللَّهُ مَعَائِمَ كَثِيرَةً تَأْخُذُوهَا
فَعَجَّلَ لَكُمْ هَذِهِ وَكَفَّ أَيْدِيَ النَّاسِ
عَنكُمْ وَلِتَكُونَ آيَةً لِلْمُؤْمِنِينَ وَيَهْدِيَكُمْ
صِرَاطًا مُسْتَقِيمًا ﴿٢٠﴾

وَأُخْرَى لَمْ تَقْدِرُوا عَلَيْهَا قَدْ أَحَاطَ اللَّهُ بِهَا
وَكَانَ اللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرًا ﴿٢١﴾

وَلَوْ قَاتَلَكُمُ الَّذِينَ كَفَرُوا لَوَلَّوْا الْأَذْكَرَ مِمَّنْ
لَا يَجِدُونَ وَلِيًّا وَلَا نَصِيرًا ﴿٢٢﴾

سُنَّةَ اللَّهِ الَّتِي قَدْ خَلَتْ مِن قَبْلُ وَلَن تَجِدَ
لِسُنَّةِ اللَّهِ تَبْدِيلًا ﴿٢٣﴾

1 この「戦利品*」は、ハイバルの戦い*によるものとされる（ムヤッサル 513 頁参照）。

2 このアーヤ*の「沢山の戦利品*」は、ムスリム*たちが復活の日*まで手にすることになる全てのもの。「これ」は、ハイバルの戦利品*、またはフダイビーヤの和議*のこと（アル＝クルトゥビー 16:278 参照）。

3 この「人々」の解釈には、「フダイビーヤの和議*の時のクライシュ族*」「ハイバルの民と、彼らの援助者たち」「ムスリム*軍がフダイビーヤやハイバルに遠征中に、マディーナ*をユダヤ教徒*の手から阻んで下さった」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー 5:68 参照）。

4 マッカ*のクライシュ族*のことを指している、とされる（ムヤッサル 513 頁参照）。

24. かれは、あなた方が彼ら（シルク*の徒）をマッカ*の谷間で掌握した後に、彼らの手をあなた方から阻まれ、あなた方の手を彼らから阻まれた^{はば}お方。そしてアッラー*はもとより、あなた方の行くことを通曉されるお方である。

25. 彼ら（クライシュ族*の不信仰者*たち）は不信仰に陥り、（ウムラ*をしようとしていた）あなた方をハラーム・マスジド*から、そして足止めを食らわされた供物がその（屠殺の）場^{たつ}に達することから、阻んだ者たち。そして、もし（マッカ*に潜んでいる）あなた方の知らない信仰者の男たちと信仰者の女たちがおらず、あなた方が彼らを（シルク*の徒もろとも）粉碎してしまうことで、あなた方に予想もしなかった面倒^{ひそ}が降りかかるのでなければ、われら*はあなた方にその時、マッカ*の民を制圧させたのである。（それは）アッラー*が、かれがお望みになった者を、そのご慈悲の中にお入れになるため^{へだ}。もし彼らが（不信仰者*たちから）隔たれていたら、われらは彼らの内の不信仰に陥った者*たちを、痛ましい懲罰^{ちようばつ}で罰したのである。

وَهُوَ الَّذِي كَفَّ أَيْدِيَهُمْ عَنْكُمْ وَأَيْدِيَكُمْ عَنْهُمْ بِبَطْنِ مَكَّةَ مِنْ بَعْدِ أَنْ أَظْفَرَكُمْ عَلَيْهِمْ
وَكَانَ اللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرًا ﴿١٤﴾

هُمُ الَّذِينَ كَفَرُوا وَصَدُّوكُمْ عَنِ الْمَسْجِدِ الْحَرَامِ وَالْهَدْيِ مَعَكُمْ أَنْ يَتَلَغَ مَجْلَهُ. وَلَوْلَا رِجَالُ مُؤْمِنُونَ وَنِسَاءُ مُؤْمِنَاتٌ لَمْ تَعْلَمُوهُمْ أَنْ تَطَافُوهُمْ فَيُضَيِّبُكُمْ مِنْهُمْ مَعَرَّةٌ بَغَيْرِ عِلْمٍ يُدْخِلُ اللَّهُ فِي رَحْمَتِهِ مَنْ يَشَاءُ لَوْ تَزَيَّلُوا لَعَذَّبْنَا الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٥﴾

1 一説にこれは、フダイビーヤの地で、ムスリム*たちに奇襲（きしゅう）攻撃を仕掛けてきた八十名のシルク*の徒のこと。ムスリム*たちは彼らを捕らえた後、解放してやった（ムヤッサル 514 頁参照）。

2 この「場」とは、マッカ*の聖域のこと。ムスリム*たちはウムラ*の「供物」として、七十頭のラクダを連れて来ていた。アッラー*はフダイビーヤで、それを捧（ささ）げることをお許しになった（アッ＝シャウカーニ 5:71 参照）。巡礼*を阻まれてしまった際の規定に関しては、雌牛章 196 も参照。

3 「面倒」とは、信仰者を殺してしまうことによる罪、非難、その罪滅ぼしとしての代償のこと（ムヤッサル 514 頁参照）。

4 実際にこの後、マッカ*の民の内でも、イスラーム*を受け入れ、よきムスリム*となり、天国に入れられることとなった多くの者が出現した（アルークルトウビー 16:286 参照）。

26. 不信仰に陥った者*たちが、その心の中に尊大さ、ジャーヒリーヤ*の尊大さを宿した時のこと¹（を思い起こさせよ）。にも関わらず、アッラー*はかれの静寂を、その使徒*と信仰者たちの上に下された。そして彼らに敬虔さ*の言葉²を命じられたのであり、彼らはそれに（シルク*の徒）より相応しく、その適任者だったのである。アッラー*はもとより、全てのことをご存知のお方。

27. 確かにアッラー*はその使徒*（ムハンマド*）に、正夢で真実を語られた。あなた方はもしアッラー*がお望みなら、必ずや頭を剃り、髪を切った状態で、（シルク*の徒を）怖れることなく安全に、ハラーム・マスジド*に入るのだ。そしてかれ（アッラー*）は、あなた方が知らなかったこと³をご存知になり、それ以外にも近い勝利⁴をご用意になった。

28. かれ（アッラー*）は、その使徒*を導きと真理の宗教（イスラーム*）と共に遣わされたお方。（それは）かれが、それ（イスラーム*）をあらゆる宗教の上に君臨させる⁵ため。（使徒*よ、）アッラー*だけで、（その）証人は十分である。

إِذْ جَعَلَ الَّذِينَ كَفَرُوا فِي قُلُوبِهِمُ الْحَيَةَ
حِمَةً الْجَاهِلِيَّةِ فَأَنْزَلَ اللَّهُ سَكِينَتَهُ عَلَى
رَسُولِهِ وَعَلَى الْمُؤْمِنِينَ وَالزَّكَاةَ
كَلِمَةً تَقْوَى وَكُلُوا أَحْسَنَ بِمَا وَأَهْلَهَا
وَكَانَ اللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمًا ﴿٢٦﴾

لَقَدْ صَدَقَ اللَّهُ رَسُولَهُ الرُّؤْيَا بِالْحَقِّ
لَتَدْخُلَنَّ الْمَسْجِدَ الْحَرَامَ إِنْ شَاءَ اللَّهُ
ءَامِنِينَ مُحَلِّقِينَ رُءُوسَكُمْ وَمُقَصِّرِينَ لَا
تَخَافُونَ فَعَلِمَ مَا لَمْ تَعْلَمُوا فَجَعَلَ مِنْ
دُونِ ذَلِكَ فَتْحًا قَرِيبًا ﴿٢٧﴾

هُوَ الَّذِي أَرْسَلَ رَسُولَهُ بِالْهُدَى وَدِينِ
الْحَقِّ لِيُظْهِرَهُ عَلَى الدِّينِ كُلِّهِ وَكَفَى
بِاللَّهِ شَهِيدًا ﴿٢٨﴾

1 彼らはフダイビーヤの和議*の際、預言者*が協定文書に「慈悲あまねく*慈愛深い*アッラーの御名において」「アッラー*の使徒*ムハンマド*」と書くことを認めず、削除させた（ムヤッサル 514 頁参照）。

2 「敬虔さ*の言葉」とは、大半の解釈学者によれば、「アッラー*以外に崇拜*（すうはい）すべき、いかなるものもなし」という言葉（アル＝バガウィー4:243 参照）。

3 「あなた方が知らなかったこと」とは、ムスリム*たちがフダイビーヤの年ではなく、その後ウムラ*のためマッカ*訪問することにおける利益のこと（ムヤッサル 514 頁参照）。

4 大半の解釈学者によれば、この「近い勝利」はフダイビーヤの和議*のこと。マッカ開城*、あるいはハイバルの戦い*における勝利、という説もある（アル＝クルトゥビー16:291 参照）。

5 「イスラーム*をあらゆる宗教の上に君臨させる」については、悔悟章 33 の訳注を参照。

29. ムハンマド*は、アッラー*の使徒*。そして、彼と共にある者（教友*）たちは不信仰者*たちに対しては厳格で、彼ら自身の間では慈悲深い。あなたは彼らが、アッラー*からのご恩寵とご満悦を求めつつ、（アッラー*への礼拝で）ルクーウ*し、サジダ*するのを目にする。彼らの印¹はその顔にあり、サジダ*の跡^{あと}によるもの。それはトーラー*の中にある彼らの描写^{びようしや}であり、福音*^{ふくいん}の中にある彼らの描写である。（その様子は）芽を出し（枝を増やし）てそれを支え、堅固になり、その幹の上に確立した作物のよう²。それは栽培者を喜ばせる。かれ（アッラー*）が、彼ら（信仰者たち）によって、不信仰者*たちを 憤^{いきどお}らせるために。アッラー*は彼ら³の内、信仰して正しい行い*を行う者たちに、（罪の）お赦しと偉大なる褒美を約束されたのである。

مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللَّهِ وَالَّذِينَ مَعَهُ أَشِدَّاءُ عَلَى
الْكُفَّارِ رَحِمَاءُ بَيْنَهُمْ تَرَاهُمْ رُكَّعًا سُجَّدًا يَبْتَغُونَ
فَضْلًا مِنَ اللَّهِ وَرِضْوَانًا سِيمَاهُمْ فِي
وُجُوهِهِمْ مِنْ أَثَرِ السُّجُودِ ذَلِكَ مَثَلُهُمْ فِي
التَّوْرَةِ وَمَثَلُهُمْ فِي الْإِنْجِيلِ كَرَجٍ أَخْرَجَ
سَطْرَهُ فَتَارَهُ، فَاسْتَغْلَظَ فَاسْتَوَى عَلَى
سُوفِهِ، يَعْجِبُ الزُّرَّاعُ لِيَغِيظَ بِهِمُ الْكُفَّارَ
وَعَدَ اللَّهُ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
مِنْهُمْ مَغْفِرَةً وَأَجْرًا عَظِيمًا ﴿٢٩﴾

- 1 「彼らの印」の解釈には、「復活の日*、その顔に現れる白い光」「よき作法、恭順さ（雌牛章 45 の訳注を参照）、謙虚（けんきょ）さ」「（崇拜*行為ゆえの）夜更かしによる、顔の黄色さ」などの諸説がある（アル=バガウィー4:245 参照）。
- 2 これは、最初は数少なかったものの、後に多数となった教友たちの例えとされる。また、「作物」は預言者*ムハンマドで、その「芽と枝」が教友と信仰者を表している、という解釈もある（前掲書、同頁参照）。
- 3 この「彼ら」は教友*たちだけではなく、信仰者一般を指す（アル=クルトゥビー16:295-296 参照）。

第 49 章
部屋章（アル=フジュラート）¹

じ ひ じ あい
慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 信仰する者たちよ、アッラー*とその使徒*の前で、出しゃばってはならない²。そしてアッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は、よくお聞きになるお方、全知者であられる。
2. 信仰する者たちよ、預言者*の声の上に、あなた方の声を張り上げてはならない。また、自分たちが互いに大声を上げるように、彼（預言者*）に対して大声で物言いをしてはならない。（それは）あなた方が気付かない内に、あなた方の行いが台無しになってしまうように、である。
3. 本当にアッラー*の使徒*のもとで声を低める者たちこそは、アッラー*がその心を敬虔さ*へとお試しになり、そこへと導いて下さった者たちなのだ。彼らにこそ、（罪の）お赦しと偉大な褒美がある。
4. 本当に（預言者*よ）、あなたを部屋の向こうから（大声で）呼ぶ者たち、その大半は弁えることがない。³

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَقْدُمُوا يَدَيْ اللَّهِ
وَرَسُولِهِ ؕ وَاتَّقُوا اللَّهَ ؕ إِنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ﴿١﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَرْفَعُوا أَصْوَاتَكُمْ
فَوْقَ صَوْتِ النَّبِيِّ وَلَا تَجْهَرُوا لَهُ ۖ بِالْقَوْلِ ۚ كَجَهْرِ
بَعْضِكُمْ لِبَعْضٍ أَن تَحْبَطَ أَعْمَالُكُمْ وَأَنتُمْ لَا
تَشْعُرُونَ ﴿٢﴾

إِنَّ الَّذِينَ يَغُضُّونَ أَصْوَاتَهُمْ عِندَ رَسُولِ
اللَّهِ أُولَٰئِكَ الَّذِينَ امْتَحَنَ اللَّهُ قُلُوبَهُمْ
فَلِلْمُتَّقِينَ لَهُم مَّغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ عَظِيمٌ ﴿٣﴾

إِنَّ الَّذِينَ يُنَادُونَكَ مِن وَرَاءِ الْحُجُرَاتِ
أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْقِلُونَ ﴿٤﴾

1 マディーナ*啓示。スーラ*名は、アーヤ*4 に出現する「部屋」という語に由来。信仰の重要な一部として、アッラー*とその預言者*への礼儀を始め、同胞愛を育（はぐく）む作法や品性、真の信仰者としての価値観、それらに逆行する物事の禁止など、健全で正しいムスリム*個人・社会の基礎が取り上げられる。現代の解釈学者の中には、このスーラ*を「品性の章」と呼ぶ者もいる。

2 アッラー*とその使徒*を差しおいて、宗教に関わる物事を勝手に決めたりしてはならない、ということ（ムヤッサル 515 頁参照）。

3 一説にこのアーヤ*は、マディーナ*にやって来たベドウィンたちが、預言者*の部屋の外から「ムハンマド*！ ムハンマド*！」と呼んだことに関して下った（アッ=サアディー 799 頁参照）。

5. そして、もし彼らが、彼（預言者*）が出てくるまで我慢していたら、彼らにとってもっと善いことだったのだ。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。
6. 信仰する者たちよ、もしあなたの方のもとに放逸な者が何らかの消息を携えてやって来たら、（それを信用する前に、その真偽を）確認せよ¹。あなた方が、ある民に無知から被害を及ぼし、それであなた方が自分たちがしたことゆえ、悔やむ者とならないように。²
7. そして知るのだ、あなた方の間には（あなた方の福利を知り、あなた方に善を望む）アッラー*の使徒*がいる、ということ。もし、彼が物事の多くにおいてあなた方に従えば、あなた方は苦境に陥ったであろう。しかしアッラー*は、あなた方に信仰を愛させ給い、それをあなた方の心に目映いものとされた。そして、あなた方に不信仰と放逸さと（アッラー*への）反抗を嫌わせ給うたのである。それらの者たちこそは、正しく導かれた者たちなのだ。
8. アッラー*からのご恩寵と、恩恵ゆえ。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方である。

وَلَوْ أَنَّهُمْ صَبَرُوا حَتَّى تَخْرُجَ إِلَيْهِمْ لَكَانَ خَيْرًا
لَهُمْ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٥﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِن جَاءَكُمْ فَاسِقٌ بِنَبَأٍ
فَتَبَيَّنُوا أَن صَبِئُوا أَوْ مَا يَجْمَلُهُ فَتُصْبِحُوا
عَلَى مَا فَعَلْتُمْ نَذِيرِينَ ﴿٦﴾

وَأَعْلَمُوا أَن فِيكُمْ رَسُولَ اللَّهِ لَوْ يُطِيعُكُمْ فِي كَثِيرٍ
مِّنَ الْأَمْرِ لَعَنِتُّمْ وَلَكِنَّ اللَّهَ حَبِيبٌ إِلَيْكُمْ
أَلَا يَعْنِ وَرَبَّنَا فِي قُلُوبِكُمْ وَكَرَهِ إِلَيْكُمْ
الْكُفْرَ وَالْفُسُوقَ وَالْعِصْيَانَ أُولَئِكَ هُمُ
الَّذِينَ شُدُّوا ﴿٧﴾

فَصَلُّوا مِنَ اللَّهِ وَنِعْمَةً وَاللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ﴿٨﴾

1 ここでの「放逸」さの意味には、「嘘つき」「自分の罪を公（おおや）けにする者」「アッラー*に対して羞恥（しゅうち）心を抱かない者」といった諸説がある。尚、放逸であることが確定した者の情報・伝承は、例外的なものを除いては受け入れられないということで、学者間の見解は一致している（アル＝クルトゥビー16:312 参照）。

2 このアーヤは、ワリード・ブン・ウクバが浄財*の徴収（ちょうしゅう）のため、ムスタラク族へ遣わされた際の出来事に関して下ったとされる。ムスタラク族が浄財を渡すことを拒んだというワリードの誤った報告により、ムスリムたちは危うく彼らを攻撃しそうになった（アフマド 18459 参照）。

9. もし、信仰者たちからなる二派が戦い合ったなら、(信仰者たちよ、) 彼らの間を取り持て¹。そして、もしその一方が(呼びかけに応じずに、) 他方を侵犯^{しんぱん}したのであれば、侵犯^{しんぱん}する方に対し、彼らがアッラー*のご命令²に立ち返るまで戦え。それで(その一派が、アッラー*のご命令に) 立ち返ったなら、彼ら二派の間を正義で取り持ち、公正に(裁決)するのだ。本当にアッラー*は、公正にする者たちをお好みになるのだから。

10. 本当に信仰者たちは、(宗教における) 同胞なのである。ならば、あなた方の同胞^{いっく}を取り持つがよい。そしてあなた方が慈しまれるよう、アッラー*を畏れる*のだ。

11. 信仰する者たちよ、ある民が別の民を馬鹿にしてはならない。(馬鹿にされた) 彼らの方が、(馬鹿にした) 彼らより優れているかもしれないのだから。また、ある女性たちが、別の女性たちを馬鹿にしてはならない。(馬鹿にされた) 彼女らの方が、(馬鹿にした) 彼女らより優れているかもしれないのだから³。また、

وَأِنْ طَائِفَتَانِ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ اقْتَتَلُوا
فَأَصْلِحْهُمَا فَإِنْ بَغَتْ إِحْدَاهُمَا عَلَى
الْأُخْرَىٰ فَجْلِبُوا إِلَىٰ تَيْبٍ حَتَّىٰ يَأْمُرَ اللَّهُ
فَإِنْ فَاءَتْ فَأَصْلِحْهُمَا بِمَا بِالْعَدِلِ
وَأَقِمْ وَإِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُقْسِطِينَ ﴿٩﴾

إِنَّمَا الْمُؤْمِنُونَ إِخْوَةٌ فَأَصْلِحُوا بَيْنَ
أَخَوَيْكُمْ وَأَقِمْ وَاللَّهُ لَعَلُّكُمْ رَحِيمٌ ﴿١٠﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا يَسْخَرَكُمُ مِنْ قَوْمٍ
عَسَىٰ أَنْ يَكُونُوا خَيْرًا مِنْكُمْ وَلَا نِسَاءً مِنْ نِسَاءِ
عَسَىٰ أَنْ يَكُنَّ خَيْرًا مِنْهُنَّ وَلَا تَلْمِزُوا أَنْفُسَكُمْ
وَلَا تَسْتَابِرُوا بِالْأَلْقَابِ يَسِسَ الْإِسْمُ الْفُسُوقُ
بَعْدَ الْإِيمَانِ وَمَنْ لَمْ يَتُبْ فَأُولَٰئِكَ هُمُ
الظَّالِمُونَ ﴿١١﴾

1 アッラー*とその使徒*の裁決へと招き、その裁決に満足させよ、ということ(ムヤッサル 516 頁参照)。

2 「アッラー*のご命令」とは、アッラー*とその使徒*の裁決のこと(前掲書、同頁参照)。

3 人間が真に徳とすべきことは、大方の場合において嘲笑(ちようしょう)の対象となる姿形、地位、状況といった表面的なものではなく、心の中に秘められた内面的なものである。ゆえに人は、もしかするとアッラー*の御許では自分よりも徳の高い者であるかもしれない他人を、無闇(むやみ)に蔑(さげす)むべきではない。そうすれば彼は、アッラー*の御許で高い地位にある者を蔑むことにより、自分自身を害することになるからだ(アブー・アッ=スウード 8:121 参照)。預言者*は、こう仰(おっしゃ)っている。「本当にアッラー*は、あなた方の姿や財産をご覧になるのではない。しかし、あなた方の心と行いをご覧になるのである。」(ムスリム「善行と血縁の絆と礼儀作法の書」34 参照)

あなた方自身^{ちゅうしやう}を中傷したり、(本人が嫌がる) あだ名で呼び合ったりしてはならない。信仰(に入った)後に放逸^{ほういつ}さで呼ばれることの、何と醜悪^{しゅうあく}なことか²。そして(これらの悪事から)悔悟^{かいご}しない者こそは、不正*者^{せいしやう}なのである。

12. 信仰する者たちよ、憶測^{おくそく}の多くを避けよ。実にある種の憶測^{おくそく}は、罪^{つみ}なのだから。また、(同胞のぼろを)詮索^{せんさく}したり、互いに陰口^{かげぐち}を言ったりしてはならない。一体、あなた方の誰が、死んだ同胞の肉を食べたいというのか? ⁵ あなた方は、それを忌み嫌うであろう。アッラー*を畏れ^{おそ}*よ。本当にアッラー*は、よく悔悟^{かいご}をお受け入れになる*お方、慈愛^{じあい}深い*お方なのだ。

13. 人々よ、本当にわれら*は、あなた方を一人の男性と一人の女性から創り⁶、あなた方が知り合うべく、あなた方をいくつもの民族や部族とした。実にあなた方の内、アッラ

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا اجْتَنِبُوا كَثِيرًا مِّنَ الظَّنِّ إِنَّ بَعْضَ الظَّنِّ إِثْمٌ وَلَا تَجَسَّسُوا وَلَا يَغْتَبَ بَعْضُكُم بَعْضًا يَخِبُ أَحَدُكُم أَن يَأْكُلَ لَحْمَ أَخِيهِ مِمَّا فَرَغْتُمُوهُ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ تَوَّابٌ رَّحِيمٌ ﴿١٢﴾

يَا أَيُّهَا النَّاسُ إِنَّا خَلَقْنَاكُمْ مِنْ ذَكَرٍ وَأُنْثَىٰ وَجَعَلَكُمْ شُعُوبًا وَقَبَائِلَ لِتَعَارَفُوا إِنَّ أَكْرَمَكُمْ عِنْدَ اللَّهِ أَتَقْوَاهُ ۚ إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ خَبِيرٌ ﴿١٣﴾

1 他人が「あなた方自身」と表現されているのは、「同胞を中傷した者は、自分自身を中傷したも同様」で、「他人を中傷する者は大抵、自分自身も相手から中傷されるから」(アッ＝ラーズィー10:109 参照)。

2 信仰に入った後に、これらの罪を犯す者は「放逸な者」である(アル＝カーサスィミー15:5461 参照)。

3 同胞に対する悪い「憶測」のこと (ムヤッサル 517 頁参照)。

4 イスラーム*における「陰口(ギーバ)」とは、その内容が真実であったとしても、陰で「自分の同胞について、彼が嫌に思うことを話すこと」である (ムスリム「善行と血縁の絆と礼儀作法の書」70 参照)。

5 人の尊厳を傷つけ、人を覆(おお)い隠している尊厳を奪(うば)い去り、反論できない状態で攻撃することが、人の肉体そのものをバラバラにし、身体の要(かなめ)である骨を露出させ、死体に対して口でなぶるといふ、忌まわしい行為に例えられている (アル＝ビカーイー7:361 参照)。

6 全人類はアダム*とハウワウ*という同一の祖先を有し、かつ男性と女性を介して生まれる (アッ＝サアディー802 頁参照)。

一*の御許^{みもと}で最も高貴^{けいけい}な者とは、最も敬虔^{けいけん}な者なのである。アッラー*こそは全知者、通曉^{つうぎょう}されるお方。

14. ベドウィンたちは、言った。「私たちは、(アッラー*とその使徒^{しと}を)信仰した」。(預言者^{よげんしゃ}よ、彼らに)言ってやれ。「あなた方は、まだ信仰してはいない。しかし、『服従した』と言うのだ。信仰はまだ、あなた方の心の中には入っていない^{ふくじゆう}。そして、もしあなたがアッラー*とその使徒^{しと}に従えば、かれはあなた方の行い(の褒美)から、何一つ差し引きされることはない。本当にアッラー*は、赦し深い^{ゆる}お方、慈愛深い^{じあい}お方なのだから」。

15. 本当に信仰者とは、アッラー*とその使徒^{しと}を信じ、その後(信仰において)疑惑^{ぎわく}を抱かず、アッラー*の道において自らの財産と生命をかけて努力^{ふんどう}奮闘する者たちのこと。それらの者たちこそは、(自分たちの信仰に対する)正直者である。

16. (預言者^{よげんしゃ}よ、彼らベドウィンたちに)言ってやれ。「一体、あなた方はアッラー*に、自分たちの宗教(の度合い)について知ら

﴿قَالَتِ الْأَعْرَابُ ءَأَمَّا قُلُوبُنَا وَلَكِنْ قُلُوبُنَا أَسْمَتْنَا وَلَمْ يَدْخُلِ الْإِيمَنُ فِي قُلُوبِنَا وَإِنْ نَطِيعُوا اللَّهَ وَرَسُولَهُ، لَكَيْتَ كُرْهًا مِّنْ أَعْمَلِكُمْ شَيْئًا إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ بِذُنُوبِكُمْ﴾

﴿إِنَّمَا الْمُؤْمِنُونَ الَّذِينَ آمَنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ ثُمَّ لَمْ يَرْتَابُوا وَجَاهَدُوا بِأَمْوَالِهِمْ وَأَنْفُسِهِمْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ أُولَٰئِكَ هُمُ الصَّادِقُونَ﴾

﴿قُلْ أَتَعْلَمُونَ اللَّهَ بِدِينِكُمْ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا فِي السَّمٰوٰتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَاللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ﴾

1 ここで言及されているのは、信念に満ちた心、純粋な意図、安心感を伴(ともな)う正しい信仰ではなく、殺害や捕虜(ほりよ)となることへの恐怖や、施(ほどこ)しを得ることへの願望などが理由でイスラーム*を受け入れた、ある種のベドウィンたちのこと(アッ=シャウカーニー5:90 参照)。

2 一説に、このアーヤ*で言及されている「信仰」とは、「心による信念、言葉による承認、身体による行為によって服従すること」であり、「服従」とは「信念はなくても、言葉による承認と、身体による行為によって、表面的に服従すること」。この場合、このベドウィンたちは偽(にせ)信者*となる。別説によれば、ここでの「信仰」は、「完全なる信仰心」のこと。この場合、彼らには信仰心が存在することになる(アッ=シャンキーティー7:419-420 参照)。

せるというのか？ アッラー*は諸天にあるもの、大地にあるものをご存知であり、アッラー*は全てのことをご存知のお方だというのに？」¹

17. (預言者^{よげんしゅ}よ、) 彼ら(ベドウィンたち)は自分たちが服従^{ふくじゅう}(イスラーム*)²したことで、あなたに恩^{おん}を着せる。言^いってやれ。「あなた方の服従^{ふくじゅう}に関し、私^{おん}に恩^{おん}を着せるのではない。いや、アッラー*があなた方^{みちび}を(あなた方が主張^{しやう}している)信仰^{しんぎ}へとお導^{おん}きになったことで、あなた方^{おん}に恩^{おん}を施^{ほどこ}して下さっているのである。もし、あなた方が本当^{ほんたう}のことを言^いっているのならば、だが」。

18. 本当にアッラー*は、諸天と大地の不可視^{ふかし}の世界*をご存知である。そしてアッラー*は、あなた方が行^いうことをご覧^{らん}になるお方なのだ。

يَمُنُونَ عَلَيْكَ أَنْ أَسْلَمُوا قُلْ لَا تَمُنُوا عَلَيَّ
إِسْلَامَكُمْ بَلِ اللَّهُ يَمُنُ عَلَيْكُمْ أَنْ هَدَيْكُمْ
لِلْإِيمَانِ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٥٩﴾

إِنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ غَيْبَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَاللَّهُ
بَصِيرٌ يَمَاتَعَمَلُونَ ﴿٦٠﴾

1 彼らの「自分たちは信仰者だ」という主張は、全知者であるアッラー*に対する無作法か、あるいはその言葉によって現世的な利益を意図しているかのどちらかである(アッ=サアディー802頁参照)。

2 自分たちが服従(イスラーム*)を受け入れた、という主張のこと(アッ=シャウカーニー5:91参照)。

第 50 章
カーフ章¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. カーフ²。栄誉高きクルアーン³*にかけて（誓う）。
2. いや、彼ら（不信仰者*たち）は、彼らのもとに、自分たちの内から警告者が到来したことに驚いている。そして不信仰者*たちは、言ったのだ。「これは驚くべきこと。
3. 私たちが死に、砂となった後に（、元通りに戻されるとは）？ それは途方もない回帰である」。
4. われら*は、大地が彼ら（の死後、その肉体）を減少させるものを、確かに知っている⁴。そしてわれら*の御許には、保存された書⁵があるのだ。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

ق وَالْقُرْآنِ الْمَجِيدِ ﴿١﴾

بَلْ عَجِبُوا أَنْ جَاءَهُمْ مُنْذِرٌ مِنْهُمْ فَقَالَ الْكَاذِبُونَ هَذَا شَيْءٌ عَجِيبٌ ﴿٢﴾

إِذَا مِتْنَا وَكُنَّا تُرَابًا ذَلِكَ رَجْعٌ بَعِيدٌ ﴿٣﴾

فَدَعَلْنَا مَا تَنْقُصُ الْأَرْضُ مِنْهُمْ وَعِنْدَنَا كِتَابٌ حَفِيفٌ ﴿٤﴾

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現するアラビア文字「カーフ*」に由来。クルアーン*と預言者*ムハンマド*の使徒*性、死後の復活についての真実性の確証に始まり、それを信じない者に対し、過去の不信仰者*たちの現世と来世における結末、および死と復活の日*に起きる出来事の描写により、警告が放たれる。スーラ*の最後は、預言者*への慰（なぐさ）めと、崇拜*行為と忍耐*への激励（げきれい）によって、締めくくられる。一説には、預言者*が集団礼拝などにおいて、とても多く読誦したスーラ*の一つ。

2 この文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「栄誉高きクルアーン*」については、星座章 21 の訳注を参照。

4 地面が死体を蝕（むしば）むもの、それらがどこに分散したか、どこへ行ったかということまでご存知のお方にとって、復活は不可能ではないということ（イブン・カシール 7:395 参照）。

5 「保存された書」とは、「(改変など) あらゆることから保存され、あらゆることがその中に保存されている、守られし碑板*のこと（アッ=シャウカーニー 5:95 参照）。

5. いや、彼らは真理（クルアーン*）を、それが自分たちのもとに到来した時、嘘呼ばわりした。それで彼らは、混乱した状態¹にあるのだ。
6. 一体、彼らは自分たちの上にある天を見ないのか？ われら*がそれをいかに構築²し、そこに割れ目一つなく、（星々で）飾り立てたかを？
7. また、われら*は大地を広げ、そこに堅固な山々を投げ入れ、そこにあらゆる麗しい種類のものを芽生えさせた。
8. よく（われら*に悔悟して）立ち返る、全ての僕のための開眼、教訓として（万物を創造したのである）。
9. また、われら*は天から祝福に満ちた（雨）水を降らせ、それによって農園と、収穫の種粒を芽生えさせた。
10. そして、高く聳えるナツメヤシの木を（芽生えさせた）。それには、重なり合う莢²がついている。
11. 僕たちへの糧として（それらを芽生えさせたのだ）。またわれら*は、それ（雨）によって死んだ土地を生き返させた。同様に（復活の日*、死後の）召喚はあるのだ。
12. 彼ら（シルク*の徒）以前にも、ヌーフ*の民、ラッスの徒*、サムード*が（自分たちの使徒*を）嘘つき呼ばわりした。

بَلْ كَذَّبُوا بِالْحَقِّ لَمَّا جَاءَهُمْ فَهُمْ فِي أَمْرٍ
مَّرِيجٍ ﴿٥﴾

أَفَلَمْ يَنْظُرُوا إِلَى السَّمَاءِ فَوْقَهُمْ كَيْفَ
بَيَّنَّاهُمْ ذُرِّيَّتَهَا وَمَا لَهَا مِنْ فُرُوجٍ ﴿٦﴾

وَالْأَرْضَ مَدَدْنَاهَا وَأَلْقَيْنَا فِيهَا رَواسِيَ وَأَلْبَنَّا
فِيهَا مِنْ كُلِّ ذَوْجٍ يَهيج ﴿٧﴾

نَبِيْرَةٌ وَذَكَرْنَا لِكُلِّ عِبْدٍ مُبِينٍ ﴿٨﴾

وَنَزَّلْنَا مِنَ السَّمَاءِ مَاءً مُبَارَكًا فَأَنْبَتْنَا بِهِ
جَبَلَتٍ وَحَبَّ الْحَبِيدِ ﴿٩﴾

وَالنَّخْلَ بَاسِقَاتٍ لَهَا طَعْنَ مُضِيْدٌ ﴿١٠﴾

رِزْقًا لِلْعِبَادِ وَأَحْيَيْنَا بِهِ بَلْدَةً مَيِّتًا كَذَلِكَ
الْخُرُوجُ ﴿١١﴾

كَذَّبَتْ قَالَهُمْ قَوْمُ نُوحٍ وَأَصْحَابُ الرَّسِّ
وَنُوحٌ ﴿١٢﴾

1 彼らは預言者*のことを、時には魔術師、時には詩人、時には占い師、と呼んだりした（アル＝クルトゥビー17:5 参照）。

2 この「莢」については、家畜章 99 の訳注を参照。

13. また、アード*、フィルアウン*、ルート*の同胞たちも。
14. そして、藪の仲間たち¹、トッバウの民²も。
(彼らの)全ては使徒*たちを嘘つき呼ばわりしたので、(不信仰に対する懲罰^{ちやうばつ}という)わが警告^{けいこく}が実現したのである。
15. 一体、われら*が最初の創造^{そうぞう}において不能だったのか? いや、彼らは新たな創造^{そうぞう}について疑念の中にあるのだ。³
16. われら*は確かに、人間を創った。われら*は彼の魂^{たましい}が自らに囁くものを知っており、頸動脈の管よりも彼に近いのである。
17. 右に、そして左に控える二人の受手^{うけて}が、(人間の行いを)受け取(って記録する)時。⁴
18. 彼(人間)は、自分に配備させられた監視役(の立ち会い)なしには、一言も発することがない。
19. そして真の、死の苦悶^{くもん}が到来した。(人間よ、)それはあなたが逃げていたもの。
20. そして、角笛^{つのふえ}に吹き込まれる^ふ。それは警告^{けいこく}(されていた、復活)の日*。

وَعَادَ وَقِرْعَوْنَ وَآخُونَ لُوطٍ ﴿١٣﴾

وَأَحْبَبُ إِلَيْكُمْ وَقَوْمٌ سُبَّحَ كُلُّ كَذِبٍ الرُّسُلَ فَقَافٍ ﴿١٤﴾

أَفَعَبِبْنَا بِالْخَلْقِ الْأَوَّلِ بَلْ هُمْ فِي لَبْسٍ مِنْ خَلْقٍ جَدِيدٍ ﴿١٥﴾

وَلَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ وَنَعَلَهُمُ مَّا تَوْسَّوْنَ بِهِ نَفْسَهُ ط وَنَحْنُ أَقْرَبُ إِلَيْهِ مِنْ حَبْلِ الْوَرِيدِ ﴿١٦﴾

إِذْ يَتَلَقَّى الْمُتَلَقِّيَانِ عَنِ الْيَمِينِ وَعَنِ الشِّمَالِ قَعِيدٌ ﴿١٧﴾

مَا يَلْفُظُ مِنْ قَوْلٍ إِلَّا لَدَيْهِ رَقِيبٌ عَتِيدٌ ﴿١٨﴾

وَجَاءَتْ سَكْرَةُ الْمَوْتِ بِالْحَقِّ ذَلِكَ مَا كُنْتَ مِنْهُ تَحِيدُ ﴿١٩﴾

وَنُفِخَ فِي الصُّورِ ذَلِكَ يَوْمُ الْوَعِيدِ ﴿٢٠﴾

1 「藪の仲間たち」については、アル=ヒジュール章 78 の訳注を参照。

2 「トッバウの民」については、煙霧章 37 の訳注を参照。

3 無から「最初の創造」を始められたお方には、それを「新たな創造」として元通りにすることもお出来である (ムヤッサル 518 頁参照)。

4 これは人間の右側と左側に付き添い、その行いを記録する二人の天使*のこと (前掲書 519 頁参照)。高壁章 8 の訳注、雷鳴章 11 の訳注も参照。

5 これは、復活を知らせる二番目の吹き込み (前掲書、同頁参照)。家畜章 73 とその訳注も参照。

21. そして全ての者は、先導役と証人¹を伴って、やって来る。
22. (彼には、こう言われる。)「あなたは確かに、これ(復活の日^{*})に対して無頓着^{らやく}だった。だが、われら^{おお}はあなたから、あなたの覆い^{おお}²を取ってやったのだ。それでこの日、あなたの目は研ぎ澄まされ(、現世で否定していたことを目の当たりにし)ている」。
23. また、彼の同伴者(天使^{*})は言う。「これが、私のもとで用意されたもの³です」。
24. (アッラー^{*}は、二人の天使^{おお}^{*}に仰せられる。)^{がんめい}「頑迷で、不信心この上ない者を全て、地獄に放り込め」。
25. 善を断固として阻み、(アッラー^{*}の僕たちと、その法を)侵犯し、疑惑的だった者(全てを)。
26. アッラー^{*}と共に、外の神^{ほか}⁴を拝した者。その者を、厳しい懲罰に放り込むのだ」。
27. 彼の同伴者(シャイターン^{*})は、言う。「我らが主^{しゅ}⁵よ、私が彼を放埒にしたのではありません。しかし、彼はそもそも遠い迷いの中であつたのです」。⁵

وَجَاءَتْ كُلُّ نَفْسٍ مَعَهَا سَائِقٌ وَشَهِيدٌ ﴿١١﴾

لَقَدْ كُنْتَ فِي غَفْلَةٍ مِّنْ هَذَا فَكَشَفْنَا عَنْكَ غِطَاءَكَ فَبَصَرُكَ الْيَوْمَ حَدِيدٌ ﴿١٢﴾

وَقَالَ قَرِينُهُ هَذَا مَا لَدَىٰ عَيْنِي ﴿١٣﴾

أَلْقِيَا فِي جَهَنَّمَ كُلَّ فَنَاءٍ عَيْنِي ﴿١٤﴾

مَنَاعَ لِلْخَيْرِ مُعْتَدٍ مُّرِيبٌ ﴿١٥﴾

الَّذِي جَعَلَ مَعَ اللَّهِ إِلَهًا آخَرَ فَأَلْقِيَاهُ فِي الْعَذَابِ الشَّدِيدِ ﴿١٦﴾

﴿١٧﴾ قَالَ قَرِينُهُ رَبَّنَا مَا أَطْعَمْتَهُ، وَلَكِنْ كَانَ فِي ضَلَالٍ بَعِيدٍ ﴿١٨﴾

1 「先導役」は、集合の地まで連行していく天使^{*}で、「証人」は、人が現世で行った善悪の行為を証言する天使^{*}のこと(ムヤッサル 519 参照)。

2 「現世における覆い」については、雌牛章 7、フード^{*}章 20 の訳注も参照。

3 「同伴者」とは、現世での人間の行いを記録していた天使のことで、「用意されたもの」とは行いの帳簿(ちょうぼ)のこと(前掲書、同頁参照)。高壁章 8 の訳注も参照。

4 この「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 同様の情景を描写したアーヤ^{*}として、イブラーヒーム^{*}章 22 も参照。

28. (アッラー*は仰せられる。)^{おお}「(報いと清算^{むく}の場である) われのもとで、議論^{ぎろん}するのではない。われは既に、あなた方に警告^{きこく}をしていたのだから。
29. われのもとで言葉が変更されることはなく^{しもべ}、われは僕たちに対する不正*者^{どろん}などではないのだ」。
30. (使徒*よ、) われが地獄に「あなたは、一杯になったのか?」^{しと}と言い、それ(地獄)が「(まだ) 追加はありますか?」^{かい}と言う日のこと(を、あなたの民に思い起こさせよ)。
31. そして天国は、敬虔な*者^{けいけん}たちに遠くない場所へと、近づく。
32. (敬虔な*者^{けいけん}たちよ、) これ(天国)は、あなた方に約束されていたもの。常に^{かい}回歸し、遵守^きする全ての者^{じんしゅ}に^い。
33. 慈悲あまねき*お方(アッラー*)^{じひ}を(現世で)まだ見ぬままに恐れ^{しゅ}、(復活の日*、主*の御許^{みもと}に、悔悟^{かいご}して不断に)立ち返る心^{こころ}でやって来た者に。
34. (彼ら信仰者たちには、こう言われる。)^あ「あなた方は平安と共に、そこに入るがよい。それは永遠の日」。

قَالَ لَا تَخْصِمُوْا لَدَيْ وَقَدْ نَمَتُ اِلَيْكُمْ
بِالْوَعْدِ ۝

مَا يَبْدُلُ الْقَوْلُ لَدَيْ وَمَا اَنَا بِظَلَمٍ لِّلْعَبِيدِ ۝

يَوْمَ نَقُولُ لِجَهَنَّمَ هَلِ امْتَلَاَتْ وَنَقُولُ هَلْ مِنْ
مَّزِيْدٍ ۝

وَاَزَلَقْتُ الْجَنَّةَ الْفَتَقَيْنِ غَيْرَ بَعِيْدٍ ۝

هٰذَا مَا مَوْعَدُوْنَ كُلِّ اَوَّابٍ حَفِيْظٍ ۝

مَنْ حَقِيْقَ الرَّحْمٰنِ بِالْغَيْبِ وَجَاءَ بِقَلْبٍ مُّنِيْبٍ ۝

اَدْخُلُوْهَا بِسَلَامٍ ذٰلِكَ يَوْمُ الْخُلُوْدِ ۝

1 アッラー*のお約束に変更はなく、それは必ずや実現する。かれが懲罰で裁いた者が、その裁決を覆(くつがえ)されることもない。一説にこの「言葉」は、家畜章 160 にある言葉、あるいはアッ=サジダ*章 13 にある言葉とも言われる(アッ=シャウカーニー5:102-103 参照)。

2 「常に回歸する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。「遵守する者」とは、諸々の義務行為、服従行為など、アッラー*へのお近づきとなる全ての物事を遵守する者のこと(ムヤッサル 519 頁参照)。

3 「(アッラー*を)まだ見ぬままに恐れ」ることについては、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

35. 彼らにはそこで自分たちが望むものがあり、われら*の御許には(更なる)上乘せ¹がある。
36. われら*が彼ら(シルク*の徒)以前、彼らよりも強力であり、国々を(思いのままに)往来した、どれだけの世代を滅ぼしてきたことか? 一体、(その不信仰ゆえに懲罰が訪れた時、彼らに)逃げ道があったのか?
37. 本当にそこにはまさしく、(分別する)心を備えているか、あるいは注意深く傾聴する者にとっての教訓がある。
38. われら*は確かに、諸天と大地、その間にあるものを六日間で創った²。疲れ一つ、われら*に及ぶこともなしに。
39. ならば(使徒*よ)、彼らの言うことに耐え、太陽が昇る前と日没前に、あなたの主*の称賛*と共に(かれを)称え*よ。
40. また夜の一部分にも、かれを称え、サジダ*の後にも(そうせよ)。³
41. (使徒*よ、)聴くがよい。呼びかける者が、近い場所から呼びかける⁴日。

لَهُمْ مَا يَشَاءُونَ فِيهَا وَلَدَيْنَا مَزِيدٌ ﴿٣٥﴾

وَلَوْ أَهْلَكْنَا قَبْلَهُمْ مِّن قَرْنٍ هُمْ أَشَدُّ مِنْهُمْ بَطْشًا فَنَقَّبُوا فِي الْبِلَادِ هَلْ مِن مَّجِيصٍ ﴿٣٦﴾

إِن فِي ذَلِكَ لَذِكْرٌ لِّمَن كَانَ لَهُ قَلْبٌ أَوْ أَلْقَى السَّمْعَ وَهُوَ شَهِيدٌ ﴿٣٧﴾

وَلَقَدْ خَلَقْنَا السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ وَمَا مَسَامِينِ لَّغُوبٍ ﴿٣٨﴾

فَاصْبِرْ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ قَبْلَ طُلُوعِ الشَّمْسِ وَقَبْلَ الْغُرُوبِ ﴿٣٩﴾

وَمِنَ اللَّيْلِ فَسَبِّحْهُ وَأَدْبَارَ النُّجُودِ ﴿٤٠﴾

وَأَسْمِعْ يَوْمَ يُنَادِ الْمُنَادُ مِن مَّكَانٍ قَرِيبٍ ﴿٤١﴾

1 この「上乘せ」については、ユーヌス*章 26 の訳注を参照。

2 「諸天と大地、…六日間で創り…」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。

3 イブン・カスィール*によれば、アーヤ*39 の「太陽が昇る前」はファジュール*、「日没前」はアスル*のことで、夜の旅*で毎日 5 回の礼拝が義務づけられる以前は、この二つが義務の礼拝だった。尚「夜の一部分」は、マッカ*初期の一時期において義務だった、タハツジュド(夜の旅章 79 の訳注を参照)のこと(7:409 参照)。また、「サジダ*の後」とは、礼拝のすぐ後のこととされる(ムヤッサル 520 頁参照)。

4 この「呼びかけ」とは一説に、「復活の日*へと呼ぶ者の声、あるいはその角笛」のこと。前者の場合はジブリール*、後者の場合はイスラーフィール(家畜章 73 の訳注を参照)。あるいは、そのいずれをも指している、という説もある。「近い場所」とは、一説にエルサレムの岩の上(アル=クルトゥビー-17:27 参照)。

42. 彼らが（轟く）^{とどろ}一声を、真実と共に耳にする日。それは（墓場からの）^{はかば}召喚^{しやうかん}の日である。
43. 本当に、われら*こそは（現世で）生を与え、死を与えるのであり、われら*にこそ（復活の日*の）行き先はある。
44. 大地が散り散りに裂け、そこから彼らが慌てて出て来る日。それが召集^{しやうしゅう}、われら*には容易いこと。^{たやす}
45. われら*は、彼ら（シルク*の徒）が言うこと¹を最もよく知っており、（使徒*よ、）あなたは彼らに対する圧制者^{あつせい}ではない²。ならば、わが警告^{けいこく}を怖れる者に、クルアーン*^{いまし}で戒めるのだ。

يَوْمَ يَسْمَعُونَ الصَّيْحَةَ بِالْحَقِّ ذَلِكَ يَوْمُ
الْخُرُوجِ ﴿٤٢﴾

إِنَّا نَخْنِ نُحْيِي وَنُمِيتُ وَإِنَّا الْمَصِيرُ ﴿٤٣﴾

يَوْمَ نَشَقُّ الْأَرْضَ عَنْهُمْ سِرَاعًا ذَلِكَ حَشْرٌ
عَلَيْنَا يَسِيرٌ ﴿٤٤﴾

نَحْنُ أَعْلَمُ بِمَا يَقُولُونَ وَمَا أَنْتَ عَلَيْهِمْ بِجَبَّارٍ
فَذَكِّرْ بِالْقُرْآنِ أَنْ مَنِ يَخَافُ وَعِيدِ ﴿٤٥﴾

1 アッラー*に対する捏造（ねつぞう）や、かれの御徴を嘘呼ばわりしていることなど（ムヤッサル 520 頁参照）。

2 預言者*はアッラー*の教えを伝えるために遣わされたのであり、彼らにイスラーム*を押し付ける者ではない（前掲書、同頁参照）。

第 51 章

撒き散らすもの章 (アッ=ザーリヤート)¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ばらばらと、撒き散らすもの²にかけて、³
2. また、重厚^{じゅうこう}なものを運ぶもの⁴にかけて、
3. また、滑らかに走るもの⁵にかけて、
4. また、ご命令を分配するものたち⁶にかけて
(誓う)。
5. 本当に(人々よ)、あなた方に約束されていること(復活と清算)は、まさしく真実である。
6. そして本当に、応報^{おうほう}は必ず起こる。
7. (創造)美を備えた天にかけて(誓う)。
8. 本当に(嘘つきたちよ)、あなた方は(使徒
*とクルアーン*について、)まさに相異なる^{あいこと}
(混乱した)言説⁷の中にある。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالذَّارِيَاتِ ذُرُوءًا ①

فَالْحَامِلَاتِ وِقْرًا ②

فَالْجَارِيَاتِ يُسْرًا ③

فَالْمَقْسِمَاتِ أَمْرًا ④

إِنَّمَا نَعْدُوْنَ أَصَافًا ⑤

وَلِلَّيْلِ لَوْعًا ⑥

وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الْحُبُكِ ⑦

إِن كُنْ فِي قَوْلٍ مُّخْتَلِفٍ ⑧

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。復活と預言者*ムハンマド*を否定した者たちへの反論、信仰者と不信仰者*の結末、アッラーの唯一性*と御力を示す自然界における数々の明証が取り上げられるほか、中盤からは過去の預言者*たちと不信仰な民*の間に起こった話による訓戒がなされる。またスーラ*終盤では、創造の目的が説明されると共に、不信仰者*たちに警告が向けられる。

2 砂を撒き散らす風のこととされる (ムヤッサル 520 頁参照)。

3 アーヤ*1-4 で言及されている「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。アッラー*は、ご自身の御業(みわざ)と御力を示すべく、これらのものにおいて誓われた(アル=バガウィー4:280 参照)。

4 沢山の水を蓄(たくわ)えた、雲のこととされる (ムヤッサル 520 頁参照)。

5 水上を走る、船のこととされる (前掲書、同頁参照)。

6 雨や糧(かて)、その他のものを分配する、天使*たちのこととされる (前掲書、同頁参照)。

7 カーフ章 5「混乱した状態」の訳注も参照。

9. (アッラー*の明証に背を向けたため、信仰から) 背かされた者は、そこ¹から背かされる。

يُؤْفَكُ عَنْهُ مَنْ أُفِكَ ①

10. 嘘つきたちが、成敗されますよう。

فَتِلْكَ الْأَمْثَلُ ②

11. (彼らは) 不注意にも、(不信仰と迷いの) 奥底に漬かり切っている者たち。

الَّذِينَ هُمْ فِي غَمْرَةٍ سَاهُونَ ③

12. 彼らは、報いの日*はいつなのか、と(嘲笑しつつ) 尋ねる。²

يَسْتَلُونَ أَيَّانَ يَوْمَ الدِّينِ ④

13. (その日とは) 彼らが、業火で熱され(るという試練にかけられ)る日。

يَوْمَهُمْ عَلَى النَّارِ يُقْسَتُونَ ⑤

14. (彼らには、こう言われる。) 「あなた方が(現世で) 性急に求めていた(、業火の懲罰という) 試練を、味わうがよい」。

دُورًا فَتَنَّاكَ هَٰذَا الَّذِي كُنتُمْ بِهِ تَسْتَعْجِلُونَ ⑥

15. 本当に敬虔な*者たちは、楽園と泉の中にある。

إِنَّ الْمَتَّقِينَ فِي جَنَّاتٍ وَعُيُونٍ ⑦

16. 彼らの主*が授けて下さった(お望みの) ものを、手にしつつ。本当に彼らは以前(現世で)、善を尽くす者³たちだったのだから。

ءَاٰخِذِينَ مَا ءَاتَاهُمْ رَبُّهُمْ وَأَنَّهُمْ كَانُوا قَبْلَ ذَٰلِكَ مُحْسِنِينَ ⑧

17. 彼らが眠っていたのは、(タハッジド⁴のため、) 夜の僅かな時間だけだった。

كَانُوا قَلِيلًا مِّنَ اللَّيْلِ مَا يَهْجَعُونَ ⑨

18. また明け方には、(アッラー*に罪の⁵赦しを乞うていた。⁵

وَبِالْأَسْحَارِ هُمْ يَسْتَغْفِرُونَ ⑩

1 使徒*とクルアーン*への信仰のこと (ムヤッサル 520 頁参照)。

2 同様のアーヤ*として、家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

3 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

4 「タハッジド」については、夜の旅章 79 の訳注を参照。

5 夜の残りが三分の一を切る頃からファジュール*の時間までは、罪の赦し、祈願、悔悟が(それ以外の時間帯よりも) 受け入れられる時間帯である (ムスリム「旅行者の礼拝とその短縮の書」172 参照)。

19. また彼らの財産の内には、(他人に^{ほどこ}施しを) 求める者にも、(それを) 禁じられた者¹にも、(与えることを決めた) 権利があった。
20. また大地には、(アッラーの唯一^{*}性^{*}) 確信する者たちにとっての (、かれの全能性を示す) 御^み徴^{しるし}がある。
21. そして、あなた方自身の(創造^{そうぞう}の) 内にも。一体、あなた方は(それに無^む頓^{とん}着^{ちやく}で) 目を開かないのか？
22. また天には、あなた方の糧^{かて}と、あなた方に約束されているもの²がある。
23. そして天地の主^{しゅ}*にかけて、本当にそれ³はまさしく真理なのだ。ちょうど、あなた方が喋^{しやへ}る(ことに対し、自分自身、その事実を疑^{うたが}うことがない) のと同様に。
24. (使徒^{しと}*よ、) あなたのものと、イブラーヒーム^{とうと}*の貴い客人^{きやくじん}たち(人間の姿^{すがた}を借りた天使^{てんし}*たち)の話⁴は届いたか？
25. 彼ら(天使^{*}たち)が、彼(イブラーヒーム*)のところに入り、「(あなたに) 平安を⁵」と言った時。彼(イブラーヒーム*)は言った。「(あなた方にこそ、) 平安を」。——彼らは、見慣れない民であるぞ——。

وَفِي أَمْوَالِهِمْ حَقٌّ لِّلَّذِينَ أُبْرِئُوا وَلِلمَّخْرُومِ ١٩

وَفِي الْأَرْضِ آيَاتٌ لِّلْمُتَّقِينَ ٢٠

وَفِي أَنْفُسِكُمْ أَفَلَا تُبْصِرُونَ ٢١

وَفِي السَّمَاءِ رِزْقُكُمْ وَمَا تُعَدُّونَ ٢٢

فَوَرَبِّ السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ إِنَّهُ لَحَقٌّ مِّثْلَ مَا أَنَّكُمْ تَنْطُقُونَ ٢٣

هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ ضَيْفِ إِبْرَاهِيمَ الْمُكْرَمِينَ ٢٤

إِذْ دَخَلُوا عَلَيْهِ فَقَالُوا سَلَامًا قَالَ سَلَامٌ قَوْمٌ مُّسْكِرُونَ ٢٥

1 一説にこれは、その遠慮深さゆえに貧しくないと思われ、その結果、施しを受けるのを「禁じられた」状況にある者(アル＝バイダーウィー5:237 参照)。雌牛章 273 も参照。

2 「糧」には、「雨と、それによって育つ作物、及びそれによって生きる創造物」「糧が定められている『守られし碑板*』」といった解釈がある。「約束されているもの」の解釈には、「善いことや悪いこと」「そのいずれか」「天国と地獄」「復活の日*」といった諸説がある(アル＝クルトウビー17:41 参照)。

3 復活の日*、報いといった、アッラー*がお約束になったもの(イブン・カスィール 7:420 参照)。

4 イブラーヒーム*と、この天使*たちの話については、フード*章 69-76、アル＝ヒジュール章 51-60、蜘蛛章 31-32 も参照。

5 家畜章 54「あなた方に平安を」の訳注も参照。

26. それで彼（イブラーヒーム*）は家族の方へと席を外すと、肥えた仔牛（の焼き肉）を持って（客人のところへと）やって来た。
27. そして、それを彼らに差し出した。「どうぞ、召し上がって下さい」と言いつつ。
28. （しかし、彼らが手を出さなかったので、）彼（イブラーヒーム*）は彼らに恐怖心^{いだ}を抱いた。彼らは言った。「怖がらなくてもよい、私たちはアッラー*からの御使^{こわ}いである」。そして彼に、有識な男の子^{みづか}の（誕生^{きっばう}についての）吉報^つを告げた。
29. すると彼（イブラーヒーム*）の妻（サーラ）は、（それを聞くと客人^{きやくじん}たちのところへと）声を上げて赴き、自分の顔を叩きつつ^{おもむ}2、言った。「（私は、）年寄りで、不妊ですのに！」
30. 彼ら（天使*たち）は言った。「そのように、アッラー*が仰^{おほ}せられたのだ。本当にかれこそは、英知あふれる*お方、全知者なのだから」。
31. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「では、あなた方のご用件は何なのでしょう、御使^{みづか}いたちよ」。
32. 彼らは言った。「本当に私たちは、罪悪者^{ざいあく}である民^{つか}3へと遣わされたのである。

فَرَأَىٰ إِلَىٰ أَهْلِهِ فَجَاءَ بِعِجْلٍ سَمِينٍ ﴿٢٦﴾

فَقَرَّبَهُ إِلَيْهِمْ قَالَ أَلَا تَأْكُلُونَ ﴿٢٧﴾

فَأَوْحَسَ مِنْهُمْ خِيفَةً قَالُوا لَا تَحْزَنْ وَسَرَّوْهُ يُعَلِّمُ عَلَيْكَ ﴿٢٨﴾

فَأَقْبَلَ امْرَأَتُهُ فِي صَرَخٍ فَصَكَتَ وَجْهَهَا وَقَالَتْ عَجُوزٌ عَقِيمٌ ﴿٢٩﴾

قَالُوا كَذَلِكَ قَالَ رَبُّكَ إِنَّهُ هُوَ الْحَكِيمُ الْعَلِيمُ ﴿٣٠﴾

* قَالَ فَمَا خَطْبُكُمْ أَيُّهَا الْمُرْسَلُونَ ﴿٣١﴾

قَالُوا إِنَّا أُرْسِلْنَا إِلَىٰ قَوْمٍ مُّجْرِمِينَ ﴿٣٢﴾

1 これが誰かについては、フード*章 71、アル=ヒジュール章 53 とその訳注を参照。

2 これは当時、何か驚くことがあった時、女性がする仕草だった（イブン・アーシュール 26:360 参照）。尚、フード*章 71-72 とその訳注も参照。

3 預言者*ルート*の民のこと。彼らはシルク*を犯し、ルート*を嘘つき呼ばわりし、しかも数々の醜行（しゅうこう）を犯していた（アッ=サアディー810 頁参照）。蜘蛛章 29 とその訳注も参照。

33. 彼らの上に、泥土^{じろつち}からなる石つぶてを送るため。
34. (放逸^{ほういつ}さと罪^{つみ}において) 度^どを越^こしている者たちに対し、あなたの主^{しゅ}*の御許^{みもと}で印^{いん}をつけられた(石つぶてを)」。¹
35. こうしてわれら*は信仰者^{しんぎやう}だった者たちを、そこ(ルート*の民の町^{ちやう}2)から脱出させた。
36. われら*はそこに、服従^{ふくじゆう}する者(ムスリム*)たちの一家^{いけだ}3しか、見出さなかった。
37. そしてわれら*は、痛ましい懲罰^{ちやうばつ}を怖^{おそ}れる者たちへの御徴^{みしるし}4を、そこに残したのである。
38. ムーサー*にも(、われら*は御徴^{みしるし}を残した)。われら*が彼を、紛れもない明証^{めいしやう}5と共にフィルアウン*へと遣わした時のこと。
39. そして彼(フィルアウン*)は、自^{みづか}らの後ろ盾^{だて}6と共に(信仰^{しんぎやう}から)背^{そむ}き、言った。「(ムーサー*は)魔術師^{まじゆう}か、あるいは憑^つかれた者^{もの}7である」。

لُرْسِلَ عَلَيْهِمْ حِجَارَةٌ مِنْ طِينٍ ﴿٣٣﴾

مُسَوِّمَةً عِنْدَ رَبِّكَ لِلْمُسْرِفِينَ ﴿٣٤﴾

فَأَخْرَجْنَا مَنْ كَانَ فِيهَا مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٣٥﴾

فَمَا وَجَدْنَا فِيهَا غَيْرَ بَنٍ مِنَ الْمُسْلِمِينَ ﴿٣٦﴾

وَتَرَكْنَا فِيهَا آيَةً لِلَّذِينَ يَخَافُونَ الْعَذَابَ الْأَلِيمَ ﴿٣٧﴾

وَفِي مُوسَى إِذْ أَرْسَلْنَاهُ إِلَى فِرْعَوْنَ بِسُلْطَانٍ مُبِينٍ ﴿٣٨﴾

فَوَلَّىٰ بِنُكْحِهِ. وَقَالَ سِحْرٌ أَوْ حُبٌّ ﴿٣٩﴾

1 この時の様子についてはフード*章 82-83、アル=ヒジュル章 73-74 を、石つぶての「印」については、フード*章 82 を参照。

2 この「町」については、フード*章 81 の訳注を参照。

3 つまりルート*の一家のこと(ムヤッサル 522 頁参照)。ただしフード*章 81、アル=ヒジュル章 60 にもある通り、彼の妻は不信仰者*であり、救われなかった。

4 この「御徴」とは、アッラー*の御力と、不信仰者*たちに対する応報を示す、懲罰の跡のこと(前掲書、同頁参照)。アル=ヒジュル章 76 とその訳注も参照。

5 「紛れもない明証」については、婦人章 153 の訳注を参照。

6 「自らの後ろ盾」には、「彼の軍勢」「彼の威力」「そっぽを向いて」などといった解釈がある(アル=クルトゥビー 17:49 参照)。

7 「憑かれた者」については、アル=ヒジュル章 6 の訳注を参照。

40. それで、われら*は彼とその軍勢^{ぐんぜい と}を捕らえ、
彼らを海原^{うなばら}へと放り棄てた^す1。彼（フィルア
ウン*）は（その不信仰ゆえ）、咎められる
者であった。
41. アード*にも（、われら*は御徴^{み しるし}を残した）。
われら*が彼らに、不吉な風を送った時のこと。
42. それは、それが届いたいかなるものも、朽
ち果てた骨とせずにはおかなかった。
43. サムード*にも（、われら*は御徴^{み しるし}を残し
た）。彼らに「暫くの間、楽しんでい
るがよい」と言われた時のこと。
44. そして彼らは自分たちの主*のご命令に反
抗した^{しほ}2ので、彼らの眼前で、稲妻^{いなずま}が彼らを
捕らえた。
45. それで彼らは（懲罰^{ちやうばつ}から）立ち上がることも
叶^{かな}わなければ、（自分たちを）救うこと
も出来なかった。
46. （彼ら）以前には、ヌーフ*の民も（、滅^{ほろ}ぼ
した）。本当に彼らは、放逸^{ほういつ}な民だったの
だから。
47. われら*は天を、偉力^{いりよく}によって築^{きず}いた。われ
ら*こそは、まさに力量あふれる者なのだ。
48. また、大地。われら*はそれを敷^しき広げた。
そして均^{なら}し整^{ととの}える者の、何と素晴らしいこ
とか。

فَأَخَذَتْهُ وَجُودُهُ، فَبَدَّنَهُمْ فِي النَّارِ وَهُوَ مُلِيمٌ ﴿٤٠﴾

وَفِي عَادٍ إِذْ أَرْسَلْنَا عَلَيْهِمُ الرِّيحَ الْعَقِيمَ ﴿٤١﴾

مَا تَذَرُ مِنْ شَيْءٍ أَنْتَ عَلَيْهِ إِلَّا جَعَلْنَاهُ كَالرَّمِيمِ ﴿٤٢﴾

وَفِي نَمُودٍ إِذْ قِيلَ لَهُمْ تَمَتَّعُوا حَتَّىٰ حِينٍ ﴿٤٣﴾

فَعَزَّوْا عَنْ أَمْرِ رَبِّهِمْ فَلَخَّذَتْهُمْ الصَّعَقَةُ وَهُمْ
يَظُنُّونَ ﴿٤٤﴾

فَمَا أَشْطَطَعُوا مِنْ قِيَامٍ وَمَا كَانُوا مُنْصَرِّينَ ﴿٤٥﴾

وَقَوْمُ نُوحٍ مِنْ قَبْلُ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا فَاسِقِينَ ﴿٤٦﴾

وَالسَّمَاءَ بَنَيْنَاهَا بِأَيْدِينَا وَالنَّوْصِعُونَ ﴿٤٧﴾

وَالْأَرْضَ فَرَشْنَاهَا فَنِعْمَ الْمُهَيَّدُونَ ﴿٤٨﴾

1 この時の様子は、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 23-24
も参照。

2 アッラー*のご命令に反し、雌ラクダを殺したことを指す（アルークルトウビー17:51 参照）。
高壁章 73 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、月章 27-29、太陽章 13-14
も参照。

49. また、われら*はあらゆるものに番い^{つが}を創った。(それは)あなた方が、教訓を受けようにするためである。

وَمِنْ كُلِّ شَيْءٍ خَلَقْنَا زَوْجَيْنِ لَعَلَّكُمْ تَذَكَّرُونَ ﴿٥١﴾

50. ならば(使徒*よ、こう言うのだ、)「(人々よ、)アッラー*へと避難^{ひなん}せよ²。本当に私は、かれからの明白なる警告者^{けいこく}である。

فَقُرْ إِلَى اللَّهِ إِنِّي لَكُمْ مِنْهُ نَذِيرٌ مُبِينٌ ﴿٥٢﴾

51. そしてアッラー*と共に、別の神^{すうはい}を(崇拜*の対象として)拝^{はい}してはならない。本当に私は、かれからの明白なる警告者^{けいこく}なのである」。

وَلَا تَجْعَلُوا مَعَ اللَّهِ إِلَهًا آخَرَ إِنِّي لَكُمْ مِنْهُ نَذِيرٌ مُبِينٌ ﴿٥٣﴾

52. (クライシュ族*の不信仰者*たちと)同様に、彼ら以前の(不信仰)者*たちのもとに使徒*が到来した時には、彼らは決まって「(彼は)詩人か、憑^つかれた者⁴だ」と言ったものだった。

كَذَلِكَ مَا أَتَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ مِنْ رَسُولٍ إِلَّا قَالُوا سَاحِرٌ أَوْ مُجْنُونٌ ﴿٥٤﴾

53. 一体、彼らはそのことを勧め^{すす}合^あっていたのか? ⁵ いや、彼らは放埒^{ほうちやう}な民であった。

أَتَوَصَّوهُمْ بِمَا هُمْ قَوْمٌ طَاغُونَ ﴿٥٥﴾

54. ならば(使徒*よ)、彼ら(シルク*の徒^{とが})に背を向けよ⁶。あなたは(誰からも)、咎められる者ではないのだから。

فَقَوْلَ عَنْهُمْ فَمَا أَنْتَ بِمَلُومٌ ﴿٥٦﴾

1 この「番い」の例としては、天と地、太陽と月、夜と昼、陸と海、平地と山、冬と夏、ジン*と人間、男と女、光と闇、信仰と不信仰、幸福と不幸、天国と地獄、真理と虚妄(きょうもう)、甘さと苦さなどがある(アル=バガウィー4:287 参照)。

2 アッラー*とその使徒*への信仰、アッラー*のご命令の遵守(じゅんしゅ)と、かれへの服従によって、アッラー*の懲罰からかれのご慈悲へと「避難」すること(ムヤッサル 522 頁参照)。

3 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 「憑かれた者」については、アル=ヒジュール章 6 の訳注を参照。

5 先代の不信仰者*と、後代の不信仰者*は、いずれも使徒*を嘘つき呼ばわりしていたので、彼らはあたかもお互いにそのことを勧め合っていたかのようである(前掲書 523 頁参照)。

6 アッラー*の教えは伝えたのだから、アッラー*からの新たなご命令が下るまでは、彼らのことを放っておけ、という意味(前掲書、同頁参照)。

55. そして（同時に、人々に）教訓を与えよ。
本当に教訓は、信仰者たちの役に立つのだから。
56. われがジン*と人間を創造したのは、彼らが
われ(のみ)を崇拜*するために外ならない。
57. われは彼らから糧が欲しいわけでもなければ、
彼らがわれに食べさせてくれるのを
欲しているわけでもない。
58. 実にアッラー*こそは糧を授けられるお方、
強力さの主、力みなぎるお方なのだから。
59. ならば、（預言者*ムハンマド*を嘘つき呼
ばわりするという）不正*を働いた者たちに
こそは、彼らの仲間たち¹の罰と同様の罰が
ある。彼らはわれに、（それを）性急に求
めてはならない²。
60. 不信仰である者*たちに、彼らが（懲罰を）
約束されている、彼らの日³の災いあれ。

وَذَكِّرْ فَإِنَّ الذِّكْرَ تَنْفَعُ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٥٥﴾

وَمَا خَلَقْتُ الْجِنَّ وَالْإِنْسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ ﴿٥٦﴾

مَا أُرِيدُ مِنْهُمْ رَزْقٌ وَمَا أُرِيدُ أَنْ يَبْطِغُوا فِيَّ ﴿٥٧﴾

إِنَّ اللَّهَ هُوَ الرَّزَّاقُ ذُو الْقُوَّةِ الْمَتِينُ ﴿٥٨﴾

فَإِنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا ذُنُوبًا مِثْلَ ذُنُوبِ أَصْحَابِهِمْ
فَلَا يَسْتَعْجِلُونَ ﴿٥٩﴾

فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ يَوْمِهِمُ الَّذِي
وُعِدُوا ﴿٦٠﴾

1 「彼らの仲間たち」とは、過去の不信仰者*たちのこと（ムヤッサル 523 頁参照）。

2 彼らは自分たちに懲罰を下してみよ、と挑発していた（アル＝クルトゥビー 17:57 参照）。
アーヤ*12 とその訳注も参照。

3 「彼らの日」とは、復活の日*のこと。あるいはバドルの戦い*の日（アル＝バガウィー 4:289 参照）。

第 52 章
山章 (アッ＝ツール) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 山²にかけて、
2. また、書き記された啓典³にかけて、
3. (それは、) 広げられた紙片⁴の中。
4. また、詣⁵でられる館⁶にかけて、
5. また、掲⁷げられた天井⁸にかけて、
6. そして溢⁹れかえる海¹⁰にかけて (誓¹¹う)。
7. (使徒¹²*よ、) 実に (不信仰者¹³*たちに対する)
あなたの主¹⁴*の懲罰は、必ずや起こるのだ。
8. それを押¹⁵し戻¹⁶す者は、誰もいない。
9. 天¹⁷が揺¹⁸れに揺¹⁹れ動く (、復活²⁰の) 日。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالتَّوْرِ ①
وَكِتَابٍ مَّسْطُورٍ ②
فِي رَقٍّ مَّنْشُورٍ ③
وَالْبَيْتِ الْمَعْمُورِ ④
وَالسَّقْفِ الْمَرْفُوعِ ⑤
وَالْبَحْرِ الْمَسْجُورِ ⑥
إِنَّ عَذَابَ رَبِّكَ لَوَاقِعٌ ⑦
مَا لَهُ مِنْ دَافِعٍ ⑧
يَوْمَ تَحْمُورُ السَّمَاءُ مَوْرًا ⑨

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。数々の恐るべき兆候 (ちょうこう) を伴う復活の日*の到来、不信仰者*への懲罰が起こることの確証と、来世における彼らの悲惨 (ひさん) な状況の描写がされた後、それと対照的な形で、来世における信仰者の行き先と、その享楽 (きょうらく) が描き出される。後半では、不信仰者*たちに対する啓示の伝達と警告の義務 (ぎむ) が取り上げられた後、アッラーの唯一性*と預言者*ムハンマド*の使徒*性の確証が、不信仰者*たちとの議論 (ぎろん) の形式で提示され、最後は忍耐*とアッラー*への感謝の勸 (すす) めめで締めくくられる。
- 2 アッラー*がムーサー*に語りかけられた、「山」のこととされる (ムヤッサル 523 頁参照)。
- 3 この「啓典」は、クルアーン*のこととされる (前掲書、同頁参照)。
- 4 イブン・カスィール*によれば、七層ある天の各層には、地上のカアバ神殿*に相当する館があり、この「詣でられる館」は、七層目の天のそれであるという。そこにはイブラーヒーム*が寄りかかっており、毎日新たに七万もの天使*がその周りをタワーフ*するとされる (7:427-428 参照)。
- 5 この「天井」は、最下層の天であるとされる (ムヤッサル 523 頁参照)。
- 6 この「溢れかえる」には外にも、「(復活の日*に) 点火された」「空っぽになった」「湧 (わ) き返った」といった解釈もある。また一説に、この「海」はアッラー*の御座 (みくら) の下にある水のこと。復活の日*にそれが地上に降ると、死人が蘇 (よみがえ) るのだという (アル＝クルトゥビー 17:61-62 参照)。

10. そして、山々が激しく移動する（日）。¹
11. ならば、その日、（アッラー*とその使徒*
を否定した）嘘つきたちに災いあれ。
12. 戯言の中でふざけている者たちに。
13. 彼ら（嘘つきたち）が、地獄の業火へと荒々
しく押しやられる日。
14. （彼らには、こう言われる。）「これが、あ
なた方が嘘呼ばわりしていた業火である。
15. 一体、これ（懲罰）は魔術なのか？ そ
れとも、あなた方には見えないのか？
16. そこに入って炙られよ。そして（その苦痛を）
我慢しても、我慢しなくてもよい、（いずれ
にせよ、）あなた方には同じこと。あなた方
は、自分たちが（現世で）行っていたことに
対して、報われるのみなだから」。
17. 実に敬虔な*者たちは、樂園と安楽の中に
ある。
18. 彼らの主*が、自分たちにお授けになったも
のに喜々としつつ。彼らの主*は、彼らを火
獄の懲罰から守って下さったのである。
19. 自分たちが（現世で）行っていたこと（の報
い）ゆえに、おいしく食べ、飲むのだ。²

وَنَسِيرُ الْجِبَالِ سِيرًا ﴿١٠﴾

قَوْلٌ يُومَضُ لِلْمَكَذِبِينَ ﴿١١﴾

الَّذِينَ هُمْ فِي حُوضٍ يَلْعَبُونَ ﴿١٢﴾

يَوْمَ يُدْعَوْنَ إِلَىٰ نَارِ جَهَنَّمَ دَعَا ﴿١٣﴾

هَذِهِ النَّارُ الَّتِي كُنْتُمْ يَهَاكُيُّونَ ﴿١٤﴾

أَفَيْسَ خَرَجُوا أَمْ أَنْتُمْ لَا بَصِيرُونَ ﴿١٥﴾

أَصْلَوْهَا فَأَصْبَرُوا وَلَا تَصْبِرُوا سِوَاهُ

عَلَيْكُمْ إِنَّمَا تَجْرُونَ مَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿١٦﴾

إِنَّ الْمُتَّقِينَ فِي جَنَّاتٍ وَعِجْرِ ﴿١٧﴾

فَكَهْنٍ بِمَاءٍ أَنَاهُمْ رُبُّهُمْ وَوَقَاهُمْ رَبُّهُمْ

عَذَابَ الْجَحِيمِ ﴿١٨﴾

كُلُوا وَاشْرَبُوا هَيْئًا كَمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿١٩﴾

1 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 も参照。

2 天国の民の飲食物については、ヤー・スィーン章 57、整列者章 45-47、サード章 51、詳細にされた章 31、金の装飾章 73、ムハンマド*章 15、慈悲あまねき*お方章 52、68、出来事章 17-21、真実章 23、人間章 5-6、14、17-18、21、送られるもの章 42、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28 も参照。

20. 互いに向かい合いつつ¹、整列した寝台の上
に。われら*は彼らに、麗^{うるわ}しい眼の色白^{しろ}の
女性たち²を連れ添わせる。

21. また、（自分自身が）信仰に入り、その子
孫も信仰心と共に彼らに従った者たち、われら*はその子孫を（、その行いが、たとえ
彼らの父祖ほどではなくても、天国で）彼
らと一緒にしてやり、彼ら（父祖）の行い
からは何一つ差し引きしない。全ての者
は、自分が稼ぐことによって（解放される
かどうかが決まる、）差し押さえられた者³
なのだから。

22. また、われら*は彼らに、彼らが欲する果実
と肉をふんだんに与えた。

23. 彼らはそこで、盃^{さかずき}を交^かわし合う。そこ
には戯言^{たわごと}もなければ、罪深^{つみ}さもない。⁴

24. また、彼らの（奉仕^{ほうし}の）ための少年たちが、
彼らの周りを回って歩く。彼らは秘められ
た真珠^{しんじゆ}のよう。

25. そして彼らは互いに近づき、（自分たちが
天国に入った理由について）質問し合う。

26. 彼らは言う。「本当に私たちは以前（現世^{げんじ}
にいる時）、家族のもとで、（主*とその懲
罰^{おび}を）怯える者であった。

مُتَّكِئِينَ عَلَى سُرُرٍ مَّصْفُوفَةٍ وَرَوَّاحِينَ
يَجُورِعِينَ ﴿٢٠﴾

وَالَّذِينَ آمَنُوا وَاتَّبَعَتْهُمْ ذُرِّيَّتُهُمْ بِإِمْحَانٍ
أَلْحَقْنَا بِهِمْ ذُرِّيَّتَهُمْ وَمَا أَلَتْنَاهُمْ مِنْ عَمَلِهِمْ
مِنْ شَيْءٍ كُلُّ امْرِئٍ بِمَا كَسَبَ رَهِينٌ ﴿٢١﴾

وَأَمَدَدْنَاهُمْ فِيكَاهٍ وَخَمْرٍ وَمَا يَسْتَهْوَونَ ﴿٢٢﴾

يَسْتَرْحُونَ فِيهَا كَأْسًا لَا تَغْوِيهَا وَلَا تَأْتِيهِنَّ ﴿٢٣﴾

* وَيَطُوقُ عَلَيْهِمْ غُلَامٌ لَهُمْ خَزَائِفُهُمْ رُؤُوسٌ
مَكُونُونَ ﴿٢٤﴾

وَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ عَلَى بَعْضٍ يَتَسَاءَلُونَ ﴿٢٥﴾

قَالُوا إِنَّا كُنَّا قَبْلُ فِي أَهْلِنَا مُتَشَفِّعِينَ ﴿٢٦﴾

1 アル=ヒジュール章 47 の訳注を参照。

2 「麗しい眼の…女性たち」については、煙霧章 54 の訳注を参照。雌牛章 25 「純潔な妻」の訳注も参照。

3 善行によって救われるか、悪行によって滅ぼされるかのいずれかであることから、自分の行いの抵当（ていとう）として「差し押さえられた者」と表現されている（イブン・ジュザイ 2:377 参照）。

4 天国の酒*は現世のそれとは違い、頭痛、腹痛、理性の麻痺（まひ）などをもたらすこともなく、それが理由で戯言や下品なことを口にするということもない（イブン・カスィール 7:434 参照）。

27. それでアッラー*は私たちに（導き^{みちび}を）お恵みになり、私たちを（地獄の）熱風の懲罰^{ちようばつ}から守って下さった。

28. 本当に私たちは以前、（天国に入り、地獄から救われることを、）かれ（だけ）に祈っていたのだ。実にかれこそは、善きお方、慈愛^{じあい}深い*お方なのだから」。

29. ならば（使徒^{しと}*よ、クルアーン*で^{いまし}）戒めよ。あなたはあなたの主*の恩恵^{おんけい}^{うらな}ゆえ、占い師^{うらな}²でも憑かれた者³でもないのだから。

30. いや、彼ら（シルク*の徒）は言うのか？
「（ムハンマド*は）詩人である。私たちは彼に、死^{とうらい}の到来を待ち望んでいるのだ」。

31. （使徒^{しと}*よ、）言ってやれ。「（それを）待ち望んでいるがよい。本当に私も、あなた方と共に待ち望む者⁴なのだから」。

32. いや、彼らの知性が、彼らにこれを命じているのか？ いや、彼らは放埒^{ほうらち}な民である。⁵

33. いや、彼ら（シルク*の徒）は言うのか？
「彼（ムハンマド*）が、それ（クルアーン*）を仕立て上げたのだ⁶」。いや、彼らは信じていない。

فَمَنْ أَلَّهَ عَلَيْنَا وَوَقَّعْنَا عَذَابَ السَّمُورِ ﴿٢٧﴾

إِنَّا كُنَّا مِنْ قَبْلُ نَدْعُوهُ إِنَّهُ هُوَ الْبَرُّ الرَّحِيمُ ﴿٢٨﴾

فَذَكِّرْهُمْ أَلَّا يَنْعِمَتَ رَبِّكَ بِكَاهِنٍ وَلَا مَجْنُونٍ ﴿٢٩﴾

أَمْ يَقُولُونَ شَاعِرٌ نَتَرَبَّصُ بِهِ رَيْبَ الْمَنُونِ ﴿٣٠﴾

قُلْ تَرَبَّصُوا فَإِنِّي مَعَكُمْ مِنَ الْمُرَاصِبِينَ ﴿٣١﴾

أَمْ تَأْمُرُهُمْ أَحْلَامُهُمْ بِهَذَا أَمْ هُمْ قَوْمٌ طَاعُونَ ﴿٣٢﴾

أَمْ يَقُولُونَ نَقُولُ بَلْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٣٣﴾

1 預言者*としての使命と、高い知性という「恩恵」のこと（ムヤッサル 524 頁参照）。

2 「占い師（カーヒン）」とは、不可視の世界*を知っているかのように見せかけ、啓示を受けてもいないのに、未来のことを伝える者のこと（イブン・アル＝ジャウズィー 8:53 参照）。

3 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

4 彼らへの懲罰を、「待ち望む者」の意（ムヤッサル 524 頁参照）。

5 彼らは預言者*を「占い師」「憑かれた者」「詩人」などと形容したが、それらは互いに矛盾（むじゅん）する言葉である（ムヤッサル 525 頁参照）。しかしクライシュ族*は、自分たちが知性と理性の持ち主であると自負（じふ）していた（アブー・ハイヤーン 8:151 参照）。

6 家畜章 105 とその訳注も参照。

34. ならば彼らに、それ（クルアーン*）と同様の話を持って来させよ。もし、彼らが本当のことを言っているのならば。¹
35. いや、彼らはいかなるものもなしに²、創られたというのか？ それとも彼らが創造者なのか？
36. それとも、彼らが諸天と大地を創ったのだと？ いや、彼らは（アッラー*の懲罰を）確信していない。
37. いや、彼らのもとには、あなたの主*の宝庫³があ（り、それを自由にすることが出来るのか？ それとも、彼らが（アッラー*の創造物に対する）制圧者だとも？
38. それとも彼らには、（彼らの主張を裏づける啓示を）聞くことの出来る（、天にかけ）梯子があるというのか？ ならば、聞いている（と主張する）者に、明らかな根拠を持って来させるがよい。
39. それとも、かれ（アッラー*）には娘があり、あなた方には息子があるとでも？⁴
40. いや（、使徒*よ）、あなたが彼らに見返りを要求し⁵、それで彼らは負債ゆえの重荷を背負わされ（、あなたの呼びかけを拒否す）る者だというのか？

فَلْيَأْتُوا بِحَدِيثٍ مِّثْلِهِ إِنْ كَانُوا صَادِقِينَ ﴿٣٤﴾

أَمْ خُلِقُوا مِنْ غَيْرِ شَيْءٍ أَمْ هُمُ الْخَالِقُونَ ﴿٣٥﴾

أَمْ خَلَقُوا السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ كُلَّ لَّيْلٍ مُوقُنُونَ ﴿٣٦﴾

أَمْ عِنْدَهُمْ خَزَائِنُ رَبِّكَ أَمْ هُمُ الْمُصِيطِرُونَ ﴿٣٧﴾

أَمْ لَهُمْ سُلٌلٌ يَسْمَعُونَ فِيهِ فَلْيَأْتِ
مُسْمِعُهُمْ بِسُلْطَانٍ مُبِينٍ ﴿٣٨﴾

أَمْ لَهُ الْبَنَاتُ وَلَكُمُ الْبَنُونَ ﴿٣٩﴾

أَمْ سَأَلْتَهُمُ آخِرَ أَفْعَالِهِمْ مِنْ مَقَرٍّ مُمْقِلُونَ ﴿٤٠﴾

1 雌牛章 23 の訳注も参照。

2 これには、「創造者もなしに」「（命じられることも、禁じられることもない）無生物のように、父も母もなしに」「無意味に」といった解釈がある（アッ＝シャウカーニー5:133 参照）。

3 この「宝庫」の解釈には、「雨や糧」「預言者*性」といった説がある（アル＝バガウィー4:295 参照）。

4 このアーヤ*の意味については、蜜蜂章 57-59 とその訳注を参照。

5 この「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

41. それとも、彼らのもとは不可視の世界*
 (の知識)があり¹、それで彼らが(そこから、人々のために)書き記している²とでも？

أَمْ عِنْدَهُمُ الْغَيْبُ فَهُمْ يَكْتُوبُونَ ﴿٤١﴾

42. いや、彼らは(信仰者たちに)策略^{さくりやく}を望んでいる。そして不信仰^{おちい}に陥った者*たちこそが、策略^{さくりやく}されている身なのだ。³

أَمْ يُرِيدُونَ كَيْدًا ۖ قَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا هُمْ الْمَكِيدُونَ ﴿٤٢﴾

43. それとも彼らには、アッラー*以外の神^{おか}があるのか？ 彼らがシルク*を犯しているものから(無縁な)、アッラー*に称え*あれ。

أَمْ لَهُمْ آلِهَةٌ غَيْرُ اللَّهِ ۖ سُبْحَانَ اللَّهِ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٤٣﴾

44. もし彼らが、天の破片^{はへん}が落下して来るのを目にしても、(不信仰をやめることなく、)「(これは)積み重なった雲だ」などと言ったであろう。⁵

وَإِنْ يَرَوْا كِسْفًا مِّنَ السَّمَاءِ سَاقِطًا يَقُولُوا سَحَابٌ مَّرْكُومٌ ﴿٤٤﴾

45. ならば(使徒*よ)、彼らが卒倒^{そつとう}するその日^{しと}に遭遇するまで、彼らを放っておくがよい。

فَذَرِهِمْ حَتَّىٰ يَلْقَوا يَوْمَهُمُ الَّذِي فِيهِ يَصْعَقُونَ ﴿٤٥﴾

46. 彼らの策略^{さくりやく}が少しも自分たちに役立つことがなく、彼らが(アッラー*の懲罰^{ちやうばつ}から)助けられることもない日に。

يَوْمَ لَا يَنْفَعِي عَنْهُمْ كَيْدُهُمْ شَيْئًا وَلَا هُمْ يُنصَرُونَ ﴿٤٦﴾

1 これは彼らが、「復活の日*を否定したこと」、あるいは彼らがアーヤ*31の言葉を受けて、「預言者*ムハンマド*の方が、自分たちより先に死ぬ」と主張したことを指している、とされる(アル=バガウィー4:295 参照)。

2 あるいは、「判断している」という意味(アル=クルトゥビー17:76 参照)。

3 彼らの策略に対する応報が、「策略」と表現されている(アブー・ハイヤーン8:153 参照)。この表現法については、雌牛章15の訳注も参照。

4 「神」に関しては、雌牛章133の訳注を参照。

5 一説に、このアーヤ*は夜の旅章92や詩人たち章187にあるような、不信仰者*たちの挑発の言葉に対して下った(アル=クルトゥビー17:77 参照)。

6 「その日」の解釈には、「彼らが死ぬ日」「バドルの戦い*の日」「最初に角笛に吹き込まれる日(家畜章73の訳注も参照)」「復活の日*」といった諸説がある(前掲書、同頁参照)。

47. 本当に不正*を働いた者たちには、（その日の前にも、）その他の懲罰がある。しかし彼らの大半は、（そのことを）知らないのだ。
48. （使徒*よ、）あなたの主*のお決めになったことゆえに、忍耐*せよ。本当にあなたは、われら*の眼差しのもとにあるのだから¹。そして立つ時²に、あなたの主*の称賛*と共に（かれを）称え*よ。
49. また、夜にもかれを称え*、星々が去った時³にも（、そうするのだ）。

وَإِنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا عَذَابًا دُونَ ذَلِكَ وَلَكِنْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٥٧﴾

وَأُصِيبْ لِحُكْمِ رَبِّكَ فَإِنَّكَ بِأَعْيُنِنَا وَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ حِينَ تَقُومُ ﴿٥٨﴾

وَمِنَ اللَّيْلِ فَسَبِّحْهُ وَإِدْبَرَ الْجُمُودِ ﴿٥٩﴾

1 「眼差しのもと」については、ター・ハー章 39 とその訳注も参照。

2 この「立つ時」の解釈には、「座っている姿勢から立つ時」「眠りから起きた時」「礼拝に立つ時」といった説がある（アル＝クルトウビー17:78-80 参照）。

3 これはファジュール*の礼拝、またはファジュール*の義務の礼拝に先立つ任意の礼拝、あるいはその両方のことを指すとされる（アル＝カースィミー15:5552 参照）。

第 53 章
星章 (アン＝ナジュム) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 星²にかけて(誓う)。それが、落ち(て消え)た時。³
2. あなた方の同胞(ムハンマド*)は(導きから)迷ったのでもなく、(信念を)誤ったのでもない。
3. また、彼は私欲で語っているものない。
4. それ⁴は、下される啓示^{けいし}以外の何ものでもないのだ。
5. 強力な者(ジブリール*)が、彼(ムハンマド*)にそれを教えた。
6. 力を備えた者が。そして彼(ジブリール*)は真っ直ぐに立った、
7. 空の向こうの最も高いところに⁵。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالنَّجْمِ إِذَا هَوَىٰ ①

مَا ضَلَّ صَاحِبُكُمْ وَمَا غَوَىٰ ②

وَمَا يَبْطُونُ عَنْهُ ③

إِنَّهُ لَا وَحْيٌ يُوحَىٰ ④

عَلَّمَهُ شَدِيدُ الْقُوَىٰ ⑤

ذُو مِرَّةٍ فَاسْتَوَىٰ ⑥

وَهُوَ بِالْأُفُقِ الْأَعْلَىٰ ⑦

- 1 マッカ*啓示。一説に、預言者*がマッカ*で公衆の面前で読んだ最初のスーラ*。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。前半の主題は、預言者*ムハンマド*の使徒*性と啓示の確証、シルク*の徒が犯している罪と間違いの説明と議論、彼らへの警告など。後半では、復活と報(むく)い、アッラーの唯一性*、不信仰な民*の結末などが明白にされ、アッラー*のみへの崇拜*の呼びかけによって、幕を閉じる。
- 2 この「星」には「徐々に下ったクルアーン*の啓示」との解釈もある(イブン・カスィール 7:442 参照)。
- 3 この「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。
- 4 「それ」とは、クルアーン*とスンナ*のこと(ムヤッサル 526 頁参照)。
- 5 預言者*が、ジブリール*をその本来の姿によって目にしたのは地上で一度(この時)、天界で一度(アーヤ*13 参照)だけだった。この時、ジブリール*は東方から出現して上方へと広がり、六百もの翼を広げつつ、西方の空までを覆ったのだという(アル＝クルトゥビー 17:87 参照)。

8. それから（使徒*に）近づき、降りて来た。
9. それで彼は（使徒*から）弓矢二本分か、それ以下（の近さ）であった。
10. そしてかれ（アッラー*）は、かれが（ジブ
リール*に）啓示したことを、その僕に啓示
した¹。
11. （使徒*の）その心は、彼が目の当たりにし
たことについて、嘘をついたのではない。
12. 一体あなた方は、彼が見たことについて議
論するということか？
13. 彼（使徒*）は確かに、彼（ジブ
リール*）をもう一度、目にした。²
14. 最果てのスイドラ³のもとで。
15. そこには、（散々な*者たちの）住処として
の楽園がある。
16. 覆うものが、スイドラを覆っている時（、
使徒*は見たのだ）。⁴
17. （使徒*の）その目は、（彼が見ることを命
じられたものから、）逸れることも、越え
ることもなかった。

ثُمَّ دَنَا فَتَدَلَّى

فَكَانَ قَابَ قَوْسَيْنِ أَوْ أَدْنَى

فَأَوْحَىٰ إِلَىٰ عَبْدِهِ مَا أَوْحَىٰ

مَا كَذَبَ الْفُؤَادُ مَا رَأَىٰ

أَفَتَسْمُرُونَهُ عَلَىٰ مَا يَرَىٰ

وَلَقَدْ رَآهُ نَزْلَةً أُخْرَىٰ

عِنْدَ سِدْرَةِ الْمُنْتَهَىٰ

عِنْدَ هَاجَةِ الْمَأْوَىٰ

إِذْ يَغْشَىٰ السِّدْرَةَ مَا يَغْشَىٰ

مَا زَاغَ الْبَصَرُ وَمَا طَغَىٰ

1 同様の表現法として、ター・ハー章 38 「示されるもの」の訳注も参照。

2 これは、預言者*が夜の旅（夜の旅章 1 とその訳注を参照）で昇天した際、ジブリール*をその本来の姿で二度目に目にした時のこととされる（イブン・カシール 7:451 参照）。アーヤ*7 の訳注も参照。

3 天の第七層にある木で、地上から昇天した者はそこから先には進めない（ムヤッサル 526 頁参照）。「スイドラ」については、サバア章 16 「スイドル（スイドラの複数形）」の訳注を参照。

4 同様の表現法として、ター・ハー章 38 「示されるもの」の訳注も参照。「最果てのスイドラ」は、天使*たちと主*の御光、様々な色のものによって覆われているという（イブン・カシール 7:454 参照）。

18. 彼は確かに、彼の主^{しゅ}*の最も偉大な御^み徴^{しるし}の一部^いを、目にしたのである。
19. (シルク*の徒よ、) 言ってみよ、アッ=ラートとアル=ウッザー²について、
20. また、別の三番目、マナートについて、それらが害する力や益する力を有しているのかを)。
21. 一体、あなた方には息子があり、かれ(アッラー*)には娘があるというのか?³
22. だとしたら、それは不当な配分である。
23. それらは、あなた方と、あなた方の先祖が名付けた名前⁴に過ぎない。アッラー*はそれら(の崇拜*)に、いかなる(正当な)根拠も下されなかったのだ。彼らは憶測と、自分たちが欲するものに^{ほつ}従^{したが}っているに外ならない。彼らのも^{しゅ}とは、彼らの主*からの導^{みちび}きが、確かに到来したのである。
24. いや、一体、人間には(それらの偶像^{くわうぞう}から、)望み通りのもの⁵があるというのか?
25. アッラー*にこそ、最後のもの(来世)と最初のもの(現世)が属する^{ぞく}というのに。

لَقَدْ رَأَى مِنْ آيَاتِ رَبِّهِ الْكُبْرَى ﴿١٨﴾

أَفَرَأَيْتُمُ اللَّاتَ وَالْعُزَّىٰ ﴿١٩﴾

وَمَنَاةَ الثَّالِثَةَ الْأُخْرَىٰ ﴿٢٠﴾

أَلَكُمُ الذَّكَرُ وَلَهُ الْأُنثَىٰ ﴿٢١﴾

بَلْكَ إِذَا فَتَمَهُ ضَبِّرَىٰ ﴿٢٢﴾

إِنْ هِيَ إِلَّا أَسْمَاءٌ سَمَّيْتُمُوهَا أَنْتُمْ وَآبَاؤُكُمْ مِمَّا
 أَنْزَلَ اللَّهُ بِهَا مِنْ سُلْطَانٍ إِنْ يَتَّبِعُونَ إِلَّا الظَّنَّ
 وَمَا تَهْوَى الْأَنْفُسُ وَلَقَدْ جَاءَهُمْ مِنْ رَبِّهِمْ
 الْهُدَىٰ ﴿٢٣﴾

أَمْ لِلْإِنْسَانِ مَا تَمَنَّىٰ ﴿٢٤﴾

فَلِلَّهِ الْآخِرَةُ وَالْأُولَىٰ ﴿٢٥﴾

1 「最も偉大な御徴」とは、天国と地獄などを始めとした、アッラー*の御力と偉大さを示す根拠の数々のこと(ムヤッサル 526 頁参照)。

2 アーヤ 20 の「マナート」も含めたこれら三つは、当時アラブ人の間で有名かつ偉大視されていた偶像の名(アッ=シャウカーニー 5:142 参照)。高壁章 180 の訳注も参照。

3 彼ら自身、娘を授かることを嫌っていたにも関わらず、天使*たちを「アッラー*の娘」と呼んだ(蜜蜂章 57-59 とその訳注を参照)り、あるいはアーヤ*19-20 で言及されている偶像に女性の名前をつけたりしていたことを指している、とされる(前掲書 5:143 参照)。

4 「…名前」については、高壁章 71 の訳注を参照。

5 それらのものに対する、執り成しのこと(ムヤッサル 526 頁参照)。集団章 3 とその訳注も参照。

26. 一体、諸天にいるどれだけ多くの天使*の執り成しが、少しも役に立たないことであろうか。アッラー*が、かれがお望みになる者に（執り成しの）許可を授けられ、（執り成しを受ける者に対し、）ご満足する後でなければ。¹
27. 本当に、来世を信じない者たちこそが、天使たちを女性の名で名付ける²のである。
28. 彼らには、それについて僅かばかりの知識もないというのに。彼らは憶測に従っているに外ならない。実に、憶測は真理³に対して何の役にも立たないのだが。
29. ならば（使徒*よ）、われら*の教訓（クルアーン*）から背を向け、現世しか欲することがなかった者から、背き去れ⁴。
30. それが、彼らの知識の限界⁵。本当にあなたの主*こそは、かれの道から迷う者を最もよくご存知のお方であり、かれこそは導かれた者を最もよくご存知なのだから。
31. アッラー*にこそ、諸天にあるものと大地にあるものは属する。かくして、かれは悪い行いだった者たちを彼らが行ったものによって報われ、善を尽くした者⁶たちを最善のもの（天国）で報われる。

وَكَم مِّن مَّا كَفِيَ السَّمَوَاتِ لَا تُغْنِي
سَمْعُهُمْ شَيْئًا إِلَّا مَن يَذَّكَّرْ لَهُ لَعَنَ
بِشَاءِ وَيَرْضَى ۝٢٦

إِنَّ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ لَيَسْمَعُونَ
أَلْمَلِكَةَ تَسْمِيَةَ الْأُنثَى ۝٢٧

وَمَا لَهُمْ بِهِ مِنْ عِلْمٍ إِن يَتَّبِعُونَ إِلَّا الظَّنَّ وَأَلَّا
الظَّنَّ لَا يُغْنِي مِنَ الْحَقِّ شَيْئًا ۝٢٨

فَأَعْرِضْ عَنْ مَن تَوَلَّىٰ ذِكْرَنَا وَلَا يَنْصُرُ إِلَّا
الْحَيَّةَ الدُّنْيَا ۝٢٩

ذَٰلِكَ مَتْلُوعُهُمْ مِنَ الْعَالَمِينَ إِنَّ رَبَّهُمْ لَعَلَّيْهِمْ
صَلَٰحٌ سَبِيلُهُ وَهُوَ أَعْلَمُ بِمَن أَهْتَدَىٰ ۝٣٠

وَلِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ لِيَجْزِيَ
الَّذِينَ أَسْلَمُوا بِمَا عَمِلُوا وَيَجْزِيَ الَّذِينَ أَحْسَنُوا
بِالْحُسْنَىٰ ۝٣١

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 アーヤ*21 の訳注を参照。

3 この「真理」は、知識、あるいは懲罰のことを指す（アル＝バガウィー4:310 参照）。

4 撒き散らすもの章 54 の訳注も参照。

5 来世よりも現世を優先させたという、彼らの知識の所産と理性の程度に対する、蔑（さげす）みの表現（前掲書、同頁参照）。

6 蜜蜂章 128 「善を尽くす者」についての訳注も参照。

32. 些^{さい}細^{さい}なもの¹は別^{つみ}として、罪^{つみ}の内の大きなもの²（大罪^{たいざい}*）と醜^{しゅう}行^{こう}³を避^さける者^{むく}たちを（、最善^{しゅぜん}のもので報^{むく}われる）。実にあなた^{しゅ}の主^{しゅ}*は、赦^{ゆる}しの念^{ねん}の深いお方^{かた}なのだから。かれは、あなた方^{あなた}（の父^{ちち}アダム^{アダム}*）を大地^ちからお創^{つく}りになった時^{とき}、そしてあなた方^{あなた}が自分^{自分}たちの母親^{はは}のお腹^{はら}で胎児^{はいじ}だった時^{とき}（から）、あなた方^{あなた}について最もよくご存知^{しり}なのだぞ。ならば、自分^{自分}自身^{みづか}を（罪^{つみ}から）潔白^{けつぱく}であると主張^{しやう}してはならない。かれは敬虔^{けいけん}*である者^{もの}を、最もよくご存知^{しり}なのだ。

33. （使徒^{しと}*よ、）言^いってみよ、（アッラー^{アッラー}*へ^への服従^{ふくじゆう}に）背^{そむ}き、³

34. （自分^{自分}の財産^{ざさん}から）少^りしだけ与^よえ、（吝^{りん}嗇^{しやく}さゆえに、施^{ほどこ}しを）打^{うち}切^きった者^{もの}（につ^{につ}いて）。

35. 一^{いっ}体^{たい}、彼^{かれ}の^のも^もと^とには不可^{ふか}視^{かし}の世界^{せかい}*の知^ち識^{しき}があり、彼^{かれ}は（それ^{それ}を）目^めにしているとい^いうのか^か?⁴

36. いや、彼^{かれ}はムーサー^{しよかん}*の書^{しよ}巻^{かん}にあること^{こと}を、知^しら^らな^なか^かったのか^か?

37. そして、（アッラー^{アッラー}*の命^{まこと}令^{れい}を）全^{まこと}うした、イブ^{いぶ}ラー^らヒーム^ら*の（書^{しよ}巻^{かん}にあること^{こと}）を?

الَّذِينَ يَخْتَفُونَ بَيْنَ الْأَيْمَنِ وَالْأَوَّلَىٰ إِلَّا
الَّذِينَ إِذْ رَّبُّكَ وَسِعَ الْمَغْفِرَةَ هُوَ أَعْلَمُ بِكُمْ
إِذَا أَنْشَأَكُمْ مِنَ الْأَرْضِ وَإِذَا أَنْشَأَ أَجِنَّةً فِي بُطُونِ
أُمَّهَاتِكُمْ فَلَا تُزَكُّوا أَنْفُسَكُمْ هُوَ أَعْلَمُ بِمَنِ
اتَّقَىٰ ﴿٣٣﴾

أَفَرَأَيْتَ الَّذِي تَوَلَّىٰ ﴿٣٤﴾

وَأَعْطَىٰ قَلِيلًا وَأَكْثَىٰ ﴿٣٥﴾

أَعِنْدَهُ عِلْمُ الْغَيْبِ فَهُوَ يَرَىٰ ﴿٣٦﴾

أَمْ لَمْ يُنَبِّأْ بِمَا فِي صُحُفِ مُوسَىٰ ﴿٣٧﴾

وَأَنْزَلْنَاهُ فِي إِبْرَاهِيمَ الَّذِي وَفَّىٰ ﴿٣٨﴾

1 「些細なもの」とは、本人を害しない程度の小さな罪、あるいは、稀（まれ）に犯してしまふ小さな罪のこと。これらの行為は、義務（ぎむ）行為を行い、禁じられた物事を回避（かいひ）している限り、アッラー*がお赦し下さる（ムヤッサル 527 頁参照）。

2 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

3 シルク*の徒の無知さについての描写がここで一旦終わり、ここからは彼らの内の特定の者が、その悪行と共に取り上げられる。それが誰か、いかなる行いに関してか、という点については諸説ある（アル＝クルトウビー 17:111 参照）。

4 施しによって、自分の財産がなくなることを知っているがゆえに、施しを打ち切ったのか、ということ（ムヤッサル 527 頁参照）。

38. (罪)の重荷^{つみ おも に}を背負^せう者は、他者^{おほか}(が犯した罪)の重荷まで背負うことがない、という^{つみ おも に}ことを(、知らされなかったのか)?
39. また人間には、自分が努力したもの^{むく}(の報い)しかない、ということ^{つみ おも に}を? ¹
40. また、その努力はやがて(来世で)目に見えるものとなり、
41. それから全^{まった}き応報^{おうほう}で、それを報^{むく}われるのだ^{おほか}ということ^{つみ おも に}を?
42. また(復活の日*、全創造物^{そうぞう})の行き着く先は、(使徒^{しと}*よ、)あなたの主^{しゅ}*にこそある^{おほか}ということ^{つみ おも に}を?
43. また、本当にかれこそが笑わせ、泣かせるのだ^{おほか}ということ^{つみ おも に}を?
44. また、本当にかれこそが死なせ、生かすのだ^{おほか}ということ^{つみ おも に}を?
45. また、かれが雌雄^{しゆう}の番^{つが}いを創造^{そうぞう}されたのだ^{おほか}ということ^{つみ おも に}を?
46. 一滴^{せいえき}の精液から、それが(子宮^{しきゆう}へ)注^そがれる^{おほか}時に。
47. また、かれにこそ(復活の日*)、もう一つの創造^{そうぞう}²が委ね^{ゆた}られているということ^{つみ おも に}を?
48. また、かれこそが(お望みの者^とを)富^とませ、所有^とさせ(、満足させ)られるのだ^{おほか}ということ^{つみ おも に}を?

أَلَا تَرَىٰ وَازِدًا يُرَىٰ ۖ وَرَأَىٰ ۖ

وَأَن لَّيْسَ لِلْإِنسَانِ إِلَّا مَا سَعَىٰ ۖ

وَأَن سَعْيُهُ سَوَىٰ بَرَىٰ ۖ

ثُمَّ يُجْزَاهُ الْجَزَاءُ الْأَوْفَىٰ ۖ

وَأَن إِلَىٰ رَبِّكَ الْمُنْتَهَىٰ ۖ

وَأَنَّهُ هُوَ أَضْحَكَ وَأَبْكَىٰ ۖ

وَأَنَّهُ هُوَ أَمَاتٌ وَأَحْيَا ۖ

وَأَنَّهُ خَلَقَ الزَّوْجَيْنِ الذَّكَرَ وَالْأُنثَىٰ ۖ

مِن نُّطْفَةٍ إِذَا تُمْنَىٰ ۖ

وَأَن عَلَيْهِ الْإِنشَاءُ الْأُخْرَىٰ ۖ

وَأَنَّهُ هُوَ أَعْنَىٰ وَأَقْنَىٰ ۖ

1 このことは、人が他人の努力から益を得る可能性を否定しているわけではなく(山章 21 も参照)、人は自分自身の努力しか有してはならず、他人の努力にまで立ち入ることは出来ないことを示している(アツ=シャンキーティー7:470-471 参照)。

2 死後の復活のこと(ムヤッサル 528 頁参照)。

49. また、かれこそはシリウス¹の主*^{しゅ}だということをしを？

وَأَنَّهُ هُوَ رَبُّ الشَّعَرَى ۝

50. また、かれこそが最初の²アード*^{ほろ}を滅ぼされ、

وَأَنَّهُ أَهْلَكَ عَادًا الْأُولَى ۝

51. サムード*^{ほろ}も（滅ぼし）、（一人たりとも）残してはおかず、

وَسُودًا فَمَا أَبْقَى ۝

52. （彼ら）以前には、ヌーフ*^{ほろ}の民も（滅ぼされた）、ということをしを？ 本当に彼らこそは、（それ以後の者たち）より不正*^{ほろ}がひどく、より放埒^{ほうらつ}だったのだ。

وَقَوْمٌ لُّوحٌ مِن قَبْلُ إِنَّهُمْ كَانُوا هُمْ أَظْلَمَ وَأَطَى ۝

53. また、転覆^{てんぷく}した町々。（アッラー*^{おお}はそれらをひっくり返し、）墜落^{ついらく}させられ、³

وَالْمُؤَيَّكَتَ أَهْوَى ۝

54. そして覆^{おお}うものが、それらを覆^{おお}った⁴。

فَعَسَىٰ مَا عَشَىٰ ۝

55. ならば一体、（不信仰な人間よ、）あなたは自分の主*^{しゅ}のいづれの恩徳^{おんどく}⁵について、懷疑^{かい}しているのか？

فَيَأْتِيَهُ الْآءُ رَبِّكَ تَنَمَّارَى ۝

56. これ⁶は、先代^{けいこく}の警告者^{けいこく}たちの内の警告者^{けいこく}なのである。

هَذَا نَذِيرٌ مِنَ النَّذِرِ الْأُولَى ۝

1 大いぬ座のシリウス星のこと。一説によればアラブ人のフザーア族が、これを崇めていた（イブン・アーシュール 27:150-151 参照）。

2 この「最初」の解釈には、「彼らがサムード*よりも前の時代だったこと」「ヌーフ*の後に滅ぼされた最初の民だったこと」「アード*には二つあり、これはその最初の方だったこと」を示している、といった諸説がある（アル＝クルトゥビー 17:120 参照）。

3 「転覆した町々」については、悔悟章 70 の訳注を参照。それが滅ぼされた時の様子については、フード*章 82-83、アル＝ヒジュール章 73-74 を参照。

4 「覆うもの」とは、石の雨のこと（ムヤッサル 528 頁参照）。同様の表現法として、ター・ハー章 38 「示されるもの」の訳注も参照。

5 ここまでのアーヤ*には、恩恵だけでなく、罰の描写も含まれている。それにも関わらず、それら全てが「恩徳」と表現されているのは、それらの罰の中にも数々の教示、訓戒があり、預言者*たちと信仰者たちの敵（かたき）討ちという意味もあったからである（アル＝バイダーウィー 5:261 参照）。

6 「これ」には、「ムハンマド*」「クルアーン*」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー 17:121 参照）。

57. 近づくもの（復活の日*）は、近づいた。
58. アッラー*をよそに、それ（の到来の時）を明かすもの¹はない。
59. （シルク*の徒よ、）一体あなた方は、この話に驚^{おどろ}いているのか？
60. そして（嘲笑^{ちやうしょう}して）笑うだけで、（警告^{けいご}を怖^{おそ}れて）泣きはしないのか？
61. 得意然となっ（て、そこから背^{そむ}いた）たまままで？
62. ならばアッラー*にサジダ*し、（かれを）崇^{すうはい}拝^{はい}*するのだ。（読誦^{どくしょう}のサジダ*）

أَرَفَتِ الْأَرْضُ

لَيْسَ لَهَا مِنْ دُونِ اللَّهِ كَاشِفُهُ ﴿٥٨﴾

أَفَمِنْ هَذَا الْحَدِيثِ تَعْجَبُونَ ﴿٥٩﴾

وَتَضْحَكُونَ وَلَا تَبْكُونَ ﴿٦٠﴾

وَأَنْتُمْ سَعِيدُونَ ﴿٦١﴾

فَأَسْجُدُوا لِلَّهِ وَاعْبُدُوا ﴿٦٢﴾

1 または、「復活の日*が到来した時、その恐怖や困難を取り除（の）けるものは、アッラー*以外にはいない」という意味（アルーバガウィー4:318 参照）。

第 54 章
月章 (アル=カマル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (復活の) 時は近づき²、月は (真つ二つに) 裂けた³。
2. そして、たとえ (使徒*ムハンマド*の正しさを示す) 御徴を目にしても、彼ら (シルク*の徒) は (その信仰に) 背を向け、言うのだ。「(これは、) 消え失せる魔術⁴である」。
3. また、彼らは (預言者*を) 嘘つき呼ばわりし、自分たちの私欲^{したが}に従った。事の全ては (復活の日*)、決着を見る。
4. 彼らのもとには、(使徒*を嘘つき呼ばわりした、過去の民の) 消息である、戒めを (十分に) 含んだものが、確かに到来したのだ。
5. (それは) 確固とした英知である。そして (それに背を向ける者たちに) 警告^{はいこく}が役立つことなど、あろうか？

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَفَرَأَيْتِ السَّاعَةَ أَتَشَقُّ الْقَمَرَ ①

وَإِنْ يَرَوْا آيَةً يُعْرَضُوا وَيَقُولُوا سِحْرٌ مُسْتَعْتَبٌ ②

وَكَذَّبُوا وَاتَّبَعُوا أَهْوَاءَهُمْ وَكُلُّ أُمْرٍ مُّسْتَقَرٌّ ③

وَلَقَدْ جَاءَهُمْ مِنَ الْأَنْبَاءِ مَا فِيهِ مُذْذَرٌ ④

حِكْمَةٌ بَالِغَةٌ فَمَا تُغْنِ الْأَنْذُرُ ⑤

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称の由来ともなっている、預言者*ムハンマド*が起こした奇跡の一つ「月の断割 (だんかつ)」の言及に始まり、シルク*の徒に対する警告を放つよう、命令がなされる。スーラ*の大半を、過去の預言者*たちとその民の間に起こった出来事についての教訓に満ちた話が占め、スーラ*の最後はマッカ*の不信仰者*たちへの警告と、信仰者たちの善き結末に関する描写によって締めくくられる。
- 2 「復活の日*の近さ」については、蜜蜂章 1、預言者たち章 1 の訳注を参照。
- 3 大半の解釈学者は、これが預言者*の生前、彼に起こった奇跡の一つだという見解を示している (アッ=シャウカーニー 5:158-159 参照)。預言者*がクライシュ族*の不信仰者*たちの要望に応じ、月を割って見せたことは、数多くの真正*な伝承経路によって伝えられている (イブン・カシール 7:472 参照)。
- 4 「強力な魔術」という意味に解釈することも可能 (アル=バガウィー 4:322 参照)。

6. ゆえに（使徒*よ）、彼らに背を向けるがよい。呼ぶ者¹が、想像を絶すること²へと呼ぶ（復活の）日、
7. 彼らは怖気づいた眼をしつつ、まるで散らばるイナゴのように墓場³から出て来る、
8. 呼ぶ者のところへ、あたふたと。不信仰者*たちは、言う。「これは過酷⁴な日だ」。
9. 彼ら（マッカ*の不信仰者*ら）以前、ヌーフ*の民が嘘つき呼ばわりした。彼らは、われら*の僕（ヌーフ*）を嘘つき呼ばわりして、「（彼は）憑かれた者⁵だ」と言い、（ヌーフ*は）布教することを⁶戒められた⁴。
10. それで彼（ヌーフ*）は、「本当に私は抑圧された者です。（私を）お助け下さい⁵」と、その主*に祈った。
11. こうしてわれら*は降りつける（大量の雨）水と共に、天の諸門を開いた。
12. また、大地を（沢山の）泉で噴き出させ、（天と大地からの）水は既に定められていた命令の通り、合流した。
13. そして、われら*は彼（と、彼と共にあった者たち）を、数々の板と釘からなる物（船）で運んだ。⁶

فَقَوْلَ عَنْهُمْ يَوْمَ يَدْعُ الدَّاعِ إِلَىٰ سَىٰٓءٍ يُنْكِرُ ﴿٦﴾

خُشْعًا أَبْصَرُهُمْ يَخْرُجُونَ مِنَ الْأَجْدَاثِ كَأَنَّهُمْ
جَرَادٌ مُنْتَشِرٌ ﴿٧﴾

مُهْطِعِينَ إِلَى الدَّاعِ يَقُولُ الْكُفْرُ وَهَذَا يَوْمُ
عَسِيرٍ ﴿٨﴾

*كَذَبَتْ قَبْلَهُمْ قَوْمُ نُوحٍ فَكَذَّبُوا عَبْدَنَا وَقَالُوا
مَجْنُونٌ وَازْدَجَرَ ﴿٩﴾

فَدَعَا رَبَّهُ أَنِّي مَغْلُوبٌ فَأَنْصِرْ ﴿١٠﴾

فَفَتَحْنَا أَبْوَابَ السَّمَاءِ بِمَاءٍ مُنْهَمِرٍ ﴿١١﴾

وَفَجَّرْنَا الْأَرْضَ عُيُونًا فَالْتَمَى الْأَمَاءُ عَلَىٰ أَمْرٍ
قَدْ قُدِرَ ﴿١٢﴾

وَحَمَلْنَاهُ عَلَىٰ ذَاتِ الْأَوَاجِ وَرُسْرِ ﴿١٣﴾

1 角笛に吹き込む、天使*イスラーフィールのこと（アル＝バガウィー4:322 参照）。家畜章 73 と、その訳注も参照。

2 想像を絶するほどに恐ろしい、清算の場のこと（ムヤッサル 528 頁参照）。

3 アル＝ヒジュル章 6「憑かれた者」の訳注を参照。

4 関連するアーヤとして、詩人たち章 116 も参照（イブン・カシール 7:476 参照）。

5 信仰者たち章 26、ヌーフ*章 26-27 も参照。

6 この時の様子は、フード*章 42-48、信仰者たち章 27-29 に詳しい。

14. それは信じてはもらえなかった者（ヌーフ*）への報いとして、われら*の眼差しのもと¹走った。
15. われら*は確かに、それを（われら*の力を証明する）御徴として残しておいた。では、（この話から）教訓を得る者はいるのか？
16. わが懲罰と警告は、いかなるものだったか？
17. われら*は確かにクルアーン*を、教訓を得るに容易いものとした²。では、（それから）教訓を得る者はいるのか？
18. アード*は、（フード*を）嘘つき呼ばわりした。わが懲罰と警告は、いかなるものだったか？
19. 本当にわれら*は、立て続く大難の日³に、彼らに対して咆哮の暴風を送った。
20. 人々を、引っこ抜かれたナツメヤシの木の根幹のように、根こそぎにする（暴風を）。
21. わが懲罰と警告は、いかなるものだったか？
22. われら*は確かにクルアーン*を、教訓を得るに容易いものとした⁴。では、（それから）教訓を得る者はいるのか？

تَجْرِي بِأَعْيُنِنَا جَزَاءَ لِمَنْ كَانَ كُفِرًا ﴿١٤﴾

وَلَقَدْ تَرَكْنَاهَا آيَةً فَهَلْ مِنْ مُدَكِّرٍ ﴿١٥﴾

فَكَيْفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذْرٍ ﴿١٦﴾

وَلَقَدْ يَسَّرْنَا الْقُرْآنَ لِلذِّكْرِ فَهَلْ مِنْ مُدَكِّرٍ ﴿١٧﴾

كَذَّبَتْ عَادٌ فَكَيْفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذْرٍ ﴿١٨﴾

إِنَّا أَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِيحًا صَرْصَرًا فِي أَيَّامٍ مَوْجِئٍ مَسْتَكِيرٍ ﴿١٩﴾

نَزَعْنَا النَّاسَ عَنْهُمْ أَغْجَارَ يَاسَجٍ مُتَفَعِّرٍ ﴿٢٠﴾

فَكَيْفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذْرٍ ﴿٢١﴾

وَلَقَدْ يَسَّرْنَا الْقُرْآنَ لِلذِّكْرِ فَهَلْ مِنْ مُدَكِّرٍ ﴿٢٢﴾

1 「眼差しのもと」については、ター・ハー一章 39 とその訳注を参照。

2 アッラー*は、クルアーン*の言葉については読誦と暗記という面から、そしてその意味については理解と熟慮（じゅくりよ）という面において、易しいものとされた（ムヤッサル 529 頁参照）。

3 この「大難の日」については、真実章 5-7 も参照。

4 アーヤ*17 の訳注を参照。

23. サムード*は、(サーリフ*からの)警告を嘘
呼ばわりした。

كَذَّبَتْ ثَمُودُ بِالنُّذُرِ ﴿٣٣﴾

24. 彼らは言った。「一体、私たちの内の一介
の人間に、私たちが従うとでも？ そうし
たら、本当に私たちは、迷いと狂気の中に
あることになる。

فَقَالُوا أَبَشَرًا مِثَّا وَاحِدًا نَنْبِعُهُ إِذَا كُنَّا لِلَّهِ
صَّالِحِينَ وَسُعْرٍ ﴿٣٤﴾

25. 一体、私たちを差しおいて、彼の上に教訓
(啓示)が下されたと？ いや、彼は嘘つ
きで自惚れ屋だ」。

أَلَيْسَ الذِّكْرُ عَلَيْهِ مِنْ بَيْنِنَا بَلْ هُوَ كَذَّابٌ أَشِرٌ ﴿٣٥﴾

26. 近い日に、彼らは知るであろう。誰が大嘘
つきで自惚れ屋かを。

سَيَعْلَمُونَ عَذَابَ مَنْ الْكَذَّابُ الْأَشِرُ ﴿٣٦﴾

27. 本当にわれら*は、彼らへの試練ゆえ、雌ラ
クダを送る者である。ゆえに(サーリフ*
よ、)彼ら(に何が起こるか)を見守り、
よく忍耐*せよ。¹

إِنَّا مُرْسِلُوا النَّاقَةَ فِيَنَّهُ لَهُمْ فَاذْنَبُهُمْ
وَأَصْطَرِ ﴿٣٧﴾

28. そして彼らに伝えるのだ。水は、彼ら(と
雌ラクダ)の間に(、隔日の)割り当てで
あるということ。水の各々の順番は、(順
番の主のみに)立ち会われるものである²。

وَيَنْتَهَرْنَ الْمَاءَ فَسَمِعَهُمْ كُلُّ شَيْءٍ مُخَصَّرٌ ﴿٣٨﴾

29. こうして彼らは(、雌ラクダを殺すために)
自分たちの仲間³を呼び、彼は(それを)捕
まえ、(その)腱を切った⁴。

فَنَادَوْا صَاحِبَهُمْ فَتَعَاطَى فَعَقَرَ ﴿٣٩﴾

1 この話については高壁章 73 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、太陽章 13-14 も参照。

2 ただし、ラクダが水を飲む日には、人々はその乳を飲んだとされる(イブン・カスィール 7:479 参照)。

3 これは、クッダール・ブン・サーリフという名の男とされる(前掲書、同頁参照)。

4 「腱を切った」という表現については、高壁章 77 の訳注を参照。また、彼らが雌ラクダを殺すことになった背景についても、同アーヤ*の訳注を参照。

30. わが懲罰^{ちやうばつ}と警告^{けいこく}は、いかなるものだったか？
31. 本当にわれら^{*}は、彼らに轟^{とどろ}きの一声¹を送り、それで彼らは柵^{さく}の枯れ枝^かのようになってしまった。
32. われら^{*}は確かにクルアーン^{*}を、教訓を得るに容易^{たやす}いものとした²。では、(それから)教訓を得る者はいるのか？
33. ルート^{*}の民は、警告^{けいこく}を嘘呼^{うそ}ばわりした。
34. 本当にわれら^{*}は彼らに、石を降^ふらす風を送った。ルート^{*}の一族は別で、われら^{*}は明け方に、彼ら(ルート^{*}の一族)を救い出した。³
35. われら^{*}のもとのからの、恩恵^{おんけい}ゆえに。(ルート^{*}とその一族にそうしたのと)同様に、われら^{*}は(われら^{*}を信仰し、)感謝^{むく}した者に報^{むく}いるのだ。
36. 彼(ルート^{*})は確かに彼らに対し、われら^{*}の(懲罰^{ちやうばつ}による)制圧^{けいこく}を警告^{けいこく}した。にも関わらず、彼らは警告^{けいこく}に対して懐疑^{かいぎ}的だったのだ。
37. 彼らは確かに彼(ルート^{*})を、その客^{きやく}人^{じん}(への醜^{しゅう}行^{こう}を求めるが)ゆえに、言いくるめようと試^{こころ}みた⁴。それでわれら^{*}は、彼らの眼を消したのである。(彼らには、こう言われた。)⁵「わが懲罰^{ちやうばつ}と警告^{けいこく}を味わうがよい」。

فَكَيْفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذُرِ ﴿٣٠﴾

إِنَّا أَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ صَحَابَةً وَاحِدَةً فَكَانُوا كَهَشِيمِ الْمُحْتَظِرِ ﴿٣١﴾

وَلَقَدْ يَسَّرْنَا الْقُرْآنَ لِلذِّكْرِ فَهَلْ مِنْ مُدَكِّرٍ ﴿٣٢﴾

كَذَّبَتْ قَوْمُ لُوطٍ بِالَّذِي نُذِرُوا ﴿٣٣﴾

إِنَّا أَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ حَاصِبًا إِلَّا آلَ لُوطٍ نَجَّيْنَاهُمْ بِسَحَرٍ ﴿٣٤﴾

بِعَمَةٍ مِنْ عِنْدِنَا كَذَلِكَ نَجْزِي مَنْ شَكَرَ ﴿٣٥﴾

وَلَقَدْ أَنْذَرَهُمْ بَطْشَنَا فَتَمَارَوْا بِالَّذِي نُذِرُوا ﴿٣٦﴾

وَلَقَدْ رَودُوهُ عَنْ صَيْفِهِ، فَطَمَسْنَا أَعْيُنَهُمْ فَذُوقُوا عَذَابِي وَنُذُرِ ﴿٣٧﴾

1 サムード^{*}に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード^{*}」の項を参照。

2 アーヤ^{*}17の訳注を参照。

3 この時の様子と、ルート^{*}の一族の中で、彼の妻だけは助からなかったということは、高壁章 80-84、フード^{*}章 69-83、詩人たち章 160-175 に詳しい。

4 この時の様子については、高壁章 80-82、フード^{*}章 77-81、詩人たち章 165-169、蟻章 54-56、蜘蛛章 28-30 とそれらの訳注を参照。

38. そして早朝^{こうきゆう}には、恒久的な懲罰^{ちやうぼつ}が確かに、彼らを襲^{おそ}った。

وَلَقَدْ صَبَّحَهُم بُكْرَةً عَذَابٌ مُسْتَقَرٌّ ٢٨

39. (彼らには、こう言われた。)^{ちやうぼつ}「わが懲罰^{けいこく}と警告を味わうがよい」。

فَذُوقُوا عَذَابِي وَنُذِرٌ ٢٩

40. われら^{たやす}*は確かにクルアーン^{クルアーン}*を、教訓を得るに容易いものとした¹。では、(それから)教訓を得る者はいるのか？

وَلَقَدْ يَسَّرْنَا الْقُرْآنَ لِلذِّكْرِ فَهَلْ مِنْ مُدْكِرٍ ٣٠

41. フィルアウン^{ちやうぼつ}*の一族^{けいこく}のもとに、(不信仰に對する懲罰の)警告が、確かに到来した。

وَلَقَدْ جَاءَ آلَ فِرْعَوْنَ النُّذُرُ ٣١

42. 彼らは、われら^{みしりし}*の御徴^{うそ}²を全て嘘つき呼ばわりしたので、われら^{しやうあく}*は彼らを偉力ならびなく全能なる者の掌握で捕らえた。

كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا كِذْبًا فَخَذَّاهُمْ أَخَذَعِيزٍ ٣٢

43. 一体(クライシュ族^{ほう}*よ、)あなた方の不信仰者^{ちやうぼつ}*たちの方が、それらの(滅ぼされた不信仰者^{ほう}*たちよりも優れているのか？ それとも、あなた方には書卷^{しやかん}³の中に(、アッラー^{ちやうぼつ}*の懲罰からの)無事が(保証されて)あるというのか？

أَكْفَأُكُمْ خَيْرٌ مِنْ أُولَئِكَ أَمْ لَكُمْ بَرَاءَةٌ فِي الزُّبُرِ ٣٣

44. いや、彼らは「私たちは全員、勝利者である」などと言うのか？

أَمْ يَقُولُونَ نَحْنُ جَمِيعٌ مُنْتَصِرُونَ ٣٤

45. (不信仰者^{ちやうぼつ}*の)集団はじきに打倒され、背中を見せ(敗走す)るのだ。⁴

سَيَهْرَمُ الْجَمْعُ وَيُوَلُّونَ الدُّبُرَ ٣٥

46. いや、(復活の)時^{かこく}が、彼らの約束の時。その時はより過酷で、苦痛にあふれている。

بَلِ السَّاعَةُ مَوْعِدُهُمْ وَالسَّاعَةُ أَذَىٰ وَلَمْ يُرَىٰ ٣٦

47. 本当^{ざいあく}に罪惡者たちは、迷^{れっ}いと烈火の中にある。

إِنَّ الْمُجْرِمِينَ فِي ضَلَالٍ وَسُعُرٍ ٣٧

1 アーヤ*17の訳注を参照。

2 この「御徴」とは、アッラーの唯一性^{ちやうぼつ}*と、預言者^{ちやうぼつ}*たちの使命を証明する根拠のこと(ムヤッサル 530 頁参照)。

3 この「書卷」とは、啓典のこと(前掲書、同頁参照)。

4 これは後に、バドルの戦い^{ちやうぼつ}*で実現した(前掲書、同頁参照)。

48. その日、彼らは顔から逆様になって業火^{ごうか}の中を引きずられ、（こう言われる、）「焦炎^{せんかんしよく}の感^{かん}触^{しよく}を味わうがよい」。
49. 本当にわれら*は全てのものを、定めと共に創造^{そうぞう}した¹。
50. そして、われら*の命令^{いちべつ}は一瞥^{しつ}のごとき（「あれ」という）一言^{いちごん}²に過ぎない。
51. われら*は確かに、（不信仰だった）彼らの同類^{どうるい}たちを滅^{ほろ}ぼした。では、（そのことから）教訓^{きょうくん}を得る者はいるのか？
52. そして彼らがした全ての物事は、書巻^{しょかん}の中に（記録されて）あり、
53. 小さいことも、大きいことも、全て書き留^{とど}められているのだ。³
54. 本当に敬虔^{けいけん}な*者^{もの}たちは（復活の日*）、楽園^{らくえん}と河川^{かせん}のもとにある。
55. 全能の王者（アッラー*）の御許^{みもと}の、善き座^{すわ}り場所に。

يَوْمَ يُسْجَنُونَ فِي النَّارِ عَلَىٰ وُجُوهِهِمْ ذُقُوا
مَسَّ سَقَرٍ ﴿٥٨﴾

إِنَّا كُلَّ شَيْءٍ خَلَقْنَاهُ بِقَدَرٍ ﴿٥٩﴾

وَمَا أَمْرُنَا إِلَّا وَاحِدَةٌ كَلَمْحٍ بِالْبَصَرِ ﴿٦٠﴾

وَلَقَدْ أَهْلَكْنَا أَشْيَاعَكُمْ فَهَلْ مِنْ
مُذَكِّرٍ ﴿٦١﴾

وَكُلُّ شَيْءٍ فَعَلُوهُ فِي الزُّبُرِ ﴿٦٢﴾

وَكُلُّ صَغِيرٍ وَكَبِيرٍ مُنْتَظَرٌ ﴿٦٣﴾

إِنَّ الْمُنَاقِبَ فِي جَنَّاتٍ وَهِيَ ﴿٦٤﴾

فِي مَقْعَدِ صِدْقٍ عِنْدَ مَلِكٍ مُّقْتَدِرٍ ﴿٦٥﴾

1 つまり、アッラー*の英知に基づいた規格において創造した。あるいは、守られし碑板*に記された定命と共に創造した（アル=バイダーウィー5:270 参照）。

2 雌牛章 117、蜜蜂章 40、ヤー・スィーン章 82、赦し深いお方章 68 など参照。

3 天使*たちが、現世での日々の帳簿（ちょうぼ）に記録している、ということ（ムヤッサル 531 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

第 55 章

慈悲あまねき*お方章 (アッ=ラフマーン)¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 慈悲あまねき*お方、
2. かれがクルアーン*を教えて下さり、
3. 人間を創造され、
4. 彼に（自分の内面にあるものの、）説明を教えて下さった。
5. 太陽と月は（精密な）計算のもとに（運行し）、
6. 星と木²はサジダ*する³。
7. そしてかれは天を上げ、秤⁴を置かれた。
8. あなた方が秤において、度を越さないよう。
9. そして重さを公正に量り、秤を損ねてはならない。
10. また大地は、それを創造物⁵のために置かれた。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الرَّحْمَنُ ①

عَلَّمَ الْقُرْآنَ ②

خَلَقَ الْإِنْسَانَ ③

عَلَّمَهُ الْبَيَانَ ④

الشَّمْسُ وَالْقَمَرُ حُسْبَانُ ⑤

وَالنَّجْمُ وَالشَّجَرُ يَسْجُدَانِ ⑥

وَالسَّمَاءَ رَفَعَهَا وَوَضَعَ الْمِيزَانَ ⑦

أَلَّا تَطْغَوْا فِي الْمِيزَانِ ⑧

وَأَقِيمُوا الْوَزْنَ بِالْقِسْطِ وَلَا تُخْسِرُوا

الْمِيزَانَ ⑨

وَالْأَرْضَ وَضَعَهَا لِلْأَنْعَامِ ⑩

1 マッカ*啓示（マディーナ*啓示説もあり）。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。クルアーン*や創造を始めとしたアッラー*の偉大な恩恵と、かれの全能性を示す証拠の数々が、「ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嗟呼ばわりするというのか？」という問いかけの言葉の反復と共に、並べられていく。スーラ*中盤からは復活の日*の恐怖、来世における不信仰者*と信仰者の行き先、そこで彼らが受ける苦しみ、あるいは享楽（きょうらく）の数々が描写されていき、最後はアッラー*への讃美によって締めくくられる。

2 この「木」とは、「茎（くき）や幹（みき）のある植物」のこと。尚「星（ナジュム）」の解釈には、「茎や幹のない植物」という説もある（ムヤッサル 531 頁参照）。

3 この「サジダ*」については、蜜蜂章 49、巡礼*章 18 とその訳注も参照。

4 この「秤」とは、公正さのこととされる。鉄章 25 も参照（イブン・カスィール 7:490 参照）。

5 この「創造物（アナーム）」は、特に人間のこと、あるいはジン*と人間のことを指す、という説もある（アル=クルトゥビー 17:155 参照）。

11. そこには果実や、苞^{ほう}をつけたナツメヤシの木がある。
12. そして茎葉^{けいよう}を有する種粒^{たねつぶ}と、芳^{かんば}しいもの^がが。
13. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳^{おんとく}を嘘呼^{うそ}ばわりするというのか？
14. かれ（アッラー*）は人間（の祖アダム*）を、陶土^{とうど}のような乾^{かわ}いた土からお創^そりになり、³
15. ジン*（イブリース*）は、炎^{ほのお}の混じり合ったもの⁴から創^そられた。
16. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳^{おんとく}を嘘呼^{うそ}ばわりするというのか？
17. （アッラー*は）二つの東^{しゅ}と、二つの西の主^{しゅ}*。⁵
18. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳^{おんとく}を嘘呼^{うそ}ばわりするというのか？
19. かれは二つの海⁶を出合^でわせて、合流^{がくりゅう}するものとされた。

فِيهَا فَكِهَةٌ وَالنَّخْلُ ذَاتُ الْأَكْمَامِ ﴿١١﴾

وَالْحَبُّ ذُو الْعَصْفِ وَالزَّيْتَانُ ﴿١٢﴾

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿١٣﴾

خَلَقَ الْإِنْسَانَ مِنْ صَلْصَالٍ كَالْفَخَّارِ ﴿١٤﴾

وَخَلَقَ الْجَانَّ مِنْ مَارِجٍ مِنْ نَارٍ ﴿١٥﴾

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿١٦﴾

رَبُّ الْمَشْرِقَيْنِ وَرَبُّ الْمَغْرِبَيْنِ ﴿١٧﴾

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿١٨﴾

مَرَجَ الْبَحْرَيْنِ يَلْتَقِيَانِ ﴿١٩﴾

1 「苞」とは、ナツメヤシの実がその中から出てくる、覆いの部分のこと（ムヤッサル 531 頁参照）。

2 「芳しいもの」については、出来事章 89 の訳注を参照。

3 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

4 「炎の先」「混じり気のない火」といった解釈もある（イブン・カシール 7:492 参照）。

5 「二つの東」とは、それぞれ冬と夏に太陽が昇る地点で、「二つの西」とは、それぞれ冬と夏に太陽が沈む地点のことを指す、とされる（アル＝バガウィー 4:26 参照）。

6 この「二つの海」とは一説に、淡水と海水のこと（ムヤッサル 532 頁参照）。

20. その二つの間には、お互いに越え合うことのない障壁がある。¹

بَيْنَهُمَا بَرْزَخٌ لَا يَبْغِيَانِ ﴿٢٠﴾

21. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٢١﴾

22. その二つからは、真珠と赤珊瑚が産する。²

يَخْرُجُ مِنْهُمَا اللُّؤْلُؤُ وَالْمَرْجَانُ ﴿٢٢﴾

23. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٢٣﴾

24. かれ（アッラー*）には、山々のような建造物である、海を走るもの³が属する。

وَلَهُ الْجَوَارِ الْمُنشَآتُ فِي الْبَحْرِ كَالْأَعْلَامِ ﴿٢٤﴾

25. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٢٥﴾

26. そこ（大地）にある全てのものは、消え行く。

كُلٌّ مِّنْ عَلَيْهَا قَانٍ ﴿٢٦﴾

27. そしてあなたの主*の、高貴さと荘厳さを湛えた御顔だけが残る。

وَيَبْقَى وَجْهُ رَبِّكَ ذُو الْجَلَالِ وَالْإِكْرَامِ ﴿٢٧﴾

28. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٢٨﴾

29. 諸天と大地にある者は、かれに（自分たちの必要なものを）乞う。毎日、かれは事にあたっておられる⁴。

يَسْأَلُهُ مَن فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ كُلَّ يَوْمٍ هُوَ فِي شَأْنٍ ﴿٢٩﴾

1 一方の海は、別の海を越境（えつきょう）して、その水の特性を変えてしまうことがない、という意味とされる（ムヤッサル 532 頁参照）。識別章 53 も参照。

2 「赤珊瑚」には、「小さな真珠」「大きな真珠」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー 17:163 参照）。

3 高いマストと帆（ぼ）を掲げた、船の描写（ムヤッサル 532 頁参照）。相談章 32 34 も参照。

4 「事にあたる」というのは、事を新たに始めるのではなく、（既に定めたことを）実現していくこと（イブン・ジュザイ 2:394 参照）。

30. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方^{そうほう}双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
31. 重き双方^{そうほう}の者たちよ¹、じきにわれら*は、あなた方（の現世での行いの清算と報いの仕事）に、取りかかろう。
32. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方^{そうほう}双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
33. ジン*と人間の衆^{しゅう}よ、もしあなた方が（アッラー*のご命令とご決定から逃れようと）、諸天と大地の端々から脱出できるのであれば、脱出してみよ。あなた方は（アッラー*の）権威^{けんい}なしには、脱出することなど出来ないのだ。²
34. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方^{そうほう}双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
35. あなた方^{そうほう}双方には、業火^{ごうか}からの無煙^{むえん}の炎^{ほのお}と（溶けた）銅^{どう}が送られ、助けを得ることはない。
36. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方^{そうほう}双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٠﴾

سَتَنْقَضُ لَكُمْ إِلَهُ الثَّقَلَانِ ﴿٣١﴾

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٢﴾

يَمْعَشَرُ الْجِنَّ وَالْإِنْسَ إِنِ اسْتَطَعْتُمْ أَنْ
تَنْفُذُوا مِنْ أَقْطَارِ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ
فَأَنْفُذُوا لَا تَنْفُذُونَ إِلَّا بِسُلْطَانٍ ﴿٣٣﴾

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٤﴾

يُرْسَلُ عَلَيْكُمَا شَوْاظٌ مِنْ نَارٍ وَنُحَاسٌ فَلَا
تَنْصَرِفَانِ ﴿٣٥﴾

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٦﴾

- 1 「重き双方の者たち」とは、ジン*と人間のこと。その名称の由来には、「他の創造物に比べ、その重要な位置づけゆえ」「生前、死後を問わず、地上における荷物のような存在であるため」「罪という重荷を背負っているため」（アル＝バガウィー4:336 参照）「アッラー*に対する諸々の義務が課せられているため」（アル＝クルトゥビー17:169 参照）といった諸説がある。
- 2 これは復活の日*のこととも、現世でのこととも言われる（前掲書 17:169-170 参照）。
- 3 「無煙の炎」と訳した「シュワーズ」には、ほかにも「地獄から上がって遊離（ゆうり）した緑色の炎」「炎から生じたのではない煙」といった説もある。「銅（ヌハース）」については「炎を伴（ともな）わない煙」「煮えたぎった油」といった解釈もある（アッ＝シャウカーニー5:182 参照）。

37. (復活の日*、) 天が裂け、真紅となり、溶けた脂¹のようになる時(、あなた方は恐るべきものを目にする)。²
38. ならば(ジン*と人間よ)、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか?
39. その日、人間もジン*も、自分の罪について尋ねられることはない。³
40. ならば(ジン*と人間よ)、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか?
41. 罪悪者たちは、その目印によって認められ、前髪と足を掴まれ⁴(て、地獄へと放り投げられ)る。
42. ならば(ジン*と人間よ)、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか?

فَإِذَا انشَقَّتِ السَّمَاءُ فَكَانَتْ وَرْدَةً
كَالْهِبَانِ ﴿٣٧﴾

فَيَأْتِيءُ آلَاءَ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٨﴾

فَيَوْمَئِذٍ لَا يُسْأَلُ عَنْ ذَنْبِهِ إِنْسٌ وَلَا جَانٌّ ﴿٣٩﴾

فَيَأْتِيءُ آلَاءَ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٤٠﴾

يُعْرِفُ الْمُجْرِمُونَ بِسِمَةِ رَبِّهِمْ فَيُودَّ
بِالنَّوْصِ وَالْأَفْقَامِ ﴿٤١﴾

فَيَأْتِيءُ آلَاءَ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٤٢﴾

1 「溶けた脂」という訳をあてた「ディハーン」の解釈には、「赤い皮」「赤毛の馬(季節によって色が変化するが、復活の日*の空も同様に色が変化する)」「油そのものではなく、それを撒(ま)いた時に見える様々な色」などといった諸説もある(アル=クルトゥビー 17:173 参照)。

2 復活の日*の天変地異については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏(まと)う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 など参照。

3 アル=ヒジュル章 92-93 などにもあるように、クルアーン*の別の箇所には、アッラー*が彼らを問いたす描写が登場する。これに関しては、以下の様な回答がある：①一通り問いただされた後、彼らの口が封じられ、彼らの手や足が、彼らのしたことを話し出す(ヤー・スィーン章 65 とその訳注も参照)。②その日、全知のアッラー*は彼らに、「あなた方はこのようなことをしたのか?」というような言い方ではなく、「なぜ、このようなことをしたのか?」と仰せられる(高壁章 8 の訳注も参照)。③これは、彼らを地獄へと連れて行く天使*たちのことで、彼らは質問などしない(イブン・カスィール 7:499 参照)。

4 「前髪を掴まれる」という表現については、凝血*章 15 の訳注を参照。

43. これが、罪^{ざい}悪^{あく}者^{しや}たちが（現^{げん}世^せで）嘘^{うそ}呼^こばわりしている地^ち獄^{ごく}。
44. 彼らはそれ（火^か獄^{ごく}）と、煮^にえたぎる熱^{ねつ}湯^{とう}の間^まを回^{まわ}る。
45. ならば（ジ^{じん}*と人^{じん}間^{かん}よ）、あなた方^{そうほう}双方^{しやうほう}は自分^{じぶん}たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩^{おん}徳^{とく}を嘘^{うそ}呼^こばわりするとい^いうのか？
46. そして（清^{みず}算^{さん}の日^{にち}における）自^じら^らの主^{しゅ}*の立^たち所^{しよ}を怖^{おそ}れ（、かれに服^{ふく}従^{じゆう}し、かれへの反^た抗^{かう}を断^た断^た）た者^{しや}には、二^{ふた}つの楽^{らく}園^{えん}がある。
47. ならば（ジ^{じん}*と人^{じん}間^{かん}よ）、あなた方^{そうほう}双方^{しやうほう}は自分^{じぶん}たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩^{おん}徳^{とく}を嘘^{うそ}呼^こばわりするとい^いうのか？
48. （果^{じゆ}実^しをつけた豊^{よう}かな）樹^{じゆ}枝^しを擁^{よう}する（、二^{ふた}つの楽^{らく}園^{えん}が）。
49. ならば（ジ^{じん}*と人^{じん}間^{かん}よ）、あなた方^{そうほう}双方^{しやうほう}は自分^{じぶん}たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩^{おん}徳^{とく}を嘘^{うそ}呼^こばわりするとい^いうのか？
50. その二^{ふた}つの（楽^{らく}園^{えん}の）中^{ちゆう}には、二^{ふた}つの泉^{せん}が流^{なが}れている。
51. ならば（ジ^{じん}*と人^{じん}間^{かん}よ）、あなた方^{そうほう}双方^{しやうほう}は自分^{じぶん}たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩^{おん}徳^{とく}を嘘^{うそ}呼^こばわりするとい^いうのか？
52. その二^{ふた}つの（楽^{らく}園^{えん}の）中^{ちゆう}には、あ^あら^らゆ^ゆる果^{くわい}実^{じつ}に二^{ふた}つの種^{しゆ}類^{るい}がある。¹

هَذِهِ جَهَنَّمُ الَّتِي يُكَذِّبُ بِهَا الْمُجْرِمُونَ ﴿٤٣﴾

يَطُوفُونَ بَيْنَهَا وَبَيْنَ حَمِيمٍ ءَانِ ﴿٤٤﴾

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٤٥﴾

وَلَمَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِ جَنَّتَانِ ﴿٤٦﴾

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٤٧﴾

ذَوَاتَا أَفْنَانِ ﴿٤٨﴾

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٤٩﴾

فِيهِمَا عَيْنَانِ تَجْرِيَانِ ﴿٥٠﴾

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٥١﴾

فِيهِمَا مِنْ كُلِّ فَاكِهَةٍ زَوْجَانِ ﴿٥٢﴾

1 この「二つの種類」の解釈については、「いずれも美味な二種類の果実」「瑞々（みずみず）しいものと乾燥したもの」「他の楽園に比べて、倍の楽しみがあることを示している」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー17:179 参照）。また天国の民の食べ物については、ヤー・スィーン章 57、サード章 51、詳細にされた章 31、金の裝飾章 73、煙霧章 55、ム

53. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は
自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘯呼ばわ
りするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءُ رَبِّكُمَا تَكْذِبَانِ ﴿٥٣﴾

54. その内側が、重厚な絹地製¹の（敷き物で
ある）寢床に寄りかかりつつ（、彼らはそ
こで楽しむ）。二つの樂園の果実が、（彼
らの）手近にある中で。

مُسْكِينَ عَلَى فُرُشٍ بَطَآئِنُهَا مِنْ إِسْتَبْرَقٍ وَحَتَّى
الْجَنَّتَيْنِ دَانٍ ﴿٥٤﴾

55. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は
自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘯呼ばわ
りするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءُ رَبِّكُمَا تَكْذِبَانِ ﴿٥٥﴾

56. そこ（寢床）には、（自分の夫だけに）視
線を定めた女性²たちがいる。彼女たちには
彼ら以前、いかなる人間も、ジン*も触れて
はいない。

فِيهِنَّ كَاصِرَاتُ الطَّرْفِ لَمْ يَطْمِئِنَّ إِلَيْهِنَّ
فَبَآئُهُنَّ وَلَا حَاجَّ لَهُنَّ ﴿٥٦﴾

57. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は
自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘯呼ばわ
りするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءُ رَبِّكُمَا تَكْذِبَانِ ﴿٥٧﴾

58. 彼女たちは、まるでルビーと赤珊瑚³のよう。

كَأَنَّهُنَّ الْيَاقُوتُ وَالْمَرْجَانُ ﴿٥٨﴾

59. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は
自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘯呼ばわ
りするというのか？

فَيَا أَيُّهَا آلَآءُ رَبِّكُمَا تَكْذِبَانِ ﴿٥٩﴾

60. 一体、（現世での）善の報いは、（来世で
の）善に外ならないのではないのか？

هَلْ جَزَاءُ الْإِحْسَنِ إِلَّا الْإِحْسَنُ ﴿٦٠﴾

ハンマド*章 15、山章 22、出来事章 20-21、真実章 23、人間章 14、送られるもの章 42
なども参照。

1 内側が重厚な絹地なのだから、その外側が素晴らしいのは言うまでもない。一説によれば、
その外側は地上で比較できるものがないために、あえて言及されてはいない（アル=バガ
ウィー4:341 参照）。

2 「視線を定めた女性」については、整列者章 48 の訳注を参照。

3 「赤珊瑚」については、アーヤ*22 の訳注を参照。

61. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
62. そして、その二つの（樂園の）外^{ほか}に、（もう）二つの樂園がある。
63. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
64. （緑濃^{みどりこ}く）黒ずんだ二つの（樂園が）。
65. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
66. その二つの（樂園の）中には、二つのほとばしる泉がある。
67. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
68. その二つの（樂園の）中には、（各種の）果実、ナツメヤシの木、ザクロがある。¹
69. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
70. それら（全ての樂園）の中^{うち}には、善良で麗しき女性たちがいる。²

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣١﴾

وَمِنْ دُونِهِمَا جَنَّتَانِ ﴿٣٢﴾

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٣﴾

مُدَّهَامَتَانِ ﴿٣٤﴾

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٥﴾

فِيهِمَا عَيْنَانِ تَصَّاحَتَانِ ﴿٣٦﴾

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٧﴾

فِيهِمَا فَاكِهَةٌ وَنَخْلٌ وَرُمَّانٌ ﴿٣٨﴾

فَيَا أَيُّهَا آلَاءُ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٣٩﴾

فِيهِنَّ خَيْرَاتٌ حِسَانٌ ﴿٤٠﴾

1 天国の民の食べ物については、ヤー・スィーン章 57、サード章 51、詳細にされた章 31、金の装飾章 73、煙霧章 55、ムハンマド*章 15、山章 22、出来事章 20-21、真実章 23、人間章 14、送られるもの章 42 など参照。

2 雌牛章 25「純潔な妻」の訳注、および整列章 48、煙霧章 54 の訳注も参照。

71. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳^{おんどく}を嘘呼^{うそ}ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٧١﴾

72. 天幕^{てんまく}の中に滞留^{たいりゅう}させられ（守られ）た、色白^{しやくはく}の女性^{にょせい}たち。¹

حُورٌ مَّقْصُورَاتٌ فِي الْخِيَامِ ﴿٧٢﴾

73. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳^{おんどく}を嘘呼^{うそ}ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٧٣﴾

74. 彼女たちには彼ら以前、いかなる人間も、ジン*も触^ふれてはいない。

لَمْ يَطْمِئْنُوا إِلَّا فِي قَبَاهُمُ وَلَا جَانِ ﴿٧٤﴾

75. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳^{おんどく}を嘘呼^{うそ}ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٧٥﴾

76. 緑色のクッション^{せうしん}と、精妙^{せいみょう}な敷き物^しに寄りかかりつつ（、彼らはそこで楽しむ）。

مُتَّكِئِينَ عَلَى رَفُوفٍ خَضِرٍ وَتَبَقَّرِي حَسَانِ ﴿٧٦﴾

77. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方^{そうほう}は自分たちの主^{しゅ}*の、いずれの恩徳^{おんどく}を嘘呼^{うそ}ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ آلَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٧٧﴾

78. 高貴^{かうき}さと莊嚴^{たうぜん}さを湛^たえた、あなたの主^{しゅ}*の御名^{みな}は、祝福^{しゆくふく}にあふれていることよ。

تَبَارَكَ اسْمُ رَبِّكَ ذِي الْجَلَالِ وَالْإِكْرَامِ ﴿٧٨﴾

1 雌牛章 25「純潔な妻」の訳注、および整列章 48、煙霧章 54 の訳注も参照。

2 「クッション（ラフラフ）」には、「天国の庭園」「敷き物」「ソファアの類」といった別の解釈もある（アル＝バガウィー4:346 参照）。

第 56 章

出来事章（アル＝ワーキア）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. （復活の日*という）出来事が起こる時。
2. それが起こるのを、嘘とする者はいない。
3. （その出来事は、ある民を地獄へと）下げ、
（ある民を天国へと）上げる。
4. 大地は激しく揺れ動き、
5. 山々は細かく砕け散って、
6. ばらばらの塵屑となり、²
7. あなた方（人々）が三つの種類³となる時。
8. 右側の徒、右側の徒とは何か？
9. また左側の徒、左側の徒とは何か？⁴

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا وَقَعَتِ الْوَاقِعَةُ ①

لَيْسَ لَوْفَعِيهَا كَاذِبَةٌ ②

خَافِضَةٌ رَافِعَةٌ ③

إِذَا رَجَّتِ الْأَرْضُ رَجًا ④

وَسُتِ الْجِبَالُ سُتًا ⑤

فَكَانَتْ هَبَاءً مُتَّبِنًا ⑥

وَكُنُفًا أُرُوجًا ⑦

فَأَصْحَابُ الْمَيْمَنَةِ مَا أَصْحَابُ الْمَيْمَنَةِ ⑧

وَأَصْحَابُ الْمَشْأَمِ مَا أَصْحَابُ الْمَشْأَمِ ⑨

- 1 マッカ*啓示（一部アーヤ*には、マディーナ*啓示説もあり）。冒頭ではスーラ*の名称ともなっている「出来事」、つまり復活の日*の到来の確証とその恐るべき様子の描写がなされ、それから来世における三種類の人々の状況が、信仰者への占報と不信仰者*への警告と共に、詳しく描き出されていく。スーラ*後半では、自然界の様々な驚異（きょうい）や恩恵の言及と共に、アッラー*の存在、かれの唯一性*の証明がなされ、最後は再び来世における三種類の人々の集団についての描写で幕を閉じる。
- 2 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。
- 3 アーヤ*8、9、10 のそれぞれで言及されている者たち（イブン・カスィール 7:515 参照）。
- 4 「右側の徒」とは、高い位の者たちで、「左側の徒」は低い位の者たち（ムヤッサル 534 頁参照）。その名前の由来については、「天国が右側、地獄が左側にあるため」「アーダム*の全ての子孫がその後背部から出された時（高壁章 172 とその訳注も参照）、彼の右側にいた者たちが、天国の民となることを約束されたため」「行いの帳簿を右手に渡された者が天国の徒に、左手に渡された者が地獄の徒となるため」「右が善行を、左が悪行を表しているため」などの諸説がある（アルークルトゥビー 17:198 参照）。

10. そして（現世で善に）先んじる者たちは、
（来世で高い位へと）先んじる者たち。
11. それらの者たちは、（アッラー*の御許^{みもと}における）側近である、
12. 安寧^{あんねい}の樂園において。
13. （彼ら側近^{そっきん}たちは、）先代の者たちから多く、
14. 後代の者たちからは少ない。¹
15. （金銀宝石で）刺繍^{ししゅう}された寝台の上に、
16. その上に寄りかかって、互に向かい合いつつ。²
17. 永遠の少年たちが、彼らの周りを（奉仕^{ほうし}のために）回って歩く。
18. 杯^{はい}と、水差^{みずさ}しと、（酒*の）湧き水からの 盃^{さかずき}を携えて。
19. 彼らはそれ（酒*）ゆえに頭痛^{むう}を催^{もよお}すことも、理性^{うしな}を失うこともない。
20. また（永遠の少年たちは）、彼ら（側近^{そっきん}たちが）選り取りの果実と、
21. 彼らが欲^{ほつ}する鶏肉^{とりにく}を（携えて、彼らを回って歩く）。
22. また（彼らには）、麗しい眼^{うるわ}の色白の女性たちがいる、³
23. 秘められた真珠^{しんじゆ}のような（女性たちが）、

وَالسَّيِّفُونَ السَّيِّفُونَ ﴿١٠﴾

أُولَئِكَ الْمُقَرَّبُونَ ﴿١١﴾

فِي جَنَّاتٍ النَّعِيمِ ﴿١٢﴾

ثُلَّةٌ مِنَ الْأَوَّلِينَ ﴿١٣﴾

وَقَلِيلٌ مِنَ الْآخِرِينَ ﴿١٤﴾

عَلَى سُرُرٍ مَوْصُومَةٍ ﴿١٥﴾

مُتَّكِئِينَ عَلَيْهَا مُتَقَابِلِينَ ﴿١٦﴾

يَطُوفُ عَلَيْهِمْ وِلْدَانٌ مُّحْدَوْنَ ﴿١٧﴾

بِأَكْوَابٍ وَأَبَارِيقٍ وَكَأْسٍ مِنْ مَّعِينٍ ﴿١٨﴾

لَا يَصِدُّوْنَ عَنْهَا وَلَا يَذَرُوهَا ﴿١٩﴾

وَفِيكِهِمْ مِمَّا يَتَخَبَّوْنَ ﴿٢٠﴾

وَلَحْمَ طَيْرٍ مِمَّا يَشْتَهُونَ ﴿٢١﴾

وَحُورٌ عِينٌ ﴿٢٢﴾

كَأَمْثَلِ اللُّؤْلُؤِ الْمَكْنُونِ ﴿٢٣﴾

1 「先代」とは、預言者*ムハンマド*の共同体、及びその他のイスラーム*共同体の先代の者たち。「後代」とは、イスラーム*共同体の後代の者たち（ムヤッサル 534 頁参照）。

2 アル=ヒジュル章 47 の訳注を参照。

3 雌牛章 25 「純潔な妻」の訳注、および整列章 48、煙霧章 54 の訳注も参照。

24. 彼らが（現世で）行っていた（正しい）ことゆえの、報いとして。

جَزَاءَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٤﴾

25. 彼らはそこで、戯言^{たわごと}も罪な言葉も、耳にすることがない。

لَا يَسْمَعُونَ فِيهَا لَغْوًا وَلَا تَأْثِيمًا ﴿١٥﴾

26. ただ、「（あなた方に）平安を、（あなた方に）平安を²」という（互いに交わされる）言葉を聞くだけ。

إِلَّا قِيلًا سَلَامًا سَلَامًا ﴿١٦﴾

27. そして右側の徒、右側の徒³（の大いなる位と報い^{くわい}）とは何か？

وَأَصْحَابُ الْيَمِينِ مَا أَصْحَابُ الْيَمِينِ ﴿١٧﴾

28. （彼らは、）棘のないスィドル⁴、

فِي سِدْرٍ مَّخْضُودٍ ﴿١٨﴾

29. 折り重なるバナナ⁵、

وَطَلْحٍ مَّنْضُودٍ ﴿١٩﴾

30. （消え入ることなく）行き渡る陰^{かげ}、

وَظِلِّ مَمْدُودٍ ﴿٢٠﴾

31. （涸れることなく）流れる水、

وَمَاءٍ مَّسْكُوبٍ ﴿٢١﴾

32. ふんだんな果実の中にいる。

وَفَلَاحَةٍ كَثِيرَةٍ ﴿٢٢﴾

33. 絶えることがなく、禁じられもしない（果実の中に）。

لَا مَقْطُوعَةٍ وَلَا مَمْنُوعَةٍ ﴿٢٣﴾

34. また、高く上げられた寢床^{ねどこ}（の中に）。

وَفُؤُوسٍ مَّرْفُوعَةٍ ﴿٢٤﴾

35. 本当にわれら*は彼女（天国の女性）たちを、（完全な形に）創り上げ⁶、

إِنَّا أَنْشَأْنَاهُنَّ إِنِشَاءً ﴿٢٥﴾

36. 彼女たちを処女とし、

فَجَعَلْنَهُنَّ أَبْكَارًا ﴿٢٦﴾

1 「戯言」については、信仰者たち章3の同語の訳注を参照。

2 「あなた方に平安を」については、雷鳴章24の訳注を参照。

3 「右側の徒」については、アーヤ*8-9の訳注を参照。

4 「スィドル」については、サバア章16の訳注を参照。現世では棘だらけで実の少ないスィドルの木だが、来世では逆に棘がなく、沢山の実をつけるのだという（イブン・カシール7:525参照）。

5 アルークルトウビー*によれば、この「バナナ」という解釈が大半の学者の見解だが、ほかにも「アカシアの木」という解釈もある（17:208参照）。

6 雌牛章25「純潔な妻」の訳注、および整列章48、煙霧章54の訳注も参照。

37. 愛らしく、（彼女ら自身が互いに）同年の女性とした。
38. 右側の徒のために。
39. （彼らは、）先代の者たちから多く、
40. 後代の者たちからも多い。
41. そして左側の徒、左側の徒¹（の状態と報い）とは何か？
42. （彼らは、）熱風と煮えたぎる湯、
43. 黒煙^{こくえん}の陰^{かげ}の中。
44. 涼しくも、麗しくもない（陰^{うらわ}の中^{かげ}にいる）。
45. 本当に彼らはそれ以前、（現世で禁じられた）贅^{ぜい}を尽くしていた者たちだったのであり、
46. この上ない罪^{つみ}²に固執^{こしつ}し、
47. （こう）言っていたからなのだ。「一体、私たちが死んで砂と骨と化した後、本当に蘇^{よみがえ}らされるというのか？
48. そして、私たちの先代のご先祖様たちも？」
49. （使徒^{しと}*よ、）言ってやるがいい。「本当に先代の者たちも、後代の者たちも、
50. （復活の日*という）定められた日の定められた時に、まさしく集められるのである。
51. それから——（アッラー*のお約束^{うそ}を）嘯呼^{うそ}ばかりする迷い人たちよ——、本当にあなた方は、

عُرِّيَّا أَتْرَابًا ﴿٧٧﴾

لِأَصْحَابِ الْيَمِينِ ﴿٧٨﴾

ثُلَّةٌ مِنَ الْأَوَّلِينَ ﴿٧٩﴾

وَتِلْكَ مِنَ الْآخِرِينَ ﴿٨٠﴾

وَأَصْحَابُ الشِّمَالِ مَا أَصْحَابُ الشِّمَالِ ﴿٨١﴾

فِي سَمُومٍ وَجَمِيمٍ ﴿٨٢﴾

وَظِلٍّ مِّنْ جَحْمُومٍ ﴿٨٣﴾

لَّا بَارِدٌ وَلَا كَرِيمٍ ﴿٨٤﴾

إِنَّهُمْ كَانُوا قَبْلَ ذَلِكَ مُتْرَفِينَ ﴿٨٥﴾

وَكَانُوا يُصِرُّونَ عَلَى الْحَنِثِ الْعَظِيمِ ﴿٨٦﴾

وَكَانُوا يُنْعَوْنَ أَيْدًا مِّمَّنَّا وَكُنَّا تُرَابًا وَعِظْمًا إِذَا نَا
لَمَبْعُوثُونَ ﴿٨٧﴾

أَوَّابًا وَإِنَّا الْأَوَّلُونَ ﴿٨٨﴾

قُلْ إِنَّ الْأَوَّلِينَ وَالْآخِرِينَ ﴿٨٩﴾

لَمَجْمُوعُونَ إِلَىٰ مِيقَاتِ يَوْمٍ مَّعْلُومٍ ﴿٩٠﴾

ثُمَّ إِنَّكُمْ أَهْلُ الضَّالُّونَ الْمَكِيدُونَ ﴿٩١﴾

1 「左側の徒」については、アーヤ*8-9の訳注を参照。

2 「この上ない罪」とは、アッラー*への不信仰、シルク*、かれへの反抗のこと（ムヤッサル 535 頁参照）。

52. まさにザクームの木¹から食べ、
53. それで腹を満たし、
54. その上に煮えたぎる湯を飲み、
55. 喉^{のど}を渴^{かわ}かせたラクダが飲むように、（それを）飲む者たち。
56. これが報いの日^{むく}*の、彼ら（へ）の御^おもてなし²である。
57. （人々よ、）われら³*があなた方を、創ったのだ。なのに、どうしてあなた方は（死後の復活を）信じないのか？
58. 言ってみよ、あなたが（自分たちの妻の子宮に）射精^{しゃせい}するものについて。
59. 一体、あなたがそれを（人間として）創るのか？ それとも、われら⁴*が創造者なのか？
60. われら⁵*はあなた方（各々）の間に、死（の時期）を定めたのであり、不能者などではない、
61. われら⁶*が（あなた方を、）あなた方と同様の存在^かと取り替え^か、あなた方をあなた方が知らない形^{そうぞう}に創造することにおいて。³
62. あなた方は確かに、最初の創造^{そうぞう}を知っている。なのに、どうして（アッラー⁷*は二度目の創造^{そうぞう}もされるとの、）教訓を得ないのか？⁴

لَا يَكُونُ مِنْ شَجَرٍ زَكُّومٍ ﴿٥٢﴾

فَمَالُوا مِنْهَا الْبُطُونَ ﴿٥٣﴾

فَسَرِيُونَ عَلَيْهِ مِنَ الْحَمِيمِ ﴿٥٤﴾

فَسَرِيُونَ شُرَبَ الْهَيْمِ ﴿٥٥﴾

هَذَا نَجْمُ الْكَافِرِينَ ﴿٥٦﴾

نَحْنُ خَلَقَكُمْ فَلَوْلَا تُصَدِّقُونَ ﴿٥٧﴾

أَفَرَأَيْتُمْ مَا تُمْنُونَ ﴿٥٨﴾

أَأَنْتُمْ تَخْلُقُونَهُ وَأَمْ نَحْنُ الْخَالِقُونَ ﴿٥٩﴾

نَحْنُ قَدْ زَيَّنَّا نَجْمَ الْمَوْتِ وَمَا تَنْحُنُّ بِمَسْجُونٍ ﴿٦٠﴾

عَلَى أَنْ يُبَدِّلَ مَثَلَكُمْ وَنُنشِئَكُمْ فِي مَا لَا

تَعْلَمُونَ ﴿٦١﴾

وَلَقَدْ عَلِمْتُمُ النَّشْأَ الْأُولَى فَلَوْلَا تَذَكَّرُونَ ﴿٦٢﴾

1 「ザクームの木」については、夜の旅章 60「呪われた木」の訳注、および整列者章 62-66、煙霧章 43-46 を参照。

2 この「御もてなし」については、洞窟章 102 の訳注を参照。

3 これは一説に、過去の民に起こったように、その姿形を猿や豚などに変えられてしまうこと（食卓章 60 参照）。あるいは来世において、現世のものとは違う形に蘇（よみがえ）らされる、ということ（アルークルトゥビー 17:217 参照）。

4 「最初の創出」とは、アッラー⁷*が彼らを創造されたこと。二度目のものは、復活（ムヤッサル 536 頁参照）。マルヤム⁸*章 67、ビザンチン章 27、ヤー・スィーン章 77-79、復活章 36-40 も参照。

63. 言ってみよ、あなた方が^{たがや}耕すものについて。
64. 一体、あなた方がそれ（作物）を生育させるのか？ それとも、われら*が生育者なのか？
65. もし望んだなら、われら*はそれを木^こっ端^ぼ微塵^{じん}にし、あなた方は（その罰に）驚愕^{きょうがく}したままと^{ぼつ}なっただろう。
66. 「本当に私たちは、破滅者^{はめつ}である。
67. いや、私たちは（糧^{かて}を）禁じられてしまったのだ」（と言いつつ。）
68. 言ってみよ、あなた方が飲むもの（水）について。
69. 一体、あなた方がそれを雲から（地上へ）降らすのか？ それとも、われら*が降らす者^ふなのか？
70. もし望んだなら、われら*はそれを辛いもの^{から}としたのだ。なのに、どうしてあなた方は感謝しないのか？
71. 言ってみよ、あなた方が^{とも}点す火について。
72. 一体、あなた方が（火種^{ひだね}とする）その木を創^{そう}ったのか？ それとも、われら*が（その）創造者^{そうぞう}なのか？
73. われら*はそれを（復活と地獄の業火^{ごうか}を想起させる）教訓と、広漠な地にある者^{えき}たちへの益としたのだ。
74. ならば（預言者^{よげんしや}*よ）、この上なく偉大なあなた^{しゅ}の主*の御名と共に、（かれを）称え^{たた}*よ。

أَفَرَأَيْتُمْ مَا تَحْنُلُونَ ﴿١٢﴾

ءَأَنْتُمْ تَزْرَعُونَهُ أَمْ نَحْنُ الزَّارِعُونَ ﴿١٣﴾

لَوْ شَاءَ لَجَعَلْنَاهُ حُطَامًا فَظَلَمْتُمْ

تَفَكَّهُونَ ﴿١٤﴾

إِنَّا الْمَعْرَمُونَ ﴿١٥﴾

بَلْ نَحْنُ مَحْرُومُونَ ﴿١٦﴾

أَفَرَأَيْتُمْ الْمَاءَ الَّذِي تَشْرَبُونَ ﴿١٧﴾

ءَأَنْتُمْ أَنْزَلْتُمُوهُ مِنَ الْمُزْنِ أَمْ نَحْنُ الْمُنْزِلُونَ ﴿١٨﴾

لَوْ شَاءَ لَجَعَلْنَاهُ آجَا فَلَئَآءَ لَا تَشْكُرُونَ ﴿١٩﴾

أَفَرَأَيْتُمْ النَّارَ الَّتِي تُورُونَ ﴿٢٠﴾

ءَأَنْتُمْ أَنْشَأْتُمْ شَجَرَهَا أَمْ نَحْنُ الْمُنْشِئُونَ ﴿٢١﴾

نَحْنُ جَعَلْنَاهَا تَذَكُّرًا وَرَمَقًا لِلْمُؤْمِنِينَ ﴿٢٢﴾

فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ الْعَظِيمِ ﴿٢٣﴾

1 「空腹な者たち」という解釈もある。いずれにせよ、広漠な地にある者は明かりや暖において、空腹な者は食べ物とその調理において、火から特に大きな益を得る（イブン・アーシール 27:327 参照）。

75. われはまさに、星々の沈む場所^{しづ}¹にかけて
誓^{ちか}う。² ﴿فَلَا أُقْسِمُ بِمَوَاقِعِ النُّجُومِ﴾
76. 本^{ちか}当にそれはまさしく、偉大なる誓いなの
である。もし、あなた方が（そのことを）
知っているのならば。 ﴿وَأَنَّهُ لَقَسَمٌ لَّا تَعْلَمُونَ عَظِيمٌ﴾
77. 実にそれはまさしく、気高いクルアーン*
なのだ、 ﴿إِنَّهُ لَقُرْآنٌ كَرِيمٌ﴾
78. 秘められた書^{うそ}³の中の。 ﴿فِي كِتَابٍ مَّكْنُونٍ﴾
79. 清浄な者たちしか、それに触れることは
ない。⁴ ﴿لَا يَمَسُّهُ إِلَّا الْمُطَهَّرُونَ﴾
80. （それは）全創造物の主^{そうぞう}^{しゅ}*からの、降示^{こうじ}なの
である。 ﴿نَزِيلٌ مِّن رَّبِّ الْعَالَمِينَ﴾
81. （シルク*の徒よ、）一体あなた方は、（ク
ルアーン*という）この話を嘘呼ばわりする
者^{うそ}⁵なのか？ ﴿أَفَبِهَذَا الْحَدِيثِ أَنْتُمْ مُدْهِنُونَ﴾
82. そして自分たちの糧^{かて}（への感謝の念）を、
（恩恵^{おんけい}に対する）嘘呼ばわりに替^{うそ}えるとい
うのか？ ﴿وَتَجْعَلُونَ رِزْقَهُمْ أَكْذُوبًا﴾

1 「星々の沈む場所」のほかにも、「クルアーン*が徐々に下ったこと」「星々の位置」といった解釈の仕方もある（イブン・カシール 7:544 参照）。

2 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 「秘められた書」には、「クルアーン*が記録されている、守られし碑板*（金の装飾章 4 とその訳注を参照）」「啓示と共に下される、天使*たちの手許にある書」（アッーサアディー 836 頁参照）「書物としての形のクルアーン*」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー 17:225 参照）。

4 それに触れることが出来るのは、害や罪のない清浄な存在である天使*たちと、シルク*、ジャーバ*、穢（けが）れのない状態にある者たちだけである（ムヤッサル 537 頁参照）。

5 「嘘呼ばわりする者（ムドゥヒン）」の語源的な意味は、「本心ではないもので上辺を取り繕（つくろ）う者」のことで、ほかにも「否定者」「偽善（ぎぜん）者」「背（そむ）く者」「受け入れる決意のない者」などといった解釈がある（アル＝クルトゥビー 17:227-228 参照）。

83. さあ、（魂^{たましい}を体^{からだ}に押し留めてみよ、）それが喉元^{のどもと}に達^{たっ}した時に。¹

فَلَوْلَا إِذَا بَلَغَتِ الْخُلُقُومَ ﴿٨٣﴾

84. あなた方はその時、（その様子^{さま}を）目の当^{あた}たりにして（何も出来ずに）いる。

وَأَنْتُمْ حِينِيذٍ تَنْظُرُونَ ﴿٨٤﴾

85. われら*（の天使*たち）は、あなた方（自身）よりもそれ（あなた方の魂^{たましい}）に近いのだが、あなた方には（彼らが）見えないのだ。

وَنَحْنُ أَقْرَبُ إِلَيْهِ مِنْكُمْ وَلَكِنْ لَا تُبْصِرُونَ ﴿٨٥﴾

86. さあ、もしあなたが、（自分たちの行いによって）報^{むく}いを受ける者ではないというのであれば、

فَلَوْلَا إِنْ كُنْتُمْ عَذِيبِينَ ﴿٨٦﴾

87. それ（魂^{たましい}）を（体^{からだ}に）戻^{もど}してみるがいい。もし、あなたが本当のことを言っているというならば。

تَرْجِعُونَهَا إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٨٧﴾

88. もし（死んだ者が、）側近^{そっきん}たち²の内の者だったのであれば、

فَأَمَّا إِنْ كَانَ مِنَ الْمُقَرَّبِينَ ﴿٨٨﴾

89. （彼には）ご慈悲^{じひ}、芳^{かぐわ}しいもの³、安寧^{あんねい}の楽園がある。

فَرَوْحٌ وَرَيْحَانٌ وَجَنَّتْ نَعِيمٍ ﴿٨٩﴾

90. また、もし右側の徒⁴の一人だったのであれば、

وَأَمَّا إِنْ كَانَ مِنْ أَصْحَابِ الْيَمِينِ ﴿٩٠﴾

91. （彼には、こう言われる。）「あなたに平安を⁵。（あなたは、）右側の徒の一人である」。

فَسَلَامٌ لَكَ مِنْ أَصْحَابِ الْيَمِينِ ﴿٩١﴾

92. そして、もし（復活^{うそ}を）嘘呼^{たぐ}ばわりする、迷った者の類^{たぐ}いだったのであれば、

وَأَمَّا إِنْ كَانَ مِنَ الْمَكِيدِينَ الصَّالِينَ ﴿٩٢﴾

1 家畜章 61、93 とその訳注も参照。

2 「側近たち」については、アーヤ*10-11 も参照。

3 「ご慈悲（ラウフ）」の解釈には、ほかにも「安息」「喜び」「お赦しとご慈悲」といった諸説があり、「芳しいもの（ライハーン）」には、「安息」「糧」「香り高い植物」といった解釈もある（アル＝バガウィー5:22 参照）。

4 「右側の徒」については、アーヤ*8-9 の訳注を参照。

5 「あなたに平安を」については、雷鳴章 24 の訳注も参照。

93. (彼には) 煮えたぎる湯からの御^おもてなし¹と、

فَنُزِّلُ مِنْ حَمِيمٍ ﴿١٣﴾

94. 火獄^{かごく}の火炙^{ひあぶ}りがある。

وَتَصْلِيَةُ جَحِيمٍ ﴿١٤﴾

95. (使徒^{しと}*よ、) 本当にこれこそは、まさに確^{かつ}固^こたる真理なのだ。

إِنَّ هَذَا لَهُوَ حَقُّ الْيَقِينِ ﴿١٥﴾

96. ならば、この上なく偉大^{たか}なあなたの主^{しゅ}*の御名^{みな}と共に、(かれを) 称え^{たか}*よ。

فَسَبِّحْ بِأَسْمَائِكَ الْعَظِيمِ ﴿١٦﴾

1 この「御もてなし」については、洞窟章 102 の訳注を参照。

第 57 章
鉄章 (アル＝ハディード) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 諸天と大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え^{たた}る。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。
2. かれにこそ、諸天と大地の王権がある。かれは生をお与えになり、死をお与えになるお方。かれは、全てのことがお出来のお方。
3. かれは最初のお方、最後のお方²、（最も）外なる*お方、（最も）内なる*お方。そしてかれは、全てのことをご存知のお方であられる。
4. かれは諸天と大地を六日間でお創りになり³、それから御座に上^{みくら}がられた⁴。かれは大地の中に入り込むものも、そこから出てくるものも、天から落ちてくるものも、そこへ昇^{のぼ}っていくもの⁵も、ご存知である。また、か

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَبِّحْ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ
الْحَكِيمُ ﴿١﴾

لَهُ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يُحْيِي وَيُمِيتُ وَهُوَ
عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢﴾

هُوَ الْأَوَّلُ وَالْآخِرُ وَالظَّاهِرُ وَالْبَاطِنُ وَهُوَ
يَكِلُ كُلَّ شَيْءٍ عَلَيْهِمْ ﴿٣﴾

هُوَ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ فِي سِتَّةِ
أَيَّامٍ ثُمَّ أَسْمَوْنِي عَلَى الْعَرْشِ يَعْلَمُ مَا يَلِيقُ
فِي الْأَرْضِ وَمَا يَخْجُجُ مِنْهَا وَمَا يَنْزِلُ مِنَ السَّمَاءِ
وَمَا يَرْجِعُ فِيهَا وَهُوَ مَعَكُمْ إِنْ مَّا كُنْتُمْ إِلَّا اللَّهُ يَمَّا

1 マディーナ*啓示（スーラ*の一部、あるいは全体をマッカ*啓示とする説もあり）。スーラ*の名称は、アッラー*からの恩恵であると共に、イスラーム*を支え、守る手段でもある一つの試練として言及された、「鉄」（アーヤ*25 参照）に由来。スーラ*の冒頭はアッラー*の美名と属性（ぞくせい）の言及と、かれへの讃美（さんび）によって始まり、アッラー*とその使徒*への信仰、その命令への服従、献身（けんしん）への呼びかけがなされる。中盤では、信仰者と偽（にせ）信者*の来世での様子が描かれた後、真の信仰への回帰（かいき）、アッラー*の定めに対する忍耐*のすすめなどが提示され、後半では、使徒*や啓示*が下されることの英知や、過去の使徒*たちの話が描かれ、最後は使徒*への信仰への誘いで締めくくられる。

2 アッラー*より先に存在したものも、また、かれの後に存在するものもない（ムヤッサル 537 頁参照）。

3 「諸天と大地を六日間でお創りになり…」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。

4 「御座に上^{みくら}がられた」については、高壁章 54 とその訳注を参照。

5 サバア章 2 の同様のアーヤ*についての訳注も参照。

れはあなた方がどこにあらうとも、(その御知識と共に) あなた方と共にあるのだ。アッラー*は、あなた方が行くことに通曉つうぎょうされたお方である。

تَعْمَلُونَ بَصِيرًا ﴿١﴾

5. かれにこそ諸天と大地の王権があり、かれにこそ(来世の)物事は帰される。

لَهُ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَإِلَى اللَّهِ تُرْجَعُ الْأُمُورُ ﴿٢﴾

6. かれは夜を昼の中にお入れになり、昼を夜の中にお入れになる。また死から生を取り出され、生から死を取り出される¹。そしてかれは、胸中にあるものを(余すことなく)ご存知なのである。

يُولِجُ اللَّيْلَ فِي النَّهَارِ وَيُؤَلِّجُ النَّهَارَ فِي اللَّيْلِ وَهُوَ عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿٣﴾

7. アッラー*とその使徒* (ムハンマド*) を信じ、かれ (アッラー*) があなた方をその継承者としたものの内から、費やせ²。あなた方の内で信仰し、費やした者たちには、大いなる褒美があるのだぞ。

ءَامِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ ءَاَنِفُوا مِمَّا جَعَلَكُمْ مُتَحَفِّظِينَ فِيهِ ءَالَّذِينَ ءَامَنُوا مِنْكُمْ وَأَنفَقُوا لَهُمْ أَجْرٌ كَبِيرٌ ﴿٤﴾

8. 使徒*が、あなた方の主*を信じるように招いているというのに、あなた方がアッラー*を信じないのはどうしたことか? かれ (アッラー*)は確かに、あなた方の確約³をお取りになったというのに。もし、あなた方が信仰者だというのならば(、信仰に急ぐのだ)。

وَمَا لَكُمْ لَا تُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالرَّسُولِ يَدْعُوكُمْ لِتُؤْمِنُوا بِرَبِّكُمْ وَقَدْ أَخَذَ مِيثَاقَكُمْ إِن كُنْتُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿٥﴾

1 「夜を昼の…」と「死から生を…」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

2 そもそも全ての財産はアッラー*の所有であり、人間はその代理人として、アッラー*がお喜びになる形において財産を費やす必要がある。または、人間は前の世代から財産を継承したのであり、自分たちもまたそれを次世代に継承するのだから、出し惜しみしてはならない (アッ=シャウカーニー5:222 参照)。

3 この「確約」とは、「アッラー*が全人類をアードム*の後背部から取り出して、ご自身が彼らの主*であることを証言させた時のもの (高壁章 172 とその訳注参照)」。また一説には、人間に与えられた理性と、預言者*ムハンマド*への服従を義務づける様々な証拠の存在のこと (アル=クルトゥビー17:238 参照)。

9. かれは、あなた方を（不信仰という）闇^{やみ}から（信仰という）光^ひへと出すべく、その僕（ムハンマド*）に明白な御徴^{みしるし}を下されたお方。本当にアッラー*は、あなた方に対し^{あわ}て実に哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方。

10. あなた方がアッラー*の道において費やさないのは、どういうことか？ アッラー*にこそ、諸天と大地の遺産^{いさん}は属する^{ぞく}というのに。あなた方の内、（マッカ*）開城^{ついで}の前に費やし、（不信仰者*たちと）戦った者は、（褒美において）同等ではないのだぞ。それらの者たちは、（マッカ開城*の）後に費やし、（不信仰者*たちと）戦った者たちよりも位^{くらい}が偉大なのだ⁵。そしてアッラー*は、（その両者の内の）いずれにも最善のもの（天国）をお約束されたのであり、アッラー*はあなた方が行くことに通曉^{つうぎょう}されるお方なのである。

11. アッラー*に、よき貸付^{かしつけ}をする者は誰か？ そうすれば、かれはそれを彼のために倍增^{ばいぞう}して下さるのであり、彼には貴い褒美（天国）がある。

هُوَ الَّذِي يُزِيلُ عَلَى عَبْدِهِ آيَاتَ بَيِّنَاتٍ لِّيُخْرِجَكُم مِّنَ الظُّلُمَاتِ إِلَى النُّورِ وَإِنَّ اللَّهَ بِكُمْ لَرَءُوفٌ رَّحِيمٌ ﴿١﴾

وَمَا لَكُمْ أَلَّا تُنْفِقُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ وَلِلَّهِ مِيرَاثُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ لَا يَسْتَوِي مِنْكُمْ مَّنْ أَنْفَقَ مِن قَبْلِ الْفَتْحِ وَقَتْلَ أَوْلِيَّكَ أَعْظَمَ دَرَجَةً مِّنَ الَّذِينَ أَنْفَقُوا مِنْ بَعْدِ وَقَتْلَوْا وَكَلَّا وَعَدَ اللَّهُ الْحَسَنَىٰ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿٢﴾

مَنْ ذَا الَّذِي يُقْرِضُ اللَّهَ قَرْضًا حَسَنًا فُضِّلَ لَهُ لَهٗ وَلَهُ أَجْرٌ كَرِيمٌ ﴿٣﴾

1 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

2 「明白な御徴」とは、クルアーン*、あるいは奇跡のこと（アル＝クルトゥビー 17:239 参照）。

3 「諸天と大地の遺産…」という表現については、イムラーン家章 180 の訳注を参照。

4 この「開城」が、「マッカ開城*」のことであるとするのが、大半の解釈学者の見解。「フダイビーヤの和議*」である、という説もある（前掲書、同頁参照）。

5 「開城」以前は（ムスリム*たちにとって）厳しい状況であり、その当時ムスリム*となる者は、（信仰に）誠実な者しかいなかった。一方、「開城」後はイスラーム*が大きな拡大を見、人々が大半（たいきよ）してアッラー*の教えを受け入れた（イブン・カスィール 8:12 参照）。

6 アッラー*に対する「よき貸付」については、雌牛章 245 の訳注を参照。

12. あなたが（地獄^かの上の架け橋¹のもとで、）
 信仰者の男たちと、信仰者の女たちの光が
 （現世での行いに応じて）、彼らの前方と
 右手²を（彼らと共に）進むのを目にする（復
 活の）日*。（彼らには、こう言われる。）
 「この日、あなた方の吉報は、その下から
 河川^{かせん}が流れる楽園である。（あなた方は）
 そこに永遠に入ることになるのだ。それこ
 そは、偉大なる勝利である」。

13. 偽信者^{にせ}*の男たちと偽信者^{にせ}*の女たちが、信
 仰者たちに（こう）言う日。「私^{わたし}たちを待
 ってくれ。あなた方の光から、灯火^{ともしび}を得た
 い」。（すると彼らには、こう）言われる。
 「自分たちの後方^{もとは}へと戻って、光を探すが
 よい」。そして彼らの間には、壁^{かべ}³が置かれ
 （、お互いに遮^{さへぎ}られ）る。そこには扉^{とびら}があ
 り、（信仰者たちのいる）その内側には慈悲^{じひ}
 があり、その外側の方向には懲罰^{ちやうばつ}がある。

14. 彼ら（偽信者^{にせ}*たち）は、彼ら（信仰者たち）
 を呼ぶ。「私たちは（現世で）、あなた方
 と一緒だった⁴ではないか？」彼ら（信仰者
 たち）は言う。「その通り。しかし、あな
 た方は自分自身を（偽^{にせ}の信仰^{つみ}と罪^{しれん}で）試練

يَوْمَ تَرَى الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ يَسْعَى
 نُورُهُمْ بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَبِأَيْمَانِهِمْ بُشْرًا
 لَّهُمْ هَلْ يَوْمَ جَنَّاتٍ تَجْرَى مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ
 فِيهَا ذَلِكَ هُوَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿١٢﴾

يَوْمَ يَقُولُ الْمُنَافِقُونَ وَالْمُنَافِقَاتُ لِلَّذِينَ آمَنُوا
 انظُرُوا نَارَنا فَنَقْتُبَسْ مِنْ نُورِكُمْ فَيَلْزِمُوا وَرَاءَكُمْ
 قَالَتِمُسُوا نُورًا فَضَرْبَ بَيْنَهُمْ بِسُورٍ لَهُ بَابٌ
 بَاطِنُهُ فِيهِ الرَّحْمَةُ وَظَاهِرُهُ مِنْ قِبَلِهِ الْعَذَابُ ﴿١٣﴾

يُنَادُوهُمْ أَمْ تَرَكْنَا مَعَكُمْ قَالُوا بَلَى وَلَكِنْ كُنْتُمْ
 أَنْفُسَكُمْ وَتَرَضَّيْتُمْ أَنْ تُتَبَّسَّ عَنْكُمْ الْأَمْثَالُ
 حَتَّى جَاءَ أَمْرُ اللَّهِ وَعَزَّ بِاللَّهِ الْعُرُورُ ﴿١٤﴾

1 「地獄の上の架け橋」は、足元が定まらず滑（すべ）りやすい所で、その上には様々な障害物がある。信仰者は現世での行いに応じた速さでそこを渡り、天国へと向かう（ムスリム「信仰の書」302 参照）。一説に、この時に各人が授かる光の大きさは様々で、偽信者*の光はこの架け橋で消えてしまうとされる（イブン・カシール 8:15 参照）。マルヤム*章 71 とその訳注も参照。

2 彼らの前方を照らす光は、彼らの信仰心と正しい行い*で、彼らの右手にあるのは行いの帳簿（ちょうぼ）である（夜の旅章 71 参照）、という解釈もある（アル＝クルトゥビー 17:243 参照）。

3 一説にこの「壁」は、高壁章 46 に登場する「障壁」のこと（イブン・カシール 8:17 参照）。

4 偽信者*たちは表面上、宗教的な義務を果たしていた（ムヤッサル 539 頁参照）。

にかけ、(預言者^{よげんしや}*と信仰者たちの死と災難^{さいなん}を) 待ちわび、(復活への) 疑惑に陥った。アッラー*のご命令^{ごうらい}が到来するまで、根拠^{こんきよ}もない願望^{がんぼう}があなた方を欺いたのであり、欺く者^{あざむ}^{きうく}があなた方をアッラー* (の寛大さと猶予^{ゆうよ}という口実) によって欺いたのだ」。

15. ならば(偽信者^{にせ}*たちよ、) この日、(懲罰^{ちやう}を免じてもらうための) 償いがあなた方からも、不信仰だった者*たちからも、受け入れられることはない。あなた方の住処^{すみか}は業火^{ごうか}なのだから。それがあなた方の相応^{あうおう}しい場所。その行き先の、何と醜惡なことか。

16. 信仰に入った者たちには、アッラー*の教訓と、真理から下ったもの(クルアーン*)に對して、その心が恭順^{きようじゆん}³になる時期はまだ来ないのか？ また、以前に啓典^{けいてん}を授けられたものの時間^{じかん}が経ってしまい、その心が硬化^{こうか}してしまった者たちのようにならないための(時期は)？ 彼らの多くは、放逸^{ほういつ}な者たちだったのである。

17. 知るのだ、アッラー*こそが大地を、その死後に息吹かせられる^{いぶ}お方であるということ。われら*はあなた方に対し、確かに(われら*の全能性^{みしるし}の)御徴^{みしるし}を明らかにした。あなた方が(それを)弁^{わきま}えるように、である。

قَالِیَوْمَ لَا یُخَذُّ مِنْكُمُ فِدْیَةٌ وَلَا مِنَ الَّذِیْنَ
كَفَرُوا مَا وَلَّیْكُمْ النَّارُ هِیَ مَوْلَاكُمْ
وَبِئْسَ الْمَصِیْرُ ﴿١٥﴾

* أَلَمْ یَأْنِ لِلَّذِیْنَ ءَامَنُوا أَنْ تَخْشَعَ قُلُوبُهُمْ
لِذِكْرِ اللَّهِ وَمَا نَزَلَ مِنَ الْحَقِّ وَلَا یَكُونُوا
كَالَّذِیْنَ أُوتُوا الْكِتَابَ مِنْ قَبْلُ فَطَالَ عَلَيْهِمُ الْأَمَدُ
فَقَسَتْ قُلُوبُهُمْ وَكَبُرُ مِنْهُمْ فُسُوقٌ ﴿١٦﴾

أَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ یَحْیِ الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا قَدْ بَيَّنَّا
لَكُمْ الْآیَاتِ لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ﴿١٧﴾

1 この「アッラー*のご命令」とは、死のこととされる(ムヤツサル 539 頁参照)。

2 「欺く者」については、ルクマーン章 33 の訳注を参照。

3 「恭順」については、雌牛章 45 の訳注も参照。

4 干上がった大地を息吹かせるように、アッラー*は不信仰だった者*を信仰者に、迷った者を導かれた者として下さる(アッ・タバリ-9:7895 参照)。雌牛章 164 の訳注も参照。

18. 本当に、(アッラー*の道において) よく施す男たちとよく施す女たち——彼らは、アッラー*により貸付¹をしたのだ——には、(その褒美^{ほうび}が) 倍增^{ばいぞう}されよう。そして彼らには、貴い糧^{とうと} (天国) があるのだ。

19. アッラー*とその使徒^{しと}*を信じた者たち、それらの者たちこそは大そうな正直者^{みちと}²。また殉教者^{じゆんきやう}たちにはアッラー*の御許^{みもと}で(復活の日*)、その報い^{むく}と光^{ひかり}³がある。そして不信仰^{ふしやう}に陥り、われら*の御徴^{みしるし}⁴を嘘呼^{うそ}ばわりした者たち、それらの者たちは地獄の徒なのだ。

20. (人々よ、) 知るがよい、現世の生活は遊興^{ゆうきやう}、戯れごと、飾り、自分たちの間の誇り合い、財産と子供の増やし合いに過ぎない。(それは) あたかも、その植物が農夫^{のうふ}⁵たちを喜ばせた慈雨^{じう}のようである。やがてそれは枯れ、あなたはそれが黄色くなるのを目にし、ついにはそれは木々^{ぼぼ}端微塵^{みじん}になってしまう。そして来世にこそ、(不信仰者に対する) 厳しい懲罰^{ちやうばつ}と、(信仰者に対する) アッラー*からのお赦しとお喜びがあるのだ。現世の生活は、偽りの楽しみに過ぎない。⁶

إِنَّ الْمَصْدَقِينَ وَالْمَصْدَقَاتِ وَأَقْرَبُوا اللَّهَ
فَصَاحِسًا بَصْعَةً لَهُمْ وَلَهُمْ أَجْرٌ كَرِيمٌ ﴿١٨﴾

وَالَّذِينَ آمَنُوا بِاللَّهِ وَرُسُلِهِ وَأُولَئِكَ هُمُ
الْمُصْدِقُونَ وَالشَّهَدَاءُ عِنْدَ رَبِّهِمْ لَهُمْ
أَجْرُهُمْ وَوَرُورُهُمُ وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا
بِعَايِنَاتِنَا أُولَئِكَ أَصْحَابُ الْجَحِيمِ ﴿١٩﴾

أَعْلَمُوا أَنَّهَا الْحَيَوَةُ الدُّنْيَا لَعِبٌ وَلَهُمْ زِينَةٌ
وَتَفَاخُرٌ بَيْنَكُمْ وَكَانَتْ فِي الْأَمْوَالِ وَالْأَوْلَادِ
كَمَثَلٍ عَيْنٌ أَعْجَبَ الْكَفَّارَ بِنَاتِهِمْ يَهْمِجُ
فَتَرْتَبُهُ مُضْغَرًا يَكُونُ حُطْلَمًا فِي الْآخِرَةِ
عَذَابٌ شَدِيدٌ وَمَعْفَرَةٌ مِنَ اللَّهِ وَرِضْوَانٌ وَمَا
الْحَيَوَةُ الدُّنْيَا إِلَّا مَتَاعُ الْمُرُورِ ﴿٢٠﴾

1 アッラー*に対する「よき貸付」については、雌牛章 245 の訳注を参照。

2 「大そうな正直者」については、婦人章 69 の訳注を参照。尚、「殉教者たち」も「それらの者たち」の述語に含める、という解釈もある (イブン・カスィール 8:22-23 参照)。

3 この「光」については、アーヤ*12 とその訳注を参照。

4 この「御徴」とは、クルアーン*と、そこに含まれる教えや規定のこと (アル=ジャザーイーリ-5:270 参照)。

5 「農夫」ではなく「不信仰者*たち」という解釈もある (アル=クルトゥビー-17:255-256 参照)。

6 家畜章 32 の訳注も参照。

21. (人々よ、)あなた方の主*^{しゅ}からのお赦^{ゆる}しと、天国へと向かって競い合え。その広さは、天地の広さもあるかのようであり、アッラー*とその使徒^{きそ}*たちを信じる者たちのために用意されている。それは、かれがお望みの者にお与えになる、アッラー*のご恩寵^{おんちよう}なのだ。アッラー*は偉大な恩寵^{おんちよう}の主^{ぬし}であられる。

22. 地上における、そしてあなた方自身におけるいかなる災難^{さいなん}も、われら*がそれを創生^{そうせい}¹する以前に書²の中で(予め定めること)なくしては、降りかかることがなかったのだ。実にそれはアッラー*にとって、容易いこと。

23. (アッラー*がこのように仰せられるのは、)あなた方が、(現世で)自分たちが逃したもののゆえに心痛ませたり、かれ(アッラー*)が自分たちに授けて下さったもののゆえに、有頂天^{うちやうてん}になったりしないようにするため。アッラー*は(、自分が現世^{げんせい}で授かったもののゆえに)尊大^{そんだい}ぶる者、(他人に対して)高慢^{こうまん}ちきな者をお好みにはならない。

24. (彼らは、財産を)出し惜しみし、人々にも吝嗇^{りんしやく}を勧める者たち。そして(アッラー*への服従^{ふくじゆう}に)背を向ける者があっても、(アッラー*はそのような者のことなど意にも介されない、)本当にアッラー*こそは満ち足りておられる*お方、称賛^{しょうさん}されるべき*お方なのだから。

سَابِقُوا إِلَىٰ مَغْفِرَةٍ مِّن رَّبِّكُمْ وَجَنَّةٍ عَرْضُهَا
كَعَرْضِ السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ أُعِدَّتْ لِلَّذِينَ
ءَامَنُوا بِاللَّهِ وَرُسُلِهِ ذَٰلِكَ فَضْلُ اللَّهِ
يُؤْتِيهِ مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٥٧﴾

مَا أَصَابَ مِنْ مُّصِيبَةٍ فِي الْأَرْضِ وَلَا فِي
أَنْفُسِكُمْ إِلَّا فِي كِتَابٍ مِّن قَبْلِ أَنْ نَبْرَأَهَا
إِنَّ ذَٰلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ﴿٥٨﴾

إِن كَيْدًا تَأْسَوْا عَلَىٰ مَا فَاتَكُمْ وَلَا
تَفْرَحُوا بِمَا آتَاكُمْ إِنَّكُمْ أَنتُمْ لِلَّهِ لَاجِبُونَ كُلَّ
مُخْتَلٍ فَخُورٍ ﴿٥٩﴾

الَّذِينَ يَبْخُلُونَ وَيَأْمُرُونَ النَّاسَ بِالْبَخْلِ
وَمَن يَبْخُلْ فَإِنَّ اللَّهَ هُوَ الْعَزِيزُ الْحَمِيدُ ﴿٦٠﴾

1 頻出名・用語解説「創生者*」も参照。

2 この「書」は、定められし碑板*のこと(ムヤッサル 540 頁参照)。

25. われら*は確かに、われら*の使徒*たちを明証¹と共に遣わし、彼らと共に啓典と、人々が公正を行うための秤^{はかり}を下した。またわれら*は、多大な威力と、人々への諸益^{しよえき}を有する鉄を下した。(それは)アッラー*が、かれ(の宗教)とその使徒*たちをまだ見ぬままに²援助する者が誰かを、如実に表し結うためであった。本当にアッラー*は、強力なお方、偉力ならびない*お方であられる。

26. また、われら*はヌーフ*とイブラーヒーム*を遣わし、彼ら二人の子孫の内に預言者*としての天分^{けいてん}と啓典を与えた³。そして彼らの内には導かれた者がいる一方、彼らの多くは放逸な者たちなのだ。

27. それから、われら*は彼ら(ヌーフ*とイブラーヒーム*)の跡をわれら*の使徒*たちに継がせ、マルヤム*の子イーサー*にも継がせて、彼に福音*を授けた。また、彼(イーサー*)に従った者たちの心の中には、哀れみ深さと慈悲の念^{めい}を授けた。そして彼らは、われら*が彼らに義務づけたものではない修道生活を、(崇拜*における行き過ぎから勝手に)創始した。ただ、(彼らは)アッラー*のお喜びを求めて(そうしたままで)のことだったのだが、それ(修道生活)に対して真の配慮^{はいりよ}を払うこともなかった⁴。

لَقَدْ أَرْسَلْنَا رُسُلَنَا بِالْبَيِّنَاتِ وَأَنزَلْنَا مَعَهُمُ الْكِتَابَ وَالْمِيزَانَ لِيَقُومَ النَّاسُ بِالْقِسْطِ وَأَنزَلْنَا الْحَدِيدَ فِيهِ بَأْسٌ شَدِيدٌ وَمَنْفَعٌ لِلنَّاسِ وَلِيَعْلَمَ اللَّهُ مَنْ يَنْصُرُهُ وَرُسُلَهُ بِالْغَيْبِ إِنَّ اللَّهَ قَوِيٌّ عَزِيزٌ ﴿٥٧﴾

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا نُوحًا وَإِبْرَاهِيمَ وَجَعَلْنَا فِي ذُرِّيَّتِهِمَا النُّبُوَّةَ وَالْكِتَابَ فَمِنْهُمْ مُهْتَدٍ وَكَثِيرٌ مِنْهُمْ فَسِقُونَ ﴿٥٨﴾

ثُمَّ قَفَّيْنَا عَلَى آدَارِهِم بِرُسُلِنَا وَقَفَّيْنَا بِعِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ وَآتَيْنَاهُ الْإِنْجِيلَ وَجَعَلْنَا فِي قُلُوبِ الَّذِينَ اتَّبَعُوهُ رَأْفَةً وَرَحْمَةً وَرَهْبَانِيَّةً ابْتَدَعُوهَا مَا كَتَبْنَاهَا عَلَيْهِمْ إِلَّا ابْتِغَاءَ رِضْوَانِ اللَّهِ فَمَا رَعَوْهَا حَقَّ رِعَايَتِهَا فَآتَيْنَا الَّذِينَ آمَنُوا مِنْهُمْ أَجْرَهُمْ وَكَثِيرٌ مِنْهُمْ فَسِقُونَ ﴿٥٩﴾

1 この「明証」とは、彼らがもたらしたものの正しさを証明する、証拠のこと(ムヤッサル 541 頁参照)。

2 人々から見えないところで、援助するということ。あるいは、自分の目で見たわけでもないアッラー*とその使徒*たちを、援助するということ(アッ=シャウカーニー5:236 参照)。

3 全ての預言者*は、ヌーフ*及びイブラーヒーム*の子孫であり、啓典もまた全て、彼らの子孫に下った(アッ=サアディー842 頁参照)。

4 彼らは以下の二つの面で、それをなおざりにした:①そのようなことを勝手に始めたこと。

②自分たちに課したことを、十分に果たさなかったこと(前掲書、同頁参照)。

そしてわれら*は彼らの内の（預言者*ムハンマド*を）信仰した者たちに、その褒美を授けたのだ。彼らの多くは（預言者*ムハンマド*を信じない）、放逸な者たちなのだが。

28. 信仰する者たち¹よ、アッラー*を畏れ*、かれの使徒*を信じよ。かれはあなた方に、そのご慈悲からの倍の取り分をお与えになり、あなた方がそれを携えて歩む光²をあなた方に下さり、あなた方のために（罪を）お赦し下さろう。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

29. （アッラー*がそのようにされるのは、）啓典の民*が、自分たちがアッラー*のご恩寵³の内、いかなるものに対しても力を有してはいないこと、そして（全ての）恩寵はアッラー*の御手にこそ委ねられており、かれがそれをお望みの者に与えられるということ⁴を、知るためなのである。アッラー*は、偉大なる恩寵の主であられるのだから。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا اتَّقُوا اللَّهَ وَآمِنُوا
بِرُسُولِهِ يُؤْتِكُمْ أَكْثَرِينَ مِنْ رَحْمَتِهِ وَيَجْعَلْ
لَكُمْ نُورًا تَمْشُونَ بِهِ وَيَغْفِرْ لَكُمْ وَاللَّهُ
غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٢٨﴾

لَتَلَذَّطْنَهُنَّ أَهْلَ الْكِتَابِ الَّا يَتَذَكَّرُونَ عَلَى
شَيْءٍ مِنْ فَضْلِ اللَّهِ وَأَنَّ الْفَضْلَ بِيَدِ اللَّهِ
يُؤْتِيهِ مَنْ يَشَاءُ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٢٩﴾

- 1 この「信仰する者たち」が誰のことを指すかについては、「啓典の民*」「全ての者」という二つの説がある。前者の場合、「倍の取り分」とは、自分たちの預言者*と預言者*ムハンマド*のいずれをも信仰することゆえの、倍の褒美（ほうび）のこと（イブン・カスィール 8:30 33 参照）。物語章 52 54 とその訳注も参照。また後者の場合、「信仰と、畏れ*」の念ゆえの二つの褒美「命令に従い、禁令を避（さ）けることゆえの二つの褒美」あるいは、そもそも「倍」は「二倍」に限らず、褒美が何倍にもされることを示している（アッ＝サアディー843 頁参照）。
- 2 この「光」には、「（現世での）導き」「クルアーン*」「地獄の架け橋で共に歩み、天国へと導いてくれる光（アーヤ*12 参照）」といった解釈がある。（アル＝クルトゥビー17:267 参照）。
- 3 この「ご恩寵」の解釈には、「イスラーム*」「褒美」「糧（かて）」「恩恵」といった諸説がある（前掲書 17:268 参照）。
- 4 この「恩寵」は、特に預言者*ムハンマド*の預言者*性を指している、とも言われる（前掲書、同頁参照）。一説にこの意味は、「自分たちが他の人々よりも優れていると信じていた、イスラーム*を受け入れない啓典の民が、アッラー*がムスリム*たちに彼らよりも沢山の恩寵を与えられたということを知り、知るため」ということ（アル＝カースィミー16:5702 参照）。

第 58 章

抗弁する女章 (アル＝ムジャーディラ)¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (預言者*よ、) アッラー*は確かに、自分の夫(のこと)であなたに抗弁し、アッラー*に苦情を訴える女²の言葉をお聞きになった。そしてアッラー*は、あなた方兩人の問答をお聞きである。本当にアッラー*は、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方なのだから。
2. あなた方の内で、自分たちの妻をズィハール*する者たち。彼女らは彼らの母親ではない。彼らの母親は、自分たちを産んだ女性に外ならないのだ³。そして本当に彼らは、言葉による悪事⁴と偽りをまさしく口に出しているのであり、本当にアッラー*はまさに、よく寛恕される*お方、赦し深いお方であられる。
3. また、自分たちの妻をズィハール*し、それから自分が言ったことを撤回する者たち、(彼らには、妻と性交渉すべく)お互いに触れ合う前に、首一つ⁵の解放(が義務づけら

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قَدْ سَمِعَ اللَّهُ قَوْلَ الَّتِي تُجَادِلُكَ فِي زَوْجِهَا
وَتَشْتَكِي إِلَى اللَّهِ وَاللَّهُ يَسْمَعُ تَحَاوُرَكُمَا إِنَّ
اللَّهَ سَمِيعٌ بَصِيرٌ ﴿١﴾

الَّذِينَ يَظْهَرُونَ مِنْكُمْ مَنْ نِسَاءَهُمْ فَأَهْلُ
أُمَمَهُمْ إِنَّمَا هُنَّ أُمَّهَاتُهُنَّ لِأَنَّ اللَّهَ وَلَدَهُنَّ
وَأَنَّهُنَّ يَصْفُونَ مَنْ كَرِهَ لِقَوْلِ زَوْرٍ
وَإِنَّ اللَّهَ لَعَفُوفٌ غَفُورٌ ﴿٢﴾

وَالَّذِينَ يَظْهَرُونَ مِنْ نِسَائِهِمْ ثُمَّ يَعُودُونَ لِمَا
قَالُوا فَتَحْرِيرُ رَقَبَةٍ مَنْ قِيلَ أَنْ يَمْسَسَ ذَلِكَ
نُوعُطُونَ بِهِ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿٣﴾

- 1 マディーナ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*名「抗弁する女」の「抗弁」のきっかけとなったズィハール*を始め、密談(みつだん)、集まりの場での決まりや作法などが説明される一方、ユダヤ教徒*や偽(にせ)信者*たちの内に秘めた悪が所々で暴(あば)かれると共に、そのような「シャイターン*の党派」の敗北と、信仰者たち「アッラー*の党派」の勝利が約束される。
- 2 この女性は、ハウラ・ピント・サアラバで、「夫のこと」とは、彼女の夫アウス・ブン・アッ＝サーミトが、彼女をズィハール*したこと(アブー・ダーウード 2214 参照)。
- 3 妻をズィハール*することと、自分の母親の関連性については、頻出名・用語解説「ズィハール*」の中の具体的なズィハール*の例と、部族連合章 4 およびその訳注を参照。
- 4 「悪事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。
- 5 ここでの「首」の意味については、婦人章 92 の同語の訳注を参照。

れる)。(信仰者たちよ、)それが、あなた方が戒められていること。アッラー*は、あなた方が行うことに通曉つうぎょうされるお方であられる。

4. (もし夫が、解放すべき奴隷*どれいを)見出せない者ならば、お互いに触れ合う前に、連続二ヶ月の齋戒*さいかい(が義務づけられる)。そして(それも)出来ない者ならば、六十人の貧者*ひんじやに食物¹を施すこと(が課される)。それは、あなた方がアッラー*とその使徒*しとを信じ(てアッラー*の法に従い、ジャーヒリーヤ*の習慣を放棄す)るため。そしてそれがアッラー*の決まりであり、不信仰者*ふしやうしやたちにこそは痛ましい懲罰ちやうばつがあるのだ。

5. 本当に、アッラー*とその使徒*しとに歯向かう者たちは、彼ら以前の(同様の)者たちが卑しめられたように、卑しめられるのである。われら*は、(アッラー*の教えと法が真理であることを証明する)明らかなる御徴を、確かに下したのだ。そして不信仰者*ふしやうしやたちにこそは、屈辱の懲罰がある。

6. アッラー*が彼ら全員を蘇よみがえらせられ、彼らが行ったことをお告げになる(復活の)日*(アッラー*は彼らを罰し給う)。彼らがそれ(行い)を忘れてしまっている、アッラー*はそれを数え上げられる²のであり、アッラー*は全てのことに對する証人なのだから。

فَمَنْ لَمْ يَجِدْ قِسْماً شَهِيراً مُتَابِعِينَ مِنْ قَبْلِ
أَنْ يَتَمَاسَّ فَمَنْ لَمْ يَسْتَطِعْ فَاِطْعَامَ سِتِّينَ
مِسْكِيناً ذَلِكَ لِتُؤْمِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَتِلْكَ
حُدُودُ اللَّهِ وَلِلْكَافِرِينَ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٤﴾

إِنَّ الَّذِينَ يُحَادُّونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ كُبِرُوا كَمَا
كُتِبَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ وَقَدْ أَنْزَلْنَا آيَاتٍ
بَيِّنَاتٍ وَلِلْكَافِرِينَ عَذَابٌ مُهِينٌ ﴿٥﴾

يَوْمَ يَبْعَثُهُمُ اللَّهُ جَمِيعاً فَيُنَبِّئُهُمْ بِمَا عَمِلُوا
أَحْصَاهُ اللَّهُ وَسُوءُ مَا عَلَى كُلِّ شَيْءٍ
شَهِيدٌ ﴿٦﴾

1 「食物」の分量については、食卓章 89 の訳注を参照。

2 そもそも全ての出来事は、守られし碑板*に定められており、かつ天使*たちによって行いの帳簿(ちょうぼ)に記録されている(ムヤッサル 542 頁参照)。高壁章 8 の訳注も参照。

7. 一体（預言者*よ、）あなたは、アッラー*が諸天にあるものと、大地にあるもの（全て）をご存知なのを知らないのか？ かれ（アッラー*）が（その御知識によって）その四番目となることなしに、三人の密談は成立せず、かれがその六番目となることなしに、五人（の密談）が成立することもない。また、それより少ない数（の密談）も、多い数（の密談）も、彼らがどこにあらうと、かれが（その御知識によって）彼らと共にあることなくしては成立しないのだ。それから、かれは復活の日*、彼らが行ったことを彼らにお告げになる。本当にアッラー*は、全てのことをご存知のお方なのだから。

8. （使徒*よ、）一体あなたは、密談を禁じられた後に自分たちが禁じられたことへと戻り、罪や侵犯や使徒への反抗をもって密談する者たちを見なかったのか？²
（使徒*よ、）彼らはあなたのところにやって来ると、アッラー*があなたに挨拶されたものではないものによって、あなたに挨拶した³。そして彼らの内輪で、（こう）言う

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ مَا يَكُونُ مِنْ نَجْوَى ثَلَاثَةٍ إِلَّا هُوَ رَابِعُهُمْ وَلَا تَمْسُقُ إِلَّا هُوَ سَادِسُهُمْ وَلَا أَدْنَى مِنْ ذَلِكَ وَلَا أَكْثَرَ إِلَّا هُوَ مَعَهُمْ أَيْنَ مَا كَانُوا ثُمَّ يُنَبِّئُهُمْ بِمَا عَمِلُوا يَوْمَ الْقِيَمَةِ ۚ إِنَّ اللَّهَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٧﴾

أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ نُهُوا عَنِ النَّجْوَى ثُمَّ يَعُودُونَ لِمَا نُهُوا عَنْهُ وَيَسْتَكْبِرُونَ بِالْإِيمَةِ وَالْعَدْوِ وَمَعْصِيَةِ الرَّسُولِ ۖ وَإِذَا جَاءَكَ جَوَارِكُكَ بِمَا لَمْ يَحْجِبْكَ بِهِ اللَّهُ وَيَقُولُونَ فِي أَنْفُسِهِمْ لَوْلَا يُعَذِّبُنَا اللَّهُ بِمَا نَقُولُ حَسْبُكُمْ جَهَنَّمُ تَبَصُّوْنَهَا فَيَنْسِفُ الْمَصِيرُ ﴿٨﴾

- 1 この後続の文にもあるように、密談する者の数が何人であらうと、アッラー*は彼らの話をご存知である（アル＝クルトゥビー17:290 参照）。しかし、なぜここでアッラー*が「三人」と「五人」という数を、特に言及されているかについては、以下のような解釈がある：①それが実際に、偽（にせ）信者*たちの間で起こったことだった。②アッラー*は奇数をお好みになるため。③話し合いは常に二者間で、かつその間に誰かを介した形で行われるため（アル＝バイダーウィー5:310 参照）。
- 2 ユダヤ教徒*や偽信者*たちは、ムスリム*たちにこれ見よがしに、集まって密談したものだ。そのことはムスリム*たちの不興（ふきょう）を買っていたが、彼らは密談を禁じられても、やめなかったのだという（アル＝クルトゥビー17:291 参照）。婦人章 114 も参照。
- 3 このアーヤ*は、ユダヤ教徒*が預言者*に対し、「あなたに平安（アッ＝サラム）を」（その意味については、家畜章 54 の訳注を参照）という挨拶の変わりに、「あなたに死（アッ＝サーム）を」と言ったことについて下ったとされる（ムスリム「挨拶の書」11 参照）。

のだ。「どうしてアッラー*は、私たちが(ムハンマド*について)言うことゆえに、私たちを罰さないのか？」彼らには(その懲罰として)、彼らが入って炙られることとなる地獄で十分。その行き先は、何と醜悪だらうか。

9. 信仰する者たちよ、あなたが密談する時には、罪や侵犯や使徒*への反抗をもって密談してはならない。そして善と敬虔さ*をもって密談し、その御許へとあなたが召集され(、全ての言動の報いを受け)ることとなるアッラー*を畏れる*のだ。¹

10. (罪や侵犯ゆえの)密談は、信仰する者たちを悲しませるゆえ、まさしくシャイターン*からのもの。アッラー*のお許しなくしては、彼(シャイターン*)が彼ら(信仰者たち)を害する者となることはないが。そして信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させるのだ。

11. 信仰する者たちよ、集まりの場であなた方に「(新しく来た者が座するために、場所を空けて)広くしてやりなさい」と言われたら、広くしてやれ。(そうすれば)アッラー*は、あなた方のために(現世と来世で)広くして下さろう。また、あなた方に(礼拝や戦いなど、自分たちの益となる物事において)「立ち上がりなさい」と言われたならば、立ち上がるのだ。(そうすれば)アッラー*は、あなた方の内の信仰する者たちと、知識を授けられた者たちの位を上げて

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا إِذَا تَنَجَّيْتُمْ فَلَا تَنَجَّيُوا
بِالْأَشْمِ وَالْعَذْوَانِ وَمَعْصِيَتِ الرَّسُولِ
وَتَنَجَّيُوا بِالْإِيزِ وَالْتَّقْوَى وَتَقُوا اللَّهَ الَّذِي إِلَيْهِ
تُحْشَرُونَ ﴿٩﴾

إِنَّمَا التَّجْوِي مِنَ الشَّيْطَانِ لِيَحْزُنَ الَّذِينَ
ءَامَنُوا وَلَيْسَ بِضَرَارِهِمْ شَيْءٌ إِلَّا بِإِذْنِ اللَّهِ
وَعَلَى اللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ الْمُؤْمِنُونَ ﴿١٠﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا إِذَا قِيلَ لَكُمْ تَفَسَّحُوا فِي
الْمَجْلِسِ فَافْسَحُوا يَفْسَحِ اللَّهُ لَكُمْ وَإِذَا قِيلَ
أَنْشُرُوا فَأَنْشُرُوا يَرْفَعِ اللَّهُ الَّذِينَ ءَامَنُوا مِنْكُمْ
وَالَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ دَرَجَاتٍ وَاللَّهُ يَمَّا
تَعْمَلُونَ حَبِيرٌ ﴿١١﴾

1 婦人章 114 も参照。

下さろう¹。アッラー*は、あなた方が行く
ことに通曉されるお方。

12. 信仰する者たちよ、あなた方が使徒*と密談
する時には、あなた方の密談の前に、(貧
しい者に) 施しをせよ²。それがあなた方
にとって、より善く、清いこと。そして、
もし(施すものを) 見出せなくても(問題
はない)、本当にアッラー*は赦し深いお方、
慈愛深い*お方なのだから。

13. 一体あなた方は、(使徒*との) 密談の前に
施しをすることを、(貧困の原因として)
恐れたのか? もし、あなた方が(施しを)
しなかったのならば——アッラー*は、あな
た方の悔悟をお受け入れになった——、
礼拝を遵守*し、浄財*を払い、アッラー*
とその使徒*に従え。アッラー*は、あなた
方が行くことに通曉されるお方なのだ。

14. 一体あなたは、アッラー*がお怒りになった
民(ユダヤ教徒*)を盟友とした者たちを、
見なかったのか?³ 彼らはあなた方(ムス
リム*)の仲間でもなければ、彼ら(ユダヤ
教徒*)の仲間でもない。そして彼らは(自
分たちの嘘を) 知りつつ、嘘において誓っ
ているのだ⁴。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا نَجِيتُمُ الرَّسُولَ فَقَدِمُوا
بَيْنَ يَدَيْ نَجْوَاكُمْ صَدَقَهُ ذَلِكَ خَيْرٌ لَكُمْ وَأَظْهَرُ
فَإِنْ لَمْ تَجِدُوا فَإِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿١٢﴾

ءَأَشْفَقْتُمْ أَنْ تُقَدِّمُوا بَيْنَ يَدَيْ نَجْوَاكُمْ
صَدَقَتْ فَإِذَا تَفَعَّلُوا وَتَابَ اللَّهُ عَلَيْكُمْ فَاقْبَلُوا
الصَّلَاةَ وَآتُوا الزَّكَاةَ وَاطِيعُوا اللَّهَ
وَرَسُولَهُ، وَاللَّهُ خَبِيرٌ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١٣﴾

* أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ تَوَلَّوْا قَوْمًا غَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ
مَّا هُمْ مِنْكُمْ وَلَا مِنْهُمْ وَيَحْلِفُونَ عَلَى الْكَذِبِ وَهُمْ
يَعْلَمُونَ ﴿١٤﴾

1 つまり、自分の同胞がやって来た時に場所を空けてやったり、立ち上がるように言われて立ったりすることは、自分の権利を失うことではなく、むしろアッラー*の御許での位が上がり、特別なものとなることを意味する(イブン・カスィール 8:48 参照)。また、ここでの「知識を授けられた者」とは、知識と行いを両立した者のこと(アル=バイダーウィー 5:312 参照)。

2 このアーヤ*で述べられている決まりは、間もなくアーヤ*13 によって撤回(てっかい)された(イブン・カスィール 8:49-51 参照)。アーヤ*の撤回については、雌牛章 106 の訳注を参照。

3 ユダヤ教徒*を盟友とした者たちとは、偽信者*のこと(ムヤッサル 544 頁参照)。イムラーン家章 28 とその訳注も参照。

4 偽信者*たちは、自分たちの悪い言動を咎(とが)められると、自分たちはそんなことはしていない、と誓ったものだった(イブン・ジュザイ 2:423 参照)。

15. アッラー*は彼ら（偽信者*たち）に、厳しい懲罰をご用意された。本当に、彼らが行っていたことの何と忌まわしいことか。
16. 彼らは自分たちの（嘘の）誓約を盾¹にして、（自分たちと人々を）アッラー*の道から阻んだ。彼らには、屈辱的な懲罰がある。
17. 彼らの財産も、子供たちも、アッラー*（の懲罰）に関して、少しも彼らの役に立つことはない。それらの者たちは、地獄の徒。彼らはそこに、永遠に留まる者たちである。
18. （信仰者たちよ、）アッラー*が彼ら全員を蘇²らせられ、あなた方に対して彼らが（現世で）誓っているように、かれ（アッラー*）に対して（自分たちは信仰者でした、と）誓う（復活の）日*。彼らは（現世でそれがムスリム*たちに通用したように）、自分たちが通用すると思っている。本当に、彼らこそは嘘つきなのではないか。
19. シャイターン*が彼らを（、彼らがシャイターン*に服従したゆえに）制圧し、彼らにアッラー*の唱念³を忘れさせた²のである。それらの者たちは、シャイターン*の党派。本当にシャイターン*の党派こそは、損失者なのではないか。

أَعَدَّ اللَّهُ لَهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا إِنَّهُمْ سَاءَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٥﴾

أَتَّخَذُوا أَيْمَانَهُمْ جُنَّةً فَصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ فَلَهُمْ عَذَابٌ مُهِينٌ ﴿١٦﴾

لَنْ نَنْفَعَهُمْ أَمْوَالُهُمْ وَلَا أَوْلَادُهُمْ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا أُولَئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿١٧﴾

يَوْمَ يَبْعَثُهُمُ اللَّهُ جَمِيعًا فَيَحْلِقُونَ لَهُ، كَمَا يَحْلِقُونَ لَكُمْ وَيَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ عَلَى شَيْءٍ أَلَا إِنَّهُمْ هُمُ الْكَذِبُونَ ﴿١٨﴾

أَسْتَخْوَدَ عَلَيْهِمُ الشَّيْطَانُ فَأَنسَاهُمْ ذِكْرَ اللَّهِ أُولَئِكَ حِزْبُ الشَّيْطَانِ أَلَا إِنَّ حِزْبَ الشَّيْطَانِ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿١٩﴾

1 ムスリム*たちから自分たちの生命と財産を守るための、「盾」という意味（ムヤッサル 544 頁参照）。

2 彼らはアッラー*を、心でも言葉でも、想起することがなかった（アル＝バイダーウィー 5:314 参照）。あるいは、アッラー*のご命令とかれへの服従をおろそかにし、放棄した（アル＝クルトゥビー 17:306 参照）。シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

20. 本当に、アッラー*とその使徒*に齒向かう者たち、それらの者たちは（現世と来世において、）最も卑しめられた者。
21. アッラー*は（守られし碑板*の中で、）「われと、わが使徒*たちは、必ずや勝利するのだ」と書き記されたのである。本当にアッラー*は、強力なお方、偉力ならびない*お方であられるのだ。
22. （使徒*よ、）あなたはアッラー*と最後の日*を信仰する民が、アッラー*とその使徒*に齒向かう者を愛するのを、見出すことがない。たとえ彼らが、自分たちの父親、自分たちの兄弟、自分たちの近親だったとしても、である¹。アッラー*は、それらの者たちの心の中に信仰を（確固たるものとして）書き定められ、かれからの魂²によって彼らをお支えになったのだ。そして、かれは（来世において）彼らを、その下から河川が流れる楽園にお入れになる。彼らはそこに、永遠に留まるのだ。アッラー*は彼らをお喜びになり、彼らもかれに満足する。それらの者たちが、アッラー*の党派。本当にアッラー*の党派こそは、（現世と来世での）成功者なのではないか。

إِنَّ الَّذِينَ يُحَادُّونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ أُولَئِكَ فِي الْأَذَلِّينَ ﴿٥٨﴾

كَتَبَ اللَّهُ لَأَعْلَيْنَا أَنَا وَرُسُلِي إِنَّ اللَّهَ قَوِيٌّ عَزِيزٌ ﴿٥٩﴾

لَا يَجِدُ قَوْمًا يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ يُوَادُّونَ مَنْ حَادَّ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَلَوْ كَانُوا آبَاءَهُمْ أَوْ أَبْنَاءَهُمْ أَوْ إِخْوَانَهُمْ أَوْ عَشِيرَتَهُمْ أُولَئِكَ كَتَبَ فِي قُلُوبِهِمُ الْإِيمَانَ وَأَيَّدَهُمْ بِرُوحٍ مِنْهُ وَيُدْخِلُهُمْ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا رَضِيَ اللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا عَنْهُ أُولَئِكَ حِزْبُ اللَّهِ أَلَا إِنَّ حِزْبَ اللَّهِ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿٦٠﴾

1 同様のアーヤ*として、イムラーン家章 28 とその訳注も参照。

2 この「魂」の解釈には、「勝利」「信仰」「クルアーン*とその根拠」「アッラー*のご慈悲」「ジブリール*とその援助」といった諸説がある（アル＝バガウィー5:50 参照）。

第 59 章
集合章 (アル=ハシュル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラーを称え^{たた}る。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。
2. かれは啓典^{けいてん}の民*の内、不信仰だった者*たちを、最初の集合^{たもと}²においてその住居から追い出し給うたお方。（ムスリム*たちよ、）あなた方は彼らが出て行くとは思っておらず、彼ら自身、自分たちの砦^{とりで}が、彼らをアッラー*（の懲罰^{ちやうばつ}）から守ってくれるものと思っていた。だがアッラー*（による追放^{ついほう}の定め）は、彼らが想像もしなかったところから彼らのもとに到来し、彼らの心の中に恐怖を投げ入れたのである。彼らは自分たちの家^{みずか}を自らの手と、信仰者たちの手^{こわ}で壊

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَبِّحَ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ
وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿١﴾

هُوَ الَّذِي أَخْرَجَ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ
مِنْ دِيَارِهِمْ لِأَوَّلِ الْحَشْرِ مَا ظَنَنْتُمْ أَنْ يَخْرُجُوا
وَوَدَّوْا أَنْهُمْ مَا يَمَعُكُمْ حُصُونُهُمْ مِنَ اللَّهِ
فَأَنْتَهُمُ اللَّهُ مِنْ حَيْثُ لَمْ يَحْشِسُوا وَقَذَفَ
فِي قُلُوبِهِمُ الرُّعْبَ يُخْرِبُونَ بُيُوتَهُمْ بِأَيْدِيهِمْ
وَأَيْدِي الْمُؤْمِنِينَ فَاعْتَبِرُوا يَا أُولِيَ الْأَبْصَارِ ﴿٢﴾

- 1 マディーナ*啓示。ユダヤ教徒*であったナディール族との戦いに関して下ったスーラ*であり、そのスーラ*名も、彼らが「集合」させられてマディーナ*を追放された出来事^{こと}に由来する。それに関連し、戦利品*に関する規定、ムハージルーン*やアンサール*への賛美、ユダヤ教徒*と内通する偽（にせ）信者*たちの暴露（ばくろ）などが取り上げられる。スーラ*後半では、信仰者に対する敬虔さ*のすすめと、不信仰者*に対する警告がなされ、アッラー*の偉大な属性の数々による賞賛によって締めくくられる。
- 2 「最初の集合」とは、ナディール族が集合させられ、最初の追放を強（し）いられた出来事のこと（ムヤッサル 545 頁参照）。詳しくは、頻出名・用語解説「ナディール族との戦い*」を参照。一方、二番目の「集合」については、「アラビア半島からシャーム地方（現在のパレスチナ、シリア周辺地域）へと、彼らをまとめて追放したこと」「復活の日*、大火が人々を東から西へと集めつつ追いやること」といった解釈がある（アル=バガウィー 5:53 参照）。

した¹のだ。ならば慧眼^{けいがん}の持ち主たちよ、（彼らに起きたことを）熟慮^{じゅくりょ}せよ。

3. もし、アッラー*が彼らに追放^{ついほう}をお定めにならなかったのなら、かれは現世で彼らを（殺害^{ころし}や捕囚^{しゅう}などにより、）罰^{ばつ}されたことであろう。そして彼らには来世で、業火^{ごうか}の懲罰^{ちやうばつ}がある。
4. それというのも、彼らがアッラー*とその使徒^{しと}*に反したからである。アッラー*とその使徒^{しと}*に反する者があれば、アッラー*はその者を罰^{ばつ}される、実にかれは厳しい懲罰^{ちやうばつ}を与え給うお方なのだから。
5. （信仰者たちよ、）あなた方がナツメヤシの木を切ったとしても、それらをその根幹^{こんかん}の上にそびえるまま放^{はな}つておいたとしても、（それは）アッラー*のお許しによるもの（だったの）であり、かれが放逸^{ほういつ}な者たちを辱^{はづかし}めるためだったのである。²
6. そしてアッラー*がその使徒^{しと}*に、彼ら（ナディール族）から（戦闘することなく）戦利品^{せんりひん}³として与えたものは、あなた方がその（獲得の）ために馬やラクダを駆^かったわけではなかった。しかしアッラー*はその使徒

وَلَوْلَا أَن كَرَّمَ اللَّهُ عَلَيْهِمُ الْجَلَاءَ لَعَذَّبَهُمْ فِي الدُّنْيَا وَلَهُمْ فِي الْآخِرَةِ عَذَابُ النَّارِ ﴿٥﴾

ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ شَاقُّوا اللَّهَ وَرَسُولَهُ. وَمَن يُشَاقِّ اللَّهَ فَإِنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ ﴿٦﴾

مَا قَطَعْتُم مِّن لِّينَةٍ أَوْ تَرَكْتُمُوهَا قَائِمَةً عَلَى أُصُولِهَا فَبِإِذْنِ اللَّهِ وَلِيُخْرِجَ الْفَاسِقِينَ ﴿٧﴾

وَمَا أَفَاءَ اللَّهُ عَلَى رَسُولِهِ مِنْهُمْ فَمَا أَوْجَفْتُمْ عَلَيْهِ مِّنْ خَبِيلٍ وَلَا رِكَابٍ وَلَكِنَّ اللَّهَ يُسَلِّطُ رُسُلَهُ عَلَى مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٨﴾

1 この意味には、「追放される際、家屋を壊して木材などを運んで持って行き、残りの部分はムスリム*によって壊された」「追放の後、ムスリム*たちによって利用されないよう、自分たちの手で家屋を壊した」「ムスリム*たちは戦いの場を拡大すべく、彼らの住居を壊していったが、彼らは住居の後方に穴を開けては別の住居へと移動し、転々としていった」などの解釈がある（アル＝バガウィー5:53 参照）。

2 ムスリム*たちは預言者*の認可のもと、ナディール族の士気をくじくため、あるいは場所を広くするため、彼らが所有するナツメヤシの木々を切り倒した。それに関し、ナディール族がそれを悪い*い*として非難したため、このアーヤ*が下ったのだとされる（アル＝クルトゥビー18:6 参照）。

3 この戦利品*「ファイウ」については、頻出名・用語解説の「戦利品*」を参照。

*たちに、かれが^たお望みになる者を制圧させ給う。アッラー*は全てのことがお出来のお方なのだ。

7. アッラー*が、町の住人（であるシルクの徒*）からその使徒*に、（戦闘することなく）戦利品¹として与えたものは、アッラー*とその使徒*、近親、孤児、貧者*、旅路（で苦境）にある者に属する²。（それは財産が、）あなた方の裕福な者たちの間（だけ）を循環するものとならないようにするため。また、使徒*があなた方に与えたものは取り入れ、彼があなた方に禁じたものは放棄するのだ。アッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は、厳しい懲罰を与え給うお方なのだから。

8. 自分たちの住居と財産から追い出された、ムハージルーン*の困窮者*たちに³。彼らはアッラー*からのご恩寵とお喜びを求め、アッラー*（の宗教）とその使徒*を援助する。それらの者たちこそは、（自分たちの言葉を行いで証明した）正直者である。

9. また、彼ら（ムハージルーン*の移住*）以前に、その町（マディーナ*）に信仰心と共に居を定めた者たち（アンサル*）⁴。彼らは自分たち（のもと）に移住*した者を愛し、彼ら

مَا أَفَاءَ اللَّهُ عَلَى رَسُولِهِ مِنْ أَهْلِ الْقُرَىٰ فَلِلَّهِ وَلِلرَّسُولِ وَلِلَّذِينَ آمَنُوا وَالْمَسْكِينِ وَالسَّبِيلِ ۚ لَا يَكُونُ دُولَةً بَيْنَ الْأَغْنِيَاءِ مِنْكُمْ وَمَا آتَاكُمْ الرَّسُولُ فَخُذُوهُ وَمَا نَهَاكُمْ عَنْهُ فَانْتَهُوا وَاتَّقُوا اللَّهَ ۚ إِنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ ﴿٥٩﴾

لِلْفُقَرَاءِ الْمُهَاجِرِينَ الَّذِينَ أُخْرِجُوا مِنْ دِيَارِهِمْ وَأَمْوَالِهِمْ يَبْتَغُونَ فَضْلًا مِنَ اللَّهِ وَرِضْوَانًا وَيَصْرُونَ لِلَّهِ وَرَسُولِهِ أُولَٰئِكَ هُمُ الصَّادِقُونَ ﴿٦٠﴾

وَالَّذِينَ تَبَوَّءُوا الدَّارَ وَالْإِيمَانَ مِنْ قَبْلِهِمْ يُحِبُّونَ مَنْ هَاجَرَ إِلَيْهِمْ وَلَا يَجِدُونَ فِي صُدُورِهِمْ حَاجَةً مِّمَّا أُوتُوا وَيُؤْثِرُونَ عَلَىٰ

1 この戦利品*「ファイウ」については、頻出名・用語解説の「戦利品*」を参照。また、非ムスリムとの安全保障・戦いについては、悔悟章 36 の訳注も参照。

2 同様のアーヤ*である、戦利品章 41 とその訳注を参照。

3 このアーヤ*「ムハージルーン*の困窮者*たちに」の文法的な解釈には、「アーヤ*7 の『…属する』につながる」「同アーヤ*の『…循環するものとならないようにするため』につながり、『…ではなく、しかし…困窮者*たちに』となる」「『…困窮者*たちに（は驚くべきである）』という文が省略されている」といった諸説がある（アッ=シャウカーニー5:266 参照）。

4 このアーヤ*は文法上、アーヤ*8「…困窮者*たちに」にかかるとも、それとは無関係だとも言われる（アル=クルトゥビー18:21 参照）。

(ムハージルーン*)が与えられたもの¹について、その胸中に嫉妬の念を見出さず、(彼らのことを)自分たち自身よりも優先する。たとえ彼らに、必要性があったとしても、である。自分自身の貪欲さから守られた者、それらの者たちこそは成功者なのだ。

10. また、彼ら(ムハージルーン*とアンサール*)の後にやって来た者たちで、(こう)言う者たち²。「我らが主*よ、私たちと、信仰において私たちに先駆けた私たちの兄弟たち(の罪)をお赦し下さい。そして私たちの心の内に、信仰する者たちへの憎しみの念を湧かせないで下さい。我らが主*よ、本当にあなたは哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方です」。

11. 一体あなたは、偽の信仰に陥った者たちを見ないのか？ 彼らは啓典の民*の内、不信仰に陥った彼らの同胞に(こう)言う。「もしも、あなた方が(ムハンマド*によって)追い出されたならば、私たちは必ずやあなた方と共に出て行き、あなた方(を見捨てたりすること)に関して、絶対に誰にも従わない。また、もしあなたが戦いを仕掛けられたならば、私たちは必ずやあなた方を援助しよう」³。アッラー*は、本当に彼ら(偽信者*たち)がまさしく、嘘つきであることを証言される。

أَنْفُسِهِمْ وَلَوْ كَانَ بِهِمْ خَصَاصَةٌ وَمَنْ يُوقِ
سُحَّ نَفْسِهِ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿١٠﴾

وَالَّذِينَ جَاءُوا مِنْ بَعْدِهِمْ يَقُولُونَ رَبَّنَا
أَغْفِرْ لَنَا وَلِإِخْوَانِنَا الَّذِينَ سَبَقُونَا
بِالْإِيمَانِ وَلَا تَجْعَلْ فِي قُلُوبِنَا غِلًا لِلَّذِينَ
آمَنُوا رَبَّنَا إِنَّكَ رَءُوفٌ رَحِيمٌ ﴿١١﴾

﴿أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ نَافَقُوا يَقُولُونَ
لِإِخْوَانِهِمُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ
لَئِنْ أَخْرَجَكُمْ لِتُخْرَجَنَّ مَعَكُمْ وَلَا تُطِيعُ
فِيكُمْ أَحَدًا أَبَدًا وَإِنْ قُوتِلْتُمْ لَنَنْصُرَنَّكُمْ
وَاللَّهُ يَشْهَدُ إِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ ﴿١٢﴾﴾

1 これはムハージルーン*だけに分配された、ナディール族の戦利品*のこと(アル=バガウイ 5:58 参照)。

2 これは、ムハージルーン*とアンサール*の善き手法と美点を踏襲(とうしゅう)し、かつ彼らのために公私において幸を祈る者たちのこと。悔悟章 100 とその訳注も参照(イブン・カスィール 8:72-73 参照)。

3 これはナディール族に対する、偽信者*たちの扇動(せんどう)の言葉(ムヤッサル 547 頁参照)。詳しくは、頻出名・用語解説「ナディール族との戦い*」を参照。

12. もしも彼ら（ナディール族）が（マディーナ*から）追放されたとしても、彼ら（偽信者*たち）は決して、彼らと共に出て行くことはない。また、もしも彼らが戦いを仕掛けられたとしても、彼ら（偽信者*たち）は絶対に彼らを援助したりしない。そして、たとえ彼ら（偽信者*たち）が（、ナディール族を）援助したとしても、彼らはきっと背中を見せて敗走するのであり、（アッラー*によって）勝利を授けられることもないのだ。

13. （信仰者たちよ、）彼ら（偽信者*たちとユダヤ教徒*）の胸中においては、あなた方こそがアッラー*よりも激しい恐怖（の的）なのだ。それは実に彼らが、（アッラー*の偉大さと、かれへの信仰を）理解しない民だからなのである。

14. 彼ら（ユダヤ教徒*）は（その臆病さと恐怖ゆえ、）砦で囲まれた町か、壁の向こう側からしか、あなた方に全員で攻撃してきたりはしない。彼らの間の敵意は激しい¹。あなたは彼ら²が団結していると思う。彼らの心は（信条や目的の不一致で、）ばらばらなのだが、それは実に彼らが、（アッラー*のご命令と御徴を）弁（み）する（わ）き（ま）ることのない民だからなのだ。

لَئِنْ أَخْرَجُوا لَا يَخْرُجُونَ مَعَهُمْ وَلَئِنْ قُتِلُوا لَا يَنْصُرُوهُمْ وَلَئِنْ نَصَرُوهُمْ هُمْ يَكُونُونَ
الْأَذِلَّةَ الَّذِينَ لَا يَنْصُرُونَ ﴿١٢﴾

لَأَنْتُمْ أَشَدُّ رَهْبَةً فِي صُدُورِهِمْ مِنَ
اللَّهِ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ لَا يَفْقَهُونَ ﴿١٣﴾

لَا يُقَاتِلُونَكُمْ جَمِيعًا إِلَّا فِي قُرَى مُخْتَصَةٍ
أَوْ مِنْ وَرَاءِ جُدُرٍ بَأْسُهُمْ بَيْنَهُمْ شَدِيدٌ
تَحْسَبُهُمْ جَمِيعًا وَقُلُوبُهُمْ شَتَّى ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ
قَوْمٌ لَا يَعْقِلُونَ ﴿١٤﴾

1 その他、「壁や砦の向こうに自分たちだけでいる限り、彼らの威勢（いせい）は強い」という解釈もある（アル＝バガウィー5:62 参照）。

2 この「彼ら」が誰を指すのかについては、「ユダヤ教徒*と偽信者*たち」「偽信者*たち」「シルク*の徒と啓典の民*」といった説がある（アル＝クルトゥビー18:36 参照）。

15. (彼らユダヤ教徒*の様子は、) 彼らより前の最近の者たち¹の様子のようである。彼らは(現世で) 彼らの事² (ゆえ) の罰³を味わったのであり、彼らにこそは(来世において) 痛ましい懲罰があるのだ。
16. (彼ら偽信者*たちが、ユダヤ教徒*を戦いへと唆⁴す様子は、) 人間に「不信仰となれ」と言った時の、シャイターン*の様子のようである。それで彼が不信仰に陥ると、彼(シャイターン*)は(こう) 言ったのだ。「本当に私は、あなたとは無縁である。本当に私は、全創造物の主*アッラー*を怖れているのだから」。
17. 彼ら(シャイターン*と彼に従った人間) 両人の行く末は、地獄の中。彼ら両人はそこに、永遠に留まる者となる。それが不正*者たちへの応報なのだから。
18. 信仰する者たちよ、アッラー*を畏れ*、自分自身が明日⁵のために成したことをよく考えよ。そしてアッラー*を畏れる*のだ。本当にアッラー*は、あなた方が行うことに通曉されるお方なのだから。
19. また、アッラー* (の唱念と義務) を忘れ、それでかれが彼らに(その不⁶服従ゆえ)、自分自身のことを忘れさせ給うた者⁷たちようになってはならない。それらの者たちこそは、放逸な者たちなのだから。

كَمَثَلِ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ قَرِيبًا ذَاتُوا
وَيَا أَمْرِهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١٥﴾

كَمَثَلِ الشَّيْطَانِ إِذْ قَالَ لِلْإِنْسَانِ اكْفُرْ
فَلَمَّا كَفَرَ قَالَ إِنِّي بَرِيءٌ مِنْكَ إِنِّي أَخَافُ
اللَّهَ رَبَّ الْعَالَمِينَ ﴿١٦﴾

فَكَانَ عَاقِبَتُهُمَا أَنَّهُمَا فِي النَّارِ خَالِدِينَ فِيهَا
وَذَلِكَ جَزَاءُ الظَّالِمِينَ ﴿١٧﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا اتَّقُوا اللَّهَ وَلْتَنْظُرْ نَفْسٌ
مَّا قَدَّمَتْ لِغَدٍ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ خَبِيرٌ
بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١٨﴾

وَلَا تَكُونُوا كَالَّذِينَ نَسُوا اللَّهَ فَأَنْسَاهُمْ
أَنْفُسَهُمْ أُولَئِكَ هُمُ الْفَاسِقُونَ ﴿١٩﴾

1 これは、バドルの戦い*でのクライシュ族*の不信仰者*たちや、ナディール族より先にマディーナ*を追放された、ユダヤ教徒*のカイヌカーウ族のことを指すとされる (ムヤッサル 547 頁参照)。

2 彼らの不信仰と、預言者*に対する敵対心という「事」(前掲書、同頁参照)。

3 復活の日*という「明日」のこと (前掲書 548 頁参照)。

4 復活の日*に自分自身の役に立つ原因となる、善行を忘れさせられた者のこと (前掲書、同頁参照)。

20. 地獄の徒と天国の徒は、同等ではない。天国の徒こそは勝利者なのだ。
21. もし、われら*がこのクルアーン*を山に下し（、それがその約束と警告を理解し）たならば、あなたはそれが恭順となり¹、アッラー*への恐怖ゆえに砕け散るのを見たであろう。そしてそれらの譬えは、われら*が人々に挙げるもの。彼らが（アッラー*の御力と偉大さを）熟考するように、とのためである。
22. かれはアッラー*。その外に、（真に）崇拜すべきいかなるものもないお方で、不可視の世界*と現象界²をご存知のお方。かれは慈悲あまねき*お方、慈愛深い*お方であられる。
23. かれはアッラー*。その外に、（真に）崇拜すべきいかなるものもないお方。（真の）王、聖なる*お方、平安な*お方、保障される*お方、統制される*お方、偉力ならびない*お方、制圧される*お方、威風堂堂たる*お方。彼らがシルク*を犯しているものから（無縁な）、アッラー*に称え*あれ。
24. かれはアッラー*、創造主、創生者*、造形者。かれにこそ、美名は属する。諸天と大地にある（全ての）ものは、かれを称え*る。そして、かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

لَا يَسْتَوِي أَصْحَابُ النَّارِ وَأَصْحَابُ
الْجَنَّةِ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ هُمْ الْفَائِزُونَ ﴿٢٠﴾
لَوْ أَنزَلْنَاهُ هَذَا الْقُرْآنَ عَلَى جَبَلٍ لَّرَأَيْنَاهُ
خَاشِعًا مُّصَدِّعًا مِّنْ خَشْيَةِ اللَّهِ وَتِلْكَ
الْأَمْثَلُ نُصَرِّفُهَا لِلنَّاسِ لَعَلَّهُمْ
يَتَفَكَّرُونَ ﴿٢١﴾

هُوَ اللَّهُ الَّذِي لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ عَلَيْهِ السَّلَامُ
وَالشَّهَادَةُ هُوَ الرَّحْمَنُ الرَّحِيمُ ﴿٢٢﴾

هُوَ اللَّهُ الَّذِي لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ الْمَلِكُ
الْقُدُّوسُ السَّلَامُ الْمُؤْمِنُ الْمُهَيْمِنُ
الْعَزِيزُ الْجَبَّارُ الْمُتَكَبِّرُ سُبْحَانَ اللَّهِ
عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٢٣﴾

هُوَ اللَّهُ الْخَلِيقُ الْبَارِئُ الْمُصَوِّرُ لَهُ
الْأَسْمَاءُ الْحُسْنَى يُسَبِّحُ لَهُ مَا فِي
السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٢٤﴾

1 「恭順さ」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

2 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

第60章

試問される女章（アル＝ムムタヒナ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 信仰する者たちよ、わが敵と、あなた方の敵を盟友としてはならない。あなた方は（彼らに対する）愛情ゆえ、彼らに（使徒*の情報とムスリム*間の秘密を、）軽々しく流している²。彼らは、あなた方のもとに到来した真理³を、確かに否定したというのに。（信仰者たちよ、）彼らは、あなた方が自分たちの主*アッラー*を信仰するがゆえ、使徒*とあなた方のことを（マッカ*から）追い出したのだ。あなた方がわが道における奮闘と、わが喜びへの希求ゆえに（、移住*に）出たのだとしたら（、彼らを盟友とするのではない）。あなた方は（彼らへの）愛情ゆえ、彼らに秘密裏に伝えている——われはあなた方が隠したことも、露わにしたことも、最もよく知っているのだ——。あなた方の内、そうする者は誰でも、真^まっ当^{とう}な道から確かに迷い去ってしまっている。⁴

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَتَّخِذُوا عَدُوِّي وَعَدُوَّكُمْ
أَوْلِيَاءَ تَلْقَوْنَ إِلَيْهِم بِالْمَوَدَّةِ وَقَدْ كَفَرُوا بِمَا جَاءَكُمْ
مِّنَ الْحَقِّ يُخْرِجُونَ الرَّسُولَ وَإِيَّاكُمْ أَن تُؤْمِنُوا بِاللَّهِ
رَبِّكُمْ إِنَّ كُفْرَهُمْ خَرَجَكُمْ جَهَنَّمَ فِي سَبِيلِي وَإِنِّي
مَرَّضَاتِي لَيُسرُونَ إِلَيْهِم بِالْمَوَدَّةِ وَأَنَا أَعْلَمُ
بِمَا أَخْفَيْتُمْ وَمَا أَعْلَمْتُمْ وَمَن يَفْعَلْهُ مِنكُمْ
فَقَدْ ضَلَّ سَوَاءَ السَّبِيلِ ﴿١﴾

1 マディーナ*啓示。シルク*の徒を盟友とすることの警告が、その理由、結果、たとえばなどと共に、取り上げられる。また戦争、あるいは平和な状態におけるムスリム*と非ムスリム間の関係についての法規定が描写されるが、スーラ*名ともなっている「試問される女」は、この流れで登場する、マッカ*から移住*してきた女性たちの試問、誓約（せいやく）などの規定の説明（アーヤ*10 以降を参照）に由来する。スーラ*の最後は再び、不信仰者*を盟友とすることに対する警告によって、締めくくられる。

2 「彼らに、愛情を軽々しく示している」という解釈もある（アル＝クルトゥビー18:52 参照）。

3 この「真理」とは、アッラー*とその使徒*、そしてクルアーン*への信仰のこと（ムヤッサル 549 頁参照）。

4 預言者*がマディーナ*からマッカ*へと向かうことを決心した際、マッカ*にいた自分の子供と財産を心配したハーティブ・ブン・アビー・バルタアという教友*が、その知らせをマッカ*の民に伝える伝言を送った。啓示が下ってその事実が明らかになり、その伝言は阻止（そ

2. もし、彼ら（われとあなた方の敵）があなた方に優勢に立てば、彼らはあなた方に対する（公然の）敵となり、あなた方に悪意をもってその手と口を伸ばして来よう¹。あなた方が（彼ら同様）、不信仰に陥ることを望みつつ。
3. （彼ら不信仰者^{めいゆう}*たちを盟友^{きずな}としても、）あなた方の近親の絆も、あなた方の子供たちも、あなた方の役に立つことはない。復活の日*、かれはあなた方の間をお分けになり、信仰者は天国へ、不信仰者^{めいゆう}*は地獄へ入るのだ。アッラー*は、あなた方が行うことをご覧になるお方。
4. （信仰者たちよ、）イブラーヒーム*と、彼と共にあった（信仰）者の内には、確かにあなた方へのよき模範^{もはん}があった。彼らが（不信仰者*である）自分たちの民に、（こう）言った時のこと。「本当に私たちは、あなた方と、あなた方がアッラー*をよそに^{おが}崇めているものとは無縁^{むえん}です。私たちはあなた方を否定し、あなた方がアッラー*だけを信仰するまで、私たちとあなた方との間には、永遠の敵意^{ぞうお}と憎悪^おが現れたのです」。但し、イブラーヒーム*の彼の父親に対する、「私は必ずや、あなたのために赦しを乞いましょう。私はあなたのために、アッラー*（のご意思）に対して、何（の力）も有してはいませんが」という言葉は別（で、模範と

إِنْ يَتَقَوُّوا بِكُمُ الْكُفَّاءَ وَيَسْطُوا إِلَيْكُمْ
أَيْدِيَهُمْ وَأَلْسِنَتُهُمْ بِالسُّوءِ وَوَدُّوا أَنْ
تَكْفُرُوا ﴿١﴾

لَنْ نَنْفَعَكَ أَرْحَامُكَ وَلَا وَلَدُكَ يَوْمَ الْقِيَمَةِ
يَقْصِلُ بَيْنَكَ وَاللَّهِ يَمَّا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿٢﴾

فَكَانَتْ لَكُمْ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ فِي إِبْرَاهِيمَ وَالَّذِينَ
مَعَهُ إِذْ قَالُوا اقْمِصْهُ لَنَا بَرَةً وَأَوَّامِنُكُمْ وَمِمَّا
تَعْبُدُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ هَـؤُلَاءِ بَنُو بَدِئْنَا
وَبَيْنَكُمْ الْعَدَاوَةُ وَالْبَغْضَاءُ أَبَدًا حَتَّى تُؤْمِنُوا
بِاللَّهِ وَحْدَهُ إِلَّا قَوْلَ إِبْرَاهِيمَ لِأَبِيهِ لَا تُشْفِقَنَّ
لَكَ وَمَا أَمْلَيْتُ لَكَ مِنَ اللَّهِ مِنْ شَيْءٍ رَبَّنَا
عَلَيْكَ تَوَكَّلْنَا وَإِلَيْكَ أَنْتَبَا وَإِلَيْكَ الْمَصِيرُ ﴿٣﴾

し）されたが、このアーヤ*は、この出来事について下ったとされる（アル＝ブハーリー 4274 参照）。尚、これはマッカ開城*の年のことだとも、フダイビーヤの和議*の年のことだとも言われる（アル＝クルトビー 18:51 参照）。不信仰者*との関係については、アーヤ*8、イムラーン家章 28 とその訳注も参照。

1 つまり、殺害や捕虜（ほりよ）の憂（う）き目を味わわせたり、悪口や中傷（ちゅうしょう）の言葉を投げかけてきたりする、ということ（ムヤッサル 549 頁参照）。

してはならない)¹。(イブラーヒーム*とその仲間たちは、言った。)²「我らが主*よ、私たちはあなたにこそ全てを委ね*、あなたにこそ(悔悟して)立ち返りました。そしてあなたにこそ、帰り所はあります。

5. 我らが主*よ、私たちを不信仰に陥った者*たちの試練とはしないで下さい²。また、私たちのために(私たちの罪を)お赦し下さい、我らが主*よ。本当にあなたこそは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのですから」。

6. (信仰者たちよ、)彼ら(イブラーヒーム*と、彼と共にあった者たち)の内には、確かにあなた方、アッラー*と最後の日*を望む³者への、よき模範があった。そして背く者⁴があらうと(、そのつけは自分自身に返って来るだけである)、本当にアッラー*こそは満ち足りた*お方、称賛されるべき*お方なのだから。

7. (信仰者たちよ、)もしかするとアッラー*は、あなた方と、彼ら(近親であるシルク*の徒)の内であなた方が敵対した者たちの間に、(彼らがイスラーム*を受け入れることによって、)愛情を芽生えさせられるかもしれない。アッラー*は全能のお方であり、アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

رَبَّنَا لَا تَجْعَلْنَا فِتْنَةً لِلَّذِينَ كَفَرُوا وَاعْفُ رَنَا
إِنَّكَ أَنْتَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٥﴾

لَقَدْ كَانَ لَكُمْ فِيهِمْ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ لِّمَن كَانَ يَرْجُوا
اللَّهَ وَالْيَوْمَ الْآخِرَ وَمَن يَتَوَلَّ فَإِنَّ اللَّهَ هُوَ الْغَنِيُّ
الْمُجِيدُ ﴿٦﴾

*عَسَى اللَّهُ أَن يَجْعَلَ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَ الَّذِينَ عَادَيْتُمْ
مِنْهُمْ مَّوَدَّةً وَاللَّهُ قَدِيرٌ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿٧﴾

1 イブラーヒーム*がアッラー*に、不信仰者*だった父親の罪の赦しを乞うたことについては、悔悟章 114 とその訳注、マルヤム*章 47 を参照。

2 このアーヤ*の意味については、ユーヌス*章 85 とその訳注を参照。

3 この「望む」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

4 預言者*たちへの追従(ついじゅう)という、アッラー*のご命令に背き、アッラー*の敵を盟友とする者のこと(ムヤッサル 550 頁参照)。

8. アッラー*は、宗教においてあなた方と戦ってもおらず、あなた方をあなた方の家から追い出してもない者たちに、あなた方が善行を施し、公正に接することを禁じていらっしゃるわけではない¹。本当にアッラー*は、公正な者たちをお好みになるのだから。

9. 実にアッラー*があなた方に禁じられるのは、宗教においてあなた方と戦い、あなた方をあなた方の家から追い出し、あなた方の追放に手を貸した者たちを盟友とすることなのである。彼らを盟友とする者、それらの者たちこそは不正*者なのだから。

10. 信仰する者たちよ、あなた方のもとに信仰者の女たちが（不信仰者*の世界から、イスラーム*世界へと）移住*者としてやって来たら、（その信仰心を確かめるべく）彼女らを試問せよ²——アッラー*が彼女らの信仰心を、最もよくご存知である——。そして、もし彼女らが信仰者だと分かったならば、あなた方は彼女らを不信仰者*たち（である彼女らの夫のもと）に返してはならない。彼女らは彼らにとって（妻として）合法ではなく、彼らも彼女らにとって（夫として）合法ではないのだから。また、彼ら

لَا يَهْدِيهِمُ اللَّهُ عَنِ الَّذِينَ لَمْ يُقَاتِلُوا فِي الدِّينِ
وَلَمْ يُخْرِجُوا مِنْ دِيَارِهِمْ أَنْ يَرْوَوْهُ وَنُقْضُوا
إِلَيْهِمْ إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُقْسِطِينَ ﴿٨﴾

إِنَّمَا يَهْدِيهِمُ اللَّهُ عَنِ الَّذِينَ قَاتَلُوا فِي الدِّينِ
وَأُخْرِجُوا مِنْ دِيَارِهِمْ وَظَهَرُوا عَلَى إِخْرَاجِهِمْ
أَنْ تَوَلَّوْهُمْ وَمَنْ يَتَوَلَّهُمْ فَأُولَئِكَ هُمُ الظَّالِمُونَ ﴿٩﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا جَاءَكُمُ الْمُؤْمِنَاتُ مِنْ هَاجِرٍ
فَأَمْتَحِنُوهُنَّ اللَّهُ أَعْلَمُ بِإِيمَانِهِنَّ فَإِنْ عَلِمْتُمُوهُنَّ
مُؤْمِنَاتٍ فَلَا يَرْجِعُوهُنَّ إِلَى الْكُفَّارِ لَا لَهُنَّ حُلٌّ لَهُمْ
وَلَا لِهَرَجَاتٍ لَهُنَّ وَأَنْتُمْ مَا أَنْفَقُوا وَلَا جُنَاحَ
عَلَيْكُمْ أَنْ تَنْكِحُوهُنَّ إِذَا آتَيْنَموهُنَّ أَجُورَهُنَّ
وَلَا تَنْسِكُوا بِعِصَمِ الْكُفَّارِ وَتَسْأَلُوا مَا أَنْفَقْتُمْ
وَلَيْسَ لَكُمْ أَنْفَقُوا ذَلِكَ حِكْمُ اللَّهِ يُخَذُّ مِنْكُمْ
وَاللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ﴿١٠﴾

1 イムラーン章28と、その訳注も参照。

2 フダイビーヤの和議*の合意の中には、マッカ*からマディーナ*へとやって来たムスリム*は、マッカ*へと返還されなければならない、という項目があった。その後、イスラーム*を受け入れた女性がマッカ*を後にして預言者*のもとにやって来たが、彼は「(例の) 項目は男性だけのものであり、女性には適用されない」として、彼女をマッカ*に返還しなかった。このアーヤ*は、このことに関して下ったとされる。尚、「試問」の内容については、「移住*の目的が、アッラー*とその使徒*への愛情以外の何ものでもないことの宣誓」「シャハーダ*の証言」「アーヤ*12にある誓約」といった諸説がある(アル=クルトゥビー18:61参照)。

(自分の妻がイスラーム*に改宗した、不信仰者*の夫たち)には、彼らが(彼女らに)費やしたものを¹与えよ。そして、あなた方が彼女らに(イッダ*の後、)彼女らの婚資金*を与えたならば、あなた方が彼女らと結婚しても、あなた方に罪はない。また、不信仰者*の女性たちの絆に、しがみ付いてはならない²。そしてあなた方が(自分たちの妻に)費やしたものを請求し、彼らには彼らが(自分たちの妻に)費やしたものを請求させよ³。それが、あなた方の間を裁くアッラー*の法。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方であられる。

11. また、もしあなた方の妻たちの一部が、(イスラーム*を棄てて)あなた方から不信仰者*たちのところへと逃れ、その後あなた方が(彼ら不信仰者*たちに勝利を収め、戦利品*という)戦果を得た⁴ならば、妻たちに去られてしまった者たちに、彼らが(彼女らに婚資金*として)費やしたものを与えよ。そしてあなた方が信じているアッラー*をこそ、畏れる*のだ。

وَإِنْ فَاتَكُمْ شِقَاءٌ مِنْ أَزْوَاجِكُمْ إِلَى الْكُفَّارِ
فَعَاقِبْتُهُنَّ فَأَمَّا الَّذِينَ ذَهَبَتْ أَزْوَاجُهُمْ فَبَشِّرْ
مَا أَنْفَقُوا وَأَنْفَقُوا اللَّهُ الَّذِي أَنْتُمْ بِهٖ مُؤْمِنُونَ ﴿٥١﴾

1 つまり婚資金*のこと (ムヤッサル 550 頁参照)。

2 つまり、不信仰者*の女性との結婚関係を続けてはならない、ということ (前掲書、同頁参照)。尚、啓典の民*の女性は、ここには含まれないとされる (アル=クルトゥビー 18:66 参照)。

3 ムスリム*男性の妻であった女性がイスラーム*を棄(す)て、不信仰者*のところへ逃げて彼らと結婚したら、そのムスリム*男性は彼女に与えた婚資金*を彼らに請求せよ、そしてその逆も同様である、ということ (ムヤッサル 550 頁参照)。イブン・アル=アラビー*によれば、この規定の有効性が当時の特別な状況に限定されたものということで、学者間の意見は一致している (4:231 参照)。

4 ほかに、「彼らを戦いで痛めつけて、戦利品*を得たら」「彼らと同じようにやり返したら」といった解釈がある (アル=バガウィー 5:74 参照)。

12. 預言者*よ、信仰者の女たちが、あなたと誓約——アッラー*に何も並べ(て崇拜*せ)ず¹、盗まず、姦通せず、(出産前でも後でも)自分の子供たちを殺さず²、自分たちの手と足の間で捏造をでっち上げず³、善事⁴においてあなたに逆らわない、との(誓約)——を交わしに、あなたのもとにやって来たら、彼女らと誓約を交わし、彼女らのためにアッラー*にお赦しを乞え⁵。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。
13. 信仰する者たちよ、アッラー*がお怒りになった民を盟友とするのではない。彼らは、墓の住人である不信仰者*たちが(、来世でアッラー*のご慈悲を受けることに対して)失望しているように⁶、来世(での褒美を得ること)に対して、確かに失望するのだから。

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ إِذَا جَاءَكَ الْمُؤْمِنَاتُ يَبْتَاعُكَ عَلَى أَنْ لَا يُشْرِكْنَ بِاللَّهِ شَيْئًا وَلَا يَسْرِقْنَ وَلَا يَزْنِينَ وَلَا يَقْتُلْنَ أَوْلَادَهُنَّ وَلَا يَأْتِينَ بِهَمَازٍ يَفْقَرُ لَهُنَّ بَيْنَ أَيْدِيهِنَّ وَأَرْجُلِهِنَّ وَلَا يَعَصِيَنَّكَ فِي مَعْرُوفٍ فَبْتَاعَهُنَّ وَاسْتَغْفِرَ لَهُنَّ اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿١٢﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَتَوَلَّوْا قَوْمًا غَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ قَدْ يَسُؤُوا مِنَ الْآخِرَةِ كَمَا يَبِيسُ الْكُنَّازُ مِنَ أَصْحَابِ الْقُبُورِ ﴿١٣﴾

1 頻出名・用語解説「シルク*」も参照。

2 「嬰兒(えいじ)殺し」については、家畜章 137 とその訳注も参照。

3 「手と足の間で捏造をでっち上げる」とは、大半の解釈学者によれば、夫のものではない子供を、彼の子供であると偽(いつわ)ること(アル=クルトゥビー18:72 参照)。

4 この「善事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

5 この誓約はマッカ開城*の際、イスラーム*を受け入れる意思を表明したマッカ*の女性たちに対し、行われた。また、それ以前、マディーナ*へと移住*してきたムスリム*女性たちに対しても、この誓約が取り交わされたとされる(前掲書 18:71 参照)。

6 「復活を信じない不信仰者*たちが、墓の中に入っている自分たちの親族とは二度と会えないことに、失望しているように…」という別の解釈もある(イブン・カスィール 8:103 参照)。

第61章
戦列章（アッ＝サッフ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え*る。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。
2. 信仰する者たちよ、なぜあなた方は、自分たちがやりもしないことを言うのか？
3. 自分たちがやりもしないことを言うのは、アッラー*の御許で、忌まわしいことこの上ないのだ。
4. 本当にアッラー*は、かれの道において、結束した一つの建物のように（戦）列を組んで戦う者たちを、お好みになる。
5. ムーサー*がその民に、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「我が民よ、あなた方は、本当に私があなた方に対するアッラー*の使徒*であることを確かに知っているのに、なぜ私に危害を加えるのか？」そして彼らが（真理を知った上で、そこから）逸れた時、アッラー*は彼らの心を（導きの受容から）お逸らしになった。アッラー*は放逸な民をお導きにはならない。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَمِحَ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ
وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿١﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لِمَ تَقُولُونَ مَا لَا
تَفْعَلُونَ ﴿٢﴾

كَبُرَ مَقْتًا عِنْدَ اللَّهِ أَنْ تَقُولُوا مَا لَا
تَفْعَلُونَ ﴿٣﴾

إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الَّذِينَ يُقِيمُونَ فِي سَبِيلِهِ
صَفَاكَ أَفْئَتُهُمْ بُنِينَ مَرْصُوصَ ﴿٤﴾

وَإِذْ قَالَ مُوسَى لِقَوْمِهِ يَتَقَوْمِ لِمَ
تُؤَدُّونَنِي وَقَدْ تَعْلَمُونَ أَنِّي رَسُولُ اللَّهِ
إِلَيْكُمْ فَلَمَّا زَاغُوا أَزَاغَ اللَّهُ قُلُوبَهُمْ
وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْفَاسِقِينَ ﴿٥﴾

1 マディーナ*啓示で学者間の意見は、ほぼ一致。一説には、このスーラ*自体、教友*たちが「アッラー*が最も好まれる行いは何か？」と話し合っていたことを受けて、下ったものとされる（アフマド 23788 参照）。約束を守ること、信仰に対する誠実さ、アッラー*の道における努力奮闘、アッラー*の使徒*への服従、宗教の援助者となることの勧め（すす）めなどが取り上げられているが、スーラ*名ともなっている「戦列」は、その流れで登場したものである。

6. また、マルヤム*の子イーサー*が、（こう）
 言った時のこと（を思い起こさせよ）。「イスラ-イルの子ら*よ、本当に私は、トーラー*という私以前のもの（の内容）^{かくしやう}を確認し、私の後に到来するアフマドという名の使徒^{しと}^{きつぽう}の吉報を伝える、あなた方へのアッラー*の使徒*である」。そして彼（アフマド）が、明証^{たづさ}を携えて彼らのもとに到来した時、彼らは言った。「これは紛れもない魔術^{まじゅつ}だ」。
7. 自分がイスラーム*へと招かれて^{まね}いるのに、アッラー*に対して嘘^{うそ}を捏造^{ねつぞう}した者より、ひどい不正*を働く者があろうか？ アッラー*は不正*者である民を、お導きにはならない。
8. 彼らは、その口先でアッラー*の御光^{みひかり}³を消してしまおうと望んでいる。アッラー*は、たとえ不信仰者*たちが嫌おうとも、その御光^{みひかり}^{かんすい}を完遂させられるお方。
9. かれは、その使徒*を導き^{みちび}きと真理の宗教（イスラーム*）と共に遣わされたお方。（それは）かれが、それ（イスラーム*）をあらゆる宗教の上に君臨^{くんりん}させる⁴ため。たとえ、シルク*の徒が（そのことを）嫌がろうとも。
10. 信仰する者たちよ、あなた方に、あなた方を痛ましい懲罰から救ってくれる（偉大な）商売を教えてやろうか？

وَلَقَدْ قَالَ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ بَنِي إِسْرَءِيلَ إِنِّي رَسُولُ اللَّهِ إِلَيْكُمْ مُصَدِّقًا لِمَا بَيْنَ يَدَيَّ مِنَ التَّوْرَةِ وَمُبَشِّرًا بِرَسُولٍ يَأْتِي مِنْ بَعْدِي اسْمُهُ أَحْمَدُ فَلَمَّا جَاءَهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ قَالُوا هَذَا سِحْرٌ مُضْمٍ ﴿١٠﴾

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ الْكَذِبَ وَهُوَ يُدْعَى إِلَى آلِهَتِهِ وَآلِهَتُهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿١١﴾

يُرِيدُونَ لِيُطْفِئُوا نُورَ اللَّهِ بِأَفْوَاهِهِمْ وَاللَّهُ مُنِيرُ نُورِهِ وَلَوْ كَرِهَ الْكَافِرُونَ ﴿١٢﴾

هُوَ الَّذِي أَرْسَلَ رَسُولَهُ بِالْهُدَى وَدِينِ الْحَقِّ لِيُظْهِرَهُ عَلَى الدِّينِ كُلِّهِ وَلَوْ كَرِهَ الْمُشْرِكُونَ ﴿١٣﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا أَهْلَ الْكِتَابِ تَعِزُّوا سُجُودَكُمْ عَذَابِ الْعَذَابِ ﴿١٤﴾

1 「アフマド」は、最後の預言者*ムハンマド*の別名（イブン・カスィール 8:109 参照）。雌牛章 129 「使徒*」の訳注、高壁章 157 とその訳注も参照。

2 この「明証」とは、アッラー*から授かった、彼の預言者*性を証明する数々の根拠のこと（アッ=タバリ-10:8019 参照）。

3 この「御光」については、悔悟章 32 の同語についての訳注を参照。

4 「…君臨させる」の意味については、悔悟章 33 の訳注を参照。

11. アッラー*とその使徒*^{しと}を信じ、自分たちの財産と生命をかけて、アッラー*の道に努力奮闘^{ふんとう}するのだ。それが、あなた方にとって（現世の商売）より善い^よのだから。もし、あなた方が知っていたのならば（、そうしたであろう）。
12. （信仰者たちよ、もしそうしたならば、）かれはあなた方のため、あなた方の罪をお赦^{ゆる}しになり、その下から河川^{かせん}が流れる楽園と、永久の楽園の麗しき住まいへと、あなた方をお入れ下さろう。それは偉大なる勝利なのだ。
13. また、あなた方が欲する外^{ほか}のものも（恩恵として、お授け下さろう）。（それは）アッラー*からのご援助と、近い勝利。信仰者たちには、吉報^{きっほう}を伝えよ。
14. 信仰する者たちよ、アッラー*の（宗教への）援助者となれ。マルヤム*の子イサー*が弟子たち¹に「アッラー*（の道）への、私の援助者は誰か？」と言い、弟子たちが「私たちが、アッラー*の援助者です」と言ったように。そしてイスラエイルの子ら*の一派は信仰し、（別の）一派は否定した。それで、われら*は信仰した者たちをその敵（である不信仰の一派）に対して支持し、彼ら（信仰者たち）は勝利者となったのである。

يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَيُجَاهِدُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ بِأَمْوَالِهِمْ وَأَنْفُسِهِمْ وَالْأَخْيَارِ لِكُلِّ مَنْ كَفَرْنَا تَعْلَمُونَ ﴿١١﴾

يَعْرِفُ لِكُلِّ دُونِكُمْ وَيُدْخِلُكُمْ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ وَمُسْكِينَ طَيِّبَةً فِي جَنَّاتٍ عَدْنٍ ذَلِكَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿١٢﴾

وَأُخْرَى يُحِبُّونَهَا أَضْرَمَ مِنَ النَّارِ وَفَتْحٌ قَرِيبٌ وَلِئْسَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٣﴾

يَتَأْتِيهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا كُنُوا أَنْصَارَ اللَّهِ كَمَا قَالَ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ لِلْحَوَارِيِّينَ مَنْ أَنْصَارِي إِلَى اللَّهِ قَالَ الْحَوَارِيُّونَ نَحْنُ أَنْصَارُ اللَّهِ فَمَا مَنَ طَائِفَةٌ مِنْ بَنِي إِسْرَءِيلَ وَكَفَرَتْ طَائِفَةٌ فَأَيَّدْنَا الَّذِينَ ءَامَنُوا عَلَى عَدُوِّهِمْ فَأَصْبَحُوا ظَاهِرِينَ ﴿١٤﴾

1 「弟子たち」については、イムラーン家章 52 の訳注を参照。

第 62 章
合同礼拝章 (アル=ジュムア) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え*る。（真の）王、聖なる*お方、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方（を）。
2. かれは文盲者たち²の中に、彼ら自身の内から、その御徴（アーヤ*）を彼らに誦み聞かせ、彼らを清め、彼らに啓典と英知³を教える一人の使徒*（ムハンマド*）を遣わされたお方。（その使徒*が遣わされる）以前、彼らは明白な迷いの中にあっただ。
3. また（かれは、）彼らの内、まだ彼らのところに到達していない外の者たち⁴にも（、彼を遣わされた）。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَسْبِغُ لَكُمْ فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ
الْمَلِكِ الْقُدُّوسِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ﴿١﴾

هُوَ الَّذِي بَعَثَ فِي الْأُمِّيِّينَ رَسُولًا مِنْهُمْ يَتْلُو
عَلَيْهِمْ آيَاتِهِ وَيُزَكِّيهِمْ وَيُعَلِّمُهُمُ الْكِتَابَ
وَالْحِكْمَةَ وَإِنْ أَنْتُمْ إِلَّا قَبْلُ لَفِي ضَلَالٍ
مُبِينٍ ﴿٢﴾

وَأَخْرَجَ مِنْهُمْ لِمَا بَلَغُوا مِنْهُ وَهُوَ الْعَزِيزُ
الْحَكِيمُ ﴿٣﴾

1 マディーナ*啓示。アッラー*の賛美と、預言者*ムハンマド*の使徒*性の確証、及び人々に対するその恩恵の言及に始まり、アッラー*の宗教に対する態度におけるユダヤ教徒*の悪例と、彼らへの批判が取り上げられる。スーラ*の終わりは、スーラ*名ともなっており、イスラーム*の特別な宗教行事の一つである金曜日の「合同礼拝」参加への呼びかけと、現世的諸事にかまけることなく、アッラー*のご命令にすぐ応じることへの勸（すす）めによって締めくくられる。

2 「文盲者たち」とは、その大半が読み書きを知らず（アル=バイダーウィー5:337 参照）、啓典もその残片もなかった、当時のアラブ人のこと（ムヤッサル 553 頁参照）。尚、預言者*ムハンマド*は彼らにだけ遣わされたわけではないが、彼らに対する恩恵は他の民に対するそれよりも大きく、顕著（けんちょ）である。高壁章 158 とその訳注も参照（イブン・カスィール 8:115 参照）。

3 「清める」「英知」に関しては、雌牛章 129 の訳注を参照。

4 この「他の者たち」の解釈には、「非アラブ人」「タービウン*」「預言者*の死後から、復活の日*までの間にムスリム*となった全ての者」などといった諸説がある（アル=クルトゥビー18:93 参照）。

4. それ¹はかれが、お望みになる者に授けられるアッラー*のご恩寵。かれは、偉大なる恩寵の主であられる。

5. トーラー* (の^{じっせん}実践) を担^{にな}わされ、その後それを (請け) 負^おわなかった者たち²の様子は、あたかも (何冊もの) 書物を背負^{せお}った、ロバの様子のようである³。アッラー*の御^み徴^{しるし}⁴を嘘呼^{うそ}ばわりした民の様子は、何と醜^{しやうあく}悪なことか。アッラー*は不正*者である民を、お導^{みちび}きにはならない。

6. (使徒*よ、) 言ってやれ。「ユダヤ教徒*である者たちよ、もし自分たちが人々を差しおいてアッラー*と親密な者であると言い張るなら、死を望んでみたらいかがか？もし、あなた方が真実を語っているというのであれば、だが」。⁵

7. 彼らは自分たちが行ってきたことゆえ、決してそのようなことを望んだりはしない。アッラー*は、不正*者たちをご存知のお方。

8. 言ってやれ。「本当に、あなた方が逃げている死、それはまさしく、あなた方と対面することになるもの。それからあなた方は (復活の日*)、不可視の世界*と現象界⁶をご存知のお方 (アッラー*) へと戻され、そ

ذَٰلِكَ فَضَّلَ اللَّهُ يَوْمَهُ مِنَ الْبَشَاءِ ۗ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٤﴾

مَثَلُ الَّذِينَ خُمِلُوا التَّوْبَةَ ثُمَّ لَمْ يَحْمِلُوهَا كَمَثَلِ الْحِمَارِ يَحْمِلُ أَثْقَالًا بَلَّسَ مَثَلُ الْقَوْمِ الَّذِينَ كَذَبُوا بِعَاثِرِ اللَّهِ ۖ وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿٥﴾

قُلْ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ هَٰؤُلَاءِ إِن دَعَمْتُمْ أَنَا كُمْ أُولَٰئِكَ بِرَبِّهِمْ مِنْ دُونِ النَّاسِ فَتَمْنُوا الْوَمُوتَ ۖ إِن كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٦﴾

وَلَا تَسْتَوِينَ ۖ أَبَدًا بِمَا قَدَّمْتِ أَيْدِيَهُمْ ۗ وَاللَّهُ عَلِيمٌ بِالظَّالِمِينَ ﴿٧﴾

قُلْ إِنَّ الْمَوْتَ الَّذِي تَفِرُّونَ مِنْهُ فَإِنَّهُ مُلَاقِيكُمْ ثُمَّ تُرَدُّونَ إِلَىٰ عِلِّيِّ الْعَلِيِّ ۖ وَالشَّهَادَةُ فَبَيْنَكُمْ ۖ بَمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٨﴾

1 「それ」とは、彼らアラブ人のもとに使徒*が遣わされたこと (ムヤッサル 553 頁参照)。

2 ユダヤ教徒*のこと (前掲書、同頁参照)。

3 つまり彼らは、自分たちの書を暗記するだけで理解せず、それに従って行いもしないどころか、それを自分たちの都合のよいように解釈したり、改ざんしたりした (イブン・カスィール 8:117 参照)。

4 この「御徴」は、預言者*ムハンマド*の使徒*性の正しさを示す証拠 (アル=バイダーウィー 5:338 参照)。

5 雌牛章 94、食卓章 18 など参照。

6 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

してかれはあなた方に、あなた方が行って
いたことをお告げにな（り、それに対して
報われ）るのだ」。

9. 信仰する者たちよ、合同の日（金曜日）に（合同）礼拝に呼びかけられたら「アッラー*の唱念^{ねん}に励み、商売（など、あらゆる仕事）を中断するのだ。それがあなた方にとって、より善い^いのだから。もし、あなた方が（そのことを）知っていたのなら（、そうせよ）。

10. そして（合同）礼拝が終わったら、大地に拡散し、アッラー*のご恩寵^{おんちよう}を求め、アッラー*を多く唱念するがよい。あなた方が成功するように。

11. 彼ら（一部のムスリム*）は商売や戯れごとを目にした時、あなたを（説教壇の上に）立ったまま放つ^{ほう}たらかしにして、散り散りになって（そこへと）去ってしまった。（預言者*よ、）言ってやれ。「アッラー*の御許にあるもの（褒美）の方が、戯れごとよりも商売よりも善い」。アッラー*は、最もよく糧^{かて}を授けられるお方であられる。³

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا نُودِيَ لِلصَّلَاةِ مِنْ يَوْمِ
الْجُمُعَةِ فَاسْعَوْا إِلَى ذِكْرِ اللَّهِ وَذَرُوا الْبَيْعَ
ذَلِكُمْ خَيْرٌ لَكُمْ إِنْ كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿٩﴾

فَإِذَا قُضِيَتِ الصَّلَاةُ فَانْتَشِرُوا فِي
الْأَرْضِ وَابْتَغُوا مِنْ فَضْلِ اللَّهِ وَاذْكُرُوا
اللَّهَ كَثِيرًا لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿١٠﴾

وَإِذَا رَأَوْا تِجَارَةً أَوْ لَهْوًا انفَضُّوا إِلَيْهَا وَتَرَكُوكَ
فَأَمَّا قُلْ مَا عِنْدَ اللَّهِ خَيْرٌ مِنَ اللَّهْوِ وَمِنَ
التِّجَارَةِ وَاللَّهُ خَيْرُ الرَّازِقِينَ ﴿١١﴾

1 この「呼びかけ」は、第三代カリフ・ウスマーン*が人口の増加ゆえに新たに付け加え、現在まで存続する「一度目の呼びかけ」ではなく、預言者*が説教壇に入った時点で行われていた、現在における「二度目の呼びかけ」のこと。尚、金曜日の合同礼拝の参加は、健康上の問題など正当な理由がない限り、定住した状態にある自由民で成人*男性の参加が義務づけられる（イブン・カシール 8:122 参照）。

2 つまり説教を聴き、その後に続く礼拝を行うこと（ムヤッサル 554 頁参照）。

3 とある金曜日の合同礼拝の最中、マディーナ*に隊商が到着し、わずかな人数を除き、人々がそこへと立ち去ってしまったことがあった。このアーヤ*は、その出来事に関して下ったとされる（アル＝ブハーリー 4899 参照）。一説にその時期、マディーナ*は貧しさで困窮（こんきゅう）の中にあった（アッ＝ジャウカーニー 5:303 参照）。

第 63 章

偽信者*たち章(アル=ムナーフィクーン)¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、) 偽信者*たちは、あなたのもとにやって来た時、(こう) 言った。「私たちは、あなたこそがまさに、アッラー*の使徒*であると証言します」——アッラー*は、本当にあなたこそがまさしく、かれの使徒*であることをご存知である——。アッラー*は、本当に偽信者*たちがまさしく嘘つきであることを、証言し給うのだ。
2. 彼ら(偽信者*たち)は、自分たちの(嘘の)誓約を盾代わりとし²、(自分たちと人々を)アッラー*の道から阻んだ。本当にまさしく、彼らが行っていたことは、何と忌まわしいことか。
3. それというのも、彼らは(口先だけで)信仰し、それから(内心では)不信仰に陥り、その心が(不信仰ゆえに)塞がれてしまったからである。ゆえに、彼らは理解することがない。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا جَاءَكَ الْمُنَافِقُونَ قَالُوا نَشْهَدُ إِنَّكَ لَرَسُولُ اللَّهِ وَاللَّهُ يَعْلَمُ إِنَّكَ لَرَسُولُهُ وَاللَّهُ يَشْهَدُ إِنَّ الْمُنَافِقِينَ لَكَاذِبُونَ ﴿١﴾

أَتَّخَذُوا أَيْمَانَهُمْ جُنَّةً فَصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ إِنَّهُمْ سَاءَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢﴾

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ آمَنُوا ثُمَّ كَفَرُوا فَطُبِعَ عَلَى قُلُوبِهِمْ فَهُمْ لَا يَفْقَهُونَ ﴿٣﴾

1 マディーナ*啓示。ムスリム*たちがある戦い(イブン・カスィール*によれば、これをヒジュラ暦*6年のムスタラク族の戦いとするのが、伝記学者間の定説。8:127 参照)のために出征した際、偽信者*の長イブン・ウバイイ*が陰で、アーヤ*78にあるような言葉を口にした。彼は後に、その言葉の真偽(しんぎ)を問いただされたが、アッラー*に誓ってそれを否定した(アーヤ*2 参照)。このスーラ*は、この出来事の後に下ったものとされる(アッ=ティルミズィー3313 参照)。主に偽信者*の悪徳とイスラーム*への敵意が描かれるが、後半は信仰者たちに対する、来世のための出費の勸(すす)めによって締めくくられる。

2 この表現については、抗弁する女章 16 とその訳注を参照。

4. また彼ら（偽信者*たち）を見てみれば、その（結構な）風体はあなたの気に入るだろう。そして彼らが話せば、あなたはその（巧みな）言葉に耳を傾けるだろう。彼らはまるで、立てかけられた木材のよう¹。

（その臆病さと恐怖ゆえ、）全ての大声が、自分たちに向けられたものだと思ひ込んでいる²。彼らは敵であるから、警戒せよ。アッラー*が彼らを成敗して下さいますよう。彼らはどうして、（真理から）背かされるのか？

5. また、彼ら（偽信者*たち）に、「（悔悟して）来なさい、アッラー*の使徒*があなた方のために（罪の）赦しを乞うてくれよう」と言われた時、彼らはその顔を背けた。そして（使徒*よ、）あなたは彼らが思い上がりつつ、（その招きを）拒むのを目にしたのだ。

6. （使徒*よ、）あなたが彼らのために赦しを乞うたとしても、彼らのために赦しを乞わなかったとしても、彼らには同じこと。アッラー*は彼らのために、（その罪を）お赦しにはならない。本当にアッラー*は放逸な民を、お導きにはならないのだから。

وَإِذَا رَأَوْهُ تَتَّعِبُوا أَجْسَامَهُمْ وَإِنْ يَقُولُوا تَسْمَعُوا لِقَوْلِهِمْ كَأَنَّهُمْ خُشُبٌ مُسْنَدَةٌ يَحْسَبُونَ كُلَّ صَيْحَةٍ عَلَيْهِمْ هُمُ الْعَدُوُّ فَاحْذَرْهُمْ قَتَلَهُمُ اللَّهُ أَنَّى يُؤْفَكُونَ ﴿٤﴾

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ تَعَالَوْا يَسْتَغْفِرْ لَكُمْ رَسُولُ اللَّهِ لَوَّارُءٌ وَسَهُمٌ وَإِنَّ لَهُمْ يَصُدُونَ وَهُمْ مُسْتَكْبِرُونَ ﴿٥﴾

سَوَاءٌ عَلَيْهِمْ أَسْتَغْفَرْتَ لَهُمْ أَمْ لَمْ تَسْتَغْفِرْ لَهُمْ لَنْ يَغْفِرَ اللَّهُ لَهُمْ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْفَاسِقِينَ ﴿٦﴾

1 これは、見た目はよいが、理解力のないことの例え。壁に立てかけられた木材は、屋根や壁の補強に用いられる木材とは違い、無益（むえき）である（イブン・ジュザイ 2:449 参照）。

2 偽信者*たちは常に、預言者*が彼らのことを殺す命令を出すのではないかと恐れていた。彼らは捜索（そうさく）命令、大声、啓示が下ったとの知らせを耳にすると、動揺したものだ（イブン・アティーヤ 5:312 参照）。悔悟章 64 も参照。

7. 彼ら(偽信者*たち)は、「アッラー*の使徒*のもとにいる者たちには、彼らが(ムハンマド*から)離散するまで(財産を)費やすのではない」と言う者たち¹。アッラー*にこそ、諸天と大地の宝庫は属するといふのに。しかし偽信者*たちは、(糧を司るのはアッラー*だけということを)理解しないのだ。

8. 彼らは言う。「もしも私たちがマディーナ*に帰ったならば、最も偉力ある者が、最も卑しい者²を(そこから)追放するであろう」。本当にアッラー*にこそ、そしてその使徒*と信仰者たちにこそ、偉力は属するといふのに。しかし偽信者*たちは、(そのことが)分らないのだ。

9. 信仰する者たちよ、あなた方の財産と子供たちが、あなた方をアッラー*の唱念から背けさせてしまうようではならない³。誰でもあろうとそうする者、それらの者たちこそは損失者なのである。

10. そして(信仰者たちよ)、われら*があなた方に授けたものの内から、(善いことに)費やす⁴のだ。あなた方の内の誰かに死が到来し、「我が主*よ、私(の死)を近い期限まで、延期して下さい。それによって

هُمْ الَّذِينَ يَقُولُونَ لَا تُنْفِقُوا عَلَيَّ مِنْ عِنْدِ رَسُولِ اللَّهِ حَقًّا يَنْفِقُوا وَلِلَّهِ خَزَائِنُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَلَكِنَّ الْمُنَافِقِينَ لَا يَفْقَهُونَ ﴿٧﴾

يَقُولُونَ لَيْنَ رَجَعْنَا إِلَى الْمَدِينَةِ لَيُخْرِجَنَّ الْأَعَزُّ مِنْهَا الْأَذَلَّ وَلِلَّهِ الْعِزَّةُ وَلِرَسُولِهِ وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَلَكِنَّ الْمُنَافِقِينَ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٨﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تُلْهِكُمْ أَمْوَالُكُمْ وَلَا أَوْلَادُكُمْ عَنْ ذِكْرِ اللَّهِ وَمَنْ يَفْعَلْ ذَلِكَ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿٩﴾

وَأَنْفِقُوا مِنْ مَّا رَزَقْتَكُمْ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَ أَحَدَكُمُ الْمَوْتُ فَيَقُولَ رَبِّ لَوْلَا أَخَّرْتَنِي إِلَىٰ أَجَلٍ قَرِيبٍ فَأَصَّدَّقَ وَأَكُن مِّنَ الصَّالِحِينَ ﴿١٠﴾

1 この言葉、及びアーヤ*8の偽信者*の言葉の背景にあるものについては、スーラ*冒頭の訳注を参照。

2 この偽信者たちの言葉の中の「最も偉力ある者」とは、スーラ*冒頭の訳注にもあるように、イブン・ウバイイ*、及びその仲間の偽信者*たち。「最も卑しい者」とは、預言者*ムハンマド*と、彼の仲間たち(アッ=サアディー=865頁参照)。

3 戦利品*章28の訳注も参照。

4 「われら*が授けたものの内から…費やす」については、雌牛章3の訳注を参照。

私が^{ほどこ}施しをし、正しい者*たちの仲間となりますように」などと言うようになる前に。¹

11. アッラー*は誰のことも、その（死という）^{とうらい}期限が到来したら、延期して下さらない。そしてアッラー*は、あなた方が行うことに^{つうぎょう}通曉され（、その行いに^{むく}報われ）るお方であられる。

وَلَنْ يُؤَخِّرَ اللَّهُ نَفْسًا إِذَا جَاءَ أَجَلُهَا وَاللَّهُ
خَبِيرٌ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١١﴾

1 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりするが、それは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44 も参照。

第64章
だま 騙し合い章 (アッ=タガーブン) ¹

じ ひ 慈悲あまねく * じ あい 慈愛深き *

アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え*る。かれにこそ（全ての）王権はあり、かれにこそ称賛*はある。そしてかれは、全てのことがお出来になるお方。
2. かれが、あなた方を創造されたお方であられる。それで、あなた方の内には不信仰者*もいれば、あなた方の内には信仰者もいる。アッラー*は、あなた方が行うことをご覧になるお方。
3. かれは、諸天と大地を真理によってお創りになり²、あなた方を形作られ、その形を最善のものとされた。そしてかれにこそ、（復活の日*の）行き先はある。
4. かれは諸天と大地にあるもの（全て）をご存知であり、（人々よ、）あなた方が秘密にすることも、^{あら}露わにすることもご存知になる。アッラー*は、^{きょうちゅう}胸中にあるものをご存知のお方。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ لَهُ
الْمُلْكُ وَلَهُ الْحَمْدُ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ①

هُوَ الَّذِي خَلَقَكُمْ فَمِنْكُمْ كَافِرٌ وَمِنْكُمْ مُؤْمِنٌ
وَاللَّهُ يَمَّا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ②

خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ يَاقُوتَ وَصَوَّرَكُمْ
فَاحْسَنُ صُورَكُمْ وَالْبَإِثَ الْمُصِيرُ ③

يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَيَعْلَمُ مَا
تُسْرُونَ وَمَا تَعْمَلُونَ وَاللَّهُ عَلِيمٌ بِذَاتِ
الْصُّدُورِ ④

1 マディーナ*啓示（マッカ*啓示説もあり）。全ての所有者、創造主であられるアッラー*の賛美に始まり、かれに対して人間が信仰者と不信仰者*に分かれたこと、そしてアッラー*とその使徒*、復活を否定した過去の不信仰者*たちの結末が、警告と共に描かれる。また、アッラー*とその使徒*、クルアーン*の信仰へと招くと共に、復活の日*の恐怖、及び現世愛に溺（おぼ）れることへの警告がなされ、最後は信仰者たちへの敬虔（けいけん）*さ、使徒*への服従、アッラー*の道における出費の勤（すす）めによって締めくくられる。スーラ*名は、アーヤ*9 で言及されている復活の日*の別名「騙し合いの日」に由来。

2 イムラーン家章 191 「我らが主*よ…ありません」の訳注も参照。

5. (シルク*の徒よ、) 一体あなた方のもとに、
(あなた方) 以前に不信仰に陥り、自分た
ちの事¹ (ゆえ) の罰² (現世で) 味わった
者たちの消息は届かなかったのか? そし
て彼らにこそは、(来世において) 痛まし
い懲罰³があるのだ。
6. それは、彼らのもとに彼らの使徒*たちが明
証²を携えて到来した後、「一体、人間が私
たちのことを導くだと?」³と言って不信仰
に陥り、(真理に) 背を向けたからである。
アッラー*は、(彼らの信仰や崇拜*など) 無
要なのだが。アッラー*は満ち足りた*お方、
称賛されるべき*お方。
7. 不信仰に陥った者*たちは、(死後) 自分
たちが蘇⁴らされないといい張った。
(使徒*よ、) 言ってやれ。「いや、我が
主*にかけて(誓う)。あなた方は必ずや
蘇⁴られ、それから自分たちが(現世で)
行ったことを、必ずや告げ聞かせられる
のだ。それはアッラー*にとって、容易な
こと」。
8. ならば(シルク*の徒よ)、アッラー*とその
使徒*、われら*が(彼に) 下した光⁴を信じ
よ。アッラー*は、あなた方が行うことに通
曉⁵されているお方。

أَلَمْ يَأْتِكُمْ نَبُؤُا الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ قَبْلُ فَنَادُوا
وَبَالَ أَمْرِهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ⑤

ذَلِكَ بِأَنَّهُ كَانَتْ تَأْتِيهِمْ رُسُلُهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ
فَقَالُوا أَإِنشَرَّ يَهُدُونَنَا فَكُفُّوا وَاوُولُوا وَاسْتَعْنَى
اللَّهُ وَاللَّهُ غَنِيٌ حَمِيدٌ ⑥

زَعَمَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَنْ لَنْ يُبْعَثُوا قُلْ لِي وَرَبِّي
لَتُبْعَثُنَّ ثُمَّ لَتُنَبَّؤُنَّ بِمَا عَمِلْتُمْ وَذَلِكَ عَلَى اللَّهِ
يَسِيرٌ ⑦

فَقَامُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَالنُّورِ الَّذِي أَنْزَلْنَا وَاللَّهُ
بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ⑧

1 彼らの不信仰と、悪行という「事」(ムヤッサル 556 頁参照)。

2 アッラーの唯一性*と、使徒*の正しさを証明する「明証」のこと(アル=ジャザーイリー 5:363 参照)。

3 彼らは、使徒*が自分たちと同様の人間であることに対し、高慢になった。そしてその理由
ゆえに、真理に従おうとしなかった(アッ=タバリイ 10:8056 参照)。

4 この「光」は、クルアーン*のこと(ムヤッサル 556 頁参照)。

9. かれが、あなた方を集合の日にお集めになる（復活の日）*（を、思い起こせ）——それは、^{たま}騙し合いの日¹——。誰であろうとアッラー*を信じ、正しい^{ちよう}い^{けい}*を行う者には、かれ（アッラー*）がその悪行を帳消しにして下さり、その下から河川が流れる楽園に入れて下さろう。彼らはそこに、ずっと永遠に留まる。それは偉大な勝利なのだ。

10. また、不信仰で、われら*の（唯一性*を示す）御^み徴^{しるし}を嘘^{うそ}呼^よびわりした者たち、それらの者たちは地獄の徒。彼らはそこに永遠に留まる。その行き先は、何と醜悪なことだろうか。

11. いかなる災難^{さいなん}も、アッラー*のお許^{ゆる}しなしには降りかかることがない²。そしてアッラー*を信じる者は誰でも、かれ（アッラー*）がその心を導いて下さろう³。アッラー*は、全てのことをご存知のお方。

12. （人々よ、）アッラー*に^{したが}従^しい、使徒*に^{したが}従え。それで、もしあなたが（アッラー*とその使徒*への服従^{ふくじゆう}に）背^{そむ}いたとしても、われら*の使徒*の義務^{ぎむ}は、（真理^{かうり}を）解明する（啓示^{けいし}の）伝達のみなのである。

13. アッラー*は、かれの外^{ほか}に（真^まに）崇^{かう}拜^{はい}*されるべきものがないお方。信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委^{ゆだ}ね*させよ。

يَوْمَ يَجْمَعُكُمْ لِيَوْمِ الْجَمْعِ ذَلِكَ يَوْمُ التَّغَابُنِ وَمَنْ يُؤْمِنْ بِاللَّهِ وَعَمِلْ صَالِحًا نُفَعْنَا عَنْهُ سَيِّئَاتِهِ وَيُدْخِلْهُ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا ذَلِكَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿١٠﴾

وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ خَالِدِينَ فِيهَا وَبِئْسَ الْمَصِيرُ ﴿١١﴾

مَا أَصَابَ مِنْ مُصِيبَةٍ إِلَّا بِإِذْنِ اللَّهِ وَمَنْ يُؤْمِنْ بِاللَّهِ يَهْدِ اللَّهُ قَلْبَهُ، وَاللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿١٢﴾

وَاطِيعُوا اللَّهَ وَاطِيعُوا الرَّسُولَ فَإِنْ تَوَلَّيْتُمْ فَإِنَّمَا عَلَىٰ رَسُولِنَا الْبَلَاءُ الْمُبِينُ ﴿١٣﴾

اللَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ وَعَلَىٰ اللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ الْمُؤْمِنُونَ ﴿١٤﴾

1 「騙し合いの日」とは、復活の日*の名前の一つ。「騙し合い」の語源となっている「ガブン」の意味は、取引で相手に損をさせること。つまり復活の日*に、天国の徒が天国を手に入れ、地獄の徒が地獄を手に入れることが、あたかも天国の徒が地獄の徒に損な取引をさせたかのように譬（たと）えられている（雌牛章 16 も参照）。また、その日、不信仰者は信仰を放棄（ほうき）したことで、信仰者はその至らなさや時間の無駄づかいによって、その損失が明白になる（アル＝クルトゥビー 18:136-137 参照）。

2 鉄章 22 も参照。

3 「アッラー*のご命令への服従と、かれの定めたことに対する満足、そしてより善い言動と状態」へと導いて下さろう、ということ（ムヤッサル 557 頁参照）。

14. 信仰する者たちよ、実にあなた方の妻たちと子供たちの内には、あなた方への敵¹がいる。ゆえに、彼らを警戒^{ひいかい}せよ。そして、もしあなたが（彼らの悪行を）大目に見、見逃し^{ゆる}、赦してやるならば、本当にアッラー^{ゆる}ー*は（あなた方に対して）赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

15. あなた方の財産と子供たちは、試練^{しれん}に外^{ほか}ならない²。そしてアッラー*の御許^{みもと}にこそ、（その試練^{しれん}に打ち勝った者への）偉大な褒美^{ほうみ}がある。

16. ならば（信仰者たちよ）、出来る限りアッラー*を畏れ*、（使徒*の言うことをよく）聞き、（彼の命令に）従い、（アッラー*から授かったものから）費やせ³、（そうすれば）あなた方自身のために善いのである。誰であろうと、自分自身の貪欲^{どんよく}さから守られた者、それらの者たちこそは成功者なのだ。

17. もし、あなたがアッラー*により貸付^{かしつけ}⁴をするのであれば、かれはそれをあなた方のために倍増^{ばいぞう}して下さり、あなた方のために（罪^{つみ}を）お赦し下さる。アッラー*はよく労わられる*お方、寛大な*お方。

18. （かれは）不可視^{ふ、かし}の世界*と現象界^{みんげん}⁵をご存知のお方、偉力^{いりよく}ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا إِن مِّنْ
أَرْوَاحِكُمْ وَأَوْلَادِكُمْ يَعْتَدُونَ عَلَىٰ آلَكُمْ
فَأَحْذَرُوا لَهُمْ وَإِن تَعْفُوا وَتَصْفَحُوا
وَتَعْفُوا فَإِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿١٤﴾

إِنَّمَا أَمْوَالُكُمْ وَأَوْلَادُكُمْ فِتْنَةٌ وَاللَّهُ
عِنْدَهُ أَجْرٌ عَظِيمٌ ﴿١٥﴾

فَاتَّقُوا اللَّهَ مَا اسْتَطَعْتُمْ وَأَسْمِعُوا وَأَطِيعُوا
وَأَنفِقُوا خَيْرًا لِّأَنفُسِكُمْ وَمِمَّنْ يَوْسُفُ
نَفْسِهِ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿١٦﴾

إِن تُقْرِضُوا اللَّهَ قَرْضًا حَسَنًا يَّضَاعِفْهُ
لَكُمْ وَيَغْفِرْ لَكُمْ وَاللَّهُ شَكُورٌ حَلِيمٌ ﴿١٧﴾

عَلِيمُ الْغَيْبِ وَالشَّهَادَةِ الْعَزِيزُ
الْحَكِيمُ ﴿١٨﴾

1 アッラー*の道から阻（はば）み、かれへの服従を怠（おこた）らせようとするという意味での「敵」ということ（ムヤッサル 557 参照）。

2 戦利品*章 28 の訳注も参照。

3 雌牛章 3 「われら*が授けたものから…費やす」の訳注も参照。

4 アッラー*に対する「よき貸付」については、雌牛章 245 の訳注を参照。

5 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

第 65 章
離婚章 (アッ=タラク) 1

慈悲あまねく*慈愛深く*

アッラー*の御名において

1. 預言者*よ²、あなた方（あなたと信仰者たち）が女性（妻）たちを離婚し（ように思っ）たなら、イッダ*に離婚し³、イッダ*（の期間）を数え上げよ⁴。そして、あなた方の主*アッラー*を畏れる*のだ。彼女らが紛れもない醜行⁵を犯さない限り、（イッダ*が終わるまでは、）彼女らを彼女らの（住んでいる）家から追い出してはならないし、彼女らも（そこから）出て行ってはならない。それがアッラー*の決まりであり、アッラー*の決まりを侵す者は誰でも、自分自身に対して確かに不正*を働いているのである。（離婚する者よ、）あなたはアッラー*が（離婚の）その後、何らかの事を引き起こされるかもしれないということ⁶を、知らないのだから。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ إِذَا طَلَقْتُمُ النِّسَاءَ فَطَلَّقُوهُنَّ
إِعْذِرْنَهُنَّ وَأَحْضُوا الْعِدَّةَ وَاتَّقُوا اللَّهَ رَبَّكُمْ لَا
تُخْرِجُوهُنَّ مِنْ بُيُوتِهِنَّ وَلَا يَخْرُجْنَ إِلَّا أَنْ
يَأْتِيَنَّ بِفَاحِشَةٍ مُبَيَّنَةٍ وَتِلْكَ حُدُودُ اللَّهِ
وَمَنْ يَتَعَدَّ حُدُودَ اللَّهِ فَقَدْ ظَلَمَ نَفْسَهُ لَا تَدْرِي
لَعَلَّ اللَّهَ يُحْدِثُ بَعْدَ ذَلِكَ أَمْرًا ﴿١﴾

- 1 マディーナ*啓示。スーラ*名は、冒頭から始まりスーラ*の大半を占める、離婚についての法規定と作法の説明に由来。婦人章を「大きい婦人章」、本章を「小さい婦人章」と呼ぶこともある。離婚という重大なテーマゆえ、随所（ずいしょ）において、アッラー*を畏（おそ）れる*ことが勧（すす）められている。スーラ*の最後は、アッラー*とその使徒*たちに逆らった過去の民の結末や、アッラー*の御力と唯一性*の確証によって幕を閉じる。
- 2 この預言者*ムハンマド*への呼びかけについては、雌牛章 120 の訳注を参照。
- 3 つまり彼女が月経中ではなく、かつ最近の月経後にまだ性交していない状態において、あるいはそうでなければ、彼女の妊娠が明らかになっている状態から離婚せよ、ということ（ムヤッサル 558 頁参照）。
- 4 イッダ*の期間は、女性の状態によって異なる。詳しくは雌牛章 228「三度の月経」の訳注を参照。
- 5 「紛れもない醜行」とは、姦通（かんつう）を始め、夫とその家族に対する敵対や、言動による害などのこと（イブン・カスィール 8:143-144 参照）。蜜蜂章 90「醜行」の訳注も参照。
- 6 つまり気が変わって、彼女と復縁しようと思うようになること（ムヤッサル 558 頁参照）。

2. 彼女らがその期限（イッダ*の終わり）に差しかったならば、彼女らを適切な形で留め置くか、あるいは適切な形で別れよ¹。また（復縁するにせよ、別れるにせよ）、あなた方の内の公正な男性二人に（それを）証言させ、（証人たちよ、）あなた方はアッラー*に対ししっかり証言せよ。それは、アッラー*と最後の日*を信じる者が訓戒を受けるところのもの。誰であろうとアッラー*を畏れる*者に、かれ（アッラー*）は（あらゆる困難からの）出口をお授けになる。

3. また、かれは、彼が思いもよらない所から、糧をお授けになる。アッラー*に全てを委ねる*者にとっては、かれ（アッラー*）だけで十分。本当にアッラー*は、物事を（望み通りに）成就させられるお方。アッラー*は確かに、全ての物事に定めを与えられたのだ。

4. あなた方の女性（妻）たちの内で閉経した者たちは、あなた方が（彼女らについての法規定に）疑惑を抱くのであれば²、彼女らのイッダ*は三ヶ月である。そして、まだ初潮を迎えてはいない者たちも（同様）。また、身重な者たちの（イッダ*の）期間は、彼女らがその荷を降ろすまで。誰であろうとアッラー*を畏れる*者には、かれ（アッラー*）が（現世と来世において、）その物事を容易くされるのである。

فَإِذَا بَلَغْنَ أَجَلَهُنَّ فَأَمْسِكُوهُنَّ بِمَعْرُوفٍ أَوْ
فَارِقُوهُنَّ بِمَعْرُوفٍ وَأَشْهِدُوا ذُوَيْ عَدْلٍ مِنْكُمْ
وَأَقِيمُوا الشَّهَادَةَ لِلَّهِ ذَلِكَ يُوعَظُ بِهِ مَنْ كَانَ
يُؤْمِنُ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ وَمَنْ يَتَّقِ اللَّهَ
يَجْعَلْ لَهُ مَخْرَجًا ﴿١﴾

وَيَرْزُقُهُ مِنْ حَيْثُ لَا يَحْتَسِبُ وَمَنْ يَتَوَكَّلْ عَلَى
اللَّهِ فَهُوَ حَسْبُهُ إِنَّ اللَّهَ بَلِغُ أَمْرِهِ قَدْ
جَعَلَ اللَّهُ لِكُلِّ شَيْءٍ قَدْرًا ﴿٢﴾

وَالَّذِي يَمْسِنُ مِنَ الْمَحِيضِ مِنْ
نِسَائِكُمْ إِنْ آتَيْتُمْهُنَّ قَعْدَتَهُنَّ ثَلَاثَةَ
أَشْهُرٍ وَالَّتِي لَمْ يَحِيضْ وَأُولَئِكَ الْأَحْمَالُ
أَجَلُهُنَّ أَنْ يَضَعْنَ حَمْلَهُنَّ وَمَنْ يَتَّقِ
اللَّهَ يَجْعَلْ لَهُ مِنْ أَمْرِهِ يُسْرًا ﴿٣﴾

1 雌牛章 229 の同様の表現の訳注も参照。

2 一説にこのアーヤ*は、月経のない者や、妊婦のイッダ*に関する教友*の質問を受けて下った。また「(月経の到来に関して) 疑惑を抱く場合には」という解釈もある（イブン・カスィール 8:149 参照）。

5. (人々よ、)それが、かれがあなた方に下されたアッラー*のご命令。そして、誰であろうとアッラー*を畏れる*者に、かれ(アッラー*)はその悪行を帳消しにして下さり、彼のために(来世での)褒美を偉大なものとして下さるのだ。
6. (イッダ*の期間中、)彼女(離婚宣告をした自分たちの妻)らを、あなた方が住んでいる場所に、あなた方の能力に応じて、住ませよ。また、(住まいから出て行かせる魂胆で)彼女らに嫌がらせして、彼女ら害してはならない。そして、もし彼女ら(離婚宣告を受けた妻たち)が身重だったら、彼女らがその荷を降ろすまで¹、彼女らに出費せよ。また(離婚後)、彼女らがあなた方のために(報酬を条件に)授乳するならば、彼女らにはその報酬を与え、あなた方の間で善事を勧め合う²がよい。そして、もし互いに困難を見出したならば³、別の女性(乳児)に授乳することになる。
7. 余裕がある者には、その余裕あるものの内から(離婚宣告した自分の妻と、その子供に)出費させよ。また、糧に乏しい者には、アッラー*が彼にお授けになったものの内から、出費させよ。アッラー*は誰にも、かれがお授けになった以上のものを負わせられないのだから。アッラー*はやがて、逆境の後に順境として下さろう。

ذَلِكَ أَمْرُ اللَّهِ أَنْزَلَهُ إِلَىٰكُمْ وَمَنْ يَتَّقِ اللَّهَ يُكَفِّرْ عَنْهُ سَيِّئَاتِهِ وَيُعْظِمْ لَهُ أَجْرًا ﴿٥﴾

أَسْكُوهُنَّ مِنْ حَيْثُ سَكُنْتُمْ مِنْ زَوْجِكُمْ وَلَا تَضَارُوهُنَّ لِنُضَيْفِئُوا عَلَيْهِنَّ وَإِنْ كُنَّ أُولَٰئِكَ حَمْلًا فَأَنْفِقُوا عَلَيْهِنَّ حَتَّىٰ يَضَعْنَ حَمْلَهُنَّ فَإِنْ أَرْضَعْنَ لَكُمْ فَآتُوهُنَّ أُجُورَهُنَّ وَأَتَمِرُوا بِبَنَاتِكُمُ يَمْعُرُوهُنَّ فَلَنْ تَعَاْسَ رَبٌّ فَتَرْضِعَ لَهَا أُخْرَىٰ ﴿٦﴾

لِيَنْفِقَ دُونَ سَعْيِهِمْ مِنْ قَوْلِهِ عَلَيْهِ رِزْقُهُ. فَلْيَنْفِقَ مِمَّا آتَاهُ اللَّهُ لَا يُكَلِّفُ اللَّهُ نَفْسًا إِلَّا مَا آتَاهَا سَيَجْعَلُ اللَّهُ بَعْدَ عُسْرٍ يُسْرًا ﴿٧﴾

1 つまりアーヤ*4 にもあるように、イッダ*を終えるまで、ということ(ムヤッサル 559 頁参照)。

2 「善事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。夫婦は、離婚を宣告された妻がイッダ*にある時も、実際に離婚する時も、自分たち自身や子供たちの現世と来世における福利において、善事を勧め合わなければならない(アッサーアディー 871 頁参照)。

3 離婚した実母が、子供を授乳することで合意に至らなかったら、ということ(ムヤッサル 559 頁参照)。雌牛章 233 とその訳注も参照。

8. 一体どれだけ多くの町（の民）が、その主*
のご命令と使徒*たちに反抗し（て不信仰に
陥^{おちい}つ）たことか。それでわれら*は、それを
（現世の行いについての）厳しい清算で清算
し、想像を絶する懲罰で罰したのだ。
9. そして、それ（不信仰な民*の町）はその事
の罰^{ばつ}を味わった。その事（不信仰）の結末
は、損失^{そんしつ}であった。
10. アッラー*は彼ら（不信仰な民*）に、厳しい懲
罰^{ばつ}をご用意された。ならば、信仰に入った澄ん
だ理性の持ち主たちよ、アッラー*を畏れ*よ。
（信仰者たちよ、）アッラー*は確かに、あな
た方に対して教訓を下されたのだ。
11. つまり信仰し、正しい行い*を行う者たちを
（不信仰の）闇から（信仰の）光^{みちび}へと（導
き）出すべく、あなた方にアッラー*の明ら
かなる御徴（アーヤ*）を読誦する使徒*（と
いう教訓）を。誰であろうと、アッラー*を
信じ、正しい行い*を行う者を、かれ（アッ
ラー*）はその下から河川^{かせん}が流れる樂園にお
入れになる。彼らはそこに、ずっと永遠に留
まるのだ。アッラー*は確かに、（天国にお
ける）彼への糧^{かて}を善きものとされた。
12. アッラー*は七層の天と、大地にもそれと同様
のものを、お創りになったお方。かれのご命
令²は、その間から降りて来る。（それは人々
よ、）アッラー*こそが全てのことがお出来に
なるお方であり、アッラー*こそが全ての物事
を、知識によって確かに包圍^{ほうい}されているとい
うことを、あなた方が知るためなのだ。

وَكَايْنٍ مِّن قَرْيَةٍ عَتَتْ عَنْ أَمْرِ رَبِّهَا وَرُسُلِهِ
فَخَاسَبَهَا حَسَابًا شَدِيدًا وَعَذَّبْنَاهَا عَذَابًا ثَقِيلًا ﴿٨﴾

فَذَاقَتْ وَبَالَ أَمْرِهَا وَكَانَ عِقَبُهُ أَمْرًا حَسْرًا ﴿٩﴾

أَعَدَّ اللَّهُ لَهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا فَاتَّقُوا اللَّهَ يَا أُولِي
الْأَلْبَابِ الَّذِينَ ءَامَنُوا قَدْ أَنزَلَ اللَّهُ إِلَيْكُمْ ذِكْرًا ﴿١٠﴾

رَسُولًا يَتْلُو عَلَيْكُمْ آيَاتِ اللَّهِ مَبِينَاتٍ لِّيُخْرِجَ
الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ مِنَ الظُّلُمَاتِ
إِلَى النُّورِ وَمَنْ يُؤْمِن بِاللَّهِ وَيَعْمَلْ صَالِحًا يُدْخِلْهُ
جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا
قَدْ أَحْسَنَ اللَّهُ لَهُ رِزْقًا ﴿١١﴾

اللَّهُ الَّذِي خَلَقَ سَبْعَ سَمَوَاتٍ وَمِنَ الْأَرْضِ
وَمَا لَهُنَّ يَتْرَافُ الْأُمُورُ يَنْهَى أَنْ يَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ
عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ وَأَنَّ اللَّهَ قَدْ أَحَاطَ
بِكُلِّ شَيْءٍ عِلْمًا ﴿١٢﴾

1 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

2 この「ご命令」とは、使徒たちへ啓示するイスラーム*の教え、宗教的な決まり、あるいは創造物を司（つかさど）る自然界の定めや運命などのこと（アッ=サアディー-872 頁参照）。

第 66 章

禁止章 (アッ=タハリーム) 1

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 預言者*よ²、あなたはなぜ自分の妻たちの満足^{よげんしや}を求めて、アッラー*があなたに合法とされたものを（自らに）禁じるのか？³ アッラー*は^{ゆる}放し深いお方、慈愛深い*お方。
2. （信仰者たちよ、）アッラー*はあなた方に対し、あなた方の宣誓^{せんせい}を解消すること⁴を、確かに義務づけられた。アッラー*はあなた方の守護者であり、かれは全知者、英知あふれる*お方であられる。
3. 預言者*が彼の妻たちのある者⁵に、ある話を秘密裏に伝えた時のこと。それで彼女がそれを（アーイシャ*に）話し、アッラー*がそ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ لِمَ تُحَرِّمُ مَا أَحَلَّ اللَّهُ لَكَ تَبَيَّنَ
مَرَضَاتُكَ أَزْوَاجُكَ وَاللَّهُ عَفْوٌ رَحِيمٌ ﴿١﴾

فَدَفَعُ اللَّهُ لَكَ خِجْلَةً أَيْمَنَكَ وَاللَّهُ مُؤَلِّمُ الْوُحُو
الْعَلِيمُ الْحَكِيمُ ﴿٢﴾

وَإِذَا أَسْرَ النَّبِيُّ إِلَى بَعْضِ أَزْوَاجِهِ حَدِيثًا فَلَمَّا
تَبَيَّنَ لَهُ وَأَظْهَرَ اللَّهُ عَلَيْهِ عَرَفَ بَعْضَهُ
وَأَعْرَضَ عَنْ بَعْضٍ فَلَمَّا تَبَيَّنَ لَهُ قَالَ مَنْ أُنْبِئَكَ

- 1 マディーナ*啓示。スーラ*名の由来ともなっているように、預言者*が合法的なものを自らに「禁じた」ことへのアッラー*の注意から始まり、次いでその原因となった彼の妻たちへの注意と警告（けいこく）へと移行する。警告は更に信仰者、不信仰者*、偽（にせ）信者*へも向けられ、スーラ*後半では信仰者と不信仰者*の夫婦の例が挙げられ、行いの悪い者には敬虔（けいけん）*な配偶者との縁など役には立たないことが明示される。
- 2 この預言者*ムハンマド*への語りかけについては、雌牛章 120 の訳注を参照。
- 3 預言者*が何を禁じたのかについては、異なる複数の伝承が残っている（アル=カーシミー 16:5852-5854 参照）。アッ=タバリ*は、こう言う。「…それは彼の奴隷*女性や、何らかの飲み物、あるいはそれ以外のものだった可能性もある。とにかく彼は、そもそも自らにとって合法的なものを禁じたのであり、アッラー*はそのことで彼をお咎（とが）めになったのである…」（10:8100 参照）尚、預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。
- 4 宣誓の解消における罪滅ぼしについては、食卓章 89 とその訳注を参照（アッ=サアディー 872 頁参照）。
- 5 多くの解釈学者によれば、「彼の妻たちのある者」とはハフサ・ビント・ウマルのこと。預言者*は彼女にある内緒（ないしょ）話をし、それを誰にも伝えないように言った（前掲書、同頁参照）。

れ¹を彼（預言者*）に明かされた時、彼（預言者*）は（ハフサに、彼女が洩らした秘密の）一部を知らせ、（別の）一部は（言及せずに）放っておいた。そして彼が彼女（ハフサ）にそれを知らせた時、彼女は言った。「誰があなたに、これを知らせたのですか？」彼（預言者*）は言った。「全知者で通曉されているお方（アッラー*）が、私に知らせて下さったのだ」。

هَذَا قَالَ نَبِيُّ الْعَالَمِينَ الْحَبِيرُ ﴿٦٦﴾

4. （ハフサとアーイシャ*²よ、）あなた方二人がアッラー*に悔悟するならば、（その悔悟は受け入れられよう、）あなた方二人の心は確かに、（真理から）傾いた³のだから。そして、もしそこ⁴において助け合うにしても、（預言者*は援助されよう、というのも）実にアッラー*こそが彼の庇護者*であり、ジブリール*と、信仰者の正しい者*たち、そして天使*たちが、（彼に対しての）その更なる援助者なのだから。

إِنْ تَوْبَا إِلَى اللَّهِ فَقَدْ صَغَتْ قُلُوبُكُمَا وَإِنْ تَظَاهَرَا عَلَيْهِ فَإِنَّ اللَّهَ هُوَ مَوْلَاهُ وَجِبْرِيلُ وَصَالِحُ الْمُؤْمِنِينَ وَالْمَلَائِكَةُ بَعْدَ ذَلِكَ ظَهِيرٌ ﴿٦٧﴾

5. （預言者*の妻たちよ、）彼の主*は——もし彼があなた方を離婚したら——、彼にあなた方よりも善い妻たちを、代わりにあてがって下さろう。服従する女（ムスリマ*）たち、信仰する女たち、従順な女たち、悔悟する女たち、崇拜*行為に専念する女たち、

عَنْ رَبِّهِ إِنْ طَلَغَتْ أُنثَىٰ مِنْهُ لَئِنْ يَدُّهُ أَرْجَا حَضَرَ مِنْكُمْ مُّسِيءٌ مِّنْكُمْ فَبِئْسَتِ تَلَكَّاتِ عَيْدَاتٍ سَلَّحَتْ تَلَبَّتْ وَأَبْكَرًا ﴿٦٨﴾

1 「それ」とは、ハフサが秘密を漏（も）らしたこと（ムヤッサル 560 頁参照）。

2 彼女ら二人は、預言者*が合法なものを自らに禁じた原因であった（アッ=サアディー872 頁参照）。

3 つまり、預言者*の嫌がることを志向したことで「（真理から）傾いた」こと。あるいは「（悔悟に）傾いた」という解釈もある（アル=クルトゥビー18:188 参照）。

4 つまり、預言者*が嫌がること（ムヤッサル 560 頁参照）。

齋戒^{さいかい}*する^き女^こたち、既婚^{きこん}の女^めたち、処女^こたち
(である妻^{さい}たちを)。

6. 信仰する者たちよ、あなた方自身と、あなた方の家族を(地獄の)業火^{ごうか}から守るのだ。その燃料^{ねんりよう}は、人々と石^{いし}²。その上^{うへ}には、荒々しく厳しい天使^{てんし}*たち³がいる。彼らはアッラー*が彼らに命じられたことで、かれに逆らうことがなく、命じられることをするのである。

7. (彼らが地獄に入れられる時、こう言われる。)「不信仰^{ふしやう}だった者^{もの}*たちよ、この日、言い訳^{いわけ}をするのではない。あなた方が報^{むく}われるのは、自分たちが(現世^{げんせい})で行っていたこと(の応報^{おうほう})⁴に外ならないのだ」。

8. 信仰する者たちよ、アッラー*に真摯^{しんし}な悔悟^{かいご}をせよ。あなた方の主^{しゅ}*は、あなた方のためにあなた方の悪行^{あくぎょう}を帳消^{ちやうけ}しにして下さり、あなた方を、その下から河川^{かせん}が流れる楽園^{らくえん}にお入れになろう。アッラー*が預言者^{よげんしゃ}*と、彼と共に信仰した者たち^{はづかし}を辱められはしない、(復活^{かふく}の)その日に。彼らの光は(地獄の)上の架け橋^{かけはし}⁴のもとで、彼らの前方^{さき}と右手^{みぎ}⁵を(彼らと共に)進む。彼らは言うのだ。「我らが主^{しゅ}*よ、私たちに(天国に到達するまで)私たちの光を

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا قُوا أَنْفُسَكُمْ وَأَهْلِيكُمْ
قَارًا وَقُوْهُمَا النَّاسُ وَالْجَارَةُ عَلَيْهَا
مَلَائِكَةٌ غِلَاظٌ شِدَادٌ لَا يَعْصُونَ اللَّهَ
مَا أَمَرَهُمْ وَيَفْعَلُونَ مَا يُؤْمَرُونَ ﴿٦﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ كَفَرُوا لَا تَعْزِدُوا الْيَوْمَ إِنَّمَا
تُجْزَوْنَ مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٧﴾

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا تُوبُوا إِلَى اللَّهِ تَوْبَةً
نَّصُوحًا عَسَىٰ رَبُّكُمْ أَن يُكَفِّرَ عَنْكُمْ
سَيِّئَاتِكُمْ وَيُدْخِلَكُمْ جَنَّاتٍ تَجْرِي
مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ يَوْمَ لَا يُجْزَىٰ اللَّهُ النَّبِيَّ
وَالَّذِينَ آمَنُوا مَعَهُ، نُورُهُمْ يَسْعَىٰ بَيْنَ
أَيْدِيهِمْ وَبِأَمْنٍ يَمْشُونَ رَبَّنَا أَتَجِمْ لَنَا
نُورَنَا وَاعْفُ رُبَّنَا إِنَّكَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ
قَدِيرٌ ﴿٨﴾

1 「齋戒*する女」については、悔悟章 112 「齋戒*する者」の訳注を参照。

2 雌牛章 24、預言者*たち章 98 とその訳注も参照。

3 これはザバーニヤと呼ばれる、地獄の天使*たちのこと(イブン・カスィール 8:168 参照)。凝血章 18 の訳注も参照。

4 「地獄の)上の架け橋」については、鉄章 12 の訳注を参照。

5 この「前方と右手」についても、鉄章 12 の訳注を参照。

完遂^{かんすい}させ、私たちをお赦^{ゆる}し下さい。本当にあなたは、全てのことがお出来であられるお方なのですから」。

9. 預言者^{よげんしや}*よ、不信仰者^{ふしんぎや}*たちと偽信者^{にぎしんぎや}*らに
対して努力奮闘^{ふんとう}し、彼らに厳^{きび}しくあれ。
彼らの（来世での）住処^{すみか}は地獄^{じゅうあく}なのだ。
そしてその行き先は、何と醜悪^{しゅうあく}なことであ
ろうか。

10. アッラー*は（、ムスリム*と近い関係に
あったにも関わらず、）不信仰だった者*
たちの譬^{たと}えとして、ヌーフ*の妻とルート
*の妻を挙げられた。彼女ら二人は、（そ
れぞれ）われら*の正しい僕二人の（後
見）下にあったものの、彼ら二人を（宗
教的に）裏切^{うらぎ}った（不信仰者*だった）の
であり、彼ら二人はアッラー*（からの懲
罰^{ばつ}）に対して、彼女らに少しも役に立
てなかった。そして彼女ら二人には（来世
で、こう）言われるのである。「（そこ
に）入る者たちと共に、（地獄の）業火^{ごうか}に
入るがよい」。

11. またアッラー*は（、不信仰者*の中にあ
ったにも関わらず）信仰した者たちの譬^{たと}
えとして、フィルアウン*の妻^あを挙げられ
た。彼女が、（こう）申し上げた時のこ
と。「我が主^{しゅ}*よ、天国のあなたの御許^{みもと}で、
私のために家をお建て下さい。そして私
をフィルアウン*とその（悪い）行いから
お救いになり、私を不正*者である民から
お救い下さい」。

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ جَاهِدِ الْكُفَّارَ وَالْمُنَافِقِينَ
وَأَعْلَظْ عَلَيْهِمْ وَمَا أَوْفَتْهُمْ جَهَنَّمُ وَنَجَّسَ
الْمَصِيدُ ﴿٩﴾

صَرَبَ اللَّهُ مَثَلًا لِلَّذِينَ كَفَرُوا أُمْرَأَتَ نُوحٍ
وَأُمْرَأَتَ لُوطَ كَانَتَا تَحْتَ عَبْدَيْنِ مِنْ
عِبَادِنَا صَالِحَيْنِ فَخَانَتَاهُمَا فَلَمْ يَغْنَيْنَا
عَهُمَا مِنَ اللَّهِ شَيْئًا وَقِيلَ ادْخُلَا النَّارَ
مَعَ الدَّاسِخِينَ ﴿١٠﴾

وَصَرَبَ اللَّهُ مَثَلًا لِلَّذِينَ آمَنُوا
أُمْرَأَتَ فِرْعَوْنَ إِذْ قَالَتْ رَبِّ ابْنِ لِي
عِنْدَكَ بَيْتًا فِي الْحَنَةِ وَيَجْعَلْ لِي زَوْجًا
وَعَمَلِيَّةً وَيَجْعَلْ لِي مِنَ الْقَوْمِ الظَّالِمِينَ ﴿١١﴾

1 フィルアウン*の妻については、物語章9の訳注を参照。

12. また（アッラー*は、）自らの貞操^{みづか ていそう けんじ}を堅持した、イムラーンの娘マルヤム*（を、信仰者^{たし}についての譬え^{たと}としてお挙げ^あげになった¹）。われら*はその内に、われら*の魂^{たましい}²から吹き込んだのである。また、彼女は自分の主^{しゅ}*の御言葉^{みことば}と啓典^{けいてん}を信じたのであり、従順な者たちの一人であった。

وَمَرْيَمَ ابْنَتَ عِمْرَانَ الَّتِي أَحْصَنَتْ
فَرْجَهَا فَنَفَخْنَا فِيهِ مِنْ رُوحِنَا وَصَدَقَتْ
بِكَلِمَاتِ رَبِّهَا وَكُنْتِ مِنْ
الْقَانِئِينَ ﴿١٢﴾

1 アーヤ*10、11 では、それぞれ配偶者が不信仰者であった男女の信仰者の例が挙げられているが、ここでは独身者の信仰者の例が挙げられている（アル＝バイダーウィー 5:358 参照）。

2 この「魂」については、婦人章 171 の訳注を参照。

第 67 章

王権章 (アル=ムルク) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. その御手にこそ(全創造の)王権があるお方(アッラー*)は、祝福にあふれておられる。そしてかれは、全てのことがお出来になられるお方。
2. (人々よ、かれは)あなた方のいずれがより善い行いかを試されるべく²、死と生をお創りになったお方。かれは偉力ならびない*お方、赦し深いお方であられる。
3. (かれは)組み合わさった³七層の天を、お創りになったお方。(それを見る者よ、)あなたは慈悲あまねき*お方(アッラー*)の創造に、いかなる不調和も見出さない。では、視線を(天へと、)戻してみるがよい。一体あなたは(そこに)、少しでも亀裂を見出すのか?

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

تَبَرَّكَ الَّذِي بِيَدِهِ الْمُلْكُ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿١﴾

الَّذِي خَلَقَ الْمَوْتَ وَالْحَيَاةَ لِيَبْلُوَكُمْ أَيُّكُمْ أَحْسَنُ عَمَلًا وَهُوَ الْعَزِيزُ الْغَفُورُ ﴿٢﴾

الَّذِي خَلَقَ سَبْعَ سَمَاوَاتٍ طِبَاقًا تَرَى فِي خَلْقِ الرَّحْمَنِ تَفْوتًا فَارْجِعِ الْبَصَرَ هَلْ تَرَى مِنْ فُطُورٍ ﴿٣﴾

- 1 マッカ*啓示で学者間見解は、ほぼ一致。自然界における身近な、そして高遠な驚異(きょうい)に言及しつつ、創造主としてのアッラー*の御力と唯一性*の確証が、一貫して取り上げられている。スーラ*名はその流れの冒頭で言及された、「王権」という語に由来。アッラー*の御力を示す様々な根拠が提示されるが、それでも不信仰に留まる者たちに対し、現世と来世における厳しい警告が告げられている。
- 2 「より善い行い」とは、より(アッラー*に)純化され(婦人 146 の訳注も参照)、より(スンナ*に則った)正しい行い*のこと。アッラー*は人間をこの世界に置かれ、彼らがいずれそこから立ち去る身であることをお知らせになった上で、彼らに命令や禁止をされ、それに逆行する私欲によって彼らを試練にかけられた。それでアッラー*のご命令に従い、善き行いに努めた者は、現世と来世における褒美を授かる。しかしそうでなかった場合、その報いは悪いものとなる(アッ=サアディー-875 頁参照)。イムラーン家章 179、蜘蛛章 2 及びムハンマド*章 31 とその訳注も参照。
- 3 一説には、「(階層的に)重なり合った」という意味(アル=クルトゥビー-18:208 参照)。

4. それから何度も、視線^{もじ}を戻^もしてみるがよい。(そうすれば、)視線は惨めにも疲れ切^{みじ}って、自らのもとに返^{みづか}って来よう。
5. われら^{あか}*は確かに最下層^{そう}の天^{あか}を(星)灯^{あか}りで飾^{かざ}りつけ、それをシャイターン^{みじ}*らへの射撃^{しやげき}とした¹。そしてわれら^{あか}*は彼らに、烈火^{れつ}の懲罰^{ちやうばつ}を用意したのだ。
6. 自分たちの主^{しゅ}*に対して不信仰^{ふしやう}だった者^{ちやうばつ}*たちには、地獄^{しやうあく}の懲罰^{ちやうばつ}がある。その行き先は、何と醜悪^{しやうあく}なことであろうか。
7. 彼ら(不信仰者^{ふしやうしや}*)はその中に放り込まれた時、いきり立った(業火^{ごう})の咆哮^{ほうこう}を聞く。
8. それは(不信仰者^{ふしやうしや}*への憤^{いきどお}りゆえ)、張り裂^はけんばかり。そこに集団^しが放り込まれるたび、その門番^{かどわ}たちは彼らに尋ねる。「あなた方には(現世^{げんせい}で、あなた方が今味わっている懲罰^{ちやうばつ}を警告^{けいこく}する)、警告者^{ちやうばつ}が到来^{とうらい}しなかったのか？」
9. 彼らは(、応^{こた}えて)言う。「ええ、確かに警告者^{けいこく}は、私たちのところに来ました。けれども私たちは(彼^{うそ}を)嘘^{うそ}つき呼^よばわりし、(こう)言^いったのです。『アッラー*は(あなた方に啓示^{けいじ}を)何一つ、下されてなどいない。あなた方(使徒^{しと}*たち)は、大きな迷いの中に^すあるに過ぎないのだ』」。
10. また、彼らは言う。「もし私たちが(真理を求めて)聴^きき、弁^わえていたら、烈火^{れつ}の徒^たとはなっていなかったのに」。

تَوَارَجَ الْبَصَرُ كَرَيْنٍ يَنْقَلِبُ إِلَيْكَ الْبَصَرُ خَاسِئًا وَهُوَ حَسِيرٌ ﴿١﴾

وَلَقَدْ رَزَقْنَاهُ السَّمَاءَ الدُّنْيَا مِصْبِيحًا وَجَعَلْنَاهُ لُجُومًا لِلشَّيَاطِينِ وَأَعْتَدْنَا لَهُمْ عَذَابَ السَّعِيرِ ﴿٢﴾

وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِرَبِّهِمْ عَذَابُ جَهَنَّمَ وَيُسْأَلُونَ الْمَصِيرَ ﴿٣﴾

إِذَا أُلْقُوا فِيهَا سَمِعُوا لَهَا شَهِيقًا وَهِيَ تَفُورٌ ﴿٤﴾

كَذَلِكَ نَمِيزُ مِنَ الْعَبِيدِ كَمَا أَلْقَى فِيهَا فَوْجٌ سَاءَ لَهُمْ خَزَنَتُهَا أَلْوَاعٌ حَدِيدٌ ﴿٥﴾

قَالُوا لَوْلَا قَدْرُنَا تَدِيرُ فَعَدْنَا وَمَنْ لَنَا مِثْلُ اللَّهِ مِنْ شَيْءٍ إِنْ أَسْمِعْ إِلَّا فِي ضَلَالٍ كَبِيرٍ ﴿٦﴾

وَقَالُوا لَوْ كُنَّا نَسْمَعُ أَوْ نَعْقِلُ مَا كُنَّا فِي أَصْحَابِ السَّعِيرِ ﴿٧﴾

1 アル=ヒジュル章 17-18 とその訳注、詩人たち章 212、223、整列者章 6-10、ジン*章 8-9 も参照。

11. こうして彼らは自分たちの罪^{つみ}を、認める。
ゆえに烈火^{れつか}の徒^かが、(アッラー*のご慈悲^{じひ}から) 遠ざけられるよう。
12. 本当に自分たちの主^{しゅ}*を、まだ見ぬままに恐れる^{おそ}者^{もの}たち、彼らには(罪^{つみ}の)赦^{ゆる}しと、(天国^{てんごく}での) 大いなる報^{むく}いがある。
13. (人々よ、) あなた方の言葉^{ことば}を、秘密^{ひそや}にしてみよ。あるいは、それを公け^{おとや}にしてみよ(、いずれにしても、アッラー*には同じこと)。本当にかれは、胸中^{きょうちゅう}にあるものをご存知^{ぞうち}のお方^{かた}なのだから。
14. 創造^{そうぞう}されたお方が、(彼らのことを) ご存知^{ぞうち}にならないとでも? かれは^{れいみょう}霊妙^{れいみょう}な*お方^{かた}、通曉^{つうぎょう}されるお方^{かた}だというのに。
15. かれはあなた方のため、大地^{ほうばう}を平坦^{へいたん}にされたお方。ゆえにその方々^{かた}を歩き、かれの糧^{かて}から食べるがよい。そしてかれにこそ、(清算^{けいさん}と報^{むく}いのための) 復活^{ふくたつ}があるのだ。
16. (不信仰者^{ふしんぎやう}*たちよ、) 一体あなた方は天^{てん}におられるお方(アッラー*)が、地面^{しづ}をあなた方もろとも沈め^{しず}給^{たま}うことから、安全^{あんぜん}なのか? そしてどうであろう、それ(大地^ち)は(あなた方を滅ぼ^{めつ}すまで、) 揺れ動くのである。
17. いや、一体あなた方は、天^{てん}におられるお方(アッラー*)が自分たちに、石^{いし}を運ぶ風^{ふう}をお送りになることから安全^{あんぜん}だというのか? ならば彼らは、わが警告^{けいこく}がいかなるものかを知ることになろう。

فَاعْتَرَوْا بِذُنُوبِهِمْ فَسُحِقًا لِأَصْحَابِ السَّعِيرِ ﴿١١﴾

إِنَّ الَّذِينَ يَخْشَوْنَ رَبَّهُم بِالْغَيْبِ لَهُمْ مَغْفِرَةٌ
وَأَجْرٌ كَبِيرٌ ﴿١٢﴾

وَأَسِرُّوا قَوْلَكُمْ أَوِ اجْهَرُوا بِهِ إِنَّهُ عَلِيمٌ بِذَاتِ
الْصُّدُورِ ﴿١٣﴾

أَلَا يَعْلَمُ مَنْ خَلَقَ وَهُوَ اللَّطِيفُ الْخَبِيرُ ﴿١٤﴾

هُوَ الَّذِي جَعَلَ لَكُمُ الْأَرْضَ ذُلُولًا فَامْشُوا فِي
مَنَاكِبِهَا وَكُلُوا مِنْ رِزْقِهِ وَإِلَيْهِ النُّشُورُ ﴿١٥﴾

أَمْ أَمِنْتُمْ مَنْ فِي السَّمَاءِ أَنْ يَخِفُّ بِكُمْ الْأَرْضُ
فَإِذَا هِيَ تَمُورُ ﴿١٦﴾

أَمْ أَمِنْتُمْ مَنْ فِي السَّمَاءِ أَنْ يُرْسِلَ عَلَيْكُمْ
حَاصِبًا فَسَتَعْلَمُونَ كَيْفَ نَذِيرِ ﴿١٧﴾

1 「(アッラー*を) まだ見ぬままに恐れ」ることについては、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

18. 彼ら(マッカ*の不信仰者たち)以前の者たちは、確かに(彼らの使徒*たちを)嘘つき呼ばわりしたのだ。それで、わが否認はいかなるものだったか?¹
19. (その無頓着さゆえ、)彼ら(不信仰者*たち)は、自分たちの頭上を羽を広げたり、畳んだり(して飛行)する鳥を見なかったのか? それらを(墜落から)支えられるのは、慈悲あまねき*お方(アッラー*)しかおられない。本当にかれは、全てのことをご覧になるお方。
20. いや(、不信仰者*たちよ)、慈悲あまねき*お方を差しおいてあなた方を援助する、あなた方の軍勢であるこの者²とは、誰なのか? 不信仰者*たちは外ならぬ、(シャイターン*の)欺きの中にある。
21. いや、あなた方に糧を授けてくれる、この者とは誰なのか——かれ(アッラー*)が、その糧を(あなた方から)お控えになったとしたら——? いや、彼らは反抗と(真理への)忌避と共に、歯向かったのである。
22. 一体、顔を下にして歩く者が、より導かれているのか? それとも、まっすぐな道を正しく歩く者か?³

وَلَقَدْ كَذَّبَ الَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ فَكَيْفَ كَانَ نَجِيرُ ﴿١٨﴾

أَوَلَمْ يَرَوْا إِلَى الطَّيْرِ فَوْقَهُمْ صَفًى وَيَقْبَضْنَ مَا يُمْسِكُهُنَّ إِلَّا الرَّحْمَنُ إِنَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ بَصِيرٌ ﴿١٩﴾

أَمَّنْ هَذَا الَّذِي هُوَ جُنْدٌ لَّكُمْ يَنْصُرُكُمْ مِّن دُونِ الرَّحْمَنِ إِنِ الْكَافِرُونَ إِلَّا فِي غُرُورٍ ﴿٢٠﴾

أَمَّنْ هَذَا الَّذِي يَزُفُّكُمْ إِنْ أَمْسَكَ رِيقَهُ بَل لَّجَوَابُ عَذَابٍ مُّثَوَّرٍ ﴿٢١﴾

أَمَّنْ يَمْشِ مُبْكِاً عَلَىٰ وَجْهِهِ أَهْدَىٰ أَمَّنْ يَمْشِ سَوِيًّا عَلَىٰ صِرَاطٍ مُّسْتَقِيمٍ ﴿٢٢﴾

1 「わが否認はいかなるものだったか?」については、巡礼*章 44 の訳注を参照。

2 アッラー*以外のいかなるものが、いかなる敵に対してどれだけ集結したとしても、それら自体が人を益することは少しもない(アッ=サアディー 877 頁参照)。

3 前者は、真理が虚妄(きょうもう)、虚妄が真理になってしまうという心が逆転した状態にあり、迷いと不信仰に浸(ひた)りきっている者のたとえ。後者は真理を知り、それを尊(たつ)び、それに則(したが)って行い、あらゆる言動や状態においてまっすぐな道を歩く者(前掲書、同頁参照)。尚、来世において信仰者は天国へとまっすぐに導かれるが、不信仰者*は、顔から逆さにされて地獄に集められる(イブン・カスィール 8:161 参照)。夜の旅 97 章とその訳注、蟻章 90 も参照。

23. (使徒*よ、) 言ってやれ。「かれ(アッラー*)はあなた方に、聴覚と視覚と心を備え付けて下さったお方。(不信仰者*たちよ、) あなた方が感謝することの少ないこと」。

24. 言ってやるがいい。「かれは、あなた方を大地に繁茂させられたお方。そしてかれの御許にこそ、あなた方は召集されるのだ」。

25. 彼ら(不信仰者*たち)は、言う。「その約束(復活の日*)は、いつなのか? もし、あなた方が本当のことを言っているのなら」。

26. (使徒*よ、) 言ってやれ。「(復活の日*の到来についての) その知識は、アッラー*の御許にこそある。そして私は、明白なる警告者でしかないのだ」。

27. それ(アッラー*の懲罰)が近くに迫るのを目にすると、不信仰だった者*たちの顔つきは(憂鬱さゆえに、) 悪くなる。そして彼らには、(こう) 言われるのだ。「これが、あなた方が(現世で、その到来を) 求めていた¹ものである」。

28. (使徒*よ、彼ら不信仰者*たちに) 言ってやるがいい。「言ってみよ、もしアッラー*が私と、私と共にある(信仰)者を滅ぼされたり、または私たちにご慈悲をおかけになっ(て、罰から救ってくれ)たりしたとしても、一体誰が、不信仰者たちを痛まし^い懲罰から守ってくれるのか?」

قُلْ هُوَ الَّذِي أَنشَأَكُمْ وَجَعَلَ لَكُمُ السَّمْعَ
وَالْأَبْصَارَ وَالْأَفْئِدَةَ ۖ قَلِيلًا مَّا تَشْكُرُونَ ﴿٣٣﴾

قُلْ هُوَ الَّذِي ذَرَأَكُمْ فِي الْأَرْضِ وَإِلَيْهِ
تُحْشَرُونَ ﴿٣٤﴾

وَيَقُولُونَ مَتَى هَذَا الْوَعْدُ إِن كُنتُمْ صَادِقِينَ ﴿٣٥﴾

قُلْ إِنَّمَا الْعِلْمُ عِنْدَ اللَّهِ وَإِنَّمَا أَنَا نَذِيرٌ
مُّبِينٌ ﴿٣٦﴾

فَلَمَّا رَأَوْهُ زُلْفَةً سَبَعَتْ وُجُوهُ الَّذِينَ كَفَرُوا
وَقِيلَ هَذَا الَّذِي كُنتُمْ بِهٖ تَدْعُونَ ﴿٣٧﴾

قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنِ أَهْلَكْتُكَمُ يَوْمَ تَأْتِي سَاعَةُ
الْعِلَاقِ ۖ فَذُنُوبُكُمْ أَرْجَا ۖ قُلْ إِنَّمَا
أَعِظُكُمْ بِمَا أَنَا بَشَرٌ مِّثْلُكُمْ ۚ يُخَوِّفُ
مَنِ اتَّبَعَ ۚ إِنَّمَا أَنتُم مَّنْزِلُ السَّاعَةِ ۚ
وَأَنذَرْتُكُمْ نَارَ الْكَاذِبِينَ ﴿٣٨﴾

1 「(それは到来しない、と) 思い込んでいた」という解釈もある(アッ=シャウカーニー 5:352 参照)。

29. 言ってやれ。「かれは、慈悲あまねき*^お方。私たちはかれを信じ、かれに全てを委ねた*。^{ゆだ}ならば、あなた方は誰がまさに明らかな迷いの中にあったのか、知ることになろう」。

30. (使徒*^{しと}よ、シルク*の徒に) 言うのだ。「言ってみよ、もしあなた方の水が(地下に沈んで)無くなってしまったら、一体誰が、あなた方に湧き水を与えてくれるというのか？」

قُلْ هُوَ الرَّحْمَنُ ۖ اَمَّا بِيَدِهِ وَعَلَيْهِ تَوَكَّلْنَا
فَسَتَعْلَمُونَ مَنْ هُوَ فِي ضَلَالٍ مُبِينٍ ﴿٢٩﴾

قُلْ اَرَأَيْتُمْ اِنْ اَصْبَحَ مَاؤُكُمْ غَوْرًا فَمَنْ يَاتِيكُمْ
بِمَاءٍ مَعِينٍ ﴿٣٠﴾



第 68 章
筆章 (アル=カラム) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. スーン²。筆と、それと彼らが書き記すもの³にかけて (誓う)。⁴
2. (使徒*よ、) あなたは、あなたの主*の恩恵⁵ゆえ、憑かれた者⁶などではない。
3. あなたにこそは、まさしく尽きることのない⁷褒美がある。
4. また本当に (使徒*よ)、あなたこそは、この上ない (よき) 品性を備えている。
5. ならば、あなたは目にし、彼ら (不信仰者*たち) も目にするであろう、
6. あなた方のいずれが、試練⁸にかけられた者⁸かを。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْقَلَمِ وَمَا يَسْطُرُونَ ﴿١﴾

مَا أَنْتَ بِنِعْمَةِ رَبِّكَ بِمَجْنُونٍ ﴿٢﴾

وَإِنَّ لَكَ لَأَجْرًا غَيْرَ مَمْنُونٍ ﴿٣﴾

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ ﴿٤﴾

فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ وَبِخَيْرِ مَا يُبَيِّنُونَ ﴿٥﴾

يَا أَيُّهَا الْمَفْتُونُ ﴿٦﴾

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語「筆」に由来。預言者*ムハンマド*の真実性の確証に始まり、彼の布教の前に立ちはだかる不信仰者の悪い性質が言及され、次いでその帰結としての罰が描写される。アッラー*からの恩恵に対する感謝の念と、善行を蔑(ないがし)ろにした農園主の教訓にあふれる物語を挟(はさ)み、後半では信仰者と不信仰者*の比較、預言者*ムハンマド*という大きな恩恵を否定していた同時代の不信仰者*への警告が改めて繰り返され、預言者*に向けられた忍耐*の勸(すす)めによって、スーラ*は締めくくられる。

2 この文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 天使*や人間が「書き記す」善いこと、利益、知識などのことを指す(ムヤッサル 564 頁参照)。

4 アッラー*の「誓い」については、整列者章 1 の訳注も参照。

5 この「恩恵」とは、預言者*性のことであるとされる(前掲書、同頁参照)。

6 「憑かれた者」については、アル=ヒジュール章 6 の訳注を参照。

7 「尽きることのない」については、詳細にされた章 8 の訳注も参照。

8 つまり、「憑(つ)かれた者」。あるいは、「真理から迷うという試練にかけられた者」(イブン・カシール 8:190 参照)。

7. 本当^{しゆ}にあなたの主^{しゆ}*こそは、誰^{みちび}がかれの道（イスラーム*）から迷った者か^しを最もよくご存知であり、（正しい教えに）導^{みちび}かれた者たちを、最もよくご存知であられるのだ。
8. ならば（使徒^{しと}*よ）、（アッラー*の御^み徴^{しるし}と使徒^{しと}を）嘘^{うそ}呼^うばわりする者^したちに従^{したが}うのではない。
9. 彼らは、あなたが（彼らの宗教に）おもねれば、彼らもおもねることを欲^ほしている。¹
10. また（使徒^{しと}*よ）、卑^{いや}しく、やたらと誓^{ちか}ういかなる者^しにも従^{したが}うのではない。
11. 中^{ちゅうしょう}傷^うばかりして²、悪い噂^{うわさ}を吹^ふいて回^{まわ}る³（者^しに）。
12. 善^{はば}を阻^{しん}み、（人々^{しんがい}への侵^{しん}害^{がい}と非合法な物事において）度^どを越^こし、罪^{つみ}に溺^{おぼ}れた（者^しに）。
13. 粗^そ暴^{ぼう}で、その上^{すじょう}、素^そ性^{じょう}が知^しれな^いい（者^しに）。
14. 財産と子供を有^あする者^しだったがゆえに（、彼は真^ま理^りを受け入^いれること^こに對^{たい}し、高^{こう}慢^{まん}にな^なったのだ）。
15. われら*の御^み徴^{しるし}（アーヤ*）が彼^かに説^{どく}誦^{しょう}され^れた時^{とき}、彼^かは言^いった。「（これは）昔^この人々^たのお伽^{とが}話^わだ」。⁴

إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعْلَمُ بِمَنْ ضَلَّ عَنْ سَبِيلِهِ وَهُوَ
أَعْلَمُ بِالْمُهْتَدِينَ ﴿٧﴾

فَلَا تُطِيعِ الْمُكَذِّبِينَ ﴿٨﴾

وَدُّوا أَنْ تُدْهِنُوا فَيَكْتُمُونَ ﴿٩﴾

وَلَا تُطِيعِ كُلَّ حَلَّافٍ مِّمَّيْنِ ﴿١٠﴾

هَمَزًا مَسَاءً يَنْسِيمِ ﴿١١﴾

مَنْعًا لِلْحَيْرِ مُعْتَدِئِيمِ ﴿١٢﴾

عُتِلَ بَعْدَ ذَلِكَ زُنُيْمِ ﴿١٣﴾

أَنْ كَانَ ذَا مَالٍ وَنَبِيًّا ﴿١٤﴾

إِذَا نَسَّيَ عَلَيْهِ إِلَهُنَا قَالَ أَسْطِيرُ الْأَوَّلِينَ ﴿١٥﴾

1 夜の旅章 74-75 も参照。

2 この「中傷」については、中傷者章 1 の訳注を参照。

3 原語では「ナミーム（またはナミーマ）」で、人間関係の悪化や、敵意や憎悪を生じさせることを意図しつつ、誰かが話したことを第三者に告げること（アッ=サアディー 879 頁参照）。

4 アーヤ*10-15 は、あるシルク*の徒^{しと}に関して下^{くだ}ったとされる。その一方でこの中には、これらの性質が当てはまる者^したちに対する、ムスリム*への注意の勧告が見受けられる（ムヤッサル 564 頁参照）。

16. われら*は彼に対し（人の目に明らかな懲罰として）、鼻の上に印をつけてやろう。¹

سَنَسْمُهُ، عَلَى الْخُطُمِ ﴿١٦﴾

17. 本当にわれら*は、彼ら（マッカ*の民）を試練^{れん}にかけた。ちょうどわれら*が農園主たちを、彼らが「朝早く、それら（果実）を摘み取ってしまおう」と誓った時、試練にかけたように。²

إِنَّا نَبْرَهُمْ كَمَا نَبْرُنَا أَحْبَبَ الْجَنَّةَ إِذَا أَقْسَمُوا لَصْرِيمَتِهَا
مُصْبِحِينَ ﴿١٧﴾

18. （「もし、アッラー*がお望みになったならば」と言って、それが実現しない可能性を）除外^{じょがい}することもなく（、彼らはそう誓った）。³

وَلَا يَسْتَنْوُونَ ﴿١٨﴾

19. それで彼らが（夜中）眠っている最中、あなたの主*からの包圍^{ほうい}がそれ（農園）を包圍し、

فَطَافَ عَلَيْهَا طَافٌ مِّنْ رَبِّكَ وَهُمْ لَا يَبْقُوعُونَ ﴿١٩﴾

20. それは闇夜のように（、黒こげに）なってしまった。

فَأَصْبَحَتْ كَالصَّرِيمِ ﴿٢٠﴾

21. そして彼らは朝、互いに呼びかけ合った、

فَتَنَادَوْا مُصْبِحِينَ ﴿٢١﴾

22. 「あなた方の作物へと、朝早く出かけよ。もしあなた方が、（それを）摘み取るのなら」と。

أَنِ اعْبُدُوا عَلٰى حَرْثِكُمْ إِن كُنْتُمْ صَاحِبِينَ ﴿٢٢﴾

1 このアーヤ*の解釈には「剣で鼻を打たれる（一説に、このアーヤ*で意図された者は、パドルの戦い*において剣で鼻を打たれ、死んだとされる）」「復活の日*、他人からその姿が認められるよう、鼻に印をつけられる（慈悲あまねき*お方章 41 参照）」「不名誉を与えられる」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー 18:236-237 参照）。

2 これは、イエメン地方にあった農園主の話。この農園主は正しい人物で、果実を収穫する時には、恵まれない人々にもそこから施すことを常としていた。しかし彼の死後、それを受け継いだ三人の息子たちは分け前を惜しみ、その習いに反しようとしたのだった（前掲書 18:240 参照）。

3 関連して、洞窟章 24 とその訳注も参照。

4 この「包圍」とは、アッラー*が天からお下しになった炎のこととされる（ムヤッサル 565 頁参照）。

23. それで彼らは、ひそひそ話し合いつつ出発した、
24. 「今日は貧者^{ひんじや}*があなた方と共に、そこ（農園）に入ることがあってはならない」と。
25. そして（貧者^{ひんじや}*たちに果実を）禁じようとして、（計画を実行する）力にみなぎった状態で、朝に出かけた。
26. それで、それ（黒こげになった農園）を見た時、彼らは（信じられず、こう）言った。「本当に私たちは（農園への道で）、迷子になってしまったのだ」。
27. （そして、それが自分たちの農園だと認めた時、彼らは言った。）「いや、私たちは（農園の恵みを）禁じられたのである」。
28. 彼らの内、最善の者が言った。「私はあなた方に、『さあ、称える^{たた}*¹のだ』と言わなかったか？」
29. 彼らは言った。「アッラー^{なた}*に称え^{たた}*あれ。本当に私たちは、不正^ふ*者でした」。
30. 彼らは互いに、責め合い出した。
31. 彼らは言った。「我らが災いよ！^{わざわ}2 本当に私たちは、放埒^{ほうらつ}者でした。
32. 我らが主^{しめ}*は、きっとあれ（農園）より善いものを、私たちに取り替えて下さろう。本当に私たちは、我らが主^{しめ}*にこそ、（お赦しとお恵みを）切望^{せつぼう}するのだから」。

فَأَنطَلَقُوا وَهُمْ يَتَخَفَتُونَ ﴿٢٣﴾

أَن لَّا يَدْخُلَهَا الْيَوْمَ عَلَيْكُمْ مَسْكِينٌ ﴿٢٤﴾

وَعَدُوا عَلَىٰ حَرْوٍ قَدِيرٍ ﴿٢٥﴾

فَلَمَّا رَأَوْهَا قَالُوا إِنَّا لَمَّا لَوْنٌ ﴿٢٦﴾

بَلْ نَحْنُ مَحْرُومُونَ ﴿٢٧﴾

قَالَ أَوْسَطُهُمْ أَلَمْ أَقُلْ لَّكُمْ لَوْلَا تُسَبِّحُونَ ﴿٢٨﴾

قَالُوا سُبْحَانَ رَبِّنَا إِنَّا كُنَّا ظَالِمِينَ ﴿٢٩﴾

فَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ يَتَلَوْمُونَ ﴿٣٠﴾

قَالُوا بَوَيْلَنَا إِنَّا كُنَّا ظَالِمِينَ ﴿٣١﴾

عَسَىٰ رَبُّنَا أَن يُبْدِلَنَا حَبْرًا مِّمَّنْهَا إِنَّا إِلَىٰ رَبِّنَا

رَاغِبُونَ ﴿٣٢﴾

1 つまり、アーヤ*18にあるように「もし、アッラー*がお望みになったら」という言葉のこと（ムヤッサル 565 頁参照）。この言葉が、彼らにとっての称えの言葉だったのだという。また、「アッラー*に称え*あれ」と言い、感謝すること「お赦しを乞うこと」という説もある（アル＝バガウィー5:138 参照）。

2 この表現については、食卓章 31「我が災いよ！」の訳注を参照。

33. (現世)の懲罰とは、このようなもの¹。
そして来世の懲罰こそは、より偉大なのである。彼らがもし、知っていたならば。
34. 実に敬虔な*者たちには、その主*の御許に
安寧の樂園がある。
35. 一体われら*は服従する者(ムスリム*)
たちを、(その報いにおいて、不信仰に陥
った)罪悪者たちのようにするであろう
か?²
36. 一体、あなた方はどうしたことか? あなた
方はいかに(不当な)決め方をするの
か?
37. いや、一体あなた方には啓典があり、あなた
方はそれを読んでいるというのか?
38. 本当にその中で、あなた方は、自分たちが
選ぶもの³を手にするということを(読ん
で、見出したのか)?
39. いや、一体あなた方には復活の日*まで(存
続する)、われら*に対する確固とした誓約
があるとでもいうのか? 本当にあなた方
は、自分たちが決める(思い通りの)こと
を手にするという(誓約が)?

كَذَلِكَ الْعَذَابُ وَالْعَذَابُ الْآخِرُ أَكْبَرُ لَكُمْ وَأُولَٰئِكَ
يَعْمَلُونَ ﴿٣٣﴾

إِنَّ الْمُتَّقِينَ عِنْدَ رَبِّهِمْ جَنَّاتُ الْعِوَارِ ﴿٣٤﴾

أَفَجَعَلُ الْمُؤْمِنِينَ كَالْمُجْرِمِينَ ﴿٣٥﴾

مَا لَكُمْ كَيْفَ تَحْكُمُونَ ﴿٣٦﴾

أَمْ لَكُمْ كِتَابٌ فِيهِ تَدْرُسُونَ ﴿٣٧﴾

إِنْ لَكُمْ فِيهِ لَمَآخِزٌ ﴿٣٨﴾

أَمْ لَكُمْ آيَاتُنَا بِالْبَلَاءِ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ إِنَّ لَكُمْ لَمَّا
تَحْكُمُونَ ﴿٣٩﴾

- 1 それら農園主のように、アッラー*のご命令に逆らい、恵まれた恩恵に対するアッラー*への義務を果たさない者には、同様の罰が下ること(ムヤッサル 565 頁参照)。
- 2 一説に、裕福だったクライシュ族*の頭目たちは、貧しかったムスリム*たちを見て、「仮に来世があるとしても、私たちと彼らの状況は、現世における状況と同じ(で、私たちの方が豊か)か、せいぜい同じ位だろう」などと言っていた(アル=クルトゥビー18:246 参照)。マルヤム*章 77 も参照。
- 3 つまりアーヤ*35にあるような、彼らの見解のこと(ムヤッサル 565 頁参照)。

40. (使徒*よ、) 彼らの内の誰がそれ¹についての保証人なのか、彼ら(シルク*の徒)に尋ねよ。

سَأَلَهُمْ لِيُكْفَىٰ ذَٰلِكَ زَعِيمٌ ﴿٤٠﴾

41. いや、一体彼らには、(彼らがアッラー*の) 同位者(とするもの)たちが(、その保証人として)あるのか? では、自分たちの同位者たちを連れて来てみるがよい。もし、彼らが本当のことを言っているというのならば。

أَمْ لَهُمْ شُرَكَاءُ فَلْيَأْتُوا بِشُرَكَائِهِمْ إِنْ كَانُوا صَادِقِينَ ﴿٤١﴾

42. その脛が露わにされ²、彼ら(不信仰者*や偽信者*)がサジダ*に呼ばれ、(そうすることが)出来ない³(復活の)日*のこと(を思い起こさせよ)。

يَوْمَ يُكْشَفُ عَنْ سَاقٍ وَيُدْعَوْنَ إِلَى السُّجُودِ فَلَا يَسْتَطِيعُونَ ﴿٤٢﴾

43. 怖気づいた目をし、屈辱が彼らを覆う。彼らは確かに(現世で、健康も力も備わっていた)無事な時、サジダ*へと呼ばれていた⁴(が、高慢にもそうしなかった)のである。

خَاشِعَةً أَبْصَارُهُمْ تَرْهُفُهُمْ ذَلَّةٌ وَقَدْ كَانُوا يُدْعَوْنَ إِلَى السُّجُودِ وَهُمْ سَائِمُونَ ﴿٤٣﴾

44. ならば(使徒*よ)、(クルアーン*の)この話を嘘呼ばわりする者を、われに(任せ)て放っておけ。われら*は彼らを、彼らが知らない所から徐々に(破滅へと)導いて行こう。⁵

فَذَرْنِي وَمَنْ يُكَذِّبْ بِهَٰذَا الْحَدِيثِ سَنَسْتَدْرِجُهُمْ مِنْ حَيْثُ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٤﴾

1 「それ」とは、アーヤ*35にある、彼ら不信仰者*の思い込みのこと(ムヤッサル 565 頁参照)。

2 アッラー*が「その脛を露わにされる」という文字通りの解釈と、その日の「厳しさと恐怖」を表す言い回しである、という説がある(イブン・カスィール 8:198-199 参照)。

3 その日、信仰者はサジダ*できるが、現世で人目や外聞(がいぶん)ゆえにサジダ*していた者は、そうすることが出来ない(アル=プハーリー 4919 参照)。

4 つまり礼拝や、アッラー*への崇拝*へと呼ばれていた(ムヤッサル 566 頁参照)。

5 「知らない所から徐々に導いて行く」ことの実例については、家畜章 44 を参照。

45. そしてわれら*は彼らに、猶予^{ゆうよ}を与えておくのだ。本当にわが策略^{さくろく}は、手堅い^{てがた}のだから。

وَأَمَّا لَهُمْ^{١٩} كَيْدٌ مَّتِينٌ

46. いや、(使徒*よ、)あなたが彼らに見返りを要求^{しと}し²、それで彼らは負債^{ふざい}ゆえの重荷^{おもひ}を背負^{せお}わされ、(あなたの呼びかけを拒否^{きょひ}す)る者だというのか？

أَوَسَأَلْتَهُمْ أَجْرًا^{٢٠} فَهُمْ مِنْ مَّعْرَمٍ مُنْقَلُونَ

47. それとも、彼らのもとは不可視^{ふかし}の世界* (の知識)があり³、それで彼らが(そこから、人々のために)書き記^{かき}している⁴とでも？

أَوْ عِنْدَهُمْ^{٢١} الْغَيْبُ فَهُمْ يَكْتُمُونَ

48. ならば(使徒*よ)、あなたの主*のお決めたことゆえに、忍耐^{にんたい}*せよ。そして(悲しみで)意気消沈^{いしやうしん}し、(自分の民^{ちやうぼつ}への懲罰^{ちやうばつ}が早く下^{くだ}ることを)祈^{いの}った時の、大魚^{おほいしや}の人(預言者*ユーヌス*)のようになるのではない⁵。

فَأَصْبَحَ^{٢٢} لِحُكْمِ رَبِّكَ وَلَا تَكُنْ كَصَاحِبِ
الْحُوتِ إِذْ نَادَى وَهُوَ مَكْظُومٌ

49. もし、(彼の悔悟^{かいご}が受け入れられることにより⁶、)彼の主*からのご慈悲^{じひ}が彼に降りかからなければ、彼は謗^{そし}られつつ、不毛^{ふまう}の地に放^{はな}り去^さられたであろう。

لَوْلَا^{٢٣} أَنْ تَدْرَكَهُ رَحْمَةٌ مِنْ رَبِّهِ لَنُبِذَ بِالْعَرَاءِ
وَهُوَ مَذْمُومٌ

1 彼らに猶予^{ゆうよ}を与えておくことにおける、アッラー*の「策略」については、イムラーン家章 178 を参照。

2 この「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

3 この背景にあることについては、山章 41 の訳注を参照。

4 「書き記している」については、山章 41 の訳注を参照。

5 ユーヌス*が「大魚の人」と呼ばれる由来については、預言者*たち章 87 「ズン＝ヌーン」の訳注を参照。また、この話の背景にある出来事については、同章とその訳注、及び整列者章 139-148 を参照。

6 この時の様子^{ようす}と悔悟^{かいご}の言葉については、預言者*たち章 87 を参照。

50. だが、かれの主^{しゅ}*は彼を選び抜かれ、彼を正しい者*たちの一人とされた。

فَاجْتَبَاهُ رَبُّهُ، وَجَعَلَهُ مِنْ الصَّالِحِينَ ﴿٥٠﴾

51. (使徒*よ、) 不信仰に陥^{おちい}った者*たちは教訓(クルアーン*)を耳にした時、その視線によって、あなたを今にも躓^{つまず}かせんばかりである¹。そして彼らは、言うのだ。「本当に彼(ムハンマド*)は、まさに憑^つかれた者²である」。

وَإِنْ يَكَادُ الَّذِينَ كَفَرُوا لَيُزْلِقُونَكَ بِأَبْصَرِهِمْ
لَمَّا سَمِعُوا الذِّكْرَ وَيَقُولُونَ إِنَّهُ لَمَجْنُونٌ ﴿٥١﴾

52. それは全世界への教訓に、外^{ほか}ならないというのに。

وَمَا هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِلْعَالَمِينَ ﴿٥٢﴾

1 つまり、「アイン(邪視)を及ぼす」という意味(ムヤッサル 566 頁参照)。ほかにも「滅ぼす」「視線で射抜く」「(アッラー*から授かった地位から)退(しりぞ)かせる」「(イスラーム*の教えを伝達するという任務から)逸らせる」というような解釈があるが、アル=クルトウビー*によれば、これら全ての説は「アインを及ぼす」という意味から派生したものの(18:255-256 参照)。尚「アイン」とは、悪い性質を帯びた者から発される、嫉妬(しつと)が混じった羨望(せんぼう)の視線のことで、それによって視線の対象が害を被(こうむ)る類いのもの(クウェイト法学大全 31:119-120 参照)。

2 「憑かれた者」については、アル=ヒジュル章 6 の訳注を参照。

第 69 章

真実章 (アル=ハーッカ) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 真実（である復活の日*）、
2. 真実（である復活の日*）とは何か？
3. （使徒*よ、）あなたに、真実（である復活の日*）が何かということを知らせるものは、何か？
4. サムード*とアード*は、（恐怖による）衝撃（である復活の日*）を嘘呼ばわりした。
5. それでサムード*はといえば、甚だしいものによって滅ぼされた。
6. またアード*はといえば、凄まじい咆哮の暴風によって滅ぼされた。
7. かれ（アッラー*）はそれ（暴風）で彼らを、七晩と八晝に渡って続けざまに制圧した。あなたはその民がその（暴風の）中で、まるで空洞になったナツメヤシの木の根幹のようになぎ倒されているのを見る。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لِالْحَاقَّةِ ①

مَا لِلْحَاقَّةِ ②

وَمَا أَدْرَاكَ مَا الْحَاقَّةُ ③

كَذَّبَتْ ثَمُودُ بِطَغْوَاهُ ④

فَأَمَّا ثَمُودُ فَهَدَاهُ وَأَسْلَمَ ⑤

وَأَمَّا عَادٌ فَهَلَكَ أُولَئِكَ صِرَعًا ⑥

سَرَّهَا عَالَمُهَا سَمٌ ⑦

أَلْقَمَ لَهَا صَرْعًا ⑧

- 1 マッカ*啓示。復活の日*の到来を示す、冒頭の「真実」という言葉がスーラ*名ともなっている通り、前半部分では復活の日*の到来の確証、その恐怖、それを嘘とした過去の不信仰者*たちへの罰が、同時代の不信仰者*への警告と共に提示される。また中盤では、復活の日*の到来に伴って起こる諸々の出来事や、清算と報（むく）い、そこにおける信仰者と不信仰者*の描写が描かれる。後半では、クルアーン*と預言者*ムハンマド*の使徒*性が確認されると共に、それらを信じない者に厳しい警告が投げかけられ、アッラーへの崇拜*の命令によって締めくくられる。
- 2 この「甚だしいものによって」には、「（轟きの）一声によって」「罪ゆえに」「雌ラクダを屠（ほふ）った者（高壁章 77 とその訳注を参照）ゆえに」といった解釈がある（イブン・カシール 8:208 参照）。尚、サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

8. あなたは彼らの内、一人でも（その懲罰^{ちやうばつ}から生き）残った者を見出すのか？
9. また、フィルアウン*とそれ以前の（不信仰）者*、転覆した町々^{みいだ}は、罪^{つみ}を犯した。
10. 彼らは自分たちの主*の使徒*に逆らった。それで、かれ（アッラー*）は途轍^{とてつ}もない罰で彼ら^{ばつ}を罰した。
11. 本当にわれら*は、（洪水で）水が溢れた時、あなた方（の先祖であるヌーフ*と、彼と共にあった者たち）を、走るもの（船）に乗せて運んだ。³
12. （それは、）われら*がそれ¹をあなた方への教訓とし、分別ある耳^{ふんべつ}がそれを分別（し、記憶）するためである。
13. 角笛^{つのぶえ}に一吹き、吹き込まれ、⁵
14. 大地と山々が（元の場所から）運ばれ、それらが一撃^{こなごな}のもと粉々にされる時、⁶
15. その日、（復活の日*という）出来事は起こる。
16. また天は裂け、それはその日脆くなる。

هَلْ تَرَى لَهُم مِّن بَاقِيَةٍ ﴿٨﴾

وَجَاءَ فِرْعَوْنُ وَمَنْ قَبْلَهُ، وَالْمُتَفَكِّكُ بِالْخَاطِئَةِ ﴿٩﴾

فَعَصَوْا رَسُولَ رَبِّهِمْ فَأَخَذَهُمْ أَخَذَةً رَّابِيَةً ﴿١٠﴾

إِنَّا لَمَّا طَغَا الْمَاءُ حَمَلْنَاكِ فِي الْجَارِيَةِ ﴿١١﴾

لِنَجْعَلَهَا لَكُمْ تَذْكِرَةً وَنَعْيَهَا أُنًى وَرِيبَةً ﴿١٢﴾

فَإِذَا نُفِخَ فِي الصُّورِ نَفَخَهُ وَجِدَةً ﴿١٣﴾

وَحُمِلَتِ الْأَرْضُ وَالْجِبَالُ فَدُكَّتَا دَكَّةً وَجِدَةً ﴿١٤﴾

فَيَوْمَئِذٍ وَقَعَتِ الْوَاقِعَةُ ﴿١٥﴾

وَانشَقَّتِ السَّمَاءُ فَهِيَ يَوْمَئِذٍ وَاهِيَةٌ ﴿١٦﴾

1 「転覆した町々」については、悔悟章 70 の訳注を参照。それが滅ばされた時の様子については、フード*章 82-83、アル＝ヒジュール章 73-74 を参照。

2 この「罪」は、不信仰、シルク*、醜行などのこと（ムヤッサル 567 頁参照）。

3 この出来事の描写は、フード*章 40-48 に詳しい。

4 「それ」とは、信仰者が救われ、不信仰者*は溺（おぼ）れ死んだという、その出来事のことを指す（前掲書、同頁参照）。

5 これは、一回目の吹き込みのこと（前掲書、同頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

6 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 など参照。

17. そして天使*は(天の)その方々にあり、八名(の天使*)がその日、あなたの主*の御座^{みくら}をその上に担ぐ^{かつ}。²
18. (人々よ、)その日、あなた方は(清算と報いへと)差し出されるのだ。あなた方のいかなる秘め事も、(アッラー*から)隠しおおせはしない。
19. 自分の(行いの)帳簿^{ちようぼ}を右手に渡された者はといえば、(嬉々^{しき}として、こう)言う。「お取り下さい、我が帳簿^{ちようぼ}をお読み下さい。³
20. 私は、我が清算と面会することを、(現世で)確信していたのですから」。
21. 彼は、満足する生活の中にある、
22. 高き樂園の中。
23. その果実^{あき}の房は、手近にある。
24. (彼らには、こう言われる。)」 「過ぎ去った(現世での)日々において、あなたが既に^{すで}行った(正しい)ことゆえ、おいしく食べ、飲むがよい」。
25. そして、自分の(行いの)帳簿^{ちようぼ}を左手に渡された者⁴はといえば、(悔しがって、こう)言う。「我が帳簿^{ちようぼ}など渡されることがなかったら、よかったのに。

وَالْمَلَائِكَةُ عَلَىٰ أَجْنَابِهَا وَلَيَحْمِلُنَّ عَرْشَ رَبِّكَ فَوْقَهُمْ
يَوْمَئِذٍ ثَمَنِيَّةٌ ﴿١٧﴾

يَوْمَئِذٍ تُعْرَضُونَ لَا تَخْفَىٰ مِنْكُمْ خَافِيَةٌ ﴿١٨﴾

فَأَمَّا مَنْ أُوتِيَ كِتَابَهُ بِيمينِهِ، يَقُولُ هَؤُلَاءِ هُمُ أَقْرَبُوا
لِي كِتَابِيَّةٌ ﴿١٩﴾

إِنِّي ظَنَنْتُ أَنِّي مُلَاقٍ حِسَابِيَّةٌ ﴿٢٠﴾

فَهُوَ فِي عِيشَةٍ رَاضِيَةٍ ﴿٢١﴾

فِي جَنَّةٍ عَالِيَةٍ ﴿٢٢﴾

فَطُورُهَا ذَاتِيَّةٌ ﴿٢٣﴾

كُلُوا وَاشْرَبُوا هَنِيئًا بِمَا أَسْلَفْتُمْ فِي الْأَيَّامِ
الْخَالِيَةِ ﴿٢٤﴾

وَأَمَّا مَنْ أُوتِيَ كِتَابَهُ بِشِمَالِهِ، يَقُولُ يَلَيِّنُنِي لَوْ
أُوتِيَ كِتَابِيَّةٌ ﴿٢٥﴾

1 「御座」については、高壁章 54 の訳注を参照。

2 同様の状況を示すアーヤ*として、雌牛章 210 とその訳注、識別章 25、暁章 22 も参照。

3 高壁章 8 の訳注も参照。また、この時の様子については夜の旅章 13-14、71 とその訳注、洞窟章 49、割れる章 7 以降なども参照。

4 割れる章 10 と、その訳注も参照。

26. 我が清算など、知らなければよかった。
27. あれが終結であれば、よかったのに。¹
28. 我が財産は、私の役に立たなかった。
29. (言い訳に出来る) 我が根拠²は、私から消え失せてしまったのだ。
30. (地獄の番人たちに、こう言われる。)[彼を捕まえ、(枷で)縛りつけよ。
31. それから彼を地獄に入れて、炙^{あぶ}ってやれ。
32. それから、七十腕尺^{わんしゃく}の長さ^{くさり}の鎖の中に、彼を巻き入れよ。
33. 本当に彼は、この上なく偉大な*アッラー*を信じておらず、
34. 貧者^{ひんじや}*たちに食べ物^{ほどこ}を施^すすことを、勧めてもいなかったのだから。
35. ゆえにこの日、彼にはそこで(懲罰から守ってくれる)、近い者もいなければ、
36. (地獄の徒の体から出る)膿^{うみ}⁴くらいしか、食べ物もない。
37. それを食べるのは、(不信仰による)罪深^{つみ}い者たちのみである」。

وَلَا تَذَرْنِي مَاجِسًا ۝

يَلِيَّتَهَا كَأَنَّ الْقَاضِيَةَ ۝

مَا أَغْنَىٰ عَنِّي مَالِي ۝

هَلَكَ عَنِّي سُلْطَانِي ۝

خُذُوهُ فَغُلُّوهُ ۝

ثُمَّ الْجَحِيمَ صَلُّوهُ ۝

ثُمَّ فِي سِلْسِلَةٍ ذَرْعُهَا سَبْعُونَ ذِرَاعًا فَاسْلُكُوهُ ۝

إِنَّهُ كَانَ لَا يُؤْمِنُ بِاللَّهِ الْعَظِيمِ ۝

وَلَا يَحْضُرُ عَلَىٰ طَعَامِ الْمُسْكِينِ ۝

فَلَيْسَ لَهُ الْيَوْمَ هُنَا حَمِيمٌ ۝

وَلَا طَعَامٌ إِلَّا مِن غُسْلَيْنِ ۝

لَا يَأْكُلُهُ إِلَّا الْخَلَطُونَ ۝

1 つまり復活などなく、現世での死で全てが終わってればよかったのに、ということ (ムヤッサル 567 頁参照)。

2 「根拠」ではなく、「王権、力」といった少数派の見解もある (アル=バガウィー5:148 参照)。

3 アル=ハサン*は言った。「それがいかなる (基準による) 腕尺かは、アッラー*が最もよくご存知である」 (前掲書、同頁参照)。

4 この「膿 (ギスリーン)」には、「地獄の徒が食べる木」「地獄の徒の血肉」「ザクームの木 (夜の旅草 60 「呪われた木」の訳注を参照)」といった解釈もある (アル=クルトウビー18:273 参照)。

38. われはまさに、あなた方が見えるものにおいて、誓う。¹
39. また、あなた方が見えないものにおいて、
誓う。²
40. 本当にそれ（クルアーン*）は、まさしく高貴なる使徒*の（読誦する、アッラー*の）言葉。
41. そしてそれは、詩人の言葉などではない。あなた方が信じることの、少ないことよ。
42. また、占い師^{うらな}の言葉でもない。あなた方が教訓を受けることの、少ないことよ。
43. （クルアーン*は、）全創造物の主*アッラー*からの、降示^{こうじ}なのである。
44. もし、彼（ムハンマド*）がわれら*に対し、
いくらかでも（われら*が言っていない）言葉^{ねつぎ}を捏造したのであれば、
45. われら*は彼を右手^{ぼっ}で罰し、
46. それから、彼の大動脈^{だいどうみやく}を断ち切ってしまっただろう。⁴
47. そして、あなた方の内の誰も、彼を（われら*の懲罰^{ちやうばつ}から）遮る者はないのである。
48. また、本当にそれ（クルアーン*）は、敬虔^{けいけん}な*者たちへの教訓である。

فَلَا أَقْسَمُ بِمَا تُبْصِرُونَ ﴿٣٨﴾

وَمَا لَا تُبْصِرُونَ ﴿٣٩﴾

إِنَّهُ لَقَوْلُ رَسُولٍ كَرِيمٍ ﴿٤٠﴾

وَمَا هُوَ بِقَوْلِ شَاعِرٍ قَلِيلًا مَّا تُؤْمِنُونَ ﴿٤١﴾

وَلَا يَقُولُ كَاهِنٌ قَلِيلًا مَّا تَدَّكُرُونَ ﴿٤٢﴾

نَزِيلٌ مِّن رَّبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٤٣﴾

وَلَوْ تَقَوَّلَ عَلَيْنَا بَعْضُ الْأَقَاوِيلِ ﴿٤٤﴾

لَأَخَذْنَا مِثْلَهُ بِالْيَمِينِ ﴿٤٥﴾

ثُمَّ لَنَقْطَعَنَّ مِنْهُ أَلْوِينَ ﴿٤٦﴾

فَمَا مِنْكُمْ مِّنْ أَحَدٍ عَنْهُ حَاجِزِينَ ﴿٤٧﴾

وَإِنَّهُ لَتَذَكُّرٌ لِّلْمُتَّقِينَ ﴿٤٨﴾

1 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

2 「占い師」については、山章 29 の訳注を参照。

3 この「右手」とは、力強さのことを表わす（ムヤッサル 568 頁参照）。

4 同様のアーヤ*として、相談章 24 とその訳注も参照。

49. そして実にわれら*は、あなた方の内に（それを）^{うそ}嘘呼ばわりする者たちがいることを、まさしく知っている。
50. また、本当にそれは、まさに不信仰者*たちへの悲痛¹である。
51. そして本当にそれは、^{かつこ}確固たる真実なのだ。
52. ならばこの上なく偉大な*、あなたの^{しゅ}主*の御名で（アッラー*を）称え*よ。²

وَالَّذِينَ كَفَرُوا مِنْكُمْ لَكَاذِبِينَ ﴿٤٩﴾

وَالَّذِينَ كَفَرُوا عَلَى الْكَافِرِينَ ﴿٥٠﴾

وَالَّذِينَ كَفَرُوا لَكَاذِبِينَ ﴿٥١﴾

فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ الْعَظِيمِ ﴿٥٢﴾

1 不信仰者*たちは、自分たちがクルアーン*によって約束されていたもの（罰）を目にする時、それによって導かれず、それに従いもしなかったことゆえに褒美（ほうび）を貰い損ね、現世に戻る機会も失ったことを知り、「悲痛」の念にとらわれる（アッ＝サアディー 884 頁参照）。

2 アッラー*を唱念し、人々をかれとその教えへと招き続けよ、あなたと信仰者たちにこそ、よき結末が待っているのだ、という意味（アル＝カースィミー 16:5922 参照）。

第70章
階段章 (アル=マアーリジュ) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 請う者が、(自分と自分の民に、復活の日*に)起こるべき懲罰(が下されること)を請うた。²
2. 不信仰者*たちには、それを防いでくれる者など、いない。
3. 階段の主³であられるアッラー*から(、それを防いでくれる者など)。
4. 天使*たちと魂⁴は、その長さが五万年もの日、かれの御許へと昇っていく⁵。
5. ならば(使徒*よ、彼らの嘲笑と挑発に)、よき忍耐⁶で忍耐*せよ。
6. 本当に彼ら(不信仰者*)は、それ(懲罰)があり得ないと思っている。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَأَلَ سَائِلٌ بِعَذَابٍ وَقِيعٍ ①

لِّلْكَافِرِينَ لَيْسَ لَهُ دَافِعٌ ②

مِّنَ اللَّهِ ذِي الْمَعَارِجِ ③

تَرْجُ الْمَلَائِكَةُ وَالرُّوحُ إِلَيْهِ فِي يَوْمٍ كَانَ
مُقَدَّارُهُ حَمْسِينَ أَلْفَ سَنَةٍ ④

فَاصْبِرْ صَبْرًا جَمِيلًا ⑤

إِنَّهُمْ يَرَوْنَهُ بَعِيدًا ⑥

- 1 マッカ*啓示。スーラ*名は、アッラー*の御名「階段の主(アーヤ*4 参照)」に由来。前半では、復活の日*の到来の確証と、その恐怖の描写、それを否定し嘲笑する不信仰者*たちへの警告が提示される。そして中盤では、それと対比するように信仰者の特質が描かれ、最後は再び復活の確証と、その日に関する不信仰者*たちへの警告によって幕を閉じる。
- 2 これは、懲罰を早く下してみよ、という不信仰者*の挑発的な言葉とされる(アル=バガウィー5:151 参照)。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53、サード章 16、相談章 18も参照。
- 3 天使*が天へと昇って行く『「階段」の主』のほかにも、「高さの極みと、位階、徳、恩恵を備えたお方」「偉大さと至高性の主」といった解釈がある(アル=クルトゥビー18:281 参照)。
- 4 この「魂」には、「ジブリール*」「人間の魂」といった解釈がある(イブン・カシール 8:220 参照)。
- 5 これは一説に「復活の日*」の事。また一説には「地上からアッラー*の御座(高壁章 54 とその訳注も参照)までの階段を、彼ら以外であれば五万年かかるところを、一日で昇る」事を指す(イブン・アル=ジャウズィー8:359-360 参照)。
- 6 「よき忍耐*」については、ユースフ*章 18 の訳注を参照。

7. そしてわれら*は、それが近い（日に、確実に
とうらいに到来する）ものと見る。

وَرَبُّهُ قَرِيبٌ ﴿٧﴾

8. 天が、溶けた鉛のようになる日。

يَوْمَ تَكُونُ السَّمَاءُ كَالْهَيْهَلِ ﴿٨﴾

9. また山々が、（解されて散り散りになっ
そた、）染められた羊毛のようになる日。¹

وَتَكُونُ الْجِبَالُ كَالْعِهْنِ ﴿٩﴾

10. 近しい者が、近しい者について尋ねること
たずもない。²

وَلَا يَسْأَلُ حِمِيرٌ حِمِيرًا ﴿١٠﴾

11. 彼らには、彼ら³が見える。（不信仰だった）
どいあく罪悪者は、自分の子供たちで、その日の懲
ちよう罰を償えれば、と望む。

يُبْصِرُ وَيَصْفُرُ يَوْمَ الْمَآزِ يُوفِقَتْنِي مِنْ عَذَابٍ
 يَوْمَئِذٍ بِسِينِهِ ﴿١١﴾

12. また自分の配偶者、兄弟、

وَصَحْبَتُهُ وَأَخِيهِ ﴿١٢﴾

13. 自分をかくま匿ってくれる近親、

وَقَيْصِرَتُهُ إِلَى تَوْبِهِ ﴿١٣﴾

14. そして地上の全ての者（によって自らの
ちようぼつ懲罰を償うこと）で、（その代償が）自
つぐな分を救ってくれることを（望む）。

وَمَنْ فِي الْأَرْضِ جَمِيعًا ثُمَّ يُنْجِيهِ ﴿١٤﴾

15. 断じて（、そんなことは役に立た）ない！
さか実にそれ（地獄）は燃え盛るもの。

كَلَّا إِنَّهَا لَأُظَى ﴿١٥﴾

16. （それは、）身体各部⁴をもぎ取る。

نَزَّاعَةً لِّلْسَوَى ﴿١٦﴾

1 復活の日*の天変地異の様子については、洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 14-16、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 も参照。

2 この解釈には、「人はその日、近しい者からの援助を請うことはない。なぜなら彼が何も出来ないことを、知っているからである」「誰しもが自分のことで頭が一杯なため、他人のことを尋ねる余裕もない」といった説がある（イブン・ジュザイ 2:486 参照）。

3 二つの「彼ら」については、「いずれも、近しい者たち」「信仰者たちが、地獄にいる不信仰者たちを見せられる」「いずれも不信仰者*だが、前者は追従者たち、後者は指導者たち」「前者は天使*たち、後者は人々」といった説がある（アル＝クルトゥビー 18:285-286 参照）。

4 「身体各部」の解釈には、ほかにも「頭皮」「骨以外の肉」「顔の重要な部分」といった諸説がある（アル＝バガウィー 5:153 参照）。

17. それは、招くのである。（現世で真理に）背を向け、（アッラー*とその使徒*への服従から）背き去り、

تَدْعُوهُمْ إِلَى دِينِ اللَّهِ وَتَدْعُوهُمْ إِلَى دِينِ اللَّهِ وَتَدْعُوهُمْ إِلَى دِينِ اللَّهِ

18. （財産を）かき集めては、（そこにおけるアッラー*への義務も果たすことなく、）貯めこんだ者を。

وَيَجْمَعُونَ كَثِيرًا وَهُمْ لَا يَسْأَلُونَ

19. 本当に人間は、せっかちに創られた。

إِنَّ الْإِنْسَانَ لِرَبِّهِ لَكَنُفَرٌ

20. 悪が自分に降りかかれば、ひどく取り乱し、

إِذَا مَسَّهُ الْفِتْنَةُ جَوَّحًا

21. 善が自分に降りかかれば、強欲になる。

وَإِذَا مَسَّهُ الْفِتْنَةُ مَرَّعًا

22. 但し、礼拝する者たちは別だが。¹

إِلَّا الْمُصَلِّينَ

23. （彼らは、）自らの礼拝を常々（守りつつ、）行う者たち。

الَّذِينَ هُمْ عَلَى صَلَاتِهِمْ دَائِمُونَ

24. また、自らの財産の内に、（施しのための）一定の権利²がある者たち、

وَالَّذِينَ فِي أَمْوَالِهِمْ حَقٌّ مَعْلُومٌ

25. （人々に施しを）要求する者にも、（それを）禁じられた者³に対しても。

لِلسَّائِلِ وَالْمَحْرُومِ

26. また、報いの日*を信じ（、正しい行い*によってそれに備え）る者たち。

وَالَّذِينَ يُبْذِفُونَ يَوْمَ الدِّينِ

27. また、自らの主*の懲罰に、怯える者たち。

وَالَّذِينَ هُمْ مِنْ عَذَابِ رَبِّهِمْ مُتَّقُونَ

28. ——本当に彼らの主*の懲罰は、（誰も）安心していられるものではないのだから——。

إِنَّ عَذَابَ رَبِّهِمْ غَيْرُ مَأْمُونٍ

29. また、自らの陰部を（禁じられた物事⁴から）守る者たち。

وَالَّذِينَ هُمْ لِفُرُوجِهِمْ حَافِظُونَ

1 彼らは礼拝の遵守ゆえ、現世においては憤ましい人間となった者たちである。彼らは、現世での悪い出来事に取り乱すこともなく、善い物事に対して強欲になることもない（イブン・ジュザイ 2:486-487 参照）。

2 この「権利」については、撒き散らすもの章 19 の訳注を参照。

3 「禁じられた者」については、撒き散らすもの章 19 の訳注を参照。

4 この「禁じられた物事」については、御光章 30 の訳注を参照。

30. 但し、自分の妻たち、あるいは自分の右手が所有するもの（奴隷*女性）は別で、本当に彼ら（合法的物事だけを行う者たち）は咎められる者などではない。

إِلَّا عَلَىٰ أَرْوَاحِهِمْ أَوْ مَا مَلَكَتْ أَيْمَانُهُمْ فَإِنَّهُمْ غَيْرُ مَلُومِينَ ﴿٣٠﴾

31. 誰であろうとそれ以上を欲する者、それらの者たちこそは（アッラー*の法の）違反者なのだ。

مَنْ ابْتِغَىٰ وَرَاءَ ذَٰلِكَ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْعَادُونَ ﴿٣١﴾

32. また、自らの信託と契約を厳守する¹者たち。

وَالَّذِينَ هُمْ لِأَمْتِنِهِمْ وَعَهْدِهِمْ رِعُونَ ﴿٣٢﴾

33. また、自らの証言を（改変も隠蔽もなく）遂行する者たち。

وَالَّذِينَ هُمْ يُشْهِدَتُهُمْ قَالِمُونَ ﴿٣٣﴾

34. また、自分たちの礼拝を固守する者たち。

وَالَّذِينَ هُمْ عَلَىٰ صَلَاتِهِمْ يُحَافِظُونَ ﴿٣٤﴾

35. それらの者たちは天国で、厚遇される者たちである。

أُولَٰئِكَ فِي جَنَّاتٍ مُّكْرَمُونَ ﴿٣٥﴾

36. （使徒*よ、）不信仰に陥った者*たちが、あなたに向かってあたふたとやって来るのは、どうしたことから？²

قَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا فَبِمَا كُنْتُمْ تَفْعَلُونَ ﴿٣٦﴾

37. 右から左から、三々五々に？

عَنِ الْيَمِينِ وَعَنِ الشِّمَالِ عِزِينَ ﴿٣٧﴾

38. 一体、彼ら（不信仰者*たち）の内のいずれの者も、安寧の楽園に入れられることを所望しているというのか？³

أَتَطْمَعُ كُلُّ امْرِئٍ مِنْهُمْ أَنْ يُدْخَلَ جَنَّةَ نَعِيمٍ ﴿٣٨﴾

1 同様のアーヤ*である、信仰者たち章8の訳注も参照。

2 一説にこのアーヤ*は、預言者*の言葉を聞き、嘲笑（ちょうしょう）し、嘘呼ばわりするため、彼のもとに集まって来た不信仰者*たちの集団に関して下った（アル＝バガウィー5:154 参照）。

3 彼らは、「彼ら（ムスリム*たち）が天国に入るのであれば、必ずや私たちこそが、彼よりも先にそこに入るであろう。そして彼らがそこから何か授かるのなら、必ずや私たちこそが、それより多くのものを授かるだろう」などと言ったものだった（アル＝クルトウビー18:294 参照）。

39. 断じて（、そんなことは絶対にあり得）ない！ 本当にわれら*は彼らが知っているもの¹から、彼らを創ったのだから。

40. われはまさに、いくつもの東と、いくつもの西²において誓う³。本当にわれら*はまさしく、可能な者なのである、

41. 彼らよりも（アッラー*に服従^{ふくじゅう}する）善い者たちを、（彼らの）代わりとすることが。そしてわれらは、出し抜かれる者などではない。

42. ならば（使徒*よ）、彼らを放っておけ。彼らは、自分たちが（懲罰^{ちやうばつ}を）約束されている日に遭遇^{そうぐう}するまで、（虚妄^{きやもう}の中に）のめり込み、（宗教において）戯れるであろう。

43. まるで（アッラー*を差しおいて崇めるために）立てられたもの⁵へと急ぐように、彼らが墓場から慌てて出て来る日に（遭遇するまで）。

44. 怖気^{おじけ}づいた目をし、屈辱^{くつじよく}が彼らを覆う。それが（現世で）、彼らに約束されていた日なのである。

كَلَّا إِنَّا خَلَقْنَاهُمْ وَمَا بَعْمُونُ ﴿٣٩﴾

فَلَا أَقْسَرُ مِنْ الْمَشْرِقِ وَالْمَغْرِبِ إِنَّا الْقَادِرُونَ ﴿٤٠﴾

عَلَىٰ أَنْ نُبَدِّلَ حَيْرَاتِهِمْ وَمَا نَحْنُ بِمَسْبُوقِينَ ﴿٤١﴾

فَذَرَهُمْ يَخْضُوعُوا وَيَلْعَبُوا حَتَّىٰ يُلَاقُوا يَوْمَهُمُ الَّذِي يَوعَدُونَ ﴿٤٢﴾

يَوْمَ يَخْرُجُونَ مِنَ الْأَجْدَاثِ سِرَاعًا كَانَهُمْ إِلَىٰ نُصُبٍ يُوفِصُونَ ﴿٤٣﴾

خَشَعَتِ أَبْصَارُهُمْ تَرْهَقُهُمْ ذِلَّةٌ ذَٰلِكَ الْيَوْمَ الَّذِي كَانُوا يَوعَدُونَ ﴿٤٤﴾

1 彼ら以外の者たちと同じ、しがな一一滴の精液から創られたのだから、天国に入るに値するほど高貴な存在だなどと考えるのではない、ということ（ムヤッサル 569 頁参照）。

2 ここでの「いくつもの東」と「いくつもの西」は、同年において毎日異なる、太陽の昇る地点と沈む地点のこととされる（アル＝バガウィー4:26 参照）。

3 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

4 この「懲罰」については、金の装飾章 83 の訳注を参照。

5 この「立てられたもの」については、食卓章 3 の訳注を参照。

第 71 章
ヌーフ*章¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 本当にわれら*は、ヌーフ*をその民に遣わし
(て言っ)た。「あなたの民に警告せよ。
彼らに、(その不信仰ゆえの) 痛ましい懲罰
が到来する前に」。
2. 彼(ヌーフ*)は言った。「我が民よ、本当に
私は、あなた方への明白なる警告者²なのだ。
3. アッラー*(だけ)を崇拜*し、かれを畏れ*、
私に従え。
4. (そうすれば、) かれはあなた方に、あなた
方の罪をお赦し下さり、(罰することなく、)
あなた方に定められた期限³までの猶予
を与えて下さろう。本当に、アッラー*の期
限が到来したら、それは(絶対に)猶予さ
れることがないのだ。あなた方が(そのこ
とを)知っていたのなら(、かれへの信仰
と服従へと急いであらうに)」。
5. 彼(ヌーフ*)は言った。「我が主*よ、本当
に私は我が民を、夜に昼に、(あなたへの
信仰へと)招きました。
6. そして(彼らに対する)私の招きは、彼ら
の逃亡に拍車をかけたただけでした。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا أَرْسَلْنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوْمِهِ أَنْ أَنْذِرْ قَوْمَكَ مِنْ
قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١﴾

قَالَ يَاقَوْمِ إِنِّي لَكُمْ نَذِيرٌ مُّبِينٌ ﴿٢﴾

إِنْ أَعْبُدُوا اللَّهَ وَأَنْتَهُوَ وَاطِيعُونَ ﴿٣﴾

يَغْفِرْ لَكُمْ مِنْ ذُنُوبِكُمْ وَيُخَذِّبْكُمْ إِلَىٰ أَحْسَنِ
مُسَمًّى إِنَّ أَجَلَ اللَّهِ إِذَا جَاءَهُ لَا يُؤَخَّرُ لَوْ كُنْتُمْ
تَعْلَمُونَ ﴿٤﴾

قَالَ رَبِّ إِنِّي دَعَوْتُ قَوْمِي لَبِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ﴿٥﴾

فَلَمْ يَزِدْهُمْ دُعَايَ إِلَّا فِرَارًا ﴿٦﴾

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称ともなっているように、預言者*ヌーフ*とその民への熱心な
布教、警告、祈願についての詳細が取り上げられている。

2 アッラー*に逆らえば、かれの懲罰があなた方に降りかかる、と「警告」する者(ムヤッサ
ル 570 頁参照)。

3 アッラー*がお決めになった、現世での滞在「期限」のこと(アッ=サアディー-888 頁参照)。

7. また本当に、あなたが彼ら（の罪）をお赦し下さるよう、私が彼らを（あなたへの信仰へと）招くたび、彼らは（それを聞くまいとして）その指を自分たちの耳にあて、（私を見まいとして）衣服で身を覆い、（信仰を受け入れることに対して）ひどく驕り高ぶりました。

8. それから本当に私は、彼らを大っぴらに（信仰へと）招き、

9. それから本当に私は、（ある時は）彼らに対して（布教を）公然と行い、（またある時には）彼らに対して（布教を）そっと内密に行いました。

10. また、私は（民に）言いました。『あなた方の主*に、（罪の）赦しを乞い（、不信仰から悔悟し）なさい。本当にかれは、赦し深いお方なのだから。』

11. （そうすれば、）かれは、あなた方の上に豊かな雨をお送りになり、

12. あなた方に財産と子供を増やされ、あなた方のために農園を創られ、あなた方のために河川をお創りになろう。

13. （民よ、）あなた方がアッラー*の偉大さを怖れないのは、どういうことか？¹

14. かれは確かに、あなた方を段階的にお創りになった²というのに。

وَالَّذِينَ كَفَرُوا دَعَوْنَهُمْ لِنَفْسِهِمْ جَعَلُوا
أَصْبَحُوا فِي آذَانِهِمْ وَأَسْتَسْمُوا إِلَيْهَا بِهِمْ
وَأَصْرُوا وَأَسْتَكْبَرُوا أَسْتَكْبَرُوا ١٠

ثُمَّ إِنِّي دَعَوْتُهُمْ جَهَارًا ١١

ثُمَّ إِنِّي أَعْلَنْتُ لَهُمْ وَأَسْرَرْتُ لَهُمْ إِسْرَارًا ١٢

فَقُلْتُ اسْتَغْفِرُوا رَبَّكُمْ إِنَّهُ كَانَ غَفَّارًا ١٣

يُرْسِلُ السَّمَاءَ عَلَيْهِمْ مِزْرَارًا ١٤

وَيُزِيدُكُمْ أَمْوَالٍ وَيُزِيدُكُمْ أَبْنَاءَ وَيَجْعَلُ لَكُمْ جَنَّاتٍ
وَيَجْعَلُ لَكُمْ أَنْهَارًا ١٥

مَا لَكُمْ لَا تَرْجُونَ لِلَّهِ وَقَارًا ١٦

وَقَدْ خَلَقَكُمْ أَطْوَارًا ١٧

1 「アッラー*に褒美を望まず、その懲罰を恐れぬのか？」「アッラー*の偉大さを知らないのか？」「アッラー*に（信仰することによる善い）結末を望まないのか？」などといった解釈もある（アル＝クルトゥビー18:303 参照）。

2 関連して、巡礼*章5、信仰者たち章14も参照。

15. 一体あなた方は、いかにしてアッラー*が、
組み合わせさせた¹七層^{そうち}の天をお創りになっ
たのか、見なかったのか？
16. また、かれが月をそこにおける光とされ、
太陽^{こうこう}を煌々たる^{ともしび}灯火とされたのを？
17. アッラー*は、あなた方（の先祖アダム*）
を確かに大地から芽生え^{めばえ}させられ、
18. それから、あなた方を（その死後に）そ
こへとお戻し^{もど}になり、（復活の日*には）
あなた方を必ずや（そこから）お出しに
なる。
19. またアッラー*は、あなた方のために大地を
敷物^{しきもの}（のように平坦なもの）とされた。
20. （それは、）あなた方がそこで、広々とし
た道々を進むためである」。
21. ヌーフ*は言った。「我が主*よ、本当に彼
ら（民の内の弱者たち）は私に逆らい、そ
の財産も子供も自ら^{みづか}に損失^{そんしつ}しか上乗せし
ない者^{したが}に従ってしまいました。³
22. 彼らは（弱者たちに対して、）途方^{とほう}もない
策謀^{さくぼう}を企^{たくら}んだのです。

أَلَمْ تَرَ أَكَيْفَ خَلَقَ اللَّهُ سَبْعَ سَمَوَاتٍ طِبَاقًا ﴿١٥﴾

وَجَعَلَ الْقَمَرَ فِيهِنَّ نُورًا وَجَعَلَ الشَّمْسُ
سِرَاجًا ﴿١٦﴾

وَاللَّهُ أَنْتَبِهُكُمْ مِنَ الْأَرْضِ بِآدَامَ ﴿١٧﴾

ثُمَّ يُعِيدُكُمْ فِيهَا وَيُخْرِجُكُمْ إِخْرَاجًا ﴿١٨﴾

وَاللَّهُ جَعَلَ لَكُمُ الْأَرْضَ بِسَاطًا ﴿١٩﴾

لِتَسْلُكُوا مِنْهَا سُبُلًا فِجَاجًا ﴿٢٠﴾

قَالَ نُوحٌ رَبِّ إِنَّهُمْ عَصَوْنِي وَأَتَّبِعُوا مِنْ لَدُنْكَ
مَالَهُ، وَوَلَدَهُ، وَآلَاحْسَارًا ﴿٢١﴾

وَمَكَرُوا مَكْرًا كَبِيرًا ﴿٢٢﴾

1 「組み合わせさせた」については、王権章3の訳注を参照。

2 アーダム*が大地から出現し、そこから組成（そせい）されたことを強調すべく、「創造」が「芽生え」に譬（たと）えられている（アル＝バイダーウィー5:394 参照）。

3 つまり、彼らの内の弱い者たちは、財産や子供を沢山持っている、（正しい道から）迷った指導者たちに従ってしまった。そして彼らの財産も子供も、彼らには現世での迷いと、来世における懲罰を上乗せする原因でしかなかった（ムヤッサル 571 頁参照）。戦利品*章28の訳注も参照。

4 この「策謀」の解釈には、「ヌーフ*の殺害を促（うなが）したこと」「現世的な楽しみを誇大（こだい）視させたこと」「不信仰」「次のアーヤ*で言及されていること」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー18:307 参照）。

28. 我が主^{しゅ}*よ、私と我が両親、信仰者として我が家に入った者¹、信仰者の男たちと信仰者の女たちを、お赦^{ゆる}し下さい。そして不正^{*}者たちには、（現世と来世における）滅亡^{めつぼう}以外の何も上乗^{うわの}せしないで下さい」。

رَبِّ اعْفِرْ لِي وَلِوَلَدِي وَلِمَنْ دَخَلَ بَيْتِي
مُؤْمِنًا وَالْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ وَلَا تَزِدِ
الظَّالِمِينَ إِلَّا تَبَارًا ﴿٢٨﴾

1 ヌーフ*の両親は、信仰者だった。また「我が家」の解釈には、ほかにも「私のマスジド*」「私の船」といった諸説もある（アル＝クルトウビー18:313-314 参照）。

第72章
ジン*章 (アル=ジン) ¹

じ ひ じ あい
慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、) 言え。「私には、啓示^{けいじ}された。ジン*の集団が(、私のクルアーン*^{どくしやう}読誦に)耳を傾け、(自分たちの民に、こう)言ったということ。『本当に私たちは、驚^{おどろ}くべき読み物² (クルアーン*) を聞いた。³
2. (それは) 正しさへと導^{みちび}いてくれる。ゆえに私たちはそれを信じたのであり、我らが主*^{しゅ}に何者も並べたりはしまい⁴』。
3. また、——我らが主*^{しゅ}の偉大さは、崇高^{すうこう}である——、かれが配偶者も子供も、もうけられなかったということ。⁵
4. また、私たちの内の愚か者^{おろ}*が、アッラー*に対して(真実から)逸脱^{いつだつ}したこと⁷を言っていたということ。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ أَوْحِيَ إِلَيَّ أَنَّهُ اسْمَعَ تَفَوُّنَ الْجِنَّ فَقَالُوا
إِنَّا سَمِعْنَا قَوْلَ إِبْرَاهِيمَ ۝

يَهْدِي إِلَى الرُّشْدِ فَآمَنَّا بِهِ وَلَنْ نُشْرِكَ بِرَبِّنَا
أَحَدًا ۝

وَأَنَّهُ وَعَلَىٰ جُذُرِنَا مَا اتَّخَذَ صَاحِبَةً وَلَا
وَلَدًا ۝

وَأَنَّهُ كَانَ يَقُولُ سَفِيهُنَا عَلَى اللَّهِ شَطَطًا ۝

- 1 マッカ*啓示。ジン*の言葉、性質、宗教、人間との関係などが多く取り上げられていることが、スーラ*名の由来。クルアーン*を聞いて信仰に入ったジン*の言葉を通して、アッラーの唯一性*、クルアーン*の真実性、預言者*ムハンマド*の使徒*性、復活などの基本的信仰が確認される。そしてそれは同時に、人間の内の不信仰者*への警告、信仰への呼びかけであり、預言者*への慰(なぐさ)めともなっている。
- 2 その修辭的秀越さ、雄弁さ、英知、法規定、情報において「驚くべき読み物」(ムヤッサル 572 頁参照)。
- 3 この出来事については、砂丘章 29 の訳注も参照。
- 4 つまり、アッラー*に対してシルク*を犯さない、ということ。
- 5 アーヤ*15 まで続く、このジン*の言葉の中の「…ということ」という名詞文は、アーヤ*2 の「…を信じた」にかかる、とされる(イブン・アーシュール 29:222 参照)。
- 6 この「愚か者」には、「イブリース*」「シルク*を犯すジン*」といった解釈がある(イブン・カスィール 8:239 参照)。
- 7 洞窟章 14 の同様の表現と、その訳注も参照。

5. また、私たちが人間もジン*も、アッラー*
に対して嘘^{うそ}などつかないだろう、と思って
いたということ。
6. また、人間の男たちがジン*の男たちに加護^{かご}
を乞^こい、それで彼ら（ジン*）が彼ら（人間）
に恐怖^{こわ}を上乗^{うわの}せしたということ。
7. また（ジン*たちよ）、あなた方が考えてい
たように、アッラー*は誰も（死後に）蘇^{よみがえ}
らせたりしないだろうと、彼ら（人間の不
信仰者*たち）が考えていたということ。
8. また、私たちが（天界の住民の話を聴こう
として）天を探ると、そこが（天使*による）
厳^{きび}しい警護^{けいご}と、流星^みに満ち溢^{あふ}れている³のを
見出^{みいだ}した、ということ。
9. また、私たちが（以前、天界の話を）聴くた
めに、その一部に居場所を構^かえていた、とい
うこと。そして今、聞き耳を立てる者は誰で
も、そこに護衛^{ごゑい}の流星^みを見出すのだ。
10. また、（この天界の変化によって）一体、地
上の者に悪が望まれているのか、それとも彼
らの主*が彼らに正しい導^{みちび}きをお望みな
のか、私たちには分からないということ。⁴

وَأَنَّا ظَنَنَّا أَنْ لَنْ تَقُولَ الْإِنْسُ وَالْجِنُّ عَلَى اللَّهِ
كَذِبًا ﴿٥﴾

وَأَنَّهُ كَانَ رِجَالٌ مِنَ الْإِنْسِ يَعُوذُونَ بِرِجَالِ الْجِنِّ
أَلَّيْنِ فَزَادُواهُمْ هَرَجًا ﴿٦﴾

وَأَنَّهُمْ ظَنُّوا كَمَا ظَنَنْتُمْ أَنْ لَنْ يَبْعَثَ اللَّهُ أَحَدًا ﴿٧﴾

وَأَنَّا لَمَسْنَا السَّمَاءَ فَوَجدْنَهَا مُلْتَئِفَةً
حَرَسًا شَدِيدًا وَشُهُبًا ﴿٨﴾

وَأَنَّا كُنَّا نَقْعُدُ مِنْهَا مَقْعِدًا لِّلسَّمِيعِ فَمَنْ
يَسْمِعُ أَأَنْ لَّنْ يَحْذِلَهُ، شُهَابًا بِأَرْصَادٍ ﴿٩﴾

وَأَنَّا لَا تَدْرِي أَسْرَأُ إِلَيْكَ فِي الْآرْضِ أَمْ أَزِيدُ
بِهِمْ زُجُجًا رَسَدًا ﴿١٠﴾

1 アッラー*に配偶者や子供がいる、という「嘘」（ムヤッサル 572 頁参照）。

2 「恐怖（ラハク）」の解釈には、「罪」「不信仰」といった諸説もある（アル＝クルトゥビー 19:10 参照）。

3 この「流星」については、アル＝ヒジュル章 17-18 とその訳注、詩人たち章 212、223、整列者章 6-10、王権章 5 も参照。

4 つまり、地上の者たちが預言者*ムハンマド*を信じて導かれるか、あるいは嘘つき呼ばわりして滅びるか、分からないということ（アル＝クルトゥビー 19:14 参照）。あるいは、これは天の護衛が厳しくなったのを見出した時に、ジン*たちが互いに不思議がって言った言葉。その後、クルアーン*を聞いた時、彼らはその理由を知ったのだった（アッ＝シャンキーティ―8:318 参照）。

11. また、私たちの内には正しい者*たちもいれば、そうでないものもいるということ。私たちは、ばらばらな道にあった。
12. また、私たちが地上で、アッラー*（がお望みになったこと）から逃れることも（出来）なく、（天へと）逃亡してかれから逃れることも（出来）ないことを確信した、ということ。
13. また、私たちが導き（クルアーン*）を聞いた時、それを信じた、ということ。自らの主*を信じる者は誰でも、いかなる（善行の）減損も、屈辱も、怖れることがないのだから。
14. また、私たちの内には服従した者（ムスリム*）たちもいれば、（真理から外れた）不公正な者たちもいる、ということ。そして誰であろうと服従した者（ムスリム*）、それらの者たちは正しい導きを目指したのだ。
15. また、（真理から外れた）不公正な者たちはといえば、地獄の薪となった」。
16. また、もし彼ら（不信仰者*の人間とジン*）が（、イスラーム*という）道をまっすぐ歩んだ¹のなら、われら*が彼らに豊富な水を飲ませてやったのだ、ということ。²
17. （われら*の恩恵に感謝するかどうか、）彼らを試験³にかけられるべく。そして自らの主*の唱念³に背を向ける者があれば、かれ（アッラー*）はその者を険しい懲罰にお入れになろう。

وَأَنَّا مِنَّا الصَّالِحُونَ وَمِمَّا دُونَ ذَلِكَ كَمَا طَرَفْنَا فِدْكَ ۝١١

وَأَنَّا ظَنَنَّا أَن لَّن نَعُجِرَ اللَّهَ فِي الْأَرْضِ وَلَن نَعُجِرَهُ هَرَبًا ۝١٢

وَأَنَّا لَمَّا سَمِعْنَا الْهُدَىٰ ءَامَنَّا بِهِ ؕ فَمَنْ يُؤْمِن بِرَبِّهِ فَلَا يَخَافُ بَخْسًا وَلَا رَهَقًا ۝١٣

وَأَنَّا مِنَّا الْمُسْلِمُونَ وَمِمَّا الْقَاسِطُونَ فَمَنْ أَسْلَمَ فَأُولَٰئِكَ تَحَرَّوْا رَشَدًا ۝١٤

وَأَمَّا الْقَاسِطُونَ فَكَانُوا لِجَهَنَّمَ حَطَبًا ۝١٥

وَالْوَاسِقَةُ أُولَٰئِكَ السَّامِقَةُ لِأَسْفَهِمُ مَاءً عَذَقًا ۝١٦

لَنَنْفِخَنَّهُمْ فِيهِ وَنَمْنَعُ عَنْ ذِكْرِ رَبِّهِ يَسْلَمَ ۝١٧

1 この「まっすぐ歩くこと」に関しては、詳細にされた章 30 の訳注を参照。

2 このアーヤ*以降の「…ということ」は、アーヤ*1 に「…が、啓示された」という形でかかる、とされる（イブン・アーシュール 29:237 参照）。

3 この「唱念」には、アッラー*への服従、クルアーン*に耳を傾けること、その熟慮（じゅくりょ）、それに則（のっと）った行為などが含まれる（ムヤッサル 573 頁参照）。

18. また、マスジド*はアッラー*（だけを崇拜*
するため）のもの、ということ。ならば、
あなた方はアッラー*と並べて、何ものにも
祈って（崇拜*して）はならない。¹
19. また、アッラー*の僕（ムハンマド*）が、
かれに祈って（崇拜*しつつ）立った時、彼
ら（ジン*たち）は（クルアーン*を聴くた
めに、）彼に一丸とな（って覆いかぶさ）
らんばかりだったということ。²
20. （使徒*よ、不信仰者*たちに）言ってやれ。
「私は我が主*（だけ）に祈願（しつつ崇拜
）するのであり、かれ（の崇拜）に誰も
並べたりはしない³」。
21. （使徒*よ、）言うのだ。「本当に私は、あな
た方に対して、害悪も善も有してはいない」。
22. （使徒*よ、）言え。「実に（もし私がアッ
ラー*に逆らえば）、誰一人アッラー*（の懲
罰）から私を守ってくれはしないし、また
私がかれをよそに、（かれの懲罰からの）
いかなる避難所も見出すこともない。
23. ただ、アッラー*と、かれのお言伝からの伝
達のみ（を、私は有しているのだ）。誰で
あろうと、アッラー*とその使徒*に逆らう

وَأَنَّ الْمَسْجِدَ لِلَّهِ فَلَا تَدْعُوا مَعَ اللَّهِ أَحَدًا ﴿١٨﴾

وَأَنَّهُ لَمَّا قَامَ عَبْدُ اللَّهِ يَدْعُوهُ كَادُوا يَكُونُونَ
عَلَيْهِ لَكَا ﴿١٩﴾

قُلْ إِنَّمَا أَدْعُوا رَبِّي وَلَا أُشْرِكُ بِهِ أَحَدًا ﴿٢٠﴾

قُلْ إِنِّي لَا أَمْلِكُ لَكُمْ ضَرًّا وَلَا رَشَدًا ﴿٢١﴾

قُلْ إِنِّي لَنْ يُجِيرَنِي مِنَ اللَّهِ أَحَدٌ وَلَنْ أَجِدَ مِنْ
دُونِهِ مُلْتَحَدًا ﴿٢٢﴾

إِلَّا الْبَلَاغَمَنِ اللَّهُ وَرِسَالَتِيَّ وَمَنْ يَعْصِ اللَّهَ
وَرَسُولَهُ فَإِنَّ لَهُ نَارَ جَهَنَّمَ خَالِدًا فِيهَا أَبَدًا ﴿٢٣﴾

1 このアーヤ*については一説に、「啓典の民*は自分たちの教会に入るとシルク*を犯していたため、信仰者たちはマスジド*に入った時、彼らと同様にするのではない、という意味」「ここでの『マスジド*』は、あらゆる土地の意味」「この『マスジド*（語義的に「サジダ*する場所」）』とは、サジダ*する時に地面につける、身体の各箇所のこと」といった解釈がある（アル＝バガウィー5:162 参照）。

2 ほかに、「これはジン*が、自分たちの民に伝えて言った言葉。この場合、彼に押し寄せて来たのは、彼と共に崇拜*行為に勤（いそ）しむことに熱心な教友*たち」「彼に押し寄せて来たのは、彼の布教を阻（はば）もうとする人間とジン*たち」といった解釈がある（イブン・カスィール 8:245 参照）。

3 つまり、シルク*を犯したりはしない、ということ。

者、実にその者には地獄があり、彼らはずっと永遠にそこに留まる。

24. やがて自分たちが約束されているもの（懲罰）を見る時、彼ら（シルク*の徒）は誰が援助者が弱く、（軍勢の）数が少ない者かを知ることになるう」。

25. （使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言ってやれ。「私は、あなた方が約束されているもの（懲罰）が近いのか、それとも、我が主*がそこに（長い）期間を置かれるのか、分からない」。

26. （アッラー*は、）不可視の世界*をご存知のお方であり、かれの不可視の世界を、誰にも露わにはされない。

27. ただ、かれがご満悦になった使徒*である者は別（で、不可視の世界*の一部を、お教えになる）。というのも、本当にかれは彼の前と後ろから、（天使*の）護衛を遣わされる¹のだから。

28. （それは使徒*が、）彼ら（過去の使徒*たち）²がその主*のお言伝を確かに伝達した、ということ、そして、かれ（アッラー*）が（その知識で、）彼らのもとにあるものを包围され、全ての物事の数を数え上げられたということを知るためなのである。

حَقَّ إِذَا رَأَوْا مَا يُوعَدُونَ فَسَيَعْلَمُونَ مَنْ أَضْعَفُ نَاصِرًا وَأَقَلُّ عَدَدًا ﴿١٤﴾

قُلْ إِنِّي أَدْرِي أَقْرَبُ مَا تُوعَدُونَ أَمْ يَجْعَلُ لَهُ رَبِّي أَمَدًا ﴿١٥﴾

عَلِمَ الْغَيْبِ فَلَا يُظْهِرُ عَلَى غَيْبِهِ أَحَدًا ﴿١٦﴾

إِلَّا مَنِ ارْتَضَىٰ مِنْ رَسُولٍ فَإِنَّهُ يَسْلُكُ مِنْ بَيْنِ يَدَيْهِ وَمِنْ خَلْفِهِ رَصَدًا ﴿١٧﴾

لَيَعْلَمَنَّ أَن قَدْ أَبْلَغُوا رِسَالَاتِ رَبِّهِمْ وَأَحَاطَ بِمَا لَدَيْهِمْ وَأَحْصَىٰ كُلَّ شَيْءٍ عَدَدًا ﴿١٨﴾

1 彼ら天使*たちは、使徒*をジン*から守り、天界からの情報が盗み聞きされないようにする（ムヤッサル 573 頁参照）。

2 「知る者」が「使徒*ムハンマド*」、「伝達した者たち」が「過去の使徒*たち」という解釈のほかにも、前者と後者がそれぞれ「使徒*ムハンマド*、ジブリール*とその仲間たち」「使徒*たち、天使*たち」「ある使徒*、自分以外の使徒*たち」「イブリース*、使徒*たち」「ジン*、使徒*たち」「使徒*たちを嘘つき呼ばわりした者たち、使徒*たち」「アッラー*、使徒*たち」といった諸説がある（アルークルトウビー 19:30 参照）。

第73章

衣を纏う者章 (アル=ムッザンミル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 衣を纏う者²よ、
2. 少しだけ除いて、(礼拝のため)夜に起きていよ。³
3. つまり、その半分(を起きて過ぐせ)。または、そこから少し(、つまり三分の一まで)減らすがいよ。
4. あるいは、そこに上乗せし(、三分の二にし)てもよい。そしてクルアーン*を、明瞭に区切りつつ読誦せよ⁴。
5. (預言者*よ、)本当にわれら*は、あなたに重厚な言葉(クルアーン*)⁵を投げかけよう。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا الْمَزْمِلُ ①

فَرَأَيْتَ إِلَّا قَلِيلًا ②

يَضَعُهُ ③ وَأَوْفَقُصْ مِنْهُ قَلِيلًا ④

أَوْزِدْ عَلَيْهِ وَرَبِّ الْقُرْآنِ تَرْتِيلًا ⑤

إِنَّا سَنُلْقِي عَلَيْكَ قَوْلًا ثَقِيلًا ⑥

- 1 マッカ*啓示の内でも、最初に下ったものの内の一つ(一部アーヤ*には、マディーナ*啓示説もあり)。スーラ*の名称は、スーラ*冒頭に出現する同語に由来。夜の礼拝、及び唯一なるアッラー*への真摯(しんし)な崇拜*の命令とその手法の描写に始まり、預言者*ムハンマド*の真実性と復活の日*の確証、使徒*を信じない不信仰者*への警告が取り上げられる。そして最後は、夜の礼拝の軽減と、その他の崇拜*行為の命令によって締めくくられる。
- 2 預言者*はヒラー洞窟で最初の啓示が下った時、余りの恐怖のために当時の妻であったハデージャのもとへ戻り、衣で包んでくれるように頼んだ(イブン・ジュザイ 2:500 参照)。
- 3 この夜中の礼拝(夜の旅章 79 の訳注も参照)の義務は、このアーヤ*が下った一年後、アーヤ*20 によって撤回(「アーヤ*の撤回」については、雌牛章 106 の訳注を参照)され、ムスリム*たちにとっての任意の行為となった(ムスリム「旅行者の礼拝とその短縮の書」139 参照)。
- 4 つまり、各文字をはっきりと発音し、伸ばすべき箇所は伸ばしつつ、ゆっくりと読誦すること(イブン・アーシュール 29:260 参照)。
- 5 「重厚な」の解釈には、「そこに含まれる様々な宗教義務」「高貴な」「その褒美が、復活の日*の秤に重い」「不信仰者*たちにとって厳しい」「その啓示を受け取る時に、使徒*に大きな負担がかかる」といった諸説がある(アル=クルトゥビー 19:38 参照)。

6. 実に夜に生ずるもの(崇拝^{すうはい}*行為)は、より強く(心に)響き、より確実な言葉^{ひび}なのだ。
7. 本当にあなたには昼間、(生活や用事のための)長い奔走がある。
8. (夜か昼かを問わず、)あなたの主^{しゅ}*の御名^みを唱念^{しょうねん}し、かれ(の崇拝^{すうはい}*)に完全に専念^{せんねん}せよ。
9. (かれは)東西(と、そこにある全て)の主^{しゅ}*なのだ。かれ以外に(真に)崇拝^{すうはい}*すべきものはない。ならば、かれを委任者^{せんねん}²とせよ。
10. また、彼ら(シルク*の徒)が(あなたとあなたの宗教について)言うことに忍耐^{にんたい}*し、彼ら(の悪)を綺麗^{きれい}な回避^{かいひ}でもって避けるのだ。
11. そして(使徒^{しと}*よ)、贅沢^{ぜいたく}さの主^{ぬし}で(クラーン*^{うそ}を)嘘呼^{うそ}ばわりする者たちを、われに(任^{まか}せて)放^{はな}っておき、少しの間、彼らに猶予^{ゆうよ}を与えておけ。
12. 本当にわれら*のもとには(来世で)、重いくびきと火獄、
13. そして喉^{のど}に詰^つまる食べ物³と、痛ましい懲罰^{ちやう}がある。
14. 大地と山々が激震^{げきしん}し、山々が砕^{くだ}け散^ちった砂山となる日に。⁴

إِنَّ نَاشِئَةَ اللَّيْلِ هِيَ أَشَدُّ وَطْأً وَأَقْوَمُ قِيلًا ①

إِنَّ لَكَ فِي النَّهَارِ سَبْحًا طَوِيلًا ②

وَأَذْكُرْ اسْمَ رَبِّكَ وَتَبَتَّلْ إِلَيْهِ تَتَذَكَّرَ ③

رَبُّ الْمَشْرِقِ وَالْمَغْرِبِ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ فَاتَّخِذْهُ وَكِيلًا ④

وَأَصْبِرْ عَلَى مَا يَنْفُولُونَ وَأَعْلَهِمْ هَجْرًا جَمِيلًا ⑤

وَذَرْنِي وَالْمُكَذِّبِينَ أُولِيَ النَّعْمَةِ وَمَهِّلْهُمْ قَلِيلًا ⑥

إِنَّ لَدَيْنَا أُنْكَالًا وَجَحِيمًا ⑦

وَطَعَامًا ذَا غُصَّةٍ وَعَذَابًا أَلِيمًا ⑧

يَوْمَ تَرْجُفُ الْأَرْضُ وَالْجِبَالُ وَكَانَتِ الْجِبَالُ كُبُيَا مَهِيلًا ⑨

1 「より確実な言葉」には、「周囲が静かなので、より正しい形で確実かつ継続する読誦ができる」「より活発で、より真摯で、より祝福にあふれた崇拝*行為」といった解釈がある(アル=クルトゥビー19:41 参照)。

2 「委任者」については、頻出名・用語解説「全てを請け負われる*お方」も参照。

3 「喉に詰まる食べ物」とは、ザククーム(夜の旅章60「呪われた木」の訳注を参照)と、忌々しい植物(圧倒的事態章6の訳注を参照)のこととされる(アル=バガウィー5:170 参照)。

4 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章47、ター・ハー章105-107、蟻章88、山章9-10、出来事章5-6、真実章13-15、階段章8-9、消息章20、巻き込む章3、衝撃章4-5なども参照。

15. 本当にわれら*は使徒*（ムハンマド*）を、あなた方に対する証人¹としてあなた方に遣わした。ちょうど、フィルアウン*に使徒（ムーサー*）を遣わしたように。
16. それでフィルアウンは使徒*に逆らい、われら*は彼をおぞましい罰で罰した。
17. では、かれ（アッラー*）が子供たちを（その余りの恐怖ゆえに）白髪にされる（復活の）日*、あなた方はいかにして自分たちを守るというのか？ もし、あなた方が不信仰に陥ったのなら？
18. そこにおいて、天は裂ける²。かれのお約束は、実現されることになっていたのだ。
19. 本当にこれ（警告のアーヤ*）は、教訓である。そして、誰でも（それによる教訓を）望む者には、（服従行為と敬虔さ*によって）自らの主*（のご満悦）へと道を取らせよ。
20. （使徒*よ、）本当にあなたの主*は、あなたと、あなたと共にある者の一団が、（時には）夜の三分の二未満、（時には）その半分、（また時には）その三分の一を（礼拝に）立つことをご存知である。そしてアッラー*（のみ）が、夜と昼（の範囲）をお定めになり、それをご存知になるのだ。かれは、あなた方がそれを数え上げられないことをご存知になり、あなた方の悔悟をお受け入れになっ

إِنَّا أَرْسَلْنَا إِلَيْكُمْ رَسُولًا شَهِدَ بِكُمْ كَمَا
أَرْسَلْنَا إِلَىٰ فِرْعَوْنَ رَسُولًا ﴿١٥﴾

فَعَصَىٰ فِرْعَوْنُ الرَّسُولَ فَأَخَذْنَاهُ أَخْذًا وَبِيلًا ﴿١٦﴾

فَكَيْفَ تَتَّقُونَ إِن كَفَرْتُمْ فَمَا يَجْعَلُ
الْوَلَدُ لَكُمْ شَيْئًا ﴿١٧﴾

السَّمَاءِ مُنْقَطِرَةً ۖ كَانَ وَعْدُهُ مَفْعُولًا ﴿١٨﴾

إِنْ هَذِهِ تَذَكُّرَةٌ ۖ فَمَنْ شَاءَ اتَّخَذْ إِلَىٰ رَبِّهِ
سَبِيلًا ﴿١٩﴾

* إِنَّ رَبَّكَ يَعْلَمُ أَنَّكَ تَقُومُ أَدْنَىٰ مِنْ ثُلَاثِي الضَّلَٰئِلِ وَيَضَعُكَ
وَبُثْلَهُ ۖ وَطَآئِفَةٌ مِّنَ الَّذِينَ مَعَكَ ۚ وَاللَّهُ يُفَقِّرُ الرِّزْلَ
وَالنَّهَارَ عَلِيمٌ لِّأَلِّ يُخْصِمُهُ ۚ فَتَابَ عَلَيْكَ فَاقْرَأْ ۖ وَآمَّا
تَيْسِّرْ مِنَ الْقُرْءَانِ ۖ عَلِمَ أَن سَيَكُونُ مِنْكُمْ مَّرْضَىٰ
وَأَآخَرُونَ يَضْرِبُونَ فِي الْأَرْضِ يَبْتَغُونَ مِن
فَضْلِ اللَّهِ وَآخَرُونَ يَقْتُلُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ
فَاقْرَأْ ۖ وَأَمَّا تَنْبَسِرْ مِنْهُ وَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ ۖ وَأَوْفُوا الزَّكَاةَ
وَأَقْرِضُوا اللَّهَ قَرْضًا حَسَنًا ۚ وَمَا تُقَدِّمُوا لِأَنفُسِكُمْ مِن
خَيْرٍ فَيَجِدْهُ عِنْدَ اللَّهِ حَٰوِثًا ۖ وَأَعْظَمَ أَجْرًا ۖ وَاسْتَغْفِرُوا

1 この「証人」については、婦人章 41 の訳注を参照。

2 識別章 25 も参照（アル=クルトゥビー 19:244 参照）。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

た¹。ならば（夜の礼拝^{れいはい}の中で）、クルアーン*から、（あなた方にとって読誦^{どくしやう}が）容易^{ようい}なものを誦む^よがよい²。かれは、あなた方の内に病人や、アッラー*のご恩寵^{おんちやう}を求めつつ地上を旅する別の者たち、アッラー*の道において努力奮闘^{ふんどう}する別の者たちが出てくることも、ご存知^{ごしり}になったのだから。ならば（夜の礼拝^{れいはい}の中で）、そこ（クルアーン*）から、（あなた方にとって読誦^{どくしやう}が）容易^{ようい}なものを誦む^よがよい。そして（義務^{ぎむ}の）礼拝^{れいはい}を遵守^{じゆんしゆ}*し、浄財^{じやうさい}*を支払い、アッラー*によき貸付^{かしつけ}³をせよ。あなた方が自分のためにしておく善いことは何であれ、あなた方はそれを（復活の日*に）アッラー*の御許^{みもと}で、（現世で自分たちが行ったもの）より善く、より偉大^{ゐく}な報^{みだ}いとして見出すことになるのだから。そしてアッラー*に、お赦^{ゆる}しを乞え。本当にアッラーは、赦^{ゆる}し深いお方、慈愛^{あい}深い*お方^じなのだ。⁴

1 アーヤ*2によって夜の礼拝が義務づけられた後、ある種の者は夜の礼拝時間の計算が分からず、その結果、間違いを避けるために夜通しで礼拝し続け、ひどい疲労に教われるということがあった。このような中、アッラー*は彼らにご慈悲をおかけになり、軽減して下さった（アル＝クルトウビー 19:53 参照）。

2 夜の任意の礼拝が、クルアーン*の読誦によって表わされている。つまり、自分にとって容易に感じられる範囲で、夜に任意の礼拝をせよ、ということ（イブン・カシール 8:258 参照）。

3 アッラー*に「よき貸付」をすることについては、雌牛章 245 の訳注を参照。

4 このアーヤ*と、夜の任意の礼拝については、アーヤ*2 の訳注も参照。

第74章
包る者章 (アル=ムッダッスィル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (衣に) 包る者よ、²
2. 立ち上がり、(人々にアッラー*の懲罰を) 警告せよ。
3. また、あなたの主* (の偉大さを) を称揚し*、
4. あなたの衣服を清め、³
5. 偶像⁴ (と、あらゆるシルク*) を避けよ。
6. また、(見返りに) 多くのものを得ようと しつつ、恵んではならない。
7. そして、あなたの主* (のご満悦の) ため、 忍耐*せよ。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا الْمُدَّثِّرُ ١

قُمْ فَأَنْذِرْ ٢

وَرَبَّكَ فَكَبِّرْ ٣

وَشِئْبَكَ فَطَهِّرْ ٤

وَالْجَوْزَ فَأَهْجُرْ ٥

وَلَا تَمْنُنْ تَسْتَكْبِرُ ٦

وَلِرَبِّكَ فَاصْبِرْ ٧

- 1 マッカ*啓示 (一部アーヤ*にはマディーナ*啓示説あり)。スーラ*の名称は、冒頭での預言者*ムハンマド*に対する呼びかけの語に由来。イスラーム*の教えを実践すると共に伝達する命令がなされ、次いで復活の日*が確証される。また、現世に溺(おぼ)れた、頑迷で恩知らずな不信仰者*の悪例が取り上げられ、同様の状態にある者に厳しい警告が向けられる一方、信仰者には樂園の吉報が告げられる。スーラ*の最後は再び、信仰への呼びかけと、それを拒(こば)む者への警告で締めくくられる。
- 2 最初の啓示(凝血章の冒頭)が下った後、しばらく啓示は途絶(とだ)えた。そのような中、預言者*がヒラー洞窟の近くを歩いている時、ジブリール*が本来の巨大な姿で天に現れた。彼は恐怖に襲われて妻ハディージャのもとに戻り、「私を(衣で)包んでくれ」と言った。このアーヤ*は、この時に下ったものとされる(アル=ブハーリー4922、イブン・カシール 8:261-262 参照)。
- 3 衣服の汚れだけでなく、あらゆる行いを、悪、見せかけ、偽善、自惚(うぬぼ)れ、高慢さ、不注意など、それを台無しにしてしまう、あるいは不完全なものとしてしまうような、あらゆる要素から「清める」こと(アッ=サアディー895頁参照)。
- 4 「偶像(ルジュズ)」には、「罪」「懲罰(の原因となるような全ての行為)」といった解釈もある(アル=クルトゥビー19:67 参照)。

8. 角笛^{つのふえ}に打ち鳴らされる時、¹
9. その日、それは困難な日である。
10. 不信仰者*たちにとって、容易^{ようい}ではない。
11. (使徒*よ、) われに(任せて)放^{はな}っておけ、
われが(子供も財産もない)独りきりの者
として(彼の母親の胎内^{たいない}に)創^{つく}った者を。
12. われは、彼にたっぷり財産^{ざん}を授けてやった。
13. (離れることなく、彼にいつも)お付きする、
子供たちも。
14. また、われは彼に(生計^{なり}の)道を均^{なら}してや
った。
15. その後に及んで彼は(不信仰に陥^{おちい}り)、わ
れが(彼の子供と財産^{うわの}に)上乗^うせすること
²を所望^{しよもう}するのだ。
16. 断じて(、そんなことはあり得)ない！ 本
当に彼は、われら*の御徴^{みしるし}³(を嘘呼^{うそ}ばわり
すること)に頑迷^{がんめい}な者だったのだから。
17. われはやがて、彼を険しい上り坂(による
懲罰^{ちようばつ})で苦しめてやろう。⁴
18. 本当に彼は、(使徒*とクルアーン*に対す
る誹謗^{ひぼう}を)思索^{しよく}し、準備^{じゅんび}したのだから。

فَإِذَا نُفِرَ فِي النَّاقُورِ ٨

فَذَلِكَ يَوْمٌ مَّيْذَنُومٌ وَعَاسِرٌ ٩

عَلَى الْكَافِرِينَ عَذَابٌ عَاسِرٌ ١٠

ذَرْنِي وَمَنْ خَلَقْتُ وَحِيدًا ١١

وَجَعَلْتُ لَهُ مَا لَمْ مَسْذُودًا ١٢

وَبَيْنَ شُهُودًا ١٣

وَمَهَّدْتُ لَهُ تَمْهِيدًا ١٤

ثُمَّ يَظْمَعُ أَنْ أَرِيدَ ١٥

كَلَامُهُ كَانَ لَا يَنْتَابِعُنِيكَ ١٦

سَأَرْهَقُهُ صُعُودًا ١٧

إِنَّهُ فَكَّرَ وَقَدَّرَ ١٨

1 「角笛」については、家畜章 73 の訳注を参照。ここでの角笛は、一回目のもの、あるいは二回目のもの、という説がある(アル=クルトゥビー19:70 参照)。

2 これには、「来世でも同様の恩恵を得ること」という解釈もある(アッ=サアディー896 頁参照)。

3 この「御徴」は、啓典や使徒といった、創造物に対するアッラー*からの論拠(ムヤッサル 575 頁参照)。

4 アーヤ*11 から取り上げられている者は、一説にマッカ*の不信仰者*たちの長の一人であった、アル=ワリード・ブン・アル=ムギーラ*のこととされる。しかし真理に対して頑迷であり、それを放棄(ほうき)した者には、彼と同様の罰が待ち受けている(前掲書、同頁参照)。

19. 彼が成敗^{せいばい}されますよう。彼はいかに（その
ような誹謗^{ひぼう}を）準備したというのか？ ﴿فَقِيلَ كَيْفَ فَدَّرَ﴾ ⑩
20. そして、彼が成敗^{せいばい}されますよう。彼はいかに
（そのような誹謗^{ひぼう}を）準備したというのか？ ﴿فَقِيلَ كَيْفَ فَدَّرَ﴾ ⑪
21. それから、彼は（準備した誹謗^{ひぼう}を）吟味^{ぎんみ}した。 ﴿فَوَنظَرَ﴾ ⑫
22. それから彼は（、クルアーン^{ひぼう}*を誹謗^{ひぼう}するこ
とが出来ないことを認めると、）眉^{まゆ}をひそ
め、顔をしかめた。 ﴿فَوَعَسَّ وَفَسَّرَ﴾ ⑬
23. それから彼は（真理に背を向け）後退^{こうたい}し、
（真理を認めずに）驕^{おご}り高ぶった。 ﴿فَوَأَذِثْرَ وَأَسْكَبَر﴾ ⑭
24. そして、彼は言った。「これ（クルアーン
*）は、（昔の人々から）伝わる魔術^{まじゅつ}に外な
らない。 ﴿فَقَالَ إِنَّ هَذَا إِلَّا سِحْرٌ يُؤَنَّر﴾ ⑮
25. これは人間の言葉以外の、何ものでもない
のだ」。¹ ﴿إِنَّ هَذَا إِلَّا قَوْلُ الْبَشَرِ﴾ ⑯
26. われはやがて、彼を焦炎^{しょうえん}²へと入れて炙^{あぶ}っ
てやろう。 ﴿سَأَصْلِيهِ سَقَر﴾ ⑰
27. 焦炎^{しょうえん}が何かを、あなたに知らせるものは
何か？ ﴿وَمَا أَذْرَكَ مَا سَقَر﴾ ⑱
28. それは（肉も骨も、焼き尽くして）残して
はおかず、放^{はな}っておきもしない。³ ﴿لَا تَبْقَى وَلَا تَذَر﴾ ⑲
29. （それは、人間の）皮膚^{ひふ}を、黒焦げ^{くしょうげ}に変える。 ﴿لَوَاحٍ لِلْبَشَرِ﴾ ⑳

1 家畜章 105 「あなたは学習したのだ」の訳注も参照。

2 「焦炎（サカル）」は「溶かす、焼く」という意味から派生した語で、地獄の別称。一説には、地獄の第六層のこと（アル＝クルトゥビー 19:77 参照）。

3 一説には、「（焼き尽くしたまま）放^{はな}っておきもしない」という意味。つまり、新しく創造されては焼き尽くされる、という苦しみをずっと味わい続ける（前掲書、同頁参照）。

عَلَيْهَا سِتْعَةُ عَشْرٍ ﴿٣٠﴾

30. その上には、(地獄の番人である) 十九人
(の天使*たち) がいる。¹

31. われら*は地獄の主(である番人) たちを、
天使*以外の何者にもしなかった。また、そ
の数を、不信仰に陥った者*たちへの試練
以外の何ものともしなかった²。(また、そ
れは) 啓典を授けられた者*たちが(クルア
ーン*の真实性を) 確信し³、信仰する者た
ちが信仰心を増加させ、そして啓典を授け
られた者*たちと信仰者たちが疑惑に陥ら
ないようにするためであり、かつ心の中に
病がある者⁴たちと不信仰者*たちに、「一
体アッラー*は、この譬えで何を望んだの
か?」と言わせるためである。同様にアッ
ラー*は、かれがお望みになる者を迷わせ
れ、かれがお望みになる者を導かれる。そ
して(それらの天使*も含め)、あなたの主
*の軍勢を知るのは、かれのみであり、それ
⁵は人間に対する教訓に外ならないのだ。

32. 断じて(、使徒*は嘘つきなどでは) ない!
月にかけて、⁶

33. また、後退する夜にかけて、

وَمَا جَعَلْنَا أَصْحَابَ النَّارِ إِلَّا مَلَائِكَةً وَمَا جَعَلْنَا
عِدَّتَهُمْ إِلَّا فِتْنَةً لِلَّذِينَ كَفَرُوا لِيَسْتَيْقِنَ الَّذِينَ
أُوتُوا الْكِتَابَ وَيَزَادَ الَّذِينَ ءَامَنُوا إِيمَانًا وَلَا يَزِيدَ
الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ وَالْمُؤْمِنُونَ وَلِيَقُولَ الَّذِينَ
فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ وَالْكَافِرُونَ مَاذَا أَرَادَ اللَّهُ بِهَذَا
مَثَلًا كَذَلِكَ يُضِلُّ اللَّهُ مَن يَشَاءُ وَيَهْدِي مَن
يَشَاءُ وَمَا يَعْلَمُ جُودَ رَبِّكَ إِلَّا هُوَ وَمَا يَظُنُّ إِلَّا
ذِكْرُ الرَّسُولِ ﴿٣١﴾

كَلَّا وَالْقَمَرِ ﴿٣٢﴾

وَاللَّيْلِ إِذَا تَدْبَرِ ﴿٣٣﴾

1 これは、地獄の天使*ザバーニヤのこと(ムヤッサル 576 頁参照)。凝血章 18 とその訳注も参照。

2 一説にアブー・ジャハル*は、地獄の番人の数が十九人と聞き、その数の少なさを嘲笑(ちようしょう)した(アル=バガウィー-5:178 参照)。

3 啓典の民*は、預言者*を試す目的で、地獄の番人の数を尋ねたことがあった。そしてこの「十九人」という数は、彼らの知識と一致するものだったのだという(イブン・カスィール 8:268-269 参照)。

4 つまりイスラーム*に疑念を抱く者や、偽信者*のこと(アッ=サアディー-896 頁参照)。

5 「それ」が何を指すかについては、「地獄」「現世の火」「地獄の番人の数」「軍勢」といった諸説がある(アル=クルトゥビー-19:83 参照)。

6 アーヤ*32-34 における、アッラー*による誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

34. また、露^{あら}わになる朝^{あさ}にかけて（誓^{ちか}う）、
35. 本当にそれ（地獄）は、まさに途^と方^{ほう}もない事の一つなのである。
36. 人類^{けいこく}への警告^{けいこく}である。
37. あなた方^{あなた}の内、（服^{ふく}従^{じゅう}行為^ぎによってアッラー
ー*のお傍^{そば}へと）近^きづくことを、あるいは（罪^{つみ}
によって、かれから）遠^{とほ}ざかることを、望^{のぞ}
む者への（警告^{けいこく}なのだ）。
38. 全ての者は、自分^{かぜ}が稼^{かせ}いだことによって差^さ
し押^おさえられた者¹。
39. 但^{ただ}し、右側^{みぎがは}の徒^たは別^{わか}だが。
40. 彼らは楽園^{たす}で尋^{たず}ね合う、
41. （不信^{おか}仰^{よう}を犯^{とが}していた）罪^{ざい}悪^{あく}者^{しや}たちについて、
42. 「あなた方^{あなた}を焦^{しょう}炎^{えん}³に入^いれたのは、何^{なに}なの
か？」と。⁴
43. 彼ら（罪^{ざい}悪^{あく}者^{しや}たち）は、言^いった。「私^{わたし}たち
は（現^{れい}世^{せい}で）礼^{れい}拝^{はい}する者^{しや}ではなく、
44. 貧^{ひん}者^{じや}*²たちに、食^くべ物^{ぶつ}を与^{あた}えてもい^いませんで
した。
45. また、私^{わたし}たちは戯^{たわごと}言^ごを喋^{しゃべ}る者^{しや}たちと共^{とも}に
戯^{たわごと}言^ごを喋^{しゃべ}り、
46. 報^{むく}いの日^ひ*²を嘘^{うそ}呼^よびわ^わりしていま^{いま}した、
47. 確^{かく}然^{ぜん}たるもの^{もの}⁵が到^{とう}来^{らい}するま^まで」。

وَالصُّبْحُ إِذَا سَفَرْتُ ﴿٣٤﴾
إِنَّمَا لِحَدَى الْكَثِيرِ ﴿٣٥﴾
نَذِيرٌ لِلْبَشَرِ ﴿٣٦﴾
لِمَنْ شَاءَ مِنْكُمْ أَنْ يَتَقَدَّمَ أَوْ يَتَأَخَّرَ ﴿٣٧﴾
كُلُّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ رَهِينَةٌ ﴿٣٨﴾
إِلَّا أَصْحَابَ الْيَمِينِ ﴿٣٩﴾
فِي جَنَّاتٍ يَنْسَاءُ لُوْنٌ ﴿٤٠﴾
عَنِ الْمُجْرِمِينَ ﴿٤١﴾
مَا سَلَكَكُمْ فِي سَقَرٍ ﴿٤٢﴾
قَالُوا لَوْلَا رَبُّنَا مِنَ الْمُصَلِّينَ ﴿٤٣﴾
وَلَوْلَا نَفْعُ الْيَمِينِ ﴿٤٤﴾
وَكُنَّا نَخُوضُ مَعَ الْفَاحِشِينَ ﴿٤٥﴾
وَكُنَّا نَكْذِبُ يَوْمَ الدِّينِ ﴿٤٦﴾
حَقٌّ أَتَيْنَا الْيَقِينَ ﴿٤٧﴾

1 この表現については、山章 21 の訳注を参照。

2 「右側の徒」については、出来事章 9 の訳注を参照。

3 「焦炎」については、アーヤ*26 の訳注を参照。

4 天国の住人たちは、地獄の民の様子を目にし、話しかけることが出来るとされる（アッー
サアディー-897 頁参照）。整列章 54 以降も参照。

5 「確然たるもの」については、アル=ヒジュール章 99 の訳注を参照。

48. ならば、執り成し^と手らの執り成しが、彼らの役に立つことはない。¹

فَمَا تَفْعَلُهُمْ شَفَعَةُ الشَّفِيعِينَ ﴿٤٨﴾

49. 彼ら（シルク*の徒）が、教訓（クルアーン*）から背を向けるのは、どういうことか？

فَمَا لَهُمْ عَنِ التَّذْكِرَةِ مُعْرِضِينَ ﴿٤٩﴾

50. まるで退散^{たいさん}するロバのように？

كَأَنَّهُمْ حُمُرٌ مُسْتَنَفِرَةٌ ﴿٥٠﴾

51. ライオン²から逃げ出した（ロバのように？）。

فَرَّتْ مِنْ قَسْوَرَةٍ ﴿٥١﴾

52. いや、彼ら（シルク*の徒）の全ての者が、開かれた書巻^{しょかん}を授^{さず}かることを望んでいるのか？³

بَلْ يُرِيدُ كُلُّ امْرِئٍ مِنْهُمْ أَنْ يُؤْتَى صُحُفًا مُنشَرَةً ﴿٥٢﴾

53. 断じて、そんなことがあるはずもない！ 彼らは来世^{おそ}を怖^{おそ}れてはいないのだ。

كَلَّا بَلْ لَا يَخَافُونَ الْآخِرَةَ ﴿٥٣﴾

54. 断じて（真実である）！ 本当にそれ（クルアーン*）は教訓なのだ。

كَلَّا إِنَّهُ يَذْكُرُهُ ﴿٥٤﴾

55. そして誰でも（教訓を）望む者には、それを熟慮^{じゅくりょ}させよ。

فَمَنْ شَاءَ ذَكُرْهُ ﴿٥٥﴾

56. そして彼らは、アッラー*が（彼らに導^{みちび}きを）お望みにならない限り、（教訓を）想起^{おこ}することがない⁴。かれは畏^{おそ}れ*の念^{ゆる}（を授^{さず}ける）に相応しいお方、お赦し（を授けになる）に相応しいお方。

وَمَا يَذْكُرُونَ إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ هُوَ أَهْلُ التَّقْوَى وَأَهْلُ الْمَغْفِرَةِ ﴿٥٦﴾

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 一説にはライオンではなく、「射手」のこと（イブン・カシール 8:273 参照）。

3 同様のアーヤ*として、家畜章 7、124、夜の旅章 93 も参照（アル＝カースィミー 16:5985 参照）。

4 人間は自由意志を有するが、それはあくまでアッラー*のご意思に付随（ふずい）するものである（アッ＝サアディー 898 頁参照）。

第75章

復活章（アル＝キヤーマ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

- われはまさに、復活の日*にかけて誓う。²
- また、責め苛む魂³にかけて誓う（、人々は蘇らされるのである、と）。
- （不信仰な）人間は、われら*が彼の骨を（それが散り散りになった後に、）集めることが（出来）ない、とでも思っているのか？
- いや、われら*はその指先まで、きっちり整え（て組み立て、生前と同じ状態に復活させ）ることが出来る。
- いや、（不信仰な）人間は、自らの前途において⁴放逸であることを欲し（、復活を否定し）ている。
- 「復活の日*は、一体いつなのか？」と尋ねながら。
- （人々の）眼が（、復活の日*の恐怖によって）動転し、

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لَا أَقْسِمُ بِيَوْمِ الْقِيَمَةِ ۝

وَلَا أَقْسِمُ بِالنَّفْسِ اللَّوَّامَةِ ۝

أَتَحْسَبُ الْإِنْسَانُ أَنْ جَمَعَ عِظَامَهُ ۝

بَلَىٰ قَدْ رَيْنَا عَلَىٰ نُفُوسِنَا أَنَّهُ ۝

بَلَىٰ يُرِيدُ الْإِنْسَانُ لِفَجْرِ أَمَامِهِ ۝

يَسْأَلُ أَيَّانَ يَوْمُ الْقِيَمَةِ ۝

فَإِذَا بَرَأَ الْبَصَرُ ۝

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭のアーヤ*に登場すると共に、スーラ*全体を流れるテーマでもある「復活の日*」に由来。復活を否定する者たちを前に、その真実、到来の予兆、人々の状態などが鮮明に示され、不信仰者*らに対する厳しい警告が投げかけられる。そして復活と報いが正義であること、アッラー*にとって復活が可能であることの実証により、スーラ*は幕を閉じる。

2 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 死を迎える時、魂は自分の行いを責める。一方、信仰者の魂は、義務の遂行における至らなさ、不注意などについて、現世で自分自身を責めるのである（アッ＝サアディー898 頁参照）。

4 ほかに、「自分自身の目的と欲望の追求において」「復活の日*が到来する前に」といった解釈もある（イブン・ジュザイ 2:513 参照）。

8. 月（の明かり）が消え、
9. 太陽と月が（共に暗くなって、）一緒くたにされる時、¹
10. 人間はその日、言う。「（懲罰からの）逃げ場所はどこだ？」
11. 断じて（、そうはいか）ない。避難場所など、ないのだ。
12. その日はあなたの主^{しめ}*にこそ、定住先があるのだから。
13. 人間はその日、自分が（生きている時に）早めたものと、遅らせたもの²について（全て）告げ聞かせられる。
14. いや、人間は自分自身（が行ったこと）に對する、証人である。
15. たとえ、自分の（罪の）言い訳を申し立てても。
16. ——（預言者^{よげんしゃ}*よ、啓示^{けいじ}が下った時には、）それ（クルアーン*の暗記）に急ぐがゆえに、（啓示^{けいじ}が下りきる前に）あなたの舌を動かすのではない。³

وَحَسَفَ الْقَمَرُ ⑧

وَجُمِعَ الشَّمْسُ وَالْقَمَرُ ⑨

يَقُولُ الْإِنْسَانُ يَوْمَئِذٍ إِنَّ الْمَقَرَّ ⑩

كَلَّا لَا وَزَرَ ⑪

إِلَىٰ رَبِّكَ يَوْمَئِذٍ الْمُسْتَقَرُّ ⑫

يُنَبِّئُ الْإِنْسَانُ يَوْمَئِذٍ بِمَا قَدَّمَ وَأَخَّرَ ⑬

بَلِ الْإِنْسَانُ عَلَىٰ نَفْسِهِ بَصِيرَةٌ ⑭

وَلَوْ أَنَّهُ لَافْتَحَرَّ ⑮

لَا تُخَرِّكُهُ بِهِ لِسَانُكَ لَتَتَعَجَّلَ بِهِ ⑯

- 1 その他、「合わさって真っ黒な形で、西から同時に昇る」「一緒にされて海へと放り込まれ、海が燃え上がる」あるいは地獄に「まとめて入れられる」といった解釈がある（アルークルトゥビー19:97 参照）。
- 2 「早めたもの」と「遅らせたもの」の解釈には、「生前の行為と、死後に自分の行為を規範（きはん）として行われる他人の行為」「最初の行為と最後の行為」「前者が罪、後者が服従行為」といった諸説がある（前掲書 19:98 参照）。
- 3 預言者*はジブリール*が啓示と共に訪れると、それを急いで受け取ろうと、躍起（やっき）になって口を動かしたものだ。それでアッラー*は、彼がまずは啓示に耳を傾けるようご命じになり、暗記と読誦と説明については、アッラー*ご自身が保証されることを約束されたのだった。ター・ハー章 114 も参照（アル=ブハーリー4927-4929、イブン・カシール 8:278 参照）。

17. 本当にそれを（あなたの^{むね}胸に）結集^{けつじゅう}させることと、それを（あなたが望む時にいつでも）読むこと（を可能にさせるの）は、われら*の任務なのだから。
18. それで、われら*がそれを（ジブリール*を介し、あなたに）読んだ時には、その読み（まずはよく耳^{かたむ}を傾け、それからその読^{どく}誦^{じょう}に）続くのだ。
19. それから、実にわれら*にこそ、その（意味や法規定についての）説明義務があるのだ――。
20. （シルク*の徒よ、）断じて（、復活^{むく}と報^{うそ}いは嘘などでは）ない。いや、あなた方は手っ取り早いもの（現世）を愛し、
21. 来世（のための行い）を放ったらかしにしている。¹
22. （復活の）その日、（信仰者たちの）ほころびる顔は、
23. まさにその主^{なが}*を眺める。²
24. またその日、（不信仰者*たちの）しかめっ顔は、
25. 脊椎を破壊するほどの災禍^{さいか}が、自分たちに及ぼされることを確信する。
26. 断じて（、復活^{むく}と報^{うそ}いは嘘などでは）ない！（死期^{どうらい}が到来して、）それ（魂^{たましい}）が鎖骨^{さこつ}まで達し、³

إِن عَلَيْنَا جَمْعَهُ وَقُرْآنَهُ ﴿٧٥﴾

فَإِذَا قَرَأْنَاهُ فَاتَّبِعْ قُرْآنَهُ ﴿٧٦﴾

ثُمَّ إِنَّا عَلَيْهِ نَايِلُهُ ﴿٧٧﴾

كَلَّا بَلْ تُحِبُّونَ الْعَاجِلَةَ ﴿٧٨﴾

وَتَذَرُونَ الْآخِرَةَ ﴿٧٩﴾

وَجُوهُهُمْ بَوْمٌ مَدِيدٌ نَاصِرَةٌ ﴿٨٠﴾

إِلَى رَبِّهَا نَاظِرَةٌ ﴿٨١﴾

وَجُوهُهُمْ بَوْمٌ مَدِيدٌ بَاسِرَةٌ ﴿٨٢﴾

نَظُنُّ أَنْ يُفْعَلَ بِهَا فَاقَةٌ ﴿٨٣﴾

كَلَّا إِذَا بَلَغَتِ النَّازِقَةُ ﴿٨٤﴾

1 現世の享樂は手っ取り早く、来世（遅れるもの、という原義もあり）は永遠の安寧ながらも、遅れてやって来るもの（アッ＝サアディー899頁参照）。

2 復活の日*、天国の民がアッラー*を拝見することについては、家畜章 103 とその訳注、ユースス*章 26、量を減らす者章 15 も参照。

3 家畜章 61、93 とその訳注も参照。

27. (彼らの間で)「(この状態を)治してくれる者は、誰か?」と言われ、
28. それがまさに(現世との)別離だと確信し、
29. 脛と脛が絡み合った時。¹
30. (復活の日*、)あなたの主*にこそ、連れられて行く先があるのである。
31. 彼(不信仰者*)は、(使徒*もクルアーン*も)信じなければ、礼拝もしなかった。
32. それどころか(クルアーン*を)嘘呼ばわりし、(信仰から)背いた。
33. それから自分の家族のもとへ、闊歩しつつ²向かったのだ。
34. あなたに、もっと(破滅が)近づくよう、もっと(破滅が)近づくよう。
35. さらに、あなたにもっと(破滅が)近づくよう、もっと(破滅が)近づくよう。³
36. 一体、(復活を否定する)人間は、(命令も禁止もされず、報いも懲罰もなく、)放ったらかしにされるとでも思っているのか?
37. 彼は、(子宮へ)注がれる精液の一滴ではなかったのか?

وَقِيلَ مَنْ رَاقٍ ٥٧

وَطَنَّ لَهُ فَفَازُوا ٥٨

وَالْتَقَتِ السَّاقُ بِالسَّاقِ ٥٩

إِلَىٰ رَبِّكَ يَوْمَئِذٍ الْمَسَاقُ ٦٠

فَلَا صَدَقَ وَلَا وَعَىٰ ٦١

وَلَكِنْ كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ٦٢

فَوَرَّهَبَ إِلَىٰ أَهْلِهِ يَمْتَصِّلُ ٦٣

أَوَلَيْكَ فَالُوكِ ٦٤

تُرَاوِي لَكَ فَالُوكِ ٦٥

أَيَحْسَبُ الْإِنْسَانُ أَنْ يُتْرَكَ سُدًى ٦٦

أَلَمْ يَكُ نُطْقَةً مِّنْ مَّنًى يُمْنَىٰ ٦٧

1 この解釈には、「現世の最後における苦しみと、来世の始まりにおける苦しみが続くこと」「激しい苦しみゆえに、人の両足が絡み合う様」「死人の両足が、遺体を包む布で包まれること」といった諸説がある(アル=クルトウビー19:112 参照)。

2 これはつまり、尊大さ、高慢さを示す歩き方のこと。このアーヤ*は一説に、自分の出身部族であるマフズーム族の中でそのようにして歩くことが知られていた、アブー・ジャハル*について下った(イブン・ジュザイ2:515 参照)。

3 一説にこのアーヤ*は、ある時アブー・ジャハル*から嫌がらせを受けた預言者*が彼に対して言った言葉が、後にそのまま啓示として下ったもの(イブン・カスィール8:283 参照)。

38. それから一塊の凝血となり、そしてかれがお創りになって、（その姿形を最も美しく）整えられ、
39. そこから二種類、つまり男性と女性をお創りになったのでは？
40. 一体（それらの創造主である）そのお方（アッラー*）は、死者に（再び）生をお与えにすることが出来るお方なのではないか？

ثُمَّ كَانَ عَلَقَةً فَخَلَقَ فَسَوَّى ﴿٣٨﴾

فَجَعَلَ مِنْهُ الذَّكَرَ وَالْأُنثَى ﴿٣٩﴾

أَلَيْسَ ذَلِكَ بِقَدِيرٍ عَلَى أَنْ يُحْيِيَ
الْمَوْتُونَ ﴿٤٠﴾



第76章
人間章（アル＝インサーン）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

- 人間には（そこに魂^{たましい}を吹き込まれる以前）、言及すべき何ものでもなかった長い一時期が、確かに訪れたではないか？²
- 本当にわれら*は人間を、（男女の精液^{せいえき}が）混じり合った、一滴の精液^{せいえき}から創造した。われら*は彼を（その後、宗教的な義務^{ごむ}によって）試練^{しれん}にかけるのだ³。われら*は彼を聞き、見る者とした。
- 本当にわれら*は彼を、道^{みちび}へと導いた。感謝する者か、あるいは大層な恩知らずか（となるべく）。
- 本当にわれら*は不信仰者*たちに、鎖^{くさり}と枷^{かせ}と（地獄の）烈火を用意した。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

هَلْ أَتَى عَلَى الْإِنْسَانِ حِينٌ مِّنَ الدَّهْرِ لَمْ يَكُنْ شَيْئًا مَّذْكُورًا ﴿١﴾

إِنَّا خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ مِنْ نُّطْفَةٍ أَمْشَاجٍ نَّبْتَلِيهِ إِعْمَانَهُ سَمِيعًا بَصِيرًا ﴿٢﴾

إِنَّا هَدَيْنَاهُ السَّبِيلَ إِمَّا شَاكِرًا وَإِمَّا كَفُورًا ﴿٣﴾

إِنَّا أَعْتَدْنَا لِلْكَافِرِينَ سَلَاسِلًا وَأَغْلَاقًا وَسَعِيرًا ﴿٤﴾

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*の名称は、冒頭に出現する「人間」という語が由来。人間の創造についての示唆（しさ）に始まり、その意味、そして人間が二つの種類に分かれることが明らかにされ、各々の特徴、来世での行き先が、特に信仰者たちの天国における褒美（ほうび）と楽しみの数々の詳細と共に、描かれる。スーラ*の最後は、預言者*ムハンマド*の使徒*性とクルアーン*の真実性の確証、布教と崇拜*行為における忍耐*の勸（すす）め、不信仰者*への警告によって締めくくられる。尚、預言者*はこのスーラ*を、金曜日のファジュル*の礼拝でよく読誦（どくしょう）したものだ（アル＝ブハーリー891 参照）。

2 人は以前、根源的物質や液体といった、人間としての特性がない、取るに足らない存在だった（アル＝バイダーウィー5:425 参照）。

3 蜘蛛章2、および王権章2「試練」の訳注も参照。

4 正しい導きと迷い、善と悪という「道」（ムヤッサル 578 頁参照）。

5. 実に（アッラー*への義務を果たす）善行者たちは（復活の日*）、その混ぜ物が樟脳である（酒の）盃から飲む。¹
6. つまり、アッラー*の僕たちが（思うがまま）容易に嘔き出させつつ飲む、泉である。
7. 彼ら（善行者たち）は（現世で）誓約を全うし、（アッラー*がご慈悲をおかけになった者を除く全ての者に）その悪が拡散する（復活の）日を怖れ、
8. 自らの（それに対する）愛着にも関わらず、貧者*、孤児、捕虜に食べ物を食べさせるのだから。
9. （彼らは心中で、こう言うのだ。）「私たちがあなた方に食べさせるのは、アッラー*の御顔ゆえに外ならない。私たちはあなた方から、見返りも感謝もいらない。
10. 本当に私たちは、眉をしかめる凄まじい日の、我らが主*を怖れているのだから」。
11. それでアッラー*は、その日の悪から彼らをお守りになり、彼らに（顔の）輝きと（心の）喜びをお授けになった。
12. そして彼らが（現世で）忍耐*したことゆえに、彼らを楽園と絹（の衣服²）でお報いになった。

إِنَّ الْأَبْرَارَ يَشْرَبُونَ مِنْ كَأْسٍ كَانَ مِزَاجُهَا كَافُورًا ﴿٥﴾

عَيْنًا يَشْرَبُ بِهَا عَبْدُ اللَّهِ يَقْعِرُ وَهُمْ أَحْقَارٌ ﴿٦﴾

يُوفُونَ بِالنَّذْرِ وَالْحَاوُونَ يَوْمًا كَانَ شَرُّهُ مُسْتَطِيرًا ﴿٧﴾

وَيُطْعَمُونَ أَلْطَعَامَ عَلَىٰ حُبِّهِ مَشْكِيانًا وَبَيْمًا
وَأَسِيرًا ﴿٨﴾

إِنَّمَا نُطْعِمُكُمْ لِوَجْهِ اللَّهِ لَا نَرْجُو مِنْكُمْ جَزَاءً وَلَا
شُكْرًا ﴿٩﴾

إِنَّا خَافُ مِنْ رَبِّنَا يَوْمَ عُسَا فُطِيرًا ﴿١٠﴾

فَوَقَّهَهُمُ اللَّهُ سَرَازِلكَ الْيَوْمِ وَلَقَّهْمُ نَضْرَةً
وَسُرُورًا ﴿١١﴾

وَجَزَّاهُمْ بِمَا صَبَرُوا وَجَنَّةً وَحَرِيرًا ﴿١٢﴾

1 天国の民の飲み物については、アーヤ*17-18、21、サード章 51、整列者章 45-47、詳細にされた章 31、ムハンマド*章 15、出来事章 17-19、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28 も参照。

2 天国の民の衣服については、アーヤ*21、洞窟章 31、巡礼*章 23、創成者*章 33、煙霧章 51-53 も参照。

13. 彼らはそこで、寝台に寄りかかっている。
彼らはそこで、太陽（の灼熱）も酷寒も見
出すことがない。
14. また、彼らの上には（、楽園の木々の）そ
の陰が間近に（覆いかぶさって）あり、そ
の果実の房は（手近に）低く垂れ下げられ
ている。
15. また彼らには、銀の食器と硝子の杯と共に
（奉仕する少年たちが）回らせられる。
16. 彼らがちょうどいい分量に合わせた、銀製
の硝子¹（の杯と共に）。
17. また彼らはそこで、その混ぜ物が生姜²であ
る（酒の）盃を飲まされる。
18. つまりサルサビール²と呼ばれる、そこ（楽
園）にある泉の（生姜³である）。
19. また、永遠の少年たちが、彼らの周りを（奉
仕のために）回って歩く。もしあなたが彼
らを見れば、彼らを散りばめられた真珠か
と思ったであろう。
20. そして、あなたがそこで（天国のいかなる
場所でも）見れば、安楽と、大いなる王国
を目にしたことであろう。

مُتَّكِئِينَ فِيهَا عَلَى الْأَرَائِكِ لَا يَرَوْنَ فِيهَا شَمْسًا
وَلَا زَهْرًا ﴿١٣﴾

وَدَانِيَةً عَلَيْهِمْ ظِلُّهَا وَذُلَّتْ أَمْطُلُهَا تَذِيلًا ﴿١٤﴾

وَيُطَافُ عَلَيْهِمْ بِبَنَاتٍ مِنْ فَضَّةٍ وَأَكْوَابٍ كَانَتْ
قَوَارِيرًا ﴿١٥﴾

قَوَارِيرَ مِنْ فِضَّةٍ قَدَّرُوهَا تَقْدِيرًا ﴿١٦﴾

وَيُسْقَوْنَ فِيهَا كَأْسًا كَانَ مِزَاجُهَا زَجْجًا ﴿١٧﴾

عَبَبًا فِيهَا اسْمَى سَلْسَبِيلًا ﴿١٨﴾

* وَيُطَوَّفُ عَلَيْهِمْ خِلْدَانٌ مُجَلَّدُونَ إِذَا رَأَى مِنْهُمْ
حَسِبَتْ لَهُمْ أَنُفُسًا لَهُمْ أَفْئَرًا ﴿١٩﴾

وَإِذَا رَأَيْتَ ثَمَرًا رَأَيْتَ نَعِيمًا وَمُلْكًا كَبِيرًا ﴿٢٠﴾

1 つまり、その杯は銀製にも関わらず、ガラスの透明さを備えている（アル=クルトゥビー 19:140 参照）。

2 「サルサビール」とは、「サラサ（滑らかである）」という語から派生していると言われるように、飲む者の喉にも、その流れる状態も滑らかであり、天国の民はそれをどこにでも好きなように操（あやつ）ることが出来る（アッ=タバリー 10:8376 参照）。

3 つまり、その泉に漬けられた生姜である。あるいは生姜から抽出（ちゅうしゅつ）された液体が、泉のように豊富である（イブン・アーシュール 29:395 参照）。また、天国の民の飲み物については、アーヤ*5、21、サード章 51、整列者章 45-47、詳細にされた章 31、ムハンマド*章 15、出来事章 17-19、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28 も参照。

21. 彼らの上には、緑色の精巧な絹地と重厚な絹地の衣服。そして銀製の腕輪で飾り立てられ¹、彼らの主²は彼らに清い水を飲ませて下さる。

22. (彼らには、こう言われる。)「本当にこれはもとより、あなた方への(正しい行い³の)報いである。そして、あなた方の(現世での)努力は、(アッラー⁴の御許で)労われる⁵ことになっていたのだ」。

23. (使徒⁶よ、)本当にわれら⁷はあなたに、クルアーン⁸を徐々に下した⁹。

24. ならば、あなたの主¹⁰のお決めになったことゆえに忍耐¹¹し、彼ら(シルク¹²の徒)の内の罪に溺れた者にも、不信心この上ない者にも、従うのではない。

25. また、あなたの主¹³を朝に夕に念じ、

26. 夜の一部にはかれにサジダ¹⁴し、かれを夜長く称える¹⁵のだ。

27. 本当にこれらの者たち(シルク¹⁶の徒)は、手っ取り早いもの¹⁷を愛し、自分たちの背後に(復活の日¹⁸という)重大な日(のための行い)を、放ったらかしにしている¹⁹。

عَلَيْهِمْ شِرَاطٌ سُنْدُسٌ خُضْرٌ وَإِسْتَبْرَقٌ وَحُلُوفٌ
أَشْوَارٌ مِنْ فِضَّةٍ وَسَقَاهُمْ رَبُّهُمْ شَرَابًا طَهُورًا ﴿٢١﴾

إِنَّ هَذَا كَانَ لَكُمْ جَزَاءً وَكَانَ سَعْيَكُمْ مَشْكُورًا ﴿٢٢﴾

إِنَّا نَحْنُ نَزَّلْنَا عَلَيْكَ الْقُرْآنَ بِتَرْجُمَةٍ مُبِينَةٍ ﴿٢٣﴾

فَأَصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ وَلَا تَطِعْ مَنْهُمْ إِنَّمَا أَوْ
كَمْفُورًا ﴿٢٤﴾

وَاذْكُرْ أَسْمَ رَبِّكَ بُكْرَةً وَأَصِيلًا ﴿٢٥﴾

وَمِنَ اللَّيْلِ فَاسْجُدْ لَهُ وَسَبِّحْهُ لَيْلًا
طَوِيلًا ﴿٢٦﴾

إِنَّ هَؤُلَاءِ لَيُجِئُونَ الْعَاجِلَةَ وَيَذْرُونَ وَرَاءَهُمْ
يَوْمًا قَلِيلًا ﴿٢٧﴾

1 天国の民の衣服については、アーヤ*12、洞窟章 31、巡礼*章 23、創成者*章 33、煙霧章 51-53 も参照。

2 頻出名・用語解説の「よく労(ねぎら)われる*お方」の項も参照。

3 「徐々に下した」に関しては、夜の旅章 106、識別章 32 とそれらの訳注も参照

4 これはタハッジュド(夜の旅章 79 の訳注を参照)のことを指す、とされる(ムヤッサル 580 頁参照)。

5 「手っ取り早いもの」については、復活章 20-21 とその訳注も参照。

6 「自分たちの前方にある復活の日*への信仰を、放ったらかしにしている」という解釈もある(アルークルトゥビー 19:151 参照)。

28. われら*が彼らを創り、その繋ぎ目を堅固にしたのだ¹。そして、もしわれら*が望んだなら（彼らを）、彼らと似た者たち（だが、われら*に従順な者たち）とすっかり取り替えてしまったであろう。²
29. 本当にこれ（このスーラ*）は、教訓。そして、誰でも（それによる教訓を）望む者には、（信仰心と敬虔さ*によって）自らの主*（のご満悦）へと道を取らせよ。
30. そしてあなた方は、アッラー*がお望みにならない限り、（いかなることも）望むことがない³。本当にアッラー*は、もとより全知者、英知あふれる*お方であられるのだから。
31. かれは、かれがお望みになる（信仰）者を、そのご慈悲の中にお入れになる。そして不正*者たち、彼らには痛ましい懲罰を用意されたのだ。

نَحْنُ خَلَقْنَاهُمْ وَشَدَدْنَا أَمْرَهُمْ وَإِذَا شِئْنَا
بَدَّلْنَا أَمْثَلَهُمْ تَبْدِيلًا ﴿٢٨﴾

إِنْ هَذِهِ تَذَكُّرَةٌ فَمَنْ شَاءَ اتَّخَذْ إِلَىٰ رَبِّهِ
سَبِيلًا ﴿٢٩﴾

وَمَا تَشَاءُونَ إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ كَانَ
عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿٣٠﴾

يُدْخِلُ مَنْ يَشَاءُ فِي رَحْمَتِهِ وَالظَّالِمِينَ
أَعَدَّ لَهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿٣١﴾

1 骨や神経や血管で、体の各部をしっかりと繋ぎ止めたということ（イブン・アーシュール 29:409 参照）。

2 彼らの姿形を、醜いものに変えてしまっただろう、という解釈もある（アル＝クルトゥビー 19:152 参照）。

3 包る者章 56 の、同様の件（くだり）の訳注も参照。

第 77 章

送られるもの章 (アル＝ムルサラート) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 立て続けに送られるものにかけて、
2. また、轟々という吹き荒れるものにかけて、
3. また、広く拡散するもの²にかけて、
4. また、しっかりと分断するもの³にかけて、
5. また、教訓を投げかけるもの⁴たちにかけて
(誓う)。⁵
6. 弁解⁶、あるいは警告ゆえに。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْمُرْسَلَاتِ عُرْفًا ①

فَالْعَصْفَاتِ عَصْفًا ②

وَالنَّشْرِتِ نَشْرًا ③

فَالْفُرْقَاتِ فَرْقًا ④

فَالْمُلَقَّاتِ ذِكْرًا ⑤

عُذْرًا أَوْ نَذْرًا ⑥

- 1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。冒頭では風や天使*たちにおけるアッラー*の誓いによって、死後の復活の真実が確証される。前半部では復活の日*が起きる時の光景が描写された後、アッラー*の御力と全能性を示す物事の数々が示され、後半部では来世における不信仰者*と信仰者の様子が描かれる。「その日、嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ」という言葉が何度も繰り返されるように、スーラ*全般で、不信仰者*に厳しい警告が投げかけられている。
- 2 何を「拡散する」かについては、「雲」「雨」「行いの帳簿（ちょうぼ）」などといった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:155 参照）。
- 3 「真理と虚妄（きょもう）を分断する啓示と共に下る天使*たち」「雲を分散させる風」といった解釈がある（前掲書、同頁参照）。
- 4 アッラー*から啓示を授かり、それを預言者*たちへと伝える天使*たちのこと（ムヤッサル 580 頁参照）。
- 5 アーヤ*1-5 で言及されている「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。尚イブン・カスィール*によれば、これらの誓われているものについては、アーヤ*5 を除き、それらが天使*のことを示しているか、あるいは風そのものであるかで、学者間の解釈の相違がある（8:297 参照）。
- 6 啓示によって、人々のアッラー*に対する弁解の余地はなくなる（ムヤッサル 580 頁参照）。関連するアーヤ*として、婦人章 165、家畜章 131、155-157、夜の旅章 15 とその訳注、ター・ハー章 134、詩人たち章 208、創成者*章 24 も参照。

7. あなた方に約束されていること¹は、確実に起こるのである。
8. 星々（の光）が消された時、
9. また、天が割れた時、
10. また、山々が粉々にされた時、²
11. また、使徒*たちが、（その民との決着まで、）時間³を定められた時、
12. （彼らには、こう言われる。）「一体、いずれの（偉大なる）日まで、（使徒*たちは）延期されたのか？
13. 裁決の日⁴まで、である」。
14. （人間よ、）裁決の日が何かを、あなたに知らせるのは何か？
15. その日、（復活の日*を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。
16. われら*は、（自分たちの使徒*を嘘つき呼ばわりしたことゆえ、）昔の人々を滅ぼしたのではなかったか？
17. それから、われら*は（彼らと同様であった）後代の者たちを、彼らに続かせるのだ。

إِنَّمَا تَوَعَدُونَ ۝٧

فَإِذَا النُّجُومُ طُمِسَتْ ۝٨

وَإِذَا السَّمَاءُ فُرِجَتْ ۝٩

وَإِذَا الْجِبَالُ سُيِّفَتْ ۝١٠

وَإِذَا الرُّسُلُ أَقْنَتْ ۝١١

لَأَنِّي يَوْمَ أُولِئِكَ ۝١٢

يَوْمَ الْقَصْرِ ۝١٣

وَمَا أَذْرَكَ مَا يَوْمَ الْقَصْرِ ۝١٤

وَيَلَّ يَوْمَئِذٍ لِلْمُكَذِّبِينَ ۝١٥

أَلَمْ نُهْلِكِ الْأَوَّلِينَ ۝١٦

ثُمَّ نُنَبِّئُهُمُ الْآخِرِينَ ۝١٧

1 「約束されていること」とは、復活の日*と、そこでの清算や報いのこと（ムヤッサル 580 頁参照）。

2 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 などとも参照。

3 これは、使徒*たちが自分たちの民について証言する、復活の日*のこと（アル＝バガウィー 5:196 参照）。婦人章 41 とその訳注も参照。

4 「裁決の日」については、整列者章 21 の訳注を参照。

18. そのように、われら*は(使徒*ムハンマド*
を嘘つき呼ばわりした)罪悪者たちに対し
て、するのである。
19. (復活の)その日、(アッラーの唯一性*
と、使徒*と、復活と報いを)嘘呼ばわりし
ていた者たちに、災いあれ。
20. (不信仰者*たちよ、)われら*はあなた方
を、卑しい液体¹から創ったのではないか？
21. そしてそれを、しっかりとした定着場²に
設えたのでは？
22. 定められた段階³まで。
23. われら*は、(その創造、造形、出産を)調
整したのだ。調整するお方の何と素晴らしい
ことか。
24. (復活の)その日、(われら*の力を)嘘呼
ばわりしていた者たちに、災いあれ。
25. われら*は大地を、収容するものとしたの
ではないか？
26. (数え切れないほどの)生者たちと死者た
ちを(、収容するものと)？
27. また、われら*はそこ(大地)に、高く聳え
る堅固な山々を置き、あなた方に美味なる
水を飲ませてやった。
28. (復活の)その日、(これらの恩恵を)嘘
呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

كَذَلِكَ نَفْعِلُ بِالْمُجْرِمِينَ ﴿١٨﴾

وَيَلُومُنَا لِكُذِّبِينَ ﴿١٩﴾

أَلَمْ نَخْلُقْكُمْ مِنْ مَّاءٍ مَّهِينٍ ﴿٢٠﴾

فَجَعَلْنَاهُ فِي قَرَارٍ مَكِينٍ ﴿٢١﴾

إِلَىٰ قَدَرٍ مَّعْلُومٍ ﴿٢٢﴾

فَقَدَرْنَا فَنِعْمَ الْقَدُّوْنَ ﴿٢٣﴾

وَيَلُومُنَا لِكُذِّبِينَ ﴿٢٤﴾

أَلَمْ نَجْعَلِ الْأَرْضَ كَهَاتَا ﴿٢٥﴾

أَحْيَاءَ وَأَمْوَاتَا ﴿٢٦﴾

وَجَعَلْنَا فِيهَا رُوسًا شَهِيبَاتٍ وَآسَقَيْنَاكُمْ مَّاءً
فَرَاتًا ﴿٢٧﴾

وَيَلُومُنَا لِكُذِّبِينَ ﴿٢٨﴾

1 「卑しい液体」については、アッ=サジダ*章8の訳注を参照。

2 「しっかりとした定着場」については、信仰者たち章13の訳注を参照。

3 つまり、出産の時期のこと(アル=バガウィー5:197 参照)。

29. (復活の日*、不信仰者*たちには、こう言われる。)「(現世で) あなた方が嘘呼ばわりしていたもの(地獄の懲罰)へと、進み行くがよい。
30. 三つ又の¹(煙の)陰へと、進み行け」。
31. 濃影でもなく、炎から防いでもくれない(陰へ)。
32. 実にそれ(地獄)は、城のような(巨大な)火花を飛ばす。
33. まるで、黄褐色のラクダの一群²のような(火花を)。
34. (復活の)その日、(アッラー*の警告を)嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。
35. これは、彼ら(嘘呼ばわりしていた者たちが、自分たちを益することを)喋ることがない³(復活の)日*。
36. また、彼らに(弁明が)許可されることで、言い訳することもない(日)。
37. (復活の)その日、(この日の出来事を)嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。
38. これは裁決の日⁴。われら*はあなた方(不信仰者*たち)と、昔の(不信仰だった)人々を集結させた。

أَنْطَلِقُوا إِلَى مَا كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ ﴿٢٩﴾

أَنْطَلِقُوا إِلَى ظِلٍّ ذِي ثَلَاثِ شُعَبٍ ﴿٣٠﴾

لَا طِيلَ وَلَا نَعْيٍ مِنَ الْهَبِّ ﴿٣١﴾

إِنَّهَا تَرْمِي بِشَرَرٍ كَالْقَصْرِ ﴿٣٢﴾

كَأَنَّهُ جِمَلَتٌ صُفْرٌ ﴿٣٣﴾

وَيَلْ يَوْمَئِذٍ لِلْمُكَذِّبِينَ ﴿٣٤﴾

هَذَا يَوْمٌ لَا يَنْطِقُونَ ﴿٣٥﴾

وَلَا يُؤْذِنُ الْهُمُ يُعْتَذِرُونَ ﴿٣٦﴾

وَيَلْ يَوْمَئِذٍ لِلْمُكَذِّبِينَ ﴿٣٧﴾

هَذَا يَوْمُ الْقَضَايِ جَمَعْنَاكُمْ وَالْأَوَّلِينَ ﴿٣٨﴾

1 燃え立つ炎と共に上る煙が、その激しさゆえに二本に分かれる様子とされる(イブン・カスィール 8:299 参照)。

2 その大きさ、色、炎から飛び散って遠ざかって行く動きが、黄褐色のラクダの一群に例えられているのだという(イブン・アーシュール 29:437 参照)。また、黄褐色ではなく黒色という説もある(イブン・カスィール 8:299 参照)。

3 復活の日、「喋ることがない」ことについては、夜の旅章 97 の訳注も参照。

4 「裁決の日」については、整列者章 21 の訳注を参照。

39. それで、もしあなた方に（懲罰^{ちやうばつ}から逃れる）^{さくりやく}策略があるのなら、われら^{さくりやく}*に策略してみよ。
40. （復活の）その日、（復活の日^{うそ}*を）嘘呼^{うそ}ばわりしていた者たちに、災い^{わざわ}あれ。
41. 本^{けいけん}当に敬虔な^{けいけん}*者たちは、（その日、木々の）陰^{かげ}と泉のもとにある。
42. また、自分たちが欲^{ほつ}する果実のもとに。
43. （彼らには、こう言われる。）「自分たちが（現世で）行っていた（正しい）こと（の報^{むく}い）ゆえに、おいしく食べ、飲むのだ。¹
44. 本^{ほん}当に、われら^{ほん}*はこのように、善を尽くす者^{むく}2たちに報^{むく}いるのだから」。
45. （復活の）その日、（報^{むく}いと清算^{うそ}を）嘘呼^{うそ}ばわりしていた者たちに、災い^{わざわ}あれ。
46. （不信仰者^{わづ}*たちよ、）僅^{わづ}かな間、食べ、楽しむがよい。本^{ほん}当にあなた方は、（シルク^{つみ}*という罪^{おか}を犯^{ざいあく}す）罪^{ざいあく}悪者なのだ。
47. （復活の）その日、（清算^{うそ}と報^{むく}いの日）を嘘呼^{うそ}ばわりしていた者たちに、災い^{わざわ}あれ。
48. 彼ら（シルク^{うそ}*の徒）は、自分たちに「ルククー^{うそ}*せよ」と言われても、ルククー^{うそ}*しない。³

فَإِنْ كَانَ لَكُمْ كَيْدٌ فَكِدُونِ ﴿٣٩﴾

وَيَلْ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٠﴾

إِنَّ الْمُنْتَفِينَ فِي ظِلِّ الْعُيُونِ ﴿٤١﴾

وَفَوْكِهِ مِمَّا اسْتَمْتَعُونَ ﴿٤٢﴾

كُلُوا وَاشْرَبُوا هَنِيئًا بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٣﴾

إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿٤٤﴾

وَيَلْ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٥﴾

كُلُوا وَامْتَعُوا قَلِيلًا إِنَّكُمْ تُجْزَوْنَ ﴿٤٦﴾

وَيَلْ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٧﴾

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ ارْجِعُوا لَا يَرْجِعُونَ ﴿٤٨﴾

1 天国の民の飲食物については、ヤー・スィーン章 57、整列者章 45-47、サード章 51、詳細にされた章 31、金の装飾章 73、煙霧章 55、ムハンマド*章 15、山章 22、慈悲あまねき*お方章 52、68、出来事章 17-21、真実章 23、人間章 5-6、14、17-18、21、消息章 34、量を減らすたち者章 25-28 も参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 つまり、礼拝せよ、と言われてもしないということ（ムヤッサル 581 頁参照）。一説には、これは復活の日*のこと（アル＝バガウィー5:198-199 参照）。筆章 42-43 とその訳注も参照。

49. (復活の) その日、(アッラー*の御徴を)
うそ 嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。
50. ならば一体、彼らはそれ(クルアーン*)を
 差しおいて、いかなる話を信じるというの
 か？

وَيَلُومُكُمُ الْمُكَذِّبِينَ ﴿٥٩﴾

فَيَأْتِي حَدِيثٌ بَعْدَهُ يُؤْمِنُونَ ﴿٦٠﴾



第 78 章
消息章 (アン＝ナバア) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 彼ら（不信仰者*たち）は何について、^{たず}尋ね合っているのか？
2. 偉大なる消息²について（、である）。
3. 彼らはそこにおいて、意見を異^{こと}にしている³。
4. 断じて（、復活は嘘^{うそ}では）ない！ やがて、彼らは（自分たちが嘘呼ばわりしたことの結末を、）知ろう。
5. 更に、断じて（、復活は嘘^{うそ}では）ない！ やがて、彼らは（自分たちが嘘呼ばわりしたことの結末を、）知ろう。
6. われら*は大地を、（平坦な）^{ねど}寝床（のよう）にはしなかったのか？
7. また、山々を（堅固な）^{くい}杭のように？
8. また、われら*はあなた方を（様々な）種類⁴に創造し、
9. あなた方の眠りを休息とし、

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

عَمَّ يَتَسَاءَلُونَ ①

عَنِ النَّبِإِ الْعَظِيمِ ②

الَّذِي هُمْ فِيهِ مُخْتَلِفُونَ ③

كَلَّا سَيَعْلَمُونَ ④

كَلَّا سَيَعْلَمُونَ ⑤

الَّذِي جَعَلَ الْأَرْضَ مَهْدًا ⑥

وَالْجِبَالَ أَوْتَادًا ⑦

وَخَلَقَنَّاكُمْ أَزْوَاجًا ⑧

وَجَعَلْنَا نَوْمَكُمْ سُبَاتًا ⑨

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭と同語に由来。スーラ*は、不信仰の重大さを喚起（かんき）する質問の形で始まり、次いでアッラー*の全能性と唯一性*を示す、自然界の驚異（きょうい）と恩恵が並べられていく。中盤からは復活の日*の確証と、それが起こる日の様子が描かれた後、不信仰者*たちのその日における悲惨（ひさん）な状況が警告と共に、そして信仰者たちの善き結末が占報と共に描写される。スーラ*の最後は再び、不信仰者*たちへの警告によって締めくくられる。

2 「偉大なる消息」とは、死後の復活を伝えるクルアーン*のこと（ムヤッサル 582 頁参照）。

3 「意見を異にしている」には、「ある者はそれを嘘と決めつけ、またある者はそれを疑った」「それを魔術、詩、占い師の言葉などと異なる言葉で表現した」「ある者はそれを信じ、ある者はそれを信じなかった」といった解釈がある（イブン・ジュザイ 2:527-528 参照）。

4 この「種類」の解説には、「男女」「様々な色」「美醜（びしゅう）、背の高低など、対になった、あらゆる種類のこと」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー 19:171 参照）。

10. 夜を^{ごうも}衣とし、¹
11. 昼を生計（の手段）とし、
12. あなた方の上に、（割れ目一つない）強固な七層^{そう}（の天）を築き上げ、
13. 煌々とした灯火^{とうこう}^{ともしび}を置き、
14. 絞り時のもの（雨^{あめ}を湛えた雲）から、ざあざあという雨を降らせた。
15. （それは）われら^{*}がそれで、（人が食べる）種粒^{たねつぶ}と（家畜が食べる）植物を生え出させるため。
16. そして、（いくつもの枝が交差して）重なり合った農園を。^{かさ}
17. 本当に裁決の日^{さいけつ}はもとより、時が定められている。
18. 角笛^{つのふえ}に吹き込まれ^ふ、あなた方が（各々、自分たちの指導者と共に）集団でやって来る日は。^{おのおの}
19. また（その日、）天は開かれ、（天使^{こうりん}^{*}が降臨するための）いくつもの扉（を有するもの）となり、
20. 山々は動かされ、（それから粉々にされて）蜃気楼^{しんきろう}のようになる。⁵
21. 本当に地獄はもとより、（不信仰者^{*}たちに對する）見張りの場である。

- وَجَعَلْنَا اللَّيْلَ لِبَاسًا ﴿١٠﴾
 وَجَعَلْنَا النَّهَارَ مَعَاشًا ﴿١١﴾
 وَبَدَيْنَا فَوْقَكُمْ سَبْعًا شَدِيدًا ﴿١٢﴾
 وَجَعَلْنَا سِرَاجًا وَهَّاجًا ﴿١٣﴾
 وَأَنزَلْنَا مِنَ الْمُعْصِرَاتِ مَاءً ثَجَّاجًا ﴿١٤﴾
 لِّنُخْرِجَ بِهِ حَبًّا وَنَبَاتًا ﴿١٥﴾
 وَجَعَلْنَا الْفُجَاءَ ﴿١٦﴾
 إِنَّ يَوْمَ الْفَصْلِ كَانَ مِيقَتًا ﴿١٧﴾
 يَوْمَ يُنفَخُ فِي الصُّورِ فَتَأْتُونَ أَفْوَاجًا ﴿١٨﴾
 وَفُتِحَتِ السَّمَاءُ فَكَانَتْ أَبْوَابًا ﴿١٩﴾
 وَسُيِّرَتِ الْجِبَالُ فَكَانَتْ سَرَابًا ﴿٢٠﴾
 إِنَّ جَهَنَّمَ كَانَتْ مَوَاصِدًا ﴿٢١﴾

1 識別章 47 の訳注も参照。

2 この「灯火」については、識別章 61 の訳注を参照。

3 「裁決の日」については、整列者章 21 の訳注を参照。

4 「角笛に吹き込まれる」については、家畜章 73 の訳注を参照。尚、これは復活を知らせる「吹きのこと」（ムヤッサル 582 頁参照）。

5 復活の日^{*}の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9 10、出来事章 5 6、衣を纏（まと）う者章 14、階段章 8 9、巻き込む章 3、衝撃章 4 5 も参照。

22. (それは、不信仰において) 度を越した者たちの、帰り場所なのだ。

لِلظَّالِمِينَ مَقَابِلًا ﴿٢٢﴾

23. 彼らはそこに長期間、留まる身の上。

لَيَبْقَيْنَ فِيهَا أَهْقَابًا ﴿٢٣﴾

24. 彼らはそこで、(暑さを冷ます) 冷たさも(喉を潤す) 飲み物も、味わうことがない、

لَا يَذُوقُونَ فِيهَا بَرْدًا وَلَا شَرَابًا ﴿٢٤﴾

25. 煮えたぎる湯と膿汁¹の外は。

إِلَّا الْحَمِيمَ وَعَسَاقًا ﴿٢٥﴾

26. (それらは、彼らの現世での行いに) 相応しい報いとしてのもの。

جَزَاءً وَفَاقًا ﴿٢٦﴾

27. 本当に彼らは、清算を望んでおらず、²

إِنَّهُمْ كَانُوا لَا يَرْجُونَ حِسَابًا ﴿٢٧﴾

28. われら*の御徴³をひどく嘘呼ばわりし、

وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا كِذَابًا ﴿٢٨﴾

29. そしてわれら*は、全ての物事を書で数え尽くしておいた⁴のだから。

وَكُلَّ شَيْءٍ أَحْصَيْنَاهُ كِتَابًا ﴿٢٩﴾

30. ならば(不信仰者たちよ、自分たちの行いの応報を) 味わえ。われら*はあなた方に、懲罰以外の何も上乗せはしまい。

فَذُوقُوا فَلَنْ نَزِيدَكُمْ إِلَّا عَذَابًا ﴿٣٠﴾

31. 本当に敬虔な*者たちには、勝利の場がある。

إِنَّ الْمُتَّقِينَ مَعَآرًا ﴿٣١﴾

32. 農園、葡萄、

حَدَائِقَ وَأَعْنَابًا ﴿٣٢﴾

33. (彼女ら自身が互いに) 同い年の、胸もふっくらとした女たち、

وَكَوَاعِبَ أُنْثَىٰ رَأَىٰ ﴿٣٣﴾

34. (酒*で) 満杯の⁵ 盃が。

وَكَأْسَادِهَا قَالًا ﴿٣٤﴾

1 「膿汁」については、サード章 57 の訳注を参照。

2 この「望む」に関しては、ユーヌス*章 7 の同語についての訳注も参照。

3 クルアーン*のアーヤ*を始めとした、アッラー*からの「御徴」のこと(アッ=シャウカーニ 5:486 参照)。

4 ヤー・スィーン章 12 とその訳注も参照。尚、この「書」の解釈には、「天使*たちが書き留める、行いの帳簿(ちょうぼ)」「守られし碑板*」という説がある(アル=クルトゥビー 19:182 参照)。

5 ほかに、「次々とやって来る」「澄(す)んだ」といった解釈もある(アル=バガウィー 5:202 参照)。

35. 彼らはそこで戯言^{たわごと}^{うそ}も、嘘の言い合いも、耳にすることがない。²

لَا يَسْمَعُونَ فِيهَا لَغْوًا وَلَا كِدًّا ۚ

36. (それらは全て、)あなたの主^{しゅ}*からの報い、ふんだんなる贈り物としてのもの。

جَزَاءً مِّن رَّبِّكَ عَطَاءً حِسَابًا ۝

37. 諸天と大地、その間にあるものの主^{しゅ}*、慈悲あまねき*お方(からの)。彼らはかれに対し、(お許しを授かった者以外、)語りかけることが出来ない、³

رَبِّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا ۚ الرَّحْمَنُ لَا يَمْلِكُونَ مِنْهُ خِطَابًا ۝

38. 魂^{たましい}⁴と天使*たちが、列をなして立つ日に。慈悲あまねき*お方が(執り成し^とを)^なお許しになり、正しいこと^{ちやうばつ}を語った者しか、話すことはないのだ。

يَوْمَ يَقُومُ الرُّوحُ وَالْمَلَائِكَةُ صَفًّا ۚ لَا يَتَكَلَّمُونَ إِلَّا مَنْ أُمِرَ لَهُ الرَّحْمَنُ وَقَالَ صَوَابًا ۝

39. それは(必ずや起こる、)真実の日。ならば、誰でも(その日の救いを)望む者には、(正しい行い*により、)自らの主^{しゅ}*を帰り場所とさせるのだ。

ذَٰلِكَ الْيَوْمُ الْحَقُّ ۚ فَمَن شَاءَ اتَّخَذْ إِلَىٰ رَبِّهِ مَنَابًا ۝

40. 本当にわれら*は、あなた方に間近に迫った懲罰を警告した。人が、自分が行った(全ての)ことを目にし、不信仰者*が(清算の恐怖ゆえ、)「ああ、私が上であつたらよかつたのに!」⁷という日の(懲罰を)。

إِنَّا أَنْذَرْنَاكَ عَذَابًا قَرِيبًا يَوْمَ يَنْظُرُ الْمَرْءُ مَا قَدَّمَتْ يَدَاهُ وَيَقُولُ الْكَافِرُ يَلَيْتَنِي كُنْتُ ذُرِّيًّا

1 「戯言」については、信仰者たち章3の同語の訳注を参照。

2 山章23と、その訳注も参照(イブン・カシール 8:308 参照)。

3 復活の日*に「話すこと」については、夜の旅97の訳注も参照。

4 この「魂」は、ジブリール*のこととされる(ムヤッサル 583 頁参照)。「魂」と呼ばれている所以については、マルヤム*章17の訳注を参照。

5 復活の日*の「執り成し」については雌牛章48、マルヤム*章87、ター・ハー章109とその訳注を参照。

6 「正しいこと」の筆頭が、シャハーダ*の言葉である(イブン・カシール 8:310 参照)。

7 その日、人間は懲罰を目にし、自分が現世で(清算を受ける必要のない)上であつたならば、と望む。あるいは、その日は動物でさえも集められ、公正な裁きを受けるが、それらはその後懲罰を受けることなく上と化す。彼らは、自分たちもそのような存在であつたなら、と望むのだという(前掲書 8:310-311 参照)。

第 79 章
引き離すもの章 (アン＝ナーズィアート) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (不信仰者*の魂を、) 力任せに引き離すものにかけて、²
2. また、(信仰者の魂を) さっと引き抜くものにかけて、
3. また、(天空を) 自在に飛び回るものにかけて、
4. また、(アッラー*のご命令の遂行へ、) 我先にと先ずるものにかけて、
5. また、(アッラー*から委任された) ご命令を司るもの³にかけて (誓う。あなた方は蘇らされ、清算を受けるのである)、
6. 激震するものが、激震する日に。⁴

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالَّذِينَ عَرَفُوا

وَالَّذِينَ نَسُوا

وَالَّذِينَ سَبَّحُوا

فَالَّذِينَ سَبَّحُوا

فَالَّذِينَ أَمَرُوا

يَوْمَ تَرْجُفُ الرَّجِفَةُ

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。様々な任務を任された天使*たちにおけるアッラー*の誓いによって、死後の復活の真実が確証され、その日の不信仰者*の様子が描かれる。その後は、アッラー*の使徒*への不信仰を警告するムーサー*とフィアウン*の話を挟んだ後、アッラーの唯一性*と全能性を示す偉大な創造と恩恵が示され、再び復活と報いの確証がなされた後、信仰者には吉報が、不信仰者*には警告が告げられる。

2 アーヤ*1-5 で言及されている「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。尚、これらのアーヤ*で誓われているものは全て天使*たちのことを指しているとされる (ムヤッサル 583 頁参照) が、アーヤ*5 を除いては、「星のこと」を表す、といった別説もある (イブン・カスィール 8:312-313 参照)。アーヤ*1-2 で言及されている、不信仰者*と信仰者の「魂を抜く」ことに關しては、家畜章 93 とその訳注を参照。

3 アッラー*から啓示を授かり、それを預言者*たちへと伝える天使*たちのこと (ムヤッサル 583 頁参照)。

4 「激震するもの」とは大地のことで、これは全てのものに死がもたらされる、一回目の角笛 (家畜章 73 の訳注も参照) のこととされる (前掲書、同頁参照)。

7. 後続のもの¹が、それに続く。
8. その日、(不信仰者*たちの)心は震撼^{しんかん}する。
9. その眼は怖気^{おじけ}づいている。
10. 彼ら(復活を否定する者たち)は、言う。
「一体(死後)、本当に私たちが(生)前の状態に、戻^{もど}される身だと？」
11. 私たちが、朽ち果^くてた骨となった後に？」
12. 彼らは言った。「それは、そうであるならば、損^{そん}な戻^{もど}り様だ」。²
13. それは、ただの^{いっかつ}一喝^すに過ぎない。
14. するとどうであろう、彼らは(地中から^{よみがえ}蘇^そらされ、生きた状態で)地表³にあるのだ。
15. (使徒*よ、)あなたのもとに、ムーサー*の話は届いたか？
16. 彼の主*がトゥワー⁴の聖なる谷で、彼をお呼びになった時のこと。⁵
17. (アッラー*は、彼に仰^{おお}せられた。)「フィルアウン*のところへ行け。本^{ほん}当^{とう}に彼は、(われら*への反逆者として)ひどく放埒^{ほうらつ}なのだから。
18. そして、(彼に)言うのだ。『あなたに、ご自身を清める⁶おつもりはありますか？

تَتَّبِعُهَا الزَّادَةُ ﴿٧٩﴾
قُلُوبٌ يَوْمَئِذٍ وَاجِفَةٌ ﴿٨٠﴾
أَبْصُرُهَا خَشَعَةٌ ﴿٨١﴾
يَقُولُونَ لَهُ نَا لَمْ نَرُدُّوهُمْ فِي الْمَافُورِ ﴿٨٢﴾
إِذَا كُنَّا عِظَامًا مَّخْرُورَةً ﴿٨٣﴾
قَالُوا يَا بَلَاءُ إِذَا كُنَّا حَايِرَةً ﴿٨٤﴾
فَإِنَّمَا هِيَ زَجْرَةٌ وَاحِدَةٌ ﴿٨٥﴾
فَإِذَا هُمْ بِالسَّاهِرَةِ ﴿٨٦﴾
هَلْ آتَاكَ حَدِيثُ مُوسَى ﴿٨٧﴾
إِذْ نَادَاهُ رَبُّهُ يَا لَوْلَا الْمُقَدِّسُ طُورَى ﴿٨٨﴾
أَذْهَبَ إِلَى رَعْوَنَ إِنَّهُ طَلَى ﴿٨٩﴾
فَقُلْ هَلْ لَكَ إِلَهٌ إِلَّا أَنَا تَرَكَّى ﴿٩٠﴾

1 これは復活を知らせる、二回目の角笛(家畜章 73 の訳注も参照)のこととされる(ムヤッサル 583 頁参照)。

2 これはアッラー*の御力に対する無知さと、不遜さから、復活をあり得ないこととして言った言葉とされる(アッ=サアディー908 頁参照)。

3 この「地表」については、イブラーヒーム*章 48 も参照(イブン・カスィール 8:314 参照)。

4 「トゥワー」については、ター・ハー章 12 の同語の訳注を参照。

5 この出来事は、ター・ハー章 10 以降、蟻章 7 以降、物語章 29 以降に詳しい。

6 不信仰と放埒さの汚れを清め、信仰と正しい行い*を身につけること(アッ=サアディー 909 頁参照)。

19. そして私があなたを、あなたの主*へと導き、それによってあなたが（かれを）恐れるようになる（おつもりは）？』」

وَأَهْدِيكَ إِلَىٰ رَبِّكَ فَتَحْسَبُنِي

20. それで彼（ムーサー*）は、彼（フィルアウン*）に最大の御徴¹を披露し、

فَأَرَاهُ آيَةَ الْكُبْرَىٰ

21. 彼（フィルアウン*）は（ムーサー*を）嘘つき呼ばわりして、（自らの主*に）逆らった。

فَكَذَّبَ وَعَصَىٰ

22. それから彼（フィルアウン*）は、（ムーサー*への対抗心に）躍起になって（信仰から）背を向け、

فَرَادَبَّرَ لِمَسَىٰ

23. （自国の民を）召集^{しょうしゅう}して、呼びかけ、

فَحَشَرَ فَنَادَىٰ

24. 言った。「私が、あなた方の至高の主*である」。

فَقَالَ أَنَا رَبُّكُمُ الْأَعْلَىٰ

25. それでアッラー*は彼（フィルアウン*）を、後のもの（来世）と初めのもの（現世）の懲罰^{ちやうばつ}^{ばつ}²で罰された。

فَأَخَذَهُ اللَّهُ نَكَالَ الْآخِرَةِ وَالْأُولَىٰ

26. 本当にその中にはまさしく、恐れる者への教示があるのだ。

إِنِّي فِي ذَلِكَ لَعِبْرَةٌ لِّمَن يَخْشَىٰ

27. （人々よ、）一体あなた方（の死後の再生）が、より創造^{そうぞう}に難いのか？ それとも、天（の創造^{そうぞう}）か？ かれがそれ（天）を、築^{きず}かれたのである。

ءَأَنسُرُ أَشَدُّ خَلْقًا أَمْ السَّمَاءُ بَنَاهَا

28. かれは（天の）その高みをお上げになり、それを（完璧^{かんぺき}に）整えられ³、

رَفَعَ سَمَاهَا فَمَسَوْنَهَا

29. その夜を（日没^{にちぼつ}によって）闇とされ、（日の出によって）その光をお出しになった。

وَأَغْطَشَ لَيْلَهَا وَأَخْرَجَ ضُحَاهَا

1 「最大の御徴」とは、手と杖の奇跡とされる（ムヤッサル 584 頁参照）。高壁章 107-108、詩人たち章 32-33 も参照。

2 現世における彼らの懲罰については、ユースス*章 90-92、ター・ハー章 78、詩人たち章 66 を参照。また、来世における懲罰については、赦し深いお方章 46 も参照。

3 天が完璧に整えられたことに関しては、カーフ章 6、王権章 3 を参照。

30. また、大地は、（天の創造^{そうぞう}）の後に平
らに広げられ、
وَالْأَرْضُ بَعْدَ ذَلِكَ دَحَاهَا ﴿٣٠﴾
31. そこからその水と、（家畜^{かちく}）に食^はませるも
のをお出しになり、
أَخْرَجَ مِنْهَا مَاءً هَارِمْ عَنِهَا ﴿٣١﴾
32. 山々^{けんご}を堅固にされた、
وَالْجِبَالُ أَرْسَاهَا ﴿٣٢﴾
33. あなた方と、あなた方^{かちく}の家畜の利益のた
めに。
مَتَاعًا لَّكُمْ وَلِأَنْعَامِكُمْ ﴿٣٣﴾
34. そして、この上^{たいなん}ない大難^{どうらい}¹が到来した時（、
人々は蘇^{ひとびと}らされる）。
فَإِذَا جَاءَتِ الطَّامَةُ الْكُبْرَى ﴿٣٤﴾
35. 人間が、（現世での自分の行いを見せら
れ、）自分が勤^{いそし}しんでいた（善いこと、悪
い）ことを思い出す日、
يَوْمَ يَتَذَكَّرُ الْإِنْسَانُ مَا سَعَى ﴿٣٥﴾
36. また、見る者の眼に、火獄^{あら}が露^{ちようしやう}わになる
（日に）。
وَبُورِزَتِ الْجَبَابِلُ لِمَنْ بَرَى ﴿٣٦﴾
37. それで（アッラー*のご命令^{ほうらい}に対して）放^{はうらつ}埒^{いそし}で、
فَأَمَّا مَنْ طَغَى ﴿٣٧﴾
38. 現世の生活を（来世よりも）好^{ちやうしやう}んだ者はと
いえば、
وَأَنزَلَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا ﴿٣٨﴾
39. 本当に火獄こそが、（その）住^{すみ}処である。
فَإِنَّ الْجَحِيمَ هِيَ الْمَأْوَى ﴿٣٩﴾
40. そして自分の主^{しゅ}*の立ち所^{たちどころ}²（での清算^{おそ}）を怖^{おそ}
れ、自らに（罪深^{みずか}いことへの）私欲^{つみ}を禁^いじ
た者はといえば、
وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِ وَنَهَى النَّفْسَ عَنِ
الْهَوَىٰ ﴿٤٠﴾
41. 本当に天国こそが、（その）住^{すみ}処である。
فَإِنَّ الْجَنَّةَ هِيَ الْمَأْوَى ﴿٤١﴾
42. （使徒^{しと}*よ、）彼ら（シルク*の徒^{ちようしやう}）は、（嘲^{たず}笑
しつつ）あなたに尋^{たず}ねる。一体いつ、（復
活の）その時はやって来るのか、と。
يَسْتَلُونَكَ عَنِ السَّاعَةِ أَيَّانَ مُرْسَاهَا ﴿٤٢﴾

1 あらゆる恐ろしい物事の上をいく最大の災難である「この上ない大難」とは、清算と報い
が行われる復活の時のこと（アル＝カースィミー17:6053 参照）。

2 「自分の主の立ち所」については、イブラーヒーム*章 14 の訳注を参照。

43. (使徒^{しと}*よ、) あなたは、それを話すことに何の関わりがあるのか？
44. あなたの主^{しゅ}*にこそ、その(知識の)終着点^{そく}が属するのだから。¹
45. あなたは、それを恐れる者^{けいこく}への警告者^すに過ぎないのだ。
46. 彼らが、それ(復活)を目の^ま当たり^あにする日、彼らは(その余りの恐怖ゆえ、現世において)あたかも(一日の)午後か、あるいは午前中しか^す過ごさなかったかのようである²。

فِيمَا أَنْتَ مِنْ ذِكْرِهَا ﴿١٥﴾

إِلَىٰ رَبِّكَ مُنْتَهَىٰ ﴿١٦﴾

إِنَّمَا أَنْتَ مُنْذِرٌ مِّنْ حِشْمِهَا ﴿١٧﴾

كَأَنَّهُمْ يَوْمَ رَوَّوْهَا لَّيْلٌ بِمِثْوَالِ الْأَعِيشَةِ أَوْ ضُحًى ﴿١٨﴾

¹ 高壁章 187 も参照。

² ユーヌス*章 45 とその訳注、及びター・ハー章 103、信仰者たち章 113-114、ビザンチン章 55、砂丘章 35 も参照。

第80章
眉をひそめた章（アバサ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 眉をひそめて、背を向けた、
2. 自分のもとに、盲目の者が来たために。²
3. そして、何があなたに（彼の真実を）知らせるのか？ 彼が清められる³かもしれない、ということ？
4. あるいは、彼が教訓を受け、それで教訓が彼を益するかもしれないことを？
5. （導きなしでも）十分だとする者⁴はといえば、
6. あなたは彼に掛かりきり。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

عَبَسَ وَتَوَلَّى ①

أَن جَاءَهُ الْأَعْمَى ②

وَمَا يَذْكُرُ لَكُمْ، يَرَىٰ ③

أَو يَذْكُرُ فَنَنْفَعُهُ الْذِكْرَى ④

أَقَامِنِ اسْتَفْعِنِ ⑤

فَأَن تَلَهُ، ضَعْدَى ⑥

- 1 マッカ*啓示。スーラ*名は、冒頭に出現する同語に由来。預言者*ムハンマド*に対するアッラー*のお咎（とが）めに始まり（詳しくはアーヤ*2 の訳注を参照）、クルアーン*の真実性とその偉大さの確証と共に、それを信じない者への警告が告げられる。そして創造におけるアッラーの唯一性*が、自然界の様々な事象によって証明された後、復活の日*とその日の出来事、信仰者と不信仰者*の対照的な結末が描かれる。
- 2 アッ=ラーズィー*によれば、解釈学者らは、このアーヤ*が預言者*ムハンマド*と教友*イブン・ウンム・マクトゥームに関して下ったということで、一致している（11:53 参照）。預言者*はある時、クライシュ族*の有力者らがムスリム*になることを望み、彼らをイスラーム*へと熱心に招いていた。そのような場にやって来た盲目のイブン・ウンム・マクトゥームは、預言者*が別の者との話に勤（いそ）しんでいるのを知らず、イスラーム*の教えを彼にしつこくせがんでしまう。預言者*は話を邪魔されるのを嫌い、彼を相手にせず、有力者たちへの話に勤しんだ。このアーヤ*が下ってそのことを咎められた後、預言者*は彼を大事に扱い、重用するようになった（アル=バガウィー5:210 参照）。尚、預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。
- 3 ここでの「清められる」とは、預言者*からの教えを得ることで、自らの宗教においてより清浄となり、無知という闇が消え去ること、とされる（アル=クルトゥビー19:213 参照）。
- 4 これは善への意欲がないため、質問も教示も乞うこともないような者のこと（アッ=サアディー910 頁参照）。

7. 彼が清められずとも、あなたには何の咎^{とが}めもないというのに。
وَمَا عَلَيْكَ الْاِزْكٰى ٧
8. そして（あなたと会うことに）意気^{いきど}込んで、あなたのもとにやって来た者はといえば、
وَأَمَّا مَنْ جَاءَكَ يَسْعٰى ٨
9. （アッラー*を）恐れているというのに、
وَهُوَ يَخْشٰى ٩
10. あなたは彼をそっちのけにしている。
فَأَنْتَ عَنْهُ تَلَهٰى ١٠
11. 断じて、使徒^{しと}*よ、あなたがしたようなことは、許^{ゆる}され^{ない}！ 実にそれ（このスーラ*）は、教訓^{けい}なのだ。
كَلَّا لَئِنْ لَّمْ يَذْكُرُوْا ١١
12. そして誰でも（教訓^{けい}を）望^{たい}む者は、それ（啓示^{けい}）を熟慮^{じゆくりよ}せよ。
فَمَنْ شَاءَ ذَكُرْهُ ١٢
13. （このクルアーン*は）貴^{とうと}い書卷^{しょかん}の中、
فِي صُحُفٍ مُّكَرَّمَةٍ ١٣
14. （位^{くらい}）高く、（あらゆる不純^{ふじゆん}さや改変^{かいへん}から）清浄^{しやうじゆん}な（書卷^{しょかん}の中）、
مَرْفُوعَةٍ مُّطَهَّرَةٍ ١٤
15. 使いの者（天使*）たちの手許^{てもと}にある。
بِأَيْدِي سَفَرَةٍ ١٥
16. 高貴^{こうき}で、善良^{じやうぜん}な者たちの（手許^{てもと}に）。
كَرَامٍ مُّرْرَةٍ ١٦
17. （不信仰^{ふしやう}な）人間^{じんが}が、成敗^{せいばい}されますよう。彼は（自分の主*^{しゆ}に対し）、何とひどい不信仰^{ふしやう}に陥^{おちい}っていることか！
قِيلَ الْإِنْسَانُ مَا أَكْفَرَهُ ١٧
18. かれ（アッラー*）は彼を、いかなるものからお創^そりになったのか？
مِنْ أَيْ شَيْءٍ خَلَقَهُ ١٨
19. 一滴^{いってき}の精液^{せいえき}から彼をお創^そりになり、それを（徐々に）調整^{ちやうせい}されたのだ。²
مِنْ نُّطْفَةٍ خَلَقَهُ فَقَدَرَهُ ١٩

1 「貴い書卷」とは、守られし碑板*、あるいは啓典のこと（アル＝バガウィー5:210 参照）。

2 「その各身体器官、美醜（びしゅう）、大小、不幸な者となるか幸福な者となるか、ということなどをお決めになった」という解釈もある（アル＝クルトゥビー19:218 参照）。尚、人間の創造の変遷（へんせん）については、巡礼*章5章、信仰者たち章14を参照。

20. それからかれ（アッラー*）は、道を容易く
され、¹
21. やがては彼に死を与えられ、墓にお埋め
になり、
22. それから、かれがお望みになったら、（清
算と報いのために、）彼を生き返させ給う。
23. 断じて（、不信仰者*の状況は正しく）ない！
彼は、かれ（アッラー*）が自分にご命じに
なったこと²を、遂行してはいないのだから。
24. ならば人間に、自分の食べ物（が、いかに
創造されたか）について考えさせてみよ。
25. われら*は、（地上に）水をざあざあと降らせ、
26. それから大地を、ひび割れさせ（、そこか
ら各種の植物を芽出せさせ）たのだ。
27. そして、われら*はそこに種粒を生育させた、
28. また、葡萄、まぐさ、
29. オリーブ、ナツメヤシ、
30. 木深い農園、
31. 果実、牧草も（生育させた）、
32. あなた方と、あなた方の家畜の利益のために。
33. そして、（復活の日*を知らせる）轟きの
一声³が到来した時（、人々は自分の事で掛
かりきりになる）。

تَوَّاسِيلَ سِرٍّ ۝

تُؤَمِّنُهُ ۝ فَاقْبَرُ ۝

تَوَّادًا شَاءَ أَمْرُهُ ۝

كَلَّا لَتَنَاقِضَ مَا أَمْرُهُ ۝

فَلْيَنْظُرِ الْإِنْسَانُ إِلَى طَعَامِهِ ۝

أَنَّا صَبَّأْنَا الْمَاءَ صَبًّا ۝

تُرْسَقْنَا الْأَرْضُ شَقًّا ۝

فَأَنْبَتْنَا فِيهَا حَبًّا ۝

وَعَبًّا وَقَضْبًّا ۝

وَرَبَّوْنَا وَتَخَلَّا ۝

وَحَدائقَ عُلْبٍ ۝

وَفُكْهَمَ وَأَنَّا ۝

مَتَعْنَاكُمْ ۝ وَلَا نَعْمِكُمْ ۝

فَإِذَا جَاءَتِ الصَّاعَةُ ۝

1 この「道」には、「母親の胎内から出て来ること」「真理と虚偽の道、及びその判別（人間章3とその訳注も参照）」「各自が運命づけられた物事」といった解釈がある（アル＝バガウィー5:211 参照）。

2 つまり信仰と、かれへの服従ということ（ムヤッサル 585 頁参照）。

3 「轟きの一声」は一説に、角笛が吹き鳴らされること（アル＝バイダーウィー5:454 参照）。家畜章 73 とその訳注も参照。

34. 人間が、（その恐怖ゆえに、）自分の兄弟から逃げ出す日、
35. また、自分の母親、父親、
36. 自分の妻、子供たち（から逃げ出す日）。
37. 彼ら全員にはその日、自分のことだけで精一杯な用事がある。
38. その日、（天国に入る）顔の数々は輝いており、
39. 笑い、心躍らせている。
40. またその日、（地獄に入る）顔の数々は、その上に煤^{すす}がかか（って真っ黒にな）る。
41. 埃^{ほこり}がそれらを覆^{おお}（い、辱^{はづかし}めにあ）う。
42. それらの者たちこそは、不信仰者*、放逸^{ほういつ}な者たちである。

يَوْمَ يَفِرُّ الْمَرْءُ مِنْ أَخِيهِ ﴿٢٤﴾

وَأُمِّهِ وَأَبِيهِ ﴿٢٥﴾

وَصَلْبِجَتِهِ وَيَنِيهِ ﴿٢٦﴾

لِكُلِّ أَمْرٍ مِنْهُمْ يَوْمَئِذٍ شَأْنٌ يُغْنِيهِ ﴿٢٧﴾

وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ مُّسْفِرَةٌ ﴿٢٨﴾

صَاحِكَةٌ مُّسْتَبْشِرَةٌ ﴿٢٩﴾

وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ عَلَيْهَا غَبَرَةٌ ﴿٣٠﴾

تَرَهَقَهَا فَأُتِرَةٌ ﴿٣١﴾

أُولَئِكَ هُمُ الْكَافِرَةُ الْفَجَرَةُ ﴿٣٢﴾



第 81 章

巻き込む章 (アッ=タクウィール) ¹

慈悲あまねく * 慈愛深き *

アッラー*の御名において

1. 太陽が巻き込まれ (、その光を失^{うしな}つ) た時、
2. また、星々が (その光を失^{うしな}つて) 落下した時、
3. また、山々が動かされ (て、粉^{こな}々にされ) た時、²
4. また、妊娠十ヶ月目の雌ラクダが放^めつたらか^しにされた時、³
5. また、野獣たちが集められた時、⁴
6. また、海々が溢^{あふ}れ返った時、⁵
7. また、魂^{たましい}が (自分と同様のものと) 一緒にされた時、⁶
8. また、埋められた女兒^うが^{たず}尋ねられた時、

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا الشَّمْسُ كُوِّرَتْ ①

وَإِذَا النُّجُومُ انْكَدَرَتْ ②

وَإِذَا الْجِبَالُ سُيِّرَتْ ③

وَإِذَا الْعِشَارُ عُطِّلَتْ ④

وَإِذَا الْوُحُوشُ حُشِرَتْ ⑤

وَإِذَا الْبِحَارُ سُجِّرَتْ ⑥

وَإِذَا النُّفُوسُ زُوِّجَتْ ⑦

وَإِذَا الْمَوْتُ دُهِسِمَتْ ⑧

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。その前半の六つが復活の日*の始まり、後半の六つが終わりに起こるとされる、十二の出来事の言及によって始まり、復活と報いが、不信仰者*への警告と共に確証される。後半では啓示と、預言者*ムハンマド*の使徒*性の真実が証明され、人々をその教えに招くと共に、全てはアッラー*のご意思に委ねられているということの言及で締めくくられる。

2 復活の日*の山々の変化については、洞窟章 47 の訳注を参照。

3 「妊娠十ヶ月目の雌ラクダ」は、アラブ人にとって、最も大事なものの一つだった。その日はそれすらも構っている余裕はなく、自分のことで手一杯の状態である (アル=クルトゥビー 19:228 参照)。

4 復活の日*には、動物でさえも集められ、裁きを受けた後に砂と化せられる (アッ=サアディー 912 頁参照)。消息章 40 の訳注も参照。また、ほかにも「殺される」「一緒にくたにされる」という解釈もある (イブン・カスィール 8:331 参照)。

5 「海が溢れ返る」ことについては、山章 5 の訳注を参照。

6 出来事章 7 とその訳注も参照。ほかにも「魂が肉体に戻される」「魂に行いが結び付けられる」といった解釈もある (アル=クルトゥビー 19:232 参照)。

7 生まれた女兒を殺すジャーヒリーヤ*の習慣については、家畜章 137 とその訳注を参照。

9. 「彼女は、いかなる^{つみ}罪ゆえに殺されたのか？」と。
10. また、書巻が開かれ（て、各人に差し出され）た時、¹
11. また、天が剥ぎ取られた時、²
12. また、火獄が点火された時、
13. また、天国が（その住人である敬虔な^{けいけん}*者たちに）近づいた時、
14. 人は、自分が携えて来たもの（善行と悪行）を知る。
15. われはまさに、身を隠すものにかけて^{ちか}誓う。³
16. つまり、巢に向かって^か駆けるもの⁴にかけて、
17. また、到来した夜^{とうらい}⁵にかけて、
18. また、息づいた朝にかけて。
19. 本当にそれ（クルアーン*）は、まさしく高貴な御使い（ジブリール*）の（伝達する）言葉。
20. 力みなぎる者、御座^{みくら}⁶のもとで位高き者、
21. （他の天使*たちに）追従^{ついじゅう}される者で、誠実な者の（伝達する言葉である）。

يَا أَيُّهَا النَّفْسُ فَتَنَّاكَ

وَلَمَّا أَصْحَفْنَا نُفُوسَهُ

وَلَمَّا أَلْصَقْنَا السَّمَاءَ كُفُوفًا

وَلَمَّا أَلْجِئْنَاهُ مُعُوقًا

وَلَمَّا أَلْجَيْنَاهُ أَزْلَقًا

عَلِمْتَ نَفْسٌ مَّا أَحْضَرْتَ

فَلَا أَقْسِمُ بِالْخَاسِ

الْمُجَارِ الْكَاسِ

وَالَيْلِ إِذَا عَسَّسَ

وَالضُّبْحِ إِذَا تَنَفَّسَ

إِنَّهُ لَقَوْلُ رَسُولٍ كَرِيمٍ

ذِي قُوَّةٍ عِنْدَ ذِي الْعَرْشِ مَكِينٍ

مُطَاعٍ ثَمَّ أَمِينٍ

1 この「書巻」は、現世での行いの帳簿（ちょうぼ）のこと（ムヤッサル 586 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。また、この時の様子については夜の旅章 13-14、洞窟章 49、真実章 19-29、割れる章 7 以降などを参照。

2 イブラーヒーム*章 48、預言者*たち章 104、集団章 67 とそれらの訳注も参照。

3 アーヤ*15-18 までの、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

4 これは、夜に現れ、昼には見えなくなる星々のこととされるが、「野牛」「カモシカの類」といった解釈もある（イブン・カスィール 8:336-337 参照）。

5 「過ぎ去った夜」という解釈もある（前掲書 8:338 参照）。

6 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

22. そして、あなた方の同胞（ムハンマド*）は、
憑かれた者¹などではなく、
23. 彼は確かに彼（ジブリール*）を、明瞭な^{めいりょう}
地平線に見たのである。²
24. また、彼（ムハンマド*）は不可視の世界^{ふかし}³に
ついて、出し惜しみする者などではなく、
25. それ（クルアーン*）は、追放された⁴シャ
イターン*の言葉などではない。
26. ならば、あなた方は（この明白な論拠^{ろんきょ}
後、）どこへと向かうのか？⁵
27. それは、全創造物への教訓に外ならないと
いうのに。
28. あなた方の内、（真理の上を）まっすぐ歩
むことを望んだ者への。
29. そしてあなた方は、全創造物の主*^{しゅ}であられ
るアッラー*がお望みにならない限り、（い
かなることも）望むことがないのだ。⁶

وَمَا صَاحِبُكُمْ يَمْنُونُ ﴿٢٢﴾

وَلَقَدْ رَآهُ بِالْأُفُقِ الْمُبِينِ ﴿٢٣﴾

وَمَا هُوَ عَلَى الْعَيْبِ بِضَهِينٍ ﴿٢٤﴾

وَمَا هُوَ بِقَوْلِ شَيْطَانٍ رَجِيزٍ ﴿٢٥﴾

فَإِن تَذَهَبُونَ ﴿٢٦﴾

إِنْ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِلْعَالَمِينَ ﴿٢٧﴾

لِمَنْ شَاءَ مِنْكُمْ أَنْ يَسْتَقِيمَ ﴿٢٨﴾

وَمَا تَشَاءُونَ إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ رَبُّ الْعَالَمِينَ ﴿٢٩﴾

1 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

2 これは預言者*が、初めてジブリール*をその本来の姿で見た時のこととされる（ムヤッサル 586 頁参照）。詳しくは星章 7 の訳注を参照。

3 ここでの「不可視の世界*」とは、啓示を伝達すること（前掲書、同頁参照）。

4 「追放された」については、イムラーン家章 36 の訳注を参照。

5 これは、クルアーン*を嘘呼ばわりすることに対する非難の言葉（前掲書、同頁参照）。

6 包る者章 56 の、同様の件（くだり）の訳注も参照。

第 82 章
裂ける章 (アル=インフィタル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 天が裂けた時、²
2. また、星々が（散り散りに）墜落した時、
3. また、海々が溢れ出（て、互いに混じり合）つた時、
4. また、墓がひっくり返され（て、その中にいる者が蘇らされ）た時、
5. 人間は、自分が（生きている時に）早めたものと、遅らせたもの³（の全て）を、知ることになる。
6. （復活を否定する）人間よ、貴い*お方であるあなたの主*（への義務の遂行）において、何があなたを欺いたのか？⁴
7. あなたをお創りになり、整えられ、（最良の形に）均整づけられたお方において？
8. かれはあなたを、かれがお望みになったいかなる姿に、組み立てられたというのか？⁵

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا السَّمَاءُ انْفَطَرَتْ ①

وَإِذَا الْكَوْكَبُ انْتَثَرَتْ ②

وَإِذَا الْبِحَارُ فُجِّرَتْ ③

وَإِذَا الْقُبُورُ بُعْثِرَتْ ④

عَلِمْتَ نَفْسٌ مَّا قَدَّمَتْ وَأَخَّرَتْ ⑤

يَا أَيُّهَا الْإِنْسَانُ مَا عَرَفَكَ رَبُّكَ ⑥ الْكَبِيرُ ⑦

الَّذِي خَلَقَكَ فَسَوَّاكَ فَعَدَلَكَ ⑧

فِي أَيِّ صُورَةٍ مَّا شَاءَ رَكَّبَكَ ⑨

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。復活の日*の出来事の言及によって始まり、復活と報いが確証される。また、復活を否定し、唯一の創造主であり恩恵の主であるアッラー*に対して恩知らずな不信仰者*を咎（とが）めると共に、彼らに反省を促（うなが）す。スーラ*の最後は、来世における信仰者と不信仰者*の行く末の描写と、復活の日*の報いに対する警告によって締めくくられる。
- 2 識別章 25 も参照（アル=クルトゥビー19:244 参照）。
- 3 「早めたもの」と「遅らせたもの」については、復活章 13 の訳注を参照。
- 4 彼を「欺いたもの」の解釈には、「シャイターン*」「無知」といった諸説がある（前掲書 19:245 参照）。
- 5 「かれがお望みになったなら、あなたをいかなる姿にでも組み立てられた」という解釈もある（前掲書 19:247 参照）。

9. 断じて（、欺^{あざむ}かれてはなら）ない！ いや、あなた方は応報（の日）を嘘呼^{おうれう}ばわりしてゐるのだ。
10. 本当にあなた方には、見守る者（天使*）たち¹がついているのに。
11. 高貴で、記録する（者たちが）。
12. 彼らは、あなた方のすることを知っている。
13. 本当に善行者²たちは、必^{かなら}ずや安寧^{あんねい}の中。
14. そして本当に、放逸^{ほういつ}な者³たちは、必^{かなら}ずや火獄の中に。
15. 彼らは報^{むく}いの日*、そこ（地獄）に入^{あぶ}って炙られる。
16. そして彼らは、そこから不在でいられる者たちではない。
17. 報^{むく}いの日*が何かを、あなたに知らせるのは何か？
18. 更^{さら}に、報^{むく}いの日*が何かを、あなたに知らせるのは何か？
19. （報^{むく}いの日*とは、）人が（他）人に対し、何一つ役立てない日⁴。その日、事はアッラー*（だけ）に属^{ぞく}するのだ。⁵

كَلَّا بَلْ تُكَذِّبُونَ بِالَّذِينَ ①

وَإِنَّ عَلَيْكُمْ لَحَافِظِينَ ②

كَمَا كُنْتُمْ ③

يَعْمَلُونَ مَا تَفْعَلُونَ ④

إِنَّ الْأَبْرَارَ لَفِي نَعِيمٍ ⑤

وَإِنَّ الْفُجَّارَ لَفِي جَحِيمٍ ⑥

يَصْلَوْنَهَا يَوْمَ الَّذِينَ ⑦

وَمَا هُمْ عَنْهَا غَائِبِينَ ⑧

وَمَا أَدْرَاكَ مَا يَوْمَ الَّذِينَ ⑨

ثُمَّ أَدْرَاكَ مَا يَوْمَ الَّذِينَ ⑩

يَوْمَ لَا تَمْلِكُ نَفْسٌ لِنَفْسٍ شَيْئًا وَالْأَمْرُ ⑪

يَوْمَ لِلَّهِ ⑫

1 この天使*たちについては、雷鳴章 11 の訳注、カーフ章 17-18 とその訳注も参照。

2 アッラー*への義務、人々への義務を果たしていた、敬虔な*者のこと（ムヤッサル 587 頁参照）。

3 これはアッラー*と人々への義務の遂行を、怠（おこた）っていた者（前掲書、同頁参照）。

4 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

5 復活の日*だけでなく、現在も全てアッラー*のものである。しかし、その日は誰一人として、かれに反抗する者がいない（イブン・カスィール 8:345 参照）。家畜章 73「かれにこそ王権は属する」の訳注も参照。

第83章

量を減らす者たち章(アル=ムタッフィフーン)¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 量を減らす者たちに災いあれ。²
2. (彼らは、)自分たちが(買うため、)人々に升(や秤³)で量らせる時には、(自分たちの権利を)全うさせる者たち。
3. そして自分たちが(売るため、)彼らに升で量ったり、秤で量ったりする時には、(相手に)損させる(者たち)。
4. 一体、彼らは自分たちが蘇^{よみがえ}られ(て、応報を受け)る身であると、考えないのか？
5. 偉大なる(報いの)日*に？
6. 人々が(行いの清算のため)、全創造物の主* (の御前)に立つ日。
7. 断じて、(彼らの状態は正しく)ない！ 本^{ほん}当^{どう}に放逸な者たちの(行いが記録された)帳簿^{ちようぼ}は、まさにスィッジーン⁴の中にある。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَيْلٌ لِّلْمُطَفِّفِينَ ①

الَّذِينَ إِذَا أَكَالُوا عَلَى النَّاسِ يَسْتَوْفُونَ ②

وَإِذَا كَالَهُمْ وَأَوْزَنُوا هُمْ يُخْسِرُونَ ③

أَلَا يَظُنُّ أُولَئِكَ أَنَّهُمْ مَبْعُوثُونَ ④

لِيَوْمٍ عَظِيمٍ ⑤

يَوْمَ يَقُومُ النَّاسُ لِرَبِّ الْعَالَمِينَ ⑥

كَلَّا إِنَّ كِتَابَ الْفُجَارِ لَفِي سِجِّينٍ ⑦

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*の名称ともなっている、取引において公正ではない者たちの批判を皮切りに、復活と清算、クルアーン*の真実性の確認、それらを信じない者たちへの警告がなされた後、来世における彼らの懲罰の描写へと移行する。次いで、来世における信仰者たちの幸福と享楽(きょうらく)が対照的に取り上げられ、最後は現世において信仰者たちに悪行を働いていた不信仰者*たちが、来世でその報いを受けることが確認される。

2 このアーヤ*は、商取引において公正ではなかったマディーナ*の民に関して下ったとされる。そしてこのアーヤ*が下った後、彼らの商取引は改善された(イブン・マージャ 2223 参照)。

3 「升」と「秤」の詳細については、家畜章 153 の訳注を参照。

4 この「帳簿」の解釈には、文字通りの意味のほかにも「行い」「魂と行い」といった説もある(アル=クルトゥビー 19: 257 参照)。「スィッジーン」は一説に、「スィジン(牢獄)」という語から派生した言葉で、地獄での幽閉(ゆうへい)と苦しみの原因であり、それ自

8. スイッジーンが何かを、あなたに何が知らせるか？

وَمَا أَدْرَاكَ مَا سَجِّينٌ ﴿٨﴾

9. (その書は、)しっかりと記された^{ちょうぼ}帳簿である。

كِتَابٌ مَّرْقُومٌ ﴿٩﴾

10. その日、嘘呼^{うそ}ばわりする者^{わざわ}たちに災いあれ。

وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِلْمُكَذِّبِينَ ﴿١٠﴾

11. 報^{むく}いの日^{うそ}*を、嘘呼^{うそ}ばわりする者^{わざわ}たちに。

الَّذِينَ يَكِيدُونَ بِوَمِصْمِ الدِّينِ ﴿١١﴾

12. 侵犯^{しんぱん}し、罪^{つみ}に溺^{おぼ}れた全ての者以外、それ(報^{むく}いの日^{うそ}*)を嘘呼^{うそ}ばわりしたりはしないというのに。

وَمَا يَكْتُمُ بِهِ إِلَّا أَلْكُلُ مَعْدَنِيمٍ ﴿١٢﴾

13. われら^み*の御徴^{しるし}(アーヤ^{うそ}*)がその者^{どくしやう}に読誦された時、彼は言った。「(これは)昔の人々のお伽話だ」。

إِذَا تَنَادَى عَلَيْهِ ابْنٌ آسَاطِيرُ الْأَوَّلِينَ ﴿١٣﴾

14. 断じて、(彼らの主張は正しく)ない！ いや、彼らが稼いでいたもの(罪^{つみ})が、その心に錆^{さび}をつけたのである。

كَلَّا بَلْ رَانَ عَلَى قُلُوبِهِم مَّا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿١٤﴾

15. 断じて、(彼らの主張は正しく)ない！ 本来に彼らは(復活の)その日、自分たちの主^{しゆ}* (の拝謁^{はいえつ})から阻^{はば}まれている。²

كَلَّا أَنهَمَّ عَنْ رَبِّهِمْ يَوْمَئِذٍ لَّمْ يَحْجُرُوا ﴿١٥﴾

16. それから本当に彼らは、必ずや火獄^{かなら}に入^{あぶ}って炙^{あぶ}られる。

ثُمَّ أَنهَمَّ لَصَالُوا الْجَحِيمِ ﴿١٦﴾

17. それから、(彼らにはこう)言われるのだ。「これが、あなた方が嘘呼^{うそ}ばわりしていたこと(の、報^{むく}い)である」。

ثُمَّ يُقَالُ هَذَا الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ ﴿١٧﴾

体が牢獄のような屈辱(くつじよく)と懲罰の場所にあることが、その名称の由来とされる(イブン・ジュザイ 2:548 参照)。不信仰者*や不正*者の魂、彼らの行いの帳簿が置かれることになる、世界で最も低い場所のこと(アル=ジャザーイリー 5:535 参照)。

1 ほかにも、「目印のつけられた」「封印された」という解釈がある(アル=バガウィー 5:224 参照)。

2 復活の日*に天国の民が、アッラー*を拝見することについては、家畜章 103 とその訳注、ユースス*章 26、復活章 23 も参照。

18. 断じて、(彼らの主張は正しく) ない！ 本
当に善行者¹たちの(行いが記録された) 帳
簿²は、まさにイッリイユーン²の中にある。
19. イッリイユーンが何かを、あなたに何が知
らせるか？
20. (その書は、) しっかりと記された³ 帳簿²で
ある。
21. 側近⁴ (天使*) たちが、そこに立ち会う。⁴
22. 本当に善行者たちは、必ずや安寧⁵の中に。
23. 寝台⁶の上で、(アッラー*と天国の美を) 眺
めつつ。⁵
24. あなたは彼らの顔に、安寧⁵の輝きを見出す。
25. 彼らは、封印された⁶美酒から飲まされる。⁷
26. その封印⁸は、麝香⁹ (の風味)。ならば、そ
こにおいてこそ、競い合う者たちを競い合
わせよ。

كَلَّا إِنَّ كِتَابَ الْأَبْرَارِ لَئِي عَلَيْنَ ۝۱۸

وَمَا أَزِيدُكَ مَا عِلْيُونَ ۝۱۹

كِتَابٌ مَرْفُوعٌ ۝۲۰

يَسْهَرُهُ الْمَقَرُّوتُ ۝۲۱

إِنَّ الْأَبْرَارَ لَئِي نَعِيمٍ ۝۲۲

عَلَى الْأَرَائِكِ يَنْظُرُونَ ۝۲۳

تَعْرِفُ فِي وُجُوهِهِمْ نَضْرَةَ النَّعِيمِ ۝۲۴

يُسْقَوْنَ مِنْ رَحِيقٍ مُمَنَّمٍ ۝۲۵

خِمْمُهُمْ وَسَاكٌ وَفِي ذَلِكَ فَلْيَتَنَافَسِ

الْمُتَنَفِّسُونَ ۝۲۶

1 この「善行者」については、裂けるの章 13 の訳注を参照。

2 この「帳簿」の解釈については、アーヤ*7 の訳注を参照。「イッリイユーン」は一説に、「ウルウ (高さ)」という語から派生した言葉で、天国における位の高さ、あるいは高い場所であることが、その名称の由来とされる (イブン・ジュザイ 2:549 参照)。具体的な解釈としては、「天国」「(信仰者の魂が留まる、) 天の第七層」「最果てのスイドラ (星章 14 の訳注を参照)」「天の第七層の上にある、アッラー*の御座 (高壁章 54 の訳注を参照) の右足部分」「天使*たちのこと」といった諸説がある (アル=クルトゥビー 19:262-263 参照)。

3 「しっかりと記された」については、アーヤ*9 の訳注も参照。

4 あるいは復活の日*、そこに記されている内容を証言する (アッ=シャウカーニー 5:535 参照)。

5 地獄にいる (現世での) 自分たちの敵が罰される様子を見る、という解釈もある (アル=バガウィー 5:226 参照)。包る者章 42 の訳注も参照。

6 彼ら善行者たちがその「封印」を解くまでは、誰の手も触れることがない (アル=バガウィー 5:226 参照)。

7 天国の民の飲み物については、サード章 51、整列者章 45-47、詳細にされた章 31、ムハンマド*章 15、出来事章 17-19、人間章 5-6、17-18、21、消息章 34 も参照。

8 この「封印」には、「混ぜ物」「最後の味、あるいは残り香」といった解釈もある (アル=クルトゥビー 19:265 参照)。

27. そして、その混ぜ物はタスニーム¹からのもの。
28. (つまり、) 側近^{そっきん}たち²がそこから飲む、泉である。
29. 本当に、罪惡^{ざいあく}に手を染めていた者たちは(現世で)、信仰に入^こった者たち^{あざけ}を嘲り笑っていた。
30. また、彼らのもとを通りかかった時には、(馬鹿^{ばか}にして) 目^め配^{くば}せし合っていた。
31. また、自分たちの家族のもとに帰った時には、(信仰者たちを茶化^{ちやか}す話^わに) 興^{きよう}じながら帰ったものだった。
32. そして彼らを見た時には、(こう) 言ったのだ。「本当にこれらの者たちは、まさしく迷った者たちだ」。
33. 彼ら(罪惡者^{ざいあく}たち)は、彼ら(信仰者^{しんぎやう}たち)に監視役^{かんしやく}³として遣^{つか}わされたのではないというのに。
34. ならば、(復活の) その日には、信仰した者たちが不信仰者^{ふしんぎやう}*たちを笑うのだ。
35. 寝台^{なぐ}の上で、(アッラー*と天国の美を) 眺めつづ。⁴
36. 一体、不信仰者^{ふしんぎやう}*たちは、自分たちが(現世で) していた(罪深い) こと(の応報^{おうほう})を、報^{むく}われたではないか?⁵

وَمِنْ لَّجُئِهِمْ نَسْنِيبٌ ﴿٢٧﴾

عَيْنًا يَشْرَبُ بِهَا الْمُقَرَّبُونَ ﴿٢٨﴾

إِنَّ الَّذِينَ أَجْرَمُوا كَانُوا مِنَ الَّذِينَ ءَامَنُوا يَضْحَكُونَ ﴿٢٩﴾

وَإِذَا مَرُّوا بِهِمْ يَتَغَامِرُونَ ﴿٣٠﴾

وَلَإِنَّا نَفْعِلُ إِلَىٰ أَهْلِهِمْ أَنْقَابُكَهَيْنَ ﴿٣١﴾

وَإِذَا رَأَوْهُمْ قَالُوا إِنَّ هَٰؤُلَاءِ لَضَالُّونَ ﴿٣٢﴾

وَمَا أَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ حَفَظِينَ ﴿٣٣﴾

فَالْيَوْمَ الَّذِينَ ءَامَنُوا مِنَ الْكُفَّارِ يَضْحَكُونَ ﴿٣٤﴾

عَلَى الْأَرَآئِكِ يَنْظُرُونَ ﴿٣٥﴾

هَلْ تُؤْتُونَ الْكُفَّارَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ﴿٣٦﴾

- 1 「タスニーム」は「スイナーム(高い場所)」という語から派生した言葉と言われ、高い場所から、天国の民の部屋や家へと流れ注ぐ飲み物。あるいは空中を流れ、彼らの杯にちょうどいい塩梅(あんばい)で注がれる飲み物(アル=バガウィー5:226 参照)。
- 2 この「側近たち」は、天国の民でも最良の者たちのこと(アル=クルトゥビー19:266 参照)。
- 3 信仰者たちが迷いの中にあるという虚偽(きよぎ)の主張をすべく、その行いを見守る「監視役」のこと(アッ=サアディー916 頁参照)。
- 4 アーヤ*23の訳注も参照。
- 5 これは、「不信仰者*たちは…確かに報われた」という意味を表わす、断定の疑問形(イブン・アーシュール 30:215 参照)。

第84章

割れる章（アル＝インシカーク）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. （復活の日*に、）天が割れ、²
2. それ（天）が自分の主*（のご命令）を聞き、
（そのご命令への服従が）義務づけられた時、
3. また、（山々が粉々にされて）大地が伸ばされ、
4. それ（大地）がその中にあるもの（死んだ人々）を投げ出し、（彼らを）すっかり吐き出し、
5. それ（大地）が自分の主*（のご命令）を聞き、
（そのご命令への服従が）義務づけられた時、
6. 人間よ、本当にあなたは、あなたの主*へと
懸命に励む者であり、そして（復活の日*には）かれ³と拝謁する身の上なのだ。
7. それで自分の（行いの）帳簿を、右手に渡された者はといえば、
8. 易しい清算で、清算され、⁴

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا السَّمَاءُ انشَقَّتْ ①

وَأُذُنَتْ لَهَا وَحُفَّتْ ②

وَلَاذًا الْأَرْضُ مَدَّتْ ③

وَأَلْقَتْ مَا فِيهَا وَتَخَلَّتْ ④

وَأُذُنَتْ لَهَا وَحُفَّتْ ⑤

يَا أَيُّهَا الْإِنْسَانُ إِنَّكَ كَادِحٌ إِلَىٰ رَبِّكَ كَدْحًا ⑥
فَمُتْلَقِيهِ ⑦

فَأَمَّا مَنْ أَوْفَىٰ كِتَابَهُ بِيَمِينِهِ ⑧

فَسَوْفَ يَحْصِبُ حَصَابًا يَغِيرُ ⑨

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。前半では、復活の日*と、それが起きる時の出来事が描かれると共に、信仰者と不信仰者*の清算の様子が描写される。そして後半では、アッラー*からの啓示も復活も信仰しないシルク*の徒に、厳しい警告が放たれる。

2 識別章 25 も参照（アル＝クルトゥビー 19:244 参照）。

3 その他、「自らの善惡の行いと直面する」という解釈もある（イブン・カスィール 8:356 参照）。

4 高壁章 8 の訳注も参照。また、この時の様子については夜の旅章 13-14、71 とその訳注、洞窟章 49、真実章 19 以降なども参照。

9. 嬉々として（天国にいる）自分の家族¹のところへ、戻って行くことになるう。
10. また、自分の（行いの）帳簿²を自らの背後から渡された者はといえば、²
11. （自ら^{みづか}に対して）破滅^{はめつ}を祈り、³
12. 烈火^{れつ}に入^{あぶ}って炙^{あぶ}られることとなるう。
13. 実に彼は、（自分の行く末も考えず、）自分の家族のもとで嬉々としていたのだから。
14. 実に彼らは、（清算^{そうぞうしめ}のために創造主のもとへ）戻ることなどあるまい、と考えていたのだ。
15. いや、（彼は蘇^{よみがえ}られ、行いの報^{むく}を受ける、）本当にかれの主^{しゅ}*はもとより、彼のことをよくご覧^{らん}になるお方であったのだ。
16. われはまさに、夕焼け^{ちか}にかけて誓^{ちか}う。⁴
17. また、夜と、それが集めたもの⁵にかけて、
18. また、（その光と形が）満ちた月にかけて（誓^{ちか}う）。

وَيَقْلِبُ إِلَىٰ أَهْلِهِ مَسْرُورًا ﴿٩﴾

وَأَمَّا مَنْ أُوتِيَ كِتَابَهُ وَرَأَاهُ ظَهْرَهُ ﴿١٠﴾

فَسَوْفَ يَدْعُو بُرُورًا ﴿١١﴾

وَيَصْلَىٰ سَعِيرًا ﴿١٢﴾

إِنَّهُ كَانَ فِي أَهْلِهِ مَسْرُورًا ﴿١٣﴾

إِنَّهُ ظَنَّ أَنْ لَنْ يَحْجُوزَ ﴿١٤﴾

بَلَىٰ إِنَّ رَبَّهُ كَانَ بِهِ بَصِيرًا ﴿١٥﴾

فَلَا أَقْسِمُ بِالْآنِفِ ﴿١٦﴾

وَاللَّيْلِ وَمَا وَسَقَ ﴿١٧﴾

وَالْقَمَرِ إِذَا اتَّسَقَ ﴿١٨﴾

- 1 この「家族」の解釈には、「近親の内の、天国の住人」「現世で自分の妻子だった者たちで、先に天国に入った者たち」「アッラーが天国の民のために創造した、配偶者たち」「それら全員」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー5:541 参照）。
- 2 この日、彼らは右手を首に巻き付けられて縛（しば）られ、左手は背中に回されている状態なのだという（アル＝バガウィー5:229 参照）。真実章 25 も参照。
- 3 この情景についての詳細については、識別章 13-14 とその訳注を参照（前掲書、同頁参照）。
- 4 アーヤ*16-18 の、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。
- 5 「夜が集めたもの」とは、昼間に活動する鳥類や動物を始め、夜に安らぎ、静かになる、全ての創造物のことを指すとされる（アル＝カーシミー17:6110 参照）。

19. (人々よ、) あなた方は必ずや、ある段階から (別の) 段階へと、乗り次いで (移転して) 行くのである。¹
20. では、彼らが (アッラー*と最後の日*を) 信じないのは、どうしたわけか？
21. そして、彼らに対してクルアーン*が誦まれても、彼らがサジダ*しないのは？ (読誦のサジダ*)
22. いや、不信仰に陥った者*たちは、(真実を) 嘘呼ばわりしている。
23. アッラー*は、彼らが (胸の内に) 包み隠していること²を、最もよくご存知なのに。
24. ならば、彼らに痛ましい懲罰の占報を告げよ。³
25. 但し、信仰して正しい行い*を行う者たちは、別である。彼らには (来世で)、尽きることのない褒美⁴があるのだ。

لَتَرْكَبُنَّ طَبَقًا عَنْ طَبَقٍ ﴿١٩﴾

فَمَا لَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٢٠﴾

وَإِذَا قُرِئَ عَلَيْهِمُ الْقُرْآنُ لَا يَسْجُدُونَ ﴿٢١﴾

بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا يَكْذِبُونَ ﴿٢٢﴾

وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا يُوعُونَ ﴿٢٣﴾

فَبَشِّرْهُمْ بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ﴿٢٤﴾

إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ ﴿٢٥﴾

1 精液、凝血、肉塊、魂が吹き込まれた状態、死、復活、という段階のこと (ムヤッサル 589 頁参照)。巡礼*章 5、信仰者たち章 13-16 も参照。また、「復活の日*」の厳しい状況の変化」「過去の不信仰な民*の宗教へと逆行すること」「順境と逆境、貧富、健康状態などの変化」「現世から来世への移行」といった解釈もある (アル=クルトゥビー 19:278-280 参照)。

2 つまり、クルアーン*が真実であることを知っていながら、それを頑迷 (がんめい) に拒んでいること (ムヤッサル 589 頁参照)。

3 「…懲罰の占報を告げよ」については、イムラーン家章 21 の訳注を参照。

4 「尽きることのない褒美」については、詳細にされた章 8 の訳注を参照。

第 85 章
星座章 (アル=ブルージュ) 1

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 星座を擁する天にかけて、²
2. また、約束された（復活の）日*にかけて、
3. また、立ち会うものと立ち会われるものにかけて（誓う）、³
4. 堀の仲間たち⁴が、成敗されますよう。
5. つまり、燃料がくべられた炎という（堀の）。
6. 彼らが（信仰を棄てない信仰者たちを、その炎で罰するべく、）そこ（の淵）に腰かけた時のこと、
7. 自分たちが信仰者たちにすること（懲罰）を、見物しつつ。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الْبُرُوجِ ①

وَالْيَوْمِ الْمَوْعُودِ ②

وَسَآهِدٍ وَشَهِيدٍ ③

فُتِلَ أَصْحَابُ الْأُخُدُودِ ④

النَّارِ ذَاتِ الْوُودِ ⑤

إِذْهُمْ عَلَيْهَا فُتُودٌ ⑥

وَهُمْ عَلَى مَا يَفْعَلُونَ بِالْمُؤْمِنِينَ شُهُودٌ ⑦

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。過去の信仰者が不信仰者*から受けた抑圧と試練についての話が、マッカ*時代にクライシュ族*の不信仰者*から抑圧されていた信仰者への慰（なぐさ）めと占報、不信仰者*への警告と共に、取り上げられる。また、アッラー*の御力、復活、預言者*ムハンマド*の使徒*性、クルアーン*の真実が確証されている。
- 2 アーヤ*1-3 の、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。
- 3 「立ち会うもの（シャーヒド）」と「立ち会われるもの（マシュフード）」は、それぞれ「証言するもの、証言されるもの」とも解釈可能（イブン・ジュザイ 2:555 参照）。アル=ワーヒディー*によれば、大半の解釈学者は前者と後者を、それぞれ「金曜日とアラファの日（ズル=ヒッジヤ*月九日）」と解釈しているが、その他「その逆」「預言者*ムハンマド*（雌牛章 143、婦人章 41 とその訳注を参照）と復活の日*（フード*章 103 参照）」「人間と復活の日*」など、非常に多くの説がある（23:380-383 参照）。
- 4 「堀の仲間たち」とは、信仰に入った自国民に対して、堀を掘ってその中に火をつけ、信仰を捨てなかった者をその中に放り込んで殺害した、不信仰者*の王とその手下たちのこと（ムスリム「信心深さと心温まる話の書」73 参照）。彼らが殺害した信仰者たちについては、「預言者*ムハンマド*が遣わされるより四十年前の、イエメンのキリスト教徒*」「イスラール=イルの民*」「エチオピアの民」「ペルシャの民」などといった諸説がある（アル=クルトゥビー 19:289-290 参照）。

8. そして、彼ら（^{ほり}傭の仲間たち）が彼ら（信仰者たち）を咎めたのは、彼ら（信仰者たち）が^{いりよく}偉力ならびなく*、^{しょうさん}称賛されるべき*アッラー*を信じるがゆえに外ならなかった。
9. 諸天と大地の王権が^{ぞく}属するお方（であるアッラー*）を。アッラー*は、全てのことの証人であられる。
10. 本当に、信仰者の男たちと信仰者の女たちを火（という試練）にかけ、その後に悔悟しなかった者たち、彼らにこそは地獄の^{ちよう}懲罰があり、彼らにこそは、（^{ちようぼう}焼き尽くす）炎の懲罰がある。
11. 本当に、信仰して正しい行い*を行う者たち、彼らにこそは、その下から河川が流れる楽園がある。それは大いなる勝利なのだ。
12. 本当にあなたの上*の（^{しゆ}懲罰による）^{ちようぼう}捕らえ方は、実に^{つうれつ}痛烈なのである。
13. 本当にかれこそは、（^{そうぞう}創造を）始められ、（それを）^{もど}お戻しになるのだ。
14. そしてかれは、^{ゆる}赦し深いお方、^{ちようあい}寵愛深い*お方、
15. ^{えい}栄^よ誉^み高き御座^{みくら}の主^{ぬし}、
16. お望みのことを決行されるお方である。
17. （使徒*よ、）あなたに、（自分たちの^{よげんしゃ}預言者*に対して^{ぐんぜい}集結した、不信仰な）^{とど}軍勢の話は届いたか？

وَمَا نَقْمُوا مِنْهُمْ إِلَّا أَنْ يُؤْمِنُوا بِاللَّهِ الْعَزِيزِ
الْحَمِيدِ ﴿٨﴾

الَّذِي لَهُ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَاللَّهُ عَلَى كُلِّ
شَيْءٍ شَهِيدٌ ﴿٩﴾

إِنَّ الَّذِينَ قَتَلُوا الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ فَمَزَاجُ
فُلْهُمُ عَذَابٌ جَهَنَّمُ وَلَهُمْ عَذَابُ الْحَرِيقِ ﴿١٠﴾

إِنَّ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ
جَنَّاتُ تَجْرَى مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ ذَلِكَ الْفَوْزُ
الْكَبِيرُ ﴿١١﴾

إِنْ يَبْطَلْ رَيْكَ لَشَدِيدٌ ﴿١٢﴾

إِنَّهُ هُوَ بَدِئُ وَيُعِيدُ ﴿١٣﴾

وَهُوَ الْغَفُورُ الْودُودُ ﴿١٤﴾

دُؤَالْعَرْشِ الْمَجِيدُ ﴿١٥﴾

فَعَالٌ لَمَّا رِيدُ ﴿١٦﴾

هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ الْجُنُودِ ﴿١٧﴾

1 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

18. フィルアウン*とサムード*の（話は）？¹
19. いや、不信仰に陥^{おちい}った者*たちは、（彼ら以前の^{しと}不信仰者*たちと同様、使徒*と啓示^{うそ}の）嘘呼ばわりをしており、
20. アッラー*は彼らの後方から、悉く包圍^{ことごと}されるお方なのだ。²
21. いや、それは栄^{えい}誉^よ高きクルアーン*³なのである、
22. （いかなる改変からも無事な、）守られし碑板^{ひばん}*の中の。

فِرْعَوْنَ وَثَمُودَ ﴿١٨﴾

بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا فِي تَكْذِيبٍ ﴿١٩﴾

وَاللَّهُ مِنْ وَرَائِهِمْ مُحِيطٌ ﴿٢٠﴾

بَلْ هُوَ قُرْآنٌ مَجِيدٌ ﴿٢١﴾

فِي لَوْحٍ مَحْفُوظٍ ﴿٢٢﴾

1 ここで特にフィルアウン*とサムード*だけが取り上げられているのは、比較的后代に滅亡した前者は啓典の民*らによく知られており、一方後者は、比較的先代に滅亡したにも関わらず、アラブの地に居住していた民で、アラブ人たちによく知られていたからだと言われる（アル＝クルトゥビー19:298 参照）。

2 アッラー*は彼らを、その知識と御力によって掌握（しょうあく）されており、彼らの行いは全てアッラー*に筒拔（つつぬ）けなのである（ムヤッサル 590 頁参照）。

3 つまりそれは、シルクの徒*らが主張していたような詩、占い、魔術などではなく、宗教的・現世的諸事に関する様々な教えを明らかにする、この上ない誉（ほま）れ、高貴さ、祝福にあふれた啓典である（アッ＝シャウカーニー5:552 参照）。

第 86 章
おとず
夜訪れるもの章 (アッ=ターリク) ¹

じ ひ じ あい
慈悲あまねく* 慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 天と、夜訪れるものにかけて (誓う)。²
2. そして、夜訪れるものが何かを、何があなたに知らせるか？
3. (それは) 穿ち煌く星³である。
4. いかなる者でも、その上に見守る者 (天使*)
⁴がついていない者はない。
5. では人間に、自分が何から創られたのか、
考えさせてみよ。
6. 彼は、射出する液体⁵から創られたのだ。
7. 後背部と胸部の間から分泌される (、液体
から)。⁶

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالسَّمَاءِ وَالطَّارِقِ ①

وَمَا أَدْرَاكَ مَا الطَّارِقُ ②

النَّجْمُ الثَّاقِبُ ③

إِنْ كُلُّ نَفْسٍ لَمَّا عَلَيْهَا حَافِظٌ ④

فَلْيَنْظُرِ الْإِنْسَانُ مِمَّ خُلِقَ ⑤

خُلِقَ مِنْ مَّاءٍ دَافِقٍ ⑥

يَخْرُجُ مِنْ بَيْنِ الصُّلْبِ وَالتَّرَائِبِ ⑦

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。死後の清算と復活が、それが全能の創造主アッラー*にとって可能であることの証明と、復活の日*に対する警告と共に、確証される。そして復活を約束するクルアーン*の真実性の強調、不信仰者*に対するアッラー*の懲罰の警告と共に、スーラ*は幕(まく)を閉じる。
- 2 アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。
- 3 夜に現われ、昼には姿を隠す星が、「夜訪れるもの」と形容されている (イブン・カसीール 8:374 参照)。
- 4 この天使*たちについては、雷鳴章 11 の訳注も参照 (前掲書 8:375 参照)。
- 5 「射出する液体」とは、子宮に射出される精液のこと (ムヤッサル 591 頁参照)。
- 6 「後背部と胸部」には、「男性の精液が、そこで分泌される」「男性の精液が後背部で、女性の精液が胸部で分泌される」という解釈 (アッ=サアディー 919 頁参照) のほか、「前者が男性、後者が女性を表している」という説もある (アル=カーシミー 17:6124 参照)。また、人間の創造の変遷については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 も参照。

8. 本当にかれ（アッラー*）は、彼を（その死後に、生きた状態へと）戻すことがお出来のお方。¹

إِنَّهُ عَلَى رَجْعِهِ لَقَادِرٌ ﴿٨﴾

9. 秘められたことが試される（、復活の）日*に。²

يَوْمَ تَبْلَى السَّرَائِرُ ﴿٩﴾

10. ならば、彼には（自分自身からアッラー*の懲罰を押しおける、）いかなる力も援助者もない。

فَمَا لَهُ مِنْ قُوَّةٍ وَلَا نَاصِرٍ ﴿١٠﴾

11. 回歸するもの³を有する、天にかけて、

وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الرَّجْعِ ﴿١١﴾

12. また、（植物を生えさせるべく、）亀裂を有する大地にかけて（誓う）、⁴

وَالْأَرْضِ ذَاتِ الصَّدْعِ ﴿١٢﴾

13. 本当にそれ（クルアーン*）は、（真理と虚偽を）裁断する御言葉であり、

إِنَّهُ لَقَوْلُ فَصْلٍ ﴿١٣﴾

14. 戯言ではない。

وَمَا هُوَ بِالْهَزْلِ ﴿١٤﴾

15. 本当に彼ら（使徒*とクルアーン*を嘘呼ばわりする者たち）は、（真理を退けるための）策略⁵を講じている。

إِنَّهُمْ يَكِيدُونَ كَيْدًا ﴿١٥﴾

16. われも策略⁵を講じるのだが。

وَأَكِيدُ كَيْدًا ﴿١٦﴾

17. ならば（使徒*よ）、（懲罰が下ることを急がずに、）不信仰者*に猶予を与えよ。彼らに暫し、猶予を与えるのだ。

فَوَيْلٌ لِلْكَافِرِينَ أَصَابَهُمُ رُؤْيَا ﴿١٧﴾

1 関連するアーヤ*として、ビザンチン章 27 も参照（イブン・カシール 8:375 参照）。

2 その日、善悪の別なく、人が隠していた全ての物事と、心に秘めた信仰心と不信仰が露（あら）わになる（アル＝クルトゥビー 20:8 参照）。

3 「回歸するもの」の解釈には、「（降っては止むのを繰（く）り返す、あるいは海から水を湛（た）えて大地に戻って来る）雨」「（出現しては姿を隠す）天体」「（人間の行いと共に、天へと戻って行く）天使*」などといった諸説がある（アッ＝シャウカーニー 5:560-561 参照）。

4 同様のアーヤ*として、眉をひそめた章 26 も参照。また、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

5 この「策略」とは、彼らが知らない所から、徐々に破滅（はめつ）へと導いて行くこと（アル＝バガウィー 5:240 参照）。その具体例については、家畜章 44 を参照。

第 87 章
至高者章 (アル=アラー) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. あなたの主*の御名を称え*よ。
2. 創造され、(創造物を完璧に) 整えられたお方を。
3. また、(全てを) 調整し給い、お導きになった²お方を。
4. また、(家畜に) 食ませる (緑の牧) 草をお出しになり、
5. そしてそれを、黒ずんだ枯れ草とされたお方を。
6. (使徒*よ、) われら*は、あなたに (ジブリール*を介して、クルアーン*を) 読ませよう。そして、あなたは (それを) 忘れない。
7. 但し、アッラー*がお望みになったもの³は別だが。本当にかれは、露わなものの、隠されるものもご存知なのだから。
8. また、われら*はあなたに、(あらゆる物事における) 容易さへと導いてやろう。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَبِّحْ اسْمَ رَبِّكَ الْأَعْلَى ①

الَّذِي خَلَقَ فَسَوَّى ②

وَالَّذِي قَدَّرَ فَهَدَى ③

وَالَّذِي أَحْرَجَ الْمَرْعَى ④

فَجَعَلَهُ عُتَاةً أَحْوَى ⑤

سَقَرْتُمْ فَلَا تَكْسِبُ ⑥

إِلَّا مَا شَاءَ اللَّهُ إِنَّهُ يَعْلَمُ الْجَهْرَ وَمَا يَخْفَى ⑦

وَيُنِيرُكَ لِلْيُسْرَى ⑧

1 マッカ*啓示 (マディーナ*啓示説もあり)。スーラ*名は、冒頭に登場するアッラー*の美名に由来。全てを最善の形に整え、秩序 (ちつじょ) づけられた創造主アッラー*の賛美によって始まり、次いでイスラーム*布教における預言者*ムハンマド*への教示、使命、布教に対する人々の態度が示される。そして来世における信仰者と不信仰者*の結末が、各々への占報と警告と共に描かれ、それらの教えが過去の使徒*らの教えと共通のものであるということ強調しつつ、スーラ*は幕を閉じる。尚、このスーラ*は圧倒的事態章と共に、預言者*が二つのイード*の礼拝と金曜日の合同礼拝において、よく読誦したスーラ*である (ムスリム「金曜日の書 62 参照」)。

2 この「導かれた」については、ター・ハー章 50 の訳注を参照。

3 アッラー*が、かれがご存知になる利益ゆえ、それを忘れさせることが英知に適 (かな) うもののこと (ムヤッサル 591 頁参照)。雌牛章 106 の、アーヤ*の撤回についての訳注も参照。

9. ならば(使徒*よ、あなたに啓示されたもので、民に)教訓を与えよ。もし、教訓が役立つならば(、だが)¹。
10. (自らの主*を)恐れる者は教訓を受け、
11. 最も不幸な者は、それを回避しよう、
12. 至大なる業火^{ごうか}に入^あって炙^{あぶ}られる(者は)。
13. それから、彼はそこで(安らぐために)死ぬことも、(有益な生を)生きることもない。
14. 自^{みづか}らを努^{つと}めて清めた者²は、確かに成功したのである。
15. そして、自^{みづか}らの主*の御名^{しゅ}を唱念^みし^な、礼拝^{しょうねん}した(者は)³。
16. いや、(人々よ、)あなた方は(来世^{あんねい}の)安寧よりも)、現世の生活の方を愛している。
17. 来世^{あんねい}(の)安寧は(現世のそれ)より善く、より長く続くもののに。
18. 実にこれ⁵は、まさしく最初の書巻^{しょかん}に(確証されて)あるのである。
19. イブラーヒーム*と、ムーサー*の書巻^{しょかん}に。

فَذَكِّرْ إِنْ نَفَعِ الذِّكْرُ ٩

سَيَذَكِّرْ مَنْ يَخْشَى ١٠

وَيَجْزِيهَا الْأَلْفَى ١١

الَّذِي يَصِلَى النَّارَ الْكُبْرَى ١٢

ثُمَّ لَا يَمُوتُ فِيهَا وَلَا يَحْيَى ١٣

فَدَافَلِحْ مَنْ تَزَكَّى ١٤

وَذَكَرَ اسْمَ رَبِّهِ فَصَلَّى ١٥

بَلْ تُؤْثِرُونَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا ١٦

وَالْآخِرَةَ خَيْرٌ وَأَنبَقَى ١٧

إِنَّ هَذَا لَآلِى الصُّحُفِ الْأُولَى ١٨

صُّحُفِ إِبْرَاهِيمَ وَمُوسَى ١٩

1 つまり、教訓に対して頑固で、それを受け入れられないような者の教訓に勤(いそ)しむことはない、ということ(ムヤッサル 591 頁参照)。または、「教訓が役立ったならば」の後に「あるいは、役立たなくても」という文が省略されている、という説もある(アル=バガウィー5:242 参照)。

2 シルク*や不正*、悪い品性から自らを「清めた者」のこと(アッ=サアディー920 頁参照)。ター=ハー章 76 の同語についての訳注も参照。

3 アッラー*を想起し、その唯一性*を信じ、かれに祈り、かれのご満悦に沿う行いを行うこと(ムヤッサル 592 頁参照)。

4 これは一説に、毎日五回の義務の礼拝のこと(イブン=カスィール 8:381 参照)。

5 この「これ」は、特にアーヤ*14-17 を指すとされる(アッ=タバリー10:8597 参照)。

第 88 章
圧倒的事態章（アル=ガーシヤ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. （使徒*よ、）圧倒的事態²の話は、あなたに届いたか？
2. その日、（不信仰者*たちの）顔は、（懲罰への）恐怖に陥っている。
3. （それらの顔は、過酷な）労役に就き、消耗している。
4. （それらは、）酷熱の業火に入って炙られる。
5. （それらは、）煮えたぎる泉から、飲まされる。³
6. 彼らには、忌々しい植物⁴しか、食べ物がない。
7. （それは彼らを）太らせもしなければ、（彼らの）飢えを満たしてもくれない。
8. （復活の）その日、（信仰者たちの）顔は、恩恵を享受している。
9. （それらは、）自分たちの（現世で行った）努力（への褒美）ゆえに満足している、

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ الْغَاشِيَةِ ①

وَجُوهٌ يَوْمَئِذٍ خُشِعَةٌ ②

عَامِلَةٌ نَاصِبَةٌ ③

تَصَلَّى نَاكَرًا مِّرَّةً ④

تُسْقَى مِنْ عَيْنٍ آنِيَةٍ ⑤

لَيْسَ لَهُمْ طَعَامٌ إِلَّا مِنْ صَرِيرٍ ⑥

لَا يُسْمِنُ وَلَا يُغْنِي مِنْ جُوعٍ ⑦

وَجُوهٌ يَوْمَئِذٍ نَاعِمَةٌ ⑧

لِسَعْيِهَا رَاضِيَةٌ ⑨

- 1 マッカ*啓示。スーラ*名は、冒頭に出現する同語に由来。復活の日*が、その日の信仰者と不信仰者*の対照的な状態の描写と共に、取り上げられる。また、自然界の観察によって、創造主アッラーの唯一性*と全能性を確認することが促（うなが）され、アッラー*の教えの伝達義務（ぎむ）と、それに背いた者の悪い結末が示される。スーラ*の最後は、再び復活と清算の確証で締めくくられる。至高者*章と共に、預言者*ムハンマド*が折に触れてよく読誦（どくしょう）したスーラ*（至高者章の冒頭の訳注も参照）。
- 2 「圧倒的事態」とは、その恐怖で人々を圧倒する、復活の日*のこと（ムヤッサル 592 頁参照）。
- 3 地獄の民の飲食物については、洞窟章 29、イブラーヒーム*章 16-17、整列者章 62-66、サード章 57-58、煙霧章 43-46、ムハンマド*章 15、出来事章 52-55、衣を纏（まと）う者章 13、真実章 36-37 など参照。
- 4 「忌々しい植物」の解釈には、「炎の木」「ザクーム（夜の旅章 60「呪われた木」の訳注を参照）」「棘のある植物の一種」といった諸説がある（イブン・カシール 8:385 参照）。

10. 高き樂園で。
11. (それらは、)そこで戯言^{たわごと}¹を耳にすることもない。
12. そこには、流れる泉がある。
13. そこには、高い寝台がある。
14. また、配置された杯^{はい}、
15. 並べられた肘掛け^{ひじか}、
16. 敷き広げられた絨毯^{じゅうたん}がある。
17. 一体、彼ら(不信仰者*たち)は、ラクダが
いかに創られたのか、見て(考え)ないのか？
18. また天が、いかに上げられたのかを？
19. また、山々がいかに据え付け^すられたのかを？
20. また、大地がいかに平坦^{へいたん}に伸ばされたかを？
21. ならば(使徒*よ、人々に、啓示^{けいじ}で)教訓を
与えよ。あなたは教訓を与える者でしかない
のだから。
22. あなたは、彼らに対(して信仰へと無理強^{むりじ}
い)する制圧者^{せいあつ}などではない。
23. 但し、(教訓に)背を向け、不信仰(の固^こ
執^{しつ})に陥^{おちい}った者は別で、
24. アッラー*は彼を(、業火^{ごうか}という)最大の懲^{ちよう}
罰^{ばつ}で罰される。
25. 本当にわれら*にこそ、彼らの(死後の)帰^き
り所があるのだから。
26. それから、本当にわれら*にこそ、彼らの(行^い
いの)清算^{しゆだ}が委ねられているのだから。

فِي حَتَّةٍ عَالِيَةٍ ﴿١٠﴾
لَا تَسْمَعُ فِيهَا لَغْوَةً ﴿١١﴾
فِيهَا عَيْنٌ جَارِيَةٌ ﴿١٢﴾
فِيهَا سُرُرٌ مَّرْفُوعَةٌ ﴿١٣﴾
وَأَكْوَابٌ مَوْضُوعَةٌ ﴿١٤﴾
وَمَنَارِقُ مَصْفُوفَةٌ ﴿١٥﴾
وَزُرَافِقٌ مُبْتُذَنَةٌ ﴿١٦﴾
أَفَلَا يَنْظُرُونَ إِلَى الْإِبِلِ كَيْفَ خُلِقَتْ ﴿١٧﴾
وَالِىَ السَّمَاءِ كَيْفَ رُفِعَتْ ﴿١٨﴾
وَالِىَ الْجِبَالِ كَيْفَ نُصِبَتْ ﴿١٩﴾
وَالِىَ الْأَرْضِ كَيْفَ سُطِحَتْ ﴿٢٠﴾
فَذَكِّرْ إِنَّمَا أَنْتَ مُذَكِّرٌ ﴿٢١﴾
لَسْتُ عَلَيْهِمْ بِمُصْطَبِرٍ ﴿٢٢﴾
إِلَّا مَن تَوَلَّى وَكَفَرَ ﴿٢٣﴾
فِيْعَذِيبُهُ اللَّهُ الْعَذَابَ الْأَكْبَرَ ﴿٢٤﴾
إِنَّ إِلَيْنَا إِيَابَهُمْ ﴿٢٥﴾
نُؤْتِيهِمْ عَلَيْهِمْ تَاجِرًا جِزَاءَهُمْ ﴿٢٦﴾

1 「戯言」については、信仰者たち章3の同語の訳注を参照(アッサーディー921頁参照)。

第 89 章
暁章 (アル=ファジュール) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 暁^{あかつき}にかけて、²
2. また、十夜³にかけて、
3. また、偶数と奇数⁴にかけて、
4. また、(その闇と共に) 流れ行く夜にかけて (誓う)。
5. その中には、分別ある者への誓いがあるのではないか？
6. (使徒*よ、) 一体あなたは、あなたの主*
がアード*に対してされたことを、見なかったのか？
7. 柱の主、イラム⁵に対して？

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْفَجْرِ ①

وَلَيَالٍ عَشْرٍ ②

وَالشَّفْعِ وَالْوَتْرِ ③

وَالْأَيْلِ إِذَا يَسِرَ ④

هَلْ فِي ذَلِكَ مَسْمُورٌ لِذِي حِجْرِ ⑤

أَلَمْ تَرَ كَيْفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِعَادٍ ⑥

إِذْ مَكَانَ الْعِمَادِ ⑦

- 1 マッカ*啓示で学者間の意見は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。過去に地上で栄えてはいたが、その不信仰ゆえに滅ぼされた民の言及と共に、現世と来世における不信仰者*への応報が警告される。また、アッラー*と最後の日*を信仰しない者の誤った人生観、諸々の悪行が描かれた後、復活の日*の恐るべき出来事の描写と共に、再び彼らの悪い結末への警告が放たれる。スーラ*の最後は、信仰者の誉(ほま)れ高い結末が、不信仰者*とは対照的な形で描写され、締めくくられる。
- 2 アーヤ*1-4 における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。
- 3 この「十夜」は、非常に徳が多いとされる、ズル=ヒジヤ*月の最初の十日間であると考えられる(イブン・カスィール 8:390-391 参照)。
- 4 この「偶数と奇数」の解釈には、それぞれ「奇数回と偶数回の礼拝」「アラファの日(ズル=ヒジヤ*月九日)とイード*・アル=アドハー(同月十日の犠牲祭)」「(つがいとして、あるいは対極的な別のものと共に創られた)創造物と(唯一である)アッラー*」「文字通り、偶数と奇数、つまり全ての数」など、非常に多くの説がある(アル=クルトゥビー 20:39 - 41 参照)。
- 5 「イラム」は、アード*の民の部族名。彼らの住居は、「柱」によって非常に高く建築されたものだったとされる(ムヤッサル 593 頁参照)。

8. 諸国において、それと同様の（強^{きやう}勅^{しやく}かつ強^{きやう}力^{りき}な）ものは創^きられたことがなかった（、イラムに対して）。
9. また、溪谷^{けいこく}で岩を切り抜^ぬき（て、住居とし）たサムード^{*}に対して？
10. また、杭^{くい}¹の主^{ぬし}フィルアウン^{*}に対して？
11. （彼ら不信仰^{ふしやう}の民^{たみ}^{*}は、）諸国^{しよこく}で放埒^{ほうらつ}さの限^{かぎ}りを尽^{つく}くし、
12. そこにおいて腐敗^{ふはい}^{*}を散々^{さんざん}行^いい、
13. それで、あなたの主^{しゅ}^{*}がその上^{うへ}に、懲罰^{ちやうばつ}の鞭^{むち}を浴^あびせられた者^{もの}たち。
14. （使徒^{しと}^{*}よ、）本^{ほん}当^{とう}にあな^なたの主^{しゅ}^{*}は、監視^{かんし}の場^ばにおられるのだ。
15. 人間^{じんげん}というものは、その主^{しゅ}^{*}が彼^{かれ}を試練^{しれん}におかけになり、栄^{えい}誉^よをお授^{さず}けになり、恩^{おん}恵^{けい}を与^{たま}へ給^{たま}うた時^{とき}には、（こう）言う。「我が主^{しゅ}^{*}は、私^{わが}に栄^{えい}誉^よをお授^{さず}けになっ^なた」。
16. そして、かれが彼^{かれ}を試練^{しれん}におかけになり、彼^{かれ}にその糧^{かて}^{ひか}を控^{かへ}えられた時^{とき}には、（こう）言うのだ。「我が主^{しゅ}^{*}は、私^{わが}を卑^しめられ^いた」。²

الَّتِي تَرْتَجِلْنَ مِثْلَهَا فِي الْبِلَادِ ⑧

وَتَمُودَ الَّذِينَ جَابُوا الصَّخْرَ بِالْوَادِ ⑨

وَفِرْعَوْنَ ذِي الْأَوْتَادِ ⑩

الَّذِينَ طَغَوْا فِي الْبِلَادِ ⑪

فَاصْنُ فَوْفِهَا سُودًا ⑫

فَصَبَّ عَلَيْهِمْ رَبُّكَ سَوْطَ عَذَابٍ ⑬

إِنَّ رَبَّكَ لَبَاسِرٌ صَادِقٌ ⑭

فَأَمَّا الْإِنْسَانُ إِذَا مَا ابْتَلَيْنَاهُ رَبُّهُ فَكَرَّمَهُ،

وَنَعَّمَهُ، فَيَقُولُ رَبِّي أَكْرَمَنِ ⑮

وَأَمَّا إِذَا مَا ابْتَلَيْنَاهُ فَقَدَّرَ عَلَيْهِ رَقَعَهُ، فَيَقُولُ رَبِّي

أَهْدَنَنِ ⑯

1 この「杭」については、サード章 12 の訳注を参照。

2 現世におけるアッラー^{*}からの厚遇と恩恵を、アッラー^{*}の御許における自分自身の高貴さと、かれとの特別な間柄ゆえのものと考え、逆の場合には、それが自分に対するアッラー^{*}からの卑下（ひげ）であると考え、人間の一般的な性向を示している。しかし物質的な状況の良し悪しは、いずれもアッラー^{*}からの試練なのであり、アッラー^{*}はそのような状況において人が感謝するか、または忍耐^{*}するかをご覧になるのである（アッ=サアディー 923 頁参照）。サバア章 36 とその訳注も参照。

17. 断じて、そのような考えは正しく)ない!
いや、(榮譽はアッラー*への服従、辱め
はかれへの反抗によるものなのだ¹、)あな
た方は孤児を手厚く扱わず、
18. 貧者*らに食べさせることも勧め合わず、
19. 遺産をゴッそりと貪り、
20. 財産をこよなく愛している。
21. 断じて、そのような状態は正しく)ない!
大地が木っ端微塵に、粉々にされ、²
22. あなたの主*と、次から次へと隊列を組んだ
天使*が到来し、³
23. その日、地獄がもたらされる時⁴、その日に
(不信仰な)人間は教訓を受け(、悔悟す)
る⁵。(現世は終わってしまったというの
に、)教訓(と悔悟)が、どうして彼の役
に立とうか?
24. 彼は言う。「ああ、(来世での)我が人生
のため、あらかじめ(現世で、有益な行い
を)しておけばよかった!」
25. その日、誰もかれ(アッラー*)の懲罰の
ように罰することはなく、

كَذَٰلِكَ لَا تُكَرِّمُونَ الْيَتِيمَ ﴿١٧﴾

وَلَا تَحْضُونَهُ عَلَىٰ طَعَامِ الْمُسْكِينِ ﴿١٨﴾

وَتَأْكُلُونَ الرِّثَاءَ أَكْلًا لَّمَّا ﴿١٩﴾

وَتُحِبُّونَ الْمَالَ حُبًّا جَمًّا ﴿٢٠﴾

كَلَّا إِذَا دُكِّتِ الْأَرْضُ دَكًّا دَكًّا ﴿٢١﴾

وَجَاءَ رَبُّكَ وَالْمَلَكُ صَفًّا صَفًّا ﴿٢٢﴾

وَجِئْنَا يَوْمَئِذٍ بِجَهَنَّمَ يَوْمَئِذٍ يَتَذَكَّرُ
الْإِنْسَانُ وَأَنَّهُ لَآ إِلَهَ إِلَّا هُوَ ﴿٢٣﴾

يَقُولُ يَا لَيْتَنِي قَدَّمْتُ لِحَبِيبِي ﴿٢٤﴾

فَيَوْمَئِذٍ لَا يَعْدُبُ عَذَابُهُ أَحَدًا ﴿٢٥﴾

1 関連するアーヤ*として、婦人章 79、相談章 30 とその訳注も参照。

2 復活の日*の天変地異の様子については、洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏(まと)う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 など参照。

3 同様の状況を示すアーヤ*として、雌牛章 210 とその訳注、識別章 25、真実章 15-17 も参照。

4 その日、地獄は七万の手綱につけられて、持って来られる。その各々の手綱には、それを引っ張る七万の天使*がついている(ムスリム「天国とその享樂、及びその住人の描写の書」29、イブン・カスィール 8:399 参照)。

5 復活の日*の悔悟については、家畜章 158 とその訳注を参照。

26. 誰も、かれの縛り方しばのように縛しばることはない。
27. (アッラー*の唱念しょうねんと、かれへの信仰へと)
安らぐ魂たましいよ、
28. (アッラー*からの御おもてなしに) 満足し、
(アッラー*から) ご満悦まんえつを受けつつ、あな
たの主しゅ*へと戻もどるがよい。
29. そして、わが(正しき)僕たちしもべのところに
入り、
30. (彼らと共に、) わが楽園に入るのだ。

وَلَا يُؤْتِقُ وَثَاقَهُ أَحَدٌ ﴿٢٦﴾

يَا أَيُّهَا النَّفْسُ الْمُطْمَئِنَّةُ ﴿٢٧﴾

ارْجِعِي إِلَىٰ رَبِّكِ رَاضِيَةً مَّرْضِيَّةً ﴿٢٨﴾

فَادْخُلِي فِي عِبَادِي ﴿٢٩﴾

وَادْخُلِي جَنَّاتِي ﴿٣٠﴾



第90章

町章 (アル=パラド) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

- われはまさに、この町（マッカ*）において誓う。²
- （預言者*よ、）あなたはこの町で、許された者³である——
- また、生むものと生まれたもの⁴にかけて（誓う）。
- われら*は確かに、人間を（現世の）⁵ 辛勞⁶の中に創った。
- 一体、彼は思っているのか、（自分が集めた財産ゆえに、）誰も自分を掌握（し、罰）することなどない？
- 彼は（、得意になって）言う。「私は、山ほどの財産を使い切ったぞ」。
- 一体、彼は思っているのか、誰も彼を見ていなかったと？

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لَا أَقْسِمُ بِهَذَا الْبَلَدِ

وَأَنْتَ حِلٌّ بِهَذَا الْبَلَدِ

وَالْيَوْمِ وَالْأَمْسِ

لَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ فِي كَبَدٍ

أَيْحَسِبُ أَنْ لَنْ يَقْدِرَ عَلَيْهِ أَحَدٌ

يَقُولُ أَهْلَكْتُ مَا لَا بَلَاءَ

أَيْحَسِبُ أَنْ لَمْ يَرَهُ أَحَدٌ

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭のアーヤ*¹に登場する語に由来。人間が苦勞する存在であることが強調された後、アッラー*の存在と唯一性*を示す様々な印を目にし、正しい道と間違った道が明らかになった後に、アッラー*の教えに従わずに現世の楽しみにかまける不信仰者*に警告が向けられる。また来世で成功するためには、信仰、忍耐*、慈悲、善行、そこにおける助け合いが必要であることが明らかにされる。

2 アッラー*による、この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 これは預言者*が、マッカ*の神聖さ（雌牛章 125 の訳注も参照）にも関わらず、後にそこで戦うことを「許され」、開城することを約束するもの（アル=バガウィー5:254 参照）。その他「居住者」「アッラー*のご満悦を受けた善行者」「罪なき者」といった解釈もある（アル=クルトゥビー20:60-61 参照）。

4 「生むものと生まれたもの」の解釈には、それぞれ「アダム*とその子孫」「全ての生むものと、生まれるもの」「生む者と、不産の者」などの諸説がある（イブン・カシール 8:402-403 参照）。

5 「現世と来世での辛勞」「きちんと整った形に創った」などといった解釈もある（前掲書 8:403 参照）。

8. 一体、われら*は彼に、二つの眼を与えてやったのではないか？
9. また、一本の舌と、二つの唇^{くちびる}を？¹
10. また、われら*は彼を、二つの道筋^{みちすじ}²へと導^{みちび}いてやったのだ。
11. それで、どうして彼は、（その財産によって、来世という）険しい道（の踏破）へ飛び込まなかったのか？
12. （来世という）険しい道（の踏破）が何かを、あなたに知らせるのは何か？
13. （それは、）首³の解放。
14. または空腹の日に、食べ物を施^{ほどこ}すこと、
15. 近親^{きん}の孤児^じに、
16. あるいは、砂まみれの貧者^{ひんじや}*に。
17. それから彼は、信仰^{にんたい}し、忍耐^{にんじやう}*を勧め合い、（創造物に対する）慈悲^{じひ}を勧め合う者たちの一人とは（、ならなかったのか）？
18. それらの者たちは、右側の徒⁴。
19. そして、われら*の御徴^{みしるし}（アーヤ*）を否定する者たちは、左側の徒⁵。
20. 彼らには、密閉^{みつぺい}された業火^{ごうか}がある。

أَلَمْ جَعَلْ لَهُ عَيْنَيْنِ ۝٨

وَلِسَانًا وَشَفَتَيْنِ ۝٩

وَهَدَيْنَاهُ النَّجْدَيْنِ ۝١٠

فَلَا أَفْتَحُمُ الْعَقَبَةَ ۝١١

وَمَا أَذْرَكَ مَا الْعَقَبَةُ ۝١٢

فَكَرِهَ ۝١٣

أَوْ أَطْعَمُ فِي يَوْمٍ ذِي مَسْغَبَةٍ ۝١٤

يَتِمَّ مَا ذَا مَقْرَبَةٍ ۝١٥

أَوْ يَسْكُنَ كِنَانًا ذَا مَقْرَبَةٍ ۝١٦

ثُمَّ كَانَ مِنَ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَتَوَصَّوْا بِالصَّبْرِ وَتَوَصَّوْا بِالْمَرْحَمَةِ ۝١٧

أُولَئِكَ أَصْحَابُ الْمَيْمَنَةِ ۝١٨

وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَعَالِيَئَانَا هُمْ أَصْحَابُ الْمَشْأَمَةِ ۝١٩

عَلَيْهِمْ نَارٌ مُّؤَصَّدَةٌ ۝٢٠

- 1 つまり、それらのものを人間に備え付けられたアッラー*は、人間を蘇（よみがえ）らされ、その行いを全てご覧になることもお出来なのである（アル＝クルトウビー20:65 参照）。
- 2 アル＝バガウィー*によれば、大半の解釈学者は「二つの道筋」を、善と悪、真理と虚偽（きょぎ）、導きと迷いの道と解釈している。人間章3とその訳注も参照（5:256 参照）。
- 3 この「首」については、雌牛章177の訳注を参照（アッ＝サアディー924 頁参照）。
- 4 「右側の徒」については、出来事章8-9とその訳注を参照。
- 5 「左側の徒」についても、出来事章8-9の訳注を参照。

第91章
太陽章（アッ＝シャムス）¹



じ ひ じ あい
慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

1. 太陽と、その朝²にかけて、³
2. また、それに続い（て昇降^{しょうこう}し）た月にかけて、
3. また、それ（闇^{やみ}）⁴を開いた昼にかけて、
4. また、それ（大地^{おほ}）⁵を覆う夜にかけて、
5. また、天と、それを築^{きず}いたもの⁶にかけて、
6. また、大地と、それを平らに広げたもの⁷にかけて、
7. また、魂^{たましい}と、それを整え、^{ととの}
8. それに、その放逸^{ほういつ}さと敬虔^{けいけん}さ*⁷を吹き込んだもの^{ちか}にかけて（誓う）。
9. それを清めた者⁸は、確かに成功したのであり、

وَالشَّمْسُ وَضُحَاهَا ①

وَالْقَمَرُ إِذَا تَلَّهَا ②

وَالنَّهَارُ إِذَا جَلَّهَا ③

وَاللَّيْلُ إِذَا بَغَّسَهَا ④

وَالسَّمَاءَ وَمَا بَنَاهَا ⑤

وَالْأَرْضَ وَمَا طَحَاهَا ⑥

وَنَفْسٍ وَمَا سَوَّاهَا ⑦

فَالْهَمَّهَا فَجُورَهَا وَتَقْوَاهَا ⑧

فَذَافَلَعٍ مِّنْ رَّكْعَتِهَا ⑨

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。アッラー*の偉大な創造物における誓いの後、人間の真の成功と敗北とは何かが、確証される。また、サーリフ*とその民の出来事が、アッラー*の預言者*に対する不信仰への厳しい警告と共に、描写される。
- 2 この「朝」の解釈には、「光」「美しさ」「暑さ」「昼間」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー20:72-73 参照）。
- 3 アーヤ*1-8 までの、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。
- 4 「闇」のほかにも「太陽」「大地」「大地にあるもの」といった解釈がある（前掲書 20:74 参照）。
- 5 「太陽」という解釈もある（前掲書、同頁参照）。
- 6 つまり、「その構築」という意味。あるいは「アッラー*」のこと。アーヤ*6-8 の解釈も同様（前掲書、同頁参照）。
- 7 つまり善悪の道のこと（ムヤッサル 595 頁参照）。人間章 3 とその訳注も参照。
- 8 自らを罪や汚点から清め、アッラー*に対する服従により崇高なものとし、有益な知識と正しい行い*で高めた者のこと（アッ＝サアディー926 頁参照）。ター・ハー章 76、至高者章 14 の訳注も参照。

10. それを(罪で)埋もれさせた者は、確かに敗北したのだ。
11. サムード*は、そのひどい放埒さゆえに、(預言者*サーリフ*を)嘘つき呼ばわりした。
12. その(サムード*の部族の内、)最も不幸な者¹が立ち上がった時のこと。
13. それでアッラー*の使徒* (サーリフ*) は、彼らに言った。「アッラー*の雌ラクダ²(に危害を加えないこと)と、それに水をやること(において粗相がないよう、気をつけよ)」。
14. だが彼らは、彼(サーリフ*)を嘘つき呼ばわりして、それ(雌ラクダ)の腱を切った³。それでかれ(アッラー*)は、彼らをその罪ゆえに(懲罰で)覆い給い⁴、それ(サムード*)を等しく(滅ぼ)された。
15. そしてかれは、その結末を怖れることなどないのだ。⁵

وَقَدْ حَآبَ مَنْ دَسَّهَا ﴿١٠﴾

كَذَّبَتْ ثَمُودُ بِطَغْوَاهَا ﴿١١﴾

إِذْ انْبَعَثَ أَشْقَاهَا ﴿١٢﴾

فَقَالَ لَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ نَاقَةَ اللَّهِ وَسُقْيَاهَا ﴿١٣﴾

فَكَذَّبُوهُ فَعَقَرُوها فَكَذَّبُوا عَنْ آلِهَتِهِمْ رَبِّهِمْ
يَذَّبِهُمُ فَسَوْفَهَا ﴿١٤﴾

وَلَا يَحْأَفُ عِقْبَهَا ﴿١٥﴾

1 この「最も不幸な者」については、月章 29「仲間」の訳注を参照。

2 「アッラー*の雌ラクダ」という表現については、アル=ヒジュール章 29 の「わが魂」に関する訳注を参照。また、この話の詳細については、高壁章 73-77 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、月章 27-29 を参照。

3 「腱を切った」という表現については、高壁章 77 の訳注を参照。

4 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

5 このアーヤ*の解釈には、「アッラー*は、懲罰によるサムード*の結末など怖れない」「雌ラクダを屠(ほふ)った者は、自分がしたこと結末を怖れない」「サーリフ*は、サムード*の結末を怖れない」(アル=クルトゥビー20:79-80 参照)といった諸説がある。

第 92 章
夜章 (アッ=ライル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (その闇によって、大地を) 覆う夜にかけて、²
2. また、(その光で闇から) 露わになった昼にかけて、
3. また、男性と女性を創ったもの³にかけて(誓う)。
4. 本当にあなた方の行いは、実に多様⁴である。
5. (自分の財産を) 与え⁵、(アッラー*を) 畏れ*、
6. 最善のもの⁶を信じる者はといえば、
7. われら*が彼を、(善、正しさ、あらゆる物事における) 容易さへと導いてやろう。⁷

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَاللَّيْلُ إِذَا بَغَشَّيْ

وَالنَّهَارُ إِذَا تَجَلَّى

وَمَا خَلَقَ الذَّكَرَ وَالْأُنثَى

إِنْ سَعَيْكُمْ لَسَنَّى

فَأَمَّا مَنْ أَعْطَى وَاتَّقَى

وَصَدَّقَ بِالْحُسْنَى

فَسَيُسِّرُهُ الْيُسْرَى

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。対照的な物事におけるアッラー*の誓いの後、真の成功者と失敗者の様子が、各々への占報と警告と共に対照的に描かれる。
- 2 アーヤ*1-3 における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。
- 3 つまり、「その創造」という意味。あるいは「アッラー*」のこと (アル=クルトゥビー 20:80-81 参照)。
- 4 行いの種類、量、そこにおける活力、目的などにおいて「多様」である (アッ=サアディー 926 頁参照)。
- 5 アッ=サアディー*によれば、これは浄財*、施 (ほどこ) し、扶養 (ふよう) などといった、財産による崇拝*行為において「与える」ことを始め、礼拝や斎戒*などの身体による崇拝*行為、あるいは巡礼*などの、財産と身体いずれにも関連した崇拝*行為において自らの義務を果たすこと (926 頁参照)。
- 6 この「最善のもの」とは、シャハーダ*の言葉と、それが要求するもの、そしてそれによって得られる褒美のこととされる (ムヤッサル 595 頁参照)。婦人章 95 の同語についての訳注も参照。
- 7 一説にこのアーヤ*は、マッカ*時代、抑圧されていた弱い奴隷*たちを解放していたアブー・バクル*に関して下ったものとされる (アッ=タバリー 10:8674 参照)。アーヤ*17 の訳注も参照。

8. そして、(財産を)出し惜しみし、(主*
の褒美なしでも)十分だと主張し、
9. 最善のもの¹を嘘呼ばわりした者はといえば、
10. われら*が彼を、困難へと導いてやろう。²
11. そして、彼の財産は彼に役立たない、彼が
(業火へと)転落してしまった³時には。
12. 本当にわれら*にこそ、導き(の解明)が属
するのであり、
13. 本当にわれら*にこそ、来世と最初のもの
(現世)が属するのだ。
14. ならば(人々よ)、われら*はあなた方に、
燃え盛る(地獄の)業火を警告した。
15. そこに入って炙られるのは、最も不幸な者
だけ。
16. (預言者*ムハンマド*を)嘘つき呼ばわり
し、(信仰に)背を向けた者。
17. そして、敬虔な*者⁴は、そこから免れるこ
とになろう。
18. 自らを努めて清め⁵つつ、自分の財産を与
える者は。

وَلَمَّا مَنِحْلٌ وَاسْتَفْعَى ۝

وَكَذَّبَ بِاتِّسَافٍ ۝

فَسَيَبْرُهُ لِّلْغَسَرَى ۝

وَمَا يَنْفَعِي عَنْهُ مَالُهُ إِذَا تَرَدَّى ۝

إِنَّ عَلَيْنَا لَلْهُدَى ۝

وَأَنَّا لَآخِرُهُ وَالْأُولَى ۝

فَأَنْذَرْتُكُمْ نَارًا تَلَظَّى ۝

لَا يَصْلَحُهَا إِلَّا الْآسَفَى ۝

الَّذِي كَذَّبَ وَتَوَلَّى ۝

وَسَيَجْزِيهَا الْآتَى ۝

الَّذِي يُوقَى مَالَهُ بِزَكَّى ۝

1 この「最善のもの」については、アーヤ*6の訳注を参照。

2 アッラー*は善を志した者には、そこへとお導きになることでお報いになり、悪を志した者には、失敗という応報を与えられる。そしてその全ては、定められた運命なのである(イブン・カシール 8:417 参照)。

3 あるいは、「死んでしまった」という意味(アル=クルトゥビー 20:85 参照)。

4 一説に、この「敬虔な者」とはアブー・バクル*を指しているとされるが、アーヤ*18-20のような特質を備えているほかの全ての者も、ここに含まれるとされる(イブン・カシール 8:422 参照)。

5 「自らを努めて清める」ことについては、ター・ハー章 76、至高者*章 14の訳注を参照。

19. 彼には、誰かに対して返すべき恩があ（つて、それゆえに財産を与え）るわけではない。
20. しかし、至高なる*自分の主^{しゅ}*の御顔^{お かお}を求めるがゆえなのであり、
21. 彼は必ず^{かなら}や、（天国で彼が授^{さず}かるものに）満足することになろう。

وَمَا لِأَحَدٍ عِنْدَهُ مِنْ نِعْمَةٍ تُجْزَى ①

إِلَّا ابْتِغَاءَ وَجْهِ رَبِّهِ الْأَعْلَى ②

وَلَسَوْفَ يَرْضَى ③



第93章
朝章（アッ＝ドハー）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

1. 朝にかけて、²
2. また、静まった夜にかけて（誓う）。
3. （預言者*よ、）かれ（アッラー*）は、あなたに見切りをつけられたのでもなければ、あなたをお嫌いになったわけでもない。³
4. そして来世こそは、あなたにとって最初のもの（現世）よりも善いのであり、
5. あなたの主*は（来世で）、あなたに必ずや（諸々のお恵みを）お授けになり、あなたは（それに）満足するのである。
6. かれは、あなたが（以前、）孤児であるのを見出され、それで（あなたを）匿って下さったのではないか？⁴

وَالضُّحَىٰ

وَاللَّيْلِ إِذَا سَجَىٰ

مَا وَدَّعَكَ رَبُّكَ وَمَآ أَلَىٰ

وَلَا آخِرَةَ غَيْرَ لَكَ مِنَ الْأُولَىٰ

وَلَسَوْفَ يُعْطِيكَ رَبُّكَ فَتَرْضَىٰ

أَلَمْ يَجِدْكَ يَتِيمًا فَآوَىٰ

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来（「朝」については、ター・ハー章 59 の訳注も参照）。マッカ*時代の苦境にあった預言者*ムハンマド*への吉報、彼に対するアッラー*の特別な思（おぼ）し召しが、彼に対する慰（なぐさ）めと共に再確認される。また、過去の苦難を思い出してアッラー*の恩恵に感謝しつつ、忍耐*、善行、崇拝*行為に励（はげ）むよう、命じられている。
- 2 アーヤ*1-2 における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。
- 3 このアーヤ*は、預言者*に対するジブリール*の訪問がしばらく途絶（とだ）えた時、シルク*の徒が「アッラー*は彼を嫌い、見切りをつけたのだ」と言ったことについて、下ったとされる（アル＝クルトゥビー 20:92 参照）。
- 4 預言者*ムハンマド*は誕生前、あるいは誕生後すぐに父親を亡くし、六歳の時には母親も亡くした。その後は祖父の後見下に入ったが、八歳の時に彼が他界してからは、叔父アブー・ターリブが彼の面倒を見始め、預言者*としての使命を受けてからも、彼を援助し続けた（イブン・カスィール 8:426 参照）。

7. また、あなたが迷っているのを見出^{みいだ}され、
それで（あなたを）お導^{みちび}き下さったので
は？¹
8. また、あなたが貧^{まず}しい者であるのを見出^{みいだ}され、
（満足^{にんたい}と忍耐^{*}によって）豊^{ゆた}かにして下
さったのでは？
9. ならば、孤^こ児^じについては、居^い丈^{たけ}高^{だか}になるの
ではない。
10. また、乞^こう者^{じや}については、叱^{しか}りつけたりす
るのではない。
11. そして、あなたの主^{しゅ}^{*}の恩^{おん}恵^{けい}²についてこそ、
話して聞かせるのだ。

وَوَجَدَكَ ضَالًّا فَهَدَىٰ ﴿٧﴾

وَوَجَدَكَ عَالِيًّا فَأَغْنَىٰ ﴿٨﴾

فَأَمَّا الْيَتِيمَ فَلَا تَهْجُرْ ﴿٩﴾

وَأَمَّا السَّائِلَ فَلَا تَنْهَرْ ﴿١٠﴾

وَأَمَّا بِنِعْمَةِ رَبِّكَ فَحَدِّثْ ﴿١١﴾

1 つまり、啓典も信仰も知らない状態だった（相談章 52 参照）彼に、それ以前には知らなかったものを教えて下さり、最善の行為と品性へとお導きになった、ということ（アッ＝サアディー928 頁参照）。

2 「恩恵」のほか、「アッラー^{*}から伝達を命じられたこと」「クルアーン^{*}」といった解釈もある（アル＝バガウィー5:270 参照）。

第94章
 胸を広げる章（アッ=シャルフ）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. （預言者*よ、）われら*はあなたのため、あなたの胸を広げてやった²のではないか？
2. そして、あなたから、あなたの重荷³を下ろしてやったのだ。
3. （その重みで、）あなたの背を軋^{きし}ませていたもの（重荷）を。
4. また、あなたのため、あなたの名声を高めてやった。⁴
5. 本当に、苦と共にこそ楽あり、
6. 本当に、苦と共にこそ楽あり。⁵

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَلَمْ نَشْرَحْ لَكَ صَدْرَكَ ۝

وَوَضَعْنَا عَنَّا وَزْرَكَ ۝

أَلَّذِي أَنْقَضَ ظَهْرَكَ ۝

وَرَفَعْنَا لَكَ ذِكْرَكَ ۝

فَإِنَّ مَعَ الْعُسْرِ يُسْرًا ۝

إِنَّ مَعَ الْعُسْرِ يُسْرًا ۝

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。マッカ*時代の苦境の中にある預言者*ムハンマド*への慰（なぐさ）めとして、彼に対するアッラー*の特別なお計らいと、彼に授けられた預言者*としての使命という偉大な恩恵について、語りかけられている。また、苦境は一時的なものであるという世の法則が確認された後、預言者*としての使命を果たすべく、アッラー*のみを求め、かれのみに全てを委ねつつ、努力することが命じられている。
- 2 つまり信仰、預言者*としての使命、知識、英知を受容できるよう、心を広げ、柔らかくされた、ということ（アル=バガウィー5:274 参照）。家畜章 125、ター・ハー25 章も参照。
- 3 この「重荷」の解釈については、「罪（勝利章 2 の訳注も参照）」「間違い」「預言者*としての使命につきものの苦労」といった諸説がある（アル=クルトゥビー20:105-106 参照）。
- 4 預言者*としての使命を授かることなどによって、またはシャハーダ*の言葉において、彼の名がアッラー*の御名と共に言及されたり、彼への服従がアッラー*への服従と見なされたり（婦人章 80 参照）、天使*たちや信仰者たちによって讃美（さんび）される（部族連合章 56 とその訳注を参照）存在となることによって「名声を高められた」（アル=バイダーウィー5:505 参照）。
- 5 解釈学者らによれば、アーヤ*5 と 6 の「苦」は同一のもので、「楽」は別のもの。つまり、一つの苦は、必ず二つの楽を伴うということ（アル=バガウィー5:275 参照）。

7. ならば、（現世の用事から）手^あが空いたら、
（崇拝^{すうはい}*行為^{じんぎよく}に）尽力^{じんりよく}せよ。¹

فَإِذَا فَرَغْتَ فَانصَبْ ﴿٧﴾

8. そして（あらゆる必要において）、あなた
の主^{しゅ}にこそ希求^{ききゅう}するのだ。

وَالِلَّهِ رَبِّكَ فَاَرْغَبْ ﴿٨﴾

1 ほかにも、前者と後者がそれぞれ「礼拝、祈願」「義務の崇拝*行為、夜の任意の礼拝」「イスラーム*の教えの伝達、自分と信仰者たちの赦しをアッラー*に乞うこと」「敵との戦い、アッラー*の崇拝*」であるといった解釈もある（アルークルトウビー20:108-109 参照）。

第95章
無花果章 (アッ=ティーン) 1

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 無花果とオリーブにかけて、²
2. また、シナイ山にかけて、
3. また、この平安な町（マッカ*）にかけて（誓う）。³
4. われら*は確かに人間を、最善の形に創造した。⁴
5. それから、われら*は彼を、（われら*と使徒*に服従しなかったゆえに）低劣な者たちの内でも最低の者と歸させた⁴のである。
6. 但し、信仰して正しい行い*を行う者たちは別だが。彼らには、尽きることのない褒美⁵がある。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالَّتَيْنِ وَالزَّيْتُونِ ①

وَطُورِ سَيْنِينَ ②

وَهَذَا الْبَلَدِ الْأَمِينِ ③

لَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ فِي أَحْسَنِ تَقْوِيمٍ ④

ثُمَّ رَدَدْنَاهُ أَسْفَلَ سَافِلِينَ ⑤

إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَلَهُمْ أَجْرٌ ⑥

عَزِيزٌ مُنْتَمُونَ ⑦

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。アッラー*の創造における御力と恩恵が強調された後、不信仰者*と信仰者の様子が対照的に描かれ、次いで復活と報いの真実が確認される。

2 アーヤ*1-3における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章1の訳注を参照。

3 ある種の学者らは、アーヤ*1-3で言及されている語が、「決然とした者たち（部族連合章7の訳注を参照）」の内の三人の使徒*が遣わされた場所を示している、と解釈している。つまり「無花果とオリーブ」はエルサレムの地で、イーサー*が遣わされた場所、「シナイ山」は、ムーサー*がアッラー*から語りかけられた場所、「平安な町（この名の由来については、雌牛章125の訳注を参照）」は、預言者*ムハンマド*が遣わされた町マッカだということ（イブン・カシール8:434参照）。

4 つまり、地獄に落とした、ということ（ムヤッサル597頁参照）。または、「最悪の年齢（蜜蜂章70の訳注を参照）」に戻した、という解釈もある。その場合、アーヤ*6とのつながりは「理性が衰（おとろ）えることで新たに善行の褒美を得ることはなくなるが、信仰し正しい行い*を行った者たちは別で、若く健康だった頃の善行が書き留められる」といった風になる（アル=バガウィー5:277-278参照）。あるいは、そもそもアーヤ*6とのつながりはなくなる（アル=クルトゥビー20:115参照）。

5 「尽きることのない褒美」については、詳細にされた章8の訳注を参照。

7. ならば（人間よ、その根拠^{こんきよ}が明白になった）
後で、何があなたに（来世での復活と）報^{むく}い
を嘘^{うそ}とさせるのか？
8. 一体アッラー*は、英知あふれる*者の内
でも、最も英知あふれるお方なのではない
か？¹

فَمَا يُكَذِّبُكَ بَعْدَ الْبَيِّنَاتِ ﴿٧﴾

أَلَيْسَ اللَّهُ بِأَعْلَمَ بِالْحَكِيمِينَ ﴿٨﴾

1 果たして、命令も禁止も、褒美（ほうび）も罰もないままに、創造物を放ったらかしにしておくことが、アッラー*の英知に適う事であろうか、ということ（アッ＝サアディー929頁参照）。

第96章
凝血章 (アル=アラク) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (預言者*よ、) 創造をされた、あなたの主*の御名において (、啓示されたクルアーン*を) 読め。
2. かれは人間を、一塊の凝血からお創りになった。²
3. (預言者*よ、クルアーン*を) 読め。あなたの主*は、最も 貴い*お方。
4. 筆 (記) を教えて下さったお方。
5. 人間に、彼が知らなかったことを教えて下さった (お方)。
6. 断じて (、アッラー*の恩恵に対して恩知らずになってはなら) ない！ 実に人間は、(アッラー*に対して、) まさしく放埒である。
7. 自らを、十分な者³と見なすがゆえ。
8. 実にあなたの主*にこそ、(来世での) 戻り場所があり、そこで自分が行ったことを報われることにな) るのである。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ ①

خَلَقَ الْإِنْسَانَ مِنْ عَلَقٍ ②

اقْرَأْ وَرَبُّكَ الْأَكْرَمُ ③

الَّذِي عَلَّمَ بِالْقَلَمِ ④

عَلَّمَ الْإِنْسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمْ ⑤

كَلَّا إِنَّ الْإِنْسَانَ لِبَطْشٍ ⑥

أَن رَّاهُ اسْتَغْنَى ⑦

إِنَّ إِلَىٰ رَبِّكَ الرُّجْعَى ⑧

1 マッカ*啓示。スーラ*名はアーヤ*2 で言及されている語に由来。初期に下ったスーラ*の一つで、特に最初の 5 アーヤ*は、ヒラー洞窟に籠 (こも) って崇拝*行為に没頭していたムハンマド*が、ジブリール*の訪問を受け、初めて受け取った啓示 (アル=ブハーリー-3 参照)。創造と知識という恩恵の言及に始まり、預言者*のイスラーム*布教を阻む不信仰者*に対して厳しい警告が向けられると共に、敵に対する毅然 (きぜん) とした態度、忍耐*、崇拝*行為によるアッラー*への奉仕が命じられている。

2 人間の創造の変遷 (へんせん) については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 も参照。

3 財産、子供、権力において満たされた「十分な者」ということ (アル=ジャザーイリー-5:594 参照)。

9. 言ってみよ、阻む者^{はば}¹（について）、
10. 僕（ムハンマド*）を、彼が礼拝した時に（阻む者について）。
11. 言ってみよ、もし彼（預言者*）が導きの上にあつたとしたら（、いかに彼を礼拝から阻むというのか）？
12. あるいは、（人に）敬虔さ*を命じたのだとしたら（、いかに彼をそこから阻むというのか）？
13. 言ってみよ、もし彼（阻む者）が、（自分がそこへと招かれているものを）嘘呼ばわりし、背を向けたならば、
14. 彼はアッラー*が（、自分のすること全てを）ご覧になり、それに対して報われ）るということを、知らなかったのか？
15. 断じて（、彼の主張は正しく）ない！ もしも彼が（預言者*に対する敵対と抑圧を）止めなければ、われら*は必ずや（彼の）前髪を引っ掴んで²（、業火へ放り込んで）しまおう。
16. （言葉は）嘘つきで、（行いの）誤った（、彼の）前髪を。
17. ならば彼に、自分の会合の場（の仲間たち）を呼ばせて（、援助を乞わせて）みよ。

أَرَأَيْتَ الَّذِي يَنْهَى

عَبْدًا إِذَا صَلَّى

أَرَأَيْتَ إِنْ كَانَ عَلَى الْهُدَى

أَوْ أَمَرَ بِالتَّقْوَى

أَرَأَيْتَ إِنْ كَذَّبَ وَتَوَلَّى

أَلَمْ يَعْلَمْ بِأَنَّ اللَّهَ يَرَى

كَلَّا لَئِنْ لَمْ يَنْتَهِ لَنَسْفَعًا بِالنَّاصِيَةِ

نَاصِيَةٍ كَذِبَةٍ خَاطِعَةٍ

فَلْيَنْدِعْ نَادِيَهُ

1 これは不信仰者*の長アブー・ジャハル*のことだが、彼と同様に善を阻もうとする全ての者も、ここに当てはまる（アッ＝サアディー930 頁参照）。

2 「前髪を掴む」という表現には、その対象への蔑（さげす）みや辱（はずかし）めの意味が含まれている（アル＝クルトゥビー20:125 参照）。

18. われら*はザバーニヤ¹を呼んでやるから。
19. 断じて、彼の主張は正しく^{したが}ない！（使徒*よ、）彼に従わず^{しめ}、（あなたの主*に）サジダ*し、お近づきを求めよ。（読誦のサジダ*）

سَنَدْعُ الزَّبَانِيَةَ ﴿١٨﴾

كَأَنَّا لَا تُطَعُّهُ وَتَسْجُدُ وَاقْتَرِبَ ﴿١٩﴾

1 「ザバーニヤ」とは、「ザブン（押しやる）」という語からの派生語とされ、地獄の住人を押しやる、荒々しく厳しい天使*たち（禁止章 6 の訳注も参照）のこと（アル＝バガウィー5:282 参照）。

2 つまり、崇拜*行為を継続し、沢山行うことから阻（はば）まれても従うのではない、ということ（イブン・カシール 8:439 参照）。

第97章
 ほま
 誉れの夜*章 (アル=カドウル) ¹

じ ひ じ あい
 慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 本当にわれら*は、誉れの夜にそれ（クラーン*）を下した。
2. （預言者*よ、）誉れの夜が何かを、何があるに知らせるか？
3. 誉れの夜は、千の月に優るもの。²
4. 天使*たちと魂（ジブリール*）³はそこにおいて、彼らの主*のお許しと共に、（かれがお定めになった）全ての物事ゆえ、次々と降臨する。⁴
5. 黎明の出現まで、それは（いかなる悪からも、）まさしく安全⁵なのである。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا أَنْزَلْنَاهُ فِي لَيْلَةِ الْقَدْرِ ①

وَمَا أَزِدُّكَ مَالِيَّةُ الْقَدْرِ ②

لَيْلَةُ الْقَدْرِ خَيْرٌ مِنْ أَلْفِ شَهْرٍ ③

نَزَّلَ الْمَلَكُ وَالرُّوحُ فِيهَا بِإِذْنِ رَبِّهِمْ مِنْ كُلِّ أَمْرٍ ④

سَلَامٌ هِيَ حَتَّىٰ مَطْلَعِ الْفَجْرِ ⑤

- 1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、本スーラ*の主題であり、かつこのスーラ*にしか登場しない「誉れの夜」という語による。クラーン*の徳と恩恵、創造の管理を一手に司（つかさど）られるアッラー*の偉大さと英知が取り上げられると共に、それらと密接な関係のある、荘厳（そうごん）さと祝福にあふれた誉れの夜の様子が描かれる。
- 2 つまり、そこにおける正しい行い*は、誉れの夜がない千の月における正しい行い*に優る、ということ（ムヤッサル 598 頁参照）。
- 3 ここでジブリール*が「魂」と呼ばれていることについては、マルヤム*章 17 の訳注を参照。
- 4 煙霧章 4 の訳注も参照。
- 5 この「安全（サラーム）」という語は、『『平安を』という、天使*たちの挨拶（家畜章 54 の訳注を参照）」のことである、という解釈もある（アル=バガウィー5:289 参照）。

第98章

明証章 (アル=バイナ) 1

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 啓典の民*とシルク*の徒である不信仰に陥った者*たちは、自分たちのもとに明証が到来するまで、(不信仰からの)脱却者とはならなかった。²
2. 清浄なる書巻³を読誦⁴する、アッラー*からの使徒* (という明証) が。
3. その(書巻の)中には、適確な書⁵がある。
4. また、啓典を授けられた者*たちが(ムハンマド*の使徒*性が真実かどうかについて)分裂したのは、自分たちのもとに明証が到来した後のことに外ならなかった。⁶

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لَوْ كُنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ وَالْمُشْرِكِينَ مُنْفَكِينَ حَتَّى تَأْتِيَهُمُ الْبَيِّنَةُ ۝

رَسُولٌ مِنَ اللَّهِ يَتْلُو صُحُفًا مُطَهَّرَةً ۝

فِيهَا كُتِبَ قِيمَةٌ ۝

وَمَا تَفَرَّقَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ إِلَّا مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَتْهُمْ الْبَيِّنَةُ ۝

- 1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名にもなっている、アッラー*の使徒*と彼が授かったクルアーン*という「明証」が、啓典の民*とそれ以外の不信仰者*の前で確証される。そしてクルアーン*とそれ以前の啓典の根本的な教えが同一であることを強調しつつ、アッラー*の教えの基本が提示され、それを拒否する者と信じる者の来世での行き先が、対照的に描写される。
- 2 このアーヤ*は、上記の不信仰者*の内、使徒*の招きに従って信仰し、無知と迷いから救われた者たちのことを話している (アル=バガウィー5:290 参照)。
- 3 つまり、クルアーン*のこと (ムヤッサル 598 頁参照)。その内容に虚妄 (きょうう) が触れることはなく (詳細にされた章 42 と、その訳注も参照)、清浄な者しかそれに触れることが出来ない (出来事章 79、眉をひそめた章 14 とその訳注も参照) (アル=バイダーウィー5:515 参照)。
- 4 この「読誦」については、雌牛章 121 の訳注も参照。
- 5 「適確な書」とは、真理とまっすぐな道へと導いてくれる、正しい情報と命令のこと (アッ=サアディー931 頁参照)、あるいは法規定的こと (アル=クルトゥビー20:143 参照)。
- 6 「明証」とは、ムハンマド*が、彼らの啓典の中でその到来を約束されている預言者*であることを示す、数々の証拠のこと。彼らはそのことを心得ていたが、いざ彼が使徒*として遣わされると、彼を信じる者と、嫉妬 (しつと) して否定する者に分裂した (ムヤッサル 598 頁参照)。雌牛章 213 とその訳注も参照。

5. そして彼らは、アッラー*に真摯^{しんし}に崇拜^{すうはい}*行為^{くわい}を捧げつつ、純正^{じゆんせい}な状態でかれ（だけ）を崇拜^{すうはい}*し、礼拝^{れいはい}を遵守^{じゆんしゆ}*し、淨財^{じやうざい}を支払^しうことしか、命じられはしなかったのだ²。それが、適確^{てきかく}な宗教（イスラーム*）である。
6. 本当に、啓典^{けいてん}の民*とシルクの徒*である不信仰^{おちい}に陥^{おちい}った者*たちは（復活の日*）、地獄の業火の中にある。彼らはそこに永遠に留まるのだ。それらの者たちこそは、最悪^{さうあく}の創造物。
7. 本当に、信仰し、正しい行い*^{さうぞう}を行う者たち、それらの者たちこそは最善^{さうぜん}の創造物。
8. （復活の日*における）彼らの報^{むく}いは、その下から河川^{かせん}が流れる、彼らの主*の御許^{しよ}での永久^{みと}の樂園。彼らはそこで、ずっと永遠に留まる。アッラー*は彼らをお喜びになり、彼らもアッラー*に満足する。それが、自分の主*^{しよ}を恐れた者³のためのものなのだ。

وَمَا أُمِرُوا إِلَّا لِيَعْبُدُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ
الدِّينَ حُنَفَاءَ وَيُقِيمُوا الصَّلَاةَ وَيُؤْتُوا
الزَّكَاةَ وَذَلِكَ دِينُ الْقَيِّمَةِ ﴿٥﴾

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ
وَالْمُشْرِكِينَ فِي نَارِ جَهَنَّمَ خَالِدِينَ فِيهَا أُولَئِكَ
هُمُ شَرُّ الْبَرِيَّةِ ﴿٦﴾

إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
أُولَئِكَ هُمْ خَيْرُ الْبَرِيَّةِ ﴿٧﴾

جَزَاءُ مَا عَمِلُوا فِي حَيَاتِهِمْ عِنْدَ رَبِّكَ
مَنْ تَحْتَهَا الْآلَةُ نَهْرُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا رَضِيَ اللَّهُ
عَنْهُمْ وَرَضُوا عَنْهُ ذَلِكَ لِمَنْ خَشِيَ رَبَّهُ ﴿٨﴾

1 「純正」については、雌牛章 135 の同語についての訳注を参照。

2 蜜蜂章 36、預言者*たち章 25 も参照（イブン・カスィール 8:457 参照）。

3 つまり主*を恐れるがゆえに、かれに逆らわず、義務を果たした者のこと（アッ=サアディ—932 頁参照）。

第99章
地震章 (アッ=ザルザラ) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 大地が激しく震動させられる時、
2. また、大地がその重荷²を吐き出し、
3. (戦慄に襲われた) 人間が「それ(大地)に、何が起こったのか?」と言う時、³
4. それ(大地)は(復活の)その日、自らの消息⁴を話す、
5. あなたの主*が、(そうするよう、)自分にご命じになったのだ、ということ。 ⁵
6. その日、人々は自分たちの行いを見るべく、三々五々に出て行く⁶。
7. それで、僅かな重みでも善いことを行う者は誰でも、(来世で)それ(に対する褒美)を見出すのであり、

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا زُلْزِلَتِ الْأَرْضُ زِلْزَالَهَا

وَأُخْرِجَتِ الْأَرْضُ أَنْفَاقَهَا

وَقَالَ الْإِنْسَانُ مَا لَهَا

يَوْمَئِذٍ تُخْبِرُ أَخْبَارَهَا

يَا أَيُّهَا النَّاسُ أَوْفَىٰ لَهُمَا

يَوْمَئِذٍ يَصْدُرُ النَّاسُ أَشْتَاتًا لِّيُرَوْا أَعْمَالَهُمْ

فَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُ

- 1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。復活の日*が、それが起こる時の恐ろしい出来事と共に描写される。スーラ*名ともなっている「地震」は、その日に起こる天変地異の一つ。その日の清算と報いが、善行者への占報と悪行者への警告と共に確認される。
- 2 この「重荷」は、死んだ人々や、財宝のこととされる (ムヤッサル 599 頁参照)。
- 3 復活の日の天変地異の様子については、洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏 (まと) う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 など参照。
- 4 この「消息」とは、大地で行われた善悪の行いのこと (ムヤッサル 599 頁参照)、あるいは大地の変動の理由 (アル=パイダーウィー5:518 参照)。
- 5 「…自分にお伝えになったために」という解釈もある (前掲書、同頁参照)。
- 6 清算の場から、天国、または地獄へと連れて行かれる。あるいは、墓場から清算の場へと出て行く (アル=クルトゥビー20:149-150 参照)。

8. 僅かな重みでも悪いことを行う者は誰でも、（来世で）それ（に対する応報）を見出すのだ。¹

وَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُ ﴿٨﴾

¹ 同様の意味のアーヤ*として、婦人章 40、洞窟章 49、預言者*たち 47、ルクマーン章 16 なども参照。

第100章
 疾駆するもの章(アル=アーディヤート) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 鼻息を荒げて疾駆するもの²にかけて、³
2. また、(蹄で石を)打ち付けつつ、火花を散らすものにかけて、
3. また、朝に(敵陣へと)進撃するものにかけて(誓う)、
4. それらは、それ⁴によって埃を巻き上げ、
5. それ⁵と共に、(敵の)集団の只中へと進み込む⁶、
6. 本当に人間は、自分の主*に対してまさしく恩知らずであり、
7. 本当にかれ⁷は、そのことにおける確かな証言者である。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْعَادِيَاتِ ضَبْحًا

فَالْمُورِيَاتِ قَدْحًا

فَالْمُغِيرَاتِ صُبْحًا

فَأَثَرُنَّ بِهِ نَقْعًا

فَوْسَطْنَ بِهِ جَمْعًا

إِنَّ الْإِنْسَانَ لِرَبِّهِ لَكَنُودٌ

وَأَنَّهُ عَلَىٰ ذَٰلِكَ لَشَهِيدٌ

- 1 マッカ*啓示(マディーナ*啓示説もあり)。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。勇猛に敵陣へと駆け込んでいく軍隊の様子が描かれた後、アッラー*の恩恵に対して恩知らずで、復活の日*の清算と報いを疎(おろそ)かにしている人間に警告が放たれる。一見、前半部と後半部の関連性がないように見えるが、一説には前半部では不信仰者*である敵、後半部では復活の日*が、いずれも来世での損失につながる用心すべきものとして取り上げられている。
- 2 大方の解釈学者は、アーヤ*5まで登場する、この「疾駆」し「火花を散らし」「進撃する」ものを、アッラー*の道において敵を目指して駆ける馬と解釈している。「ハッジ*におけるラクダ」という説もあるが、その場合、アーヤ*5までの解釈は、本文訳とは多少変わってくる(アル=クルトウビー20:160 参照)。
- 3 アーヤ*1-3までの、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章1の訳注を参照。
- 4 この「それ」とは、疾駆と、敵への進撃のこと(アッ=サアディー932頁参照)。
- 5 この「それ」には、「朝の時間」「疾駆」「埃」といった解釈がある(アル=バイダーウィー5:520 参照)。
- 6 あるいは「(敵の)只中に、集団で入り込む」という意味(イブン・カスィール8:466 参照)。
- 7 この「かれ」が誰かについては、「人間」「アッラー*」という説がある(アル=クルトウビー20:162 参照)。

8. また、本当に彼（人間）は、善きもの¹への愛情において、ことさら激しい者である。
9. 一体、彼は（何が自分を待ち受けているか、）知らないのか？ 墓の中にあるもの（死んだ人々）が、ひっくり返され（て、清算と報いのために 蘇^{よみがえ}られ） 、
10. 胸の内^{むね}にある（善悪の）ことが明らかにされる時、
11. 本当に彼らの主^{しゅ}*は（復活の）その日、彼ら（の行い）をまさしく通曉^{つうぎょう}されるお方であられる。²

وَلَيْتَهُ لِحُبِّ الْخَيْرِ لَشَدِيدٌ ﴿٨﴾

* أَفَلَا يَعْلَمُونَ إِذَا بُعِثُوا فِي الْقُبُورِ ﴿٩﴾

وَحُصِّلَ مَا فِي الصُّدُورِ ﴿١٠﴾

إِنَّ رَبَّهُمْ بِهِمْ يَوْمَئِذٍ لَّخَبِيرٌ ﴿١١﴾

1 この「善きもの」は、財産のこと（ムヤッサル 600 頁参照）。

2 アッラー*は復活の日*以外でも、全てを通曉されるお方である。ここで「その日」と限定されているのは、報いの日*に対する警告の意味（イブン・ジュザイ 2:602 参照）。

第101章
衝撃章 (アル=カーリア) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 衝撃²、
2. 衝撃とは何か？
3. 衝撃とは何かを、何があなたに知らせるか？
4. (衝撃とは、) 人々が、散り散りになった
蛾のようになり、³
5. また山々が、梳かれた羊毛のようになる日。⁴
6. 自分の(善行の)秤が(悪行の秤より)
重かった者はといえば、⁵
7. 彼は(天国で)満足な生活の中にある。
8. また、自分の(善行の)秤が(悪行の秤より)
軽かった者はといえば、
9. その落ち着く先は、墜落。⁶
10. それが何かを、何があなたに知らせるか？
11. (それは)酷熱の業火である。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَلْقَارِعَةُ ①

مَا أَلْقَارِعَةُ ②

وَمَا أَذْرَكَ مَا أَلْقَارِعَةُ ③

يَوْمَ يَكُونُ النَّاسُ كَالْفَرَاشِ الْمَبْثُوثِ ④

وَتَكُونُ الْجِبَالُ كَالْعِهْنِ الْمَنْفُوشِ ⑤

فَأَمَّا مَنْ ثَقُلَتْ مَوَازِينُهُ ⑥

فَهُوَ فِي عِيشَةٍ رَاضِيَةٍ ⑦

وَأَمَّا مَنْ خَفَّتْ مَوَازِينُهُ ⑧

فَأُمُّهُ هَاوِيَةٌ ⑨

وَمَا أَذْرَكَ مَا هِيَ ⑩

نَارُ حَامِيَةٍ ⑪

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。復活の日*が、その日の恐るべき様子、そこで起きる清算と報い、善行者と悪行者の対照的な行き先の描写と共に、確証される。
- 2 この「衝撃」とは、その恐怖と戦慄(せんりつ)によって創造物に衝撃を与える、復活の日*のこと(アル=クルトウビー20:164 参照)。
- 3 その数の多さ、哀(あわ)れさと、散らばり、混乱した様子が蛾に譬(たと)えられている(アル=バイダーウィー5:522 参照)。
- 4 復活の日*の山々の変化については、洞窟章 47 の訳注を参照。
- 5 復活の日*の秤については、高壁章 8 の訳注も参照。
- 6 「落ち着く先(ウンム)」には、「頭」という解釈もある。その場合、「頭から業火へと墜落する」という意味となる。また、「墜落」とは、底知れず墜落する場所である、地獄の別称(アル=バガウィー5:297 参照)。

第102章

増やし合い章（アッ＝タカースル）¹

じ ひ じ あい
慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 増やし合い²が、あなた方を（アッラー*への服従³から）そっちのけにさせる、
2. あなた方が（死んで）墓場を訪れるまで。
3. 断じて（、そのようであるべきでは）ない！
あなた方はやがて、（事の結末を）知るだろう。
4. 更に、断じて（、そのようであるべきでは）ない！ あなた方はやがて、（事の結末を）知るだろう。⁴
5. 断じて（、そのようであるべきでは）ない！
もし、あなたが確固たる知識⁵で知るならば、あなたがそのようなことから身を慎み、自らを破滅から救うことへと急いであらう）。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اَلْهٰكُمُ التَّكَاثُرُ

حَتّٰى زُرْتُمُ الْمَقَابِرَ

كَلَّا سَوْفَ نَعْتَمُوْنَ

ثُمَّ كَلَّا سَوْفَ نَعْتَمُوْنَ

كَلَّا لَوْ نَعْتَمُوْنَ عَلٰۤى الْٰتِقِيْنَ

- 1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。復活の日*と、その日の報（むく）いの確証と共に、来世で自分自身を救ってくれる物事をおろそかにし、現世の諸事にまかけることへの厳（きび）しい警告がなされる。
- 2 財産、子供、仲間、軍勢、部下、地位など、アッラー*のためではなく、他人に対する数量的な優勢を意図した全ての物事における「増やし合い」のこと（アッ＝サアディー933 頁参照）。
- 3 あるいは、「来世を求めること」（イブン・カスィール 8:472 参照）。
- 4 一説に、このアーヤ*はアーヤ*3 の内容の強調。その他、アーヤ*3 とアーヤ*4 の「知る」が、それぞれ「墓の中でのものと来世でのもの」「死が訪れた時と復活の時」「死が訪れた時と墓に入った時」「不信仰者*のものと信仰者のもの」である、という解釈もある（アル＝クルトゥビー20:172-173 参照）。
- 5 この「確固たる知識」とは、「死後、アッラー*が人を蘇（よみがえ）らせるということ」（アッ＝タバリー10:8754-8755 頁参照）。

6. あなた方は必ず^{かなら}や、火獄を見よう。
7. 更に、あなた方は必ず^{かなら}や、揺るぎない目で
それを見よう。¹
8. それから、あなた方は（復活の）その日、必ず^{かなら}
や安寧^{あんねい}について尋ね^{たず}られよう。²

لَنُرَوْنَ الْجَحِيمَ ﴿٦﴾

ثُمَّ لَنَرْوُنَّهَا عَيْنَ الْيَقِينِ ﴿٧﴾

ثُمَّ لَنَسْأَلَنَّهُ يَوْمَئِذٍ عَنِ النَّعِيمِ ﴿٨﴾

- 1 一説に、このアーヤ*はアーヤ*6 の内容に対する強調。その他、アーヤ*6 とアーヤ*7 の「見る」は、それぞれ「地獄が彼らを遠い場所から認めること（識別章 12 参照）と、彼らが地獄へとやって来た時、それを目にすること（マルヤム*章 71 とその訳注を参照）」「知識によるものと、目視によるもの」とする解釈もある（アル＝バイダーウィー5:524 参照）。
- 2 「安寧」とは、人が現世で味わう、あらゆる恩恵のこと（アッ＝タバリー10:8759 参照）。人はその日、現世で味わった恩恵に対して感謝をし、そこにおいてアッラー*に対する義務を果たしていたか、それを罪に利用することはなかったか尋ねられ（この「質問」については、高壁章 8 の訳注も参照）、その内容いかんにより、更なる恩恵を頂くか、あるいは懲罰を受けるかすることになる（アッ＝サアディー933 頁参照）。そして、アッラー*以外のものを崇（あが）める者は、かれの恩恵に対して感謝していることにはならない（アル＝バガウィー5:299 参照）。

第 103 章
時間章（アル＝アスル）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 時間にかけて（誓う）。²
2. 本当に人間は、まさしく損失の中にある。
3. 信仰し、正しい行い*を行い、真理（の固守）とアッラー*への服従（を勧め合い、忍耐*を勧め合う者たち以外は。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْعَصْرِ

إِنَّ الْإِنْسَانَ لَفِي خُسْرٍ

إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ

وَتَوَصَّوْا بِالْحَقِّ وَتَوَصَّوْا بِالصَّبْرِ

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭で登場する語に由来。信仰、正しい行い*、互いに真理と忍耐を勧め合うことを実現しない限り、人間は損失と欠如の中にあることが確証される。

2 アッラー*による、この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

第104章
中傷者章 (アル＝フマザ) ¹

慈悲あまねく* 慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 全ての^{ちゅうしやう}中傷者、^{ひぼう}誹謗者^{わざわ}に、災いあれ。
2. 財産を集め、それを数える（ことに^{うつ}現を抜かす）者に。
3. 彼は自分の財産が、自分を（現世で）永遠に生かしてくれると思っている。
4. 断じて（彼の主張は正しく）ない！ 彼は必^{かなら}ずや、^{ふんさい}粉碎するもの³の中に投げ込まれよう。
5. （使徒*よ、）^{ふんさい}粉碎するものが何かを、何があなたに知らせるのか？
6. （それは、）点火され（^{はげ}激しく燃え上がった業火）。
7. （身体を^つ突き抜け、）^{しんぞう}心臓にまで達するもの。⁴

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَيْدُلْ لِكُلِّ هُمَزَةٍ لُّمَّةً ①

الَّذِي جَمَعَ مَالًا وَعَدَّدَهُ ②

يَحْسَبُ أَنَّ مَالَهُ أَخْلَدَهُ ③

كَلَّا لَيُنْبَذَتَ فِي الْخُطْمَةِ ④

وَمَا أَدْرَاكَ مَا الْخُطْمَةُ ⑤

نَارُ اللَّهِ الْمَوْقُودَةُ ⑥

الَّتِي تَطَّلِعُ عَلَى الْأَفْئِدَةِ ⑦

- 1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭のアーヤ*に登場する語に由来。シルク*の徒が、ムスリム*たちをイスラーム*から遠ざけ、シルク*へと回帰（かいき）させようとして行っていた害の一例が取り上げられ、正しい信仰も善行もせず現世に溺（おぼ）れている彼らに対する、来世での厳しい懲罰が警告される。
- 2 この「中傷者」「誹謗者」の解釈には、前者と後者がそれぞれ、「悪い噂を吹いて回る者（筆章 11 の訳注を参照）、人の欠点をあげつらう者」「面と向かって中傷する者、陰口（部屋章 12 の訳注を参照）を言う者」「その逆」「言葉で中傷する者、目配（くば）せで中傷する者」など、非常に多くの説がある（アル＝クルトゥビー 20:181-182 参照）。
- 3 「粉碎するもの」とは、そこに入れられたもの全てを粉碎する、地獄の業火の別称（前掲書 20:184 参照）。
- 4 このアーヤ*の解釈には、「炎は全身を覆（おお）い尽くすが、誤った信仰は心に宿（やど）るものであることから、心臓が特に言及されている」「心臓にまで痛みが達すれば人は死ぬものだが、そこでは死ぬこともできない（創成者*章 36、至高者*者 13 も参照）」「心の内を見通し、彼らの各々がどれだけ懲罰に値するかを知っている」といった諸説がある（アッ＝ジャウカーニー 5:665 参照）。

8. 本当にそれは、彼らを密閉^{みっぺい}している、

إِنَّمَا عَلَيْهِمْ مُّوَصَّدَةٌ ۝۸

9. 長く伸びた列柱^{れっちゅう}¹の中で。

فِي عَمَدٍ مُّمَدَّدَةٍ ۝۹

1 この「列柱」の解釈には、「それによって罰される柱」「首につけられる枷（ヤー・スィーン章 8 も参照）」「足につけられる枷」「地獄の民を密閉する杭（くい）」「体を縛（しば）る長い鎖や枷（真実章 30-32 も参照）」「終わりのない長い時間」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー20:186 参照）。

第105章
象章 (アル=フィール) ¹

慈悲あまねく*慈愛深く*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、) 一体あなたは、あなたの主*
が、象の仲間たちにどのようなにさったの
か、知らなかったのか?²
2. かれは彼らの策略³を、無に帰させられたの
ではなかったか?
3. そして、かれは彼らに、大群をなす鳥たち
を遣わされたのだ。⁴

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَلَمْ تَرَ كَيْفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِأَصْحَابِ
الْفِيلِ ①

أَلَمْ يَجْعَلْ كَيْدَهُمْ فِي تَضْلِيلٍ ②

وَأَرْسَلَ عَلَيْهِمْ طَيْرًا أَبَابِيلَ ③

- 1 マッカ*啓示。預言者*ムハンマド*が誕生した年であるとする「象の年」の出来事を簡潔（かんけつ）に描写しており、それがスーラ*の名称ともなっている。タウヒード*の徒であったイブラーヒーム*と、その息子でありアラブ人の祖でもあるイスマーイール*が建設し、アッラー*が神聖なるものとされたカアバ神殿*とマッカ*を汚そうとする者に対する、アッラー*のお怒りと懲罰（ちょうばつ）の警告、それをお守りになるのは当時そこで崇（あが）められていた偶像などではなく、アッラー*ご自身であることが強調される。そこには、カアバ神殿*の諸事を司（つかさど）っていた当時のクライシュ族*の不信仰者*に対する警告と、預言者*ムハンマド*とその宗教に対するアッラー*のご加護（かご）、そしてイスラーム*とその預言者*に対する敵の策略が無に帰すことの約束が、暗に示されている。
- 2 キリスト教であったエチオピア王国のイエメン総督（そうとく）アブラハは、サヌアに大きな教会を建て、それがカアバ神殿*に代わる巡礼*の場となること（雌牛章 125、悔悟章 28 の訳注も参照）を望んだ。しかしアラブ人たちがそれを受け入れないのを見ると、カアバ神殿*を破壊（はかい）すべく、象を従えた強大な軍隊と共にマッカ*へと進軍した（イブン・カスィール 8:483-484 参照）。
- 3 彼らは、クライシュ族*に対しては殺害や捕囚（ほしゅう）、カアバ神殿*に対しては破壊という「策略」を立てていた（アル=クルトウビー20:195 参照）。クライシュ族*は彼らに対して軍事的に太刀（たち）打ち出来なかったので、周辺の山中に避難（ひなん）したが、いよいよアブラハ軍のマッカ*人城というところでアブラハの象が進軍を拒（こば）み、彼らはイエメンへの撤退（てったい）を余儀（よぎ）なくされた（イブン・カスィール 8:485 参照）。
- 4 これはアブラハ軍が、イエメンへ撤退する途中のこと。それらの鳥はくちばしと両足から三つの石を投下したが、その石が命中した者は即死するか、あるいは体が少しずつ崩（くず）れ落ちて行き、死に至った。尚、「大群をなす（アバービール）」という語には、ほかに「次々と連（つら）なってやって来る」「四方から分散してやって来る」といった解釈がある（前掲書 8: 485-487 参照）。

4. 彼らに、泥土^{じぬつち}からなる石を落下させる（鳥たちを）。
5. それでかれは、彼らを食い散^ちらかされた枯^かれ葉のようになさったのだ。

نَرْمِيهِمْ حِجَارَةً مِّن سِجِّيلٍ ﴿١﴾

فَجَعَلَهُمْ كَصِفِّ أَمْكُولٍ ﴿٢﴾



第106章
クライシュ族*章¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. クライシュ族*の慣例に（、感嘆せよ）。²
2. 冬と夏の旅における彼らの慣例に（、感嘆せよ）。³
3. ならば彼らに、この館（カアバ神殿*）の主
*を崇拜*させるのだ。
4. 空腹ゆえに食べ物を彼らにお授けになり、
彼らを恐怖から安らげて下さった⁴お方を。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لِإِيلَافِ قُرَيْشٍ ①

لِإِلْفِهِمْ رِحْلَةَ الْشِّتَاءِ وَالصَّيْفِ ②

فَلْيَعْبُدُوا رَبَّ هَذَا الْبَيْتِ ③

الَّذِي أَطْعَمَهُمْ مِنْ جُوعٍ وَءَامَنَهُمْ

مِنْ خَوْفٍ ④

- 1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭に出現する、クルアーン*の中ではこのスーラ*のみに登場するクライシュ族*という語に由来。マッカ*の住民であり、カアバ神殿*の世話人でもあったクライシュ族*の不信仰者*に対し、アッラー*が彼らに特別の恩恵をお授けになったことへの感謝と共に、アッラーの唯一性*を認め、かれのみを崇拜*することが命じられる。
- 2 その他、「このアーヤ*はこの前のスーラ*と関連しており、『クライシュ族*の慣例ゆえに（、アッラー*は象の仲間を壊滅させられた）』という意味」「これはアーヤ*3と関連しており、『クライシュ族*の慣例ゆえに（…主*を崇拜*させるのだ）』という意味」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー20:201 参照）。
- 3 「冬の旅」とはいエメン地方、「夏の旅」とはシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）へのもの（ムヤッサル 602 頁参照）。マッカ*は作物も実らない土地（イブラーヒーム*章 37 も参照）で、その周囲ではアラブ人たちが常に戦争し合っていた（蜘蛛章 67 とその訳注を参照）が、アッラー*は、クライシュ族*が定期的に交易（こうえき）の旅をし、必要な物資を手に入れることを容易（たやす）くして下さった。（マッカ*の外で）何か問題が降りかかった時には、「私たちはアッラー*の聖域の住民である」と言えば、人々から害を及ぼされることもなかったのだという（アル＝クルトゥビー20:204-209 参照）。
- 4 アーヤ*2の訳注、雌牛章 125 の訳注、蟻章 91 「聖なる地」の訳注も参照。

第107章

手助け章 (アル=マーウーン) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. 言ってみよ、(復活と)報いを嘘とする者(について)。
2. それは孤児を(その権利から)押しやり、
3. 貧者*たちに食べ物を施すことを勧めない者。
4. 災いあれ、礼拝者たち(ではあっても)、
5. 自分たちの礼拝を、おろそかにする者²たち。
6. 見せびらかしで(善行を)行い、
7. 手助け³を妨げる者たちに。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَرَأَيْتَ الَّذِي يُكَذِّبُ بِالْذِّينِ ①

فَذَلِكَ الَّذِي يَدْعُ الْيَتِيمَ ②

وَلَا يُخْضُ عَلَى طَعَامِ الْمُسْكِينِ ③

فَوَيْلٌ لِلْمُصَلِّينَ ④

الَّذِينَ هُمْ عَنْ صَلَاتِهِمْ سَاهُونَ ⑤

الَّذِينَ هُمْ يَرَاءُونَ ⑥

وَيَمْنَعُونَ الْمَاعُونَ ⑦

- 1 マッカ*啓示(マディーナ*啓示説もあり)。スーラ*名は、クルアーン*の中でこのスーラ*のみに登場する同語(アーヤ*7とその訳注を参照)に由来。復活と報いを信じないことが悪の元凶の一つであることを強調しつつ、アッラー*の崇拝*においても、その創造物に対しても善を尽くさないことで、自分自身に災いを招く者の姿が警告と共に描かれている。
- 2 (義務の)礼拝時間の遵守(じゅんしゅ)、礼拝の基本的行為や条件を満たすこと、礼拝における恭順さ(雌牛章 45 の訳注も参照)や、その意味の熟慮(じゅくりよ)などを「おろそかにする者」のこと(イブン・カシール 8:493 参照)。
- 3 この「手助け(マーウーン)」という語の具体的な解釈には、「淨財*」「財産」「斧(おの)、鍋(なべ)、火など、家で利用する物」「全ての有益な物」「貸し物」「あらゆる善事」「水と草」「水」「権利」「水と火と塩」などといった諸説がある(アル=クルトゥビー 20:213-215 参照)。

第108章
潤沢章（アル=カウサル）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (預言者*よ、) 本当にわれら*は、あなたに潤沢²を授けた。
2. ならば、あなたの主*にのみ礼拝し、(かれの御名においてのみ) 屠れ。³
3. 実にあなた(と、あなたの携えて来た導き)を憎む者こそは、断ち切られた者⁴なのである。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا أَنْعَمْنَا عَلَى الْكَوْثَرِ ①

فَصَلِّ لِرَبِّكَ وَانْحَرْ ②

إِنَّ شَانِئَكَ هُوَ الْأَبْتَرُ ③

- 1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、クルアーン*の中でこのスーラ*のみに登場する同語に由来。預言者*ムハンマド*が、現世と来世において多くの善きものを授かるということの占報と慰安(いあん)、それに対するアッラー*への感謝の命令、預言者*とその教えに敵対する者への警告が述べられている。
- 2 「潤沢(カウサル)」とは、そもそも「沢山の善きもの」という意味。そしてその一つが、復活の日*に預言者*に与えられる同名の川「カウサル」と、水飲み場である。その川の長さとは幅は一ヶ月の旅程、水は乳より白く、蜜より甘く、水を飲むための杯はその数の多さと輝きゆえに星空のようで、それを一口飲めば永遠に喉(のど)が渇(かわ)くことはない、とされる(アッ=サアディー935頁参照)。
- 3 これは、アッラー*以外のものにサジダ*し、アッラー*以外の名において家畜を屠っていたシルク*の徒と、正反対のこと。家畜章121、162-163も参照(イブン・カスィール8:503参照)。また、これは特に「イード*・アル=アドハー(犠牲祭)の日、礼拝をしてから犠牲を屠ること」を示しているのだ、とも言われる(アル=クルトゥビー20:218-219参照)。尚、ここで「屠れ」という訳をあてたアラビア語は「ナフル」で、主にラクダに対して行われる「首の付け根を刃物で突き刺す」屠殺法。ただし、このアーヤ*の意味には、それ以外の屠殺法による屠殺も含まれる(アッ=シャンキーティー9:130参照)。
- 4 「断ち切られた者(アブタル)」とは語源的に、男児がいないう、尻尾(しっぽ)のない家畜のことで、それが転じて、「その後には善きものが残らないような全てのこと」を指す言葉(アル=クルトゥビー20:223参照)。マッカ*の不信仰者*らは、預言者*に「死んでしまえば、その後に語り継がれることもない者」「男児が夭折(ようせつ)したため、跡継(あとつ)ぎのない者」などと悪口を言ったものだった(イブン・カスィール8:504-505参照)。しかし実際のところ、そうなるのは彼ら預言者*の敵なのであり、預言者*とはといえば、その子孫も名声も徳も復活の日*まで続くのである(アル=バイダーウィー5:537参照)。

第109章

不信仰者*たち章(アル=カーフィルーン)¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、アッラー*とその使徒*を否定する者たちに、) 言ってやれ。「不信仰者*たちよ、
2. 私は、あなた方の崇拝*するもの²を崇拝*せず、
3. あなた方は、私の崇拝*するもの(アッラー*)の崇拝*者ではない。
4. また、私はあなたが崇拝*したものの崇拝*者ではなく、
5. あなた方は、私の崇拝*するものの崇拝*者ではない。³
6. あなた方にはあなた方の宗教⁴があり、私には我が宗教がある」。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ يَا أَيُّهَا الْكَافِرُونَ ①

لَا أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ ②

وَلَا أَنْتُمْ عِبَادُونَ مَا أَعْبُدُ ③

وَلَا أَنَا عَابِدٌ مَّا عَبَدْتُمْ ④

وَلَا أَنْتُمْ عِبَادُونَ مَا أَعْبُدُ ⑤

لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِيَ دِينِ ⑥

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。タウヒード*の強調と、シルク*との決別を謳(うた)うスーラ*で、スーラ*名は冒頭での呼びかけの言葉に由来。一説に、マッカ*の不信仰者*たちが預言者*ムハンマド*に対し、「隔年(かくねん)でお互いの崇拝対象を崇拝*しよう」という妥協(だきょう)策を提示したことに関し、下ったスーラ*とも言われる。クルアーン*の中でも特に重要とされ、預言者*によって頻繁(ひんぱん)に読誦(どくしょう)されたスーラ*の一つ。

2 つまり偶像や、偽(にせ)の神々のこと(ムヤッサル 603 頁参照)。

3 アーヤ*2-3 とアーヤ*4-5 の関係については、「前者は崇拝*の対象、後者は崇拝*の仕方において、不信仰者*たちとの決別を表明するもの。つまりアーヤ*4-5 は、『私はあなた方の崇拝*の仕方では崇拝*せず、アッラー*がお喜びになる仕方では崇拝*するが、あなた方はアッラー*の崇拝*において、アッラー*のご命令と決まりを守らず、自分たちで勝手に崇拝*の仕方をでっち上げている』という意味」「前者は現在、後者は未来のこと」「後者は前者の意味の強調」「前者が彼らの行為の否定、後者が行為とそれを受け入れることの否定」(イブン・カシール 8:507-508 参照)「前者は未来、後者は現在、あるいは過去のこと」(アル=バイダーウィー 5:537-538 参照)といった諸説がある。

4 「宗教」ではなく、「報い」という解釈もある(アル=クルトゥビー 20:229 参照)。

第 110 章
援助章 (アン=ナスル) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、) アッラー*の援助と勝利が到来し、²
2. 人々が、次々と集団でアッラー*の宗教(イスラーム*)に入るのを見たならば、
3. あなたの主*の称赞*と共に(かれを)称え*、かれにお赦しを乞え。本当にかれはもとより、よく悔悟をお受け入れになる*お方なのだから。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا جَاءَ نَصْرُ اللَّهِ وَالْفَتْحُ ﴿١﴾

وَرَأَيْتِ النَّاسَ يَدْخُلُونَ فِي دِينِ اللَّهِ أَفْوَاجًا ﴿٢﴾

فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ وَاسْتَغْفِرْ لَهُ ﴿٣﴾
كَانَ تَوَّابًا ﴿٤﴾

1 マディーナ*啓示でも後期に下ったもの。スーラ*名にもなっているように、アッラー*からの援助と勝利、宗教の完結、大勢の人々がイスラーム*を受け入れることの占報と共に、預言者*ムハンマド*のこの世との別れが近づいたことが暗に示される。そして偉業(いぎょう)が完遂した締めくくりとして、アッラー*に対する更なる感謝と崇拝*、罪のお赦しを乞うことが、命じられている。

2 この「勝利」とは、マッカ開城*のこととされる。アラビア半島のアラブ諸部族は、預言者*ムハンマド*が自分の民に勝利し、マッカ*を開城することを預言者*性の印の一つとしていた。それでマッカ開城*の後、彼らは次々とイスラーム*を受け入れることとなり、アラビア半島全体にイスラーム*が行き渡るまで二年も要しなかったのである(イブン・カシール 8:513 参照)。また、「勝利」が「諸国の開城」「一般的な意味での勝利」である、といった解釈もある(アル=クルトウビー 20:230 参照)。

第 111 章
縋り合わされたもの章 (アル=マサド) ¹

慈悲あまねく* 慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. アブー・ラハブ*の両手²は破滅せよ。そして彼は、(確かに) 破滅したのだ。³
2. 彼の財産も、彼が得たもの⁴も、(アッラー*の懲罰が下された時、) 彼の役には立たなかった。
3. 彼は、(激しく燃え上がる) 炎を有する業火⁵に入って炙られることになる。
4. そしてその妻、つまり薪の運搬人⁵も (そこに入って炙られよう)。⁶

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

نَبَتْ يَدَا أَبِي لَهَبٍ وَتَبَّ

مَا أَغْنَىٰ عَنْهُ مَالُهُ وَمَا كَسَبَ

سَيَصْلَىٰ نَارًا ذَاتَ لَهَبٍ

وَأَمْرَأَتُهُ حَمَّالَةَ الْحَطَبِ

- 1 マッカ*啓示。スーラ*名は、このスーラ*にしか登場しない同語 (アーヤ*5) に由来。預言者*ムハンマド*を否定し、敵対し、危害を加えようとする男女に対する懲罰の警告がなされる。
- 2 アラビア語特有の表現で、体の一部「両手」によって体全身を表している。あるいは、「彼の財産、所有物」(アル=バガウィー5:327 参照)。その他「預言者*に向けて石を投げていたために、両手が特に言及されている」「彼の現世と来世」といった解釈もある (アル=バイダーウィー5:544 参照)。
- 3 「一番近い親族に警告せよ」というアーヤ* (詩人たち章214) が下った後、預言者*ムハンマド*はサファアの丘に登り、アッラー*からの命令通り、クライシュ族*を集めて「本当に私は厳しい懲罰に先立つ、あなた方への警告者である」(サバア章 46 も参照) と呼びかけた。それに対し、アブー・ラハブ*が「お前に破滅あれ。こんなことのために私たちを集めたのか?」と言ったことに対し、このスーラ*が下ったとされる (アル=プハーリー4971 参照)。
- 4 「彼が得たもの」とは、子供のこととされる。一説に彼は、来世における不信仰の応報を聞かされた時、「もしそれが本当なら、(その日、) 私は自分の財産と子供を代償 (だいしょう) として、それを免じてもらおう」などと言った (イブン・カスィール 8:515 参照)。
- 5 アブー・ラハブ*の妻は、ウンム・ジャミール。「薪の運搬人」の解釈には、「棘 (とげ) を運んできては、預言者*の通り道に撒 (ま) いていたこと」「預言者*について、悪い噂を吹いて回っていた (筆章 11 の訳注も参照) ことのたとえ」「預言者*の貧しさを蔑 (さげす) む一方、自分は裕福なのに、けちだったことのたとえ」「罪を負うことのたとえ」といった諸説がある (アル=クルトゥビー20:239-240 参照)。
- 6 実際、彼ら夫婦はイスラーム*を受容することなく、この世を去った (アッ=サアディー936 頁参照)。

5. 彼女の首には、縋^より合わされたものの紐^{ひも}が
（かけられて）ある。¹

فِي جِيدِهَا حَبْلٌ مِّن مَّسَدٍ ﴿٥﴾

¹ 「縋り合わされたもの（マサド）」の具体的な意味については、様々な説がある。だが、その語義的意味は「ラクダの革であれ、ヤシの木の繊維・葉であれ、鉄であれ、きつく縋り合わされたもののこと」（アル＝ワーヒディー24:417 参照）。ここから解釈学者らは、彼女が「現世では、『縋り合わされた紐』で首にかけた背負い袋に棘（とげ）を集めていた（アーヤ*4 の訳注も参照）が、来世では首に『火の鎖（鉄で縋り合わされたもの）』をかけつつ、地獄の業火にくべる薪の袋を背負う」という解釈を導き出している（アッ＝ラーズィー11:355 参照）。

第112章
純正章（アル=イフラス）¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. （使徒*よ、）言え。「かれはアッラー*、唯一なる*お方、
2. アッラー*は、威光高き*お方、
3. お産みすることもなければ²、お産まれにもならなかった³のであり、⁴
4. 誰一人、かれに匹敵するものもなかった」。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ هُوَ اللَّهُ أَحَدٌ ①

اللَّهُ الصَّمَدُ ②

لَمْ يَلِدْ وَلَمْ يُولَدْ ③

لَمْ يَكُنْ لَهُ كُفُوًا أَحَدٌ ④

- 1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。アッラーの唯一性*を肯定すると共に、シルク*を否定する。アッラー*の属性のみを純粋に取り上げ、アッラーの唯一性*に対する信仰を純正なものとするものの必要性を説くことから、このスーラ*名で知られる。イスラーム*の根本教義が簡潔にまとめられていることから、「クルアーン*の三分の一に相当する（アル=ブハーリー5013 参照）」とされ、礼拝中かどうかに関わらず、折に触れてよく読まれるスーラ*の一つ。
- 2 アッラー*に子供がないのは、以下のことから明白である：①子供は親と同種だが、アッラー*に同種のものはない（食卓章 75、相談章 11 とそれらの訳注なども参照）。②親は子供を必要とするゆえに子供があるが、アッラー*は何ものをも必要とされない（ユヌス*章 68 も参照）。③全創造物はアッラー*のしもべ（マルヤム*章 93 も参照）なのであり、その事実は親子関係を否定する。④そもそもアッラー*に配偶者はない（家畜章 101 も参照）（イブン・ジュザイ 2:626 参照）。
- 3 全ての産まれるものは「発生させられた存在」だが、アッラー*は誰にもその永遠の存在を発生させられることなく、その存在において誰にも先行されることのなかった「最初のお方（鉄章 3 とその訳注も参照）」なのである（前掲書、同頁参照）。
- 4 これらの動詞は全て、過去における否定形で表現されており、未来形は言及されていない。その理由は、このアーヤ*がそもそも、当時のシルク*の徒の「アッラー*は子供をお生みになった（整列者章 152 参照）」という言葉への反論として下ったためである、とされる（アッ=ジャウカーニー5:698-699 参照）。

第113章
黎明章 (アル＝ファラク) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、) 言え。「私は黎明²の主*に、
ご加護を乞う。
2. かれが創造された物の悪から。
3. また、深まった闇(夜)の悪から。
4. また、繋ぎ目に息を吹き込む女たちの悪か
ら。³
5. また、嫉妬⁴した妬み屋の悪から」。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ الْفَلَقِ ﴿١﴾

مِنْ شَرِّ مَا خَلَقَ ﴿٢﴾

وَمِنْ شَرِّ غَاسِقٍ إِذَا وَقَبَ ﴿٣﴾

وَمِنْ شَرِّ النَّفَّاثِ فِي الْعُقَدِ ﴿٤﴾

وَمِنْ شَرِّ حَاسِدٍ إِذَا حَسَدَ ﴿٥﴾

- 1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、冒頭に登場する語に由来。悪がはびこりやすい時期や状況を示しつつ、悪しき創造物の悪から身を守るための祈願の言葉が教示される。預言者*ムハンマド*は折に触れて、このスーラ*を「人々章」と共に読み(この二つのスーラ*は、まとめて「アル＝ムアウウィザターン(ご加護を求める二つのスーラ*)」と呼ばれる)、災難からの予防と魔よけとしたものであり、それは以後のムスリム*たちの慣習となった。
- 2 「黎明(ファラク)」は、「裂く」という語から派生したものとされる。そこから、「(夜の闇から裂き出される)黎明(家畜章 96 も参照)」だけでなく、動物、種子、水など、裂かれて出現する全てのものを指す、といった説もある(アル＝クルトゥビー 20:255 参照)。
- 3 これは魔術師の女たちのこと。魔術を行う際には、紐(ひも)のつなぎ目に息を吹き込んでいたとされる。また、魔術師として特に女性が言及されていることに関しては、「そもそも魔術師が女性なのではなく、『心』という省略された女性名詞にかかっているため」「預言者*ムハンマド*に魔術をかけたユダヤ教徒*ラビード・ブン・アル＝アアサムの娘たちのことを、特に指しているため」(アッ＝シャウカーニー 5:704-705 参照)「アラブ人の魔術師の多くは、女性だったため」(イブン・アーシュール 30:628 参照)といった説がある。
- 4 「嫉妬(ハサド)」とは、恩恵を授かった誰かから、その恩恵が消え去ってしまうことを望むこと(ムヤッサル 604 頁参照)。筆章 51 訳注内の「アイン」についての説明も参照。

第 114 章
人々章 (アン＝ナース) ¹

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. (使徒*よ、) 言え。「私は人々の主*に、ご加護を乞う、
2. 人々の王、
3. (真に崇拜*されるべき唯一の存在である、) 人々の神²に、
4. 頻りに身を潜ませて囁きかける者³ (シャイターン*) の悪から。
5. (それは、) 人々の胸に (悪を) 囁きかける、
6. ジン*と人々である」。⁴

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ النَّاسِ ①

مَلِكِ النَّاسِ ②

إِلَهِ النَّاسِ ③

مِنَ شَرِّ الْوَسْوَاسِ الْخَفَاسِ ④

الَّذِي يُوسْوِسُ فِي صُدُورِ النَّاسِ ⑤

مِنَ الْجِنَّةِ وَالنَّاسِ ⑥

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、冒頭に登場する語に由来。全能かつ唯一のアッラー*に縋(すが)りつつ、人間の行いを損(そこ)ね、正しい道から逸(そ)らそうとする、人間とジン*からなるシャイターン*の悪から身を守るための祈願の言葉が教示される。いわゆる「アル＝ムアウウィザターン(黎明章の訳注 1 を参照)」の一つで、黎明章が主に身体的な害悪に対するご加護を祈るのに比べ、本スーラ*は主に心的な害悪に対するご加護を祈る。

2 「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 シャイターン*は不注意な時には囁きかけてくるが、アッラー*が想起されると「身を潜めてしまう」(ムヤッサル 604 頁参照)。

4 家畜章 112 も参照。尚、人間のシャイターン*の「囁き」とは、同情的な忠告者を装(よそお)って、ジン*のシャイターン*が囁くようなことを、忠告の形で胸に訴(うった)えかけること(アッ＝シャウカーニー5:708 参照)。

参考文献目録¹

- アブー・アッ＝スウード、ムハンマド・ブン・ムハンマド・アル＝イマーディー (Abu al-Su'ud Muhammad al- 'Imadi)、『クルアーンの特色への健全な理性の誘い (Irshad al- 'Aql al-Salim ila Mazaya al-Quran al-Karim)』、第2版、Dar Ihya at-Turath al- 'Arabi 社、ベイルート、1995 年。
- アブー・ダーウード、スライマーン・ブン・アル＝アシュアス・アッ＝シジスターニー (Abu Dawud Sulaiman al-Sijistani)、『アブー・ダーウードのスナン集 (Sunan Abi Dawud)』、ムハンマド・ムファイイ・アッ＝ディーン校訂、Dar al-Fikr 社、ベイルート。
- アブー・ハイヤーン、ムハンマド・ブン・ユースフ・ブン・アリー・アル＝アンダルーシー (Abu Hayan Muhammad al-Andalusi)、『クルアーン解釈・大洋 (al-Bahar al-Muhit)』、Dar al-Fikr 社、ベイルート。
- アフマド、アフマド・ブン・ムハンマド・ブン・ハンバル・アッ＝シャイバーニー (Ahmad Muhammad Hanbal al-Shaibani)、『アフマドのムスナド集 (Musnad Ahmad)』、シュアイブ・アル＝アルナウト他による校訂、アブドッラー・ブン・アル＝ムフスィン・アッ＝トルキー監修、Muassasat al-Risalah 社、ベイルート、2001 年。
- アル＝アル＝スィー、マフムード・ブン・アブドッラー・アル＝フサイニー (Mahmud al-Alusi)、『偉大なるクルアーンと反復される七つのものの解釈における意味の魂 (Ruh al-Ma'ani fi Tafsir al-Quran al- 'Azim wa al-Sab'i al-Mathani)』、Dar Ihya al-Turath al- 'Arabi 社、ベイルート。
- アル＝アルバーニー、ムハンマド・ナーシル・アッ＝ディーン (Muhammad Nasir al-Deen al-Albani)、『真正な伝承の連鎖 (Silsilat al-Ahadith al-Sahihah)』、Maktabat al-Ma'aarif 社、リヤド、1995 年。
- アリー・アル＝フダイリー (Ali al-Khudairi)、『三つの基礎の解釈における簡明 (al-Wajizat fi Sharah al-Usul al-Thalathah)』
- 井筒俊彦 (Toshihiko Izutsu)、『コーラン (Al Quran)』、岩波文庫、第六十三版、2010 年。
- イブン・アーシュール、ムハンマド・ブン・ムハンマド・ブン・アーシュール・アッ＝トゥニスィー (Ibn 'Ashur Muhammad al-Tunisi)、『クルアーン解釈における正しい意味の検証と新たな理性の啓発 (Tahrir al-Ma'na al-Sadid wa Tanwir al- 'Aql al-Jadid min Tafsir al-Kitab al-Majid)』、Dar al-Tunisiyah 社、1984 年。

1 ここではアラビア語における目録の一般的法則に従い、アラビア語の定冠詞「アル」を語の一部と見なさない。つまり「アル＝バガウィー」は、「バ」から始まる語とする。

- イブン・アティーヤ、アブド・アル＝ハック・ブン・ガーリブ・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アティーヤ (Ibn ‘Atiya)、『偉大なるクルアーンに関する抄録 (al-Muharrar al-Wajiz fi Tafsir al-Kitab al-Aziz)』、アブド・アッ＝サラーム・アブド・アッ＝シャーフィー・ムハンマド校訂、第一版、Dar al-Kutub al-‘Ilmiyah 社、バイルート、1993 年。
- イブン・アビー・アル＝イッズ、ムハンマド・ブン・アリー・ブン・ムハンマド・アッ＝ディマシュキー (Ibn Abi Al-‘izz al-Dimashqi)、『アッ＝タハーウィーの信仰箇条解説 (Sharah al-‘Aqidat al-Tahawiyah)』、サウジアラビア王国イスラーム諸事・財産寄進・布教・伝道省、ヒジュラ暦 1419 年。
- イブン・アル＝アスィール、アル＝ムバーラク・ブン・ムハンマド・ブン・ムハンマド・アル＝ジャザリー (Ibn al-Athir)、『伝承の難解語における極み (al-Nihayat fi al-Gharib al-Hadith)』、ハリール・マアムーン校訂、第二版、Dar al-Ma‘rifah 社、レバノン、2006 年。
- イブン・アビー・ハーティム、アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・ムハンマド・アッ＝ラーズィー (Ibn Abi Hatim al-Razi)、『偉大なるクルアーン (Tafsir al-Quran al-Azim)』、アスアド・ムハンマド・アッ＝タイイブ校訂、第一版、Dar Nizar Mustafa al-Baz 社、サウジアラビア、ヒジュラ暦 1417 年。
- イブン・アル＝アラビー、ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・ムハンマド (Ibn al-‘Arabi)、『クルアーンの法規定 (Ahkam al-Quran)』、第三版、Dar al-Kutub al-‘Ilmiyah 社、バイルート、ヒジュラ暦 1424 年。
- イブン・アル＝ジャウズィー、アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アリー・ブン・ムハンマド (Ibn al-Jawzi)、『クルアーン解釈における旅路の蓄え (Zad al-Masir fi ‘Ilm al-Tafsir)』、第三版、al-Maktab al-Islami 社、バイルート、ヒジュラ暦 1404 年。
- イブン・イスハーク、ムハンマド・ブン・イスハーク・ヤサール (Muhammad Ibn Ishaq)、『預言者伝 (al-Sirat al-Nabawiyah)』、アフマド・ファリード・アル＝マズィーディー校訂、第一版、Dar al-Kutub al-‘Ilmiyah 社、バイルート、2004 年。
- イブン・ウサイミーン、ムハンマド・ブン・サーリフ・アル＝ウサイミーン (Muhammad Ibn Salih al-‘Uthaimin)、『価値ある集成』。
- イブン・ウサイミーン、ムハンマド・ブン・サーリフ・アル＝ウサイミーン (Muhammad Ibn Salih al-‘Uthaimin) 『ファトワー・論説集 (Majmu‘u al-Fatawa wa Rasail al-Shaikh Muhammad Ibn Salih al-‘Uthaimin)』、ファハド・ブン・ナースィル・アッ＝スライマーン編、Dar al-Watan Dar al-Thuraiyah 社、ヒジュラ暦 1413 年。

- イブン・カシール、イスマーイール・ブン・ウマル・ブン・カシール (Ibn Kathir)、『偉大なるクルアーン解釈 (*Tafsir al Quran al- 'Azim*)』、サーミ・ブン・ムハンマド・サラーム校訂、第二版、Dar al-Taibah 社、1999 年。
- イブン・ジュザイ、ムハンマド・ブン・アフマド・ブン・ジュザイ・アル＝カルビー (Ibn Juzai al-Kalbi)、『啓示に関する学問の簡易化 (*Tashil li Ulum al-Tanzil*)』、ムハンマド・サーリム・ハーシム校訂、第一版、Dar al-Kutub al-Ilmiyah 社、ベイルート、1995 年。
- イブン・タイミーヤ、アフマド・ブン・アブド・アル＝ハリーム・ブン・アブド・アッ＝サラーム (Ibn Taimiyah)、『ファトワー集 (*Majmu'u al Fatawa li Shaikh al-Islam Ibn Taimiyah*)』、アンワル・アル＝バーズ他による編集、第三版、Dar al-Wafa 社、2005 年。
- イブン・タイミーヤ、アフマド・ブン・アブド・アル＝ハリーム・ブン・アブド・アッ＝サラーム (Ibn Taimiyah)、『預言者的慣行の手法 (*Minhaj al-Sunnat al-Nabawiyah*)』、ムハンマド・ラシャード・サーリム校訂、Muassasat al-Qurtubiyah 社、ヒジュラ暦 1406 年。
- イブン・ハジャール、アフマド・ブン・アリー・ブン・ハジャール・アル＝アスカラーニー (Ibn Hajar al- 'Askalani)、『アル＝ブハーリーの真正集解説における創生者の勝利 (*Fath al-Bari Sharah Sahih al-Bukhari*)』、Dar al-Ma'rifah 社、ベイルート、ヒジュラ暦 1379 年。
- イブン・ハジャール、アフマド・ブン・アリー・ブン・ハジャール・アル＝アスカラーニー (Ibn Hajar al- 'Askalani)、『教友の判別に関する正答 (*'Isabat fi Tamyiz al-Sahabah*)』、アリー・ムハンマド・アル＝バジャーウィー校訂、第一版、Dar al-Jil 社、ベイルート、1992 年。
- イブン・ハジャール、アフマド・ブン・アリー・ブン・ハジャール・アル＝アスカラーニー (Ibn Hajar al- 'Askalani)、『修訂の簡約 (*Taqrib al-Tahzhib*)』、アーデイル・ムルシド校訂、第一版、Muassasat al-Risalah 社、2002 年。
- イブン・バッタール、アリー・ブン・ハラフ・ブン・アブド・アル＝マリク (Ibn Battal)、『アル＝ブハーリーの真正集解説 (*Sharah Sahih al-Bukhari*)』、ヤースィル・ブン・イブラーヒーム校訂、第二版、Maktabah al-Rushud 社、リヤド、2003 年。
- イブン・ヒシャーム、アブド・アル＝マリク・ブン・ヒシャーム・ブン・アイユーブ・アル＝マアーフィリー (Ibn Hisham al-Ma'afiri)、『預言者伝 (*al-Sirat al Nabawiyah*)』、ウマル・アブド・アッ＝サラーム・タドゥムリー校訂、第三版、Dar al-Kitab al- 'Arabi 社、ベイルート、1990 年。

- イブン・マージャ、ムハンマド・ブン・ヤズィード・アル＝カズウィーニー (Ibn Majah al-Qazwini)、『イブン・マージャのスナン (*Sunan Ibn Majah*)』、ムハンマド・フアード・アブド・アル＝バーキー校訂、Dar al-Fikr 社、ベイルート。
- イブン・マンズール、ムハンマド・ブン・ムクリム・ブン・マンズール (Ibn Manzur)、『アラブの言詞 (*Lisan al- 'Arab*)』、第一版、Dar Sadir 社、ベイルート。
- ウマル・アル＝アシュカル ('Umar al-Ashqar)、『アッラーの美名 (*Asma Allah al Husna*)』、第一版、Dar al Nafais 社、アンマン、2004 年。
- クウェイト法学大全 (*al Mausu'at al-Fiqhiyat al-Kuwaitiyah*)、クウェイト・ワクフ・イスラーム諸事省 (*Ministry of Awqaf and Islamic Affairs, State of Kuwait*)、1404-1427 年。
- アル＝カースイミー、ムハンマド・ジャマール・アッ＝ディーン (Muhammad al Qasimi)、『釈義の美点 (*Mahasin al-Taawil*)』、ムハンマド・フアード・アブド・アル＝バーキー校訂、第一版、Dar Ihya al-Kutub al- 'Arabiyyah 社、カイロ、1957 年。
- アル＝クルトゥビー、ムハンマド・ブン・アフマド (Muhammad Ibn Ahmad al-Qurtubi)、『クルアーン法規定に関する大全 (*al Jami' li Ahkam al Quran*)』、アフマド・アル＝バルドゥーニー他による校訂、Dar al-Kutub al-Misriyyah 社、カイロ、1964 年。
- アッ＝サアディー、アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・ナーシル (Abd al-Rahman al-Sa' di)、『恵み深いお方の御言葉の解釈における貴く慈悲あまねきお方の簡便 (*Taisir al-Karim al-Rahman fi Tafsir Kalam al-Mannan*)』、アブド・アッ＝ラフマーン・アル＝ルワイヒク校訂、Muassasat al-Risalah 社、ベイルート、2000 年。
- アッ＝サミー、アフマド・ブン・ユースフ・アル＝ハラビー (al-Samin al-Halabi)、『秘められた書の学問における守られた真珠 (*al-Durr al Masun fi 'Ilm al-Kitab al-Maknun*)』、アフマド・ムハンマド・アル＝ハッラート校訂、Dar al-Qalam 社、ダマスカス。
- アッ＝ザッジャージ、アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・イスハーク (Abd al-Rahman al Zajjaji)、『アッラーの美名の派生 (*Ishtiqaq Asma Allah*)』、アブド・ラッブ・アル＝フサイン・アル＝ムバーラク校訂、Muassasat al-Risalah 社、ベイルート、1986 年。
- サリーフ・アーリ・アッ＝シャイフ (Salih Ibn Abd al-Aziz Ali Shaikh)、『三つの根本原理解説 (*Sharah Thalathat al-Usul*)』Maktabat Dar al Hijaz 社、ヒジュラ暦 1433 年。

- アッ=シャウカーニー、ムハンマド・ブン・アリー・ムハンマド・アッ=シャウカーニー (Muhammad al-Shawkani)、『クルアーン解釈学における、伝承と智見の両学を集結した全能者の勝利 (*Fath al Qadir al-Jami' baina Fannai al-Riwayat wa al-Dirayat min 'Ilm al-Tafsir*)』、アブド・アッ=ラフマーン・ウマイラ校訂、第三版、Dar al-Wafa - Dar Ibn Hazm 社、マンスーラ、ヒジュラ暦 1426 年。
- アル=ジャザーイリー、アブー・バクル・ジャービル・ブン・ムーサー (Abu Bakr al-Jazairi)、『至高かつ大いなるお方の御言葉の最も簡易な解釈 (*Aisar al Tafasir li Kalam al- 'Aliy al-Kabir*)』、Maktabat al-Ulum wa al-Hikam 社、マディーナ、2003 年。
- アッ=シャルビーニー、ムハンマド・ブン・アフマド (Muhamma al-Sharbini)、『クルアーン解釈書・煌々たる灯火 (*Tafsir al-Siraj al Munir*)』、Dar al Kutub al- 'Ilmiyah 社、バイルート。
- アッ=シャンキーティ、ムハンマド・アル=アミン・ブン・ムハンマド・アル=ムフタール (Muhammad al-Amin al-Shanqiti)、『クルアーン解釈における解明の光 (*Adwa al Bayan fi Idahi al Quran bi al Quran*)』、Dar al Fikr 社、バイルート、1995 年。
- アッ=ズハイリー、ワフバ・ブン・ムスタファー (Wahbat al-Zuhaili)、『イスラーム法とその典拠 (*al-Fiqh al-Islami wa Adillatuh*)』、Dar al-Fikr 社、第四版、ダマスカス。
- アッ=ズィリクリー、ハイル・アッ=ディーン・ブン・マフムード・ブン・ムハンマド (Khair al-Din al-Zirkli)、『人名 (*al-A'lam*)』、第十五版、Dar al- 'Ilm li al-Malaeen 社、2002 年。
- アッ=ズバイディー、ムハンマド・ブン・ムハンマド (Muhammad al-Zubaidi)、『辞典の宝珠からなる花嫁の王冠 (*Taj al- 'Urus min Jawahir al-Qamus*)』、Dar al-Hidayah 社。
- アッ=スユーティ、ジャラルール・アッ=ディーン・アブド・アッ=ラフマーン・ブン・アビー・バクル・ブン・ムハンマド (Jalal al-Din al-Suyuti)、『クルアーン諸学の精通 (*al-Itqan fi Ulum al-Quran*)』、アフマド・ブン・アリー校訂、Dar al-Hadith 社、カイロ、ヒジュラ暦 1425 年。
- アッ=ダーリミー、アブドッラー・ブン・アブド・アッ=ラフマーン (Abd Allah al-Darimi)、『アッ=ダーリミーのムスナド集 (*Musnad al Darimi*)』。フサイン・サリーム・ハーン校訂、al-Mughni 社。

- アッ=タバリー、ムハンマド・ブン・ジャリール (Muhammad Ibn Jarir al Tabari)、『クルアーンのアヤ釈義に関する明証大全 (Jami' al Bayan 'An Taawil Ay al Quran)』、アブド・アル=マジード・アブド・アル=ムヌイム・マドゥクル監修、第一版、Dar al-Salam 社、リヤド、2005 年。
- ダルウィーシュ、ムフイイ・アッ=ディーン・ブン・アフマド・ムスタファー・ダルウィーシュ (Muhyi al-Din Ibn Ahmad Mustafa Darwish)、『クルアーンの文法解釈とその解説 (I'rab al-Quran wa Bayanuh)』、第四版、Dar al-Irshad li al-shuun al-Jami'iyah 社、ヒムス、ヒジュラ暦 1415 年。
- アッ=ティルミズィー、ムハンマド・ブン・イーサー (Muhammad Ibn 'Isa al Tirmidhi)、『アッ=ティルミズィーのスナン集 (Sunan al-Tirmidhi)』、アフマド・ムハンマド・シャーキル他による校訂、Dar Ihya al-Turath al-'Arabi 社、ベイルート。
- アン=ナイスアブーリー、アル=ハサン・ブン・ムハンマド・ブン・フサイン (al Hasan Ibn Muhammad al Naisaburi)、『クルアーンの難解語と識別の野心 (Gharab al Quran wa Raghaib al-Furqan)』、ザカリーヤ・ウマイラーン校訂、Dar al-Kutub al-'Ilmiyah 社、ベイルート、1996 年。
- アン=ナサーイー、アフマド・ブン・シュアイブ (Ahmad al-Nasai)、『アン=ナサーイーの大スナン集 (Sunan al-Nasai al-Kubra)』アブド・アル=ガッファール・スライマーン・アル=バンダーリー他による校訂、Dar al Kutub al 'Ilmiyah 社、ベイルート、1991 年。
- 日本ムスリム協会 (Japan Muslim Association)、『日亜対訳・注解 聖クルアーン (Tarjimat Ma'ani al-Quran)』、第六版、2000 年。
- アル=バイダーウィー、アブドッラー・ブン・ウマル・ブン・ムハンマド・アッ=シーラーズィー (Abd Allah Ibn 'Umar al-Baidawi)、『啓示の光と釈義の奥義 (Anwar al-Tanzil wa Asrar al-Taawil)』、Dar al-Fikr 社、ベイルート。
- アル=バガウィー、アル=フサイン・ブン・マスウード・ブン・ムハンマド (al Husain Ibn Mas'ud al Baghawī)、『クルアーン解釈における降示の表徴 (Ma'alim al-Tanzil)』、アブド・アッラッザーク・アル=マハディー校訂、Dar Ihya al-Turath al-'Arabi 社、ベイルート、ヒジュラ暦 1420 年。
- アル=ハーキム、ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・ハマダウィヒ・アン=ナイスアブーリー (Muhammad al-Hakim)、『ムスタドウラク (Mustadrak 'Ala al-Sahihain)』、ムクビル・ハーディー・アル=ワダーイー校訂、第一版、Dar al Haramain、カイロ、1997 年。

- アル=ハッタービー、ハマド・ブン・ムハンマド (Abu Sulaiman Hamad al-Khattabi)、『祈願の重要性 (*Shaan al-Du'a*)』、アフマド・ユースフ・アッ=ダツカーク校訂、第三版、Dar al-Thaqafat al- 'Arabiyah 社、ダマスカス、1992 年。
- アル=ビカーイー、イブラーヒーム・ブン・ウマル (Ibrahim al-Biqā'iyi)、『アーヤとスーラにの関連性における真珠の連結 (*Nuzzum al-Durar fi Tanasub al-Ayat wa al-Suwar*)』、アブド・アッ=ラッザーク・ガーリブ・アル=マハディー校訂、Dar al-Kutub al- 'Ilmiyah 社、ベイルート、1995 年。
- アル=ビカーイー、イブラーヒーム・ブン・ウマル (Ibnrahim al-Biqā'iyi) 『スーラの諸目的を観測するにあたっての視点の上昇 (*Masa'id al Nazar li al Ishraf 'ala Maqasid al Suwar*)』、アブド・アッ=サミーウ・ムハンマド・アフマド・ハサナイン校訂、第一版、Maktabat al-Ma'aarif 社、リヤド、1987 年。
- ヒシャーム・ブン・アブド・アル=カーディル・アーリ・ウクダ (Hisham Ibn Abd al Qadir Ali 'Uqudah)、『受容の階梯・要約 (*Mukhtasar Ma'arij al-Qabul*)』、第五版、Maktabat al-Kauthar 社、リヤド、ヒジュラ暦 1418 年。
- アル=ファイルーズアーバーディー、マジド・アッ=ディーン・ムハンマド・ブン・ヤクープ (Majd al-Din Muhammad al-Fairuzabadi)、『偉大なるクルアーンの霊妙な知識を判別する慧眼 (*Basair Zawi al-Tamyiz fi Lataif al-Kitab al-Aziz*)』、Maktabat al- 'Ilmiyah 社、ベイルート。
- アル=ブハーリー、ムハンマド・ブン・イスマーイール・ブン・イブラーヒーム (Muhammad Ibn Isma'il al Bukhari)、『アル=ブハーリーの真正集 (*Sahih al Bukhari*)』、ムハンマド・ズハイル・アン=ナースィル校訂、Dar Tawq al Najah 社、ヒジュラ暦 1422 年。
- マフムード・アッ=タッハーン (Mahmud al-Tahhan)、『ハディース学簡略 (*Taisir Mustalah al-Hadith*)』、第十版、Maktabah al-Ma'aarif 社、2004 年。
- マフムード・ブン・アブド・アッ=ラフマーン・サーフィ (Mahmud Ibn Abd al Rahman al-Safi)、『クルアーン文法解釈と形態文法、及びその説明 (*al-Jadwal fi I'rab al-Quran wa Sarfuhu wa Bayanuhu*)』、第四版、Dar al-Rashid Muassasat al-Iman 社、ダマスカス、ヒジュラ暦 1418 年。
- マンナーウ・アル=カッターン (Manna'u al-Qattan)、『クルアーン学研究 (*Mabahith fi Ulum al-Quran*)』、第三版、Maktabat al-Ma'aarif 社、2000 年。
- アル=ミズィー、ジャマール・アッ=ディーン・ユースフ (Jamal al-Din Yusuf al-Mizzi) 『伝承者らの名称に関する極致の修訂 (*Tahdhib al-Kamal Fi Asma al Rijal*)』、第一版、バツジャール・アウワード・マアルーフ校訂、Muassasat al Risalah 社、ベイルート、1983 年。

- ムスリム、ムスリム・ブン・ハッジャージュ・アル＝クシャイリー・アン＝ナイサーブリー (Muslim Ibn Hajjaj al Naisaburi)、『ムスリムの真正集 (Sahih Muslim)』、ムハンマド・フアード・アブド・アル＝バーキー校訂、Dar Ihya al-Turath al-‘Arabi 社、ベイルート。
- ムハンマド・ブン・アブドッラー・アッ＝タブリーズィー (Muhammad al-Tabrizi)、『灯火の壁龕 (Mishkat al-Masabih)』、第三版、ムハンマド・アル＝アルバーニ校訂、al-Maktab al-Islami 社、ベイルート、1985 年。
- ムハンマド・アル＝フダイリー、ムハンマド・ブン・アブドッラー・アリー (Muhammad al Khudairi)、『タービウーンのクルアーン解釈 (Tafsir al-Tabi’yin)』、Dar al-Watan 社。
- ムバーラクフーリー、サフィーユ・アッ＝ディーン (Safiy al-Din Mubarakfuri)、『封印された果汁 (al-Rahiq al-Makhtum)』、Dar al-Muayed 社、リヤド、2000 年。
- ムヤッサル、アッ＝タフスィール・アル＝ムヤッサル (al-Tafsir al-Muyassar)、第二版、King Fahad Complex for Printing、2009 年。
- ユースフ・アッ＝サイド (Yusuf al Sa’id)、『ムハンマド・ブン・アブド・アル＝ワッハブ著“アッラーの使徒が反した、ジャーヒリーヤの諸事”の研究・校訂・解説 (Sharah Kitab al-Masail allati Khalafa fiha Rasul Allah Ahl al-Jahiliyah)』、Dar al-Muayed 社、リヤド、1996 年。
- ムニラ・ムハンマド・ナースィル・アッ＝ドースリー (Munira Muhammad al Dusuri)、『クルアーンのスーラの名称とその徳 (Asma Suwar al Quran wa Fadailuha)』、第一版、Dar Ibn al Jauzi 社、サウジアラビア、ヒジュラ暦 1426 年。
- アッ＝ラーギブ、アル＝フサイン・ブン・ムハンマド・アル＝アスファハーニー (al-Raghib al-Asfahani)、『クルアーンの難易語目録 (al-Mufradat fi Gharib al-Quran)』、サフワーン・アドゥナーン・ダーウーディー校訂、Dar al-‘Ilm - al-Dar al-Shamiyah 社、ヒジュラ暦 1412 年。
- アッ＝ラーズィー、ファフル・アッ＝ディーン・ムハンマド・ブン・ウマル・ブン・アル＝ハサン (Fakhr al-Din al-Razi)、『不可視の世界の鍵 (Tafsir Mafatih al-Ghaib)』、第一版、Dar Ihya al-Turath al-‘Arabi 社、ベイルート、ヒジュラ暦 1429 年。
- アッ＝ルーミー、ファハド・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・スライマーン (Fahad al-Rumi)、『クルアーン諸学研究 (Dirasat fi Ulum al-Quran)』、第十二版、Fahrasat Maktabat al-Malik Fahad al Wataniyah、リヤド、2013 年。

- アッ=ルーミー、ファハド・ブン・アブド・アッ=ラフマーン・スライマーン (Fahad al Rumi)、『スーラ冒頭の文字群における挑戦と奇跡性の諸側面 (*Wujuh al-Tahaddi wa al-I'jaz fi al Huruf al Muqatta'a fi Awwal al Suwar*)』、第1版、Maktabat al-Taubah 社、1997 年。
- アル=ワーヒディー、アリー・ブン・アフマド・ブン・ムハンマド ('Ali Ibn Ahmad al-Wahidi)、『詳注 (*al-Tafsir al-Basit*)』、アブド・アル=アズィーズ・ブン・サッターム・ブン・アブド・アル=アズィーズ・アーリ・サウード監修、Imam Muhammad Ibn Saud Islamic University、リヤド、ヒジュラ暦 1430 年。

頻出名・用語解説（五十音順）¹

- **アイシヤ**：アブー・バクル*の娘アイシヤ。預言者*ムハンマド*の妻の一人^{よ げんしや}で、傑出した学者の一人であり、預言者*から最も多くの伝承を伝える教友*の一人^{けつしゆつ}でもある。ヒジュラ暦*58年頃没。²
- **アイユーブ**：旧約聖書のヨブのことであると言われる。忍耐強い預言者*^{よ げんしや}で、アラブ人だったとされる^{よ げんしや}。預言者*たち章 83-84、サード章 41-44 でその話が言及されている。
- **アウラ**：語源的意味は「急所」。法学的には「男女が露わにするのを禁じられている場所」。成人*男性のアウラは、臍より下と両膝から上^{あら}ということで学者の見解は一致。礼拝時以外における、自由民の成人*女性のアウラについての一般の見解は次の通り。①マハラム*以外の男性に対してのアウラ：顔と両手首から先を除く全身（ハナフィー学派*では、両足首から先について意見の相違あり）。②マハラム*男性およびムスリム*女性に対してのアウラ：マールク学派*・ハンバリー学派*では、顔・頭部・首・両腕・両足を除く全身。ハナフィー学派*では、そこに胸も含める。シャーフイー学派*では、臍より下と両膝から上まで^{へそ}。但しこれらは全て、欲望や問題を引き起こす恐れがない場合において許される、ということである^た。⁵尚、夫婦どうしは、互いに全身を見ることが許される⁶。
- **アスル**：五つの義務の礼拝の一つで、午後の四ラクアの礼拝。^{ぎ む れいはい}その時間帯は大半の法学者によれば、ある物の影がそれ自身と同じ長さ^{れいはい}にまで達した時点から始まる（影がそれ自身の倍の長さ^{しず}に達した時点から始まるという、少数派の見解もあり）。アスルの時間が終わるのは、①太陽が沈む前まで、②太陽が白ずみ始めるまで、③ある物の影がそれ自身の倍の長さになるまで、といった見解がある⁷。しかし一般的に言って、何の正当な理由もない限り、②の時間までに行うことが望ましいとされる。

1 ここではアラビア語における目録の一般的法則に従い、アラビア語の定冠詞「アル」を語の一部と見なさない。つまり「アル＝ヤサア」は、「ヤ」から始まる語とする。

2 アッ＝ズィリクリー3:240 参照。

3 前掲書2:36 37 参照。

4 クウェイト法学大全24:173-174 参照。

5 前掲書31:48 参照。

6 前掲書24:174 参照。

7 前掲書7:173 175 参照。

- **アーダム**：人類の祖アダムのこと。イスラーム*では預言者*の一人¹とされ、その名は大地の「表面（アディーム）」にあった土から創られたことに由来するとも言われる²。
- **アッラー**：全知全能の創造主。アッラー*を信仰することは、いわゆる六信の一つである。完全無欠かつ永遠である唯一の存在であり、崇拝*すべき唯一の対象。全てをその英知に適った形でお定めになり、お望みのことを行い給い、復活の日*には現世での被造物の行いを公正にお裁きになる。「アッラー」という語の由来には、それが固有名詞であるとか³、「アリハ（崇拝*する）」という動詞から派生したものに定冠詞の「アル」が結合して変化したものである⁴など、諸説存在する。アッラーは人類の創造以来、人々にかれの啓示を伝える預言者*や使徒*をお遣わしになった。ヌーフ*やイブラーヒーム*、ムーサー*、イーサー*らはその一人であり、預言者*ムハンマド*は最後の使徒*として啓示の最終版と共に全人類に遣わされた。
- **アッラー*にこそ全てを委ねる**：原語では「タワククル・アラー＝アッラー」とその派生形。アッ＝ラーズィー*によれば、それは自らの努力を怠ることではなく、目的達成のための外的要因を満たした上で、心はアッラー*の完全なる御心にお任せする、ということ⁵。またアル＝クルトゥビー*によれば、法学者間でのその定義は「アッラー*を信頼し、その定めの実現を確信すること。また、飲食、敵に対する自衛、武器の準備、アッラー*が定められた自然法則上、必要不可欠なものの使用など、避けられない物事において、アッラー*の使徒*のスナ*に依拠しつつ努力すること」⁶。そして「アッラー*にこそ全てを委ねること」は自分の無力さを認め、全ての物事をお望みのままにされるアッラーの御力に頼ることである。それは信仰と不可分であり、アッラー*が愛でられ、ご満悦される最も偉大な崇拝*行為の一つで、全ての崇拝*行為の前提でもある⁷。全てを請け負われるお方*も参照。
- **アッラ*に（全てを）委ねる**：アッラー*にこそ全てを委ねるの項を参照。
- **アッラー*の偉大さを称揚する**：原語は「大きくする」という意味の「タクビーラ」とその派生形。アッラー*が全創造物の主*として、崇拝*される唯一の存在として、またその美名と属性において、そしてかれが定められた定命と法において、この上なく偉大であることを称えること⁸。大いなるお方*の項も参照。

1 アッ・タバリー1:357 参照。

2 アル＝ハーキム 2:261 参照。

3 アン＝ナイサーブリー1:73、アッ＝ラーズィー1:65 参照。

4 アッ＝タバリー1:125 127、アッ＝ザッジャッジー29 頁、イブン・タイミーヤ「ファトワー集」1:88 参照。

5 アッ＝ラーズィー3:410 参照。

6 アル＝クルトゥビー4:189 参照。

7 アッ＝サアディー145、422、657 頁参照。

8 サリーフ・アーリ・アッ＝シャイフ 196 198 頁参照。

- アッラー*の唯一性：タウヒード*の項を参照。
- アード：古代アラビア半島南部に栄えた強大な民。アッラー*は彼らに預言者*フード*を遣わされたが、彼に背いたために滅亡させられた。その記述は高壁章 65-72、フード*章 50 60、詩人たち章 123 140、詳細にされた章 13 16、砂丘章 21-26、月章 18-22、真実章 1-6、暁 章 6-14 などに見受けられる。
- アブー・ザッル：イスラーム*布教開始期でも最も早期に改宗した、教友*の一人。正直さと清貧さで知られる。ヒジュラ暦*32 年没。¹
- アブー・ジャハル：本名はアムル・ブン・ヒシャーム。マッカ*の不信仰者*の中でも、イスラーム*とその信徒に対して特に敵対していた指導者的存在の一人。パドルの役*（ヒジュラ暦*2 年）で戦死。
- アブー・スフヤーン：本名はサフル・ブン・ハルブ。クライシュ族*の指導者的存在の一人。ウマイヤ家出身で、ウマイヤ朝初代カリフのムアーウィヤの父。イスラーム*に対して長年敵対していたが、マッカ開城*の際にイスラーム*改宗。ヒジュラ暦*31 年没。²
- アブー・バクル：本名アブドッラー・ブン・ウスマーン・ブン・アーミル・アッタイミー。預言者*ムハンマド*逝去後の、イスラーム*国家初代正統カリフ。預言者*によって天国を約束された、十人の教友*の一人³。マッカ*のクライシュ族*の中でも、有力者の家に生を受ける。成人*男性では最も早期に改宗した教友*であると言われ、預言者*に最も近い人物であった。また敬虔さと善行で知られ、マッカ*における布教期には、抑圧されていた数多くの奴隷*改宗者を買取り、解放した。また、その信仰心の強さゆえに「スティディーク（よく信じる者、信仰を体现する者といった意味）」という称号を有する。カリフ在位期にはウマル*の提案により、クルアーン*の第一次編纂を主導。娘アーイシャ*は、預言者*ムハンマド*の妻の一人。ヒジュラ暦*13 年没。⁴
- アブー・ラハブ：本名アブド・アル＝ウッザー・ブン・アブドル＝ムッタリブ。預言者*ムハンマド*の伯父だったが、イスラーム*に対して最も激しく敵対し、信徒たちを抑圧した者の一人。パドルの戦い*の数日後、病死⁵。縋り合わされた章も参照。

1 アッ＝ズィリクリー2:140 参照。

2 前掲書3:201 参照。

3 アブー・ダーウード 4650 参照。

4 イブン・ハジャル「修訂の簡約」255 頁、アッ＝ズィリクリー4:102 参照。

5 アッ＝ズィリクリー4:12 参照。

- アブドラー・ブン・ウバイイ：マディーナ*のハズラジュ族の指導者で、偽信者*の長。バドルの戦い*後イスラーム教徒を装い、内側から様々な手段を用いてイスラーム*に敵対する行動を行う。ヒジュラ暦*9年没。¹
- アーヤ：クルアーン*における節のこと。
- アリー：アリー・ブン・アビー・ターリブ・ブン・アブド・アル＝ムッタリブ。第四代正統カリフ。預言者*ムハンマド*の叔父の息子で、預言者*の娘ファーティマの夫。預言者*によって天国を約束された、十人の教友*の一人²。最も早期に改宗したムスリム*の一人であり、未成年では最初に改宗。勇猛さと雄弁さ、英知を兼ね備えた英傑。クルアーン*解釈だけでなく、イスラーム法にも長じていた。ヒジュラ暦*40年に殉教。³
- 哀れみ深いお方：アッラー*の美名の一つで、原語では「アッ＝ラウフ」。「ラフマ」を語源とする「慈悲あまねきお方*」「慈愛深きお方*」よりも、繊細な慈悲の意味合いがあると言われる。⁴
- アンサール：アンサールとは複数形で、単数形は「アンサーリー」。語源的には「援助する者」という意味で、イスラーム*用語においては、マッカ*からの移住者たち（ムハージルーン*）を迎え入れ援助した、マディーナ*在住のムスリム*たちのことを指す。
- アンマール：アンマール・ブン・ヤースィル。最も早期に両親と共に改宗した、教友*の一人。両親はいずれも、拷問死した殉教者。ヒジュラ暦*37年没。⁵
- イェティカーフ：一定期間の間、特定の条件に基づいてマスジド*にお籠もりする崇拜*行為のこと。
- 威光高きお方：アッラー*の美名の一つ。原語では、「アッ＝サマド」。アッラー*は、この上ない威光を誇り、その榮譽、偉大さ、寛大さ、知識、英知において完全さを極めた、強固なる長。それゆえに全創造物は、かれを求め、かれに乞い、かれに依存するが、そのことがかれを不注意にさせることもない。⁶
- イーサー：いわゆるマリアの子イエス。イスラーム*においては傑出した使徒*の一人であり、福音*を授かった。イスラーム*においてはいかなる神性も備えてはおらず、磔にされて死んでもいない。預言者*ムハンマド*の伝承によれば、彼

1 アッ＝ズィリクリー4:65 参照。

2 アッ＝ティルミズィー3747 参照。

3 イブン・ハジャル「修訂の簡約」341頁、アッ＝ズィリクリー4:295-296 参照。

4 ウマル・アル＝アシュカル 258 - 259 頁参照。

5 アッ＝ズィリクリー5:36 参照。

6 ウマル・アル＝アシュカル 235 - 236 頁参照。

は末世に地上に降臨し、十字架を破壊し、豚を殺し、富を広く行き渡らせ、彼が死を迎えるまでイスラームで公正に統治する¹。イムラーン家章 42-55、婦人章 157-158、食卓章 110・118、マルヤム*章 16・37などにその描写が認められる。

- **イシャール**：五つの義務の礼拝の一つで、夜の四ラクアの礼拝。その時間帯は夕焼けが消え去ってから始まり、ファジュール*の時間帯に入る前まで続く。しかし正当な理由もなく、夜の最初の三分の一、あるいは半分が終わるまで遅らせるべきではない、というのが一般的な学者の見解。²
- **移住**：原語の名詞形は、何かを回避するという意味の「ヒジュラ」。「聖遷」と訳されることも多い。イスラーム*用語上の意味は、シルク*の徒の支配下にあり、彼らからの宗教的迫害の恐れのある地から、その心配のない地へと移住することを指す。クルアーン*の中では特に断わりがない場合、マッカ*からマディーナ*への第二次移住を示している（第一次移住は、預言者*ムハンマド*が啓示を受けてから五年後に行われた、現在のエチオピア地方への移住）。
- **イサハク**：イサクのこと。イスラーム*における預言者*の一人で、イブラーヒーム*とサーラとの息子。ヤアクーブ*の父親であり、つまりはユダヤ教徒*の父祖でもある。預言者*たち章 72-73、整列者章 112-113、サード章 45-47 などに、その描写を垣間見ることが出来る。
- **イスマーイール**：イシュマエルのこと。イスラーム*における預言者*の一人で、イブラーヒーム*とハージャルとの息子。アラブ人の父祖とされ、ゆえに預言者*ムハンマド*もまた彼の子孫である。雌牛章 125-129、マルヤム*章 54-55、整列章 100-111 などにその描写を垣間見ることが出来る。
- **イスラーイールの子ら**：原語では「バヌー・イスラーイール」。イスラーイールとは、イブラーヒーム*の孫ヤアクーブ*の別名。その子らとは彼の子孫のことであり、一般にユダヤ教徒*のことを指す。ただクルアーン*の中で、ユダヤ教徒*がこの名称で呼びかけられることには、彼らの父祖イスラーイールを言及することによる、特別な意味が含まれているのだという。つまり、「アッラー*に従順であつた正しいしもべ（ヤアクーブ*）の子孫よ、彼を見習うのだ」といった意味合いが含まれているのだとされる³。
- **イスラーム**：ムスリム*の項を参照。
- **偉大なお方**：この上なく偉大なお方*の項を参照。

1 アル・ブハーリー-3443 参照。

2 クウェイト法学大全 7:174 176 参照。

3 イブン・カシール 1:241 参照。

- **イッダ**：夫との離別^{りべつ}などの理由により、女性が妊娠の有無の確認などの目的で待機する、ある一定の期間のこと¹。この期間中、（それまでに同一の妻に対して一回の離婚^{りこん}を宣告していないことを条件に）夫には新たな結婚^{けいやく}の契約を結ぶことなく、彼女を復縁^{ふくえん}する権利がある²。またこの期間中、女性は再婚することが許されない。雌牛章 228 とその訳注なども参照。
- **イドリース**：イスラーム^{よげんしゃ}*における預言者*の一人で、旧約聖書のエノックのこととされる。マルヤム*章 56-57 に言及あり。
- **イード**：一般的には祭りのこと。イスラーム*用語においては、斎戒^{さいかい}*明けの祭りと呼ばれるイード・アル＝フィトゥル（シャウワール*月の一日目）と、犠牲祭と呼ばれるイード・アル＝アドハー（ズル＝ヒッジャ*月の十日目）のこと。³
- **威風堂々たるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ムタカッビル」。偉大さと権威を備え、創造物の属性からは無縁かつ高遠であり、高慢な者たちに対してはその高大さを誇り給うお方。⁴
- **イブラーヒーム**：旧約聖書のアブラハムのこと。イスマール＝イーール*とイスハーク*の父親でもあり、イスラーム*における傑出した使徒^{けっしゅつ}*の一人。イラクの人であったが、シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）、エジプト、アラビア半島と様々な地を旅した。イスラーム*においてはユダヤ教徒*でもなくキリスト教徒*でもない、純正な一神教徒^{もはん}の模範として描写され（イムラーン家章 67 参照）、「アッラーに近い者」という尊称^{そんしょう}で呼ばれる（婦人章 125 参照）。雌牛章 124-132、258、260、イムラーン家章 65-68、家畜章 74-84、フード*章 69-76、イブラーヒーム章 35-41、アル＝ヒジュール章 51-58、マルヤム*章 41-50、預言者*^{よげんしゃ}たち 51-73、巡礼*章 26-29、詩人たち章 69-89、蜘蛛章 16-32、整列者章 83-113、撒き散らされるもの章 24-34 などにもその描写が認められる。
- **イフラーム**：語源的には、「禁忌^{きんき}状態に入ること」。イスラーム*用語においては、ハッジ*、またはウムラ*、あるいはその両方の宗教儀礼に入る意図のこと。大半の法学派は、これをハッジ*とウムラ*における根幹的要素の一つ、としている⁵。尚、この状態に入った者は、頭髪や体毛を除去しないことや、結婚しないことなど、身だしなみやある種の行動などにおいて一定の制約を守らなければならない。

1 クウェイト法学大全 29:304 参照。

2 前掲書22:107-108 参照。

3 前掲書31:114 参照。

4 ウマル・アル＝アシュカル 164 167 頁参照。

5 アッ＝ズハイリー3:2180 参照。

- イブリース：一説にはそもそもジン*の出自であり、天使*たちと共にアダム*にサジダ*するようにアッラー*から命令された（雌牛章 34、高壁章 11、アル＝ヒジュール章 29、夜の旅章 61、ター・ハー章 116、サード章 72 参照）のは、彼が崇拜*行為などの行為において天使*に相似していたからだと言われる。また一説には、イブリースは天使*の内の「ジン」と呼ばれる一族の出身で、他の天使*のように光からではなく火から創られた。いずれにせよ、これらの説が基になっている伝承の大半は典拠が不確かなものであり、クルアーン*において明確に示されているのは、イブリースがアッラー*に反抗したために追放されたシャイターン*となったということである¹。
- イブン・アッパース：アブドッラー・ブン・アッパース・アブド・アル＝ムッタリブ。預言者*ムハンマド*のいとこで、傑出した学者の一人であり、預言者*から最も多くの伝承を伝える教友*の一人でもある。クルアーン*解釈学の大家。マッカ*のクルアーン*解釈・伝承学派の祖。ヒジュラ暦*68 年没。²
- イブン・アティーヤ：本名アブド・アル＝ハック・ブン・ガーリブ・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アティーヤ。グラナダ出身のクルアーン*解釈学・伝承学・アラビア語学・法学者で、裁判官も務めた。全時代を通して卓越したクルアーン*解釈書の一つと見なされる「偉大なるクルアーンに関する抄録」の著者。ヒジュラ暦*540 年代没。³
- イブン・アル＝アラビー：本名ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・ムハンマド。ヒジュラ暦*468 年没。セビリアの出身。マリーキー学派*の法学者で裁判官。伝承学・法学・法源学・クルアーン*解釈学・文学・歴史学などにおいて、後世に残る著作を残した。⁴
- イブン・イスハーク：本名ムハンマド・ブン・イスハーク。歴史上、初めて預言者*を著したと言われる歴史家・伝承家。ヒジュラ暦*150 年頃没⁵。
- イブン・ウバイイ：アブドッラー・ブン・ウバイイ*の項を参照。
- イブン・ウマル：第二代カリフ・ウマル・ブン・アル＝ハッターブ*の息子。預言者*から最も多くの伝承を伝える教友*の一人。ヒジュラ暦* 73 年頃没。⁶

1 イブン・カスィール 5:167 169 参照。

2 イブン・ハジャール「修訂の簡約」251 頁参照。

3 アッ＝ズィリクリー 3:282 参照。

4 前掲書 6:230 参照。

5 イブン・ハジャール「修訂の簡約」403 頁参照。

6 前掲書 256 頁参照。

- **イブン・ウヤイナ**：スフヤーン・ブン・ウヤイナ。クーフアに生まれ、マッカ*に住み、そこでヒジュラ暦* 198 年に没。当時のヒジャーズ地方（マッカ*やマディーナ*を擁するアラビア半島の紅海沿岸地域）における傑出した学者の一人であり、初期にクルアーン*についての伝承を書にまとめた学者の一人でもある。¹
- **イブン・カスィール**：本名イスマーイル・ブン・ウマル・ブン・カスィール。現在のシリア地方出身のクルアーン*解釈・伝承・法学・歴史学者。全時代を通して最良のクルアーン*解釈書の一つと目される「偉大なるクルアーン*解釈」の著者。クルアーン*それ自身と伝承に基づいてクルアーン*を解釈する、という手法が特徴的。ヒジュラ暦*774 年没。²
- **イブン・タイミーヤ**：本名アフマド・ブン・アブド・アル＝ハリーム・ブン・アブド・アッ＝サラーム。現在のシリア地方出身。多分野に渡って傑出した学者であり、「シャイフ・アル＝イスラーム（イスラーム*の長老）」という尊称で呼ぶことを好む人々もいる。二十歳になる前に既に教鞭を取り、法的決定を発する権威があったと言われる。ヒジュラ暦* 728 年没。イブン・カスィール*の師でもある。³
- **イブン・マスウッド**：アブドッラー・ブン・マスウッド。最も早期に改宗した教友*の一人で、クルアーン*学を始めとするイスラーム*諸学に通じた学者の一人でもあった。イラクのクーフアにおける、クルアーン*解釈学派の祖。ヒジュラ暦*32 年頃没。⁴
- **偉力ならびないお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は「アル＝アズィーズ」。最も強大で、何よりも優越し、荘厳で、いかなるものも匹敵することが不可能な存在。クルアーン*の中ではよく、「英知あふれるお方*」「慈愛深きお方*」といった美名と並列して言及される。アッラー*のご偉力は英知や公正さ、慈悲の念に裏づけされたものである。⁵
- **外なるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は「アッ＝ザーヒル」。光によるベールと、その主*性と唯一性*を証明する事象と、明らかなる根拠の数々により、この上なく顕現した存在。また、高きにあり、全てを上回るお方。いかなる外側にあるもの、上にあるものも、かれを越えることは出来ない。関連して「内なるお方*」も参照。⁶

1 アッ＝ズィリクリー3:105 参照。

2 前掲書1:320 参照。

3 前掲書1:144 参照。

4 イブン・ハジャール「修訂の簡約」265 頁参照。

5 ウマル・アル＝アシュカル 69 73 頁参照。

6 前掲書242 243 頁参照。

- ウスマーン：第三代正統カリフ、ウスマーン・ブン・アッファーン。預言者*^{よげんしゃ}によって天国を約束された、十人の教友*^{きょうゆう}の一人^{ひとり}。預言者*ムハンマド*の娘二人（ルカイヤとウンム・クルスム）を娶ったことから、「ズー・アン＝ヌーライン（二つの光の持ち主）」と呼ばれる。裕福かつ地位の高い家に生まれ、イスラーム*のために財を惜しむことなく施した。彼のカリフ時代にはイスラーム*国家の領土が大きく拡大したが、扇動されたムスリム群衆によって殺害され、ヒジュラ暦*35年に殉教^{じゆんきやう}。2
- 内なるお方：アッラー*の美名の一つ。原語は「アル＝バーティン」。全ての内なるもの、秘められたものをご存知になり、何よりも近い存在（カーフ章 16 参照）で、かつ現世では拝見することの出来ない存在。被造物にとってはいかに遠いものも、かれにとっては近いものである。また不可視の世界*もかれにとっては現象界と変わらず、いかなる内に秘められたものも、かれにとっては露わなものでしかない。関連して「外なるお方*」も参照。3
- ウドゥー：語源的には、「よい状態、清めること」。法的用語としての意味は、「そうする意図を持ちつつ、身体の特定期間を水を用いて洗うこと」。ウドゥーは、排泄、放屁、深い眠り、失神などによって生じたいわゆる「小さな穢れ」を清め、礼拝やクラーアーン*に触れることなど、特定の行為を可能な状態にさせるだけでなく、その他様々な状況において勧められている4。尚「大きな穢れ」は、グスルによって清める。
- ウフドの戦い：ヒジュラ暦*3 年、マディーナ*近郊ウフド山の麓で起こった、マディーナ*のムスリム*軍とマッカ*の不信仰者*軍の戦い。アブー・スフヤーン*率いるマッカ*軍は、前年に喫したバドルでの大敗の雪辱をかけ、約三千もの兵と多数のラクダと馬を従えて、マディーナ*近郊に進軍した。バドルの戦いに参加する機会を逃した教友*たちは勝気にはやり、マディーナ*郊外に出向いてマッカ*軍を迎え撃つべきだと提案し、預言者*ムハンマド*は多数派の意見であったその提案を受け入れた。当初マディーナ*軍の兵数は約千名だったが、敵軍を前に、偽信者*の長アブドッラー・ブン・ウバイイ*率いる約三百名が撤退。そのような中でも戦局はマディーナ*軍に有利に進み、マッカ*軍は後退し始める。しかしその時、絶対に持ち場を離れないよう預言者*から命じられていた五十名の弓兵の大半が、戦利品*を目にしてその命令に背いてしまった。その隙をついてマッカ*の騎兵隊がマディーナ*軍を包囲し、戦況は一転する。この結果、マディーナ*軍は戦死者

1 アブー・ダーウード 4650 参照。

2 アッ＝ズリクリー4:210 参照。

3 ウマル・アル＝アシュカル 著 242 244 頁参照。

4 クウェイト法学大全 43 : 315、320 325、385 399 参照。

七十名（マッカ*軍の戦死者は三十数名）という被害を出す結果となった¹。ウフドの戦いの描写は、イムラーン家章（121-179 参照）に詳しい。

- **ウマル・ブン・アル=ハッターブ**：アブー・バクル*^{あと つ}の跡を継いだ、第二代正統カリフ。預言者*^{よげんしゃ}によって天国を約束された、十人の教友*^{きょうゆう}の一人²。イスラーム*改宗以前からその政治力と豪胆さ^{ごうたん}で知られた彼の改宗は、イスラーム*の歴史に大きな影響^{えいきょう}を与えた。マッカ*のムスリム*^{おおや}たちは彼が改宗して始めて、カアバ神殿*^{しんでん}で公けに礼拝が出来るようになったと言われ³、彼のカリフ時代にはイスラーム*国家の領土がシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）、イラク、エジプト、アルジェリア方面にまで及び、国家組織の整備が進むと共に、社会的公正が広く行き渡った。「アル=ファールーク（真つ二つに分断する者）」の異名通り、真理^{まこと}と虚妄^{きやうやう}を分けるイスラーム*の興隆^{こうりゅう}に大きく貢献^{こうけん}する一方で、敬虔な*信仰者^{けいけん}としても知られた。娘ハフサは、預言者*ムハンマド*^{よげんしゃ}の妻の一人。ヒジュラ暦*23年に殉教^{じゆんきやう}。4
- **ウムラ**：いわゆる小巡礼。マッカ*のカアバ神殿*^{しんでん}を訪問し、ある特定の形式において宗教儀礼^{ざいれい}を行うこと。
- **永生するお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では、生きる、という意味の語から派生した「アル=ハイユ」。アッラー*は、生という属性^{ぞくせい}をもって存在し続けるお方。他の生物のように誕生したのでもなく、死を迎えることもない。⁵
- **英知あふれるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は「アル=ハキーム」で、「何かをそれに相応しい場に置くこと」という意味の、「ヒクマ」という語の強調^{きやうちやう}能動分詞。つまり、かれの御言葉と御業は、全て英知に適った正しいものであり、完璧なものである。また、かれこそは唯一の完璧な裁き手であり、その権限を手に担^{にな}われたお方である。⁶
- **栄誉高きお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では、寛大さや、恵み深さ、高貴さなどを表す語から派生した「アル=マジード」。クルアーン*とアッラ*一の御座もまた、同語によって形容される。⁷

1 ムバーラクフリー-248 284 参照。

2 アブー・ダーウード 4650 参照。

3 アル=ハーキム 3:4548 参照。

4 アッ=ズィリクリ-4:45-46 参照。

5 アル=ハッタービー-80 頁参照。

6 ウマル・アル=アシュカル 127 131 頁参照。

7 前掲書188 189 頁参照。

- **大いなるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では、「アル＝カビール」。アッラー*は、その本質と程度において大いなるお方で、かれに比べればいかなる偉大な存在も卑小なものになってしまう¹。アッラーの偉大さを称揚する*の項も参照。
- **畏れる**：拙訳にて便宜上、一貫して「畏れる」「敬虔」といった訳語をあてた原語は、動詞「イッタカー」の派生形（名詞形は「イッティカーウ」あるいは「タクワー」）。そもそもの語源的意味は「自らを守ること」であり、つまりアッラー*のご命令に従いつつ、かれが禁じられた物事やかれへの不従順さを回避することで、自らをアッラー*のお怒りや懲罰から守るという意味が含まれている。²
- **カアバ神殿**：マッカ*のハラーム・マスジド*のほぼ中央部に位置する、立方体に近い建築物。イムラーン家章 96 にもある通り、アッラー*を崇拝*するために地上に建てられた最初の館とされ、ムスリム*にとってのキブラ*である。東南の角には、天国から落ちたとされる黒石が嵌められている。
- **アル＝カースィミー**：ムハンマド・ブン・ジャマール・アッ＝ディーン・ムハンマド・アル＝カースィミー。様々な分野において多くの著作を残した、ダマスカス出身の学者。それ以前のクルアーン*解釈書から、著者が選りすぐった解釈を引用した作品「釈義の美点」の著者。ヒジュラ暦*1332 年没。³
- **カタールダ**：カタールダ・アッ＝サドゥーシー。タービーイー*。アル＝ハサン*と並び、当時のバスラにおける傑出したクルアーン*解釈・伝承学者の一人。ヒジュラ暦*110 年代に没。⁴
- **かれにこそ全てを委ねる**：アッラーにこそ全てを委ねる*の項を参照。
- **寛恕されるお方**：よく寛恕されるお方*の項を参照。
- **寛大なお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では、「アル＝ハリーム」。怒りに流されることもなく、人間の無知さや罪深さに取り乱すこともない、赦し深く、辛抱強いお方。⁵
- **看視されるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では、「アル＝ムキート」。守護する、見守る、立ち会う、力あふれる、といった意味。語源的には、糧を与えるという意味の語「アカータ」が由来。⁶

1 ウマル・アル＝アシュカル 156 157 頁参照。

2 アッ＝タバリ 1:183 参照。

3 アッ＝ズィリクリ 2:135 参照。

4 イブン・ハジャル「修訂の簡約」389 頁参照。

5 アル＝ハッタービー 63 頁参照。

6 イブン・アーシュール 5:144 参照。

- **キブラ**：礼拝の際に向かう方向のこと。ムスリム*のキブラは、マッカ*のハーラム・マスジド*の中に位置しているカアバ神殿*である。雌牛章 142 150 とその訳注も参照。礼拝においてキブラに向かうことは、それが可能な者にとって、礼拝が有効となるための一条件（旅行中に乗り物に乗ったままで行う任意の礼拝を除く）である。また、礼拝の際に、カアバ神殿*を見ることが可能な者にとっては、カアバ神殿*そのものに向かうことが義務づけられることで、法学者の見解は一致。一方、カアバ神殿*を見ることが出来ない者にとっては、カアバ神殿*自体に正確に向かわなければならないという意見と、その方向へと向かう努力さえすればよいという意見がある¹。尚、マッカ*から遠い場所にいる者の礼拝に関しては、四大法学派*の大半の見解では、カアバ神殿*の方向へと向く努力をするだけで十分とされる²。
- **教友**：原語では「サハービー（複数形はサハーバ）」。教友の定義は、信仰者として預言者*ムハンマド*と会い、信仰者として天命を全うした者³。悔悟章 100、勝利章 18、29 などを始め、預言者*ムハンマド*の「最善の人々は我が世代であり、それにその次の世代、そしてその次の世代が続く」⁴といった言葉など、その徳はクルアーン*とスンナ*に数多く見受けられる。
- **キリスト教徒**：原語では「ナスラーニー（複数形はナサーラー）」⁵。その名称は、彼らがお互いに助け合っていた（ナサラ：援助する）ことに由来するとか、彼らの居住していた「ナースィラ（ナザレ）」という地名に由来するなど、諸説ある⁵。預言者*ムハンマド*時代のアラビア半島周辺には、ローマ帝国の支配下にあったシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）、エチオピア王国、その属領であったイエメン地方など、キリスト教徒の領域が広がっていた。またアラビア半島内にもキリスト教徒は少数ながら存在していたことから、イスラームが信徒レベルでも国家レベルでも、当時からキリスト教と関わり合いを持つことはごく自然なことであった。まだ年若いムハンマド*がシャーム地方への隊商に同行した時、彼が将来預言者*となることを予言したのはボスラのキリスト教修道士だったし、彼が初めて啓示を受けた際、その預言者*性を最初に認めたワラカ・ブン・ナウファルもまた、聖書に通じたキリスト教徒であったとされる。マッカ*での迫害を逃れ、少数のムスリム*たちが庇護を求めてキリスト教国であったエチオピアに移住*したこともあれば、マディーナ*のイスラーム国家とローマ帝国との間に戦いが起こったこと（タブークの戦い*の項も参照）もあり、預言者*時代からキリスト教徒との接触は多かった。

1 クウェイト法学大全 32:302 参照。

2 前掲書4:67 参照。

3 イブン・ハジャール「教友の判別に関する正答」1:7 参照。

4 アル・ブハーリー-6429 参照。

5 イブン・カスィール 1:285 参照。

- グスル：法的用語においては、「特定の条件を満たしつつ、全身を清い水で洗うこと」。精液の放出、性交、月経、産後の出血などによって生じた「大きな穢れ」を清める。「大きな穢れ」の状態にある時は、礼拝、タワーフ*、書物としてのクルアーン*に触れること、クルアーン*の読誦、マスジド*に滞在することが禁じられ、月経・産後の出血がある女性は斎戒*も禁じられる。またグスルは金曜日やイード*において、勧められた行為となる¹。ウドゥー*の項も参照。
- クライシュ族：預言者*ムハンマド*時代以前から巡礼地として栄えていたマッカ*に居住し、商業やハラーム・マスジド*の管理などに携わっていた、アラブ部族の中でもとりわけ高貴な一族。預言者*ムハンマド*はこの一族の中でも、更に高貴とされるハシミ家の出身。
- クルアーン：いわゆる「コーラン」のこと。アッラー*からの人類への導きとして数ある啓典が下されてきたが、クルアーン*は最後の預言者*ムハンマド*に啓示された、啓典の最終版。過去にムーサー*に啓示されたトーラー*、イーサー*に啓示された福音*など周知の啓典が下されたということへの信仰や、それ以外の詳細が知られていない啓典についても一般的な形で信仰すること、そして最後の啓典クルアーン*とそこに含まれる永久不変の教えを信じるのは、いわゆる六信の一つ。クルアーン*とは何かという定義は大きな議論的になっているが、その内の最も簡潔なものの中に「ムハンマド*に啓示されたアッラー*の御言集で、その読誦が崇拜*行為となるもの」というものがある²。尚、本来は定冠詞「アル」が付属して、「アル・クルアーン」と呼ばれるが、拙訳では一般的に普及しつつある通称に基づき、単に「クルアーン」とした。
- クルアーンの冒頭に現れる文字群：全部で百十四あるクルアーン*のスーラ*の内、二十九のスーラ*が「アリフ・ラーーム・ミーム」「ハー・ミーム」といった、一見意味不明のアラビア文字群によって始まる。その意味には様々な解釈があるが、多くの学者によって支持されている説は、これらの文字がクルアーン*の奇跡性を示している、というものである。つまりクルアーン*は、これらの限られたアラビア文字（全二十八文字の内、その半数の十四文字が、このような形でいくつかのスーラ*の冒頭に出現している）から成立しているにも関わらず、その様式と内容において類を見ない完成度を示している、というものである³。そしてアラビア語に最も精通していた当時のアラブ人でさえ、このごく限られた文字から成立しているクルアーンと同様のものを創作してみよと挑まれても、応じることが出来なかった⁴。雌牛章 23、ユーヌス*章 38、フード*章 13、夜の旅章 88、山章 33-34 も参照。

1 クウェイト法学大全 17:124-128、31:194 - 205 参照。

2 イブン・ハジャール「修訂の簡約」255 頁、アッズィリクリー「人名」4:102 参照。

3 アッラーミー「スーラ冒頭の文字群における、挑戦と奇跡性の諸側面」8 頁以降参照。

4 ムヤッサル 2 頁参照。

- **アル＝クルトゥビー**：ムハンマド・ブン・アフマド・アル＝クルトゥビー。コルドバ出身のクルアーン*解釈学者で、特に法学的側面を詳細に扱った大著「クルアーン*法規定に関する大全」の著者。学問のため諸国を旅した後、エジプトに定住し、そこでヒジュラ暦*671年に逝去。¹
- **君臨し給うお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では「征服する、制圧する」といった意味の語から派生した「アル＝カーヒル」または「アル＝カッハール」。後者の方が、より強調された意味合いがあるという。アッラー*はその偉大さと崇高さ、至高さと全能性ゆえに全創造物が屈服し、その御力とご裁決の前ではいかなる権力者も惨めであるようなお方である。²
- **敬虔**：「畏れる*」の項を参照のこと。
- **啓典の民**：ユダヤ教徒*とキリスト教徒*のこと。
- **啓典を授けられた民、啓典を授けられた者たち**：「啓典の民*」の項を参照。
- **固定刑**：法学用語上は、「アッラー*への権利、あるいはアッラー*と人間の権利（の侵害）ゆえに義務づけられた、あらかじめ規定された刑罰のこと」。前者の例としては、姦通罪など、後者の例としては他人を姦通で訴える罪などが挙げられる³。
- **悉く包囲されるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は、何かを完全に配下に収め、制することを表す語から派生した能動分詞「アルームヒート」。アッラー*は、その偉大さと御知識、御力によって、創造物を完全に包囲しており、いかなるものもそこから免れることは出来ない。⁴
- **この上なく偉大なお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は、高さや広さ、奥行きなどにおける大きさを表す語から派生した強調能動分詞「アル＝アズィーム」⁵。アッラー*はその位階において途方もなく、その荘厳さが理性の限界を超えたお方。ゆえにその本質や、真実のお姿は想像不可能である⁶。
- **広量なお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は、「広い」とか「余裕のある」とかいった意味の語から派生した能動分詞「アル＝ワースィウ」。全創造に対するその糧とご慈悲が、あり余るほどに豊かなお方。そしてその知識、法規定、英知、赦し深さなどにおいても、広大無辺なお方。⁷

1 アッ＝ズィリクリー5:322 参照。

2 ウマル・アル＝アシュカル 95-96 頁参照。

3 クウェイト法学大全 17: 129 参照。

4 ウマル・アル＝アシュカル 202-203 頁参照。

5 アッ＝ズバイディー3:110。

6 イブン・アル＝アスィール 2:224 参照。

7 ウマル・アル＝アシュカル 180 頁参照。

- **困窮者**：「貧者」を参照のこと。
- **婚資金**：原語では「マハル」、「サダーク」、「ニフラ」など多数の呼び名がある。イスラーム*用語においては、女性が結婚の契約をするか、あるいは男性と性交渉した際（無知から、イスラーム*法的に正しい条件を満たしていない結婚をし、性交渉してしまったような場合）に、贈られるべき財産のこと。これは結婚という契約の重要性と価値を表し、女性に榮譽と敬意を示すものである。¹
- **サーア**：容積による測量単位で、4 ムッドに相当。約 2.75 リットルに相当するというのが一般的な説だが、他説もあり。²
- **アッ＝サアディー**：近代サウジアラビアを代表する学者の一人。代表作に「恵み深いお方の御言葉の解釈における 貴く*慈悲あまねき*お方の簡便」などがある。ヒジュラ暦*1376 年没。³
- **斎戒**：原語では「サウム」または「スィヤーム」で、語源的には「何かを控える」という意味がある⁴。イスラーム*法においては、アッラー*への崇拜*行為の意図をもって飲食や性交など、斎戒で禁じられている行為を日の出しばらく前から日没まで控えることを指す。尚、ムスリム*は特別な状態にある者を除き、ラマダーン月*に一ヶ月間の斎戒を行うことが義務づけられている。いわゆる五行の一つ。雌牛章 183 以降も参照のこと。
- **最後の日**：善行にせよ悪行にせよ、現世で行った行為の清算と報いを受ける日。つまり復活の日*のこと。⁵ 最後の日と来世を信仰することは、いわゆる六信の一つ。
- **ザイド・ブン・サービト**：マディーナ*で生まれマッカ*で育った、ハズラジュ族出身の教友*。十一歳の時、ムスリム*たちと共にマディーナ*へ移住*。イスラーム*諸学に秀で、クルアーン*の筆録者の一人であり、アブー・バクル*とウマル*のカリフ期に編纂作業を委任され担当した。ヒジュラ暦*45 年没。⁶
- **サウダ・ Bint・ザムア**：預言者*ムハンマド*の妻の一人で、一説には彼の最初の妻ハディースの逝去後、初めて結婚した女性。ヒジュラ暦*55 年頃没。⁷

1 クウェイト法学大全 24:64 参照。

2 アッ＝ズハイリー1:142 143 参照。

3 アッ＝ズィリクリー3:340 参照。

4 アッ＝タバリー2:889 参照。

5 前掲書1:143 144 参照。

6 アッ＝ズィリクリー3:57 参照。

7 アル＝ミズビー35:200 以降、イブン・ハジャール「修訂の簡約」666 頁参照。

- ザカリーヤ：新約聖書のザカリア、あるいはザカリヤのこと。預言者*ヤヒヤ^{よ・ばん・や}*の父親であり、彼自身も預言者*の一人。イーサー*の母親マルヤム*の後見も務めた。イムラーン家章 37-41、マルヤム*章 2-11 などとその描写が認められる。
- 酒：原語の「ハムル」には、語源的に「覆うもの」という意味が含まれている。つまり酒などの酩酊^{めいてい}を及ぼす物質には理性を覆い、人がアッラーを想念することを妨げる弊害がある（食卓章 91 も参照）¹。大半の学者は麻薬など、酒同様の作用がある物質の摂取も禁じる見解を示している。尚、イスラーム*の歴史において、酒は段階的に禁止された。雌牛章 219 の訳注も参照。
- サジダ：跪き、額づく動作のこと。礼拝の一動作でもある。
- サービア教徒：彼らがいかなる民だったかに関しては、「無宗教者」「天使崇拜者^{すうはい}」「啓典の民*の一派」など、諸説が存在する²。
- サムード：「サムード」は、古代アラビア半島北西部に栄えた民。岩山をくり貫いた住居に住んでいたと言われる。彼らには預言者*サーリフ*が遣わされたが、彼に背いたかで滅ぼされる。その記述は高壁章 73-77、フード*章 61-66、アル＝ヒジュル章 80-84、詩人たち章 141-159、蟻章 45-53、詳細にされた章 17-18、月章 23-32、太陽章 11-15 などに見受けられる。尚、サムードに下った懲罰は、クルアーン*の中で「稲妻^{いなづま}（詳細にされた章 18、まき散らすもの章 44）」「（轟きの）一声（フード*章 67、アル＝ヒジュル章 83、月章 31）」「激震^{げきしん}（高壁章 78）」「甚^{はなはだ}だしいもの（真実章 5）」「彼らを覆い給うた（太陽章 14）」と様々な形で描写されているが、アッ＝シャンキーティー*はその全ての発端が「（轟きの）一声」であるとしている。つまり「稲妻^{いなづま}を伴う」（「轟きの）一声^{とどろ}」が起きることによって「激震^{げきしん}」がおき、その様子は「甚^{はなはだ}だしいもの」であり、かつアッラーは彼らをそれらの懲罰で「覆い給うた」のである³。
- サーリフ：「サムード*」の項参照のこと。
- 慈愛深きお方：アッラー*の美名の一つ。原語では「ラフマ」という名詞から派生した、「アッ＝ラヒーム」という能動分詞の強調形。「慈悲あまねきお方*」という訳語を当てた「アッ＝ラフマーン」に比べ、特に信仰者を対象とした行為的な慈悲である、と言われている。⁴

1 アッ タバリー2:1155-1159 参照。

2 前掲書 1:444 445、イブン・カスィール 1:286 287 参照。

3 アッ＝シャンキーティー7:21 23 参照。

4 アッ＝タバリー1:125 129 参照。

- 至高のお方、至高者：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝アリー」または「アル＝アラー」あるいは「アル＝ムタアリー」。その属性においていかなる創造物よりも高く、全てのものがその支配下にあり、かつこの上ない位階におられるお方。¹
- 使徒：拙訳において一貫して「使徒*」という訳語をあてたアラビア語は「ラスール（複数形はルスル）」であり、一方「預言者*」という訳をあてたのはアラビア語の「ナビー（複数形はアンビヤーウ、ナビイユン）」。「使徒*と預言者*」の違いについては、以下のような諸説がある：①使徒*は「アッラーから天啓法と共に人々へと遣わされた者」で、預言者*は「それ以前の天啓法へと民を招くことにより、あるいは天啓法の中で既に確立された教えへと導くことにより、彼らの諸事を正すべく、アッラーから啓示を受けた者」²。②使徒*は「天啓法の伝達を課せられた自由民男性」で、預言者*は「啓示は受けたものの、その伝達までは課せられなかった者」。③使徒*は「啓典と共に遣わされた者」で、預言者*は「啓典を授かることなく遣わされた者」³。つまり以上のいずれの説にせよ、使徒*の方が預言者*よりも特別であり、そのことは預言者*の数が十二万四千人、使徒*の数が三一三人であるという預言者*の伝承にも現れている⁴。ヌーフ*、イブラーヒーム*、ムーサー*、イーサー*、ムハンマド*といった周知の使徒*・預言者*を信仰するのはもちろんのこと、それ以外の知られてはいない使徒*・預言者*についても一般的な形で信仰することは、いわゆる六信の一つ。尚、全人類に向けて遣わされた最後の使徒*「預言者*の封印（部族連合章 40 参照）」ムハンマド*は、クルアーン*の中で「使徒*」「預言者*」と描写されることがほとんどである。
- 慈悲あまねきお方：アッラー*の美名の一つ。原語では「ラフマ」という名詞から派生した、「アッ＝ラフマーン」という能動分詞の強調形。「慈愛深きお方」という訳語を当てた「アッ＝ラヒーム」に比べ、全創造物を包含する普遍的な慈悲という属性の持ち主、といったニュアンスが含まれている。⁵
- ジズヤ：イスラーム*法治国家内に居住するため、または生命・子孫・財産の保証のため、あるいは停戦状態の維持のため、自発的に支払われる財産のこと⁶。その額

1 ウマル・アル＝アシュカル 152 155 頁参照。

2 イブン・アーシュール 17:297 参照。

3 アル＝アル＝スィー17:172 173 参照。

4 アル＝バイダーウィー4:133 参照。尚、この伝承は伝承学者の間で脆弱（ぜいじゃく）なものと見なされている。預言者*と使徒*の数に関する真正な伝承については、アッ＝タブリーズィーによる伝承集「灯火（ともしび）の壺（へきがん）」の中に収録されている「預言者*の数は十二万四千人で、使徒*の数はその内、三・五人」という伝承が現代の伝承学者アル＝アルバーニーによって真正*と判定されている（5737）。

5 アット＝バリール1:125 129 参照。

6 クウェイト法学大全 15:150 参照。

は、法学派や状況により大きな差異がある¹。啓典の民*、マジューズ教徒（巡礼*章 17 の訳注を参照）からジズヤを取ることが出来ることに異論の余地はないが、その他のシルク*の徒、偶像崇拜者^{ぐうざうすうはい}に関しては見解の相違がある。²

- ジブリール：大天使ガブリエルのこと。アッラー*からの啓示^{けいし}を使徒*に伝達する役目を負う。
- シャイターン：悪魔、サタンのこと。語源的には「人間、ジン*、その他の生き物であるかどうかを問わず、叛逆・謀反するもの」³のことを指す。クルアーン*において言及される場合、その叛逆と謀反の対象は、アッラー*とその宗教である。尚、シャイターンが人類を迷わせることとなった経緯^{けいゐ}については、高壁章 11-18、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。
- アッ＝シャウカーニー：ムハンマド・ブン・アリー・ムハンマド・アッ＝シャウカーニー。イエメン出身の法学者。「クルアーン*解釈学における、伝承と智見の両学を集結した全能者の勝利」の著者。ヒジュラ暦*1250 年没。⁴
- シャウワール月：ヒジュラ暦*の十月。
- ジャナーバ：法的用語における意味は、精液^{せいえき}の放出、性交による「大きな穢れ」の状態にあること。この状態にある限り、グスル*しなければ、礼拝、タワーフ*、書物としてのクルアーン*に触れること、クルアーン*の読誦、マスジド*に滞在することなどが禁じられる。原語「ジャナーバ」は、語源的に「遠ざかること」。身を清めない限り、礼拝^{れいはい}の場に近づけない状態であることから、こう名付けられたとされる。⁵
- シャハーダ：「ラー・イーラー・ハ・イッラッラー、ムハンマドゥッラースールッラー（アッラー以外、真に崇拜*すべきいかなるものも存在しない。ムハンマド*はアッラー*の使徒*である）」というアラビア語の証言。いわゆる五行の一つで、その内でも一番上位に位置するもの。この言葉を信仰心と共に証言することで、ムスリム*でない者はムスリム*となる。
- ジャーヒリーヤ：「無知」という意味の語から派生した語。通常は、アッラー*とその使徒*、及び宗教規定についての無知、そして血統の誇り合いや傲慢さなどに

1 クウェイト法学大全 15:183 参照。

2 前掲書15:166 参照。

3 アッ＝タバリー1:119 参照。

4 アッ＝ズィクリー6:298 参照。

5 クウェイト法学大全 16:47 54 参照。

よって特徴づけられる、イスラーム*以前のアラブ人の状態を指す¹。また近代においては、「アッラー*のお導きみちびが到来する以前の、社会の状態。または、アッラー*のお導きみちびを拒否する社会全体、あるいは社会の一部の状態のこと」という、より一般的な解釈かいしやくも見られる²。

- シャーフィイー法学派：四大法学派*の一つ。法源学を初めて体系化させたと言われる、ムハンマド・ブン・イドリース・アッ=シャーフィイー（ヒジュラ暦*204 年没）を祖とする。現在は東アラブ世界、東アフリカ、インド南部、東南アジアなどを中心に分布。
- アッ=シャンキーティー：ムハンマド・アル=アミン・ブン・ムハンマド・アル=ムフタール・アッ=シャンキーティー。モータニア出身の近代の学者で、サウジアラビアにて教鞭きょうべんを取る。「クルアーン*解釈かいしやくにおける解明かいめいの光」の著者。ヒジュラ暦*1394 年没。³
- 主：拙訳にて「主」と統一して訳した語は、原語では「ラッブ」。語源的には、支配者、王、物事を改善する者、物事を司つかさどる者、何かをその完成に向けて段階的に成長させる者、などという複数の意味が含まれる⁴。クルアーン*の中では大方の場合、「全創造物の主」「天の主」「地の主」といったように、他の語の修飾しゅうしを受けた形で出現し、この場合の「主」はアッラー*のことを指す。しかし非限定の複数形（イムラーン家章 64、80、悔悟章 31、ユースフ*章 39 参照）だったり、文脈的に明らかにアッラー*以外のものを指している場合（ユースフ*章 23、41「ご主人様」など）、アッラー*ご自身のことを指しているのではない。
- シュアィブ：マドゥヤン*の民に遣わされた預言者*。その記述は高壁章 85-93、フード*章 84-95、詩人たち章 176-191、蜘蛛章 36-37 などに見受けられる。
- 巡礼：ハッジ*とウムラ*の項参照。
- 淨財：「淨財」という訳語をあてた原語は「アッ=ザカー」であり、義務ぎむの淨財じようざいのこと。いわゆる五行の一つで、ムスリム*にとつての義務ぎむ。イスラーム*法上の定義は「特定の形式において、特定の財産における義務を果たすこと」であり、所有した財産の種類、その数や量、それを所有した期間など、様々な条件が揃って初めて、淨財じようざいの義務が生じる。淨財を支払う対象は、悔悟章 60 に明らかにされている通りひんじや、貧者*や借金に苦しんでいる者などである⁵。尚「ザカー」には語源

1 イブン・アル=アスィール 1:317 参照。

2 ユースフ・アッ=サイード 1:59 参照。

3 アッ=ズリクリー-6:45 参照。

4 ウマル・アル=アシュカル 41 頁参照。

5 クウェイト法学大全 23:226 335 参照。

的に、増加、成長などといった意味が含まれている。つまり樹木が適切な形で剪定されることによって、成長の促進や害虫の予防が期待されるように、アッラー*は浄財を払うことゆえに財産を増加させ、お清め下さるのである¹。またアッラー*は、浄財を施す者を罪と悪い性質から清め、彼らを成長させ、善い性質と正しい行い*、現世と来世における彼らの褒美を増やして下さる。²

- 称賛：称賛という訳語を当てた「ハムド」は、讃える対象の美点を、愛慕の念をもって表明することを意味する。³
- 称賛されるべきお方：アッラー*の美名の一つ。原語は、称賛する、という意味の語から派生した受動分詞「アル＝ハミード」。アッラー*はその御業ゆえに、称賛に値するお方。そして順境にあっても苦境にあっても、困難にあっても安寧にあっても、常に称えられるべきお方である。⁴
- 称揚：称える*の項を参照。
- シルク：往々にして「多神教」という訳があてられることの多いアラビア語の「シルク」という言葉とその派生形は、拙訳において「シルク」という原語のままに留めておいた。それはシルクという言葉は多神教という概念と全く無縁ではないものの、それとは異なる概念も多く含んでいるために、「多神教」と訳することによって大きな誤解を招く恐れがあるからである。シルクとは、全宇宙の創造・所有・支配など、アッラー*のみが専有する権威や性質において、かれ以外の何かが共同・関与しているなどと考えたり、あるいはアッラー*のみに向けられるべき崇拜*行為を、かれ以外のものに向けて行ったりすることを意味する。この意味においてシルクは、単に複数の神性を認めることだけではない。シルクはイスラーム*の根本教義であるタウヒード*の反対語であり、ムスリム*は信条や崇拜*行為だけに限らず、些細な心の動きなどにおいてもシルク*的なものを選び、タウヒード*を純粋なものにしていく努力を課されている。
- ジン：人間のように理性と身体能力を有する、火から創られた霊的存在。人間同様にアッラー*の宗教に従う義務を課されており、来世では現世の行いに応じてその行き先が決定される（家畜章 130、高壁章 179、撒き散らされるもの章 56、慈悲あまねきお方章など参照）。
- 真正：伝承（ハディース）学用語「サヒーフ」の訳。一般に、以下の条件を満たした伝承は「真正」な伝承と呼ばれ、信頼するに足る典拠と見なされる。①伝承

1 アッ タバリー1:369 参照。

2 アッ＝サアディー350 頁参照。

3 イブン・タイミーヤ「ファトワー集」8:378 379 参照。

4 アル＝ハッタービー78 頁参照。

者の鎖くさりが最初から最後まで、途切れずにつながっていること。②それを伝える全ての伝承者が、正常な理性と良識を備え、信頼性に足る（つまり嘘うそつきでもなく、嘘うそつきの嫌疑けんぎをかけられてもおらず、大罪たいざい*も犯さず、それ以外の罪深い行為にも固執こしつしておらず、また正統きょうぎな教義きょうぎからの逸脱いつだつも見られず、かつ素性不明でもない）成人*ムスリムであること。③それを伝える全ての伝承者が、伝達行為において正確さを備えていること。④伝承本文の内容に、それよりもっと信頼性の高い伝承の内容と反する部分がないこと。⑤伝承本文の内容に、その信頼性しんらいせいを損なうような要素が含まれてはいないこと。¹

- 神聖月しんせいげつ：ムハッラム月*、ラジャブ月*、ズル＝カアダ月*、ズル＝ヒッジャ月*の四つの月のこと。アラブ人の間ではイスラーム*以前にも、これらの月における戦闘は禁じられていた²。尚、神聖月における戦いの禁止は悔悟章 36 によって撤回された、という説と、応戦の時以外には神聖月に戦ってはならない、という説がある³。
- ズィハール：「ズィハール（「背中」という意味の「ザハル」が由来）」とは、ジャーヒリーヤ*からイスラーム*初期にかけてアラブ社会に存在していた悪習の一つで、夫が妻に対し「お前は私にとって、私の母親の背中同然だ」と言うこと。より一般的な定義としては、「夫が妻（または彼女の一部）を、彼にとって永久に結婚が禁じられる関係にある女性、あるいはそのような女性の身体部分のうち、『背中、腹、腿もも』など、彼が見ることを禁じられる部位になぞらえること」。こうすることで、夫は妻を自分にとって妻でもなく、かと言って完全に離婚するわけでもないという窮地きゆうちに置いた。この行いは離婚とは見なされない禁じられた行為・大罪たいざい*であり、贖罪しよくざいを行わなければならない（抗弁する女章 2-3 参照）。そして贖罪しよくざいを行うまでは、妻との関係が禁じられる。⁴
- 崇拝そうはい：「崇拝そうはい」という訳語を当てた原語は「イバーダ」。イブン・タイミーヤ*は、イスラーム*用語としての「崇拝そうはい」を、「アッラー*が愛でられ、お喜びになる、あらゆる内面的・外面的言動を含む、全ての物事に対する集合的名称」と定義づける⁵。この「イバーダ」をアッラー*のみに向け、その他のいかなる対象にも逸らさないことが、イスラーム*の重要な根本教義である⁶。
- ズフル：五つの義務の礼拝の一つで、正午過ぎの四ラクアの礼拝。太陽が子午線おれいしんを通過した後から始まり、ある物の影がそれ自身と同じ長さまで達した時点で

1 マフムード・アッ＝タッバーン 44 頁参照。

2 アッ＝サァディー 336 頁参照。

3 イブン・カスィール 4:149 参照。

4 クウェイト法学大全 29:189 208 参照。

5 イブン・タイミーヤ「ファトワー集」1:149 参照。

6 ムヤッサル 1 頁参照。

その時間帯は終了する（影がそれ自身の倍の長さに達した時点で終わるという、少数派の見解もあり）。¹

- 全てを^{う お}請け負われるお方：アッラー*の美名の一つ。原語では、^{まか}任せる、^{めだ}委ねる、といった意味の語から派生した受動分詞「アル=ワキール」。アッラー*は全てのものを存在させられた後、その諸事を見守られ、存続に必要なものを供給され、滅亡からお守りになるお方。人はこのような存在にこそ全てを委ね、依拠しなければならぬ²。アッラーにこそ全てを^{めだ}委ねる*の項も参照。
- 全てを^{つかさど}司るお方：アッラー*の美名の一つ。原語では、立つ、行う、といった意味の語から派生した能動分詞「アル=カーイム」、あるいは^{きようちようのうどう}強調能動分詞「アル=カイユーム」。後者の方が意味的に強い。アッラー*は自ら存立され、かつ他の存在を存続させられるお方。かれは何も必要とはされないが、全ての被造物は、かれの^{おぼ}思し召しなしでは存続できない。³
- 全てを^{ほうい}包囲されるお方：^{ことごと}悉く包囲されるお方の項を参照。
- 全てを^{めだ}委ねる：アッラー*にこそ全てを^{めだ}委ねるの項を参照。
- スーラ：クルアーン*における章のこと。クルアーン*は百十四のスーラ*からなる。
- スライマーン：ソロモンのこと。イスラーム*では^{よげんしゃ}預言者*の一人に数えられる。^{よげんしゃ}預言者*^{あり}ダーウード*の息子。雌牛章 102、預言者*たち章 78-79、81、蟻章 15 以降、サバア章 12-14、サード章 30-40 などにおいて、彼に関する描写が見受けられる。
- ズル=カアダ月：ヒジュラ暦*の十一月。神聖月*の一つ。
- ズル=カルナイン：原語では、「二本の角を持つ者」という意味。尚、その名称の由来については、「髪を二本に結わえていた」「東西の果てに到達した」といった説がある⁴。この人物の特定については、古くから学者の間で大きな見解の相違があるが、確実なのはクルアーン*の中で述べられているように、強大な力と正しい信仰を備えた者であったということである。
- ズル=キフル：一説には旧約聖書に登場する^{よげんしゃ}預言者*エゼキエルとも言われるが、詳細は不明。アラビア語では語源的に「順守する者」といった意味合いがあるが、それは一説にアル=ヤサア*の呼びかけに答えて彼の^{ちゆうげん}忠言を順守する者となり、イスライーールの子ら*に対する彼の後継者となったためとされる⁵。

1 クウェイト法学大全 7:172 173 参照。

2 ウマル・アル=アシュカル 204 頁参照。

3 前掲書 225 頁参照。

4 アル=クルトッビー 5:34 36 参照。

5 イブシ・アーシュール 17:129 130 参照。

- **ズル=ヒジジャ月**：ヒジジュラ暦*の十二月。神聖月*の一つで、その上旬にハジジ*の主な行事が行われる。
- **スナナ**：この語の定義は、伝承学者・法学者・法源学者の間で異なるが、拙訳では一貫して「預言者*ムハンマド*に帰せられる言動と彼の認証したこと、及び彼の外面的・内面的特徴」という伝承学の定義に沿ったものとした。
- **即座に計算されるお方**：原語では「サリーウ・アル=ヒサーブ」または「アスラウ・アル=ハースィビーン」。アッラー*はその僕^{しもべ}のあらゆる行いをご存知になり、それに対して適切にお報いになられる^{はぐくむ}。復活の日*、現世での行いの裁きを受ける僕^{しもべ}の数は膨大であるが、アッラー*はその清算を即座に、かつ容易に行われる^{さば}。清算者*の項も参照。
- **制圧されるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル=ジャッパール」。この美名には、以下のような複数の意味が含まれるとされる：①「育む（ジャパール）」という意味。つまり弱者、貧しい者、虐げられている者などの状況を改善して下さるお方。②「制圧、強制（イジュパール）」という意味。つまり、そのご意思を有無を言わず実行し給うお方で、全創造物はかれに服している。③「高い」という意味。³
- **清算者**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル=ハースィーブ」。この美名は主に二つの意味を含む、と言われる。一つは、アッラー*が現世における僕^{しもべ}の行いをその大小を問わず数え上げられ、来世においてはそれにお報いになるお方だというもの。もう一つは、その御力^{おとから}とご援助さえあれば、信仰者が敵を打ち負かすに十分なお方、という意味である⁴。即座に計算されるお方*の項も参照。
- **成人**：イスラーム*における成年の徴候は、女性の場合、初潮と妊娠がある。また男女に共通する徴候としては一般的に、精通を見るか、ヒジジュラ暦*で十五歳（他説もあり）に達するか、陰毛が生えるかの三つがある⁵。
- **聖なるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル=クッドウス」。アッラー*は、あらゆる不足や欠陥といったことから無縁で、清く、祝福にあふれたお方。伴侶、子供、同位者などを有することから無縁な存在であり、その徳と善性によって賛美される、完全な属性を備えたお方である。⁶

1 ムヤッサル 31 頁参照。

2 ウマル・アル=アシュカル著「アッラーの美名」166 頁参照。

3 前掲書74-76 頁参照。

4 前掲書164 167 頁参照。

5 ムヤッサル 31 頁参照。

6 ウマル・アル=アシュカル 51 頁参照。

- **戦利品**：イスラーム*における戦利品の種類には様々なものがあるが、以下に示すのはその一部である：「ファイウ」は、ムスリム*が戦闘なしに手に入れた戦利品。「ガニーマ」は、戦闘によって手に入れた戦利品。「ナファール」（複数形はアンファールで、スーラ*名にもなっている）は、戦いへと鼓舞すべく、ムスリム*の指導者が通常の戦利品とは別に、戦闘員のために特別に用意するもの。¹
- **創成者**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ファーティル」であり、語源的には単なる創造者という以外にも、「何かを裂いたり、割ったりして創造する者」というニュアンスが含まれるとされる²。
- **創生者**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝バーリウ」。語源的には単なる創造者という以外にも、「分離させたり、創造することによって、何かから別のものを抽出する」という意味合いが含まれるという³。アッラーは、欠損などから無縁（バーリウ）な創造をされ、かつ創造を互いに異なる形と姿において特徴づけられたお方である⁴。
- **大罪**：原語では「カビーラ（複数形はカバール）」^{ふくそう}。具体的には、それを犯すことで現世においてイスラーム*法における刑罰が適用されたり、あるいは来世において地獄の懲罰を警告されていたり、またアッラー*のお怒りを招いたりすることとされているもの。具体例としてはシルク*、殺人、姦淫、魔術、利息*、親不孝、嘘の誓いなどがある。
- **タウヒード**：語源的には「何かを一つにすること」という意味。イスラーム用語上は、「アッラー*だけに特徴づけられる物事において、かれだけを唯一とすること」。「アッラー*だけに特徴づけられる物事」には大きく分けて、①主性、②神性、③美名と属性という三つの分野がある。①は、アッラー*のみが創造主で、所有者で、この世を司るお方であるという信じること。②は、そのような存在であるアッラー*だけを崇拜*し、それには値しない他の何もかも崇拜*しないこと。③は、アッラー*がその啓典や使徒*の言葉でご自身を表した美名・属性において唯一であることを認め、それらの美名・属性を改ざんしたり、実質がないと見なしたり、「アッラー*がいかにそのようなものであるのか？」と考えたり、被造物に譬えたりすることなく、アッラー*が肯定し給うたものを肯定し、否定し給うたものを否定すること。⁵

1 クウェイト法学大全 32 : 227 228 参照。

2 アッ タバリー4:3143 参照。

3 アッ＝ズバイディー1:145 参照。

4 アッ＝ラーズィー1:516 参照。

5 イブン・ウサイミン「ファトワー・論説集」6:33 34 参照。

- **称える**：拙訳にて、便宜上「称える」という表現をあてた原語は、動詞「サッパハ」の派生形。その語源的な意味は、何かを遠ざけたり、隔絶させたりすること。イスラーム用語上は、アッラーをかれに相応しくないあらゆる性質から無縁で崇高な存在として称えること¹。
- **正しい行い**：原語では「アル=アマル・アッ=サーリフ」及びその派生形。具体的にはアッラー*に服従し、その法を遵守し、そこにおいて定められた義務を果たし、禁じられたものを避けること。あるいはアッラー*の教えに則った善行のこと²。
- **正しい者**：拙訳において「正しい者」という訳語をあてたアラビア語は、「サーリフ（複数形はサーリフーン）」。「正しい行い*」を行う者のこと。アッ=タバリ*はこの語を、「アッラー*への義務を果たす者」と説明している³。
- **ターゲット**：アッラー*を差し置いて崇拜*されたり、服従*されたりする全ての対象のこと。その意味では偶像であるか、シャイターン*であるか、あるいは人間であるかを問わず、そのような状態にあるもの全てがこの概念の中に含まれることになる。⁴
- **アッ=タバリ**：ムハンマド・ブン・ジャリール・アッ=タバリ。タバリスターンに生を受ける。クルアーン*学に限らず、アラビア語学、法学、伝承学、歴史学などにも精通。代表作「クルアーン*のアーヤ*釈義に関する明証大全」は、後世のあらゆるクルアーン*解説書に大きな影響を及ぼしたと言われるほど傑出した大著。預言者*ムハンマド*の伝承を始め、初期のクルアーン*解説学者の言葉を伝承経路をもって提示した上でそれらを分析・吟味する、という当時としては画期的な手法で全クルアーンに解釈を施した。ヒジュラ暦*310年没⁵。
- **タービイー**：教友*の次世代。数多くの定義があるが、一般的には教友*と出会ったことがあるムスリム*のこと。⁶
- **タービウン**：「タービイー*」の複数形。
- **タブークの戦い**：ヒジュラ暦*9年、タブークで起こった、マディーナ*からのムスリム*遠征軍と、ローマ軍との戦い。ムウタの戦い*での敗北の後、ローマ軍はム

1 アッ=タバリ1:311 参照。

2 アッ=タバリ1:526、ムヤッサル 12 頁参照。

3 アッ=タバリ1:720 参照。

4 前掲書2:1499 1500 参照。

5 アッ=ズイクリー6:69 参照。

6 ムハンマド・アル=フダイリー1:45 47 参照。

スリム*軍の壊滅^{かいめつ}を目的に、大軍^{たいぐん}を整^{ととの}えていた。その知らせを受け取った預言者^{よげんしゃ}*は、先手を打ってローマ帝国の国境を攻撃すべく、マディーナ*だけでなく、周辺のアラブ遊牧民部族やマッカ*の民にも、タブーク^{しゅつせい}出征の命令を出した。時節^{ときせつ}は酷暑^{こくしゅ}で、果物^{じゆく}が熟^{じやく}す頃、しかもタブークまでの旅程は長く、困難^{こんなん}であった。また過去に例を見ない三万もの兵数を率^{ひき}いての遠征^{えんせい}ではあったが、乗り物用のラクダや食料品・水は不足していた。しかし預言者*自らが率^{よげんしゃ}いるムスリム*軍がタブークに入ると、ローマ帝国国境周辺にいたローマ軍は恐れをなして退却し、武器を交えることなくムスリム*軍が勝利を得ることとなった。この結果、イスラーム*国家の勢力は拡大し、ローマ帝国周辺のアズルフ、ジャルバーウ、アイラといったキリスト教都市国家がイスラーム*国家にジズヤ*を払うことによる協定を申し出た。タブークの戦いの描写は悔悟章^{かいご}に詳しく、遠征^{えんせい}の命令に応じなかった多くの偽信者^{にせ}*たち、あるいは一部の信仰者たちについても、その様子の詳細が描^{えが}かれている。¹

- **タヤンムム**：語学的には「何かを意図する」。法学的には「特定のやり方において、顔と両手^{せうじゆう}を清浄^なな砂で撫でること」。身体を清めるための水の使用が何らかの理由により不可能な場合、ムスリム*は砂を用いて顔と両手を撫でることにより、ウドゥー*やグスル*の代用とすることが出来る²。婦人章 43、食卓章 6 も参照。
- **タワーフ**：カバ神殿^{しんでん}*の周りを黒石^はが嵌め込まれている柱から始め、逆時計周りに七周回る崇拜^{すうはい}*行為のこと。ハッジ*とウムラ*における必須行為の一つでもある。
- **寵愛深いお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ワドゥード」。愛する、という意味の語から派生した強調能動分詞。アッラー*は様々な恩恵^{おんけい}によって、その僕^{しもべ}たちにその愛情を示されるお方、そして信仰者や正しい*者たちを特別に寵愛され、罪深い者たちにもまたそのご慈悲とお赦しによって、慈愛深さを示されるお方である。またアッラー*ご自身、寵愛し給うだけではなく、信仰者たちによって愛される存在でもある。³
- **天使**：アッラー*の崇拜^{すうはい}*のため、光から創られた存在。理性を備え、欲望を有しない⁴。羽を有し（創成者*章 1 参照）、様々な任務を負う天使がいる。啓示を天使*へと伝達する役割のジブリール*、雨に関する任務を負うミーカーイール*、復活の日*に角笛を吹き鳴らすイスラフィール（家畜章 73 参照）など名称が知られている者たち以外にも、人間に死が訪れた際に魂^{たましい}を引き抜く役目の天使たち（家畜章 61 参照）、人間を守る役目の天使たち（雷鳴章 10-11 参照）、人間の善

1 ムバーラクフリーー 429-438 参照。

2 クウェイト法学大全 14:248 273 参照。

3 ウマル・アル＝アシュカル 186 187 頁参照。

4 イブン・アビー・アル＝イッズ 284 頁参照。

悪の行為を記録する役目の天使たち（カーフ章 17-18 参照）、天国の番人と地獄の番人（集団章 71、73 参照）、アッラー*の御座を運ぶ天使たち（赦し深いお方章 7 参照）などがある¹。天使たちを信仰することは、いわゆる六信の一つである。また、フード*章 69 以降、マルヤム*章 17 以降などにもあるように、天使は人間の形を借りることもできる。

- **統制されるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ムハイミン」^{そうぞう}。創造物の行い、糧、寿命など全ての事柄を、全てお見通しになるその知識、その支配力、保護力によって、統制されるお方。²
- **貴いお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は「アル＝カリーム」あるいは「アル＝アクラム」。気前がよく、偉大で、赦し深いお方。アッラー*はそれに値しない者にも恩恵を授けられ、乞われる前に善を施し給い、罪をお赦しになり、過ちを犯した者を大目に見られるお方である。³
- **独創者**：アッラー*の美名の一つで、クルアーン*の中では「諸天と大地の独創者」という形で、二回（雌牛章 117、家畜章 101）だけ登場する。原語では「アル＝バディウ」。語源的には創造者であるという以外にも、「前例のない形で、新しく画期的な創造をする者」といった意味合いが含まれる。⁴
- **トラー**：原語では「タウラート」。ムーサー*がシナイ山でアッラー*から授かった啓典のこと。ムスリム*はムーサー*を偉大なる使徒*の一人として信じ、彼に啓典が下されたことも信じるが、現存しているトラーは改竄されたものと見なされている。イスラーム*における啓典への信仰については、クルアーン*の項を参照。
- **読誦のサジダ**：「サジダ*のアーヤ*」を讀誦した時に義務づけられる、あるいは推奨されるサジダ*のこと。マーリキー学派*・シャーフイー学派*・ハンバリー学派*では推奨される行為とされ、ハナフィー学派*では義務と見なされる。クルアーン*における「サジダ*のアーヤ*」の特定には、学者によって微妙な見解の相違がある。サジダ*の回数は一回だけで、大半の学者はサジダ*の前後に「アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」と唱えることを義務としている。そしてサジダ*する際には、礼拝における条件と同じ条件が求められ、礼拝で勧められていることと同じことが勧められる。⁵

1 ヒシャーム・ブン・アブド・アル＝カーディル 187-192 頁参照。

2 ウマル・アル・アシュカル 67-68 頁参照。

3 前掲書168-169 頁参照。

4 アッ＝タバリ1:663 参照。

5 クウェイト法学大全 24:212-221 参照。

- **奴隷**：当時のアラビア半島に限らず、奴隷はイスラーム*が到来する以前から世界各地に存在していた。イスラーム*は奴隷制を積極的に肯定し、勧めているわけではなく、実際にはそれを除去するための多くの扉を開いた。イスラーム*において奴隷の解放は強く推奨された善行の一つであり、また同時に、殺人を始めとした様々な罪の贖罪として定められてもいる。
- **ナディール族との戦い**：ヒジュラ暦*4 年、ムスリム*たちがマディーナ*近郊に住むユダヤ教徒*のナディール族を武装包囲し、最終的にはマディーナ*から追放した出来事。そもそもマディーナ*のユダヤ教徒*たちは預言者*ムハンマド*のイスラーム*国家と安全協定を結んでいたが、徐々にムスリム*に対する敵意を露わにしていき、このナディール族に至っては預言者*の暗殺を企んだ。それが判明した後、預言者*は彼らがマディーナ*を出て行くよう命じるが、彼らは偽信者*らにそそのかされ（集合章 11 以降参照）、それを拒む。その結果、ムスリム*たちは彼らの集落を六日間、あるいは十五日間に渡って武装包囲し、最終的には彼らが降伏し、マディーナ*を出て行くということで合意に至った。彼らはハイバルやシャーム地方（現在のパレスチナ、シリア周辺地域）へと移住し、彼らが運び切れなかった多大な動産、武器などは、彼らの住居と共にムスリム*によって没収された¹。この戦いの様子は、集合章に詳しく描写されている。
- **七大読誦法**：アッラー*からジブリール*を介して預言者*に啓示されたクルアーン*だが、それにはただ一通りの読み方だけしかないのではない。クルアーン*の一部には、正しい伝承に則った複数の読み方が存在する。現在、最も信頼性が高いと目されている七大読誦法は、そもそもイブン・ムジャールヒド（ヒジュラ暦*324 年没）がその著「七つの読誦法」において厳選した、七人の学者たちから伝わるもの。一般に正しい読誦法とは、①伝承経路が真正*であること、②アラビア語法に則していること、③筆記的見地からウスマーン*版のクルアーン*写本表記と矛盾しないこと、の三つの条件を満たしたものが、これは彼ら七人のみに限定されるわけではない。ただ一般に、この七人から伝わる読誦法はムタワティル*として認識されている。そして更にここに、信憑性の高い別の三人を加え、十大読誦法とする場合もある。なお読み方の相違点は、単語そのものであったり、単語の派生や活用に関するもの（ウスマーン*版のクルアーン*写本原本には、ある種の似通った文字どうしを区別する文字記号や、語の派生形や活用形を明確に示すアクセント記号などが存在していなかった）であったり、発音に関するものであったりするが、注意すべきは正しい読誦法間の相違が意味的な矛盾を抱えることはなく、むしろ意味の多様性や説明を提供していることである²。

1 ムバーラクフリー-294 297 参照。

2 アッ＝ルーミー「クルアーン諸学研究」341 頁以降参照。

- 偽信者：原語は「ムナーフィク」で、抜け道のある穴、という意味の語に由来すると言われる¹。つまり表面上はイスラーム*を受け入れることで、内に秘めた不信仰の抜け道としている者のこと。これは単なる不信仰者*よりも悪いとされ、クルアーン*の中でも最高の懲罰を警告されている（雌牛章 145 参照）。尚、預言者*ムハンマド*は、偽信者の特徴として「何かを託されれば裏切り、喋れば嘘をつき、約束すれば破り、争論になれば放逸である」ことを挙げている²が、イスラーム*の基本的信仰を信じている限りにおいて、これらの「行為的な特徴」ゆえに偽信者と見なされることはない。
- 忍耐：アッラー*ゆえに忍耐することは、最も完全な忍耐である。それはつまり、①アッラー*への服従において忍耐し、②アッラー*への反抗に対して自らを制することにおいて忍耐し、③アッラー*の定め給うた苦難において忍耐することである。³
- ヌーフ：旧約聖書のノア。イスラーム*における使徒*の一人。彼とその民についての記述は、高壁章 59-64、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、詩人たち章 105-122、整列者章 75 82、月章 9-17、ヌーフ章などに見受けられる。
- ハイバルの戦い：フダイビーヤの和議*によるクライシュ族*との休戦中のヒジュラ暦*7 年ムハッラム月*に、マディーナ*のムスリム*軍がマディーナ*北部約百キロの地点にあった町、ハイバルを攻略した戦いのこと。ハイバル*は、部族連合の戦いやクライザ族の謀反を画策したユダヤ教徒*の本拠地であり、彼ら自身もムスリム*たちとの戦いを準備していた。この遠征に参加したのは、フダイビーヤの和議*に立ち会った千四百名のみで、その時に預言者*の命令に応じて出発しなかった者たちは、遠征の参加を拒否された（勝利章 15 を参照）。ハイバルにはいくつかの砦があり、ユダヤ教徒*らはその砦を転々として籠城したが、ついにムスリム*軍の前に降伏する。これによってムスリム*軍は、莫大な戦利品*を得た。ムスリム*側の戦死者は十数名、ハイバル側の戦死者は約九十名だった。⁴
- ハウワーウ：アダーム*の妻。いわゆるイブのこと。イスラーム*においては、彼女がアダームを唆して禁断の実を食べさせたとは信じられていない。
- アル＝バガウィー：アル＝フサイン・ブン・マスウード・ブン・ムハンマド・アル＝バガウィー。ホラーサーン地方出身のクルアーン*解釈・伝承学・シャーフィイー派*

1 アッラーギブ 503 頁参照。

2 アル＝フハーリー 33 参照。

3 アッ＝サアディー 895 頁参照。

4 ムパーラクフーリー 364 379 参照。

法学者。豊富な伝承学あらかわの知識によって著され、優れたクルアーンかいしゃく*解釈書の一つとしての評価が高い「クルアーンかいしゃくにおける降示こうじの表徴ひょうちよう」の著者。ヒジュラ暦*510年没。¹

- アル＝ハサン：アル＝ハサン・アル＝バスリー。タービーイー*。その高弟カタダ*と並び、当時のバスラにおける傑出けっしゅつしたクルアーンかいしゃく*解釈・伝承学者の一人。ヒジュラ暦*110年没。²
- ハッジ：いわゆる大巡礼のこと。マッカ*のカバ神殿しんでん*及びその周辺の関連する場所を、ある特定の時期に、ある特定の形式において訪問すること。精神的に健全な成人*の自由民ムスリム*は、旅行の往復必要経費、交通手段、身体的健康、道の安全、十分な時間を確保できる場合において、ハッジを義務づけられる。尚、扶養義務のある者は、自分が留守の間、扶養する者たちの必要経費を確保していることも要求される。また女性の場合、上記の条件以外にも、マハラム*の同伴、イグダ*中ではないことも条件づけられる。雌牛章 196 以降、イムラーン家章 97 も参照。³
- バドルの戦い：イスラーム*の命運を分けることになった、ヒジュラ暦*2年における、マディーナ*のムスリム*軍と、マッカ*の不信仰者*軍の戦い。預言者*はシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）からマッカ*へ帰る途中の、クライシュ族*の莫大な富を積んだ隊商の知らせを受け、その襲撃のために二百十数名のムスリム*を率いてマディーナ*を出陣する。しかしそれを知った隊商の指導者アブー・スフヤーン*がマッカ*に援軍を要請したことにより、ムスリム*たちは隊商ではなく、アブー・ジャハル*が指揮する兵数一千に及ぶマッカ*からの援軍と戦うことになる。戦闘のために準備して出軍してきたマッカ*軍に比べ、ムスリム*たちは数でも装備でも大きく劣っていたが、勝利はムスリム*たちのものとなった。ムスリム*側の戦死者が十四名だったのに対し、マッカ*側は七十名の戦死者と七十名の捕虜という大きな被害を受けた⁴。バドルの戦いの様子は、戦利品*章に取り上げられている。
- ハナフィー法学派：四大法学派*の一つ。アブー・ハニーフア（ヒジュラ暦*150年没）を祖とし、当時のイラク地方を起点に広まった法学派。現在は、ユーラシア・インド亜大陸一帯を中心に広く分布。

1 アッ・ズリクリー2:259-260 参照。

2 イブン・ハジャル「修訂の簡約」99 頁参照。

3 クウェイト法学大全17:27-38 参照。

4 ムパーラクフーリー204-225 参照。

- ハラーム・マスジド：いわゆるハラーム・モスクのことで、イスラーム*第一の聖マスジド*。マッカ*に位置し、その中心にカアバ神殿*を擁する。
- ハールーン：アaronのこと。ムーサー*の兄弟で、イスラーム*では預言者*の一人に数えられる。高壁章 150-151、ター・ハー章 42-48、90-94、詩人たち章 13、81、整列者章 114-122 などに彼に関する描写が見受けられる。
- ハンバリー法学派：四大法学派*の一つ。アフマド・ブン・ハンバル（ヒジュラ暦*241 年没）を祖とし、現在は主にアラビア半島を中心に分布している。
- 庇護者：アッラー*の美名の一つ。原語では「アル=ワリイ」あるいは「アル=マウラー」。一般には、全世界・全創造の諸事を司どり、ご助力を下さるお方、という意味。ただしアッラー*は、その恩恵と善を、シルク*や不服従という仇で返す不信仰者*の庇護者ではあられない。アッラー*は信仰者に対して特別のご愛顧とご加護、ご援助をもって見守って下さるのであり、アッラー*こそは信仰者にとっての真実かつ唯一の庇護者である。¹
- ヒジュラ暦：預言者*ムハンマド*がマッカ*からマディーナ*に移住*した年（西暦 622 年）を元年とする、太陰暦のこと。十二の月から成立するが、各月は二十九日か三十日しかなく、太陽暦の一年と比べると十一日ほど短くなる。
- 貧者：拙訳にて「貧者」という訳をあてた「ミスキーーン（複数形はマサーキーーン）」は、十分な必需品を所有していない者のことであり、一方「困窮者*」という訳をあてた「ファキール（複数形はフカラーウ）」は、全くの無所有者という説がある²。尚、この意味上の差異は、これら二つが並べて言及された場合の話であり、お互いに独立して言及された場合には、ほぼ同様の意味（一般的な意味での「貧しい者」）を指す、というのが解釈学者らの通則である³。
- ファジュール：五つの義務の礼拝の一つで、夜明け前のフラクアの礼拝。その開始時刻は、夜空に白い光が地平線と平行に広がり始める時で、終了時刻は太陽が現れる前まで。しかし正当な理由がない限り、空が白み始める頃までは遅らせるべきではない、というのが一般的な学者の見解。⁴
- フィルアウン：ムーサー*の時代の方ファラオのこと。これは固有名詞ではなく、当時のエジプトを支配していた不信仰な王の通称であった。⁵

1 ウマル・アル=アシュカル 213 214 頁参照。

2 ムヤッサル 196 頁参照。

3 アッ=シャンキーティ=5:195 参照。

4 クウェイト法学大全 7:171 172 参照。

5 イブン・カスィール 1:258 参照。

- 不可視の世界：原語では「ガイブ」。天国や地獄、復活の日*など、啓示によってでしか知り得ない、全ての秘められた物事を指す¹。厳密には視覚のみでなく、他の感覚をもってしても啓示なしには到達出来ない知識の領域のことだが、拙訳では便宜上、一律「不可視の世界」という訳をあてた。
- 福音：原語は「インジール」。使徒*イサー*がアッラー*から授かった啓示のこと。ムスリム*はトラー*と同様に福音も、後に改竄を蒙ったと信じる。イスラーム*における啓典への信仰については、クルアーン*の項を参照。
- 不信仰だった者、不信仰である者：不信仰者*の項を参照。
- 不信仰者：覆い隠す、という意味の「カファラ」から派生した能動分詞。拙訳では便宜上「不信仰者」あるいは「不信仰だった者たち」「不信仰に陥った者たち」という訳で統一したが、そもそもは意図的であるかどうかを問わず、「真理を知った後に、それを否定して覆い隠す者」という意味合いが含まれている。
- 不信仰に陥った者：不信仰者*の項を参照。
- 不信仰の民：不信仰者*の項を参照。
- 不正：拙訳において「不正」という訳語をあてたアラビア語は、「ザラマ」とその派生形。語学的には「何かをそれに相応しくない場所に置くこと」であるが、その意味で「不正」の最たるものは「アッラー*に対し、かれに相応しくない考えを持ったり、言動を偽ししたりすること」である。「シルク*」の項、ルクマーン章13も参照。
- フダイビーヤの和議：ヒジュラ暦*6年ズル＝カアダ月*、マディーナ*のイスラーム*国家とマッカ*のクライシュ族*との間で結ばれた条約。教友*たちとマッカ*へ巡礼*する夢を見た預言者*は、（最有力説によれば）総数千四百というムスリム*を率いて、ウムラ*をするだけのためにマッカ*へと向かう。しかしムスリム*たちのマッカ*入り（侵入）を警戒したクライシュ族*の動向を受け、ムスリム*たちはマッカ*近郊のフダイビーヤの地に留まり、両者の仲介役や使者を介して、交渉が始まる。一時は、ムスリム*側の使者ウスマーン*がマッカ*で殺害されたとの噂が広まったことで、マッカ*へと攻撃をしかけ、絶対に退却しないとの誓い（リドワーン）の誓い）が預言者*とムスリム*たちの間で交わされたが、それは真実ではないことが明らかになり、結局フダイビーヤの地にて預言者*とクライシュ族*との間の和議が結ばれた。それは十年間の休戦協定であり、その期間内は誰もが、両陣営のどちらとでも自由に同盟関係を結ぶことが出来た。しかし一方で、ムスリム*たちがウムラ*を翌年に延期することや、新規にマッカ*からマディーナ*にやって来

1 アッ＝タバリー1:184 185、ムヤッサル2頁参照。

るムスリム*はマッカ*に送還そうかんされる一方、マディーナ*からマッカ*に逃れた者はマディーナ*に送還不要とする、一見マディーナ*側には不利な条件も含まれていた。これは一部のムスリム*にとって屈辱くつじやく的な出来事だったが、これがムスリム*たちにとっての「勝利」であることを宣言する啓示けいじ（勝利章）が下ると、彼らの心は和らいだ。そしてムスリム*たちは翌年ウムラ*を行い、休戦期間が守られた二年間にムスリム*の数は激増することになる。尚この協定は、マディーナ*との同盟関係にあったフザア族を襲ったバヌー・バクル族に対し、クライシュ族*が秘密裏に援軍を送ったことで破棄された。¹

- 復活の日：原語では「ヤウム・アル＝キヤーマ」で、人々がアッラー*の御前おんまへに立つ日、あるいは人々が墓の中から立ち上がる日のこと²。詳しい意味については、最後の日*の項を参照のこと。
- フード：「アード*」の項を参照のこと。
- フナインの戦い：ムスリム*軍がマッカ*開城から約一ヵ月後のヒジュラ暦*8年、彼らに対する戦闘の準備を始めていたターイフ方面のハワーズィン族とサキーフ族を討伐するために遠征した戦い。総勢一万二千名という大軍を誇ったムスリム*軍であったが、多勢ゆえの慢心も災いし、フナイン溪谷で敵軍の弓兵隊に奇襲攻撃される。ムスリム*軍は一時敗走しかけたが、アッラー*のご助力により形勢を立て直し、最終的には勝利を収めた³。悔悟章 25-26 も参照。
- 腐敗：「ふはい 腐敗」という訳語をあてた「ファサダ」及びその派生形は、そもそも「正常な状態からの逸脱」を表す⁴。一般的には全ての害悪を指す言葉。尚「地上で腐敗を働く」ことの実例としては、信仰者たちを唆そそのかして戦争や騒乱を誘発させたり、不信者*に肩入れして、信仰者たちの秘密を彼らに漏らしたりすることなどのほか、アッラー*への不服従ふふじゆうを露わにしたり、イスラーム*を蔑さげすんだりすることなどがある。このようなことは全て、混乱を生じしめ、世界の秩序を損なう類いのものである。⁵
- 平安なお方：アッラー*の美名の一つ。原語では「アッ＝サラーム」。アッラー*は、その本質、属性、御業において完全なお方で、あらゆる不足、欠陥、悪などといったことから、安泰なお方である。⁶

1 ムバーラクフリーー337 348 参照。

2 イブン・マンズール 12:496 参照。

3 アッ＝タバリー5:3959-3963 参照。

4 アッラーギブ 381 頁参照。

5 アル＝バイダーウィー1:169 参照。

6 ウマル・アル＝アシュカル 57 頁参照。

- 包囲ほういされるお方：悉ことごとく包囲ほういされるお方*を参照。
- 報復ほうふくの主：アッラー*はかれに逆らう者を、いかなる者にも出来ないような激しい懲罰ちやうばつでもって、罰ばつし給うお方である。¹
- 保障されるお方：アッラーの美名の一つ。原語「ムウミン」には語源的に、大きく分けて「保障、安全」「承認、証明」という二つの意味がある、とされる。つまりアッラー*は、その創造物に安全そうどうを授けて下さるお方であり、またご自身の唯一性、使徒*たちの正直さを明証によって証明されるお方である。²
- 誉れほよの夜：原語では「ライラトゥ・アル＝カドゥル。」一年を通して最も祝福しゆくふくと報奨ほうしょうにあふれた一夜と見なされる。アッラー*が預言者*ムハンマド*にクルアーン*をお授けになるべく、それを守られし碑板*から、七層からなる天の最下層にまで下し給うたのがこの夜のことであった（定説によれば、その後クルアーン*は二十三年間に渡り、そこから預言者*ムハンマド*に徐々に下された³）。尚、この夜が「カドゥル」と名付けられた所以には、アッラー*がそこにおいて毎年起きる定め（カダル）を天使*に知らせるからである（そもそも創造の原初から終わりまでに起きることは全て、守られし碑板*に記されている）とか、またはその偉大さと高い誉れ（カドゥル）ゆえであるなどといった説がある。毎年、ラマダーン月*奇数日のいずれかの夜にあたりとされるが、その夜の崇拜*行為や善行は八十年分以上の価値がある⁴。煙霧章 3-4 とその訳注、跪く章 29 の訳注、誉れの夜章も参照のこと。
- マグリブ：五つの義務の礼拝の一つで、日没後の三ラクアの礼拝。その時間帯は日没後に始まり、夕焼けが消え去ることによって終了する。⁵
- マスィーフ：いわゆる「メシア」のこと。アラビア語の「マスィーフ」は、「マサハ（消す、触れる）」という動詞の派生形であるという説が有力である。そこからその意味は「罪や穢れを払拭された者」とか、「祝福でもって触れる者」である、などという解釈がある。⁶
- マスジド：いわゆる「モスク」のこと。原語ではそもそも「マスジド」であり、語源的には「サジダ*する場所」の意味。日本語では、様々な言語を経由して変化した「モスク」が外来語として定着したが、拙訳では「マスジド」と統一表記している。

1 アッ＝シャルビーニー1:161 参照。

2 ウマル・アル＝アシュカル 61 66 頁参照。

3 イブン・カシール 8:441 参照。

4 アッラーズィー11:229 230 参照。

5 クウェイト法学大全 7:174 参照。

6 アッ＝タバリー3:1787 参照。

- マーリキー法学派：四大法学派*の一つ。マーリク・ブン・アナス（ヒジュラ暦*179年没）を祖とし、当時のマディーナを中心に広まった法学派。現在は、北・西アフリカ世界を中心に分布。
- マーリク：マーリク・ブン・アナス。マーリキー法学派*を参照。
- マッカ：日本語では「メッカ」としても知られるが、拙訳ではより原語に忠実と思われる「マッカ」と表記した。預言者*ムハンマド*の生誕の地。アラビア半島西部に位置し、ハラーム・マスジド*及びカアバ神殿*を擁する。イスラーム*第一の聖地。
- マッカ開城：ヒジュラ暦*8 年ラマダーン月*、クライシュ族*がフダイビーヤの和議*を破棄したことをきっかけに、総数 一万にも上るマディーナ*のムスリム*軍がマッカ*へ無血入城。クライシュ族*は降伏してイスラーム*を受け入れた。
- マドゥヤン：古代アラビア半島北西部の王国都市であったと言われる。その民の間には不信仰だけでなく、商取引における不正*なども蔓延していた。彼らに遣わされたのが、預言者*シュアイブ*である。
- マディーナ：日本語では「メディナ」としても知られるが、拙訳においてはより原語に忠実と思われる「マディーナ」で表記した。マッカ*から北東へ約四百キロの距離に位置する。かつては「ヤスリブ」という名で呼ばれていたが、預言者*ムハンマド*の移住*以降は「マディーナトゥ・アン＝ナビイ（預言者*の町）」といった名称で呼ばれるようになり、それが簡略化されて「マディーナ」と通称されるようになった。イスラーム*国家の首都として栄え、ここを中心にイスラーム*は世界へと大きく拡大した。マスジド*・アン＝ナビイ（預言者*マスジド）を擁し、マッカ*に次いでイスラーム*における第二の聖地と見なされる。
- マハラム：法学上、血縁上の近親関係・授乳*によって生じた近親関係・結婚によって生じた婚姻関係により、恒久的に結婚が許されない関係にある男性のこと。¹
- 守られし碑板：原語では「アッ＝ラウフ・アル＝マフフーズ」。全ての定命が記された碑板*のこと。預言者*ムハンマド*は仰った。「アッラー*は諸天と大地を創造される五万年前 御座（高壁章）は水の上にあった -、被造物の定命をお書き留めになった」²。その場所や形状に関しては、「天使*イスラフィーールの面前にあるが、彼はそれを見ることができない」「白い真珠で出来ており、その真は赤いルビー、その筆と字は光である」「アッラー*の御座の右側にある」³「御座の上にあ

1 クウェイト法学大全 36:200 参照。

2 ムスリム「定命の書」16 参照。

3 イブン・カスィール 48:373 参照。

る」¹など、様々な説がある。定命を信じることは、いわゆる六信の内の一つである。尚、定命に関しては、次のような伝承が預言者*ムハンマド*から伝わっている。
 「預言者*は 仰^{よげんしや} った。『全ての者は地獄か天国かに、その居場所を既に定められている』。ある 教友^{きようゆう}が言った。『アッラー*の使徒*よ、自分の定命に任せて、一切（行い）を行わないというのはどうでしょう？』預言者*ムハンマド*は 仰^{よげんしや} った。『行いなさい。全ての容易いことが、自らの定めなのだから。幸福の民には、幸福の民の行いが容易くなり、不幸の民には不幸の民の行いが容易くならう』。そう 仰^{よげんしや} って、夜章 5-10 をお読みになった」²。誉れの夜*の項も参照。巡礼*章 70、創成者*章 11、鉄章 22、星座章 22 などにも、関連するアーヤがある。

- マルヤム：いわゆるイエスの母マリアのこと。敬虔な*女性として知られ、イーサー*を処女懐胎した。イスラーム*においても最善の女性の一人に数えられる。彼女に関する描写は主に、イムラーン家章 35 47、マルヤム章 16 29、禁止章 12 などに見受けられる。
- ミーカーイル：いわゆる天使*ミカエルのこと。雨や作物など糧^{かて}に関する任務を負^おわされているという。
- 満ち足りておられるお方：アッラー*の美名の一つ。原語では、豊かである、他を必要としない、といった意味の語から派生した「アルーガニイ」。アッラー*は唯一、自己完結されたお方であり、天地とそこにある全てのものの真の所有者である。かれは連れ合いや子供、共同者などを始め、何ものも必要とはされない。むしろ人間を始めとする全ての被造物こそが、かれを必要としているのである。³
- 満ち足りたお方：満ち足りておられるお方*を参照。
- ムウタの戦い：ヒジュラ暦*8 年に起きた、ムスリム*のキリスト教諸国への進出のきっかけとなった戦い。ローマ帝国からシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）の支配を委任されていたアラブ人キリスト教徒*のガッサーン族が、ムスリム*側の使節を殺害したことが原因で勃発^{ぼっぱつ}。使節の殺害は大きな罪と見なされ、戦争の布告を意味していた。三千の兵と共に進軍したムスリム*軍だが、ローマ帝国は一万に及ぶ大軍でそれを迎え撃つ^{むか}。しかし勝利はムスリム*軍のものとなり、ローマ帝国側の多数の戦死者に対し、戦死者十二名を数えるだけであった。⁴
- 報^{むく}いの日：最後の日*を参照のこと。

1 イブン・ハジャール「アル・ブハーリーの真正集解説における創生者の勝利」13:526 参照。

2 アル・ブハーリー4949 参照。

3 ウマル・アルーアシュカル 260 265 頁参照。

4 ムパーラクフリー387 392 参照。

- ムーサー：旧約聖書のモーゼのこと。クルアーン*の中で、最も言及されることが多い使徒*。トローラー*を授かる。雌牛章、高壁章、ユースス*章、洞窟章、詩人たち章のかなりの部分が彼とその民にまつわる話に割かれているが、その他多くの章でも言及されている。尚ター・ハー章と物語章の大半は、彼とその民にまつわる話である。
- ムジャーヒド：ムジャーヒド・ブン・ジャブル。タービーイー*。マッカ*のクルアーン*解釈・伝承学派の祖である教友*イブン・アッパース*の高弟。ヒジュラ暦* 100 年初頭に没。¹
- ムスリマ：ムスリム*の女性形。
- ムスリム：いわゆるイスラーム*教徒のこと。「アスラマ（服従する）」という語の能動分詞で、イスラーム*はその名詞形。つまりムスリムとはそもそも、「全身全霊をもってアッラーに服従する者」のことである²。その意味において、アーダム*、ヌーフ*、イブラーヒーム*、ムーサー*、イーサー*といった預言者*・使徒*を始め、彼らの純正なる教えに従っていた信徒たちも、れっきとした「ムスリム」であった。しかしイスラーム*用語上は、「アッラー*以外に崇拜*すべき存在はなく、ムハンマド*はアッラー*の使徒*である」と証言することで、アッラー*から最後の使徒*に下された最後の啓示を認め、信じ、その証言と、その証言において求められる物事を信条・言動面において遵守する者のことである³。
- ムタワーティル：伝承学用語。語源的には「連続したもの」といった意味。イスラーム*用語上は、「常識的に嘘の合意が不可能なほど、多数の伝承者によって伝えられた伝承」のこと。⁴
- ムッド：容積による測量単位で、四分の一サーア*に相当。そもそもは、平均的な成人*男性が両手に掬える量のこと。約 0.688 リットルに相当するというのが一般的な説だが、他説もあり。⁵
- ムハージルーン：「ムハージル」の複数形。語源的には「避難する者」という意味。イスラーム*用語においては通常、イスラーム*の信仰を守り実践するために、アッラー*とその使徒*の命に従ってマッカ*からマディーナ*へと移住*した者たちのことを指す。
- ムハッラム月：ヒジュラ暦*の一月。神聖月*の一つ。

1 イブン・ハジャル「修訂の簡約」453 頁参照。

2 アッ=タバリー1:646-647 参照。

3 アリー・アル=フダイリー1:27 参照。

4 マフムード・アッ=タッハーン 23 頁参照。

5 アッ=ズハイリー1:143 参照。

- **ムハンマド**：ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・アブド・アル＝ムッタリブ。
マッカ*の豪族であったクライシュ族*ハーム家^{ハーム}に生を受ける。幼くして両親を亡くし、祖父や叔父の後見を受けながら育つ。預言者*としての使命を受ける前から、「アル＝アミーナ（信頼のおける人）」という呼び名で知られた。二十五歳の時に初めて結婚し、四十歳の時にマッカ*のヒラー洞穴^{めいろう}で瞑想中、初めての啓示^{けいし}を受ける。迫害を受けながらもマッカ*にて十三年間ほど布教を続けた後、アッラー*のご命令を受けてマディーナ*^{いじゆう}に移住*。当地でイスラーム*国家の基礎を築き、その僅か八年後にはマッカ開城*に成功。アラビア半島全域にイスラーム*を広め、アッラー*が遣わされた最後の使徒*としての任務を余すことなく果たした後、ヒジュラ暦*十一年にこの世を去った。¹
- **ムフサン**（女性形はムフサナ）：語源的には「防護された者」という意味。一般的には、①ムスリム（ムスリマ）*で、②正しい結婚のもとに完全な性交を経験し、③正常な理性を備えた、④自由民の、⑤成人*を指す。²
- **恵み深いお方**：アッラー*の美名の一つ。原語は、おくる、与える、という意味の語から派生した強 調 能動分詞「アル＝ワッハーブ」。天地の真の所有者であり、その宝庫を一手にされるアッラー*は、限りなくお与えになるお方。かれがお授けになるいかなるものも、かれにとっては些少^{せしょう}であり、それによってかれの王国の宝庫から減ることもない。³
- **ヤアクブ**：旧約聖書のヤコブのこと。イスラーム*における預言者*の一人^{よげんしや}で、イスマーク*の息子。ユースフ*の父親。別名イスラエイル（イスラエル）。ユースフ*章、預言者*たち章 72 73、蜘蛛章 27、サード章 45 47 など^{よげんしや}にその描写を垣間見ることが出来る。
- **アル＝ヤサア**：一説には、旧約聖書のエリシャのこと。
- **ヤヒヤー**：旧約聖書のヨハネのことで、預言者*の一人^{よげんしや}。一説にはイーサー*の従兄で、最初に彼を信じた人物。マルヤム*章 2-15 などに彼に関する叙述あり。
- **唯一なるお方**：アッラー*の美名の一つ。原語では「（数字の）一、一つ、単独の」といった意味の語から派生した「アル＝ワフーヒド」または「アル＝アハド」。後者の方が、より強調された意味合いがある。アッラー*はその本質と属性において永遠に唯一の存在であり、同様のものがなく、何にも似てはおられない。また、創造や世界の運営など全宇宙^{しゆ}の主*としての權威^{けんい}、崇拜^{そうはい}されるという權威において唯一であり、いかなる共同者もおられないお方である⁴。アッラーの唯一性*の項も参照。

1 アッ＝ズリクリン6:218-219 参照。

2 クウェイト法学大全参照 2:223 226。

3 ウマル・アル＝アシュカル 97 頁参照。

4 前掲書228 以降頁参照。

- 唯一性：アッラーの唯一性*の項を参照。
- ユースフ：旧約聖書のヨセフのこと。イスラーム*における預言者*の一人で、ヤアクブ*の息子。彼に降りかかった数奇な運命と、数々の試練を乗り越えて成功に至った逸話は、ユースフ章に詳しく描写されている。
- ユーヌス：古代イラクのモスル地方に遣わされた、預言者*ユーヌス・ブン・マッター¹。別名「ズン＝ヌーン」（預言者*たち章 87 の訳注も参照）、旧約聖書のヨナのこと。ユーヌス章 98、預言者*たち章 87-88、整列者章 139-148、筆章 48 などに描写あり。
- ユダヤ教徒：原語では「ヤフーディー（複数形はヤフード）」²。その名称は、高壁章 156 に見受けられるように彼らの悔悟（アラビア語の「ハーダ／ヤフード」）に由来するとか、ヤアクブ*の息子ヤフーザ（ユダ）に由来するなど、諸説存在する³。預言者*ムハンマド*時代のアラビア半島にはユダヤ教徒が存在しており、ムスリム*たちがマッカ*から移住*したヤスリブ（ムスリム*たちの移住*後に「マディーナ*」と改名）においては、有力な地位を築いていた。彼らは一説に、新バビロニア王国のネブカドネザル二世によるユダ王国の攻撃や、紀元後一世紀と二世紀初頭におけるローマ帝国とユダヤ属州との間の戦争により、幾度かに分けてアラビア半島に移住・定着したのだという。当時のヤスリブのユダヤ教徒には、カイスカーウ族、ナディール族（集合章を参照）、クライザ族（部族連合章 26-27 とその訳注を参照）という主要三部族があり、砦を築いて独自の閉鎖的な生活を営みつつ、農業や工業によってヤスリブの経済を握っていた。また、当地の主要アラブ部族であったアウス族、ハズラジュ族が勢力を増しつつあるのを察すると、パヌー・カイヌカーウ族はハズラジュ族と、他の二部族はアウス族と同盟を結び、策謀してアラブ二部族を互いに戦い合わせた（雌牛章 85 とその訳注も参照）。この状態は彼らの間の最後の戦争が終わり、アウス族とハズラジュ族がアブドッラー・ブン・ウバイイ*を指導者とすることで一致団結した、ムスリム*たちの移住*の五年前まで続いていたのだという。尚、預言者*ムハンマド*の移住*後には、アウス族とハズラジュ族の間の敵対関係は完全に取り除かれ、ユダヤ部族とも友好条約が結ばれた。
- よく労われる（お方）：アッラー*の美名の一つ。原語ではそもそも「感謝する」という意味の語から派生した「アッ＝シャーキル」あるいは「アッ＝シャクル」で、後者の方がより強い意味を含むといわれる。アッラー*は、ほんの少しのよき行いを労い給い、それに対して豊かな優美でお報いになり、偉大な恩恵を授けられ、小さな感謝の念でもご満悦されるお方である。³

1 イブン・カスィール 5:366 参照。

2 前掲書 1:285 参照。

3 アル＝ハッタービー 65 頁参照。

- よくお守りになるお方：アッラー*の美名の一つ。原語では「守る、記録する」という意味の語から派生した「アルーハーフィズ」または「アルーハフィーズ」。後者の方が、より強調された意味合いがあるという。アッラー*は定められた時期まで、その御知識と御力とご采配により、全ての創造物をその消滅や滅亡からお守りになるお方。また人々の現世での言行を天使*たちに記録させ、敬虔な*信仰者を様々な害悪から守られるお方でもある。¹
- よく悔悟をお受け入れになるお方：アッラー*の美名の一つ。原語では「戻る」という意味の語から派生した強調能動分詞「アッ=タウワブ」。アッラー*は僕の悔悟を、いつまでも、何度でも、お受け入れになるお方²。また、イスラーム*におけるアッラー*への悔悟は、以下の四つを満たすことである：①罪から手を引くこと。②犯してしまった罪を悔やむこと。③その罪を再び犯さないと決心すること。④その罪が取り返しのつくことであつたら、そうすること。³
- よく寛恕されるお方：アッラー*の美名の一つ。原語ではそもそも、「消す」という意味の語から派生した「アル=アフウ」。つまりアッラーは、罪そのものを消し去ってくれるお方である。一説に、この美名が「赦し深いお方」という訳を当てた「アル=ガフール」「アル=ガーフィル」「アル=ガッファール」よりも強い意味を含むと言われるのは、それらが「覆い隠す」という意味の「ガフアラ」に由来している⁴からであり、罪を「覆い隠す」よりも「消し去る」方が強力であるからだと言われる⁵。
- 預言者：使徒*の項を参照のこと。
- 四大法学派：ハナフィー学派*、マールキー学派*、シャーフイー学派*、ハンバリー学派*の四学派のこと。
- ラビーウ・アル=アーヒル月：ヒジュラ暦*の四月。
- ラジャブ月：ヒジュラ暦*の七月。神聖月*の一つ。
- アッ=ラーズィー：ファフル・アッ=ディーン・ムハンマド・ブン・ウマル・ブン・アル=ハサン。現在のイラン北部出身。クルアーン*解釈学の導師と呼ばれるが、宗教分野だけでなく、様々な分野の学問に通じていた。クルアーン*解釈書「不可視の世界の鍵」の著者（完成前に他界し、未完部分は別の学者が同じ手法で完遂）。ヒジュラ暦*606年、ヘラートにて没。⁶

1 ウマル・アル=アシュカル 159 161 頁参照。

2 前掲書 247 頁参照。

3 アッ=ラーギブ 83 頁参照。

4 前掲書 364 頁参照。

5 ウマル・アル=アシュカル 255 257 頁参照。

6 アッ=ズィリクリー6:313 参照。

- ラッスの徒：「ラッス」の原義は井戸のこと。彼らが誰だったかには、「ヤー・スーン章」に登場する民（同章 13 以降を参照）「シュアイブ*が遣わされた民のつ」^{つか}「アゼルバイジャン地方にいた民」^{よげんしや}「ヤマーマ地方（アラビア半島中部）にいた民」など諸説あるが、要は彼らに遣わされた預言者*^{ほろ}を信じずに滅ぼされた、シルク*の民である。¹
- ラマダーン月：ヒジュラ暦*の九月。義務^{ぎむ}の斎戒*^{さいかい}の季節でもある。
- 利息：便宜上^{りそく}「利息^{べんぎ}」という訳語をあてた原語は「リパー」であるが、これはイスラーム*法学的には正確な訳ではない。「リパー」には大きく分けて「遅延^{ちえん}のリパー」と「余剰^{よじょう}のリパー」の二種類があり、いわゆる利息は前者に分類される。雌牛章 275-280、イムラーン家章 130、ビザンチン章 39 も参照。
- ルクーウ：語源的にはそもそも「服従^{ふくじゅう}」という意味がある²。イスラーム*用語上は、立ったまま上体を前方へ直角に傾ける、お辞儀のような形の礼拝動作のこと。
- ルート：旧約聖書のロト。使徒*イブラーヒーム*^{しと}の甥^{おい}にあたり、彼と共にイラクの地から現在のパレスチナ地方へと移住した。彼自身も預言者*^{よげんしや}の一人。彼とその民の間に起こった話は、高壁章 80-84、フード*章 69-83、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 などに見受けられる。
- 礼拝を遵守する：原語では「イカーマトゥ・アッ＝サラー」という言い回し、及びその派生形で表現されている。これには、特定の時間帯や、定められた形式を遵守^{じゅんしゆ}しつつ礼拝^{れいはい}を行う、という意味が含まれている。³
- 霊妙なお方：アッラー*の美名の一つ。原語では「優しい、繊細な」といった意味の語から派生した「アッ＝ラティーフ」。アッラー*は最も微妙^{びしょう}で微小^{せうさい}な福利をご存知であり、かつその福利をそれに値するものに、精妙^{せいみょう}かつ繊細な形で実現されるお方である。⁴
- アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ：ジャーヒリーヤ*^{さいばん}におけるアラブ人裁判官で、クライシュ族*の指導者の一人。イスラーム*が出現した時期には既に老齢^{すで ろうれい}だったが、激しく敵対し、その信徒を抑圧した。「アッラー*の剣」の異名を持つハーリド・ブン・アル＝ワリードの父親でもある。ヒジュラ暦*元年没。⁵

1 アル＝クルトゥビー13:32 33 参照。

2 アッタータバリ1:369 参照。

3 前掲書 1:187、ムヤッサル 2 頁参照。

4 ウマル・アル＝アシュカル 132 頁参照。

5 アッ＝ズィリクリン8:122 参照。

- アル＝ワーヒディー：アリー・ブン・アフマド・ブン・ムハンマド。ナイサーブール出身のクルアーン*かいしやく解釈学者、文学者。代表作は、「詳注」「中庸」「簡略」という規模きぼの異なる三つのクルアーン*かいしやく解釈書など。ヒジュラ暦*468年没。¹
- われら：第一人称代名詞の単数形を複数形ふくすうで表すのは、アラビア語だけでなく西欧の言語などにも見られる「尊嚴の複数 (pluralis majestatis)」という表現法である。アッラー*はクルアーン*の中でご自身を、時には単数形の代名詞で、また時には複数形ふくすうの代名詞でお示しになった。せんやく拙訳では、この表現法の違いにもアッラー*の英知が含まれているという信念もとに基づき、前者の場合には「われ」、後者の場合は「われら」として区別を付けた。

1 アッ＝ズィリクラー4:265 参照。

فهرس بأسماء السور

スーラ名の索引

番号	スーラ	ページ	السورة
1	開端章	1	سورة الفاتحة
2	雌牛章	2	سورة البقرة
3	イムラーン家章	94	سورة آل عمران
4	婦人章	147	سورة النساء
5	食卓章	201	سورة المائدة
6	家畜章	240	سورة الأنعام
7	高壁章	288	سورة الأعراف
8	戦利品章	341	سورة الأنفال
9	悔悟章	362	سورة التوبة
10	ユヌス章	400	سورة يونس
11	フード章	428	سورة هود
12	ユースフ章	459	سورة يوسف
13	雷鳴章	487	سورة الرعد
14	イブラーヒーム章	501	سورة إبراهيم
15	アル=ヒジュール章	515	سورة الحجر
16	蜜蜂章	529	سورة النحل
17	夜の旅章	559	سورة الإسراء
18	洞窟章	587	سورة الكهف
19	マルヤム章	614	سورة مريم
20	ター・ハー章	631	سورة طه
21	預言者たち章	656	سورة الأنبياء
22	巡礼章	680	سورة الحج
23	信仰者たち章	699	سورة المؤمنون
24	御光章	717	سورة النور
25	識別章	738	سورة الفرقان
26	詩人たち章	753	سورة الشعراء
27	蟻章	779	سورة النمل

番号	スーラ	ページ	السورة
28	物語章	797	سورة القصص
29	蜘蛛章	819	سورة العنكبوت
30	ビザンチン章	835	سورة الروم
31	ルクマーン章	847	سورة لقمان
32	アッ=サジダ章	855	سورة السجدة
33	部族連合章	861	سورة الأحزاب
34	サバア章	881	سورة سبأ
35	創成者章	895	سورة فاطر
36	ヤー・スィーン章	906	سورة يس
37	整列者章	919	سورة الصافات
38	サード章	939	سورة ص
39	集団章	953	سورة الزمر
40	敏し深いお方章	970	سورة غافر
41	詳細にされた章	988	سورة فصلت
42	相談章	1000	سورة الشورى
43	金の装飾章	1013	سورة الزخرف
44	煙霧章	1028	سورة الدخان
45	跪く章	1035	سورة الجاثية
46	砂丘章	1043	سورة الأحقاف
47	ムハンマド章	1053	سورة محمد
48	勝利章	1061	سورة الفتح
49	部屋章	1070	سورة الحجرات
50	カーフ章	1076	سورة ق
51	撒き散らすもの章	1083	سورة الناريات
52	山章	1091	سورة الطور
53	星章	1098	سورة النجم
54	月章	1106	سورة القمر
55	慈悲あまねきお方章	1113	سورة الرحمن
56	出来事章	1122	سورة الواقعة

番号	スーラ	ページ	السورة
57	鉄章	1131	سورة الحديد
58	抗弁する女章	1140	سورة المجادلة
59	集合章	1147	سورة الحشر
60	試問される女章	1154	سورة الممتحنة
61	戦列章	1160	سورة الصف
62	合同礼拝章	1163	سورة الجمعة
63	偽信者たち章	1166	سورة المنافقون
64	騙し合い章	1170	سورة التغابن
65	離婚章	1174	سورة الطلاق
66	禁止章	1178	سورة التحريم
67	王権章	1183	سورة الملك
68	筆章	1189	سورة القلم
69	真実章	1197	سورة الحاقة
70	階段章	1203	سورة المعارج
71	ヌーフ章	1208	سورة نوح
72	ジン章	1213	سورة الجن
73	衣を纏う者章	1218	سورة المزمل
74	包る者章	1222	سورة المدثر
75	復活章	1228	سورة القيامة
76	人間章	1233	سورة الإنسان
77	送られるもの章	1238	سورة المرسلات
78	消息章	1244	سورة النبأ
79	引き離すもの章	1248	سورة النازعات
80	眉をひそめた章	1253	سورة عبس
81	巻き込む章	1257	سورة التكويد
82	裂ける章	1260	سورة الانفطار
83	量を減らす者たち章	1262	سورة المطففين
84	割れる章	1266	سورة الانشقاق
85	星座章	1269	سورة البروج

番号	スーラ	ページ	السورة
86	夜訪れるもの章	1272	سورة الطارق
87	至高者章	1274	سورة الأعلى
88	圧倒的事態章	1276	سورة الغاشية
89	暁章	1278	سورة الفجر
90	町章	1282	سورة البلد
91	太陽章	1284	سورة الشمس
92	夜章	1286	سورة الليل
93	朝章	1289	سورة الضحى
94	胸を広げる章	1291	سورة الشرح
95	無花果章	1293	سورة التين
96	凝血章	1295	سورة العلق
97	誉れの夜章	1298	سورة القدر
98	明証章	1299	سورة البينة
99	地震章	1301	سورة الزلزلة
100	疾駆するもの章	1303	سورة العاديات
101	衝撃章	1305	سورة القارعة
102	増やし合い章	1306	سورة التكاثر
103	時間章	1308	سورة العصر
104	中傷者章	1309	سورة الحمزة
105	象章	1311	سورة الفيل
106	クライシシュ族章	1313	سورة قريش
107	手助け章	1314	سورة الماعون
108	潤沢章	1315	سورة الكوثر
109	不信仰者たち章	1316	سورة الكافرون
110	援助章	1317	سورة النصر
111	縋り合わされたもの章	1318	سورة المسد
112	純正章	1320	سورة الاخلاص
113	黎明章	1321	سورة الفلق
114	人々章	1322	سورة الناس

لِإِنْ وَذَرَةِ الشُّؤْنِ الْإِسْلَامِيَّةِ وَالْدَّعْوَةِ وَالْإِشَارَةِ

فِي الْمَمْلَكَةِ الْعَرَبِيَّةِ السُّعُودِيَّةِ

الْمَشْرِفَةِ عَلَى مَجْمَعِ الْمَلِكِ فَهَدِي

إِطْبَاعَةَ الْمُصْحَفِ الشَّرِيفِ فِي الْمَدِينَةِ الْمُؤَرَّةِ

إِذْ يُسْرُّهَا أَنْ يُصَدِّرَ الْمُجْمَعُ هَذِهِ الطَّبْعَةَ مِنَ الْقُرْآنِ الْكَرِيمِ

وَتَرْجَمَةَ مَعَانِيهِ وَتَفْسِيرَهُ إِلَى اللُّغَةِ الْيَابَانِيَّةِ

تَسْأَلُ اللَّهَ أَنْ يَنْفَعَ بِهَا النَّاسَ

وَأَنْ يَحْزِي

خَالِدُ الْحَمِيدِ الشَّيْخِ الْفَيْزِ الْمَلِكِ بَيْسَانَ بْنِ عَبْدِ الْعَزِيزِ السُّعُودِي

أَحْسَنَ الْجَزَاءِ عَلَى جُهِودِهِ الْعَظِيمَةِ فِي نَشْرِ كِتَابِ اللَّهِ الْكَرِيمِ

وَاللَّهُ وَلِيُّ التَّوْفِيقِ ۚ

サウジアラビア王国イスラーム諸事・布教・伝道省は、その管轄下にあるファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックスを通じて、クルアーンの日亜対訳注解を出版できることを喜ばしく思うと共に、この書が人々にとって有益なものとなることをアッラーにお祈りします。また、クルアーンの配布におけるその並ならぬご尽力に対し、アッラーが、^二大聖地の守護者サルマーン・ブン・アブドルアズィーズ・アーリ・サウード国王に、最善のご褒美をお授け下さいますよう。アッラーは全ての成功の主であります



حُفُوَّةُ الظَّهِيرِ مَحْفُوظَةٌ
لِجَمِيعِ الْمَلِكِ فَهَذَا لَطَائِفُ الْمُصْحَفِ الشَّرِيفِ

ص.ب ٦٢٦٢ - المدينة المنورة

www.qurancomplex.gov.sa
contact@qurancomplex.gov.sa



ヒジュラ暦1440年
アッラーからの
ご援助とご成功により
そしてファハド国王マディーナ
・クルアーン印刷コンプレックス
及びサウジアラビア王国イスラーム諸事・
布教・伝道省の監督下のもと
このクルアーン日亜対訳注解は
印刷されました

著作権はファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックスに属します。

P.O. 6262 マディーナ、サウジアラビア王国

www.qurancomplex.gov.sa
contact@qurancomplex.gov.sa

③ مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف، ١٤٤٠ هـ
فهرسة مكتبة الملك فهد الوطنية أثناء النشر.

مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف
القرآن الكريم وترجمة معانيه وتفسيره إلى اللغة اليابانية . /
مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف . - المدينة المنورة ، ١٤٤٠ هـ
١٤٠٨ ص ؛ ١٤ × ٢١ سم
ردمك : ٩-٥٧-٨١٨٧-٦٠٣-٩٧٨

١- القرآن - ترجمة ٢- القرآن - تفسير أ. العنوان
ديوي ٢٢١،٤ ١٤٤٠/٤١٩

رقم الإيداع : ١٤٤٠/٤١٩
ردمك : ٩-٥٧-٨١٨٧-٦٠٣-٩٧٨



9 786038 187579



